医薬品集２０１５

改訂第１１版

独立行政法人　地域医療機能推進機構

九　州　病　院

２０１５年

利 用 の 手 引 き

１．頁数は、薬効群（アルファベットＡ～Ｖ）ごとに示した。
　　表記例：（Ａ－２）

２．医薬品の配列は、商品名の五十音順とした。
　また、一般名は＜　＞内に半角で示した。
　製薬会社名を（　）内に示した。

３．長期投与の可否
　平成１４年度診療報酬改定により薬剤の投与期間に関する規制が、原則廃止された。例外として、麻薬および向精神薬、薬価収載後１年未満の新医薬品は投与期間の制限が設定された。

　投与制限があるものには、投与制限：〇日のように示した。
　△14日：薬価収載日より１年経過すると（　）内の年月より投与制限なし
　14日、30日、90日

　　【※詳しくは巻末の“投与期間の制限が設けられている院内採用医薬品”を参照のこと】

４．医薬品の薬価を規格の下に示した。

５．その他の略号
　①【院外のみ】：院外処方にのみ投与できる医薬品
　②【院内製剤】：院内製剤医薬品
　③【用時購入】：必要時購入するもので、薬剤部に在庫がない医薬品
　＊日本医薬品集の頁は記載していません。
　　オーダリングシステムの医薬品情報検索システム（ＤＩＣＳ）よりＤＩ照会またはＤＩ表示をご参照下さい。

６．追加・取消
　医薬品の追加、採用取消は年１回更新時に行う。
　ただし、オーダー端末のデスクトップ上の、「医薬品情報ＰＤＦ」フォルダ内”医薬品集”（更新は月１回）にて閲覧できる。

７．本書の内容等に関する問い合わせ先
　　薬剤部　医薬品情報管理室（内線２７２７）

索引

略

Adobe Acrobatの検索機能をご利用ください。

1．麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■全身麻酔薬				
イソゾール ＜チアミラール＞ (日医工)		500mg/管 ¥489/管	麻酔導入･維持,痙攣	【DI照会参照】
スープレン ＜デスフルラン＞ (ﾊﾞｸｽﾀｰ)		液(240mL) ¥44.9/mL	全身麻酔の維持	
セボフルラン ＜セボフルラン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)		液(250mL) ¥46.8/mL	全身麻酔	
ディプリバン ＜プロポフォール＞ (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		200mg(20mL)/管 ¥1232/管	全身麻酔の導入･維持,集中治療における人工呼吸中の鎮静	
		500mg(50mL)/ｷｯﾄ ¥2084/ｷｯﾄ		
ドロレプタン ＜ドロペリドール＞ (第一三共)		25mg(10mL)/瓶 ¥1230/瓶	ﾌｪﾝﾀﾆｰﾙとの併用による全身麻酔,局所麻酔の補助,単独投与による麻酔前投薬	
フォーレン ＜イソフルラン＞ (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)		液(250mL) ¥68.9/mL	全身麻酔	
プロポフォール ＜プロポフォール＞ (丸石)		2%:1000mg(50mL)/瓶 ¥1841/瓶	全身麻酔の導入･維持,集中治療における人工呼吸中の鎮静	

1．麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■局所麻酔薬				
アナペイン <ロピバカイン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		0.2%(10mL/管) ¥339/管	術後鎮痛	12mg/h硬膜外腔持続
		0.2%(100mL/袋) ¥1673/袋		
		0.75%(20mL/管) ¥1138/管	硬膜外麻酔,伝達麻酔	【Max:150mg/回】
		1%(20mL/管) ¥1239/管	硬膜外麻酔	【Max:200mg/回】
カルボカイン <メピバカイン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		1%(10mL/管) ¥110/管	硬膜外麻酔,伝達麻酔,浸潤麻酔	【Max:500mg/回】
		2%(10mL/管) ¥165/管		
テトカイン <テトラカイン> (杏林)		20mg/管 ¥85/管	脊椎麻酔(腰椎麻酔),硬膜外麻酔,伝達麻酔,浸潤麻酔,表面麻酔	6～15mg 【Max:100mg/回】
プロカニン <プロカイン> (光)		1%(5mL/管) ¥92/管	伝達麻酔	10～400mg/回
ベノキシール <オキシブプロカイン> (参天)		0.4%点眼液(10mL) ¥134/本	眼科領域における表面麻酔	1～4滴点眼/日
ペンレス <リドカイン> (ﾏﾙﾎ)		18mg/枚 ¥48.1/枚	①静脈留置針穿刺時の疼痛緩和 ②伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和 ③皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和	①1回1枚,予定部位に約30分間貼付 ②<小児>1回2枚まで,摘除予定部位に約1時間貼付 ③照射予定部位に約1時間貼付【Max:6枚】
マーカイン <ブピバカイン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		0.5%高比重(4mL/管) ¥451/管	脊椎麻酔(腰椎麻酔)	10～20mg/回 【Max:20mg/回】
		0.5%等比重(4mL/管) ¥451/管		
ユーパッチテープ <リドカイン> (ﾒﾃﾞｨｷｯﾄ)		18mg/枚 ¥35.0/枚	静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	1回1枚,予定部位に約30分間貼付
キシロカインポリアンプ <リドカイン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		1%(10mL/管) ¥102/管	硬膜外麻酔,伝達麻酔（指趾神経遮断・肋間神経遮断）,浸潤麻酔,表面麻酔	【Max:200mg/回】
		2%(10mL/管) ¥147/管	硬膜外麻酔,伝達麻酔（指趾神経遮断）,浸潤麻酔,表面麻酔	

1．麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
キシロカイン <リドカイン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		4%液(20mL) ¥13.8/mL	表面麻酔	80～200mg/回
		2%ｾﾞﾘｰ(30mL) ¥237/本		
		8%ﾎﾟﾝﾌﾟｽﾌﾟﾚｰ(80g) 【用時購入】 ¥1888/本		
		2%ﾋﾞｽｶｽ(100mL) ¥6/mL		
キシロカインE <リドカイン・エピネフリン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		1%(20mL/瓶) ¥220/瓶	硬膜外麻酔,伝達麻酔,浸潤麻酔	【Max:50mL/回】
		2%(20mL/瓶) ¥330/瓶		【Max:25mL/回】
リドカイン貼付剤 <リドカイン>		【院内製剤】	静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	1枚/回,予定部位に約30～60分間貼付

2．骨格筋弛緩薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■末梢性筋弛緩薬				
エスラックス <ロクロニウム> (MSD)		50mg(5mL)/瓶 ¥1085/瓶	麻酔時の筋弛緩,気管挿管時の筋弛緩	気管挿管時:0.6mg/kg 【Max:0.9mg/kg】 追加投与:0.1～0.2mg/kg(静注),または7μg/kg/分(持続注入)
スキサメトニウム <スキサメトニウム> (ｱｽﾃﾗｽ)		100mg(5mL)/管 ¥109/管	麻酔時の筋弛緩,気管内挿管時・骨折脱臼の整復時・咽頭痙攣の筋弛緩,精神神経科における電撃療法の際の筋弛緩,腹部腫瘤診断時	<間歇的投与法> 10～60mg/回静注 <持続点滴用法> 0.1～0.2%にし、2.5mg/分 <乳幼児及び小児>1mg/kg静注又は2～3mg/kg筋注
ダントリウム <ダントロレン> (ｱｽﾃﾗｽ)	25mg/C ¥25/C		①痙性麻痺,全身こむら返り病 ②悪性症候群	①25～150mg分1～3 ②75～150mg分3
		20mg/瓶 ¥9479/瓶	①麻酔時における悪性高熱症 ②悪性症候群	①1～7mg/kg静注 ②40～200mg/日 (7日以内)
マスキュラックス <ベクロニウム> (MSD)		4mg/管(溶解液1mL付) ¥383/管	麻酔時の筋弛緩,気管内挿管時の筋弛緩	0.08～0.1mg/kg静注
■中枢性筋弛緩薬				
エペリゾン <エペリゾン> (東和薬品)	50mg/錠 ¥5.6/錠		筋緊張状態の改善,痙性麻痺	150mg分3
ギャバロン <バクロフェン> (第一三共)	5mg/錠 ¥18.2/錠		痙性麻痺	5～30mg分1～3 <小児>4～6歳5～15mg, 7～11歳5～20mg, 12～15歳5～25mg,分2～3
テルネリン <チザニジン> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	1mg/錠 ¥16.7/錠		①筋緊張状態の改善 ②痙性麻痺	①3mg分3 ②3～9mg分3
	顆粒(2mg/g) ¥36.7/g			
リンラキサー <クロルフェネシン> (大正富山)	125mg/錠 ¥10/錠		運動器疾患に伴う有痛性痙縮(腰背痛症,変形性脊椎症椎間板ﾍﾙﾆｱ,脊椎分離･すべり症,脊椎骨粗鬆症,頚肩腕症候群)	750mg分3
■筋弛緩回復剤				
ブリディオン <スガマデクス> (MSD)		200mg(2mL)/瓶 ¥10231/瓶	ﾛｸﾛﾆｳﾑ臭化物又はﾍﾞｸﾛﾆｳﾑ臭化物による筋弛緩状態からの回復	<浅い筋弛緩状態>1回2mg/kg静注 <深い筋弛緩状態>1回4mg/kg静注 <緊急な筋弛緩状態からの回復>1回16mg/kg静注

３．催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■バルビツレート系				
フェノバール ＜フェノバルビタール＞ （藤永） 投与制限：90日	ｴﾘｷｼﾙ(4mg/mL) ¥4.5/mL		不眠症,不安緊張状態の鎮静 【抗てんかん薬(Ａ－7)参照】	30～200mg分1～4 <小児>2～4mg/kg/日
	30mg/錠 ¥7.1/錠			
		100mg(1mL)/管 ¥75/管		50～200mg分1～2
フェノバルビタール ＜フェノバルビタール＞ （ﾏｲﾗﾝ） 投与制限：90日	散(100mg/g) ¥7.2/ｇ			30～200mg分1～4 <小児>2～4mg/kg/日
ルピアール ＜フェノバルビタール＞ （久光） 投与制限：14日		50mg/坐剤 ¥55.1/個	催眠,不安･緊張状態の鎮静,熱性痙攣･てんかんの痙攣,発作の改善	4～7mg/kg/日
■ベンゾジアゼピン系等　【各群とも上から下にいくほど作用時間が長くなる】 ＜超短時間作用型＞				
ゾルピデムＯＤ ＜ゾルピデム＞ （東和薬品） 投与制限：30日	5mg/錠 ¥20.2/錠		不眠症	5～10mg分1【Max:10mg】
トリアゾラム ＜トリアゾラム＞ （日医工） 投与制限：30日	0.25mg/錠 ¥5.8/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①0.125～0.5mg分1 ②手術前日0.25～0.5mg分1
ルネスタ ＜エスゾピクロン＞ （ｴｰｻﾞｲ）	2mg/錠 ¥80.9/錠		不眠症	2mg分1【Max:3mg】 <高齢者>1mg分1【MAX:2mg】
■ベンゾジアゼピン系等　＜短時間作用型＞				
ブロチゾラムＯＤ ＜ブロチゾラム＞ （沢井製薬） 投与制限：30日	0.25mg/錠 ¥10.7/錠		不眠症,麻酔前投薬	0.25mg分1 手術前夜0.25mg分1 麻酔前0.5mg分1
リスミー ＜リルマザホン＞ （ｼｵﾉｷﾞ）	2mg/錠 ¥29.7/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①1～2mg分1 ②2mg分1
エバミール ＜ロルメタゼパム＞ （ﾊﾞｲｴﾙ） 投与制限：30日	1mg/錠 ¥20.8/錠		不眠症	1～2mg分1

３．催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ベンゾジアゼピン系等 ＜中間作用型＞				
ユーロジン ＜エスタゾラム＞ （武田） 投与制限：30日	2mg/錠 ¥15.6/錠		不眠症,麻酔前投薬	1～4mg分1 手術前夜1～2mg分1 麻酔前2～4mg分1
ベンザリン ＜ニトラゼパム＞ （ｼｵﾉｷﾞ） 投与制限：90日	細粒(10mg/g) ¥18.1/ｇ		不眠症,麻酔前投薬 【抗てんかん薬(Ａ-7)参照】	5～10mg分1
	2mg/錠 ¥5.8/錠			
	5mg/錠 ¥11/錠			
ロヒプノール ＜フルニトラゼパム＞ （中外） 投与制限：30日	1mg/錠 ¥14.2/錠		不眠症,麻酔前投薬	0.5～2mg分1
■ベンゾジアゼピン系等 ＜中・長時間作用型＞				
ドラール ＜クアゼパム＞ （田辺三菱） 投与制限：30日	15mg/錠 ¥98.5/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①20mg分1【Max:30mg】 ②15～30mg手術前夜【Max:30mg】
■メラトニン受容体アゴニスト				
ロゼレム ＜ラメルテオン＞ （武田）	8mg/錠 ¥84.9/錠		不眠症における入眠困難の改善	8mg分1
■オレキシン受容体拮抗薬				
ベルソムラ ＜スボレキサント＞ （MSD） 投与制限：14日△ （平成27年11月末まで）	15mg/錠 ¥89.10/錠		不眠症	20mg分1,高齢者は15mg分1
	20mg/錠 ¥107.9/錠			

３．催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
エスクレ ＜抱水クロラール＞ （久光）		250mg/坐剤 ¥38.6/個	理学検査時における鎮静･催眠,静脈注射が困難な痙攣重積状態	<小児>30～50mg/kg直腸内挿入
		500mg/坐剤 ¥49.5/個		
エスクレ注腸用キット ＜抱水クロラール＞ （久光）		500mg/筒 ¥259.8/筒		
トリクロリール ＜トリクロホスナトリウム＞ （ｱﾙﾌﾚｯｻ･ﾌｧｰﾏ）	ＳＹ(100mg/mL) ¥11.5/mL		不眠症, 脳波･心電図検査等における睡眠	10～20mL/回就寝前または検査前 <小児>0.2mL～0.8mL/Kg 【Max:20mL】
プレセデックス ＜デクスメデトミジン＞ （丸石）		200μg(2mL)/瓶 ¥5192/管	集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静,局所麻酔下における非挿管での手術及び処置時の鎮静	初期負荷投与:6μg/kg/時,10分間持続静注 維持投与:0.2～0.7μg/kg/時,持続静注
ミダゾラム ＜ミダゾラム＞ （ｻﾝﾄﾞ）		10mg(2mL)/管 ¥75/管	①麻酔前投薬 ②全身麻酔の導入･維持 ③集中治療における人工呼吸中の鎮静 ④歯科・口腔外科領域における手術及び処置時の鎮静	①0.08～0.10mg/kg手術前30分～1時間筋注 ②0.15～0.30mg/kg1分以上で静注, 必要時初回量の半量ないし同量を追加投与 ③導入:0.03mg/kg1分以上で静注 【総量0.3mg/kgまで】 維持:0.03～0.06mg/kg/hより持続静注（0.03～0.18mg/kg/hの範囲が推奨） <小児>DI照会参照 ④初回:1～2mg静注 追加:0.5～1mgを2分以上の間隔を空けて静注【総量5mgまで】

4．抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■大発作用				
アレビアチン <フェニトイン> (大日本住友)	散(100mg/g) ¥11.9/g		てんかんの痙攣発作,強直間代発作(全般痙攣発作・大発作),焦点発作(ｼﾞｬｸｿﾝ型発作を含む),自律神経発作,精神運動発作,てんかん発作重積症	200～300mg分3 <小児>4～8mg/kg/日 【Max:300mg/回,1g/日】
	100mg/錠 ¥12.7/錠			
		250mg(5mL)/管 ¥132/管		125～250mg静注,発作抑制できない時,30分後100～150mg追加
フェノバール <フェノバルビタール> (藤永) 投与制限：90日	ｴﾘｷｼﾙ(4mg/mL) ¥4.5/mL		不眠症,不安緊張状態の鎮静,てんかんの痙攣発作,強直間代発作(全般痙攣発作・大発作),焦点発作(ｼﾞｬｸｿﾝ型発作を含む),自律神経発作,精神運動発作	30～200mg分1～4 <小児>2～4mg/kg/日
	30mg/錠 ¥7.1/錠			
フェノバール <フェノバルビタール> (藤永)		100mg(1mL)/管 ¥75/管		50～200mg分1～2
フェノバルビタール <フェノバルビタール> (ﾏｲﾗﾝ) 投与制限：90日	散(100mg/g) ¥7.2/g			30～200mg分1～4 <小児>2～4mg/kg/日
ホストイン <ホスフェニトイン> (ｴｰｻﾞｲ)		750mg(10mL)/瓶 ¥6361/瓶	①てんかん重積状態 ②脳外科手術又は意識障害(頭部外傷等)時のてんかん発作の発現抑制 ③ﾌｪﾆﾄｲﾝを経口投与しているてんかん患者における一時的な代替療法	成人又は2歳以上の小児 ①<初回>22.5mg/kg静注 <維持>5～7.5mg/kg/日静注 ②<初回>15～18mg/kg静注 <維持>5～7.5mg/kg/日静注 ③経口ﾌｪﾆﾄｲﾝの1.5倍量を1日1回または分割にて静注
ルピアール <フェノバルビタール> (久光) 投与制限：14日		50mg/坐剤 ¥55.1/個	催眠,不安・緊張状態の鎮静, 熱性痙攣・てんかんの痙攣発作の改善	4～7mg/kg/日
■小発作				
エピレオプチマル <エトスクシミド> (ｴｰｻﾞｲ)	散(500mg/g) ¥44.1/g		定型欠神発作(小発作), 小型(運動)発作	450～1000mg分2～3 <小児>15～30mg/kg分1～3
ベンザリン <ニトラゼパム> (ｼｵﾉｷﾞ) 投与制限：90日	細粒(10mg/g) ¥18.1/g		①異型小発作群,焦点性発作 ②不眠症、麻酔前投薬	①5～15mg ②5～10mg分1
	2mg/錠 ¥5.8/錠			
	5mg/錠 ¥11/錠			

４．抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■大発作・小発作・その他				
エクセグラン ＜ゾニサミド＞ （大日本住友）	散(200mg/g) ¥60.7/ｇ		部分てんかん, 全般てんかん	100～600mg分1～3 <小児>2～8mg/kg分1～3
	100mg/錠 ¥32.2/錠			
セレニカＲ ＜バルプロ酸＞ （興和創薬）	顆粒(400mg/g) ¥39.8/ｇ		①小発作,焦点発作,精神運動発作,混合発作及びてんかんに伴う性格行動障害(不機嫌,易怒性等),躁病,躁うつ病の躁状態 ②片頭痛発作の発症抑制	①400～1200mg分1 <小児>10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1【Max:1000mg】
デパケンＲ ＜バルプロ酸＞ （協和発酵ｷﾘﾝ）	200mg/錠 ¥18.4/錠			①400～1200mg分1～2, <小児>10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1～2【Max:1000mg】
デパケン ＜バルプロ酸＞ （協和発酵ｷﾘﾝ）	ＳＹ(50mg/mL) ¥7.6/mL			①400～1200mg分2～3 <小児>10～50mg/kg/日 ②400～800mg分2～3【Max:1000mg】
	細粒(400mg/g) ¥24.8/ｇ			
	100mg/錠 ¥9.9/錠			
	200mg/錠 ¥14.6/錠			

4．抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イーケプラ ＜レベチラセタム＞ （大塚製薬）	250mg/錠 ¥145.5/錠		他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用	<成人または体重50kg以上の小児> 1000mg分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:3000mg】 <小児(4歳以上)> 20mg/kg/日,分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:60mg/kg/日】
ガバペン ＜ガバペンチン＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）	200mg/錠 ¥40.4/錠		部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用	初日600mg,2日目1200mg,3日目以降1200mg～1800mg分3【Max:2400mg】 <小児> 3～4歳:初日10mg/kg,2日目20mg/kg,3日目以降40mg/kg分3 5～12歳:初日10mg/kg,2日目20mg/kg,3日目以降25～35mg/kg分3 13歳以上:成人量 【Max:50mg/kg】
セルシン ＜ジアゼパム＞ （武田）		10mg(2mL)/管 ¥98/管	けいれん重積	10mg筋注,静注, 必要に応じて3～4hr毎 <小児>0.3～0.5mg/kg静注
ダイアップ ＜ジアゼパム＞ （和光堂） 投与制限：14日		4mg/坐剤 ¥61.9/個	熱性けいれん及びてんかんのけいれん発作の改善	0.4～0.5mg/kg/回, 1～2回直腸内挿入 【Max:1mg/kg/日】
		6mg/坐剤 ¥70.4/個		
		10mg/坐剤 ¥82.5/個		
テグレトール ＜カルバマゼピン＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	細粒(500mg/g) ¥26/ｇ		①てんかん(精神運動発作,痙攣発作,強直間代発作,てんかん性格･てんかんに伴う精神障害),躁病,躁鬱病の躁状態,統合失調症の興奮状態 ②三叉神経痛	①200～600mg分1～2【Max:1200mg】 <小児>10～25mg/kg/日 ②200～600mg【Max:800mg】
	200mg/錠 ¥12.1/錠			
トピナ ＜トピラマート＞ （協和発酵ｷﾘﾝ）	50mg/錠 ¥105.6/錠		部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用	<成人>50mg/回,1～2回/日で開始 1週間以上の間隔で漸増 維持量200～400mg/日,分2 【Max:600mg】 <2歳以上の小児>1mg/kg/日,2回/日で開始 2週間以上の間隔で2mg/kg/日へ増量,以後2週間以上の間隔で2mg/kg/日以下ずつ漸増 維持量6mg/kg/日,分2 【Max:9mg/kg/日もしくは600mg/日】
ノーベルバール ＜フェノバルビタールナトリウム＞ （ｱﾙﾌﾚｯｻﾌｧｰﾏ）		250mg/瓶 ¥2119/瓶	①新生児けいれん ②てんかん重積状態	①初回20mg/kg静注,ｺﾝﾄﾛｰﾙできない時追加投与可（初回量を超えない範囲で） 維持量2.5～5mg/kg分1静注 ②15～20mg/kg分1静注
プリミドン ＜プリミドン＞ （日医工）	細粒99.5% ¥32.2/ｇ		てんかんの痙攣発作,強直間代発作(全般痙攣発作･大発作),焦点発作(ｼﾞｬｸｿﾝ型発作を含む),自律神経発作,精神運動発作,小型(運動)発作	250～2000mg分2～3 <小児>10～30mg/kg/日

４．抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
マイスタン ＜クロバザム＞ （ｱﾙﾌﾚｯｻ･ﾌｧｰﾏ） 投与制限：90日	10mg/錠 ¥43.2/錠		下記発作型における抗てんかん薬との併用 〈単純部分発作，複雑部分発作，二次性全般化強直間代発作，強直間代発作，強直発作非定型欠神発作，ﾐｵｸﾛﾆｰ発作，脱力発作〉	10～30mg分1～3 【Max:40mg/日】 〈小児〉0.2～0.8mg/kg 【Max:1.0mg/kg】
リボトリール ＜クロナゼパム＞ （中外） 投与制限：90日	0.5mg/錠 ¥9.1/錠		小型(運動)発作，ﾐｵｸﾛﾆｰ発作，精神運動発作，自律神経発作	0.5～6mg分1～3 〈乳・幼児〉0.1～0.2mg/kg分1～3
	2mg/錠 【院外のみ】 ¥26.5/錠			
	細粒(1mg/g) ¥14.9/g			
イーケプラ ＜レベチラセタム＞ （大塚製薬）	500mg/g ¥261.2/g		他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用	〈成人または体重50kg以上の小児〉 1000mg分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:3000mg】 〈小児(4歳以上)〉 20mg/kg/日，分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:60mg/kg/日】

５．抗精神病薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■フェノチアジン系				
コントミン ＜クロルプロマジン＞ （田辺三菱）		25mg(5mL)/管 ¥92/管	統合失調症,躁病,悪心･嘔吐,催眠･鎮静,麻酔前投与,神経症における不安･緊張･抑うつ	10～50mg/回筋注 <小児>1～4mg/kg/日
	12.5mg/錠 ¥9.2/錠		統合失調症,躁病,神経症における不安･緊張･抑うつ,悪心･嘔吐,吃逆,破傷風に伴う痙攣,麻酔前投薬,人工冬眠,催眠･鎮静･鎮痛剤の効力増強	1日30～100mg,分割投与 精神科領域:1日50～450mg,分割経口
	25mg/錠 ¥9.2/錠			
テグレトール ＜カルバマゼピン＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	細粒(500mg/g) ¥26/ｇ		統合失調症の興奮状態,躁病,躁鬱病の躁状態【Ａ-9参照】	①200～600mg分1～2【Max:1200mg】 <小児>10～25mg/kg/日 ②200～600mg【Max:800mg】
	200mg/錠 ¥12.1/錠			
ニューレプチル ＜プロペリシアジン＞ （ｼｵﾉｷﾞ）	10mg/錠 ¥6.8/錠		統合失調症	10～60mg
ノバミン ＜プロクロルペラジン＞ （ｼｵﾉｷﾞ）	5mg/錠 ¥9.6/錠		①統合失調症 ②悪心･嘔吐	①15～45mg/日 ②5～20mg/日
ヒルナミン ＜レボメプロマジン＞ （ｼｵﾉｷﾞ）	25mg/錠 ¥5.6/錠		統合失調症,躁病･うつ病における不安･緊張	25～200mg
ベゲタミンＢ ＜クロルプロマジン（１２．５ｍｇ）フェノバルビタール（３０ｍｇ）＞ （ｼｵﾉｷﾞ） 投与制限：30日	錠 ¥6.3/錠		統合失調症,老年精神病,躁病･うつ病又はうつ状態,神経症における鎮静催眠	鎮静：3～4錠,催眠：1～2錠分1就寝前 【禁忌：2歳未満の乳幼児】
■フェノチアジン類似系				
ロドピン ＜ゾテピン＞ （ｱｽﾃﾗｽ）	25mg/錠 ¥22.3/錠		統合失調症	75～150mg【Max：450mg】
	50mg/錠 【院外のみ】 ¥41.7/錠			

５．抗精神病薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ブチロフェノン系				
セレネース <ハロペリドール> (大日本住友)	0.75mg/錠 ¥7.8/錠		統合失調症,躁病	0.75～6mg
	1.5mg/錠 ¥9.4/錠			
		5mg(1mL)/管 ¥92/管		5mg/回,1～2回/日筋注
■非定型抗精神病薬				
エビリファイ <アリピプラゾール> (大塚製薬)	6mg/錠 ¥184.4/錠		①統合失調症 ②双極性障害における躁症状の改善 ③うつ病･うつ状態(既存治療で十分な効果が認められない場合)	①6～12mg/日より開始 6～24mg/日,分1～2【Max:30mg】 ②24mg/日より開始 12～24mg/日,分1【Max:30mg】 ③3mg,分1【Max:15mg】
クエチアピン <クエチアピン> (東和薬品)	25mg/錠 ¥18.8/錠		統合失調症	25mg/回, 2～3回/日より開始徐々に増量 150～600mg/日,2～3回/日 【Max:750mg/日】
	100mg/錠 ¥64.9/錠			
ジプレキサザイディス <オランザピン> (日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ)	5mg/錠 ¥258.5/錠		①統合失調症 ②双極性障害における躁症状の改善	①5～10mg/日,分1より開始 10mg/日,分1 【Max:20mg/日】 ②10mg/日,分1 【Max:20mg/日】
リスペリドンＯＤ <リスペリドン> (東和薬品)	1mg/錠 ¥19.6/錠		統合失調症	2～6mg分2 【Max:12mg】
ルーラン <ペロスピロン> (大日本住友)	4mg/錠 ¥19/錠			4mg/回, 3回/日より開始徐々に増量 12～48mg/日,3回/日 【Max:48mg/日】

6．抗うつ薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■三環系　【第一世代】 24歳以下の患者で自殺念慮,自殺企図のﾘｽｸが増加するとの報告があるため,ﾘｽｸとﾍﾞﾈﾌｨｯﾄを考慮すること。				
アナフラニール ＜クロミプラミン＞ (ｱﾙﾌﾚｯｻ･ﾌｧｰﾏ)	25mg/錠 ¥20/錠		①うつ病･うつ状態 ②遺尿症 ③ﾅﾙｺﾚﾌﾟｼｰに伴う情動脱力発作	①50～100mg分1～3 【Max:225mg/日】 ②<6歳未満>10～25mg分1～2,<6歳以上>20～50mg分1～2 ③10～75mg分1～3
トフラニール ＜イミプラミン＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	25mg/錠 ¥9.9/錠		①うつ病･うつ状態 ②遺尿症	①25～200～(300)mg ②<幼児>25mg分1 <学童>25～50mg分1～2
トリプタノール ＜アミトリプチリン＞ (日医工)	10mg/錠 ¥9.6/錠		①うつ病･うつ状態 ②夜尿症	①30～150～(300)mg ②10～30mg分1
	25mg/錠 ¥9.6/錠			
■三環系　【第二世代】 24歳以下の患者で自殺念慮,自殺企図のﾘｽｸが増加するとの報告があるため,ﾘｽｸとﾍﾞﾈﾌｨｯﾄを考慮すること。				
アモキサン ＜アモキサピン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/C ¥13.8/C		うつ病･うつ状態	25～150【Max:300mg】分1～数回
■四環系　【第二世代】 24歳以下の患者で自殺念慮,自殺企図のﾘｽｸが増加するとの報告があるため,ﾘｽｸとﾍﾞﾈﾌｨｯﾄを考慮すること。				
テトラミド ＜ミアンセリン＞ (第一三共)	10mg/錠 ¥16.1/錠		うつ病･うつ状態	30～60mg分1
ルジオミール ＜マプロチリン＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	10mg/錠 ¥12.6/錠			30～75mg分2～3
■その他　【第二世代】				
スルピリド ＜スルピリド＞ (沢井製薬)	50mg/錠 ¥6.3/錠		①統合失調症 ②うつ病･うつ状態	①300～600mg【Max:1200mg】 ②150～300mg【Max:600mg】
	100mg/錠 ¥6.3/錠			
■その他　【第二世代】 24歳以下の患者で自殺念慮,自殺企図のﾘｽｸが増加するとの報告があるため,ﾘｽｸとﾍﾞﾈﾌｨｯﾄを考慮すること。				
デジレル ＜トラゾドン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/錠 ¥18.1/錠		うつ病･うつ状態	75～100～(200)mg分1～数回

６．抗うつ薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ＳＳＲＩ(選択的セロトニン再取り込み阻害剤)【第三世代】 24歳以下の患者で自殺念慮,自殺企図のﾘｽｸが増加するとの報告があるため,ﾘｽｸとﾍﾞﾈﾌｨｯﾄを考慮すること。				
ジェイゾロフト ＜セルトラリン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥101.3/錠		うつ病･うつ状態,ﾊﾟﾆｯｸ障害,外傷後ｽﾄﾚｽ障害	初期用量25mg分1, 100mg分1まで漸増【Max:100mg/日】
	50mg/錠 【院外のみ】 ¥175.9/錠			
パキシル ＜パロキセチン＞ (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)	10mg/錠 ¥100.5/錠		①うつ病･うつ状態 ②ﾊﾟﾆｯｸ障害 ③強迫性障害 ④社会不安障害 ⑤外傷後ｽﾄﾚｽ障害	①20～40mg分1夕食後 10～20mgより開始､1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】 ②30mg分1夕食後 10mgより開始､1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:30mg/日】 ③40mg分1夕食後 20mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:50mg/日】 ④20mg分1夕食後 10mgより開始､1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】 ⑤20mg分1夕食後 10～20mgより開始､1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】
	20mg/錠 【院外のみ】 ¥175.3/錠			
パキシルＣＲ ＜パロキセチン＞ (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)	12.5mg/錠 ¥101.2/錠		うつ病・うつ状態	12.5mg分1夕食後 12.5mgより開始､1週ごとに12.5mg/日ずつ増量【Max:50mg/日】
ルボックス ＜フルボキサミン＞ (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)	25mg/錠 ¥36.1/錠		うつ病･うつ状態,強迫性障害,社会不安障害	50～150mg分2
レクサプロ ＜エスシタロプラム＞ (田辺三菱)	10mg/錠 ¥218.1/錠		うつ病・うつ状態	10mg,分1夕食後【Max:20mg】
■ＳＮＲＩ(セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤)【第四世代】 24歳以下の患者で自殺念慮,自殺企図のﾘｽｸが増加するとの報告があるため,ﾘｽｸとﾍﾞﾈﾌｨｯﾄを考慮すること。				
サインバルタ ＜デュロキセチン＞ (塩野義)	20mg/C ¥173.5/C		①うつ病･うつ状態 ②糖尿病性神経障害に伴う疼痛 ③線維筋痛症に伴う疼痛	①②20mg分1より開始 40mg分1朝食後【Max:60mg/日】 ③20mg分1より開始 60mg分1朝食後
トレドミン ＜ミルナシプラン＞ (旭化成)	25mg/錠 ¥33.4/錠		うつ病･うつ状態	初期用量25mg分2～3食後,100mg/日まで漸増 【高齢者】初期用量25mg分2～3食後,60mg/日まで漸増
■ＮａＳＳＡ(ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤) 24歳以下の患者で自殺念慮,自殺企図のﾘｽｸが増加するとの報告があるため,ﾘｽｸとﾍﾞﾈﾌｨｯﾄを考慮すること。				
リフレックス ＜ミルタザピン＞ (明治)	15mg/錠 ¥171.2/錠		うつ病･うつ状態	15～30mg分1就寝前 15mgより開始､1週ごとに15mg/日ずつ増量【Max:45mg/日】

7．躁病治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
セレニカR <バルプロ酸> (興和創薬)	顆粒(400mg/g) ¥39.8/g		①小発作,焦点発作,精神運動発作,混合発作及びてんかんに伴う性格行動障害(不機嫌,易怒性等),躁病,躁うつ病の躁状態 ②片頭痛発作の発症抑制	①400～1200mg分1 <小児>10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1【Max:1000mg】
テグレトール <カルバマゼピン> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	細粒(500mg/g) ¥26/g		①てんかん(精神運動発作,痙攣発作,強直間代発作,てんかん性格･てんかんに伴う精神障害),躁病,躁鬱病の躁状態,統合失調症の興奮状態 ②三叉神経痛	①200～600mg分1～2【Max:1200mg】 <小児>10～25mg/kg/日 ②200～600mg【Max:800mg】
	200mg/錠 ¥12.1/錠			
デパケンR <バルプロ酸> (協和発酵ｷﾘﾝ)	200mg/錠 ¥18.4/錠		①小発作,焦点発作,精神運動発作,混合発作及びてんかんに伴う性格行動障害(不機嫌,易怒性等),躁病,躁うつ病の躁状態 ②片頭痛発作の発症抑制	①400～1200mg分1～2, <小児>10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1～2【Max:1000mg】
デパケン <バルプロ酸> (協和発酵ｷﾘﾝ)	ＳＹ(50mg/mL) ¥7.6/mL			①400～1200mg分2～3 <小児>10～50mg/kg/日 ②400～800mg分2～3【Max:1000mg】
	細粒(400mg/g) ¥24.8/g			
	100mg/錠 ¥9.9/錠			
	200mg/錠 ¥14.6/錠			
リーマス <炭酸リチウム> (大正富山)	200mg/錠 ¥20.9/錠		躁病,躁うつ病の躁状態	400～1200mg分1～3

8．抗不安薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■弱作用				
グランダキシン <トフィソパム> (持田)	50mg/錠 ¥15.7/錠		自律神経失調症,頭部･頸部損傷,更年期障害･卵巣欠落症状における頭痛･頭重,倦怠感,心悸亢進,発汗等の自律神経症状	150mg分3
リーゼ <クロチアゼパム> (田辺三菱) 投与制限：30日	5mg/錠 ¥6.7/錠		①心身症,自律神経失調症におけるめまい･肩こり･食欲不振 ②麻酔前投薬	①15～30mg分3 ②10～15mg就寝前または術前
■中等度作用				
アタラックスＰ <ヒドロキシジン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/C ¥6.6/C		①神経症 ②じんましん,皮膚疾患に伴う掻痒	①75～150mg分3～4 ②50～75mg分2～3
		25mg(1mL)/管 ¥56/管	神経症,麻酔前投薬,術前･術後の悪心･嘔吐の防止	25～50mg/回静注 50～100mg/回筋注
アルプラゾラム <アルプラゾラム> (東和薬品) 投与制限：30日	0.4mg/錠 ¥5.6/錠		心身症	1.2～2.4mg分3～4
セディール <タンドスピロン> (大日本住友)	10mg/錠 ¥31.2/錠		心身症における身体症候･抑うつ･不安･焦燥･睡眠障害,神経症における抑うつ･恐怖	30mg分3【Max:60mg】
セルシン <ジアゼパム> (武田) 投与制限：90日	散(10mg/g) ¥17.3/g		①神経症,うつ病における不安･緊張,心身症における身体症候,不安･緊張･抑うつ ②脳脊髄疾患に伴う筋痙攣･疼痛における筋緊張の軽減 ③麻酔前投薬	①4～20mg分2～4 外来患者は1日15mg以内 <小児>0.04～0.2mg/kg/回 ②6～40mg分3～4 ③5～10mg就寝前または術前
	2mg/錠 ¥5.9/錠			
	5mg/錠 ¥9.2/錠			
セルシン <ジアゼパム> (武田)		10mg(2mL)/管 ¥98/管	不安･興奮･抑うつの軽減	10mg筋注,静注, 以後必要に応じ3～4hr毎
メイラックス <ロフラゼプ酸エチル> (明治) 投与制限：30日	1mg/錠 ¥21.6/錠		神経症,心身症	2mg分1～2

8．抗不安薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■強作用				
エチゾラム ＜エチゾラム＞ （エーザイ）	0.5mg/錠 ¥6.3/錠		①神経症･うつ病における不安･緊張･睡眠障害 ②心身症,頚椎症･腰痛症･筋収縮性頭痛における不安･緊張･抑うつ･筋緊張 ③統合失調症における睡眠障害	①3mg分3 ②1.5mg分3 ③1～3mg分1
	1mg/錠 ¥6.4/錠			
セパゾン ＜クロキサゾラム＞ （第一三共） 投与制限：30日	1mg/錠 ¥5.6/錠		神経症,心身症,術前の不安除去	3～12mg分3
レキソタン ＜ブロマゼパム＞ （ｴｰｻﾞｲ） 投与制限：30日	2mg/錠 ¥6/錠		①神経症,うつ病における不安･緊張 ②心身症 ③麻酔前投薬	①6～15mg分2～3 ②3～6mg分2～3 ③5mg就寝前または術前
ワイパックス ＜ロラゼパム＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ） 投与制限：30日	0.5mg/錠 ¥6.1/錠		神経症･自律神経失調症･心臓神経症における不安･緊張･抑うつ	1～3mg分2～3

９．抗パーキンソン薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アキネトン <ビペリデン> (大日本住友)	1mg/錠 ¥5.6/錠		ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病,ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ症候群,ｱｶｼｼﾞｱ	3～6mg/日
		5mg(1mL)/管 ¥58/管		5～10mg筋注･(静注)
アーテン <トリヘキシフェニジル> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	2mg/錠 ¥8.6/錠			2～10mg分3～4
エフピーＯＤ <セレギリン> (ｴﾌﾋﾟｰ)	2.5mg/錠 ¥325/錠		ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病	ﾚﾎﾞﾄﾞﾊﾟ含有製剤と併用 始め1日1回2.5mg朝食後以後2週毎に2.5mgずつ漸増し維持量を定める(標準維持量１日7.5mg) 5mg以上の時朝･昼食後 7.5mg以上朝5mg昼2.5mg 【Max:10mg/日】
カバサール <カベルゴリン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	0.25mg/錠 【院外のみ】 ¥80.9/錠		①ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病 ②乳汁漏出症,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性排卵障害,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ③産褥性乳汁分泌抑制	①始め1日0.25mg朝食後,2週目0.5mg,以後1週毎に0.5mgずつ増量し,維持量を定める 【Max:3.0mg】 ②初回0.25mg/分1就寝前/週1回, 漸増投与,維持量0.25mg～0.75mg 【Max:1.0mg】 ③1.0mg/1回のみ, 胎児娩出後,食後投与
	1.0mg/錠 ¥270.9/錠			
シンメトレル <アマンタジン> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	50mg/錠 ¥28.6/錠		①ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ症候群 ②脳梗塞後遺症に伴う意欲･自発性低下の改善 ③A型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｨﾙｽ感染症	①100～200mg分2(～3) 【Max:300mg】 ②100～150mg分2～3 ③100mg分1～2
ドプスＯＤ <ドロキシドパ> (大日本住友)	100mg/錠 ¥70.8/錠		①ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病のすくみ足,立ちくらみの改善 ②ｼｬｲﾄﾞﾚｰｶﾞｰ症候群,家族性ｱﾐﾛｲﾄﾞﾎﾟﾘﾆｭｰﾛﾊﾟﾁｰにおける起立性低血圧	①600mg分3 ②300～600mg分3【Max:900mg】
トレリーフＯＤ <ゾニサミド> (大日本住友)	25mg/錠 ¥1115.90/錠		ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病（ﾚﾎﾞﾄﾞﾊﾟ含有製剤に他の抗ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病薬を使用しても十分に効果が得られなかった場合)	25mg分1(ﾚﾎﾞﾄﾞﾊﾟ含有製剤と併用) <ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病における症状の日内変動(wearing-off現象)の改善の場合>50mg分1
ネオドパストン <レボドパ，カルビドパ> (第一三共)	100mg/錠 ¥34.3/錠		ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病,ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ症候群	始め1回50～100mg, 1日100～200mg以後漸増し最適投与量を定め維持量300～600mg分3
パーロデル <ブロモクリプチン> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	2.5mg/錠 ¥109.5/錠		①ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ症候群 ②産褥性乳汁分泌抑制,乳汁漏出症,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性排卵障害,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性下垂体腺腫(外科処置不必要な場合のみ) ③末端肥大症,下垂体性巨人症	①7.5～22.5mg分2～3漸増投与 ②5.0～7.5mg分2～3 ③2.5～7.5mg分2～3
ビ・シフロール <プラミペキソール> (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)	0.5mg/錠 ¥166.5/錠		①ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病 ②中等度から高度の特発性ﾚｽﾄﾚｽﾚｯｸﾞｽ症候群	①0.25mg/日からはじめ,2週目に1日量を0.5mg,以後1週間毎に1日量として0.5mgずつ増量し,1.5～4.5mg/日とする【Max:4.5mg/日】 ②0.125mg/日から開始,0.25mg分1就寝2～3時間前,増量は1週間以上の間隔で【Max:0.75mg/日】

９．抗パーキンソン薬

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
マドパー ＜レボドパ，ベンセラジド＞ （中外）	100mg/錠 ¥31.7/錠		ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病,ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ症候群	始め1回50～100mg,1日100～200mg以後漸増し最適投与量を定め維持量300～600mg分3

１０．脳循環代謝薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■脳血管拡張剤				
ケタス <イブジラスト> (杏林)	10mg/C ¥24.7/C		①脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害によるめまいの改善 ②気管支喘息	①30mg分3 ②20mg分2
サアミオン <ニセルゴリン> (田辺三菱)	5mg/錠 ¥32.3/錠		脳梗塞後遺症,脳出血後遺症に伴う慢性脳循環障害による諸症状	15mg分3
セロクラール <イフェンプロジル> (日医工)	20mg/錠 ¥13.8/錠		脳梗塞後遺症,脳出血後遺症に伴うめまいの改善	60mg分3
ユベラＮ <ニコチン酸トコフェロール> (ｴｰｻﾞｲ)	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状, 高脂血症, 閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300～600mg分3
■脳代謝賦活剤				
アデホス <アデノシン三リン酸> (興和創薬)	20mg/錠 ¥5.6/錠		頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善,心不全,調節性眼精疲労における調整機能の安定化,消化管機能低下のみられる慢性胃炎	120～180mg分3
アデホスーＬ <アデノシン三リン酸> (興和創薬)		10mg(2mL)/管 ¥61/管	頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善,心不全,筋ｼﾞｽﾄﾛﾌｨｰ症及びその類縁疾患,急性灰白髄炎,脳性小児麻痺(弛緩型),進行性脊髄性筋萎縮症・その類似疾患,調節性眼精疲労における調整機能の安定化,耳鳴・難聴,消化管機能低下のみられる慢性胃炎,慢性肝疾患における肝機能の改善	静注:1回5～40mg,1日1～2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40～80mg,1日1回 <小児>0.5mg/kg急速静注（増量可能）
		40mg(2mL)/管 ¥62/管		
グラマリール <チアプリド> (ｱｽﾃﾗｽ)	25mg/錠 ¥25.1/錠		脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為,精神興奮,徘徊,せん妄の改善,特発性ｼﾞｽｷﾈｼﾞｱ・ﾊﾟｰｷﾝｿﾆｽﾞﾑに伴うｼﾞｽｷﾈｼﾞｱ	75～150mg分3
トリノシン <アデノシン三リン酸> (トーアエイヨー)	顆粒(100mg/g) ¥19.2/g		①心不全,頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善,消化管機能低下のみられる慢性胃炎,調節性眼精疲労における調整機能の安定化 ②ﾒﾆｴｰﾙ病・内耳障害に基づくめまい	①120～180mg分3 ②300mg分3

１０．脳循環代謝薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■脳保護剤(ﾌﾘｰﾗｼﾞｶﾙｽｶﾍﾞﾝｼﾞｬｰ)				
ラジカット ＜エダラボン＞ （田辺三菱）		バッグ30mg(100mL)/袋 ¥5893/袋	①脳梗塞急性期に伴う神経症候,日常生活動作障害,機能障害の改善 ②筋萎縮性側索硬化症(ALS)における機能障害の進行抑制	①1回30mg(1袋)1日2回点静,発症後24hr以内に投与 【Max:14日間】 ②1回60mg(2袋)1日1回点静 第1ｸｰﾙ:14日間連続投与,以後14日間休薬 第2ｸｰﾙ以降:14日間のうち10日間投与,以後14日間休薬
■その他				
エリル ＜ファスジル＞ （旭化成）		30mg(2mL)/管 ¥2861/管	ｸﾓ膜下出血術後の脳血管れん縮・脳虚血症状の改善	60～90mg分2～3,点静
キサンボンＳ ＜オザグレル＞ （ｷｯｾｲ）		40mg/管 ¥1749/管	①ｸﾓ膜下出血後の脳血管攣縮 ②脳血栓症(急性期)	①80mg,24hr静脈内持続投与 ②160mg分2,持続静注
セレジストＯＤ ＜タルチレリン＞ （田辺三菱）	5mg/錠 ¥1107.4/錠		脊髄小脳変性症における運動失調の改善	10mg分2
ヒルトニン ＜プロチレリン＞ （武田）		0.5mg(1mL)/管 ¥2154/管	①頭部外傷･くも膜下出血(意識障害固定期間3週間以内)に伴う昏睡･半昏睡を除く遷延性意識障害 ②脊髄小脳変性症における運動失調の改善 ③下垂体TSH分泌機能検査	①0.5～2mg分1静注,点静10日間 ②2mg分1筋注,静注,2～3週間投与後2～3週間休薬,以後反復投与。又は週2～3回 ③0.5mg分1,静注,皮下
■アルツハイマー型認知症治療薬 ◆コリンエステラーゼ阻害薬				
ドネペジルＯＤ ＜ドネペジル＞ （東和薬品）	3mg/錠 ¥131.4/錠		ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ型認知症における認知症症状の進行抑制	3mg分1から開始1～2週後5mg分1 【Max:10mg/日】
	5mg/錠 ¥193.5/錠			
	10mg/錠 ¥333.1/錠			
■アルツハイマー型認知症治療薬 ◆ＮＭＤＡ受容体拮抗薬				
メマリーＯＤ ＜メマンチン＞ （第一三共）	5mg/錠 ¥137.7/錠		中等度及び高度ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ型認知症における認知症症状の進行抑制	5mg分1から開始 5mg/週ずつ増量し維持量20mg分1

１１．重症筋無力症治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アンチレクス <エドロホニウム> (杏林)		10mg(1mL)/管 ¥117/管	重症筋無力症の診断	10mg/回静注(2mgを15～30秒かけて注射,45秒後反応をみて必要に応じて8mg注射) <乳児>0.5～1mg静注 <小児>体重35kg未満1mg(追加5mg迄)
ウブレチド <ジスチグミン> (鳥居)	5mg/錠 ¥20.7/錠		①手術後及び神経因性膀胱などの低緊張性膀胱による排尿困難 ②重症筋無力症	①5mg/日 ②5～20mg分1～4
マイテラーゼ <アンベノニウム> (ｱﾙﾌﾚｯｻ･ﾌｧｰﾏ)	10mg/錠 ¥22.7/錠		重症筋無力症	15mg分3
メスチノン <ピリドスチグミン> (共和)	60mg/錠 ¥26.3/錠			180mg分3
ワゴスチグミン <ネオスチグミン> (ｼｵﾉｷﾞ)		0.5mg(1mL)/管 ¥94/管	①重症筋無力症,ｸﾗｰﾚ剤による遷延性呼吸抑制,手術後および分娩後の腸管麻痺,排尿困難 ②非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗	①0.25～3mg分1～3皮下,筋注 ②0.5～2.0mg/日静注ただし、硫酸アトロピンを静脈内により併用

１２．副交感神経興奮薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アトワゴリバース <配合剤： ネオスチグミン１ｍｇ， アトロピン０．５ｍｇ> （ﾃﾙﾓ）		3mL/筒 ¥416/筒	非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗	1.5～6mL/回緩徐に静注
ワゴスチグミン <ネオスチグミン> （ｼｵﾉｷﾞ）		0.5mg(1mL)/管 ¥94/管	①非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗 ②重症筋無力症,ｸﾗｰﾚ剤による遷延性呼吸抑制,手術後および分娩後の腸管麻痺,排尿困難	①0.5～2.0mg/日静注ただし、硫酸アトロピンを静脈内により併用 ②0.25～3mg分1～3皮下,筋注

１３．その他

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■注意欠陥／多動性障害治療剤				
ストラテラ ＜アトモキセチン＞ （日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ）	5mg/C ¥272.5/C		注意欠陥／多動性障害（AD/HD）	18歳未満:0.5mg/kg分2より開始 以後増量し維持量1.2～1.8mg/kg/日,分2 【Max:1.8mg/kg又は120mg/日】 18歳以上:40mg分1～2より開始 以後増量し維持量80～120mg分1～2 【Max:120mg/日】
	10mg/C ¥324.7/C			
	25mg/C ¥409.5/C			
■末梢性神経障害性疼痛治療薬				
リリカ ＜プレガバリン＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）	25mg/C ¥77/C		①神経障害性疼痛 ②線維筋痛症に伴う疼痛	①初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300mg分2 【Max:600mg,分2】 ②初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300～450mg分2 【Max:450mg,分2】
	75mg/C ¥128.1/C			
■その他				
リタリン ＜メチルフェニデート＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ） 投与制限：30日	10mg/錠 ¥10/錠		ﾅﾙｺﾚﾌﾟｼｰ	20～60mg分1～2

【 抗てんかん薬の種類と血中濃度 】

■主な抗てんかん薬の治療域血中濃度と薬物動態

一般名称	略号	薬剤名	維持量		治療域の血中濃度（μg/mL）	半減期（時間）		主な副作用
			成人（mg）	小児（mg/kg）		成人	小児	
ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙ	PB	ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙ	30～200	2～7	15～25（～40）	79～117	25～75	眠気、多動、攻撃的
ﾌﾟﾘﾐﾄﾞﾝ	PRM	プリミドン	1500	10～20	3～12	19.4		眠気、めまい、頭痛、肝機能異常
ｶﾙﾊﾞﾏｾﾞﾋﾟﾝ	CBZ	テグレトール	400～1200	5～25	5～10	10～26	8～20	眠気、失調、複視、発疹（5～10%）
ﾌｪﾆﾄｲﾝ	PHT	アレビアチン	200～300	3～12	7～20	血中濃度5μg/mL前後		失調、眼振、歯肉増殖、多毛、ざ瘡
						7～42	2～16	
						血中濃度10μg/mL以上		
						20～70	8～30	
ｿﾞﾆｻﾐﾄﾞ	ZNC	エクセグラン	200～600	4～12	10～30	50～63	16～36	眠気、食欲不振、自発性低下、精神活動緩慢
ﾊﾞﾙﾌﾟﾛ酸	VPA	デパケン	400～1200	15～50	50～100	10～19	6～15	食欲不振、肥満、脱毛、血小板減少
ﾊﾞﾙﾌﾟﾛ酸徐放剤	VPA-R	デパケンR セレニカR	400～1200	15～40		12～26	6～12	
ｴﾄｽｸｼﾐﾄﾞ	ESM	ｴﾋﾟﾚｵﾌﾟﾁﾏﾙ	450～1000	15～40	50～100	40～60	24～41	嘔吐、嘔気、頭痛、汎血球減少
ｸﾛﾅｾﾞﾊﾟﾑ	CZP	リボトリール	2～6	0.025～0.2	0.02～0.07	26～49	22～33	眠気、唾液分泌増加、筋緊張低下、攻撃性
ﾆﾄﾗｾﾞﾊﾟﾑ	NZP	ベンザリン	5～15	0.2～0.5	0.02～0.1	24～31		眠気、唾液分泌増加、筋緊張低下
ｼﾞｱｾﾞﾊﾟﾑ	DZP	セルシン ダイアップ		0.1～0.5	0.2～0.5	32～41	8～20	眠気、ふらつき、興奮
ｸﾛﾊﾞｻﾞﾑ	CLB （N-DMCLB）	マイスタン	10～40	0.2～1.0	未確定	17～49 （N-DMCLB）36～46	16 （N-DMCLB）15	眠気、ふらつき、めまい（5%以上）
ｱｾﾀｿﾞﾗﾐﾄﾞ	AZM	ダイアモックス	250～750	10～20	10～14	10～15		眠気、食欲不振、多尿、アシドーシス
臭化ｶﾘｳﾑ	KBr	臭化カリウム	1500～3000	20～80	750～1250	10～13日	5～8日	悪心・嘔吐、頭痛、めまい、ふらつき、ざ瘡
ｶﾞﾊﾞﾍﾟﾝﾁﾝ	GBP	ガバペン	600～2400	5～45	―	6～9		傾眠、めまい、頭痛、複視、倦怠感、痙攣
ﾄﾋﾟﾗﾏｰﾄ	TPM	トピナ	200～600	4～10	―	20～30	13～20	傾眠、体重減少、めまい、無食欲、大食症候群
ﾗﾓﾄﾘｷﾞﾝ	LTG	ラミクタール	150～400	1～5	―	30～40	19～33	傾眠、めまい、肝機能障害、発疹、複視
VPA併用時			100～200	1～3	―	30～48	45～66	
PB、PRM、PHT、CBZ併用時			200～400	5～15	―	12～15	7～8	

インタビューフォーム、新小児薬用量 改訂第6版
てんかんガイドライン2010より
（2014年3月改訂）

【抗うつ薬について】

1. 薬物療法の要点

1)単剤を低用量から開始
2)効果発現までに2-3週間を要する
3)有害作用に注意しながら可能な限り速やかに増量
4)十分な最終投与量を投与し、十分期間効果判定を待つ
5)寛解維持期には少なくとも半年程度同量の抗うつ薬を継続
6)ベンゾジアゼピン系受容体作動薬併用時は、必要最小限とし、常用量依存に注意

2. 抗うつ薬使用時の留意点

1)抗うつ薬投与初期及び増量時のアクチベーション（焦燥感や不安感の増大、不眠、パニック発作、アカシジア、 敵意・易刺激性・衝動性の亢進、躁・軽躁状態の出現等）に注意
2)セロトニン症候群（錯乱、軽躁、焦燥、ミオクローヌス、反射亢進、発汗、発熱、下痢、振戦等）に注意

3. 各薬剤の特徴

分類		特徴
三環系 四環系		抗コリン作用による口渇、便秘、排尿障害に注意 抗ヒスタミン作用による眠気に注意 心筋伝導障害を来たす可能性や過量内服時の致死性に注意
デジレル		比較的鎮静作用が強い
ドグマチール		錐体外路障害に注意（特に高齢者や女性、小児の場合）
新規抗うつ薬	SSRI	投与初期の悪心に注意（通常は2,3日で消失） 不安を有するうつ病患者に適している（パニック障害や強迫性障害等にも有効） CYP、P糖蛋白関連の相互作用に注意 ※パロキセチン（CYP2D6阻害）, フルボキサミン（CYP2C9, 1A2, 3A4阻害）等
	SNRI	投与初期の悪心に注意（通常は2,3日で消失） 痛みを有するうつ病患者に適している 排尿困難が現れることがあるので、高齢男性には注意が必要
	NaSSA	薬物相互作用が少なく、効果発現が早い 食欲増進効果もあり、癌患者のうつ病に適している 抗ヒスタミン作用による眠気に注意

【参考】日本うつ病学会治療ガイドライン,Pocket Drugs2014

【ベンゾジアゼピン系睡眠薬および抗不安薬の作用時間と作用特性】

1．催眠鎮静薬

区分	商品名	一般名	Tmax（時間）	半減期（時間）	筋弛緩作用	力価
超短時間型	ゾルピデム	ｿﾞﾙﾋﾟﾃﾞﾑ	0.7～0.9	2.3	±～＋	高
	ルネスタ	ｴｽｿﾞﾋﾟｸﾛﾝ	0.5～2.0	5	±～＋	高
	トリアゾラム	ﾄﾘｱｿﾞﾗﾑ	1.2	2.9	＋＋	高
短時間型	ブロチゾラム	ﾌﾞﾛﾁｿﾞﾗﾑ	1.0～1.5	7	＋	高
	エバミール	ﾛﾙﾒﾀｾﾞﾊﾟﾑ	1～2	10	＋＋	高
	リスミー	ﾘﾙﾏｻﾞﾎﾝ	3	10.5	±～＋	高
中間型	ロヒプノール	ﾌﾙﾆﾄﾗｾﾞﾊﾟﾑ	1	7	＋～＋＋	高
	ユーロジン	ｴｽﾀｿﾞﾗﾑ	5	24	＋＋	高
	ベンザリン	ﾆﾄﾗｾﾞﾊﾟﾑ	1.6～2	27	＋～＋＋	高
長時間型	ドラール	ｸｱｾﾞﾊﾟﾑ	3.4	37～116	±	低

2．抗不安薬

区分	商品名	一般名	Tmax（時間）	半減期（時間）	作用特性				
					抗不安	鎮静催眠	筋弛緩	抗痙攣	抗うつ
短時間型	グランダキシン	ﾄﾌｨｿﾊﾟﾑ	1	47.1分	＋	±	－	－	±
	エチゾラム	ｴﾁｿﾞﾗﾑ	3	6	３＋	３＋	２＋	－	２＋
	リーゼ	ｸﾛﾁｱｾﾞﾊﾟﾑ	1	6.3	２＋	＋	±	±	＋
中時間型	アルプラゾラム	ｱﾙﾌﾟﾗｿﾞﾗﾑ	2	14	２＋	２＋	＋	－	２＋
	ワイパックス	ﾛﾗｾﾞﾊﾟﾑ	2	12	３＋	２＋	＋	－	＋
	レキソタン	ﾌﾞﾛﾏｾﾞﾊﾟﾑ	1	8～19	３＋	２＋	３＋	２＋	＋
長時間型	セルシン	ｼﾞｱｾﾞﾊﾟﾑ	1	27～28	２＋	３＋	３＋	３＋	＋
	コントール	ｸﾛﾙｼﾞｱｾﾞﾎﾟｷｼﾄﾞ	1	6.6～28	２＋	２＋	＋	±	－
	セパゾン	ｸﾛｷｻｿﾞﾗﾑ	活性代謝物 2～4	11～21	３＋	＋	＋	－	＋
	リボトリール	ｸﾛﾅｾﾞﾊﾟﾑ	2	成人：19～46 小児：13～33	３＋	３＋	２＋	３＋	±
	メイラックス	ﾛﾌﾗｾﾞﾊﾟﾑ	1.2	122	２＋	２＋	＋	－	±

【参考】
・治療薬マニュアル2012
・CURRENT THERAPY 2000 Vol.18 No.17
・医薬ジャーナル Vol.37 No.8 (2001)

（２０１５年３月作成）

1．強心薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■強心配糖体				
ジゴシン ＜ジゴキシン＞ (中外)	散0.1mg/g 【院内製剤】 ¥1.12/g		うっ血性心不全,心房細動･粗動による頻脈,発作性上室性頻拍	ⅰ)急速飽和療法:初回0.5mg以後0.5mg/6～8時間毎 ⅱ)維持療法:0.25～0.5mg 腎排泄型(半減期=36hr) <小児>維持療法:0.01mg/kg/日,分2 【DI照会参照】
	0.125mg/錠 ¥9.6/錠			
	0.25mg/錠 ¥9.6/錠			
		0.25mg(1mL)/管 ¥92/管		
ラニラピッド ＜メチルジゴキシン＞ (中外)	0.1mg/錠 ¥9.5/錠			維持療法:0.1～0.2mg 腎排泄型(半減期=24hr)
■カテコールアミン類				
イノバン０．３％ ＜ドパミン＞ (協和発酵ｷﾘﾝ)		150mg(50mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥1292/ｼﾘﾝｼﾞ	急性循環不全（心原性ｼｮｯｸ,出血性ｼｮｯｸ)	1～5μg/kg/min持続静注 【Max:20μg/kg/min】
ドブタミン ＜ドブタミン＞ (沢井)		100mg(5mL)/管 ¥284/管	急性循環不全	1～5～(20)μg/kg/min点静
ドミニン ＜ドパミン＞ (日本新薬)		100mg(5mL)/管 ¥436/管		
プロタノールＬ ＜Ｉ－イソプロテレノール＞ (興和創薬)		0.2mg(1mL)/管 ¥237/管	ｱﾀﾞﾑｽ･ｽﾄｰｸｽ症候群の発作時,急性心不全,術後の低心拍出量症候群,気管支喘息の重症発作時	0.2～1.0mg点静 <緊急時>0.2mgを静注,筋注,皮下 <小児>0.01～0.5～1μg/kg/min点静
■キサンチン類				
ネオフィリン ＜アミノフィリン＞ (ｴｰｻﾞｲ)	原末 ¥12.5/g		気管支喘息,喘息性(様)気管支炎,閉塞性肺疾患	300～400mg分3～4 <小児>3～5mg/kg/回,3～4回/日
	散(10mg/g) 【院内製剤】			
		250mg(10mL)/管 ¥92/管		0.7～1mg/kg/hr,点静

1．強心薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■心筋代謝性				
アデホス <アデノシン三リン酸> (興和創薬)	20mg/錠 ¥5.6/錠		頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善,心不全,調節性眼精疲労における調整機能の安定化,消化管機能低下のみられる慢性胃炎	120～180mg分3
アデホスーL <アデノシン三リン酸> (興和創薬)		10mg(2mL)/管 ¥61/管	頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善,心不全,筋ｼﾞｽﾄﾛﾌｨｰ症及びその類縁疾患,急性灰白髄炎,脳性小児麻痺(弛緩型),進行性脊髄性筋萎縮症･その類似疾患,調節性眼精疲労における調整機能の安定化,耳鳴･難聴,消化管機能低下のみられる慢性胃炎,慢性肝疾患における肝機能の改善	静注:1回5～40mg,1日1～2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40～80mg,1日1回 <小児>0.5mg/kg急速静注（増量可能）
		40mg(2mL)/管 ¥62/管		
トリノシン <アデノシン三リン酸> (トーアエイヨー)	顆粒(100mg/g) ¥19.2/g		①心不全,頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善,消化管機能低下のみられる慢性胃炎,調節性眼精疲労における調整機能の安定化 ②ﾒﾆｴｰﾙ病･内耳障害に基づくめまい	①120～180mg分3 ②300mg分3
■ホスホジエステラーゼ阻害薬				
コアテック <オルプリノン> (ｴｰｻﾞｲ)		5mg(5mL)/管 ¥5195/管	急性心不全	10μg/kgを5分かけて緩徐に静注後,0.1～0.3μg/kg/分,点静 【Max：0.4μg/kg/分】
ピモベンダン <ピモベンダン> (ﾄｰｱｴｲﾖｰ)	1.25mg/錠 ¥68.1/錠		急性･慢性心不全 （軽症～中等症）	5mg分2
■心房性ナトリウム利尿ペプチド				
ハンプ <カルペリチド> (第一三共)		1000μg/瓶 ¥2159/瓶	急性心不全(急性憎悪期を含む)	0.1～(0.2)μg/kg/min点静

２．血管収縮薬（昇圧薬）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アドレナリン注０．１%シリンジ ＜エピネフリン＞ （ﾃﾙﾓ）		1mg(1mL)/筒 ¥165/筒	①気管支喘息･百日咳に基づく気管支痙攣の緩解 ②急性低血圧･ｼｮｯｸ時の補助治療,心停止の補助治療	①0.2～1mg/回皮下,筋注 ②0.25mg/回静注
エホチール ＜エチレフリン＞ （ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ）		10mg(1mL)/管 ¥58/管	起立性低血圧,急性低血圧･ｼｮｯｸ時の補助治療	2～10mg/回皮下,筋注,静注
ネオシネジン ＜フェニレフリン＞ （興和創薬）		5mg(1mL)/管 ¥61/管	急性低血圧･ｼｮｯｸ時,局麻時の作用延長,発作性上室頻拍	(1)～2～5～(10)mg皮下,筋注 <乳児>0.05mg静注 <幼児>0.1～2mg静注
ノルアドリナリン ＜ｄｌ－ノルエピネフリン＞ （第一三共）		1mg(1mL)/管 ¥92/管	急性低血圧,ｼｮｯｸ時の補助治療	0.1～1μg/kg/min点静 0.1～1mg/回皮下
ボスミン ＜エピネフリン＞ （第一三共）		1mg(1mL)/管 ¥92/管	気管支痙攣,急性低血圧,ｼｮｯｸ時の補助治療	0.2～1mg/回皮下,筋注 0.25mg/回静注
メトリジン ＜ミドドリン＞ （大正富山）	2mg/錠 ¥44.2/錠		本態性低血圧,起立性低血圧	4～8mg分2 <小児>4～6mg分2
リズミック ＜アメジニウム＞ （大日本住友）	10mg/錠 ¥48.7/錠		①本態性低血圧,起立性低血圧 ②透析施行時の血圧低下の改善	①20mg分2,②10mg/開始時

３．不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のＩａ				
アミサリン <プロカインアミド> (第一三共)		100mg(1mL)/管 ¥92/管	期外収縮(上室性,心室性),発作性頻拍(上室性,心室性),手術および麻酔に伴う不整脈,心房細動,心房粗動(静注のみ)	0.5g/回筋注,4～6hr毎 0.2～1g/回,50～100mg/hr静注 <小児>5～15mg/kg,5分以上で静注
シベノール <シベンゾリン> (ﾄｰｱｴｲﾖｰ)		70mg(5mL)/管 ¥919/管	頻脈性不整脈	0.1mL(1.4mg)/kg/回 血圧及び心電図監視下2～5分間かけて
シベンゾリン <シベンゾリン> (沢井製薬)	50mg/錠 ¥21.8/錠			300mg分3【Max:450mg】
リスモダン <ジソピラミド> (ｻﾉﾌｨ)	50mg/C ¥32/C		期外収縮,発作性上室性頻脈,心房細動	300mg分3 <小児>5～15mg/kg/日分3～4
リスモダンＲ <ジソピラミド> (ｻﾉﾌｨ)	150mg/錠 ¥80.4/錠		頻脈性不整脈	300mg分2
リスモダンＰ <ジソピラミド> (ｻﾉﾌｨ)		50mg(5mL)/管 ¥407/管	期外収縮,発作性上室性頻拍,発作性心房細･粗動	50～100mg(1～2mg/kg) <小児>5～10mg/kg,5分以上で静注 0.4mg/kg/hr,点静
■Vaughan-William分類のＩｂ				
アスペノン <アプリンジン> (ﾊﾞｲｴﾙ)	10mg/C ¥49.5/C		頻脈性不整脈	40～(60)mg分2～3 <小児>0.5～1.5mg/kg/日,分2～3
		100mg(10mL)/管 ¥864/管		5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖等で10倍に希釈,1.5～2mg/kg(希釈液として1.5～2.0mL/Kg)/回,5～10mL/分の速度で静注 【Max:100mL(100mg)/回】
アレビアチン <フェニトイン> (大日本住友)		250mg(5mL)/管 ¥132/管	【適応外:頻脈性不整脈】	50～100mg～(1000)mg静注 <維持量>4mg/kg/日静注
キシロカイン <リドカイン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		100mg(5mL)/管 (静注用,2%) ¥92/管	期外収縮(心室性),発作性頻拍(心室性),急性心筋梗塞時･手術に伴う心室性不整脈の予防	50～100mg/回静注 1～2～(4)mg/min点静 <小児>1～2mg/kg静注 <維持>15～50μg/kg/min
メキシチール <メキシレチン> (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)	50mg/C ¥30.3/C		①頻脈性不整脈(心室性) ②糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛,しびれ感)の改善	①300～(450)mg分3 <小児>5～15mg/kg/日,分3 ②300mg分3
	100mg/C ¥50/C			
リドカイン静注用２％シリンジ <リドカイン> (ﾃﾙﾓ)		100mg(5mL)/筒 ¥164/管	期外収縮(心室性),発作性頻拍(心室性),急性心筋梗塞時･手術に伴う心室性不整脈の予防,期外収縮(上室性),発作性頻拍(上室性)	50～100mg/回静注(1～2mg/kg) 【Max:300mg/hr】

３．不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のＩｃ				
サンリズム ＜ピルジカイニド＞ （第一三共）	50mg/C ¥82.1/C		頻脈性不整脈	150mg分3 【Max:225mg/回】
タンボコール ＜フレカイニド＞ （ｴｰｻﾞｲ）	50mg/錠 ¥81.9/錠		①頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動,心室性) ②小児：頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動,発作性上室性,心室性)	①100～200mg分2 ②<6ヵ月以上>50～100mg/㎡分2～3, <6ヵ月未満>50mg/㎡分2～3 【Max:200mg/㎡/日】
■Vaughan-William分類のⅡ				
インデラル				【Ｂ-11参照】
■Vaughan-William分類のⅢ				
アミオダロン ＜アミオダロン＞ （ﾄｰﾌｴｲﾖｰ）	50mg/錠 ¥96.7/錠 100mg/錠 ¥172.3/錠		心室細動,心室性頻拍,心不全(低心機能)又は肥大型心筋症を伴う心房細動	<導入期>400mg分1～2 <維持期>200mg分1～2
アンカロン ＜アミオダロン＞ （ｻﾉﾌｨ）		150mg(3mL)/管 ¥3154/管	①心室細動,血行動態不安定な心室頻拍（生命に危険のある,難治性かつ緊急を要する場合） ②電気的除細動抵抗性の心室細動あるいは無脈性心室頻拍による心停止	【DI照会参照】
シンビット ＜ニフェカラント＞ （ﾎｽﾋﾟｰﾗ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ）		50mg/瓶 ¥5528/瓶	心室頻拍,心室細動	<単回静注法> 0.3mg/kg/回５分かけて <維持静注法> 心電図の連続監視下に0.4mg/kg/hrを等速度で
ベプリコール ＜ベプリジル＞ （第一三共）	50mg/錠 ¥73.9/錠		①他の抗不整脈薬が使用できないか又は無効の頻脈性不整脈（心室性）,狭心症 ②他の抗不整脈薬が使用できないか又は無効の持続性心房細動	①200mg分2 ②100mg分2から開始,【Max：200mg】

３．不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のⅣ				
ヘルベッサー ＜ジルチアゼム＞ （田辺三菱）		50mg/瓶 ¥1391/瓶	頻脈性不整脈(上室性)【Ｂ-12参照】	10mg/回,約3分間で静注
ワソラン ＜ベラパミル＞ （ｴｰｻﾞｲ）	40mg/錠 ¥7.1/錠		頻脈性不整脈(心房細動･粗動,発作性上室性頻拍)【Ｂ-14参照】,狭心症,心筋梗塞(急性期を除く),その他の虚血性心疾患 <小児>頻脈性不整脈(心房細動･粗動,発作性上室性頻拍)	120～240mg分3 <小児>3～6mg/kg/日,分3 【Max:240mg/日】
		5mg(2mL)/管 ¥277/管	頻脈性不整脈(発作性心房細動･粗動,発作性上室性頻拍) 【Ｂ-14参照】	5mg/回静注 <小児>0.1～0.2mg/kg/回静注 【Max:5mg/回】 【新生児は慎重投与】
■その他				
アデホスーＬ ＜アデノシン三リン酸＞ （興和創薬）		10mg(2mL)/管 ¥61/管	【適応外:上室性頻拍】	静注:1回5～40mg,1日1～2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40～80mg,1日1回 <小児>0.5mg/kg急速静注（増量可能）

4．冠血管拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■亜硝酸製剤				
一硝酸イソソルビド ＜硝酸イソソルビド（一硝酸塩）＞ （沢井製薬）	20mg/錠 ¥7.6/錠		狭心症	40mg分2【Max:80mg/日】
ニトプロ ＜ニトロプルシドＮａ＞ （丸石）		6mg(2mL)/管 【用時購入】 ¥742/管	①手術時の低血圧維持 ②手術時の異常高血圧の緊急処置	①0.5μg/kg/分で投与開始,通常2.5μg/kg/分以下で維持【Max:3μg/kg/分】 ②0.5μg/kg/分で投与開始,通常2.0μg/kg/分
ニトロペン ＜ニトログリセリン＞ （日本化薬）	0.3mg/錠(PTP包装) ¥14.3/錠		狭心症,心筋梗塞,心臓喘息ｱｶﾗｼﾞｱの一時的緩解	0.3～0.6mg/回
ニトロール ＜硝酸イソソルビド（二硝酸塩）＞ （ｴｰｻﾞｲ）		5mg(10mL)/管 ¥247/管	①急性心不全 ②不安定狭心症 ③冠動脈造影時の冠れん縮緩解	①1.5～8mg点静 ②2～5mg/hr点静 <小児>0.5～3～(6)μg/kg/min点静 ③5mgﾊﾞﾙｻﾙﾊﾞ洞内注入
フランドルテープＳ ＜硝酸イソソルビド（二硝酸塩）＞ （ﾄｰｱｴｲﾖｰ）		40mg/枚（10cm×10cm） ¥79.6/枚	狭心症,心筋梗塞,その他の虚血性心疾患	1枚/1～2日，胸部･上腹部又は背部に貼付
ミオコール ＜ニトログリセリン＞ （ﾄｰｱｴｲﾖｰ）		5mg(10mL)/管 ¥351/管	手術時の低血圧維持･異常高血圧の緊急処置,急性心不全,不安定狭心症	1～5μg/kg/min <小児>5μg/kg/min点静
ミオコールスプレー ＜ニトログリセリン＞ （ﾄｰｱｴｲﾖｰ）		7.2g/缶 ¥1865.5/本	狭心症発作の寛解	1噴霧/回
ミリステープ ＜ニトログリセリン＞ （日本化薬）		5mg/枚(4.05cm×4.5cm) ¥49.9/枚	狭心症,急性心不全	2枚分2
■その他				
アンギナール ＜ジピリダモール＞ （長生堂）	散(125mg/g) 【院外のみ】 ¥25.8/ｇ		狭心症,心筋梗塞,うっ血性心不全,その他の虚血性心疾患	75mg分3 <小児>5mg/kg/日,分3
シグマート ＜ニコランジル＞ （中外）		48mg/瓶 ¥4438/瓶	①不安定狭心症 ②急性心不全(慢性心不全の急性増悪期を含む)	①2～6mg/hr ②0.2mg/kgを5分程かけて静注し、引き続き0.05～0.2mg/kg/hr
ニコランジル ＜ニコランジル＞ （日医工）	5mg/錠 ¥5.8/錠		狭心症	15mg分3

5．利尿薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■チアジド系				
フルイトラン <トリクロルメチアジド> (ｼｵﾉｷﾞ)	2mg/錠 ¥9.6/錠		高血圧症(本態性,腎性等),悪性高血圧,心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,月経前緊張症	2～8mg分1～2
■ループ利尿薬				
ダイアート <アゾセミド> (三和化学)	60mg/錠 ¥34.5/錠		うっ血性心不全 腎性浮腫,肝性浮腫	60mg分1
ラシックス <フロセミド> (日医工)	細粒(40mg/g) ¥16.1/g		高血圧症(本態性,腎性等),悪性高血圧,心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,月経前緊張症,末梢血管障害による浮腫,尿路結石排出促進	40～80mg分1 <小児>1～4mg/kg/日分1～4
	20mg/錠 ¥9.6/錠			
	40mg/錠 ¥14.7/錠			40～80mg分1 <小児>1～4mg/kg/日,分1～4
		20mg(2mL)/管 ¥61/管	高血圧症(本態性,腎性等),悪性高血圧,心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,脳浮腫,尿路結石排出促進	20mg/回静注,筋注
ルプラック <トラセミド> (大正富山)	4mg/錠 ¥28.7/錠		心性浮腫,腎性浮腫,肝性浮腫	4～8mg/日
■抗アルドステロン薬				
アルダクトンA <スピロノラクトン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	細粒(100mg/g) ¥92.2/g		高血圧症(本態性,腎性等) 心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,特発性浮腫,悪性腫瘍に伴う浮腫及び腹水,栄養失調性浮腫 原発性ｱﾙﾄﾞｽﾃﾛﾝ症の診断及び症状の改善	50～100mg <小児>2～4mg/kg/日,分2～3
	25mg/錠 ¥21.8/錠			
ソルダクトン <カンレノ酸カリウム> (ﾌｧｲｻﾞｰ)		100mg/管 ¥468/管	原発性ｱﾙﾄﾞｽﾃﾛﾝ症,うっ血性心不全,肝性浮腫,開心術及び開腹術時における水分･電解質代謝異常	100～200mg/回,1～2回/日ゆっくり静注 【Max:600mg】
■炭酸脱水素酵素阻害薬				
ダイアモックス <アセタゾラミド> (三和化学)	250mg/錠 ¥27.1/錠		①緑内障 ②てんかん,ﾒﾆｴﾙ病･ﾒﾆｴﾙ症候群 ③肺気腫における呼吸性ｱｼﾄﾞｰｼｽの改善	①250～1000mg ②250～750mg <小児>5mg/kg/日,分1 ③250～500mg
		500mg/瓶 ¥651/瓶		

５．利尿薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非チアジド系				
ナトリックス ＜インダパミド＞ （大日本住友）	1mg/錠 ¥12/錠		本態性高血圧症	2mg分1　朝食後
■V2-受容体拮抗剤				
サムスカ ＜トルバプタン＞ （大塚製薬）	7.5mg/錠 ¥1707.7/錠		①ﾙｰﾌﾟ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②ﾙｰﾌﾟ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留 ③腎容積が既に増大しており,かつ,腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②1日1回7.5mg ③60mg分2(朝45mg,夕15mg)で開始し,1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】
	15mg/錠 ¥2597.9/錠		①ﾙｰﾌﾟ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②腎容積が既に増大しており,かつ,腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②60mg分2(朝45mg,夕15mg)で開始し,1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】

６．β遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非選択性 ◆Prichard分類の１類２群　［ＩＳＡ（－），ＭＳＡ（＋）］				
インデラル ＜プロプラノロール＞ （ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ）	10mg/錠 ¥15/錠		①本態性高血圧症（軽症～中等症） ②狭心症,褐色細胞種手術時 ③期外収縮(上室性,心室性),発作性頻拍の予防,頻拍性心房細動,洞性頻脈,新鮮心房細動,発作性心房細動の予防 ④片頭痛発作の発症抑制 ⑤右心室流出路狭窄による低酸素発作の発症抑制	①30～60mg分3　【Max:120mg】 ②30～90mg分3 ③30～90mg分3 <小児>低容量より開始し 0.5～2mg/kg,分3～4 【Max:4mg/kg/日,90mg/日】 ④20～30mg分2～3　【Max:60mg】 ⑤0.5～2mg/kg/日,分3～4【Max:4mg/kg/日】
		2mg(2mL)/管 ¥95/管	①狭心症,期外収縮,発作性頻拍,頻拍性心房細動,新鮮心房細動,褐色細胞種手術時 ②麻酔に伴う不整脈,洞性頻拍	①2～10mg静注 <小児>0.01～0.1mg/kg,10分以上で静注 ②1～5mg静注
■非選択性 ◆Prichard分類の１類３群　［ＩＳＡ（＋），ＭＳＡ（－）］				
小児用ミケラン ＜カルテオロール＞ （大塚）	細粒(2mg/g) ¥15.4/ｇ		ﾌｧﾛｰに伴うﾁｱﾉｰｾﾞ発作	0.1～0.3mg/kg/日,分2

６．β遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■β1選択性 ◆Prichard分類の２類４群　［ＩＳＡ（－），ＭＳＡ（－）］				
オノアクト <ランジオロール> （小野薬品）		50mg/瓶 ¥6633/瓶	①手術時の心房細動，心房粗動,洞性頻脈の頻脈性不整脈に対する緊急処置 ②手術後の循環動態監視下における心房細動，心房粗動,洞性頻脈の頻脈性不整脈に対する緊急処置 ③心機能低下例における心房細動,心房粗動の頻脈性不整脈	①1分間0.125mg/kg/min静脈内持続後,0.04mg/kg/min静脈内持続 ②1分間0.06mg/kg/min静脈内持続後,0.02mg/kg/min静脈内持続投与開始.5～10分を目安に目標とする徐拍作用が得られない場合は,1分間0.125mg/kg/minの速度で静脈内持続投与した後,0.04mg/kg/minの速度で静脈内持続投与する ③1μg/kg/minの速度で静脈内持続投与開始後,1～10μg/kg/minの速度で適宜調節する.
コアベータ <ランジオロール> （小野薬品）		12.5mg/瓶 ¥2709/瓶	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善	0.125mg/kg/回,1分間で静注
テノーミン <アテノロール> （ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ）	25mg/錠 ¥54.8/錠		本態性高血圧症, 狭心症, 頻脈性不整脈	50～100mg分1
	50mg/錠 ¥92.5/錠			
ビソノテープ <ビソプロロール> （ﾄｰｱｴｲﾖｰ）		4mg/枚 ¥91.9/枚	本態性高血圧症	8mg/日，胸部･上腹部又は背部に貼付【Max:8mg/日】
メインテート <ビソプロロール> （田辺三菱）	2.5mg/錠 ¥67.1/錠		①本態性高血圧症,狭心症,心室性期外収縮 ②虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく慢性心不全【ACE阻害薬又はARB,利尿薬,ｼﾞｷﾞﾀﾘｽ製剤等の基礎治療を受けている患者】 ③頻脈性心房細動	①5mg分1 ②0.625mg分1開始,以後漸増,維持量1.25～5mg分1【Max:5mg/日】 ③2.5mg分1開始,効果不十分な場合5mg分1へ増量【Max:5mg/日】
	0.625mg/錠 ¥22.1/錠		虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく慢性心不全【ACE阻害薬又はARB,利尿薬,ｼﾞｷﾞﾀﾘｽ製剤等の基礎治療を受けている患者】	0.625mg分1開始,以後漸増,維持量1.25～5mg分1【Max:5mg/日】
ロプレソール <メトプロロール> （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	20mg/錠 ¥15/錠		①本態性高血圧症 ②狭心症,頻脈性不整脈	①60～240mg分3 ②60～120mg分2～3

６．β遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■α，β-遮断薬 ◆Prichard分類の３類２群　［ＩＳＡ（－），ＭＳＡ（＋）］				
アーチスト ＜カルベジロール＞ （第一三共）	2.5mg/錠 ¥28.6/錠		慢性心不全(虚血性心疾患,拡張型心筋症) 【ACE阻害薬,利尿薬,ｼﾞｷﾞﾀﾘｽ製剤等の基礎治療を受けている患者】	2.5mg分2開始,以後漸増,維持量5～20mg分2
	10mg/錠 ¥62.4/錠		①本態性高血圧症,腎実質性高血圧症 ②狭心症 ③慢性心不全(虚血性心疾患,拡張型心筋症) 【ACE阻害薬,利尿薬,ｼﾞｷﾞﾀﾘｽ製剤等の基礎治療を受けている患者】	①10～20mg分1 ②20mg分1 ③2.5mg分2開始,以後漸増,維持量5～20mg分2

７．Ｃａ拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ジヒドロピリジン誘導体				
アゼルニジピン ＜アゼルニジピン＞ （東和薬品）	8mg/錠 ¥16.7/錠		高血圧症	8～16mg分1【Max:16mg/日】
アムロジピンＯＤ ＜アムロジピン＞ （東和薬品）	2.5mg/錠 ¥17.4/錠		①高血圧症 ②狭心症	①1日1回2.5～5mg【Max:10mg/日】 ＜小児:6歳以上＞1日1回2.5mg【Max:5mg/日】 ②5mg分1
	5mg/錠 ¥32.2/錠			
シルニジピン ＜シルニジピン＞ （沢井製薬）	10mg/錠 ¥37.7/錠		高血圧症	5～10mg分1【Max:20mg】
セパミットＲ ＜ニフェジピン＞ （MSD）	細粒(10mg/0.5g/包) ¥18.75/包		①本態性高血圧症 ②狭心症	①20～40mg分2 ②40mg分2
ニフェジピンＣＲ ＜ニフェジピン＞ （東和薬品）	20mg/錠 ¥17.1/錠		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症,腎血管性高血圧症 ③狭心症,異型狭心症	①20～40mg分1【Max:40mg/回,80mg/日】 ②20～40mg分1 ③40mg分1【Max:60mg】
ベニジピン ＜ベニジピン＞ （沢井製薬）	4mg/錠 ¥22.8/錠		①高血圧症,腎実質性高血圧症 ②狭心症	①2～4mg分1【Max:8mg】 ②8mg分2,朝･夕食後
ペルジピン ＜ニカルジピン＞ （ｱｽﾃﾗｽ）		10mg(10mL)/管 ¥693/管	①手術時異常高血圧 ②高血圧性緊急症 ③急性心不全	①2～10μg/kg/minで開始以後血圧をﾓﾆﾀｰして投与量を調節 ②0.5～6μg/kg/min ③0.5～2μg/kg/min

７．Ｃａ拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■心抑制型				
ジルチアゼム ＜ジルチアゼム＞ (沢井製薬)	30mg/錠 ¥5.6/錠		①本態性高血圧症 ②狭心症,異型狭心症	①90～180mg分3 ②90mg分3【Max:180mg】 <小児>1.5mg/kg/日,分3
ジルチアゼムＲ ＜ジルチアゼム＞ (沢井製薬)	100mg/C ¥15.1/C			①100～200mg分1 ②100mg分1【Max:200mg】
ヘルベッサー ＜ジルチアゼム＞ (田辺三菱)		50mg/瓶 ¥1391/瓶	①頻脈性不整脈(上室性) ②手術時の異常高血圧 ③高血圧性緊急症 ④不安定狭心症	①10mg/回,約3分間でiv ②10mg/回,約1分間でiv,5～15μg/kg/min,点静 ③5～15μg/kg/min,点静 ④1～(5)μg/kg/min,点静
ワソラン ＜ベラパミル＞ (ｴｰｻﾞｲ)	40mg/錠 ¥7.1/錠		頻脈性不整脈(心房細動･粗動,発作性上室性頻拍)【B-14参照】,狭心症,心筋梗塞(急性期を除く),その他の虚血性心疾患 <小児>頻脈性不整脈(心房細動･粗動,発作性上室性頻拍)	120～240mg分3 <小児>3～6mg/kg/日,分3 【Max:240mg/日】
		5mg(2mL)/管 ¥277/管	頻脈性不整脈(発作性心房細動･粗動,発作性上室性頻拍)【B-5参照】	5mg/回静注 <小児>0.1～0.2mg/kg/回静注 【Max:5mg/回】 【新生児は慎重投与】

８．ＡＣＥ阻害薬・ｱﾝｼﾞｵﾃﾝｼﾝⅡ受容体拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ＡＣＥ阻害薬				
エナラプリル ＜エナラプリル＞ （ファイザー）	2.5mg/錠 ¥14.4/錠		①高血圧症 ②慢性心不全	①1日1回2.5～10mg 〈小児:生後1ヵ月以上〉 0.08mg/kg/日,1日1回 【Max:10mg/日】 ②1日1回2.5～10mg
	5mg/錠 ¥12.2/錠			
タナトリル ＜イミダプリル＞ （田辺三菱）	5mg/錠 ¥59.9/錠		①高血圧症,腎実質性高血圧症 ②1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症	①2.5～10mg分1 〈小児〉0.1mg/kg/日,分1 ②5mg分1
■アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬				
アジルバ ＜アジルサルタン＞ （武田）	20mg/錠 【院外のみ】 ¥140.6/錠		高血圧症	20mg分1【Max:40mg】
	40mg/錠 【院外のみ】 ¥211.3/錠			
オルメテック ＜オルメサルタン＞ （第一三共）	20mg/錠 ¥123.3/錠			5～20mg分1【Max:40mg】
バルサルタンＯＤ ＜バルサルタン＞ （東和薬品）	40mg/錠 ¥29.3/錠			40～80mg分1【Max:160mg】 〈小児:6歳以上〉 35kg以上：1日1回40mg 35kg未満：1日1回20mg 【Max:40mg/日】
ブロプレス ＜カンデサルタン＞ （武田）	4mg/錠 ¥69.8/錠		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症 ③慢性心不全（ACE阻害薬投与が適切でない場合）	①4～8mg分1【Max:12mg】 ②2mg分1【Max:8mg】 ③4mg分1【Max:8mg】
ミカルディス ＜テルミサルタン＞ （ｱｽﾃﾗｽ）	20mg/錠 ¥66.2/錠		高血圧症	20～40mg分1【Max:80mg】
ロサルタンＫ ＜ロサルタンカリウム＞ （ファイザー）	50mg/錠 ¥73/錠		①高血圧症 ②高血圧及び蛋白尿を伴う2型糖尿病における糖尿病性腎症	①25～50mg分1【Max:100mg】 ②(25～)50mg分1【Max:100mg】

８．ＡＣＥ阻害薬・ｱﾝｼﾞｵﾃﾝｼﾝⅡ受容体拮抗薬

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■持続性ＡＲＢ・利尿剤合剤				
コディオＥＸ ＜バルサルタン，ヒドロクロロチアジド＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	80mg/12.5mg/錠 ¥116.1/錠		高血圧症	1錠分1
プレミネントＬＤ ＜ロサルタン，ヒドロクロロチアジド＞ （MSD）	50mg/12.5mg/錠 ¥139.7/錠			
ミコンビＡＰ ＜テルミサルタン，ヒドロクロロチアジド＞ （ｱｽﾃﾗｽ）	40mg/12.5mg/錠 ¥132.2/錠			
■ＡＲＢ･Ｃａ拮抗剤合剤				
アイミクスＨＤ ＜イルベサルタン，アムロジピン＞ （大日本住友）	100mg,10mg/錠【院外のみ】 ¥164/錠		高血圧症	1錠分1
エックスフォージ ＜バルサルタン，アムロジピン＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	80mg,5mg/錠【院外のみ】 ¥114.6/錠			
ミカムロＡＰ ＜テルミサルタン，アムロジピン＞ （ｱｽﾃﾗｽ）	40mg,5mg/錠【院外のみ】 ¥127.3/錠			
レザルタスＨＤ ＜オルメサルタン，アゼルニジピン＞ （第一三共）	20mg,16mg/錠 ¥150.7/錠			1錠分1朝食後

９．その他の血圧降下剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヒドララジン類				
アプレゾリン ＜ヒドララジン＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	10mg/錠 ¥9.2/錠		本態性高血圧症,妊娠中毒症による高血圧	30～40～(200)mg分3～4 <小児>0.75～4mg/kg/日,分3～4
■α1遮断薬				
エブランチル ＜ウラピジル＞ (科研)	15mg/C ¥18.2/C		本態性高血圧症,腎性高血圧症,褐色細胞腫による高血圧症	30～(120mg)mg分2
カルデナリンＯＤ ＜ドキサゾシン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	2mg/錠 ¥56.6/錠		高血圧症,褐色細胞種による高血圧症	0.5mg分1から開始し漸増,維持量1～4mg分1 【Max:8mg(褐色細胞種は16mg)】
■α2刺激薬				
アルドメット ＜メチルドパ＞ (ｻﾞｲﾀﾞｽﾌｧｰﾏ)	250mg/錠 ¥9.6/錠		高血圧症	250～750mg～(2000mg)分1～3
■選択的抗アルドステロン薬				
セララ ＜エプレレノン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/錠 ¥47.7/錠		高血圧症	50mg分1【Max:100mg】

１０．高脂血症用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ＨＭＧ-ＣｏＡ還元酵素阻害薬				
アトルバスタチンＯＤ ＜アトルバスタチン＞ （東和薬品）	5mg/錠 【院外のみ】 ¥31.6/錠		①高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症 ②家族性高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症	①10mg分1【Max:20mg】 ②10mg分1【Max:40mg】
	10mg/錠 ¥60.9/錠			
クレストール ＜ロスバスタチン＞ （ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ）	2.5mg/錠 ¥68.1/錠		高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症 家族性高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症	2.5～5mg分1から開始,開始4週以降10mgまで増量可 【Max:20mg】
	5mg/錠 ¥131.5/錠			
プラバスタチンＮａ ＜プラバスタチン＞ （東和薬品）	10mg/錠 ¥49.7/錠		高脂血症,家族性高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症	10mg分1～2【Max:20mg】
ローコール ＜フルバスタチン＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	30mg/錠 ¥99.1/錠		高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症 家族性高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症	20～30mg分1夕食後【Max:60mg】
■クロフィブラート類				
ベザトールＳＲ ＜ベザフィブラート＞ （ｷｯｾｲ）	200mg/錠 ¥36.9/錠		高脂血症	400mg分2
■イオン交換樹脂				
コレバインミニ８３％ ＜コレスチミド＞ （田辺三菱）	1.81g/包 ¥113.125/包		高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症, 家族性高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症	2包分2朝･夕食前【Max:4g】
■ニコチン酸類				
ユベラＮ ＜ニコチン酸トコフェロール＞ （ｴｰｻﾞｲ）	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状, 高脂血症, 閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300～600mg分3
■小腸コレステロールトランスポーター阻害剤				
ゼチーア ＜エゼチミブ＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）	10mg/錠 ¥199.9/錠		高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症 家族性高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症 ﾎﾓ接合体性ｼﾄｽﾃﾛｰﾙ血症	10mg分1食後
■その他				
イコサペント酸エチル粒状カプセル ＜イコサペント酸エチル＞ （沢井製薬）	900mg/包 ¥48.4/包		①閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍,疼痛及び冷感の改善 ②高脂血症	①1回600mg1日3回 ②1回900mg1日2回または 1回600mg1日3回 【Max:1回900mg1日3回】

１１．末梢血管拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロスタグランジン類				
パルクス ＜アルプロスタジル＞ （大正富山）		5μg(1mL)/管 ¥2988/管	①慢性動脈閉塞症,進行性全身性硬化症・全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ・糖尿病における皮膚潰瘍，振動病 ②動脈管の開存 ③経上腸間膜動脈性門脈造影	①1～2mL分1静注,点静 ②5ng/kg/min持続静注 ③1回1mL
		10μg(2mL)/管 ¥4877/管		
プロスタンディン ＜アルプロスタジル＞ （小野薬品）		20μg/瓶 ¥1846/瓶	①<動注>慢性動脈閉塞症 ②<静注>振動病	①10～15μg持続静注 (0.1～0.15ng/kg/min) ②40～60μg静注 (5～10ng/kg/min)
		500μg/瓶 ¥20527/瓶	手術時の低血圧維持 手術時の異常高血圧の救急処置	5～10μg/kg/min点静 (0.1～0.2μg/kg/min)
ベラサスＬＡ ＜ベラプロスト＞ （科研）	60μg/錠 【院外のみ】 ¥242.6/錠		肺動脈性肺高血圧症	120μg分2から開始し,漸次増量 【Max:360μg/日】
ベラプロストＮａ ＜ベラプロスト＞ （東和薬品）	20μg/錠 ¥24.4/錠		①慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍,疼痛及び冷感の改善 ②原発性肺高血圧症	①120μg分3 ②60～180μg分3～4
■ニコチン酸類				
ユベラＮ ＜ニコチン酸トコフェロール＞ （ｴｰｻﾞｲ）	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状, 高脂血症, 閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300～600mg分3

１２．肺血管拡張剤

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロスタグランジン類				
エポプロステノール ＜エポプロステノールナトリウム＞ （ｱｸﾃﾘｵﾝ）		0.5mg（溶解液なし）/瓶 ¥8374/瓶	肺動脈性肺高血圧症	＜精密持続点滴装置（ｼﾘﾝｼﾞﾎﾟﾝﾌﾟ又は輸液ﾎﾟﾝﾌﾟ）により持続静注＞ 2ng/kg/分より開始 15分以上の間隔をおいて1～2ng/kg/分ずつ増減 10ng/kg/分までの範囲で最適投与速度を決定
		1.5mg（溶解液なし）/瓶 ¥16108/瓶		
エポプロステノール専用溶解液 ＜生理食塩液＞ （ｱｸﾃﾘｵﾝ）		50ml/瓶　専用溶解液 ¥110/瓶	エポプロステノール静注用の溶解	
■ホスホジエステラーゼ5阻害剤				
レバチオ ＜シルデナフィル＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）	20mg/錠 ¥1213.5/錠		肺動脈性肺高血圧症	60mg分3

１３．その他の循環器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■循環系ホルモン				
カルナクリン <カリジノゲナーゼ> (三和化学)	50単位/錠 ¥22.3/錠		高血圧症･メニエール症候群･閉塞性血栓血管炎(ビュルガー病)における末梢循環障害の改善 更年期障害･網脈絡膜の循環障害の改善	75～150単位分3
■血栓溶解剤				
ウロナーゼ <ウロキナーゼ> (持田)		6万単位/瓶 ¥3090/瓶	①脳血栓症 ②末梢動･静脈閉塞症	①6万単位/日,静注7日間 ②6～24万単位/日,静注,7日間
		12万単位/瓶 ¥6437/瓶	急性心筋梗塞	48～96万単位,冠動脈内注入
クリアクター <モンテプラーゼ> (ｴｰｻﾞｲ)		40万単位/瓶 ¥48468/瓶	①急性心筋梗塞 ②不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症	①27500単位/kg静注 ②13750～27500単位/kg静注 【Max:27500単位/kg】
■動脈開存症治療剤				
インダシン <インドメタシン> (ﾉｰﾍﾞﾙﾌｧｰﾏ)		1mg/瓶 ¥7002/瓶	未熟児の動脈開存症	下記の用量(mg/kg)を12～24hr間隔で,3回静脈内投与 生後48hr未満:1回目0.2,2･3回目0.1 生後2～7日未満:0.2 生後7日以上:1回目0.2,2･3回目0.25
■高カリウム血症用薬				
カリメート <ポリスチレンスルホン酸カルシウム> (興和創薬)	末(5g/包) ¥81/包		高ｶﾘｳﾑ血症	<経口>15～30g,分2～3 <注腸>30g/回
	経口液20%(25g/包) ¥93.8/包		急性および慢性腎不全に伴う高ｶﾘｳﾑ血症	75～150g(3～6包),分2～3
ケイキサレート <ポリスチレンスルホン酸ナトリウム> (鳥居)	末(5g/包) ¥102.5/包		高ｶﾘｳﾑ血症	<経口>30g,分2～3 <注腸>30g/回
	DS76%(3.27g/包) ¥57.879/包		急性および慢性腎不全に伴う高ｶﾘｳﾑ血症	39.24g(12包),分2～3
■その他				
オビソート <アセチルコリン> (第一三共)		100mg/管(溶解液2mL付) ¥364/管	【適応外：冠動脈攣縮の誘発】 【D-13参照】	【DI照会参照】

１３．その他の循環器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■高リン血症治療剤				
カルタン ＜沈降炭酸カルシウム＞ （ﾏｲﾗﾝ）	500mg/錠 ¥6.3/錠		保存期及び透析中の慢性腎不全患者における高ﾘﾝ血症の改善	3g分3,食直後
キックリン ＜ビキサロマー＞ （ｱｽﾃﾗｽ）	250mg/C ¥30.5/C		透析中の慢性腎不全患者における高ﾘﾝ血症の改善	1500mg分3,食直前 【Max:7500mg】
ホスレノール ＜ランタン＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）	250mg/包 ¥199.6/包		慢性腎臓病患者における高リン血症の改善	750mg分3,食直後 【Max:2250mg】

不整脈用薬

Ｖａｕｇｈａｎ－Ｗｉｌｌｉａｍｓの分類

クラス			作用機序	医薬品名（一般名）
Ⅰ	Ｎａチャネル抑制	Ｉａ	ＡＰＤ延長	アミサリン（ﾌﾟﾛｶｲﾝｱﾐﾄﾞ） シベノール（ｼﾍﾞﾝｿﾞﾘﾝ） リスモダン（ｼﾞｿﾋﾟﾗﾐﾄﾞ）
		Ｉｂ	ＡＰＤ短縮	アスペノン（ｱﾌﾟﾘﾝｼﾞﾝ） アレビアチン（ﾌｪﾆﾄｲﾝ） キシロカイン（ﾘﾄﾞｶｲﾝ） リドカイン（ﾘﾄﾞｶｲﾝ） メキシチール（ﾒｷｼﾚﾁﾝ）
		Ｉｃ	ＡＰＤ不変	サンリズム（ﾋﾟﾙｼﾞｶｲﾆﾄﾞ） タンボコール（ﾌﾚｶｲﾆﾄﾞ）
Ⅱ		交感神経受容体遮断		インデラル（ﾌﾟﾛﾌﾟﾗﾉﾛｰﾙ） その他のβ遮断薬（Ｂ-11参照）
Ⅲ		ＡＰＤ延長		アンカロン（ｱﾐｵﾀﾞﾛﾝ） シンビット（ﾆﾌｪｶﾗﾝﾄ）
Ⅳ		Ｃａチャンネル抑制		ワソラン（ﾍﾞﾗﾊﾟﾐﾙ） ベプリコール（ﾍﾞﾌﾟﾘｼﾞﾙ） ヘルベッサー（ｼﾞﾙﾁｱｾﾞﾑ）
その他				アデホスーＬ（ｱﾃﾞﾉｼﾝ3ﾘﾝ酸）

ＡＰＤ：活動電位持続時間

β遮断薬

Ｐｒｉｃｈａｒｄ分類

分類		ＩＳＡ	ＭＳＡ	医薬品名（一般名）
類	群			
１類（非選択性）	１群	＋	＋	
	２群	－	＋	**インデラル**（ﾌﾟﾛﾌﾟﾗﾉﾛｰﾙ）
	３群	＋	－	**ミケラン**（ｶﾙﾃｵﾛｰﾙ）
	４群	－	－	
２類（β１選択性）	１群	＋	＋	
	２群	－	＋	
	３群	＋	－	
	４群	－	－	**テノーミン**（ｱﾃﾉﾛｰﾙ） **メインテート**（ﾋﾞｿﾌﾟﾛﾛｰﾙ） **ビソノテープ**（ﾋﾞｿﾌﾟﾛﾛｰﾙ） **ロプレソール**（ﾒﾄﾌﾟﾛﾛｰﾙ） **オノアクト**（ﾗﾝｼﾞｵﾛｰﾙ）
３類（α遮断）	２群	－	＋	**アーチスト**（ｶﾙﾍﾞｼﾞﾛｰﾙ）
	４群	－	－	

ＩＳＡ（intrinsic sympathetic activity）：内因性交感神経刺激作用
ＭＳＡ（membrane stabilizing activity）：膜安定化作用

1．呼吸促進剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
塩酸ナロキソン ＜ナロキソン＞ (ｱﾙﾌﾚｯｻ･ﾌｧｰﾏ)		0.2mg(1mL)/管 ¥952/管	麻薬による呼吸抑制・覚醒遅延の改善	0.2mg/回, 効果不十分な場合2～3分間隔で1～2回静注 <小児>0.01mg/kg
ドプラム ＜ドキサプラム＞ (ｷｯｾｲ)		400mg(20mL)/瓶 ¥2080/瓶	①麻酔時における呼吸抑制ならびに覚醒遅延 ②中枢神経系抑制剤による中毒時における呼吸抑制ならびに覚醒遅延 ③遷延性無呼吸の鑑別診断 ④急性ﾊｲﾊﾟｰｶﾌﾟﾆｱを伴う慢性肺疾患 ⑤早産･低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)(ただしｷｻﾝﾁﾝ製剤による治療で十分な効果が得られない場合に限る)	①0.5～1.0mg/kg,静注,必要に応じ5分間隔で投与【Max:2.0mg/kg】 　または5mg/minで点静【Max:5.0mg/kg】 ②0.5～2.0mg/kg,静注,維持量として5～10分間隔で投与,ついで1～2時間間隔で投与を繰り返す 　または1.0～3.0mg/kg/hrで点静 ③1.0～2.0mg/kg,静注 ④1.0～2.0mg/kg/hr,点静 【Max:2400mg】 ⑤初回投与:1.5mg/kg,1時間で点静 　維持投与:0.2mg/kg/hr,点静 【Max:0.4mg/kg/hr】
フルマゼニル ＜フルマゼニル＞ (ﾏｲﾗﾝ)		0.2mg(2mL)/管 ¥820/管	ﾍﾞﾝｿﾞｼﾞｱｾﾞﾋﾟﾝ系薬剤による鎮静の解除・呼吸抑制の改善	初回0.2mg静注, 4分以内に覚醒状態が得られない場合0.1mgずつ追加 【Max:1mg,ICU領域は2mg】

■その他

エラスポール ＜シベレスタットナトリウム＞ (小野薬品)		100mg/瓶 ¥5590/瓶	全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の改善	1日量(4.8mg/kg) 24時間持続静注 <14日以内>

２．鎮咳去痰剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■中枢性麻薬性鎮咳薬				
濃厚ブロチンコデイン ＜コデイン配合剤＞ (第一三共)	液(10mg/mL) ¥4.1/mL		急性･慢性気管支炎,感冒,上気道炎,肺結核に伴う咳嗽･喀痰喀出困難	4.5～6mL分3
リン酸コデイン ＜コデイン＞ (武田)	散(10mg/g) ¥8.4/ｇ		各種呼吸器疾患における鎮咳, 疼痛時における鎮痛, 激しい下痢症状の改善	60mg分3 〈小児〉1(～4)mg/kg/日
■中枢性非麻薬性鎮咳薬				
アストミン ＜ジメモルファン＞ (ｱｽﾃﾗｽ)	10mg/錠 ¥5.6/錠		急性･慢性気管支炎,上気道炎,肺炎,肺結核,珪肺･珪肺結核,肺癌に伴う鎮咳	30～60mg分3 〈小児〉(8～14歳):30mg分3
アスベリン ＜チペピジン＞ (田辺三菱)	散(100mg/g) ¥10.8/ｇ		急性･慢性気管支炎,感冒,上気道炎(咽喉頭炎,鼻ｶﾀﾙ),肺炎,肺結核,気管支拡張症に伴う咳嗽･喀痰喀出困難	60～120mg分3 〈小児〉1歳未満:5～20mg, 1歳～2歳:10～25mg,分3
	ＳＹ(5mg/mL) ¥1.91/mL			
メジコン ＜デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物＞ (塩野義製薬)	15mg/錠 ¥5.60/錠		①感冒,急性気管支炎,慢性気管支炎,気管支拡張症,肺炎,肺結核,上気道炎に伴う咳嗽 ②気管支造影術及び気管支鏡検査時の咳嗽	1回15～30mg,1日1～4回

２．鎮咳去痰剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■去痰剤				
アンブロキソール ＜アンブロキソール＞ （東和薬品）	15mg/錠 ¥5.6/錠		急性･慢性気管支炎,気管支喘息,気管支拡張症,肺結核,塵肺症,手術後の喀痰喀出困難,慢性副鼻腔炎の排膿	45mg分3
カルボシステイン ＜カルボシステイン＞ （東和薬品）	500mg/錠 ¥8.5/錠		上気道炎(咽頭炎,喉頭炎),急性･慢性気管支炎,気管支喘息,気管支拡張症,肺結核の去痰,慢性副鼻腔炎の排膿	1500mg分3 〈小児〉30mg/kg/日,分3
カルボシステイン ＜カルボシステイン＞ （テバ）	ＤＳ(500mg/1g) ¥12.5/ｇ		〈成人〉上気道炎(咽頭炎,喉頭炎),急性･慢性気管支炎,気管支喘息,気管支拡張症,肺結核の去痰,慢性副鼻腔炎の排膿 〈小児〉上気道炎(咽頭炎,喉頭炎),急性･慢性気管支炎,気管支喘息,気管支拡張症,肺結核の去痰,慢性副鼻腔炎の排膿,滲出性中耳炎の排液	
ビソルボン ＜ブロムヘキシン＞ (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)		4mg(2mL)/管 ¥57/管	肺結核,手術後,塵肺症における経口投与困難な場合の去痰,気管支造影後の造影剤の排泄促進	4～16mg分1～2筋注,静注
ムコサール ＜アンブロキソール＞ (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)	ＤＳ(15mg/g) ¥42.7/ｇ		急性気管支炎,気管支喘息の去痰	〈幼･小児〉0.9mg/kg,分3

３．気管支拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■β2刺激剤　◆第３世代				
ツロブテロールテープ「HMT」<ツロブテロール>（久光製薬）	0.5mg/枚 ¥28/枚		気管支喘息,急性気管支炎,慢性気管支炎,肺気腫	2mg/日 0.5～3才未満0.5mg 3～9才未満1mg 9才以上2mg
	1mg/枚 ¥39.20/枚			
	2mg/枚 ¥51.20/枚			
ホクナリン<ツロブテロール>（ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ）	ＤＳ(1mg/g) ¥31.7/枚		気管支喘息,肺気腫,急性･慢性気管支炎,喘息性気管支炎,けい肺症,塵肺症	0.04mg/kg分2
メプチンミニ<プロカテロール>（大塚）	25μg/錠 ¥18/錠		気管支喘息,急性･慢性気管支炎,喘息様気管支炎,肺気腫	50～100μg/回,1～2回
■キサンチン系				
アプニション<アミノフィリン>（ｴｰｻﾞｲ）		15mg(3mL)/管 ¥146/管	早産・低出生体重児における原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）	初回0.8～1.2mg/kg 維持量0.4～1.2mL/kg/日分2～3回. 静脈内注射
テオフィリン<テオフィリン>（沢井製薬）	ＤＳ(200mg/g)【小児のみ】 ¥58.3/ｇ		気管支喘息,喘息性(様)気管支炎	<小児>8～16mg/kg分2
テオフィリン徐放錠<テオフィリン>（沢井製薬）	100mg/錠 ¥5.6/錠		気管支喘息,喘息性(様)気管支炎,慢性気管支炎,肺気腫	400～800mg分2 <小児>200～400mg分2
	200mg/錠 ¥5.8/錠			400～800mg分2
ネオフィリン<アミノフィリン>（ｴｰｻﾞｲ）	原末 ¥12.5/g		気管支喘息,喘息性(様)気管支炎,閉塞性肺疾患【循環器官用薬Ｂ-1参照】	300～400mg分3～4, <小児>3～5mg/kg/回,3～4回/日
	散(10mg/g)【院内製剤】			
		250mg(10mL)/管 ¥92/管		0.7～1mg/kg/hr点静
ユニフィルＬＡ<テオフィリン>（大塚）	200mg/錠 ¥21.9/錠		気管支喘息,慢性気管支炎,肺気腫	400mg分1
レスピア<カフェインクエン酸塩>（ﾉｰﾍﾞﾙﾌｧｰﾏ）		60mg(3mL)/瓶 ¥810/瓶	早産・低出生体重児における原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）	初回投与:20mg/kg,30分かけて静注 維持投与(初回投与から24時間後以降):5mg/kg,1日1回,10分かけて静注または経口投与 【Max:10mg/kg】

３．気管支拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■α，β刺激剤				
エフェドリン ＜エフェドリン＞ （日医工）		40mg(1mL)/管 ¥92/管	急性･慢性気管支炎,感冒,気管支喘息,上気道炎(咽喉頭炎,喘息性気管支炎,肺結核,鼻ｶﾀﾙ)に伴う鎮咳	25～40mg/回皮下
■抗アレルギー剤				
【Ｆ参照】				
■ロイコトリエン拮抗薬				
キプレス ＜モンテルカストナトリウム＞ （杏林）	10mg/錠 ¥222/錠		①気管支喘息 ②ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	①10mg分１就寝前 ②5～10mg分１就寝前
	細粒(4mg/0.5g/包) 【院外のみ】 ¥212.2/包		気管支喘息(1歳以上6歳未満)	4mg分1就寝前
プランルカスト ＜プランルカスト＞ （東和薬品）	112.5mg/C ¥33.7/C		気管支喘息 ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	450mg分2,朝夕食後
	ＤＳ(100mg/g) ¥46.5/ｇ		気管支喘息	<小児>7mg/kg/日,分2朝夕食後 【Max:10mg/kg/日,450mg/日】

４．吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■呼吸促進剤				
サーファクテン ＜サーファクタント＞ （田辺三菱）		120mg/瓶 ¥92048.2/瓶	呼吸窮迫症候群	120mg/kg気管内注入
■去痰薬				
ブロムヘキシン塩酸塩 ＜ブロムヘキシン＞ （ﾃﾊﾞ）		吸入液(2mg/mL, 45mL/本) ¥9.6/mL	急性気管支炎,慢性気管支炎,肺結核,塵肺症,手術後の去痰	6mL分3
■気管支拡張薬（β刺激薬）　◆第２世代				
サルタノールインヘラー ＜サルブタモール＞ （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）		(24mg/13.5mL(18g)/瓶) ¥941.3/瓶	気管支喘息,小児喘息,急性･慢性気管支炎,肺気腫,肺結核	発作時のみ使用 2吸入/回 <小児>1吸入/回 【Max:4回/日】
ベネトリン ＜サルブタモール＞ （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）		吸入液(5mg/mL, 30mL/本) ¥24.6/mL		0.3～0.5mL/回 <小児>0.1～0.3mL/回
■気管支拡張薬（β刺激薬）　◆第３世代				
メプチンキッドエアー(ﾄﾞｰｽﾞｶｳﾝﾀｰ付) ＜プロカテロール＞ （大塚）		ｴｱｿﾞｰﾙ(0.143mg/g,2.5mL/瓶) ¥743.5/瓶	気管支喘息,慢性気管支炎,肺気腫	発作時のみ使用 4吸入/回 <小児>2吸入/回
メプチン吸入液ユニット ＜プロカテロール＞ （大塚）		吸入液(0.1mg/mL,0.3mL/管) ¥17.8/管		0.3～0.5mL/回 <小児>0.1～0.3mL/回
		吸入液(0.1mg/mL,0.5mL/管) ¥23.2/管		
■気管支拡張薬（β刺激薬）　◆長時間作動型				
オンブレス ＜インダカテロール＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽﾌｧｰﾏ）		吸入用ｶﾌﾟｾﾙ(150μg/1C) ¥143.6/C	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎,肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	1C/回,1回/日 【Max:1C/日】

４．吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ステロイド薬				
パルミコート２００タービュヘイラー ＜ブデソニド＞ (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ(200μg/吸入,22.4mg/本) ¥2198.4/本	気管支喘息	100～400μg/回,2回/日 【Max:1600μg/日】 <小児>100～200μg/回,2回/日 【Max:800μg/日】
パルミコート吸入液 ＜ブデソニド＞ (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		吸入液(0.25mg/2mL/管) ¥257.3/管		0.5mg/回,2回/日又は1mg/回,1回/日 <6ヶ月以上の乳幼児> 0.25mg/回,2回/日又は0.5mg/回,1回/日 【Max:1mg/日】
フルタイド５０エアゾール ＜フルチカゾン＞ (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		ｴｱｿﾞｰﾙ(50μg/噴霧) ¥1989.9/個		100μg/回,2回/日 【Max:800μg/日】 <小児>50μg/回,2回/日 【Max:200μg/日】

4．吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■気管支拡張薬（β刺激薬）･ステロイド薬 合剤				
アドエア <サルメテロール，フルチカゾン> (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ(ｻﾙﾒﾃﾛｰﾙ:50μg,ﾌﾙﾁｶｿﾞﾝ:100μg/ﾌﾞﾘｽﾀｰ) 【院外のみ】 ¥6313.5/個	気管支喘息(吸入ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤及び長時間作動型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合,小児も可)	1吸入/回,2回/日 【Max:10吸入/日】
		ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ(ｻﾙﾒﾃﾛｰﾙ:50μg,ﾌﾙﾁｶｿﾞﾝ:250μg/ﾌﾞﾘｽﾀｰ) ¥7269.8/個	気管支喘息,慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解(吸入ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤及び長時間作動型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1吸入/回,2回/日 【Max:4吸入/日】
		ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ(ｻﾙﾒﾃﾛｰﾙ:50μg,ﾌﾙﾁｶｿﾞﾝ:500μg/ﾌﾞﾘｽﾀｰ) ¥8300.5/個	気管支喘息(吸入ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤及び長時間作動型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1吸入/回,2回/日 【Max:2吸入/日】
		ｴｱｿﾞｰﾙ(ｻﾙﾒﾃﾛｰﾙ:25μg,ﾌﾙﾁｶｿﾞﾝ:125μg/1噴霧) ¥7757.7/瓶	気管支喘息,慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解(吸入ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤及び長時間作動型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	2吸入/回,2回/日
シムビコートタービュヘイラー <ホルモテロール，ブデソニド> (ｱｽﾃﾗｽ)		ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ(ﾎﾙﾓﾃﾛｰﾙ:4.5μg,ﾌﾞﾃﾞｿﾆﾄﾞ:160μg/ﾌﾞﾘｽﾀｰ) ¥5892.8/個	吸入ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤及び長時間作動型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合の ①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎･肺気腫)	①1回1吸入1日2回【Max:8吸入/日】 <発作時>維持療法に加え1回1吸入 発作持続時はさらに1吸入追加 【Max:1回6吸入】 【維持療法と頓用の合計Max:12吸入/日】 ②1回2吸入1日2回
フルティフォーム <ホルモテロール，フルチカゾン> (杏林)		ｴｱｿﾞｰﾙ120吸入用(ﾎﾙﾓﾃﾛｰﾙ:5μg,ﾌﾙﾁｶｿﾞﾝ:125μg/1噴霧) ¥6759.1/個	気管支喘息（吸入ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤及び長時間作動型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合）	2～4吸入/回,2回/日
レルベア <ビランテロール，フルチカゾン> (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ(ﾋﾞﾗﾝﾃﾛｰﾙ:25μg,ﾌﾙﾁｶｿﾞﾝ:100μg/ﾌﾞﾘｽﾀｰ) ¥5987.2/個	気管支喘息(吸入ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤及び長時間作動型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1吸入/回,1回/日
		ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ(ﾋﾞﾗﾝﾃﾛｰﾙ:25μg,ﾌﾙﾁｶｿﾞﾝ:200μg/ﾌﾞﾘｽﾀｰ) ¥6692.6/個		
■抗コリン薬　【長期間作用型】				
スピリーバレスピマット <チオトロピウム> (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)		ﾚｽﾋﾟﾏｯﾄ(2.5μg/吸入,150μg/本) ¥6896.1/本	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎,肺気腫),気管支喘息(重症持続型の患者に限る)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	1回2吸入,1日1回

４．吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗コリン薬　(長期間作用型)　・気管支拡張薬(β刺激薬)合剤				
アノーロエリプタ <ウメクリジニウム,ビランテロール> (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ) 投与制限：14日△ (平成27年9月末まで)		7吸入用/ｷｯﾄ(ｳﾒｸﾘｼﾞﾆｳﾑ:62.5μg,ﾋﾞﾗﾝﾃﾛｰﾙ:25μg) ¥1997.2/ｷｯﾄ	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎,肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解(長時間作用性吸入抗ｺﾘﾝ剤及び長時間作用性吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1日1回1吸入
ウルティブロ <グリコピロニウム,インダカテロール> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽﾌｧｰﾏ)		吸入用ｶﾌﾟｾﾙ ¥269.8/C	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎,肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解(長時間作用性抗ｺﾘﾝ剤及び長時間作用性吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1C/回,1回/日 【Max:1C/日】
■その他　【遅効性に使用】				
インタール <クロモグリク酸ナトリウム> (ｻﾉﾌｨ)		吸入液(10mg/mL,2mL/管) ¥56.5/管	気管支喘息	20mg/回,3～4回/日

1．消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロトンポンプ阻害剤				
タケキャブ <ボノプラザン> （武田薬品） 投与制限：14日△ （平成28年2月末まで）	10mg/錠 ¥160.1/錠		①胃潰瘍,十二指腸潰瘍 ②逆流性食道炎 ③低用量ｱｽﾋﾟﾘﾝ投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ④非ｽﾃﾛｲﾄﾞ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑤胃潰瘍,十二指腸潰瘍,胃MALTﾘﾝﾊﾟ腫,特発性血小板減少性紫斑病,早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃,ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘの除菌の補助	①20mg分1 胃潰瘍:8週間まで 十二指腸潰瘍:6週間まで ②20mg分1,4週間まで 効果不十分時:8週間まで 再発･再燃の維持療法:10mg分1,効果不十分時:20mg分1 ③④10mg分1 ⑤1回にﾎﾞﾉﾌﾟﾗｻﾞﾝ20mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200mg の3剤を1日2回,7日間 <上記による除菌が不成功の場合> 1回にﾎﾞﾉﾌﾟﾗｻﾞﾝ20mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg,ﾒﾄﾛﾆﾀﾞｿﾞｰﾙ250mg の3剤を1日2回,7日間
	20mg/錠 ¥240.2/錠			
タケプロン <ランソプラゾール> （武田）		30mg/瓶 ¥514/瓶	出血を伴う胃潰瘍,十二指腸潰瘍,急性ｽﾄﾚｽ潰瘍及び急性胃粘膜病変	60mg分2点静,静注
ネキシウム <エソメプラゾール> （第一三共）	20mg/C ¥160.1/C		①胃潰瘍,十二指腸潰瘍,吻合部潰瘍,Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症【10mgCap】 ④非ｽﾃﾛｲﾄﾞ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑤低容量ｱｽﾋﾟﾘﾝ投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑥胃潰瘍,十二指腸潰瘍,胃MALTﾘﾝﾊﾟ腫,特発性血小板減少性紫斑病,早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃,ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ除菌の補助	①1日1回20mg 胃潰瘍,吻合部潰瘍:8週間まで 十二指腸潰瘍:6週間まで ②1日1回20mg,8週間まで 再発･再燃の維持療法:1日1回10～20mg ③1日1回10mg,4週間まで ④⑤1日1回20mg ⑥1回にｴｿﾒﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ20mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200～400mg の3剤を1日2回,7日間 <上記による除菌が不成功の場合> 1回にｴｿﾒﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ20mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg,ﾒﾄﾛﾆﾀﾞｿﾞｰﾙ250mg の3剤を1日2回,7日間
ラベプラゾールＮａ <ラベプラゾール> （東和薬品）	10mg/錠 ¥81.9/錠		①胃潰瘍,十二指腸潰瘍,吻合部潰瘍,Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症 ④胃潰瘍,十二指腸潰瘍,胃MALTﾘﾝﾊﾟ腫,特発性血小板減少性紫斑病,早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃,ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ除菌の補助	①10～20mg分1 胃潰瘍,吻合部潰瘍:8週間まで 十二指腸潰瘍:6週間まで ②10～20mg分1,8週間まで 効果不十分時:20～40mg分2,8週間追加【40mg分2は重度粘膜障害に限る】 再発･再燃の維持療法:10mg分1 ③10mg分1,4週間まで ④1回にﾗﾍﾞﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ10mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200～400mg の3剤を1日2回,7日間 <上記による除菌が不成功の場合> 1回にﾗﾍﾞﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ10mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg,ﾒﾄﾛﾆﾀﾞｿﾞｰﾙ250mg の3剤を1日2回,7日間

１．消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ランソプラゾールＯＤ <ランソプラゾール> （東和薬品）	15mg/錠 ¥50.6/錠		①胃潰瘍,十二指腸潰瘍,吻合部潰瘍,Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症【15mg錠のみ】 ④低用量ｱｽﾋﾟﾘﾝ投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制,非ｽﾃﾛｲﾄﾞ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制【15mg錠のみ】 ⑤胃潰瘍,十二指腸潰瘍,胃MALTﾘﾝﾊﾟ腫,特発性血小板減少性紫斑病,早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃,ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ除菌の補助	①1日1回30mg 胃潰瘍,吻合部潰瘍:8週間まで 十二指腸潰瘍:6週間まで ②1日1回30mg,8週間まで 再発･再燃の維持療法:1日1回15～30mg ③1日1回15mg,4週間まで ④1日1回15mg ⑤1回にﾗﾝｿﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ30mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200～400mg <上記による除菌が不成功の場合> 1回にﾗﾝｿﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ30mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg,ﾒﾄﾛﾆﾀﾞｿﾞｰﾙ250mg の3剤を1日2回,7日間
	30mg/錠 ¥88.2/錠			

■ヘリコバクター・ピロリ除菌治療剤

ラベキュアパック８００ <ラベプラゾール、アモキシシリン、クラリスロマイシン> 略名：AMPC,CAM （ｴｰｻﾞｲ）	ﾊﾟﾘｴｯﾄ(10)2錠,ｻﾜｼﾘﾝ(250)6錠,ｸﾗﾘｼｯﾄﾞ(200)4錠/ｼｰﾄ ¥721.4/ｼｰﾄ		胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTﾘﾝﾊﾟ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染症、ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎	1回にﾗﾍﾞﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ10mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200～400mg の3剤を1日2回(1日1ｼｰﾄ),7日間

１．消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Ｈ2受容体拮抗剤				
アシノン ＜ニザチジン＞ (ｾﾞﾘｱ)	150mg/錠 ¥36.9/錠		①胃潰瘍,十二指腸潰瘍 ②逆流性食道炎 ③急性胃炎,慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変（びらん,出血,発赤,浮腫）の改善 《Zollinger-Ellison症候群なし》	①300mg分1就寝前～2朝食後,就寝前 ②300mg分2朝食後,就寝前 ③150mg分2朝食後,就寝前
ファモチジンＯＤ ＜ファモチジン＞ (東和薬品)	10mg/錠 ¥10.6/錠		①胃潰瘍,十二指腸潰瘍,逆流性食道炎,吻合部潰瘍,上部消化管出血,Zollinger-Ellison症候群 ②胃炎	①40mg分1～2 ②20mg分1～2
	20mg/錠 ¥19.6/錠			
ファモチジン ＜ファモチジン＞ (沢井)		10mg/管 ¥95/管	①Zollinger-Ellison症候群,上部消化管出血,侵襲ｽﾄﾚｽによる上部消化管出血の抑制 ②麻酔前投薬	①40mg分2静注,点静,筋注 ②20mg/回, 麻酔導入1時間前に筋注,静注
		20mg/管 ¥137/管		
プロテカジンＯＤ ＜ラフチジン＞ (大鵬)	10mg/錠 ¥38.8/錠		①胃潰瘍,十二指腸潰瘍,吻合部潰瘍,逆流性食道炎 ②急性胃炎,慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん,出血,発赤,浮腫)の改善 ③麻酔前投薬	①20mg分2 ②10mg分1 ③10mg/回,手術前日就寝前･手術当日麻酔導入2時間前の2回
■プロスタグランジン類				
サイトテック ＜ミソプロストール＞ (科研)	200μg/錠 ¥36/錠		非ｽﾃﾛｲﾄﾞ性消炎鎮痛剤の長期投与時にみられる胃潰瘍,十二指腸潰瘍	800μg分4
■抗ペプシン剤				
スクラルファート ＜スクラルファート＞ (日医工)	液(100mg/mL,10mL/包) ¥27/包		胃･十二指腸潰瘍,胃炎	30mL分3

1．消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■防御因子増強剤				
アルロイドＧ ＜アルギン酸ナトリウム＞ (ｶｲｹﾞﾝ)	液(50mg/mL) ¥1.81/mL		胃･十二指腸潰瘍,胃炎,逆流性食道炎	60～240mL分3～4
ガストローム ＜エカベトナトリウム＞ (田辺三菱)	顆粒(667mg/g,1.5g/包) ¥32.1/包		胃潰瘍,胃炎	3.0g分2
スルピリド ＜スルピリド＞ (沢井製薬)	50mg/錠 ¥6.3/錠		胃･十二指腸潰瘍	150mg分3
テプレノン ＜テプレノン＞ (東和薬品)	50mg/C ¥6.8/C		胃潰瘍,胃炎	
	細粒(50mg/0.5g/包) ¥6.45/包			
ポラプレジンクＯＤ ＜ポラプレジンク＞ (沢井製薬)	75mg/錠 ¥22.5/錠		胃潰瘍	150mg分2
レバミピド ＜レバミピド＞ (ｴﾙﾒｯﾄﾞｴｰｻﾞｲ)	100mg/錠 ¥9.9/錠		胃潰瘍,胃炎	300mg分3
■配合剤				
マーズレンＳ ＜配合剤＞ (味の素)	顆粒(0.67g/包) ¥10.385/包		胃潰瘍,十二指腸潰瘍,胃炎	1.5～2g分3～4

２．制酸剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■吸収性				
炭酸水素ナトリウム ＜炭酸水素ナトリウム＞ (ﾏｲﾗﾝ)	末 ¥0.74/ｇ		〈経口〉胃・十二指腸潰瘍,胃炎,上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善,ｱｼﾄﾞｰｼｽの改善,尿酸排泄の促進と痛風発作の予防 〈含嗽・吸入〉上気道炎の補助療法(粘液溶解)	〈経口〉1日3～5g数回に分割 〈含嗽・吸入〉1回量1～2%液100mL,1日数回
■非吸収性Ｍｇ・ＡＩ化合物				
アシドレス ＜配合剤＞ (ｶｲｹﾞﾝ)	懸濁液 ¥1.4/mL		胃･十二指腸潰瘍,胃炎,上部消化管機能異常	16～48mL分数回
酸化マグネシウム ＜酸化マグネシウム＞ (吉田)	(0.33g/包) ¥0.4983/包		①胃・十二指腸潰瘍,胃炎,上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善 ②便秘症 ③尿路ｼｭｳ酸ｶﾙｼｳﾑ結石の発生予防	①0.5～1g,分数回 ②2g分1～3 ③0.2～0.6g/日,多量の水と共に
	(0.5g/包) ¥0.755/包			
	(0.67g/包) ¥1.0117/包			
	(1.0g/包) ¥1.51/包			
マグミット ＜酸化マグネシウム＞ (日本新薬)	錠(330mg/錠) ¥5.6/錠			
マグラックス ＜酸化マグネシウム＞ (吉田)	0.4g/包 ¥5.36/包			
	0.6g/包 ¥8.04/包			
	0.8g/包 ¥10.72/包			
	1.2g/包 ¥16.08/包			

３．健胃消化薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■健胃消化製剤				
ＦＫ散 ＜配合剤＞ （扶桑）	末(1.3g/包) ¥8.06/包		食欲不振,胃部不快感,胃もたれ,嘔気･嘔吐の改善	2.6～3.9g分2～3
■乳糖分解酵素製剤				
ガランターゼ ＜β－ガラクトシダーゼ＞ （田辺三菱）	散(250mg/0.5g/包) ¥21.65/包		乳糖不耐症	0.25～0.5g/回
■総合消化酵素製剤				
タフマックＥ ＜配合剤＞ （小野薬品）	ｶﾌﾟｾﾙ ¥6.5/C		消化異常症状の改善	2～6C分2～3
ベリチーム ＜配合剤＞ （ｼｵﾉｷﾞ）	顆粒(1g/包) ¥12.7/包			1.2～3g分3

4．止瀉・整腸薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■タンニン酸系				
タンニン酸アルブミン <タンニン酸アルブミン> (丸石)	末 ¥7.2/g		下痢症	3～4g分3～4
■その他				
ロペミン <ロペラミド> (ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ)	1mg/C ¥51.8/C		下痢症	1～2mg分1～2 <小児>0.02～0.04mg/kg,分2～3
	小児用細粒(0.5mg/g) ¥56.3/g			
■乳酸菌製剤				
ビオフェルミン <乳酸菌製剤> (ﾋﾞｵﾌｪﾙﾐﾝ)	散 ¥6.2/g		腸内菌叢の異常による諸症状の改善	3～9g分3
ビオフェルミンR <耐性乳酸菌製剤> (ﾋﾞｵﾌｪﾙﾐﾝ)	散 ¥6.2/g		抗生物質,化学療法剤投与時の腸内菌叢の異常による諸症状の改善	3g分3
	散(1g/包) ¥6.2/包			
	錠 ¥5.8/錠			3錠分3
ビオフェルミン <乳酸菌製剤> (ﾋﾞｵﾌｪﾙﾐﾝ)	散(1g/包) ¥6.2/包		腸内菌叢の異常による諸症状の改善	3～9g分3
	錠 ¥5.6/錠			3～6錠分3

5．下剤・浣腸用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■塩類性下剤				
酸化マグネシウム <酸化マグネシウム> (吉田)	(0.33g/包) ¥0.4983/包		①胃・十二指腸潰瘍,胃炎,上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善 ②便秘症 ③尿路ｼｭｳ酸ｶﾙｼｳﾑ結石の発生予防	①0.5～1g,分数回 ②2g分1～3 ③0.2～0.6g/日,多量の水と共に
	(0.5g/包) ¥0.755/包			
	(0.67g/包) ¥1.0117/包			
	(1.0g/包) ¥1.51/包			
マグコロールＰ <クエン酸マグネシウム> (堀井)	50g/包 ¥400/包		大腸検査(X線･内視鏡)前処置における腸管内容物の排除,腹部外科手術時における前処置用下剤	<高張液投与> 40～50g(水120～150mLに溶解)を検査予定時10～15時間前に経口 <等張液投与> 100gを水に溶解し全量1800mLとし検査予定時間の4時間以上前に200mLずつ約1時間かけて経口
マグミット <酸化マグネシウム> (日本新薬)	錠(330mg/錠) ¥5.6/錠		①胃・十二指腸潰瘍,胃炎,上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善 ②便秘症 ③尿路ｼｭｳ酸ｶﾙｼｳﾑ結石の発生予防	①0.5～1g,分数回 ②2g分1～3 ③0.2～0.6g/日,多量の水と共に
マグラックス <酸化マグネシウム> (吉田)	0.4g/包 ¥5.36/包			
	0.6g/包 ¥8.04/包			
	0.8g/包 ¥10.72/包			
	1.2g/包 ¥16.08/包			
■大腸刺激性下剤				
アローゼン <センナ・センナ実> (ﾎﾟｰﾗﾌｧﾙﾏ)	末(0.5g/包) ¥4/包		便秘(痙れん性便秘除く)	0.5～1g/回,1～2回
テレミンソフト <ビサコジル> (味の素)		2mg/坐剤 ¥19.3/個	便秘症,消化管検査時･手術前後の排便促進	<小児>1号坐剤1～2個分1～2
		10mg坐剤 ¥21.1/個		3号坐剤1～2個分1～2
ピコスルファートナトリウム <ピコスルファート> (日医工)	液(7.5mg/g,10mL/本) ¥105/本		①各種便秘症 ②術後排便補助 ③造影剤投与後の排便促進 ④大腸検査前処置における腸管内容物の排除	①10～15滴(0.67～1.0mL)分1, <小児>6ｶ月以下2滴(0.13mL), 7～12ｶ月3滴(0.20mL), 1才～3才6滴(0.40mL), 4～6才7滴(0.46mL) ②10～15滴(0.67～1.0mL)分1, ③6～15滴(0.40～1.0mL) ④検査予定時間の10～15時間前に20mL
プルゼニド <センノサイドＡ・Ｂ> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	12mg/錠 ¥5.6/錠		便秘症	12～24～(48)mg分1

５．下剤・浣腸用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■クロライドチャネル活性化下剤				
アミティーザ ＜ルビプロストン＞ (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)	24μg/C 【院外のみ】 ¥161.1/C		慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）	2錠,分2
■膨張性下剤				
カルボキシメチルセルロース ＜カルボキシメチルセルロース＞ (丸石)		1%液 【院内製剤】	便秘症	1.5～6g分3
		2%液 【院内製剤】		
■浣腸剤				
グリセリン ＜グリセリン＞ (健栄)		25%液 【院内製剤】	浣腸用薬	30～60mL
ケンエーＧ浣腸液 ＜グリセリン＞ (健栄)		30mL/本 ¥71.9/本	便秘,腸疾患時の排便	10～150mL/回
		60mL/本 ¥109.7/本		
■経口洗腸液				
ニフレック ＜配合剤＞ (味の素)	137.155g/包 (2L分) ¥1144.3/袋		大腸内視鏡検査,ﾊﾞﾘｳﾑ注腸X線造影検査及び大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解2Lとし,約1L/時間で経口,排泄液が透明になった時点で投与終了【Max:4L/2袋】
ビジクリア ＜配合剤＞ (ｾﾞﾘｱ)	錠 ¥56.4/錠		大腸内視鏡検査の前処置における腸管内容物の排除 【使用における確認表参照のこと】	検査開始の4～6時間前から1回あたり5錠ずつ,約200mLの水とともに15分毎に計10回(計50錠)経口投与する。
モビプレップ ＜配合剤＞ (味の素)	244.212g/袋 (2L分) ¥2371.3/袋		大腸内視鏡検査･大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解して約2Lの溶解液とし,約1L/時間で経口投与 約1L投与した後,水又はお茶を約0.5L飲用 排泄液が透明になった時点で投与を終了し,投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用する。【Max:2L/1袋】

６．肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■肝臓用薬				
アデラビン９号 ＜配合剤＞ （三和化学）		2mL/管 ¥265/管	慢性肝疾患,湿疹･皮膚炎群、口唇炎･口角炎･口内炎、びまん性表層角膜炎でﾋﾞﾀﾐﾝB2の欠乏又は代謝障害によるもの,ﾋﾞﾀﾐﾝB2の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦等)	1～2mL/日,分1～2皮下,筋注,静注
強力ネオミノファーゲンシーＰ ＜グリチルリチン配合剤＞ （ｴｰｻﾞｲ）		20mL/管 ¥127/管	①慢性肝疾患における肝機能異常の改善 ②湿疹･皮膚炎,蕁麻疹,皮膚そう痒症,薬疹･中毒疹,口内炎,小児ｽﾄﾛﾌﾙｽ,ﾌﾘｸﾃﾝ	①40～100mL分1静注または点静 ②5～20mL分1静注
強力ネオミノファーゲンシー ＜グリチルリチン配合剤＞ （ｴｰｻﾞｲ）		40mL/ｼﾘﾝｼﾞ ¥349/ｼﾘﾝｼﾞ		
グリチロン ＜グリチルリチン配合剤＞ （ｴｰｻｲ）	錠剤 ¥5.6/錠		慢性肝疾患,脱毛症	6～9錠分3 <小児>3錠分3
■高アンモニア血症用薬				
カロリールゼリー ＜ラクツロース＞ （佐藤）	ゼリー（6.5g/個）【1個あたりｼﾛｯﾌﾟ10mLに相当】 ¥23.4/個		①高ｱﾝﾓﾆｱ血症 ②産婦人科術後の排ｶﾞｽ,排便	①3～6個分3 ②3～6個分2
ピアーレ ＜ラクツロース＞ （日本化薬）	ＳＹ(650mg/mL) ¥4.8/mL		①高ｱﾝﾓﾆｱ血症 ②産婦人科術後の排ｶﾞｽ,排便 ③小児便秘症	①30～60mL分3 ②30～60mL分2 ③0.5～2mL/kg分3

６．肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インターフェロン製剤				
スミフェロンＤＳ <インターフェロンーα> （大日本住友）		300万国際単位/筒 ¥6549/筒	①腎癌,多発性骨髄腫,ﾍｱﾘｰ細胞白血病,慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAﾎﾟﾘﾒﾗｰｾﾞ陽性のB型慢性活動性肝炎のｳｲﾙｽ血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善（血中HCV RNA量が高い場合を除く） ④C型代償性肝硬変におけるｳｲｽﾙ血症の改善（ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く） ⑤HTLV-I脊椎症(HAM)	①300～600万単位/日皮下,筋注 ②300～600万単位/日皮下,筋注 ③300～900万単位/日連日または週3回皮下,筋注 ④600万単位/日連日2週間まで,以後300～600万単位/日週3回皮下,筋注 ⑤300万単位/日皮下,筋注
		600万国際単位/筒 ¥12424/筒	①腎癌,多発性骨髄腫,ﾍｱﾘｰ細胞白血病,慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAﾎﾟﾘﾒﾗｰｾﾞ陽性のB型慢性活動性肝炎のｳｲﾙｽ血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善（血中HCV RNA量が高い場合を除く） ④C型代償性肝硬変におけるｳｲｽﾙ血症の改善（ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く）	①300～600万単位/日皮下,筋注 ②300～600万単位/日皮下,筋注 ③300～900万単位/日連日または週3回皮下,筋注 ④600万単位/日連日2週間まで,以後300～600万単位/日週3回皮下,筋注
ペガシス皮下注 <ペグインターフェロンーα－２ａ> （中外）		90μg/瓶 【用時購入】 ¥14376/瓶	①C型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善 ②ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝとの併用による以下のいずれかのC型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善 i)ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1(ｼﾞｪﾉﾀｲﾌﾟⅠ(1a)又はⅡ(1b))でHCV-RNA量が高値の患者 ii)ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ単独療法で無効又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ単独療法後再燃した患者 ③ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝとの併用によるC型代償性肝硬変におけるｳｲﾙｽ血症の改善 ④B型慢性活動性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善	①1回180μg,週1回皮下 ②<ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ併用> 1回180μg,週1回皮下 ③<ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ併用> 1回90μg,週1回皮下 ④1回90～180μg,週1回皮下

６．肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ペガシス皮下注 <ペグインターフェロンーα－２ａ> （中外）		180μg/瓶 【用時購入】 ¥27920/瓶	①C型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善 ②ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝとの併用による以下のいずれかのC型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善 i)ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1(ｼﾞｪﾉﾀｲﾌﾟⅠ(1a)又はⅡ(1b))でHCV-RNA量が高値の患者 ii)ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ単独療法で無効又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ単独療法後再燃した患者 ③B型慢性活動性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善	①1回180μg,週1回皮下 ②<ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ併用> 1回180μg,週1回皮下 ③1回90～180μg,週1回皮下
ペグイントロン <ペグインターフェロンーα－２ｂ> （MSD）		50μg(0.5mL)/瓶 【用時購入】 ¥15634/瓶	①ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝとの併用による次のいずれかのC型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善 1)血中HCV RNA量が高値の患者 2)ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ製剤単独療法で無効の患者又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ製剤単独療法後再燃した患者 ②ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝとの併用によるC型代償性肝硬変におけるｳｲﾙｽ血症の改善 ③悪性黒色腫における術後補助療法	①<ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝと併用>1.5μg/kg/回,週1回皮下 ②<ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝと併用>1.0μg/kg/回,週1回皮下 ③8週目まで:6μg/kg/回,週1回皮下 9週目以降:3μg/kg/回,週1回皮下
		100μg(0.5mL)/瓶 ¥30332/瓶		
		150μg(0.5mL)/瓶 【用時購入】 ¥45396/瓶		

■抗ウイルス化学療法剤 ◆Ｂ型肝炎治療剤

ゼフィックス <ラミブジン> （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）	100mg/錠 ¥639.8/錠		Ｂ型肝炎ｳｲﾙｽの増殖を伴い肝機能の異常が確認されたＢ型慢性肝疾患におけるＢ型肝炎ｳｲﾙｽの増殖抑制	100mg分1
テノゼット <テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩> （ｸﾞﾗｸｿｽﾐｽｸﾗｲﾝ）	300mg/錠 【用時購入】 ¥996.5/錠		B型肝炎ｳｲﾙｽの増殖を伴い肝機能の異常が確認されたB型慢性肝疾患におけるB型肝炎ｳｲﾙｽの増殖抑制	300mg,分1
バラクルード <エンテカビル水和物> （ﾌﾞﾘｽﾄﾙ）	0.5mg/錠 【用時購入】 ¥1061.8/錠		Ｂ型肝炎ｳｨﾙｽの増殖を伴い肝機能の異常が確認されたＢ型慢性肝疾患におけるＢ型肝炎ｳｨﾙｽの増殖抑制	0.5mg分1,空腹時 (ﾗﾐﾌﾞｼﾞﾝ不応患者には)1mg分1,空腹時

６．肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ウイルス化学療法剤　◆C型肝炎治療剤				
コペガス ＜リバビリン＞ (ｱｽﾃﾗｽ)	200mg/錠 ¥789.2/錠		①次のいずれかのC型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善 ⅰ)ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1(ｼﾞｪﾉﾀｲﾌﾟⅠ(1a)又はⅡ(1b))でHCV-RNA量が高値の患者 ⅱ)ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ製剤単独療法で無効の患者又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ製剤単独療法後再燃した患者 ②C型代償性肝硬変におけるｳｲﾙｽ血症の改善 ③ｿﾎｽﾌﾞﾋﾞﾙとの併用によるｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ2(ｼﾞｪﾉﾀｲﾌﾟ2)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるｳｲﾙｽ血症の改善	＜ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2aまたはｿﾎｽﾌﾞﾋﾞﾙと併用すること＞ 600～1000mg分2 体重60kg以下：600mg/日 体重60kgを越え80kg以下：800mg/日 体重80kg以上：1000mg/日 ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2a：週1回皮下注 ①180μg,②90μg
スンベプラ ＜アスナプレビル＞ (ﾌﾞﾘｽﾄﾙﾏｲﾔｰｽﾞ) 投与制限：14日△ (平成27年9月末まで)	100mg/C 【院外のみ】 ¥3280.7/C		ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1(ｼﾞｪﾉﾀｲﾌﾟ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変における次のいずれかのｳｲﾙｽ血症の改善	1回100mg1日2回(ﾀﾞｸﾗﾀｽﾋﾞﾙ併用),24週間
ソバルディ ＜ソホスブビル＞ (ｷﾞﾘｱﾄﾞ・ｻｲｴﾝｼｽﾞ) 投与制限：28日△	400mg/錠 【院外のみ】 ¥61799.30/錠		セログループ2（ジェノタイプ2）のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	1回400mg1日1回(ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ併用),12週間
ソブリアード ＜シメプレビル＞ (ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ)	100mg/C ¥13122.8/C		ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1(ｼﾞｪﾉﾀｲﾌﾟⅠ(1a)又はⅡ(1b))のC型慢性肝炎における次のいずれかのｳｲﾙｽ血症の改善 1.血中HCV RNA量が高値の未治療患者 2.ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝを含む治療法で無効又は再燃となった患者	100mg/回,1日1回,12週間 ＜ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2a又はﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2b及びﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝと併用すること＞
ダクルインザ ＜ダクラタスビル＞ (ﾌﾞﾘｽﾄﾙﾏｲﾔｰｽﾞ) 投与制限：14日△ (平成27年9月末まで)	60mg/錠 【院外のみ】 ¥9186.0/錠		ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1(ｼﾞｪﾉﾀｲﾌﾟ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変における次のいずれかのｳｲﾙｽ血症の改善	1日1回60mg(ｱｽﾅﾌﾟﾚﾋﾞﾙ併用),24週間
レベトール ＜リバビリン＞ (MSD)	200mg/C ¥627.6/C		ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2b,ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2b又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-βとの併用による次のいずれかのC型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善 1.血中HCVRNA量が高値の患者 2.ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ製剤単独療法で無効の患者又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ製剤単独療法後再燃した患者	ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2b,ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2b又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-βと併用すること 600～800mg分2 体重60kg以下600mg/日 体重60kgを越える時800mg/日 ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2b：600万～1000万単位/分1週6回又は週3回筋注 ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-α-2b:1.5μg/kg/週1回皮下注 ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-β:600万単位/日,投与後4週間までは連日,以後週3回静脈内投与

６．肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■利胆薬				
ウルソ ＜ウルソデオキシコール酸＞ （田辺三菱）	顆粒(50mg/g) ¥7.7/ｇ		①胆道(胆管･胆嚢)系疾患･肝疾患における利胆,慢性肝疾患,消化不良 ②ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ系胆石の溶解	①150mg分3 <小児>1才40mg, 3才50mg,分3 ②600mg分3
	100mg/錠 ¥11.8/錠		①胆道(胆管･胆嚢)系疾患･肝疾患における利胆,慢性肝疾患,消化不良 ②ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ系胆石の溶解 ③原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善 ④C型慢性肝疾患における肝機能の改善	①150mg分3 <小児>1才40mg, 3才50mg,分3 ②600mg分3 ③600mg分3 【Max:900mg】 ④600mg分3 【Max:900mg】
■膵酵素阻害薬				
コアヒビター ＜ナファモスタット＞ （味の素）		10mg/瓶 ¥390/瓶	①急性膵炎,慢性膵炎の急性増悪,術後の急性膵炎,膵管造影後の急性膵炎,外傷性膵炎の改善 ②DIC ③体外循環時の凝固防止	①10mg/回,1日1～2回点静(約2時間) ②0.06～0.2mg/kg/hr,24時間持続点静 ③【DI照会参照】
		50mg/瓶 ¥901/瓶	①DIC ②体外循環時の凝固防止	①0.06～0.2mg/kg/hr,24時間持続点静 ②【DI照会参照】
フオイパン ＜カモスタット＞ （小野薬品）	100mg/錠 ¥95.5/錠		①慢性膵炎における急性症状の緩解 ②術後逆流性食道炎	①600mg分3 ②300mg分3食後
ミラクリッド ＜ウリナスタチン＞ （持田）		2.5万単位/管 ¥984/管	①急性膵炎,慢性再発性膵炎の急性増悪期 ②急性循環不全	①初期量25000～50000単位/回, 1～3回/日静注,点静 ②10万単位/回,1～3回/日,静注,点静 <小児>5000単位/kg/回1日2回
		10万単位/管 ¥2369/管		
レミナロン ＜ガベキサート＞ （ｼｵﾉｷﾞ）		100mg/瓶 ¥191/瓶	①急性膵炎･慢性再発性膵炎の急性増悪期･術後の急性膵炎 ②DIC	①100mg/回,1～3回/日,点静 ②20～39mg/kg/日 24時間持続静注
		500mg/瓶 ¥1038/瓶	DIC	20～39mg/kg/日 24時間持続静注

7．消化管運動調整薬・制吐薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■消化管運動調整薬				
オビソート <アセチルコリン> (第一三共)		100mg/管(溶解液2mL付) ¥364/管	①麻酔後の腸管麻痺 急性胃拡張 ②円形脱毛症	①100mg/回,1日1～2回皮下,筋注 ②100g/回/週皮内
ガナトン <イトプリド> (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)	50mg/錠 ¥18.1/錠		慢性胃炎に伴う消化器症状	150mg分3
セレキノン <トリメブチン> (田辺三菱)	100mg/錠 ¥16.4/錠		①慢性胃炎 ②過敏性腸症候群	①300mg分3 ②300～600mg分3
ナウゼリンＯＤ <ドンペリドン> (協和発酵ｷﾘﾝ)	10mg/錠 ¥16.3/錠		下記疾患および薬剤投与時の消化器症状 <成人>慢性胃炎,胃下垂症,胃切除後症候群,抗悪性腫瘍剤またはﾚﾎﾞﾄﾞﾊﾟ製剤投与時 <小児>周期性嘔吐症,上気道感染症,抗悪性腫瘍剤投与時	1回5～10mg1日3回 <小児>1～2mg/kg/日,分3 【Max:30mg/日,6歳以上は1mg/kg/日まで】
ナウゼリン <ドンペリドン> (協和発酵ｷﾘﾝ)		10mg坐剤 ¥61.9/個	消化管機能の亢進	60mg/回,2回 <小児>30mg/回,2回 <3歳未満>10mg/回,2～3回
		30mg坐剤 ¥102.3/個		
		60mg坐剤 ¥136.1/個		
プリンペラン <メトクロプラミド> (ｱｽﾃﾗｽ)	5mg/錠 ¥6.4/錠		消化器機能異常,X線検査時のﾊﾞﾘｳﾑの通過促進	2～6錠分2～3 <小児>0.5～0.7mg/kg分2～3
	ＳＹ(1mg/mL) ¥3.31/mL			<小児>0.5～0.7mg/kg分2～3
		10mg(2mL)/管 ¥57/管		10mg/回1～2回筋注･静注
モサプリド <モサプリド> (沢井薬品)	5mg/錠 ¥9.9/錠		①慢性胃炎に伴う消化器症状	①15mg分3

７．消化管運動調整薬・制吐薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■制吐薬 ◆５-ＨＴ３拮抗薬				
アロキシ <パロノセトロン> (大鵬)		0.75mg(5mL)/瓶 ¥14937/瓶	抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心･嘔吐)(遅発期を含む)	0.75mg静注または点静
カイトリル <グラニセトロン> (中外)	1mg/錠 ¥628.4/錠		抗悪性腫瘍剤投与及び放射線照射に伴う消化器症状（悪心･嘔吐）	2mg分1
		1mg(1mL)/管 ¥1780/管	①抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心･嘔吐) ②放射線照射に伴う消化器症状(悪心･嘔吐)	①40μg/kg静注,点静 症状改善ない場合同量追加 <小児>40μg/kg点静 症状改善ない場合同量追加 ②40μg/kg点静 【Max:1日2回】
グラニセトロン <グラニセトロン> (Meiji)		バッグ3mg(100mL)/袋 ¥2005/袋		
ナゼア <ラモセトロン> (ｱｽﾃﾗｽ)		0.3mg(2mL)/管 ¥4829/管	抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心･嘔吐	0.3mg静注, 症状改善ない場合同量追加
ナゼアＯＤ <ラモセトロン> (ｱｽﾃﾗｽ)	0.1mg/錠 ¥1317.2/錠		抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状（悪心･嘔吐）	0.1mg分1
■制吐薬 ◆選択的ＮＫ１拮抗薬				
イメンド <アプレピタント> (小野薬品)	80mg/C ¥3402.3/C		抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状（悪心･嘔吐）（遅発期を含む）	<他の制吐剤と併用> 成人及び12歳以上の小児 抗悪性腫瘍剤投与1日目:125mg 2日目以降:80mg,分1
	125mg/C ¥4985.2/C			
プロイメンド <ホスアプレピタント> (小野薬品)		150mg/瓶 ¥14705/瓶		<他の制吐剤と併用> 抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回150mg,点静
■制吐薬 ◆その他				
ノバミン <プロクロルペラジン> (ｼｵﾉｷﾞ)	5mg/錠 ¥9.6/錠		①統合失調症 ②悪心･嘔吐	①15～45mg/日 ②5～20mg/日

８．鎮痙剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アトロピン注０．０５%シリンジ <アトロピン> (ﾃﾙﾓ)		0.5mg(1mL)/筒 ¥157/筒	①胃･十二指腸潰瘍における分泌並びに運動亢進,胃腸の痙攣性疼痛,痙攣性便秘,胆管･尿管の疝痛,副交感神経興奮剤の中毒,迷走神経性徐脈･迷走神経性房室伝導障害,麻酔前投薬,その他の徐脈及び房室伝導障害,ECTの前投与 ②有機ﾘﾝ系殺虫剤の中毒	①0.5mg/回皮下,筋注,静注 ②軽症:0.5～1mg皮下 中等症:1～2mg皮下,筋注,静注 重症:2～4mg静注
塩酸パパベリン <パパベリン> (日医工)		40mg(1mL)/管 ¥92/管	①胃炎,胆道(胆管･胆嚢)系疾患に伴う内臓平滑筋の痙攣症状,末梢循環障害,冠循環障害における血管拡張と症状の改善 ②急性動脈栓塞 ③急性肺栓塞	①30～50mg/回, 100～200mg/日,皮下,筋注 ②50mg/回,動注 ③50mg/回,静注
トランコロン <メペンゾラート> (ｱｽﾃﾗｽ)	7.5mg/錠 【院外のみ】 ¥5.6/錠		過敏大腸症	45mg分3
ブスコパン <ブチルスコポラミン> (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)	10mg/錠 ¥7.2/錠		胃･十二指腸潰瘍,食道痙攣,幽門痙攣,胃炎,腸炎,腸疝痛,痙攣性便秘,機能性下痢,胆道疾患,尿路結石,膀胱炎,月経困難症	30～100mg分3～5
		20mg(1mL)/管 ¥58/管	胃･十二指腸潰瘍,食道痙攣,幽門痙攣,胃炎,腸炎,腸疝痛,痙攣性便秘,機能性下痢,胆道疾患,尿路結石,膀胱炎,月経困難症, 胃切除後の後遺症,器具挿入による尿道･膀胱痙攣,分娩時の子宮下部痙攣,消化管のＸ選及び内視鏡検査の前処置	10～20mg皮下,筋注,静注

９．その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■炎症性腸疾患用薬				
アサコール <メサラジン> (協和発酵ｷﾘﾝ)	400mg/錠 ¥88.6/錠		潰瘍性大腸炎（重症を除く）	2400mg分3 活動期は、3600mg分3 ★pH7以上で薬剤を放出するpH依存型放出調整製剤 主に回腸末端から大腸全域に薬剤放出
サラゾピリン <サラゾスルファピリジン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	500mg/錠 ¥22/錠		潰瘍性大腸炎,限局性腸炎,非特異性大腸炎	4～8～(16)錠分4～6
プレドネマ <プレドニゾロン> (杏林)		注腸用 ¥737.3/本	潰瘍性大腸炎,限局性腸炎	１個/回,直腸内注入
ペンタサ <メサラジン> (杏林)		1g/坐剤 ¥345.1/個	潰瘍性大腸炎（重症を除く）	1日1個,直腸内挿入
		注腸用 ¥778.9/本		1日1個,直腸内注入
メサラジン <メサラジン> (東和薬品)	500mg/錠 ¥59.3/錠		①潰瘍性大腸炎(重症を除く) ②ｸﾛｰﾝ病	①1500～2250mg分3 寛解期：1500mg分1も可 活動期：4000mg分2(8週まで) <小児>30～60mg/kg/日,分3【Max:2250mg分3】 ②1500～3000mg分3 <小児>40～60mg/kg/日,分3 ★小腸から大腸までの全域で薬剤が放出される時間依存型徐放製剤
■過敏性腸症候群治療剤				
イリボー <ラモセトロン> (ｱｽﾃﾗｽ)	2.5μg/錠 【院外のみ】 ¥88.3/錠		下痢型過敏性腸症候群	男性:5μg分1【Max:10μg/日】 女性:2.5μg分1【Max:5μg/日】
	5μg/錠 【院外のみ】 ¥144.2/錠			
コロネル <ポリカルボフィルカルシウム> (ｱｽﾃﾗｽ)	細粒(1000mg/1.2g/包) 【院外のみ】 ¥33.6/包		過敏性腸症群における便通異常(下痢,便秘)及び消化器症状	1.5～3.0g分3 (錠:3～6錠,細粒:1.8～3.6g)
	500mg/錠 ¥17.7/錠			

９．その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ヒトTNFαモノクロナール抗体				
ヒュミラ ＜アダリムマブ＞ (ｴｰｻﾞｲ)		40mg(0.8mL)/筒 ¥65144/筒	①関節ﾘｳﾏﾁ ②尋常性乾癬,関節症性乾癬 ③強直性脊椎炎 ④多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 ⑤腸管型ﾍﾞｰﾁｪｯﾄ病 ⑥中等症又は重症の活動期にあるｸﾛｰﾝ病の緩解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る) ⑦中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)	①③40mg/2週皮下注【Max:80mg】 ②初回80mg,以後40mg/2週皮下注【Max:80mg】 ④体重15～30kg:20mg/2週皮下注 体重30kg以上:40mg/2週皮下注 ⑤⑥⑦初回160mg,2週後80mg,4週後以降40mg/2週皮下注
レミケード ＜インフリキシマブ＞ (田辺三菱)		100mg/瓶 ¥89536/瓶	①関節ﾘｳﾏﾁ ②ﾍﾞｰﾁｪｯﾄ病による難治性網膜ぶどう膜炎 ③尋常性乾癬,関節症性乾癬,膿疱性乾癬,乾癬性紅皮症 ④強直性脊椎炎 ⑤中等度から重度の活動期または外瘻を有するｸﾛｰﾝ病の治療及び維持療法 ⑥中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療	①3mg/kg分1,点静 初回投与後,2週,6週,以後8週間隔【Max:10mg/kg】 ②③⑥5mg/kg分1,点静 初回投与後,2週,6週,以後8週間隔 ⑤5mg/kg分1,点静 初回投与後,2週,6週,以後8週間隔 6週の投与以後,効果減弱の場合には10mg/kg/回での投与可 ④5mg/kg分1点静 初回投与後,2週,6週,以後6～8週間隔
■その他				
ガスコン ＜ジメチコン＞ (ｷｯｾｲ)	40mg/錠 ¥5.6/錠		①胃腸内消泡剤 ②胃腸管内のｶﾞｽに起因する腹部症状の改善	①40～80mg,検査15～40分前に約10mLの水とともに ②120～240mg分3
	ﾄﾞﾛｯﾌﾟ(20mg/mL) ¥3.8/mL			
サリベート ＜人工唾液＞ (帝人)		50g/本 ¥641.2/本	ｼｪｰｸﾞﾚﾝ症候群による口腔乾燥症,頭頸部の放射線照射による唾液腺障害に基づく口腔乾燥症	1～2秒間噴霧/回, 4～5回/日口腔内噴霧
トランコロン ＜メペンゾラート＞ (ｱｽﾃﾗｽ)	7.5mg/錠 【院外のみ】 ¥5.6/錠		過敏大腸症	45mg分3

1．解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非麻薬性鎮痛剤　【麻薬についてはU参照】				
トラマールＯＤ <トラマドール> （日本新薬）	25mg/錠 ¥38.6/錠		非オピオイド鎮痛剤で治療困難な各種癌における鎮痛,慢性疼痛	100～300mg分4【Max:100mg/回,400mg/日】
トラムセット <トラマドール，アセトアミノフェン> （ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ）	37.5mg/325mg/錠 ¥70.1/錠		<非ｵﾋﾟｵｲﾄﾞ鎮痛剤で治療困難な場合> ①非がん性慢性疼痛 ②抜歯後の疼痛	①4錠分4 ②2錠/回,4時間以上あけて2錠/回追加投与可 【Max:8錠/日,2錠/回】
ペンタジン <ペンタゾシン> （第一三共）		15mg(1mL)/管 ¥68/管	①各種癌,術後,心筋梗塞,胃･十二指腸潰瘍,腎･尿路結石,閉塞性動脈炎,胃･尿路･膀胱検査器具使用時における鎮痛 ②麻酔前投薬･麻酔補助	①15mg/回,筋注,皮下,必要に応じて3～4時間毎反復注射 ②30～60mg筋注,皮下,静注
■感冒用薬				
ＰＬ <サリチルアミド配合剤> （ｼｵﾉｷﾞ）	顆粒(1g/包) ¥6.4/包		感冒,上気道炎	4g分4 【禁忌：2歳未満の乳幼児】
■頭痛用薬 ◆セロトニン非選択的作用薬				
クリアミンＡ <配合剤： エルゴタミン：１ｍｇ イソプロピルアンチピリン：３００ｍｇ カフェイン：５０ｍｇ> （ｶﾞﾚﾝ）	錠 ¥12.3/錠		血管性頭痛,片頭痛,緊張性頭痛	2～3錠分2～3 （1週間に10錠まで）
■頭痛用薬 ◆5-ＨＴ1B/1D選択的作用薬				
イミグラン <スマトリプタン> （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）		3mg(1mL)/管 ¥3387/管	片頭痛,群発頭痛	3mg/回皮下 【Max:3mg/回,6mg/日】
ゾーミッグＲＭ <ゾルミトリプタン> （ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ）	2.5mg/錠 ¥960.8/錠		片頭痛	2.5mg/回偏頭痛発現時 2時間以上あけて追加投与 次回偏頭痛発現時5mg/回 【Max:10mg/日】
■解熱・鎮痛剤 ◆アスピリン				
アスピリン <アスピリン> （吉田）	末 ¥2.94/ｇ		関節ﾘｳﾏﾁ,ﾘｳﾏﾁ熱,変形性関節症,強直性脊椎症などの鎮痛,解熱	1～4.5g分3
バファリン３３０ｍｇ <アスピリン（３３０ｍｇ）・ダイアルミネート> （ｴｰｻﾞｲ）	錠 ¥5.7/錠		①関節ﾘｳﾏﾁ,ﾘｳﾏﾁ熱,症候性神経痛 ②頭痛,歯痛,月経痛,感冒の解熱	①4～12錠分2～3 ②4錠分2

1．解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■解熱・鎮痛剤 ◆ピリン系				
ＳＧ <配合剤： イソプロピルアンチピリン１５０ｍｇ アリルイソプロピルアセチル尿素６０ｍｇ アセトアミノフェン２５０ｍｇ 無水カフェイン５０ｍｇ> （ｼｵﾉｷﾞ）	顆粒(1g/包) ¥11.1/ｇ		鎮痛,解熱	3～4g分3～4
メチロン <スルピリン> （第一三共）		250mg(1mL)/管 ¥92/管	解熱	0.25～0.5～(1)g/回,皮下,筋注
■解熱・鎮痛剤 ◆アニリン系				
アセリオ <アセトアミノフェン> （ﾃﾙﾓ）		1000mg(100mL)/瓶 ¥332/瓶	経口製剤及び坐剤の投与が困難な場合における疼痛及び発熱	<成人における疼痛> 1回300～1000mg,15分かけて静注,投与間隔4～6時間以上【Max:4000mg/日】 体重50kg未満:1回15mg/kg【Max:60mg/kg/日】 <成人における発熱> 1回300～500mg,15分かけて静注,投与間隔4～6時間以上,1日2回まで【Max:1500mg/日】 <2歳以上の小児における疼痛及び発熱> 1回10～15mg/kg,15分かけて静注,投与間隔4～6時間以上【Max:60mg/kg/日】 <乳児及び2歳未満の幼児における疼痛及び発熱> 1回7.5mg/kg,15分かけて静注,投与間隔4～6時間以上【Max:30mg/kg/日】
アンヒバ <アセトアミノフェン> （ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ）		100mg/坐剤 ¥19.3/個	小児科領域における解熱・鎮痛	1歳未満50mg 1～3歳未満50～100mg 3～6歳未満100mg 6～12歳100～200mg分1 【原則5日間】
		200mg/坐剤 ¥30/個		
カロナール <アセトアミノフェン> （昭和薬品化工）	200mg/錠 ¥8.1/錠		①頭痛,耳痛,症候性神経痛,腰痛症,筋肉痛,打撲痛,捻挫痛,月経痛,分娩後痛,がんによる疼痛,歯痛,歯科治療後の疼痛,変形性関節症 ②急性上気道炎の解熱・鎮痛 ③小児科領域における解熱・鎮痛	①1.5～5錠/回　投与間隔は4～6時間以上 【Max:20錠/日】 ②1.5錠～2.5錠/回1日2回まで 【Max:7.5錠/日】 ③10～15mg/kg/回,4～6時間毎 【Max:60mg/kg/日】
	ＳＹ(20mg/mL) ¥4.6/mL		小児科領域における解熱・鎮痛	10～15mg/kg/回,4～6時間毎 【Max:60mg/kg/日】 5kg:2.5～3.75mL/回 10kg:5.0～7.5mL/回 20kg:10～15mL/回 30kg:15～22.5mL/回
ピリナジン <アセトアミノフェン> （ｱｽﾃﾗｽ）	末 ¥8/ｇ		①頭痛,耳痛,症候性神経痛,腰痛症,筋肉痛,打撲痛,捻挫痛,月経痛,分娩後痛,がんによる疼痛,歯痛,歯科治療後の疼痛,変形性関節症 ②急性上気道炎の解熱・鎮痛 ③小児科領域における解熱・鎮痛	①300～1000mg/回　投与間隔は4～6時間以上 【Max:4000mg/日】 ②300～500mg/回1日2回まで 【Max:1500mg/日】 ③10～15mg/kg/回,4～6時間毎 【Max:60mg/kg/日】

1．解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆アントラニル酸系				
ポンタール ＜メフェナム酸＞ （第一三共）	ＳＹ(32.5mg/mL) ¥6.4/mL		急性上気道炎での解熱・鎮痛	0.2mL/kg/回　1日2回まで
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆フェニール酢酸系				
セルタッチ ＜フェルビナク＞ （武田）		ﾊﾟｯﾌﾟ(6枚/包) 【院外のみ】 ¥135.6/包	変形性関節症,肩関節周囲炎,腱･腱鞘炎,腱周囲炎,上腕骨上顆炎(ﾃﾆｽ肘等),筋肉痛,外傷後の腫脹･疼痛の鎮痛,消炎	2回/日,貼付
ジクロフェナクＮａ ＜ジクロフェナク＞ （東和薬品）	25mg/錠 ¥5.6/錠		関節ﾘｳﾏﾁ･変形性関節症,歯痛などの鎮痛･消炎,解熱	75～100mg分3 頓用25～50mg
ボルタレン ＜ジクロフェナク＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）		25mg/坐剤 ¥51.4/個	関節ﾘｳﾏﾁ･変形性関節症などの鎮痛,消炎,解熱	25～100mg分1～2 <小児>0.5～1mg/kg/回 1～2回/日
		50mg/坐剤 ¥63.1/個		
		ｹﾞﾙ(25g) ¥202.5/本	変形性関節症,肩関節周囲炎,腱･腱鞘炎,腱周囲炎,上腕骨上顆炎(ﾃﾆｽ肘等),筋肉痛(筋･筋膜性腰痛症等)外傷後の腫脹･疼痛の鎮痛,消炎	数回/日,塗擦
ジクロフェナクＮａ徐放カプセル ＜ジクロフェナク＞ （東和薬品）	37.5mg/C ¥7.6/C		関節ﾘｳﾏﾁ･変形性関節症などの鎮痛,消炎	75mg分2
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆ピラノ酢酸系				
オステラック ＜エトドラク＞ （あすか）	200mg/錠 ¥27.6/錠		関節ﾘｳﾏﾁ･変形性関節症などの鎮痛,消炎	400mg分2

1．解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆プロピオン酸系				
アドフィード <フルルビプロフェン> (科研)		ﾊﾟｯﾌﾟ(6枚/包) ¥109.8/包	変形性関節症,肩関節周囲炎,腱・腱鞘炎,腱周囲炎,上腕骨上顆炎(ﾃﾆｽ肘等),筋肉痛,外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛,消炎	2回/日,貼付
フルルバン <フルルビプロフェン> (科研)		ﾊﾟｯﾌﾟ(6枚/包,微温感ﾀｲﾌﾟ) ¥109.8/包		
モーラス <ケトプロフェン> (久光)		ﾊﾟｯﾌﾟ30mg(7枚/包) ¥159.6/包		
		ﾊﾟｯﾌﾟ60mg(7枚/包) 【院外のみ】 ¥256.2/包		
		ﾃｰﾌﾟL40mg(7枚/包) ¥305.9/包	腰痛症(筋・筋膜性腰痛症,変形性脊椎症,椎間板症,腰椎捻挫),変形性関節症,肩関節周囲炎,腱・腱鞘炎,腱周囲炎,上腕骨上顆炎(ﾃﾆｽ肘等),筋肉痛,外傷後の腫脹・疼痛,関節ﾘｳﾏﾁにおける関節局所の鎮痛	1回/日,貼付
ヤクバンテープ <フルルビプロフェン> (科研)		ﾃｰﾌﾟ剤(7枚/包) 【院外のみ】 ¥144.2/包	変形性関節症,肩関節周囲炎,腱・腱鞘炎,腱周囲炎,上腕骨上顆炎(ﾃﾆｽ肘等),筋肉痛,外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛,消炎	2回/日,貼付
ロキソプロフェンナトリウム <ロキソプロフェン> (日医工)	60mg/錠 ¥5.6/錠		変形性関節症,筋肉痛,外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎	180mg分3, 頓用60～120mg
		ﾃｰﾌﾟ50mg(7枚/包) ¥120.4/包	変形性関節症,筋肉痛,外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎	1日1回
		ﾃｰﾌﾟ100mg(7枚/包) ¥186.2/包		
		ﾊﾟｯﾌﾟ100mg(7枚/包) ¥186.2/包	変形性関節症,筋肉痛,外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎	
ロピオン <フルルビプロフェンアキセチル> (科研)		50mg(5mL)/管 ¥239/管	手術後,各種癌における鎮痛	50mg/回,静注

1．解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆オキシカム系				
モービック ＜メロキシカム＞ (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)	10mg/錠 ¥57.1/錠		関節ﾘｳﾏﾁ･変形性関節症,腰痛症,頸肩腕症候群,肩関節周囲炎などの鎮痛･消炎	10mg分1 【Max:15mg/日】
ロルカム ＜ロルノキシカム＞ (大正富山)	4mg/錠 ¥25.8/錠		①関節ﾘｳﾏﾁ･変形性関節症,腰痛症,頸肩腕症候群,肩関節周囲炎などの鎮痛･消炎 ②手術後,外傷後及び抜歯後の消炎･鎮痛	①12mg分3 【Max:18mg】 ②8mg/回 【Max:8mg/回,24mg/日,3日間】
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆コキシブ系				
セレコックス ＜セレコキシブ＞ (ｱｽﾃﾗｽ)	100mg/錠 ¥68.7/錠		①関節ﾘｳﾏﾁ ②変形性関節症,腰痛症,肩関節周囲炎,頸肩腕症候群,健･腱鞘炎 ③手術後,外傷後並びに抜歯後の消炎･鎮痛	①1回100～200mg1日2回朝夕食後 ②1回200mg1日2回朝夕食後 ③初回のみ400mg, 2回目以降1回200mg1日2回 頓用:初回のみ400mg,2回目以降 6時間以上あけて1回200mg
■その他				
アルツディスポ ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (科研)		25mg(2.5mL)/筒 ¥1453/筒	変形性膝関節症,肩関節周囲炎,関節ﾘｳﾏﾁにおける膝関節痛	1筒/週,連続5回 膝関節腔内又は肩関節内投与
サイビスクディスポ ＜ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマー＞ (帝人ﾌｧｰﾏ)		16mg(2mL)/筒 ¥9924/筒	保存的非薬物治療及び経口薬物治療が十分奏効しない疼痛を有する変形性膝関節症の患者の疼痛緩和	1筒/週,連続3回膝関節腔内
ノイロトロピン ＜ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液＞ (日本臓器)		3mL/管 ¥167/管	①腰痛症,頚肩腕症候群,症候性神経痛,皮膚疾患に伴う掻痒,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎 ②ｽﾓﾝ(SMON)後遺症状の冷感･痛み･異常知覚	①1管分1皮下,筋注,静注 ②2管分1静注
	4単位/錠 ¥32.4/錠		腰痛症,頚肩腕症候群,肩関節周囲炎,変形性関節症, 帯状疱疹後神経痛	4錠分2
リリカ ＜プレガバリン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/C ¥77/C		①神経障害性疼痛 ②線維筋痛症に伴う疼痛	①初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300mg分2 【Max:600mg,分2】 ②初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300～450mg分2 【Max:450mg,分2】
	75mg/C ¥128.1/C			

２．消炎酵素剤

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エンピナースＰＤ ＜プロナーゼ＞ （科研）	18000単位/錠 【院外のみ】 ¥18.4/錠		副鼻腔炎の腫脹の緩解,気管支炎･肺結核･気管支喘息の喀痰喀出困難	3錠分3
ノイチーム ＜リゾチーム＞ （ｴｰｻﾞｲ）	30mg/錠 ¥18.4/錠		痰の切れが悪く喀出回数の多い気管支炎,気管支喘息,気管支拡張症の喀痰喀出困難	60～270mg分3
	90mg/錠 ¥32.6/錠			

３．抗リウマチ剤

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アザルフィジンＥＮ ＜サラゾスルファピリジン＞ （参天）	500mg/錠 ¥65.6/錠		関節ﾘｳﾏﾁ	1000mg分２
メタルカプターゼ ＜Ｄ－ペニシラミン＞ （大正富山）	100mg/C 【院外のみ】 ¥63.4/C		①関節ﾘｳﾏﾁ ②ｳｨﾙｿﾝ病	①100～300mg分1～3食間空腹時【Max:600mg】 ②1000mg（600～1400mg）分1～数回食前空腹時
リウマトレックス ＜メトトレキサート＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）	2mg/C ¥285.9/C		関節ﾘｳﾏﾁ	6mg/週 6mg/日，分1～2，6日間休薬 または2mg/回を初日から2日目にかけて12時間間隔で3回投与，5日間休薬 【Max:16mg/週】
リマチル ＜ブシラミン＞ （参天）	100mg/錠 ¥67.9/錠			300mg分3

主なNSAIDsの分類

基本構造分類				一般名	採用医薬品
酸性活性体	アリールカン酸系	カルボン酸系	サリチル酸系	アスピリン	アスピリン バファリン配合錠A330
			アントラニル酸系	メフェナム酸	ポンタールｼﾛｯﾌﾟ
		酢酸系	フェニル酢酸系	ジクロフェナク	ｼﾞｸﾛﾌｪﾅｸ錠・ﾎﾞﾙﾀﾚﾝ坐剤・ｹﾞﾙ ジクロフェナクSRｶﾌﾟｾﾙ
				フェルビナク	セルタッチﾊﾟｯﾌﾟ
			ピラノ酢酸系	エトドラク	オステラック錠
			インドール酢酸系		
		プロピオン酸系	フェニール系	ケトプロフェン	モーラスﾊﾟｯﾌﾟ30・60 モーラスﾃｰﾌﾟL
				フルルビプロフェン	ロピオン注 アドフィードﾊﾟｯﾌﾟ フルルバンﾊﾟｯﾌﾟ ヤクバンﾃｰﾌﾟ
				ロキソプロフェン	ロキソプロフェン錠 ロキソプロフェンﾊﾟｯﾌﾟ・ﾃｰﾌﾟ
			オキシカム系	メロキシカム	モービック錠
				ロルノキシカム	ロルカム錠
			コキシブ系	セレコキシブ	セレコックス錠
塩基性活性体					

貼付剤一覧

貼付剤	アドフィードﾊﾟｯﾌﾟ・セルタッチﾊﾟｯﾌﾟ・モーラスﾊﾟｯﾌﾟ30/60・ﾛｷｿﾌﾟﾛﾌｪﾝﾊﾟｯﾌﾟ（冷感ﾀｲﾌﾟ） フルルバンﾊﾟｯﾌﾟ（微温感ﾀｲﾌﾟ）
テープ剤	モーラスﾃｰﾌﾟL・ロキソプロフェンﾃｰﾌﾟ

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ヒスタミン薬				
アタラックスＰ ＜ヒドロキシジン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/C ¥6.6/C		①神経症 ②蕁麻疹,皮膚疾患に伴う掻痒	①75～150mg分3～4 ②50～75mg分2～3
		25mg(1mL)/管 ¥56/管	神経症,麻酔前投薬,術前･術後の悪心･嘔吐の防止	25～50mg/回静注 50～100mg/回筋注
セレスタミン ＜配合剤： ベタメタゾン０．２５ｍｇ, ｄ－クロルフェニラミン２ｍｇ＞ (MSD)	錠 ¥10.5/錠		蕁麻疹,湿疹･皮膚炎群,薬疹,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	1～8錠,分1～4
ペリアクチン ＜シプロヘプタジン＞ (日医工)	4mg/錠 ¥5.7/錠		蕁麻疹,枯草熱,皮膚疾患に伴う掻痒,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,血管運動性鼻炎, 感冒等上気道炎に伴うくしゃみ･鼻汁･咳嗽	4～12mg分1～3 <小児>0.25mg/kg
ポララミン ＜ｄ－クロルフェニラミン＞ (高田製薬)		5mg(1mL)/管 ¥58/管	蕁麻疹,枯草熱,皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹・皮膚炎,皮膚そう痒症,薬疹,咬刺症),ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,血管運動性鼻炎	1日1回5mg,皮下･筋注又は静注
■抗アレルギー薬　【抗ヒスタミン作用なし】				
リザベン ＜トラニラスト＞ (ｷｯｾｲ)	100mg/C ¥51.2/C		気管支喘息,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎,ｹﾛｲﾄﾞ肥厚性瘢痕	300mg分3 <小児>5mg/kg/日,分3
	細粒(100mg/g) ¥54.7/ｇ			

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗アレルギー薬　【抗ヒスタミン作用あり】				
アレジオン <エピナスチン> (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)	20mg/錠 ¥135/錠		①気管支喘息,蕁麻疹,湿疹･皮膚炎,皮膚掻痒症,痒疹,掻痒を伴う尋常性乾癬 ②ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	①20mg分1 ②10～20mg分1
	ＤＳ10mg/g ¥90.9/ｇ		①ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎 ②蕁麻疹,皮膚疾患(湿疹・皮膚炎,皮膚そう痒症)に伴うそう痒	①<小児>0.25～0.5mg/kg/日,分1【Max:20mg/日】 ②<小児>0.5mg/kg/日,分1【Max:20mg/日】
アレロック顆粒 <オロパタジン> (協和発酵ｷﾘﾝ)	顆粒(0.5g/包) ¥37.6/包		<成人>ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹･皮膚炎,痒疹,皮膚掻痒症,尋常性乾癬,多形滲出性紅斑) <小児>ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,皮膚疾患(湿疹･皮膚炎,皮膚掻痒症)に伴う掻痒	<成人および7歳以上>10mg分2朝･就寝前 <2歳以上7歳未満>5mg分2朝･就寝前
	顆粒(5mg/g) ¥75.2/ｇ			
オロパタジンＯＤ <オロパタジン> (Meiji)	5mg/錠 ¥30.5/錠			<7歳以上>10mg分2朝･就寝前
クラリチンレディタブ <ロラタジン> (ｼｵﾉｷﾞ)	10mg/錠 ¥94.5/錠		ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,皮膚疾患(湿疹・皮膚炎,皮膚そう痒症)に伴うそう痒	10mg分1 <小児>7歳以上に10mg分1
ザイザル <レボセチリジン> (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)	5mg/錠 ¥105.8/錠		<成人>ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,痒疹,湿疹･皮膚炎,皮膚掻痒症 <小児>ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,湿疹・皮膚炎・皮膚掻痒症に伴う掻痒	5mg分1就寝前【Max:10mg】 <7歳以上の小児>5mg分2,朝食後就寝前
	ＳＹ(0.5mg/mL) ¥19.6/mL			10mL分1就寝前【Max:20mL】 <6ヵ月以上1歳未満の小児>2.5mL分1 <1歳以上7歳未満の小児>5mL分2,朝食後就寝前 <7歳以上の小児>10mL分2,朝食後就寝前
ザジテン <ケトチフェン> (第一三共)	ＤＳ(1mg/g) ¥72.5/ｇ		気管支喘息,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,湿疹･皮膚炎,蕁麻疹,皮膚掻痒症	<小児>0.06mg/kg/日,分2
ジルテック <セチリジン> (第一三共)	10mg/錠 【院外のみ】 ¥102.3/錠		ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,痒疹湿疹･皮膚炎,皮膚掻痒症	10mg分1【Max:20mg】
タリオンＯＤ <ベシル酸ベポタスチン> (田辺三菱)	10mg/錠 ¥49.9/錠		<成人>ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹･皮膚炎,痒疹,皮膚そう痒症) <小児>ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,皮膚疾患(湿疹･皮膚炎,皮膚そう痒症)に伴うそう痒	7歳以上の小児および成人:1回10mg1日2回
ディレグラ <フェキソフェナジン・プソイドエフェドリン> (ｻﾉﾌｨ)	錠 ¥63.2/錠		ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	4錠,分2空腹時

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
フェキソフェナジン <フェキソフェナジン> (日医工)	60mg/錠 ¥41.4/錠		ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,蕁麻疹,皮膚湿疹に伴う掻痒(湿疹･皮膚炎,皮膚掻痒症,ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎)	120mg分2
ホモクロミン <ホモクロルシクリジン> (ｴｰｻﾞｲ)	10mg/錠 【院外のみ】 ¥6.5/錠		皮膚疾患に伴う掻痒,蕁麻疹,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	3～6錠分3

■ロイコトリエン受容体拮抗薬

プランルカスト <プランルカスト> (東和薬品)	112.5mg/C ¥33.7/C		気管支喘息 ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	450mg分2,朝夕食後
	ＤＳ(100mg/g) ¥46.5/ｇ			<小児>7mg/kg/日,分2朝夕食後 【Max:10mg/kg/日,450mg/日】

■減感作療法薬

ノイロトロピン <ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液> (日本臓器)		3mL/管 ¥167/管	①腰痛症,頚肩腕症候群,症候性神経痛,皮膚疾患に伴う掻痒,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎 ②ｽﾓﾝ(SMON)後遺症状の冷感･痛み･異常知覚	①1管分1皮下,筋注,静注 ②2管分1静注
	4単位/錠 ¥32.4/錠		腰痛症,頚肩腕症候群,肩関節周囲炎,変形性関節症, 帯状疱疹後神経痛	4錠分2

■その他

アレルゲン診断用エキス・抗原別各種 <ー> (鳥居)		ﾊﾞｲｱﾙ 【用時購入】	ｱﾚﾙｷﾞｰ性疾患のｱﾚﾙｷﾞｰの確認	【DI照会参照】
アレルゲン治療用エキス・抗原別各種 <ー> (鳥居)		ﾊﾞｲｱﾙ 【用時購入】	気管支喘息	
強力ネオミノファーゲンシーＰ <グリチルリチン配合剤> (ｴｰｻﾞｲ)		20mL/管 ¥127/管	①慢性肝疾患における肝機能異常の改善 ②湿疹･皮膚炎,蕁麻疹,皮膚そう痒症,薬疹･中毒疹,口内炎,小児ｽﾄﾛﾌﾙｽ,ﾌﾘｸﾃﾝ	①40～100mL分1静注または点静 ②5～20mL分1静注
強力ネオミノファーゲンシー <グリチルリチン配合剤> (ｴｰｻﾞｲ)		40mL/ｼﾘﾝｼﾞ ¥349/ｼﾘﾝｼﾞ		
グリチロン <グリチルリチン配合剤> (ｴｰｻｲ)	錠剤 ¥5.6/錠		慢性肝疾患,脱毛症	6～9錠分3 <小児>3錠分3

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■成長ホルモン剤				
ノルディトロピンS ＜ソマトロピン＞ (ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ)		10mg/1.5mL ¥66689/筒	①骨端線閉鎖を伴わない成長ﾎﾙﾓﾝ分泌不全性低身長症 ②骨端線閉鎖を伴わないﾀｰﾅｰ症候群における低身長 ③骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症における低身長 ④成人成長ﾎﾙﾓﾝ分泌不全症(重症に限る) ⑤骨端線閉鎖を伴わないSGA(small-for-gestational age)性低身長症	①0.175mg/kg/週,皮下(分6～7) ②③0.35mg/kg/週,皮下(分6～7) ④0.021mg/kg/週,皮下(分6～7) 【Max:0.084mg/kg/週,1mg/日】 ⑤0.23mg/kg/週,皮下(分6～7) 【Max:0.47mg/kg/週】
■ゴナドトロピン剤 ＜胎盤性性腺刺激ホルモン＞				
ＨＣＧ (持田)		5000単位/管(1mL溶解液付) ¥444/管	【DI照会参照】	
■下垂体後葉ホルモン剤				
アトニンO ＜オキシトシン＞ (あすか)		5単位(1mL)/管 ¥160/管	①子宮収縮の誘発・促進,子宮出血の治療(分娩誘発,微弱陣痛) ②弛緩出血,胎盤娩出前後,子宮復古不全,流産,人工妊娠中絶 ③帝王切開術	①5～10単位点静 0.25～0.5単位から開始,陣痛発来・胎児心拍により漸増,皮下,筋注 ②5～10単位点静,静注,筋注 ③5～10単位点静,静注,子宮筋注
デスモプレシン ＜デスモプレシン＞ (協和発酵ｷﾘﾝ)		ｽﾌﾟﾚｰ(125μg/5mL/本)(１噴霧=2.5μg) ¥4965.2/本	中枢性尿崩症	1日1～2回,1回5～10μg鼻腔内投与 〈小児〉1日1～2回,1回2.5～5μg鼻腔内投与
ピトレシン ＜バソプレシン＞ (第一三共)		20単位(1mL)/管 ¥756/管	①下垂体性尿崩症 ②食道静脈瘤出血の緊急処置 ③下垂体性又は腎性尿崩症の鑑別診断 ④腸内ｶﾞｽの除去	①2～10単位/回　1日2～3回皮下,筋注 ②20単位　0.1～0.4単位/分持続静注 ③5～10単位皮下,筋注又は0.1単位静注 ④5～10単位皮下,筋注
ミニリンメルトＯＤ ＜デスモプレシン＞ (協和発酵ｷﾘﾝ)	120μg/錠 ¥202.7/錠		①尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症 ②中枢性尿崩症	①1回120～240μg,1日1回就寝前 ②1回60～120μg,1日1～3回 【Max:240μg/回,720μg/日】

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■副腎髄質ホルモン剤				
アドレナリン注０．１%シリンジ ＜エピネフリン＞ （ﾃﾙﾓ）		1mg(1mL)/筒 ¥165/筒	気管支喘息･百日咳に基づく気管支痙攣の緩解, 急性低血圧･ショック時の補助治療, 心停止の補助治療	0.2～1mg/回皮下,筋注 0.25mg/回静注
ノルアドリナリン ＜ｄｌ－ノルエピネフリン＞ （第一三共）		1mg(1mL)/管 ¥92/管	急性低血圧,ｼｮｯｸ時の補助療法	1mg/回静注 0.1～1mg/回皮下
ボスミン ＜エピネフリン＞ （第一三共）		外用液(1mg/mL,100mL/本) ¥8/mL	気管支喘息,百日咳等に基づく気管支痙攣,開放隅角緑内障,虹彩毛様体炎,出血の予防と治療,局所麻酔時作用延長	【DI照会参照】
■甲状腺ホルモン剤				
チラーヂン ＜乾燥甲状腺＞ （あすか）	散(100mg/g) 【院内製剤】 ¥9.9/g		甲状腺機能低下症, 甲状腺腫, 慢性甲状腺炎,粘液水腫,ｸﾚﾁﾝ病,甲状腺機能障害のよる習慣性流産及び不妊症	15～40mgから開始, 維持量40～200mg
チラーヂンＳ ＜レボチロキシン＞ （あすか）	散(100μg/g) ¥58/ｇ		乳幼児甲状腺機能低下症	乳幼児：10μg/kg/日,分1 未熟児：5μg/kg/日,分1より開始, 8日目より10μg/kg/日,分1
	25μg/錠 【院外のみ】 ¥9.6/錠		甲状腺機能低下症, 甲状腺腫,粘液水腫,ｸﾚﾁﾝ病	25～400μg分1 (開始量25～100μg,維持量100～400μg)
	50μg/錠 ¥9.6/錠			
■抗甲状腺剤				
チウラジール ＜プロピルチオウラシル＞ （田辺三菱）	50mg/錠 ¥9.6/錠		甲状腺機能亢進症	初期量：300～600mg, 維持量：50～100mg分1～2 〈小児〉 初期量：10～15歳:200～300mg分2～4, 維持量：50～100mg分1～2 〈妊婦〉 初期量：150～300mg, 維持量：50～100mg分1～2
メルカゾール ＜チアマゾール＞ （中外）	5mg/錠 ¥9.6/錠			初期量：30～60mg 維持量：5～10mg分1～2 〈小児〉 初期量：10～15歳:20～30mg分2～4, 維持量：5～10mg分1～2 〈妊婦〉 初期量：15～30mg 維持量：5～10mg分1～2

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■副腎皮質ホルモン剤				
ケナコルトA <トリアムシノロンアセトニド> (ﾌﾞﾘｽﾄﾙ)		40mg(1mL)/瓶 ¥857/瓶	【DI照会参照】	【DI照会参照】
コートリル <ヒドロコルチゾン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	10mg/錠 ¥7.3/錠			10～120mg分1～4
ソルコーテフ <ヒドロコルチゾン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)		100mg(溶解液2mL付)/瓶 ¥336/瓶		【DI照会参照】
		500mg(4mL)/瓶 ¥1337/瓶	急性循環不全(出血性ｼｮｯｸ,外傷性ｼｮｯｸ),ｼｮｯｸ様状態における救急、気管支喘息	
ソル・メルコート <メチルプレドニゾロン> (富士製薬)		40mg/瓶(溶解液1mL付) ¥199/瓶	①急性循環不全(出血性ｼｮｯｸ) ②急性循環不全(感染性ｼｮｯｸ) ③腎臓移植に伴う免疫反応の抑制 ④受傷後８時間以内の急性脊髄損傷患者(運動機能障害,感覚機能障害を有する場合)における神経機能障害の改善 ⑤ﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群 ⑥気管支喘息(40mg,125mg) <他の抗悪性腫瘍薬との併用> ⑦再発又は難治性の悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(40mg,125mg,500mg) ⑧多発性硬化症の急性増悪	①125～2000mg/回静注,点静 ②1000mg/回1～2回 ③40～1000mg/日静注,点静 ④30mg/kg/回,15分間点静 45分間休薬後5.4mg/kg/時間23時間点静 ⑤500～1000mg/日静注,点静 〈小児>30mg/kg/日静注,点静【Max:1000mg/日】 ⑥40mg～125mg/初回静注,点静 その後40mg～80mg/4～6時間 〈小児〉1.0～1.5mg/kg/初回静注,点静 その後1.0mg～1.5mg/4～6時間 ⑦250～500mg/日,5日間静注,点静 3～4週ごとに繰り返す ⑧500～1000mg/日静注,点静
		125mg/瓶(溶解液2mL付) ¥393/瓶		
		500mg/瓶(溶解液8mL付) ¥1175/瓶		
		1000mg/瓶(溶解液16mL付) ¥2027/瓶		
デカドロン <デキサメタゾン> (日医工)	ｴﾘｷｼﾙ0.1mg/mL ¥4.2/mL		【DI照会参照】	0.5～8mg分1～4 <小児>0.15～4mg分1～4
	0.5mg/錠 ¥5.6/錠			0.5～8mg分1～4
	4mg/錠 ¥37.8/錠			
デキサート <デキサメタゾン> (富士製薬)		1.65mg(2mg/0.5mL)/管 ¥56/管	【DI照会,添付文書参照】	【DI照会参照】
		6.6mg(8mg/2mL)/瓶 ¥182/瓶		
ハイドロコートン <ヒドロコルチゾン> (日医工)		100mg(2mL)/瓶 ¥425/瓶	外科的ｼｮｯｸ,ｼｮｯｸ様状態における救急,術中･術後のｼｮｯｸ	100～1000mg/回, 1～数回/日静注,点静

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
プレドニゾロン <プレドニゾロン> (武田)	散(10mg/g) ¥8.9/g		【DI照会参照】	5～60mg分1～4
	5mg/錠 ¥9.6/錠			
プレドニン <プレドニゾロン> (ｼｵﾉｷﾞ)		20mg/管 ¥212/管		【DI照会参照】
リンデロン <ベタメタゾン> (ｼｵﾉｷﾞ)	0.5mg/錠 ¥15.6/錠			0.5～8mg分1～4
		2mg(0.5mL)/管 ¥189/管		
フロリネフ <フルドロコルチゾン> (ﾌﾞﾘｽﾄﾙ)	0.1mg/錠 ¥345.3/錠		塩喪失性先天性副腎皮質過形成症,塩喪失性副腎皮質機能不全(ｱｼﾞｿﾝ病)	0.02～0.1mg分2～3 【Max:<新生児>0.025mg/日,<1歳未満>0.05mg/日】
プレドネマ <プレドニゾロン> (杏林)		注腸用 ¥737.3/本	潰瘍性大腸炎, 限局性腸炎	1個/回,直腸内注入

■男性ホルモン剤

テスチノンデポー <テストステロン> (持田)		125mg(1mL)/管 【用時購入】 ¥659/管	①男性性腺機能不全 ②造精機能障害による男子不妊症 ③再生不良性貧血,骨髄繊維症,腎性貧血	①100mg/回,7～10日間毎,又は250mg/回2～4週間毎筋注 ②50～250mg/回,2～4週間毎筋注(無精子症迄) ③100～250mg/回,1～2週間毎筋注

■蛋白同化ホルモン剤

プリモボラン <メテノロン> (ﾊﾞｲｴﾙ)	5mg/錠 ¥12/錠		骨粗鬆症,再生不良性貧血	10～20mg分2～3

■卵胞ホルモン剤

エストラーナテープ <エストラジオール> (久光)		ﾃｰﾌﾟ(0.72mg/枚) ¥111.4/枚	①更年期障害及び卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状(Hot flush及び発汗),泌尿生殖器の萎縮症状 ②閉経後骨粗鬆症 ③性腺機能低下症,性腺摘出又は原発性卵巣不全による低ｴｽﾄﾛｹﾞﾝ症	①②1回1枚(0.72mg),下腹部･臀部のいずれかに貼付,2日毎貼り替え ③1回1枚(0.72mg)から開始,<小児>1回0.09mgから開始,その後0.18mg,0.36mg,0.72mgと段階的に増量　下腹部･臀部のいずれかに貼付,2日毎貼り替え
エストリール <エストリオール> (持田)	1mg/錠 ¥15.9/錠		①更年期障害,膣炎,子宮頸管炎,子宮膣部びらん ②老人性骨粗鬆症	①0.1～2mg分1～2 ②2mg分2
プレマリン <エストロゲン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	0.625mg/錠 【院外のみ】 ¥12.4/錠		①更年期障害,卵巣欠落症状,卵巣機能不全症 ②機能性子宮出血,膣炎	①0.625～1.25mg/日 ②0.625～3.75mg/日

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■黄体ホルモン剤				
デュファストン <ジドロゲステロン> (第一三共)	5mg/錠 ¥38/錠		①切迫流早産,習慣性流早産,黄体機能不全による不妊症,月経困難症,機能性子宮出血,無月経,月経周期異常 ②子宮内膜症	①5～15mg分1～3 ②5～20mg
ヒスロンH <メドロキシプロゲステロン> (協和発酵ｷﾘﾝ)	200mg/錠 ¥285.3/錠		①乳癌 ②子宮体癌(内膜癌)	①600～1200mg分3 ②400～600mg分2～3
プロゲデポー <ヒドロキシプロゲステロン> (持田)		125mg(1mL)/管 【用時購入】 ¥183/管	無月経,機能性子宮出血,黄体機能不全による不妊症,切迫流早産,習慣性流早産	65～125mg/回筋注
プロベラ <メドロキシプロゲステロン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)	2.5mg/錠 【院外のみ】 ¥27.7/錠		無月経,月経周期異常,月経量異常,機能性子宮出血,黄体機能不全による不妊症,切迫流早産,習慣性流早産	2.5～15mg分1～3
プロスタール <クロルマジノン> (あすか)	25mg/錠 ¥101/錠		①前立腺肥大症 ②前立腺癌	①50mg分2 ②100mg分2

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■混合ホルモン剤				
プラノバール ＜配合剤： ノルゲストレル０．５ｍｇ， エチニルエストラジオール０．０５ｍｇ＞ （あすか）	錠 ¥14.2/錠		①機能性子宮出血 ②月経困難症，月経周期異常(稀発月経，頻発月経)，過多月経，子宮内膜症，卵巣機能不全	①1錠/日，7～10日間 ②1錠/日，月経周期第5日より約3週間
ヤーズ ＜配合剤， 淡赤色： ドロスピレノン３ｍｇ， エチニルエストラジオール０．０２ｍｇ 白色：プラセボ＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）	錠 【院外のみ】 ¥7097.8/シート		月経困難症	1錠/日，28日間連日投与
ルナベルＬＤ ＜配合剤： ノルエチステロン１ｍｇ， エチニルエストラジオール０．０３５ｍｇ＞ （日本新薬）	錠 【院外のみ】 ¥336.6/錠			1錠/日，21日間投与，7日間休薬
ルナベルＵＬＤ ＜配合剤： ノルエチステロン１ｍｇ， エチニルエストラジオール０．０２ｍｇ＞ （日本新薬）	錠 【院外のみ】 ¥336.6/錠			
■経口避妊剤				
トリキュラー２１ ＜配合剤， 赤褐色： レボノルゲストレル０．００５０ｍｇ エチニルエストラジオール０．００３０ｍｇ 白色： レボノルゲストレル０．０７５ｍｇ エチニルエストラジオール０．０４０ｍｇ 淡黄褐色： レボノルゲストレル０．１２５ｍｇ エチニルエストラジオール０．０３０ｍｇ＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）	錠 【院外のみ】 ¥1396/錠		避妊	１錠/日，21日間 ７日間休薬
■子宮内黄体ホルモン放出システム				
ミレーナ ＜レボノルゲストレル＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）		52mg/ｼｽﾃﾑ ¥26984.3/個	①避妊【保険適応外】 ②過多月経	1回1個，子宮腔内に装着(装着後は5年以内に除去又は交換)

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他のホルモン剤				
クロミッド <クロミフェン> (ｼｵﾉｷﾞ)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥108.3/錠		排卵障害に基づく不妊症の排卵誘発	50～100mg(5日間)
サンドスタチン <オクトレオチド> 略名：SAS (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)		100μg(1mL)/管 ¥2987/管	①消化管ﾎﾙﾓﾝ産生腫瘍(VIP産生腫瘍,ｶﾙﾁﾉｲﾄﾞ症候群の特徴を示すｶﾙﾁﾉｲﾄﾞ腫瘍,ｶﾞｽﾄﾘﾝ産生腫瘍),末端肥大症･下垂体性巨人症における成長ﾎﾙﾓﾝ,ｿﾏﾄﾒｼﾞﾝC分泌過剰状態 ②進行･再発癌患者の緩和医療における消化管閉塞に伴う消化器症状の改善	①100～300μg分2～3皮下 ②300μg/日を24時間持続皮下
スプレキュア <ブセレリン> (持田)		点鼻液(15mg/10mL/瓶) 【用時購入】 ¥9990.2/瓶	①子宮内膜症,子宮筋腫 ②中枢性思春期早発症	①1噴霧/回(片鼻腔),3回/日, 月経周期1～2日目より投与 ②1噴霧/回(片鼻腔),3～6回/日
ディナゲスト <ジエノゲスト> (持田)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥475.5/錠		子宮内膜症	2mg分2 (月経周期第2～5日より連続投与)
ナサニール <ナファレリン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)		点鼻液(10mg/5mL/瓶) 【院外のみ】 ¥9674.6/瓶	子宮内膜症,子宮筋腫	1噴霧/回(片鼻腔),2回/日, 月経周期1～2日目より投与
プレグランディン <ゲメプロスト> (小野薬品)		膣坐剤(1mg/個) ¥4139.9/個	妊娠中期における治療的流産	1個/回/3時間毎, 後膣円蓋部挿入 【1日に5個まで】
プロスタグランジンE2 <ジノプロストン> (科研)	0.5mg/錠 ¥277.1/錠		妊娠末期における陣痛誘発,陣痛促進	1錠/回,1時間毎, 6回/1ｸｰﾙ
プロスタルモンF <ジノプロスト> (小野薬品)		1mg(1mL)/管 ¥925/管	①妊娠末期における陣痛誘発･陣痛促進･分娩促進 ②腸管蠕動亢進 ③治療的流産	①1～2mg(0.1μg/kg/min) 静注,点静,持続注入 ②1～2mg(10～20μg/min)/回,1日2回点静 ③卵膜外投与【DI照会参照】
ゴナックス <デガレリクス> (ｱｽﾃﾗｽ)		80mg/瓶 ¥24370/瓶	前立腺癌	初回240mg(120mgずつ腹部2カ所に)皮下注 2回目以降80mg皮下注,4週間毎
		120mg/瓶 ¥29958/瓶		
ゾラデックス <ゴセレリン> (ｷｯｾｲ)		1.8mg/筒 ¥34314/ｷｯﾄ	子宮内膜症	1筒/4週間毎,前腹部皮下
ゾラデックス <ゴセレリン> (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		3.6mg/筒 ¥38888/ｷｯﾄ	前立腺癌,閉経前乳癌	

ホルモン剤

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
リュープリン ＜リュープロレリン＞ （武田）		1.88mg/ｷｯﾄ ¥31304/ｷｯﾄ	子宮筋腫，子宮内膜症	1.88mg（又は3.75mg）/回/4週皮下
		3.75mg/ｷｯﾄ ¥40975/ｷｯﾄ	①子宮筋腫，子宮内膜症 ②前立腺癌，閉経前乳癌	①1.88mg（又は3.75mg）/回/4週皮下 ②3.75mg/回/4週皮下
リュープリンＳＲ ＜リュープロレリン＞ （武田）		11.25mg/ｷｯﾄ ¥72978/ｷｯﾄ	前立腺癌， 閉経前乳癌	11.25mg/回/12週皮下

当院採用の主な副腎皮質ホルモン一覧　　月間薬事 2005.3 Vol.47, No.3 p43(399)

生物活性作用時間分類	一般名	商品名	規格	対応量*1 (mg)	力価比(/コルチゾール)*2		血中半減期 (hr)	生物学的半減期(hr)*3	副作用出現状況				
					抗炎症作用	電解質作用			HPA抑制量 (mg/day)*4	Na蓄積作用の強さ	食欲増加作用	精神変調	筋障害またはミオパチー
短時間型	ヒドロコルチゾン	コートリル錠	10mg	20	1	1	1.5	8～12	30	2+	2+	1+	1+
		ハイドロコートン注	100mg										
		ソルコーテフ注	100mg, 500mg										
中間型	プレドニゾロン	プレドニゾロン錠	5mg	5	4	0.8	2.75	12(18)～36	7.5	1+	3+	2+	1+
		プレドニゾロン散	10mg/g										
		プレドニン注	20mg										
	メチルプレドニゾロン	メドロール錠	4mg	4	5	0.5	3	12(18)～36	6	0	2+	1+	1+
		ソル・メルコート注	40mg,125mg, 500mg,1000mg										
	トリアムシノロン	ケナコルトA筋注用	40mg	4	5	0	4.2	24～48	6	0	0	−	3+
		ケナコルトA皮内用	50mg										
長時間型	デキサメタゾン	デカドロン錠	0.5mg	0.75	25～30	0	5	35～54	0.75～1	0	4+	4+	2+
		デカドロンエリキシル	0.1mg/mL										
		デカドロン注	1.65mg/0.5mL 6.6mg/2mL										
	ベタメタゾン	リンデロン錠	0.5mg	0.6	25～30	0	5	36～54	0.75～1	0	4+	?	2+
		リンデロン注	2mg/0.5mL										

*1: コルチゾールの1日平均分泌量(20mg)に対応する投与量を示す

*2: 副腎皮質ホルモンのコルチゾールは生理的糖質コルチコイドであり、糖代謝作用、抗炎症作用、および免疫抑制作用をもっている。さらにこの抗炎症作用を目的とするためには無視できない副作用として、ナトリウムの体内貯留など電解質(鉱質コルチコイド作用)を併せもっている

*3: HPA(Hypothalamic-Pituiary-Adrenocortical:視床下部-下垂体-副腎)系の分泌抑制作用から生物活性の半減期を測定

*4: 長期投与によりHPA系を抑制すると考えられる1日投与量

1．ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンA製剤				
チョコラA ＜レチノール＞ (ｴｰｻﾞｲ)		5万単位/管 ¥126/管	ﾋﾞﾀﾐﾝA欠乏症の治療,ﾋﾞﾀﾐﾝAの需要が増大し,食事からの摂取が不十分な際の補給,角化性皮膚疾患でﾋﾞﾀﾐﾝAの欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合	3000～100000単位,筋注
■ビタミンB1製剤				
アリナミンF ＜フルスルチアミン＞ (武田)	25mg/錠 ¥6/錠		ﾋﾞﾀﾐﾝB1欠乏症の予防･治療	25～100mg分1～3
■ビタミンB2製剤				
フラビタン ＜フラビンアデニンジヌクレオチド＞ (ﾄｰｱｴｲﾖｰ)	5mg/錠 ¥5.6/錠		ﾋﾞﾀﾐﾝB2欠乏症の予防･治療	5～45mg分1～3
■ビタミンB6製剤				
ビタミンB6 ＜ピリドキシン＞ (丸石製薬)	散(100mg/g) ¥22.9/g		ﾋﾞﾀﾐﾝB6欠乏症の予防及び治療,ﾋﾞﾀﾐﾝB6の需要が増大し食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患,妊産婦,授乳婦など),ﾋﾞﾀﾐﾝB6依存症(ﾋﾞﾀﾐﾝB6反応性貧血など),口角炎,口唇炎,舌炎,急･慢性湿疹,脂漏性湿疹,接触皮膚炎,末梢神経炎,放射線障害(宿酔)のうちﾋﾞﾀﾐﾝB6の欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合	10～100mg/日
ピドキサール ＜ピリドキサール＞ (中外)	10mg/錠 ¥5.6/錠		ﾋﾞﾀﾐﾝB6欠乏症の予防･治療 末梢神経炎	10～60mg分1～3
■ビタミンB12製剤				
メチコバール ＜メコバラミン＞ (ｴｰｻﾞｲ)	500μg/錠 ¥18.6/錠		末梢性神経障害	1500μg分3
		500μg(1mL)/管 ¥116/管	末梢性神経障害 巨赤芽球性貧血	500μg/日,3回/週,筋注,静注
■ビタミンB複合剤				
ビタメジン ＜配合剤＞ (第一三共)	ｶﾌﾟｾﾙ ¥5.6/C		ﾋﾞﾀﾐﾝ類の欠乏	3～4ｶﾌﾟｾﾙ/日
		ﾊﾞｲｱﾙ ¥128/瓶		1瓶/日,静注,点静

1．ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンC製剤				
シナール <アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム> (ｼｵﾉｷﾞ)	200mg/錠 ¥6.4/錠		ﾋﾞﾀﾐﾝCの欠乏状態	1～3錠/回,1～3回/日
ハイシー <アスコルビン酸> (武田)	顆粒(250mg/g/包) ¥6.2/包		ﾋﾞﾀﾐﾝC欠乏症の予防・治療	50～2000mg分1～数回
ビーシー <アスコルビン酸> (日医工)		500mg(2mL)/管 ¥82/管		50～2000mg分1～数回皮下・筋肉内・静注
■ビタミンD製剤				
アルファロール <アルファカルシドール> (中外)	液(0.5μg/mL) ¥75.7/mL		①慢性腎不全,骨粗鬆症 ②副甲状腺機能低下症,ﾋﾞﾀﾐﾝD抵抗性ｸﾙ病・骨軟化症	①0.5～1μg分1 <小児>0.01～0.03μg/kg/日分1 ②1～4μg分1 <小児>0.05～0.1μg/kg/日分1 <乳幼児>0.008～0.1μg/kg/日分1
オキサロール <マキサカルシトール> (中外)		5μg(1mL)/管 ¥1681/管	維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症	2.5～10μg/回/週3回 透析回路静脈側に注入（静注）
ロカルトロール <カルシトリオール> (杏林)	0.25μg/C ¥33.1/C		①骨粗鬆症 ②慢性腎不全 ③副甲状腺機能低下症,ﾋﾞﾀﾐﾝD抵抗性ｸﾙ病・骨軟化症	①0.5μg分2 ②0.25～0.75μg分1 ③0.5～2.0μg分1
ワンアルファ <アルファカルシドール> (帝人)	0.5μg/錠 ¥41/錠		①慢性腎不全,骨粗鬆症 ②副甲状腺機能低下症,ﾋﾞﾀﾐﾝD抵抗性ｸﾙ病・骨軟化症	①0.5～1μg分1 <小児>0.01～0.03μg/kg/日分1 ②1～4μg分1 <小児>0.05～0.1μg/kg/日分1 <乳幼児>0.008～0.1μg/kg/日分1
■ビタミンE製剤				
ユベラ <トコフェロール> (ｴｰｻﾞｲ)	50mg/錠 ¥5.6/錠		ﾋﾞﾀﾐﾝE欠乏症の予防・治療, 末梢循環障害	100～300mg分2～3

1．ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンK製剤				
カチーフN ＜フィトナジオン＞ (日本製薬)	5mg/錠 ¥17.8/錠		①ﾋﾞﾀﾐﾝK欠乏が推定される出血 ②ﾋﾞﾀﾐﾝK欠乏症の予防･治療 ③新生児の低ﾌﾟﾛﾄﾛﾝﾋﾞﾝ血症の予防	①5～15mg/日 ②20～50mg/日 ③10mg/日(母体に投与)
グラケー ＜メナテトレノン＞ (ｴｰｻﾞｲ)	15mg/C ¥34/C		骨粗鬆症における骨量･疼痛の改善	45mg分3
ケイツーN ＜メナテトレノン＞ (ｴｰｻﾞｲ)		10mg(2mL)/管 ¥84/管	①ﾋﾞﾀﾐﾝK欠乏による低ﾌﾟﾛﾄﾛﾝﾋﾞﾝ血症(胆道閉鎖･胆汁分泌不全,ｸﾏﾘﾝ系抗凝血薬投与中)分娩時出血 ②新生児低ﾌﾟﾛﾄﾛﾝﾋﾞﾝ血症 ③ｸﾏﾘﾝ系殺鼠剤中毒時における低ﾌﾟﾛﾄﾛﾝﾋﾞﾝ血症	①10～20mg静注 ②1～2mg/回,静注2～3回 ③20mg/回【Max:40mg/日】
ケイツー ＜メナテトレノン＞ (ｴｰｻﾞｲ)	ＳＹ(2mg/mL/包) ¥27.5/包		①新生児出血･新生児低ﾌﾟﾛﾄﾛﾝﾋﾞﾝ血症の治療 ②新生児･乳児ﾋﾞﾀﾐﾝK欠乏性出血症の予防	①2～6mg分1 ②1回2mg,1日1回 生後1ヶ月までに3回投与
■その他のビタミン				
ニコチン酸アミド ＜ニコチン酸アミド＞ (鳥居)	散(100mg/g) ¥11.9/ｇ		ﾆｺﾁﾝ酸欠乏症の予防･治療	25～200mg/日
パントール ＜パンテノール＞ (ﾄｰﾌｴｲﾖｰ)		100mg(1mL)/管 ¥56/管	①ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸欠乏症の予防･治療 ②術後腸管麻痺	①20～200mg分1～2筋注,静注 ②50～500mg/回, 1～3～(6)回/日筋注,静注
フォリアミン ＜葉酸＞ (日本製薬)	5mg/錠 ¥9.6/錠		葉酸欠乏症の予防･治療 吸収不全症候群	5～20mg分2～3 ＜小児＞5～10mg分2～3
■総合ビタミン剤				
パンビタン末 ＜ビタミン類＞ (武田)	末 ¥6.2/ｇ		本剤に含まれるﾋﾞﾀﾐﾝ類の需要が増大し,食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患,妊産婦,授乳婦等)	1～2ｇ/日
ビタジェクト ＜ビタミン類＞ (ﾃﾙﾓ)		ｷｯﾄ(A液5mL,B液5mL) ¥293/ｷｯﾄ	経口,経腸管栄養補給が不能又は不十分で高ｶﾛﾘｰ静脈栄養に頼らざるを得ない場合のﾋﾞﾀﾐﾝ補給	1ｷｯﾄ/日点静

２．ミネラル

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■カルシウム剤				
アスパラＣＡ ＜アスパラギン酸カルシウム＞ (田辺三菱)	200mg/錠 【Ca:1.3mEq/錠】 ¥5.6/錠		低ｶﾙｼｳﾑ血症に起因するﾃﾀﾆｰ･ﾃﾀﾆｰ関連症状,骨粗鬆症･骨軟化症･発育期･妊娠･授乳時におけるｶﾙｼｳﾑ補給	6錠分2～3
カルチコール ＜グルコン酸カルシウム＞ (日医工)		5mL/管 ¥64/管	【栄養輸液Ｉ-6参照】	
乳酸カルシウム ＜乳酸カルシウム＞ (吉田)	末(1g/包) 【Ca:6.5mEq/g】 ¥3.77/包		低ｶﾙｼｳﾑ血症に起因するﾃﾀﾆｰ,妊婦･産婦の骨軟化症,発育期におけるｶﾙｼｳﾑ補給	2～5g分2～5
乳酸カルシウム ＜乳酸カルシウム＞ (ﾏｲﾗﾝ)	末 【Ca:6.5mEq/g】 ¥3.77/ｇ			
■カリウム剤				
グルコンサンＫ ＜グルコン酸カリウム＞ (科研)	細粒(937mg/g) 【4mEq】 ¥9/ｇ		ｶﾘｳﾑ補給	30～40mEq分3～4
ＫＣＬ ＜塩化カリウム＞ (ﾃﾙﾓ)		10mEq/ｷｯﾄ(10mL) ¥187/ｷｯﾄ		【栄養輸液Ｉ-6参照】
スローケー ＜塩化カリウム＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	600mg/錠 【8mEq】 ¥7.3/錠			4錠分2
■鉄剤【含量はＦｅとしての量を表示】　＜内服剤＞				
インクレミン ＜溶性ピロリン酸第二鉄＞ (ｱﾙﾌﾚｯｻ･ﾌｧｰﾏ)	ＳＹ【Fe:6mg/mL】 ¥6.1/mL		鉄欠乏性貧血	<小児>0.6mL(4mg)/kg/日,分2～3,6～15歳10～15mL
クエン酸第一鉄Ｎａ ＜クエン酸第一鉄ナトリウム＞ (沢井)	50mg/錠 ¥5.6/錠			100～200mg分1～2
フェロミア ＜クエン酸第一鉄ナトリウム＞ (ｴｰｻﾞｲ)	顆粒【Fe:50mg/0.6g】 ¥16.6/ｇ			

２．ミネラル

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鉄剤【含量はＦｅとしての量を表示】　＜注射剤＞				
フェジン ＜含糖酸化鉄＞ （日医工）		2mL/管【Fe:40mg】 ¥62/管	鉄欠乏性貧血	40～120mg静注
■ヨウ素剤				
ヨウレチン ＜ヨウ素レシチン＞ （第一薬品産業）	50μg/錠 ¥6.1/錠		ﾖｰﾄﾞ不足による甲状腺腫･甲状腺機能低下症,中心性網膜症･網膜出血･硝子体出血･混濁･網膜中心静脈閉塞症,小児気管支喘息･喘息様気管支炎	300～600μg(10μg/Kg)分2～3
■その他				
エレメンミック ＜配合剤＞ （味の素）		2mL/管 ¥246/管	高ｶﾛﾘｰ静脈栄養時の亜鉛･鉄･銅･ﾏﾝｶﾞﾝ･ﾖｳ素の補給	1管/日点静

１．栄養剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■半消化態栄養剤				
エネーボ ＜略＞ (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)	250mL/缶(300kcal) ¥177.5/缶		経口的食事摂取困難な場合の経腸栄養補給	1000～1667mL/日 経管投与：62.5～104mL/時間
エンシュア・リキッド ＜略＞ (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)	250mL/缶(250kcal) ﾌﾚｰﾊﾞｰ:ﾊﾞﾆﾗ ｺｰﾋｰ ¥152.5/缶			1500～2250mL/日 経管投与：100～150mL/時間
エンシュア・Ｈ 【用時購入】 ＜略＞ (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)	250mL/缶(375kcal) ﾌﾚｰﾊﾞｰ:ﾊﾞﾆﾗ ﾊﾞﾅﾅ ｺｰﾋｰ 黒糖 ﾒﾛﾝ ¥270/缶			1000～1500mL/日 経管投与：50～100mL/時間【Max：400mL/時間】
ラコールＮＦ ＜略＞ (大塚)	200mL/ｱﾙﾐﾊﾟｳﾁ(200kcal) ﾌﾚｰﾊﾞｰ:ﾐﾙｸ ｺｰﾋｰ ¥168/包			1200～2000mL/日を経鼻ﾁｭｰﾌﾞ,胃瘻又は腸瘻より胃,十二指腸又は空腸に1日12～24時間かけて投与 投与速度75～125mL/hr 経口摂取可能な場合は1日1回又は数回に分けて経口投与することもできる
■成分栄養剤				
エレンタール ＜略＞ (味の素)	80g/包 ¥436.8/包		経口的食事摂取困難な場合の経管栄養補給	1回1包を300mLになるように微温湯に溶かし24時間持続注入,480～640g/日分数回経口
エレンタールＰ ＜略＞ (味の素)	40g/包 ¥284.8/包		新生児･乳幼児の栄養管理	<小児>1歳未満20～30g/kg 1～2歳15～25g/kg 2歳以上3～10g/kgから開始し,投与量を増やし3～10日間で維持量に達する, 分数回,24時間持続投与
■肝不全用成分栄養剤				
ヘパンＥＤ ＜略＞ (味の素)	80g/包 ¥740/包		肝性脳症を伴う慢性肝不全の栄養状態の改善	1回1包を約250mLの温湯に溶かし1日2回食事と共に摂取
■分岐鎖アミノ酸製剤				
リーバクト ＜略＞ (味の素)	顆粒(4.15g/包) ¥220.4/包		低ｱﾙﾌﾞﾐﾝ血症	3包分3

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	会社名	容量　mL	ｐＨ	浸透圧比	熱量 kcal/袋	電　解　質　(mEq/袋)										その他	ﾌﾞﾄﾞｳ糖g/袋	アミノ酸g/袋	N含量g/袋
						Na+	K+	Ca2+	Mg2+	Cl-	SO4 2-	Ace-	Glu-	Pmg	ZnμM				
■高カロリー輸液　（ Ace-：Acetate-、Glu-：Gluconate-、Lac-：Lactate- ）																			
エルネオパ１号	（大塚）	1500mL/袋 ¥1862/袋	約5.1	約4	840	75	33	6	6	75	6	61		235	45	ﾋﾞﾀﾐﾝ 微量元素	180	30	4.7
エルネオパ２号		1500mL/袋 ¥2023/袋	約5.3	約5	1230		41	7.6	7.5		8	75		280			262.5	45	7.05
ハイカリック１号	（ﾃﾙﾓ）	700mL/袋 ¥357/袋	3.5～4.5	約4	480		30	8.5	10		10	25	8.5	150	10		120		
ハイカリック２号				約6	700												175		
ハイカリックＲＦ		500mL/袋 ¥440/袋	4.0～5.0	約11	1000	25		3	3	15			3			Lac-: 15	250		
フルカリック１号		903mL/袋 ¥1014/袋	4.5～5.5	約4	560	50	30	8.5	10	49		11.9	8.5	250	20	ﾋﾞﾀﾐﾝ	120	20	3.12
フルカリック２号		1003mL/袋 ¥1071/袋	4.8～5.8	約5	820												175	30	4.68
フルカリック３号		1103mL/袋 ¥1217/袋	4.9～5.9	約6	1160												250	40	6.24

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	容量　mL	ｐＨ	浸透圧比	熱量 kcal/Ｌ	電　解　質　（ｍＥｑ／Ｌ）											その他	アミノ酸濃度 %	Ｎ含量 g /L	E/N比	BCAA比率 %
					Na+	K+	Ca2+	Mg2+	Cl-	SO4 2-	Ace-	Lac-	Cit-	PmM	ZnμM					
■アミノ酸輸液　（　Ace-：Acetate-、Glu-：Gluconate-、Lac-:Lactate-、Cit-:Citrate3-　）																				
アミノレバン （大塚）	500mL/袋 ¥796/本	約5.9	約3	319.6	約14				約94								7.99	12.2	1.09	35.5
ネオアミュー （味の素）	200mL/袋 ¥502/袋	6.6～7.6	約2	236	約2						約47						5.9	8.1	3.21	42
ビーフリード （大塚）	500mL/袋 ¥472/袋	約6.7	約3	420	35	20	5	5	35	5	16	20	6	10	5	ﾌﾞﾄﾞｳ糖：75g/L ﾁｱﾐﾝ(VB1)：1.5mg	3	4.7	1.44	30
プレアミンＰ （扶桑）	200mL/袋 ¥421/袋	6.5～7.5	2.3～2.8	304	約3						約80						7.6	11.75	1.26	39
プロテアミン１２ （ﾃﾙﾓ）	200mL/袋 ¥343/袋	5.7～6.7	約5	454	約150				約150								11.36	18.15	0.88	21.3

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電　解　質　（mEq／L）						
					Na＋	K＋	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
■糖質輸液											
５％ブドウ糖 （大塚）	20mL/管 ¥65/管	3.5～6.5	約1	200							
	50mL/本 ¥95/本										
	100mL/本 ¥113/本										
	250mL/本 ¥139/本										
	500mL/本 ¥174/本										
１０％ブドウ糖 （大塚）	500mL/袋 ¥174/本		約2	400							
２０％ブドウ糖 （扶桑）	20mL/管 ¥61/管		約5	800							
５０％ブドウ糖 （大塚）	200mL/袋 ¥251/袋		約12	2000							
ブドウ糖注５０％シリンジ （ﾃﾙﾓ）	20mL/筒 ¥124/管										
■脂肪輸液											
イントラリポス１０％ （大塚製薬）	250mL/袋 ¥664/袋	6.5～8.5	約1	1100							ﾀﾞｲｽﾞ油：100g/L 卵黄ﾚｼﾁﾝ：12g/L ｸﾞﾘｾﾘﾝ：22g/L

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電　解　質　（mEq／L）						
					Na＋	K＋	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
■電解質輸液　（　Lac-：Lactate-、Ace-：Acetate-、Cit：Citrate3-　）											
ヴィーンD （興和創薬）	500mL/本 ¥193/本	4.0～6.5	約2	200	130	4	3	109		28	ﾌﾞﾄﾞｳ糖:50g/L
生食注シリンジ （大塚）	10mL/筒 ¥114/筒	4.5～8.0	約1		154			154			
生理食塩液 （大塚）	20mL/管 ¥61/管	4.5～7.0									
	50mL/本 ¥110/本										
	100mL/本 ¥113/本										
生理食塩液キットH （ﾆﾌﾟﾛﾌｧｰﾏ）	100mL/本 ¥169/本										
生理食塩液ソフトバック （大塚）	250mL/袋 ¥130/袋										
	500mL/袋 ¥149/袋										
	1000mL/袋 ¥233/袋										
生理食塩液プラボトル （大塚）	1000mL/本 ¥233/本										
生理食塩液ＰＬ （扶桑）	2000mL/袋 ¥408/袋	4.5～8.0									
ソルデム１ （ﾃﾙﾓ）	200mL/袋 ¥131/袋	4.5～7.0		104	90			70	20		ﾌﾞﾄﾞｳ糖:26g/L
	500mL/袋 ¥135/袋										

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質（mEq／L）						
					Na＋	K＋	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
ソルデム２ （ﾃﾙﾓ）	500mL/袋 ¥126/袋	4.5～7.0	約1	58	77.5	30		59	48.5		ﾌﾞﾄﾞｳ糖:14.5g/L
ソルデム３Ａ （ﾃﾙﾓ）	200mL/袋 ¥125/袋 500mL/袋 ¥125/袋	5.0～6.5	約1	172	35	20		35	20		ﾌﾞﾄﾞｳ糖:43g/L
ソルデム３ＡＧ （ﾃﾙﾓ）	200mL/袋 ¥127/袋 500mL/袋 ¥128/袋		約2	300							ﾌﾞﾄﾞｳ糖:75g/L
ソルラクト（乳酸リンゲル） （ﾃﾙﾓ）	500mL/袋 ¥155/袋	6.0～7.5	約0.9		131	4	3	110	28		
デノサリン１ （ﾃﾙﾓ）	500mL/袋 ¥130/袋	3.5～6.0	約1	100	77			77			ﾌﾞﾄﾞｳ糖:25g/L
ビカーボン （陽進堂）	500mL/袋 ¥233/袋	6.8～7.8	0.9～1.0		135	4	3	113			Mg2+:1 HCO3-:25
フィジオ１４０ （大塚）	500mL/袋 ¥182/袋	5.9～6.2	約1	40	140			115		25	Mg2+:2 ﾌﾞﾄﾞｳ糖:10g/L

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電　解　質　（mEq／L）						
					Na＋	K＋	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
■電解質補正液＜注射剤＞　（　Asp-：Aspartate-、Glu-：Gluconate-　）											
カルチコール ＜グルコン酸カルシウム＞ （日医工）	5mL/管 ¥64/管	6.0～8.2	約0.9				390				Glu-:390
ＫＣＬ ＜塩化カリウム＞ （ﾃﾙﾓ）	10mEq/ｷｯﾄ (10mL) ¥187/ｷｯﾄ	5.0～6.5	約6			1000		1000			
補正用塩化ナトリウム （大塚）	20mL/管 ¥57/管	5.0～7.5	約7		1000						
補正用硫酸マグネシウム （大塚）	20mL/管 ¥93/管	5.5～7.5	約2								Mg2+:1000 SO4 2-:1000
リン酸Ｎａ補正液 （大塚）	20mL/管 ¥133/管	6.2～6.8	約3		750						P：10mmol(310mg)/20mL　(0.5mmol(15.5mg)/mL)
メイロン（炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ） ＜炭酸水素ナトリウム＞ （大塚）	20mL/管 ¥94/管 250mL/袋 ¥243/袋	7.6～8.6	約5		833						HCO3-:833
■電解質補正液＜経口＞〈電解質濃度mEq/L（１包を水100mlに溶解した時）〉											
ソリタＴ顆粒３号 （味の素）	4g/包 ¥34.4/包			13/包	35	20		30			Mg2+:3 Po4:5mmol/L Citrate3-:20

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質（mEq／L）						
					Na+	K+	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
■その他の輸液											
アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液 （大塚製薬）	500mL/袋 ¥2260/袋	約7.3	約1		145	2.8	2.3	129			HCO3-: 23.1 ﾌﾞﾄﾞｳ糖: 0.61g/L
グリセオール （中外）	200mL/袋 ¥277/袋	3.0～6.0	約7	637	154			154			濃ｸﾞﾘｾﾘﾝ:100g/L
蒸留水（注射用水） （大塚）	20mL/管 ¥61/管										
	100mL/本 ¥114/本										
	500mL/本 ¥163/本										
	1000mL/本 ¥216/本										
低分子デキストランL （大塚）	250mL/袋 ¥482/袋	5.0～7.5	約1		130	4	3	109			ｺﾛｲﾄﾞ浸透圧89.5mmHg 平均分子量４万
ヘスパンダー （ﾌﾚｾﾞﾆｳｽｶｰﾋﾞｼﾞｬﾊﾟﾝ）	500mL/袋 ¥777/袋	5.0～7.0		40	105.6		2.7	92.3			ﾋﾄﾞﾛｷｼｴﾁﾙﾃﾞﾝﾌﾟﾝ （平均分子量7万） 30.0g/袋 ｺﾛｲﾄﾞ浸透圧18.6mmHg ﾌﾞﾄﾞｳ糖10g/L
ボルベン （ﾌﾚｾﾞﾆｳｽｶｰﾋﾞｼﾞｬﾊﾟﾝ）	500mL/袋 ¥970/袋	4.0～5.5			154			154			ﾋﾄﾞﾛｷｼｴﾁﾙﾃﾞﾝﾌﾟﾝ （平均分子量13万） 30.0g/袋
マンニットール２０％ （陽進堂）	300mL/本 ¥411/本	4.5～7.0	約5								Dﾏﾝﾆﾄｰﾙ:200g/L

２．輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電　解　質　（mEq／L）						
					Na＋	K＋	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
■人工透析用剤　（　Lac-：Lactate-、Ace-：Acetate-　）											
キンダリー液ＡＦ３号 （扶桑）	A液6L,B液7.56L ¥2277/本	4.5～4.9	0.7～0.8		140	2	2.5	114.5		8	Mg2+:1.0 HCO3-: 25 ﾌﾞﾄﾞｳ糖:1.5g/L
Ｄドライ２．５Ｓ （日機操）	A剤2670.4g,B剤661.6g ¥1273/ｾｯﾄ							112.5			Mg2+:1.0 HCO3-: 25 ﾌﾞﾄﾞｳ糖:1.0g/L
■腹膜透析液											
ミッドペリックＬ１３５ （ﾃﾙﾓ）	ｼﾝｸﾞﾙﾊﾞｯｸ1.5L/袋 ¥824/袋	6.3～7.3	1.2		135		2.5	98	40		Mg2+:0.5 ﾌﾞﾄﾞｳ糖:13.5g/L
	ｼﾝｸﾞﾙﾊﾞｯｸ2L/袋 ¥1085/袋										
	ﾂｲﾝﾊﾞｯｸ1L/袋 ¥1379/袋										
	ﾂｲﾝﾊﾞｯｸ1.5L/袋 ¥1701/袋										

１．止血剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■対血管性止血剤				
アドナ ＜カルバゾクロム＞ （田辺三菱）	30mg/錠 ¥11.4/錠		毛細血管抵抗性の減弱及び透過性亢進による出血（皮膚・粘膜,眼底,腎,子宮,術中・術後の出血）	30～90mg分3
		50mg(10mL)/管 ¥62/管		25～100mg/日静注,点静
■抗プラスミン剤				
トランサミン ＜トラネキサム酸＞ （第一三共）	250mg/C ¥10.4/C		線溶亢進が関与すると考えられる出血,薬疹 【その他はDI照会参照】	750～2000mg分3～4
トランサミン５％ ＜トラネキサム酸＞ （第一三共）		250mg(5mL)/管 ¥64/管		250～2500mg分1～2筋注,静注,点静
トランサミン１０％ ＜トラネキサム酸＞ （第一三共）		1000mg(10mL)/管 ¥128/管		
■食道静脈瘤硬化剤				
エトキシスクレロール ＜ポリドカノール＞ （ｶｲｹﾞﾝ）		0.3g/瓶(1%液) ¥19476/瓶	食道静脈瘤の止血・硬化退縮	1穿刺あたり10～30mgを注入 【Max:300mg】
オルダミン ＜オレイン酸モノエタノールアミン＞ （あすか）		1g/瓶 ¥19416/瓶		静脈瘤1条あたり1～5mLを注入 【Max:20mL】
■凝固因子製剤				
トロンビン ＜トロンビン＞ （持田）		液(5000単位/PB) ¥1036/ｷｯﾄ	毛細管出血	希釈して噴霧,散布,経口投与 【注射厳禁】
経口用トロンビン ＜トロンビン＞ （持田）	細粒(5000単位/包) ¥959.7/包		上部消化管出血	200～400単位/mL経口投与
ＰＰＳＢ－ＨＴ ＜乾燥濃縮人血液凝固第９因子＞ （日本製薬）		500単位(25mL溶解液付)/瓶 ¥31822/瓶	【特定生物由来製品のため患者さんへの説明および同意書が必要です】 血液凝固第IX因子欠乏患者の出血傾向の抑制	1回200～1200単位,静注
フィブロガミンＰ ＜乾燥濃縮人血液凝固第１３因子＞ （CSLﾍﾞｰﾘﾝｸﾞ）		瓶 【用時購入】 ¥8173/瓶	【特定生物由来製品のため患者さんへの説明および同意書が必要です】 ①先天性及び後天性血液凝固第XIII因子欠乏による出血傾向 ②縫合不全及びろう孔 ③ｼｪｰﾝﾗｲﾝ･ﾍﾉｯﾎ紫斑病	①4～20mL/日静注 ②12～24mL/日静注 【急性炎症,急性感染の消退後、血清総蛋白,血清ｱﾙﾌﾞﾐﾝ等に異常がなく,縫合不全,ろう孔が存続し血液凝固第13因子が70%以下に低下している患者に使用。5日間投与しても改善が認められない場合は中止】 ③<小児>12～24mL分1静注 【血液凝固第13因子が90%以下に低下している患児に使用。原則的に3日間投与】

１．止血剤

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他の製剤				
プロタミン ＜プロタミン＞ （持田）		10mL/瓶 ¥671/瓶	ﾍﾊﾟﾘﾝの中和	ﾍﾊﾟﾘﾝ1000単位に対して1～1.5mLを投与
■外用止血剤				
サージセル ＜酸化セルロース＞ （ｼﾞｮﾝｿﾝ･ｴﾝﾄﾞ･ｼﾞｮﾝｿﾝ）		綿型（2.5cm×5.1cm） ¥1721.5/枚	各種手術時の止血及び創腔充填	出血創面に直接適用，創腔に充填
		ﾆｭｰﾆｯﾄ（2.5cm×8.9cm） ¥1933.6/枚		
		ﾆｭｰﾆｯﾄ（15.2cm×22.9cm） ¥2940/枚		

２．血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヘパリン製剤				
クレキサン <エノキサパリンナトリウム> （科研）		2000単位/筒（0.2mL） ¥1066/筒	股関節全置換術,膝関節全置換術,股関節骨折手術下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 静脈血栓塞栓症の発症ﾘｽｸの高い,腹部手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制	2000IU/回,皮下
ダルテパリン <ダルテパリン> （ﾆﾌﾟﾛ）		5000単位/ｼﾘﾝｼﾞ（5mL） ¥780/ｼﾘﾝｼﾞ	①潅流血液の凝固防止 ②DIC	①【DI照会参照】 ②75単位/kg/日,24時間持続静注
ノボ・ヘパリン <ヘパリンナトリウム> （持田）		5000単位/瓶（5mL） ¥204/瓶	①DIC,血栓塞栓の治療及び予防 ②輸血時の血液凝固防止 ③血液検査時の血液凝固防止	①APTTが正常の2～3倍になるように調節 皮下,筋注,静注,点静 <小児>100単位/kg/回1日4回静注 ②血液100mLに対して400～500単位 ③血液20mLに対して100単位
フラグミン <ダルテパリン> （ｷｯｾｲ）		5000単位/瓶（5mL） ¥1217/瓶	①潅流血液の凝固防止 ②DIC	①【DI照会参照】 ②75単位/kg/日,24時間持続静注
ヘパフラッシュ <ヘパリンナトリウム> （ﾃﾙﾓ）		100単位/mLｼﾘﾝｼﾞ（10mL） ¥153/ｼﾘﾝｼﾞ	静脈内留置ﾙｰﾄの血液凝固防止	静脈内留置ﾙｰﾄを充填するのに十分な量
ヘパリンナトリウム <ヘパリンナトリウム> （陽進堂）		5000単位/管（5mL） ¥160/管	①DIC,血栓塞栓の治療及び予防 ②輸血時の血液凝固防止 ③血液検査時の血液凝固防止	①APTTが正常の2～3倍になるように調節 皮下,筋注,静注,点静 <小児>100単位/kg/回1日4回静注 ②血液100mLに対して400～500単位 ③血液20mLに対して100単位
ヘパリンカルシウム <ヘパリンカルシウム> （持田）		5000単位/筒（0.2mL） ¥387/筒	①DIC ②血栓塞栓の治療及び予防	①初回15000～20000単位,以後10000～15000単位/回,1日2回皮下 ②5000単位/回1日2回,7～10日間皮下
ヘパリンカルシウム <ヘパリンカルシウム> （沢井）		20000単位/瓶（0.8mL） ¥698/瓶		①5000～10000単位/回,1日2回皮下 ②5000単位/回1日2回,7～10日間皮下
ヘパリンＮａ透析用 <ヘパリンナトリウム> （ﾆﾌﾟﾛ）		5000単位(20mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥209/ｼﾘﾝｼﾞ	血液透析の体外循環装置使用時の血液凝固の防止	全身ﾍﾊﾟﾘﾝ化法: 透析開始に先だって,1000～3000単位を投与,透析開始後は,1時間当り500～1500単位を持続的に,又は1時間毎に間歇的に追加。 局所ﾍﾊﾟﾘﾝ化法: 1時間当り1500～2500単位持続注入し,体外灌流時に硫酸ﾌﾟﾛﾀﾐﾝで中和。

２．血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Ｘa阻害剤				
イグザレルト ＜リバーロキサバン＞ (ﾊﾞｲｴﾙ)	10mg/錠 ¥383/錠		非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制	15mg分1
	15mg/錠 ¥545.6/錠			
エリキュース ＜アピキサバン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	2.5mg/錠 ¥149/錠			10mg分2 腎障害時：腎機能に応じて5mg分2
	5mg/錠 ¥272.8/錠			
リクシアナ ＜エドキサバン＞ (第一三共)	15mg/錠 ¥408.8/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制 ③膝関節全置換術,股関節全置換術,股関節骨折手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制	①②体重60kg以下:1日1回30mg 体重60kg以上:1日1回60mg(腎機能,併用薬に応じて1日1回30mg) ③1日1回30mg(腎機能に応じて1日1回15mg)
	30mg/錠 ¥748.1/錠			
	60mg/錠 ¥758.1/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制	①②体重60kg以下:1日1回30mg 体重60kg以上:1日1回60mg(腎機能,併用薬に応じて1日1回30mg)
■経口抗凝固剤				
ワーファリン ＜ワルファリン＞ (ｴｰｻﾞｲ)	顆粒(2mg/g) ¥930/ｇ		血栓塞栓の治療及び予防	<成人>1～5mg/日,分1 <小児>12ヵ月未満:0.16mg/kg/日 1歳以上15歳未満:0.04～0.1mg/kg/日 PT(1.5～2.0),TT(10～25)でｺﾝﾄﾛｰﾙ(疾患により異なる)
	1mg/錠 ¥9.6/錠			
■直接トロンビン阻害剤				
プラザキサ ＜ダビガトラン＞ (日本ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰ)	75mg/C ¥136.4/C		非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制	220mg～300mg分2
	110mg/C ¥239.3/C			
■血液凝固阻止剤				
アンスロビンＰ ＜アンチトロンビンⅢ＞ (CSLﾍﾞｰﾘﾝｸﾞ)		500単位/瓶(溶解液10mL付) ¥27522/瓶	①先天性ATⅢ欠乏に基づく血栓形成傾向 ②ATⅢ欠乏に基づく汎発性DIC【ATⅢ70%以下】	①1000～3000単位(20～60単位/kg)/日,静注,点静 ②1500単位(30単位/kg)/日静注,点静【ﾍﾊﾟﾘﾝと併用】 原則3(～5)日間。
		1500単位/瓶(溶解液30mL付) ¥72255/瓶		
リコモジュリン ＜トロンボモデュリンアルファ＞ (旭化成ﾌｧｰﾏ)		12800単位/瓶 ¥39448/瓶	汎発性血管内血液凝固症（DIC）	380U/kg分1,点静

２．血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■血小板凝集抑制剤				
アンプラーグ ＜サルポグレラート＞ （田辺三菱）	100mg/錠 ¥126/錠		慢性動脈閉塞症	300mg分3
イコサペント酸エチル粒状カプセル ＜イコサペント酸エチル＞ （沢井製薬）	900mg/包 ¥48.4/包		①閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍,疼痛及び冷感の改善 ②高脂血症	①1回600mg1日3回 ②1回900mg1日2回または 1回600mg1日3回 【Max:1回900mg1日3回】
エフィエント ＜プラスグレル＞ （第一三共）	3.75mg/錠 ¥282.7/錠		経皮的冠動脈形成術が適用される急性冠症候群(不安定狭心症,非ST上昇心筋梗塞,ST上昇心筋梗塞),安定狭心症,陳旧性心筋梗塞	投与開始日1回20mg, 以後1日1回3.75mg
	5mg/錠 ¥359.8/錠			
シロスタゾールＯＤ ＜シロスタゾール＞ （沢井製薬）	100mg/錠 ¥39.5/錠		慢性動脈閉塞症に基づく潰瘍,疼痛及び冷感等の虚血性諸症状の改善 脳梗塞(心原性脳塞栓症を除く)発症後の再発抑制	200mg分2
ノバスタンＨＩ ＜アルガトロバン＞ （田辺三菱）		10mg(2mL)/管 ¥3327/管	①慢性動脈閉塞症 ②脳血栓症急性期(発症後48時間以内,ﾗｸﾅ除く) ③先天性ATⅢ欠乏患者,ATⅢ低下患者,ﾍﾊﾟﾘﾝ起因性血小板減少症(HIT)Ⅱ患者における血液体外循環時の潅流血液の凝固防止(血液透析) ④ﾍﾊﾟﾘﾝ起因性血小板減少症(HIT)Ⅱにおける経皮的冠ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ施行時の血液の凝固防止 ⑤ﾍﾊﾟﾘﾝ起因性血小板減少症(HIT)Ⅱにおける血栓症の発症抑制	①20mg分2点静2～3hr ②2日間60mg24時間持続点適,その後の5日間20mg分2点静3hr ③開始時回路に10mg,開始後25mg/hrより投与し,5～40mg/hrを目安 ④0.1mg/kg,3～5分で静注,術後4時間まで6μg/kg/min持続静注,以後継続が必要な場合0.7μg/kg/min持続静注 ⑤0.7μg/kg/minより点静開始し,持続点静
バイアスピリン ＜アスピリン＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）	100mg/腸溶錠 ¥5.6/錠		①狭心症(慢性安定狭心症,不安定狭心症),心筋梗塞, 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA),脳梗塞)における血栓・塞栓形成の抑制, 冠動脈ﾊﾞｲﾊﾟｽ術(CAGB),経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後における血栓・塞栓の抑制 ②川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む)	①1錠分1 【Max:300mg】 ②＜急性期有熱期間＞ 30～50mg/kg/日,分3 ＜解熱後の回復期から慢性期＞ 3～5mg/kg/日,分1
パナルジン ＜チクロピジン＞ （ｻﾉﾌｨ）	100mg/錠 ¥55.1/錠		①手術後血栓･塞栓の治療 ②慢性動脈閉塞症 ③虚血性脳血管障害 ④くも膜下出血術後の脳血管攣縮	①③200～300mg分2～3 ②300～600mg分2～3（200mg分1も可） ④300mg分3

２．血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
バファリン８１ｍｇ ＜アスピリン（８１ｍｇ）・ダイアルミネート＞ （ｴｰｻﾞｲ）	錠 ¥5.6/錠		①狭心症(慢性安定狭心症,不安定狭心症),心筋梗塞における血栓･塞栓の抑制 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA),脳梗塞)冠動脈ﾊﾞｲﾊﾟｽ術(CAGB),経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後における血栓･塞栓形成の抑制 ②川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む)	①1錠分1 【Max:4錠】 ②<急性期>30～50mg/kg分3 <回復期～慢性期>3～5mg/kg分1
プラビックス ＜クロピドグレル＞ （ｻﾉﾌｨ）	25mg/錠 ¥112.5/錠		①虚血性脳血管障害(心原性脳塞栓症を除く)後の再発抑制 ②経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される急性冠症候群(不安定狭心症,非ST上昇心筋梗塞,ST上昇心筋梗塞),安定狭心症,陳旧性心筋梗塞 ③末梢動脈疾患における血栓・塞栓形成の抑制	①1日1回75mg ②投与開始日1回300mg, 以後1日1回75mg ③1日1回75mg
	75mg/錠 ¥282.7/錠			
ベラサスＬＡ ＜ベラプロスト＞ （科研）	60μg/錠 【院外のみ】 ¥242.6/錠		肺動脈性肺高血圧症	120μg分2から開始し,漸次増量 【Max:360μg/日】
ベラプロストＮａ ＜ベラプロスト＞ （東和薬品）	20μg/錠 ¥24.4/錠		①慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍,疼痛及び冷感の改善 ②原発性肺高血圧症	①120μg分3 ②60～180μg分3～4
リマプロストアルファデクス ＜リマプロストアルファデクス＞ （日医工）	5μg/錠 ¥29.3/錠		①閉塞性血栓血管炎 ②腰部脊柱管狭窄症	①30μg分3 ②15μg分3

３．その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■エリスロポエチン製剤				
エスポー <エポエチンアルファ> (協和発酵ｷﾘﾝ)		750単位(0.5mL)/筒 ¥710/筒	未熟児貧血	【投与対象：Hb12g/dL未満を目安】 1回200単位/kg,週2回皮下
エスポー皮下用 <エポエチンアルファ> (協和発酵ｷﾘﾝ)		24000単位(0.5mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥22848/ｼﾘﾝｼﾞ	①腎性貧血 ②自己血貯血	①【DI照会参照】 ②【Hb13g/dl未満の場合は初回採血1週間前から、13～14g/dlの場合は初回採血後より皮下】 【初回採血は、800mL貯血の場合は手術2週間前、1200mL貯血の場合は手術3週間前を目安とする】 24000単位/回,週1回
■ダルベポエチン製剤				
ネスプ <ダルベポエチンアルファ> (協和発酵ｷﾘﾝ)		10μg(1mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥2651/ｼﾘﾝｼﾞ	①腎性貧血 ②骨髄異形性症候群に伴う貧血	①≪血液透析患者≫ 【初回用量】下記を週1回静注 20μg/回 EPO製剤からの切替え時:15～60μg/回 <小児>0.33μg/kg/回 【維持用量】下記を週1回静注 15～60μg/回 <小児>5～60μg/回 【維持用量(貧血改善後の維持期)】 その時点での1回投与量の2倍量を開始用量として,30～120μg/回(小児:10～120μg),2週に1回静注も可【Max:180μg/回】 ≪腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者≫ 【初回用量】下記を2週に1回皮下又は静注 30μg/回 EPO製剤からの切替え時:30～120μg/回 <小児>0.5μg/kg(Max:30μg)/回 EPO製剤からの切替え時:10～60μg/回 【維持用量】下記を2週に1回皮下又は静注 30～120μg/回 <小児>5～120μg/回 【維持用量(貧血改善後の維持期)】 その時点での1回投与量の2倍量を開始用量として,60～180μg(小児:10～180μg)/回,4週に1回皮下注または静注も可 【Max:180μg/回】 ②240μg/回,週1回皮下注
		20μg(1mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥4787/ｼﾘﾝｼﾞ		
		30μg(1mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥6834/ｼﾘﾝｼﾞ		
		40μg(1mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥8538/ｼﾘﾝｼﾞ		
		60μg(0.6mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥12195/ｼﾘﾝｼﾞ		
		120μg(0.6mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥21657/ｼﾘﾝｼﾞ		
		180μg(0.9mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥30509/ｼﾘﾝｼﾞ		

３．その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Ｇ－ＣＳＦ製剤				
グラン <フィルグラスチム> （協和発酵ｷﾘﾝ）		75μg(0.3mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥9481/ｼﾘﾝｼﾞ	①造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進 ②HIV感染症の治療に支障を来す好中球減少症 ③骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症 ④再生不良性貧血に伴う好中球減少症 ⑤先天性･特発性好中球減少症 ⑥急性白血病【癌化学療法による好中球減少症】 ⑦悪性ﾘﾝﾊﾟ腫･小細胞肺癌,胚細胞腫瘍(睾丸腫瘍,卵巣腫瘍等)･神経芽細胞腫,小児がん【癌化学療法による好中球減少症】 ⑧その他のがん腫【癌化学療法による好中球減少症】 ⑨同種及び自家末梢血幹細胞採取時のﾌｨﾙｸﾞﾗｽﾁﾑ単独投与による動員【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑩自家末梢血幹細胞採取時の癌化学療法剤投与終了後のﾌｨﾙｸﾞﾗｽﾁﾑ投与による動員【造血幹細胞の末梢血中への動員】	①300μg/㎡,分1点静<小児>同量 投与開始：造血幹細胞移植施行翌日ないし５日後から 投与中止：好中球数5000/μl以上 ②200μg/㎡,分1点静<小児>同量 投与開始：好中球数1000/μl未満の時 投与中止：投与期間は2週間を目安とするが,好中球数3000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ③100μg/㎡,分1点静 投与開始：好中球数1000/μl未満の時 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ④400μg/㎡,分1点静<小児>同量 投与開始：好中球数1000/μl未満の時 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ⑤50μg/㎡,分1皮下<小児>同量 投与開始：好中球数1000/μl未満の時 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ⑥200μg/㎡,分1点静, 100μg/㎡,分1皮下<小児>同量 投与開始：化学療法剤投与終了後(翌日以降)で、末梢血中に骨髄芽球が認められない時 投与中止：好中球数5000/μｌ以上 ⑦50μg/㎡,分1皮下 100μg/㎡,分1点静<小児>同量 投与開始：化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止：好中球数5000/μl以上 ⑧50μg/㎡,分1皮下 100μg/㎡,分1点静<小児>同量 投与開始：好中球数1000/μl未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満の時また好中球数1000/μl未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満が観察され、引き続き同一の化学療法を施行する時は次回以降は好中球数1000μl未満 投与中止：好中球数5000/μl以上 ⑨400μg/㎡,分1又は分2,5日間連日又は末梢血幹細胞採取終了時まで連日皮下 投与開始：好中球数1500/μl(白血球数3000/μl)未満 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ⑩400μg/㎡,分1又は分2 末梢血幹細胞採取終了時まで連日皮下 投与開始：好中球数1000/μl(白血球数2000/μl)未満 <小児>好中球数500/μl(白血球数1000/μl)未満 投与中止：好中球数5000/μl以上 【詳しくはＤＩ照会参照】
		150μg(0.6mL)/ｼﾘﾝｼﾞ ¥18936/ｼﾘﾝｼﾞ		
グランＭ <フィルグラスチム> （協和発酵ｷﾘﾝ）		300μg(0.7mL)/管 ¥23475/管		
ジーラスタ <ペグフィルグラスチム> （協和発酵ｷﾘﾝ）		3.6mg(0.36mL)/筒 ¥106,660/筒	がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制	がん化学療法剤投与終了後の翌日以降に化学療法1ｻｲｸﾙあたり1回3.6mg皮下注

３．その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ノイトロジン ＜レノグラスチム＞ （中外）		250μg/瓶 【用時購入】 ¥24566/瓶	①造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進 ②HIV感染症の治療に支障を来す好中球減少症 ③骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症 ④再生不良性貧血に伴う好中球減少症 ⑤先天性･特発性好中球減少症 ⑥免疫抑制療法(腎移植)に伴う好中球減少症 ⑦急性骨髄性白血病,急性ﾘﾝﾊﾟ性白血病【癌化学療法による好中球減少症】 ⑧悪性ﾘﾝﾊﾟ種･小細胞肺癌,胚細胞腫瘍(睾丸腫瘍,卵巣腫瘍等)･神経芽細胞腫,小児がん【癌化学療法による好中球減少症】 ⑨その他のがん腫【癌化学療法による好中球減少症】 ⑩免疫抑制療法(腎移植)に伴う好中球減少症【癌化学療法による好中球減少症】 ⑪癌化学療法終了後に末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑫自家末梢血幹細胞移植を目的として本剤単独で末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑬末梢血幹細胞移植ﾄﾞﾅｰに対して本剤単独で末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】	①5μg/kg,分1点静<小児>同 投与開始：造血幹細胞移植施行翌日ないし5日後から 投与中止：好中球数5000/μl以上 ②5μg/kg,分1点静<小児>同 投与開始：好中球数1000/μl未満 投与中止：投与期間は2週間を目安とするが,好中球数3000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ③5μg/kg,分1静注 投与開始：好中球数1000/μl未満 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ④5μg/kg,分1静注 <小児>5μg/kg,分1静注,皮下 投与開始：好中球数1000/μl未満 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ⑤2μg/kg,分1静注･皮下<小児>同 投与開始：好中球数1000/μl未満 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ⑥2μg/kg,分1皮下<小児>同 投与開始：好中球数1500/μl(白血球数3000/μl)未満 投与中止：好中球数5000/μl以上になれば減量あるいは投与中止 ⑦5μg/kg,分1点静,2μg/kg分1皮下<小児>同 投与開始：化学療法剤投与終了後(翌日以降)で、末梢血中に骨髄芽球が認められない時 投与中止：好中球数5000/μl以上 ⑧2μg/kg,分1皮下5μg/kg,分1点静<小児>同 投与開始：化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止：好中球数5000/μl以上 ⑨2μg/kg,分1皮下,5μg/kg,分1点静<小児>同 投与開始：好中球数1000/μl未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満の時,また好中球数1000/μl未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満が観察され,引き続き同一の化学療法を施行する時は次回以降は好中球数1000μl未満 投与中止：好中球数5000/μl以上 ⑩2μg/kg,分1皮下 投与開始：好中球数1500/μl(白血球数3000/μl)未満 投与中止：好中球数5000/μl以上 ⑪5μg/kg,分1～2,ｱﾌｪﾚｰｼｽ終了時まで皮下【Max:10μg/kg/日】<小児>同 投与開始：化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止：ｱﾌｪﾚｰｼｽ終了前に白血球数が50000/μl以上に増加した場合は減量し、減量後、白血球数が75000/μlに達した場合は中止 ⑫10μg/kg,分1～2皮下,4～6日間ｱﾌｪﾚｰｼｽ終了時まで<小児>同 投与中止：ｱﾌｪﾚｰｼｽ終了前に白血球数が50000/μl以上に増加した場合は減量し、減量後、白血球数が75000/μlに達した場合は中止 ⑬10μg/kg,分1～2皮下,4～6日間ｱﾌｪﾚｰｼｽ終了時まで 投与中止：ｱﾌｪﾚｰｼｽ終了前に白血球数が50000/μl以上に増加した場合は減量し、減量後、白血球数が75000/μlに達した場合は中止 【詳しくはＤＩ照会参照】

■その他

セファランチン ＜セファランチン＞ （化研生薬）	1mg/錠 【院外のみ】 ¥8.9/錠		①放射線による白血球減少症 ②脱毛症	①3～6mg分2～3 ②1.5～2mg分2～3

1．解毒剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■出血性膀胱炎防止薬				
ウロミテキサン ＜メスナ＞ (ｼｵﾉｷﾞ)		100mg(1mL)/管 ¥426/管	①ｲﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ投与又は②ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ(造血幹細胞移植の前治療)投与に伴う泌尿器系障害(出血性膀胱炎,排尿障害等)の発現抑制	①1回量300～600mg(ｲﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ1日量の20%相当量)を1日3回(ｲﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ投与時,4時間後,8時間後)静注,【Max:ｲﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ1日量の最大100%相当量】 ②ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ1日量の40%相当量を1回量とし,1日3回(ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ投与時,4時間後,8時間後)30分かけて点静
		400mg(4mL)/管 ¥999/管		
■その他				
クレメジン ＜球形吸着炭＞ (田辺三菱)	2g/包 ¥205.6/包		慢性腎不全	6g分3
デスフェラール ＜デフェロキサミン＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)		500mg/瓶 ¥1630/瓶	原発性･続発性ﾍﾓｸﾛﾏﾄｰｼｽ	1000mg分1～2
デトキソール ＜チオ硫酸ナトリウム＞ (日医工)		2g(20mL)/管 ¥483/管	①ｼｱﾝ･ｼｱﾝ化合物による中毒 ②ﾋ素剤による中毒	①12.5～25g/回静注 ②1～2g静注
パム ＜プラリドキシムヨウ化メチル＞ (大日本住友)		500mg(20mL)/管 ¥617/管	有機ﾘﾝ剤の中毒	1g/回静注
バル ＜ジメルカプロール＞ (第一三共)		100mg(1mL)/管 ¥1615/管	ﾋ素･水銀･鉛･銅･金･ﾋﾞｽﾏｽ・ｸﾛﾑ･ｱﾝﾁﾓﾝの中毒	第1日目10mg/kg分4 第2日目以降6日間2.5mg/kg分1 〈重症緊急中毒症状〉 最初2日間15mg/kg分6 3日目10mg/kg分4 以降10日間あるいは回復する迄毎日5mg/kg分2
メタルカプターゼ ＜D－ペニシラミン＞ (大正富山)	100mg/C 【院外のみ】 ¥63.4/C		①ｳｨﾙｿﾝ病(肝ﾚﾝｽﾞ核変性症) ②関節ﾘｳﾏﾁ ③鉛・水銀・銅の中毒	①1000mg(600～1400mg)分1～数回食前空腹時 ②100～300mg分1～3食間空腹時 【Max:600mg】 ③600～1400mg,数回食前空腹時 〈小児〉20～30mg/kg/日,数回食前空腹時 【Max:1000mg/日】
薬用炭 ＜薬用炭＞ (日医工)	末 ¥8.3/g		自家中毒・薬物中毒時の吸着･解毒	2～20g分服

２．痛風治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アロプリノール <アロプリノール> （沢井製薬）	100mg/錠 ¥7.7/錠		痛風,高尿酸血症	200～300mg分2～3
フェブリク <フェブキソスタット> （帝人）	10mg/錠 ¥32/錠			10mg分1より開始,維持量40mg分1 【Max:60mg】
	40mg/錠 ¥109.6/錠			
ユリノーム <ベンズブロマロン> （鳥居）	50mg/錠 ¥27.8/錠		①痛風 ②高尿酸血症	①25～50mg分1 以後維持量50～150mg分1～3 ②50～150mg分1～3

３．糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インスリン製剤 ◆超速効性				
アピドラ注ソロスター<インスリングルリジン>（ｻﾉﾌｨ）		100単位/mL【3mL】 ¥2301/ｷｯﾄ	糖尿病	【DI照会参照】
ノボラピッド注フレックスタッチ<インスリンアスパルト>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2385/ｷｯﾄ		
ノボラピッド注イノレット<インスリンアスパルト>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2211/ｷｯﾄ		
ヒューマログ注ミリオペン<インスリンリスプロ>（日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ）		100単位/mL【3mL】 ¥1953/ｷｯﾄ		
■インスリン製剤 ◆速効性				
ノボリンＲフレックスペン<ヒトインスリン>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2044/ｷｯﾄ	糖尿病	【DI照会参照】
ヒューマリンＲ<ヒトインスリン>（日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ）		100単位/mL【10mL】 ¥3300/瓶		
■インスリン製剤 ◆中間型ＮＰＨ製剤				
ノボリンＮフレックスペン<ヒトインスリン>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2067/ｷｯﾄ	糖尿病	【DI照会参照】
■インスリン製剤 ◆中間型混合製剤				
イノレット３０Ｒ注<ヒトインスリン>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】【用時購入】 ¥1997/ｷｯﾄ	糖尿病	【DI照会参照】
■インスリン製剤 ◆二相性製剤				
ノボラピット３０ミックス注フレックスペン<インスリンアスパルト>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2352/ｷｯﾄ	糖尿病	【DI照会参照】

３．糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インスリン製剤 ◆混合型				
ヒューマログミックス２５注ミリオペン<インスリンリスプロ>（日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ）		100単位/mL【3mL】 ¥1953/ｷｯﾄ	糖尿病	【DI照会参照】
ヒューマログミックス５０注ミリオペン<インスリンリスプロ>（日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ）		100単位/mL【3mL】 ¥1953/ｷｯﾄ		
■インスリン製剤 ◆持効型製剤				
トレシーバフレックスタッチ<インスリンデグルデク>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2619/ｷｯﾄ	糖尿病	【DI照会参照】
ランタス注ソロスター<インスリングラルギン>（ｻﾉﾌｨ）		100単位/mL【3mL】 ¥2525/ｷｯﾄ		
レベミル注300フレックスペン<インスリンデテミル>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2601/ｷｯﾄ		
レベミル注イノレット<インスリンデテミル>（ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		100単位/mL【3mL】 ¥2401/ｷｯﾄ		
■ＳＵ剤				
オイグルコン<グリベンクラミド>（中外）	2.5mg/錠 ¥13.3/錠		ｲﾝｽﾘﾝ非依存型糖尿病	1.25～2.5mg分1～2,食前または食後【Max:10mg/日】
グリミクロン<グリクラジド>（大日本住友）	40mg/錠 ¥25.8/錠			40～120mg分1～2,食前または食後【Max:160mg/日】
グリメピリドＯＤ<グリメピリド>（日医工）	0.5mg/錠 ¥9.6/錠		2型糖尿病	1～4mg分1～2朝または朝夕,食前または食後【Max:6mg】
	1mg/錠 ¥9.9/錠			

３．糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビグアナイド剤				
メトグルコ <メトホルミン> （大日本住友製薬）	250mg/錠 ¥10.2/錠		2型糖尿病	1日500mgより開始 750～1500mg分2～3【Max:2250mg】 10歳以上の小児:1日500mgより開始 500～1500mg分2～3【Max:2000mg】
	500mg/錠 ¥19/錠			
■インスリン抵抗性改善剤				
アクトス <ピオグリタゾン> （武田）	15mg/錠 ¥73.8/錠		2型糖尿病	30mg分1朝食前または食後 【Max:45mg】
■αグルコシダーゼ阻害剤				
セイブル <ミグリトール> （三和化学）	50mg/錠 ¥52.9/錠		糖尿病の食後過血糖の改善	150mg分3食直前 【Max:225mg】
ボグリボースＯＤ <ボグリボース> （東和薬品）	0.3mg/錠 ¥28.8/錠			0.6mg分3食直前 【Max:0.9mg】
■速効型食後血糖降下剤				
ファスティック <ナテグリニド> （持田製薬）	30mg/錠 ¥18.7/錠		2型糖尿病の食後血糖推移の改善	270mg分3食直前 【Max:360mg】
	90mg/錠 ¥46.6/錠			
■アルドース還元酵素阻害剤				
キネダック <エパルレスタット> （小野薬品）	50mg/錠 ¥121.7/錠		糖尿病性末梢神経障害 【HbA1c:7.5%以上の時】	150mg分3食前
■ＤＰＰ－４阻害剤				
エクア <ビルダグリプチン> （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽﾌｧｰﾏ）	50mg/錠 ¥87.7/錠		2型糖尿病	50mg～100mg分1～2
ジャヌビア <シタグリプチン> （MSD）	25mg/錠 ¥80.5/錠			50～100mg分1
	50mg/錠 ¥149.3/錠			
テネリア錠20mg <テネリグリプチン> （第一三共）	20mg/錠 ¥186.8/錠			20～40mg分1

３．糖尿病用薬

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ＧＬＰ－１受容体作動薬				
バイエッタ ＜エキセナチド＞ （日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ）		300μg1キット ¥9937/ｷｯﾄ	2型糖尿病	5μg/回1日2回朝夕食前,皮下注 【Max:10μg/回1日2回】
ビクトーザ ＜リラグルチド＞ （ﾉﾎﾞﾉﾙﾃﾞｨｽｸ）		18mg(3mL)/ｷｯﾄ ¥10245/ｷｯﾄ		1日1回0.3mgより開始 1週間以上の間隔で0.3mgずつ増量 維持量1日1回0.9mg皮下注,朝又は夕 【MAX:0.9mg】

４．その他の代謝性医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫抑制剤				
アザニン <アザチオプリン> （田辺三菱）	50mg/錠 ¥148.5/錠		①腎移植における拒否反応の抑制 ②肝・心及び肺移植における拒絶反応の抑制 ③ｽﾃﾛｲﾄﾞ依存性のｸﾛｰﾝ病及び緩解維持並びにｽﾃﾛｲﾄﾞ依存症の潰瘍性大腸炎の緩解維持 ④治療抵抗性の下記ﾘｳﾏﾁ性疾患 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎,ｳﾞｪｹﾞﾅ肉芽腫症,結節性多発動脈炎,Churg-Strauss症候群,大動脈炎症候群等),全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ(SLE),多発性筋炎,皮膚筋炎,強皮症,混合性結合組織病,及び難治性ﾘｳﾏﾁ性疾患	①初期量2～3mg/kg/日, 維持量0.5～1mg/kg/日 ②初期量2～3mg/kg/日, 維持量1～2mg/kg/日 ③50～100mg 〈小児>1～2mg/kg ④1～2mg/kg/日【Max:3mg/kg/日】
ジレニア <フィンゴリモド> （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽﾌｧｰﾏ）	0.5mg/C ¥8148.7/C		多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	1日1回0.5mg
ネオーラル <シクロスポリン> （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	25mg/C ¥252.2/C		①腎移植における拒否反応の抑制 ②肝移植における拒否反応の抑制 ③心移植・肺移植・膵移植における拒否反応の抑制 ④小腸移植における拒否反応の抑制 ⑤骨髄移植における拒否反応及び移植片対宿主病の抑制 ⑥ﾍﾞｰﾁｪｯﾄ病(眼症状)及びその他の非感染性ぶどう膜炎 ⑦尋常性乾癬,膿疱性乾癬,乾癬性紅皮症,関節症性乾癬 ⑧再生不良性貧血(重症),赤芽球癆 ⑨ﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群(頻回再発型) ⑩ﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群(ｽﾃﾛｲﾄﾞ抵抗性) ⑪全身型重症筋無力症 ⑫ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎	①移植1日前から9～12mg/kg/日分1～2,以降2mg/kg/日ずつ減量, 維持量4～6mg/kg/日 ②移植1日前から14～16mg/kg/日分2,徐々に減量し,維持量5～10mg/kg/日 ③移植1日前から10～15mg/kg/日分2,徐々に減量し,維持量2～6mg/kg/日 ④移植1日前から14～16mg/kg/日分2を注射剤で開始,徐々に減量し,維持量5～10mg/kg/日,内服可能時は速やかに経口投与へ切り替える ⑤移植1日前から6～12mg/kg/日分1～2,3～6ヵ月間継続し,徐々に減量する ⑥5mg/kg/日分2,以後1ヵ月毎に1～2mg/kg/日減量又は増量 維持量3～5mg/kg/日 ⑦5mg/kg/日分2,以後1ヵ月毎に1mg/kg/日減量 維持量3mg/kg/日 ⑧6mg/kg/日分2 ⑨1.5mg/kg/日分2 〈小児>2.5mg/kg/日分2 ⑩3mg/kg/日分2 〈小児>5mg/kg/日分2 ⑪5mg/kg/日分2,徐々に減量し,維持量3mg/kg/日 ⑫3mg/kg/日分2【Max:5mg/kg/日】
ブレディニン <ミゾリビン> （旭化成）	50mg/錠 【院外のみ】 ¥277.7/錠		①腎移植における拒否反応の抑制 ②ﾙｰﾌﾟｽ腎炎 ③関節ﾘｳﾏﾁ	①初期量2～3mg/kg/日分1～3,維持量1～3mg/kg/日分1～3 ②150mg分3 ③150～300mg分3

４．その他の代謝性医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■高カルシウム血症用薬 ◆ビスホスホネート製剤				
アレディア ＜パミドロン酸ニナトリウム＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)		15mg/瓶 ¥8496/瓶	①悪性腫瘍による高ｶﾙｼｳﾑ血症 ＜化学療法･内分泌療法･放射線療法と併用＞ ②乳癌の溶骨性骨転移(化学療法,内分泌療法,あるいは放射線療法と併用) ③骨形成不全症	①30～45mg/回,点静(4時間以上かけて)1週間以上の間隔で ②90mg/回,点静(4時間以上かけて)4週間間隔で ③1日1回点滴静注(4時間以上かけて),3日間連続【Max:1日60mg】 2歳未満:1回0.5mg/kg,投与間隔2ヵ月 2歳以上3歳未満:1回0.75mg/kg,投与間隔3ヵ月 3歳以上:1回1.0mg/kg,投与間隔4ヵ月
ゾレドロン酸点滴静注 ＜ゾレドロン酸水和物＞ (ﾆﾌﾟﾛ)		4mg(100mL)/袋 ¥18105/袋	①悪性腫瘍による高ｶﾙｼｳﾑ血症 ②多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変	①4mg/回,点静(15分以上かけて) ②4mg/回,点静(15分以上かけて)3～4週間間隔で
■高カルシウム血症用薬 ◆その他				
エルシトニン ＜エルカトニン＞ (旭化成)		40単位/管(1mL) ¥1168/管	①高ｶﾙｼｳﾑ血症 ②骨ﾍﾟｰｼﾞｪｯﾄ病	①80単位/日分2筋注,点静(1～2hrかけて) ②40単位/日分1筋注
■骨粗鬆症用薬 ◆ビタミンＤ製剤				
エディロール ＜エルデカルシトール＞ (大正富山)	0.75μg/C ¥100.5/C		骨粗鬆症	0.5～0.75μg分1
■骨粗鬆症用薬 ◆ビスホスホネート製剤				
アクトネル ＜リセドロン酸ナトリウム＞ (ｴｰｻﾞｲ)	17.5mg/錠 ¥679.8/錠		①骨粗鬆症 ②骨ﾍﾟｰｼﾞｪｯﾄ病	①17.5mg,週1回朝起床時(水約180mLとともに) ②17.5mg,分1朝起床時8週間連日投与(水約180mLとともに)
	75mg/錠 ¥2987.3/錠		骨粗鬆症	75mg,月1回朝起床時(水約180mLとともに)
ボナロン ＜アレンドロン酸ナトリウム＞ (帝人)	35mg/錠 ¥646.5/錠			35mg,週1回朝起床時(水約180mLとともに)
■骨粗鬆症用薬 ◆ＳＥＲＭ				
エビスタ ＜ラロキシフェン＞ (日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ)	60mg/錠 ¥118/錠		閉経後骨粗鬆症	60mg分1
ビビアント ＜バゼドキシフェン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	20mg/錠 ¥118.6/錠			20mg分1
■骨粗鬆症用薬 ◆その他				
テリボン ＜テリパラチド酢酸塩＞ (旭化成ﾌｧｰﾏ)		56.5μg/瓶 ¥13342/瓶	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	56.5μg,週1回皮下注(72週まで)

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
葛根湯 〈カッコントウ〉 ﾂﾑﾗ1 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥22.5/包	自然発汗がなく頭痛,発熱,悪寒,肩こり等を伴う比較的体力のあるものの諸症[感冒,鼻かぜ,熱性疾患の初期,炎症性疾患(結膜炎,角膜炎,中耳炎,扁桃炎乳腺炎,ﾘﾝﾊﾟ節炎),肩こり,上半身の神経痛,蕁麻疹]	辛温解表･舒筋	7.5g分2～3
加味帰脾湯 〈カミキヒトウ〉 ﾂﾑﾗ137 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥71.5/包	虚弱体質で血色の悪いものの諸症[貧血,不眠症,精神不安,神経症]	心脾両虚･肝鬱化火	
加味逍遥散 〈カミショウヨウサン〉 ﾂﾑﾗ24 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥44/包	体質虚弱な婦人で肩がこり,疲れやすく,精神不安等の精神神経症状,ときに便秘の傾向のあるものの諸症[冷え症,虚弱体質,月経不順,月経困難,更年期障害,血の道症]	疏肝解鬱･健脾補血･清熱凉血･利水･調経	
桔梗湯 〈キキョウトウ〉 ﾂﾑﾗ138 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥14.25/包	咽喉がはれて痛む扁桃炎,扁桃周囲炎	清熱解毒・去痰排膿	
桂枝加竜骨牡蛎湯 〈ケイシカリュウコツボレイトウ〉 ﾂﾑﾗ26 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥22.75/包	下腹直腹筋に緊張のある比較的体力の衰えているものの諸症「小児夜尿症,神経衰弱,性的神経衰弱,遺精,陰萎」	補陽安神・収斂	
桂枝茯苓丸 〈ケイシブクリョウガン〉 ﾂﾑﾗ25 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥23/包	体格はしっかりしていて赤ら顔が多く,腹部は大体充実,下腹部に抵抗のあるものの諸症[子宮並びにその付属器の炎症,子宮内膜炎,月経不順,月経困難,帯下,更年期障害(頭痛,めまい,のぼせ,肩こり等),冷え症,腹膜炎,打撲症,痔疾患,睾丸炎]	活血化お･消腫･調経	
牛車腎気丸 〈コシャジンキガン〉 ﾂﾑﾗ107 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥29.5/包	疲れやすくて,四肢が冷えやすく尿量減少または多尿で時に口渇がある次の諸症[下肢痛,腰痛,しびれ,老人のかすみ目,かゆみ,排尿困難,頻尿,むくみ]	温補腎陽･温陽利水･活血	
柴胡加竜骨牡蛎湯 〈サイコカリュウコツボレイトウ〉 ﾂﾑﾗ12 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥56/包	比較的体力があり,心悸亢進,不眠,いらだち等の精神症状のあるものの諸症[高血圧症,動脈硬化症,慢性腎臓病,神経衰弱症,神経性心悸亢進症,てんかん,ﾋｽﾃﾘｰ,小児夜啼症,蔭萎]	清熱安神･疏肝解鬱･補気健脾	
柴胡桂枝湯 〈サイコケイシトウ〉 ﾂﾑﾗ10 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥65.25/包	発熱汗出て,悪寒し,身体痛み,頭痛,はきけのあるものの次の諸症[感冒･流感･肺炎･肺結核などの熱性疾患,胃潰瘍･十二指腸潰瘍･胆のう炎･胆石･肝機能障害･膵臓炎などの心下部緊張疼痛]	和解半表半裏・解表・疏肝解鬱・和胃止痛・清熱	
柴苓湯 〈サイレイトウ〉 ﾂﾑﾗ114 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(3.0g/包) ¥147.6/包	吐き気,食欲不振,のどの渇き,排尿が少ないものの諸症[水寫性下痢,急性胃腸炎,暑気あたり,むくみ]	疏肝解鬱･補気健脾･止嘔･化痰止咳･利水･止瀉	9.0g分2～3

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
芍薬甘草湯 〈シャクヤクカンゾウトウ〉 ﾂﾑﾗ68 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥18.5/包	急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛,筋肉・関節痛,胃痛,腹痛	解痙止痛	7.5g分2～3
十全大補湯 〈シュウゼンタイホトウ〉 ﾂﾑﾗ48 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥50.5/包	病後の体力低下,疲労倦怠,食欲不振,寝汗,手足の冷え,貧血	気血双補	
小柴胡湯 〈ショウサイコトウ〉 ﾂﾑﾗ9 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥78.75/包	体力中等度で上腹部がはって苦しく,舌苔を生じ,口中不中不快,食欲不振,時により微熱,悪心等のあるものの諸症[急性熱性病,肺炎,気管支炎,気管支喘息,感冒,ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性胃腸障害,産後回復不全], 慢性肝炎における肝機能障害の改善	疏肝解鬱･補気健脾･止嘔･化痰止咳･清熱（陰虚,乾燥傾向がある時は使用しない）	
小青竜湯 〈ショウセイリュウトウ〉 ﾂﾑﾗ19 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(3.0g/包) ¥42.3/包	気管支炎,気管支喘息,鼻炎,ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,ｱﾚﾙｷﾞｰ性結膜炎,感冒における水様の痰,水様鼻汁,鼻閉,くしゃみ,喘鳴,咳嗽,流涙	辛温解表･散寒･止咳･平喘	9.0g分2～3
大建中湯 〈タイケンチュウトウ〉 ﾂﾑﾗ100 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥24/包	腹が冷えて痛み,腹部膨満感のあるもの	温中散寒・解痙止痛・補気健脾	15g分2～3
当帰芍薬散 〈トウキシャクヤクサン〉 ﾂﾑﾗ23 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥24.25/包	筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく,腰脚の冷えやすいものの諸症[貧血,倦怠感,更年期障害(頭重,頭痛,めまい,肩こり等),月経不順,月経困難,不妊症,動悸,慢性腎炎,妊娠中の諸病(浮腫,習慣性流産,痔,腹痛),脚気,半身不随,心臓弁膜症]	補血活血･健脾利水･調経止痛	7.5g分2～3
麦門冬湯 〈ハクモンドウトウ〉 ﾂﾑﾗ29 （ﾂﾑﾗ）	エキス細粒(3.0g/包) ¥54.9/包	痰の切れにくい咳,気管支炎,気管支喘息	生津･補気健脾･化痰･止咳	9.0g分2～3
八味地黄丸 〈ハチミジオウガン〉 ﾂﾑﾗ07 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥26.75/包	疲労,倦怠感著しく,尿利減少または頻数,口渇し,手足に交互的に冷感と熱感のあるものの諸症［腎炎,糖尿病,陰萎,坐骨神経痛,腰痛,脚気,膀胱ｶﾀﾙ,前立腺肥大,高血圧]	温補腎陽	7.5g分2～3
半夏厚朴湯 〈ハンゲコウボクトウ〉 ﾂﾑﾗ16 （ﾂﾑﾗ）	エキス顆粒(2.5g/包) ¥25.5/包	気分がふさいで,咽喉,食道部に異物感があり,ときに動悸,めまい,嘔気などを伴う次の諸症[不安神経症,神経性胃炎,つわり,せき,しわがれ声,神経性食道狭窄症,不眠症]	降逆化痰・理気開鬱	
半夏瀉心湯 〈ハンゲシャシントウ〉 ﾂﾑﾗ14 （ﾂﾑﾗ）	エキス細粒(2.5g/包) ¥60.75/包	みぞおちがつかえ,ときに悪心,嘔吐があり食欲不振で腹が鳴って軟便または下痢の傾向にあるものの諸症［急･慢性胃腸ｶﾀﾙ,酸酵性下痢,消化不良,胃下垂,神経性胃炎,胃弱,二日酔,げっぷ,胸やけ,口内炎,神経症]	寒熱併調･化湿･止嘔･健脾･脾胃不和･脾胃湿熱	

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
補中益気湯 〈ホチュウエッキトウ〉 ﾂﾑﾗ41 (ﾂﾑﾗ)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥62.5/包	消化機能が衰え,四肢倦怠感著しい虚弱体質者の諸症[夏やせ,病後の体力増強,結核症,食欲不振,胃下垂,感冒,痔,脱肛,子宮下垂,蔭萎,半身不随,多汗症]	補気健脾･昇提･固表･生肌	7.5g分2～3
麻黄附子細辛湯 〈マオウブシサイシントウ〉 ﾂﾑﾗ127 (ﾂﾑﾗ)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥49.5/包	悪寒,微熱,全身倦怠,低血圧で頭痛,めまいあり,四肢にとう痛冷感あるものの次の諸症[感冒,気管支炎]	助陽解表・利水	
麻杏よく甘湯 〈マキョウヨクカントウ〉 ﾂﾑﾗ78 (ﾂﾑﾗ)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥23.75/包	関節痛,神経痛,筋肉痛	きょ？風湿･解表	
ヨクイニン 〈ヨクイニンジョウ〉 (ｺﾀﾛｰ)	錠 【院外のみ】 ¥5.9/錠	青年性扁平疣贅,尋常性疣贅		9～18錠分3
抑肝散 〈ヨクカンサン〉 ﾂﾑﾗ54 (ﾂﾑﾗ)	エキス顆粒(2.5g/包) 【用時購入】 ¥29.5/包	虚弱な体質で神経がたかぶるものの次の諸症[神経症,不眠症,小児夜なき,小児疳症]	平肝熄風･補気血	7.5g分2～3
六君子湯 〈リックンシトウ〉 ﾂﾑﾗ43 (ﾂﾑﾗ)	エキス顆粒(2.5g/包) 【用時購入】 ¥50/包	胃腸の弱いもので,食欲がなく,みぞおちがつかえ,疲れやすく,貧血性で手足が冷えやすいものの諸症[胃炎,胃ｱﾄﾆｰ,胃下垂,消化不良,食欲不振,胃痛,嘔吐]	補気健脾･理気化痰	

中医学的表現（五十音順・中医学用語には下線付け）

安神（あんしん）：精神安定・催眠作用。

温中散寒（おんちゅうさんかん）：消化器系を温めることで，主に循環改善を通して上部消化管平滑筋のトーヌス上昇を正常化させ，結果として嘔吐・下痢・便秘・腹痛を止める作用

活血化瘀（かっけつけお）：血祛を改善すること

→血瘀（けつお）：Blood Stasis Syndrome(BSS)
微小循環障害。静脈系の停滞であるうっ血を主とした病変に相当するが，微小循環系の停滞（うっ血・充血）血液粘稠度増大・凝固の昂進・血栓・癒着・繊維化・増殖性病変・瘢痕・血腫などのさまざまな病態を含む。血行障害による阻血性疼痛がしばしば症状としてみられ，固定性・持続性であることが多い

→活血薬：主として動脈系の血流改善作用をもつ薬。Ca拮抗剤や強心配糖体に近い作用と想定される。

→化瘀薬：主として静脈系のうっ血を改善する薬。亜硝酸剤に近い作用と想定される

気血双補（きけつそうほ）：気血両虚を改善する作用

→気血両虚（きけつりょうきょ）：気虚と血虚の症候が同時にある状態。機能面の不足と物質面の不足が併存する状態。

→気虚の症状：きつい，だるい，疲れやすい，食欲がない，意欲がない

→血虚の症状：皮膚のかさつき，爪が脆い，髪が抜ける，過少月経，こむらがえり，不眠など

祛痰止咳（きょたんしがい）：

祛風湿（きょふうしつ）：痺証の治法

→痺証：“しびれ痛み“を主症状とする筋肉・関節疾患の総称。慢性関節リウマチ，変形性・炎症性関節症に相当する。

祛風止痒（きょふうしよう）：皮膚の血行を良くして痒みを止める作用

→風（ふう）：身体外部環境による病因のひとつ。いわゆる風（かぜ）にあたって体が冷えたり，皮膚の不感蒸泄がふえ皮膚が乾燥したり，あるいは細菌・ウイルス感染が考えられる。

化湿（けしつ）：主に消化管内に停滞した水分を軽度ながら血中に吸収する作用，消化管の蠕動調整・悪心嘔吐の抑制・気道分泌抑制にも働く

化痰止咳（けたんしがい）：鎮咳・去痰の作用

→痰（たん）：生理的体液の流通が停滞し粘稠となって流動性をうしなった物。現代医学の喀痰よりも広い概念。

→化痰（けたん）：喀痰の生成抑制と排出

化痰熄風（けたんそくふう）：

→熄風（そくふう）：内風を止めること

→内風（ないふう）：中枢・自律神経系の過度の興奮状態で，ふるえ，しびれ，けいれん，めまいなどの症状をおこす，身体内部で生じた病因のひとつ。肝気鬱結が高じた時などにおこると考えられている。

解毒（げどく）：主として細菌・ウイルス感染によりひきおこされた熱や炎症反応を解消すること。

健脾補血（けんぴほけつ）：消化吸収機能を高め，造血を促し，血液の生理機能を高める作用。

→脾虚（ひきょ）：消化器系の機能低下状態

→脾（ひ）：現代医学の脾臓ではなく，上部消化管機能に相当する。食物を体内に取り入れる過程であり，「非自己」を自己化する過程でもあり，免疫やアレルギーとの関連も想定される。

健脾利水（けんぴりすい）：消化吸収機能を改善し，消化管内に停滞する余剰水分を血管内に吸収する。この改善が，ひいては全身の組織間内の余剰水分の代謝も改善すると考える。

固表（こひょう）：表虚の治法。体表の血行改善，汗腺の機能正常化による止汗の効果。

→表虚（ひょうきょ）：細菌やウイルス感染時に，生体の防御反応のひとつとして熱産生が高まるが，この時おこる体表での末梢血管収縮，立毛，汗腺の閉塞などの反射が，不十分で，悪風，自汗などの症状を呈する状態。もともと汗かきで感冒にかかりやすい人にみられやすい。

散寒（さんかん）：寒邪を取り除く方法。

→寒邪（かんじゃ）：寒け・冷えの状態を引き起こす外因で，クーラーや季節などの寒冷の外部環境や，ウイルスや細菌感染

止嘔（しおう）

止咳（しがい）

止痙（しけい）

止痛（しつう）

消腫（しょうしゅ）

生津止渇（しょうしんじかつ）：津液（津液参照）を補い，渇きを止めること。生津には脱水の抑制，気道粘膜分泌促進のなどの意味がある。

昇提（しょうてい）：平滑筋・骨格筋の緊張を増し，アトニー状態を改善する。胃下垂・下痢，脱肛，子宮脱などを改善する作用。脳の興奮性を増す作用も一部考えられる

舒筋（じょきん）：筋緊張低下作用

辛温解表（しんおんかいひょう）：味が辛く温める性質をもつ薬物を用いて発汗させる作用

生肌（せいき）：良性肉芽の増生による創傷治癒機転の促進効果。

清熱瀉火（せいねつしゃか）：消炎・解熱・抗菌・抗ウイルス・鎮静・毛細血管の透過性亢進の抑制などの作用

→熱証（ねつしょう）：熱感・ほてり・のぼせがあり，寒冷を好むような状態

①実熱（じつねつ）：熱邪（ウイルス・細菌などの病原微生物や暑熱などの外部環境）によって急性に発症する熱証

②虚熱（きょねつ）：陰虚の異化作用の亢進・自律神経系の興奮に伴う熱証

→陰虚（いんきょ）：陰液が不足した状態

→陰液（いんえき）：人体を構成する基本成分を気・血・津液・精と考え，血・津液・精を陰液という

→血（けつ）：栄養・滋潤作用をもつ基本成分

津液（しんえき）：組織液・細胞内液・分泌液など正常な水液

精（せい）：生命活動の基本物質。先天的にそなわっている物と消化吸収された栄養物質から精選され・補充されている物があると考える。ホルモン様物質に近い。

気（き）：主に人体の生理機能を指すがその機能を発現させる精微物質も含んだ概念。生命エネルギー。

清熱凉血（せいねつりょうけつ）：清熱瀉火とほとんど同じ作用と考えてよいが，感染による病状が深く進展し，重篤な合併症（たとえば敗血症や熱性けいれんなど）に及んだ状態を改善する作用。

疏肝解鬱（そかんかいうつ）：肝気鬱結を解く作用。疏肝は精神安定作用，自律神経機能調整作用。解鬱は抑うつ・緊張を緩解させる作用。

→肝気鬱結（かんきうっけつ）：主にストレスにより生じる精神的な緊張・抑うつや自律神経系の機能失調状態

→肝（かん）：現代医学の肝臓の機能に加えて，情動などの視床下部・下垂体系，大脳辺縁系を介した中枢神経系機能あるいは自律神経系の機能を合わせもつと考える。

調経（ちょうけい）：月経不順・月経痛・閉経・月経血過多過少など月経に関する不調を調整する作用

平喘（へいぜん）：気管支平滑筋のけいれんを解除して呼吸困難を改善する作用。

補気健脾（ほきけんぴ）：

→補気：身体生理機能や基礎代謝を高めて，元気をつけ抵抗力を高める作用

→健脾：消化吸収機能を促進して補気の働きを補助する作用

補血活血（ほけつかっけつ）：

→補血（ほけつ）：血虚（血が不足した状態）を改善する作用。栄養・滋潤の作用と脳の抑制過程を強めて，精神安定・催眠に働く作用が考えられる。

→活血（かっけつ）：循環改善作用に相当する。

補陽散寒（ほようさんかん）：

→補陽（ほよう）：陽虚を改善する作用。機能・代謝を促進し，抵抗力や元気をつけ，循環改善，脳の興奮性を高めて体をあたためる作用。強壮作用もあると考えられる。

→陽虚（ようきょ）：気虚が進行し，体を温める作用が低下した状態。機能低下に同化作用・異化作用・末梢循環・脳の興奮性が低下したための寒けや冷えなどの寒の症状が加わった状態。

→気虚（ききょ）：気の不足で，全身の機能・代謝・抵抗力が低下し，脳の興奮性も低下した状態。

→散寒（さんかん）：血管拡張・血行促進・脳の興奮・局所の刺激などによって，身体全体あるいは局所を温める効果。

補腎益精（ほじんえきせい）：「腎は精を蔵す」と言われており，腎を補う上で，精を補充することが基本となる。

→腎（じん）：現代医学の腎臓の機能に副腎皮質・髄質の機能，加えて内分泌系全体の機能が包括して考えられる。成長，加齢，性機能，水分代謝・排泄，脳機能，聴覚機能，免疫機能などとの関連が想定される。

利水（りすい）：現代医学の利尿ではなく，主として消化管や組織中の余剰水分を血中にひきこむ作用。結果的に下痢を止めたり，浮腫を減らしたりする。

利水止瀉（りすいししゃ）：利水の効果で下痢を止める

凉血止血（りょうけつしけつ）：病気が重篤な場合の熱をさまし，止血する効果。

＜参考文献＞
森　雄材著「図説・漢方処方の構成と適用」医歯薬出版
創医会学術部主編「漢方用語大辞典」燎原
「THE KAMPO DIARY」ｶﾈﾎﾞｳ薬品株式会社
花輪壽彦著「漢方治療のレッスン」金原出版

後記

少しでも多くの医師に中医学を理解していただき，漢方エキス製剤の適切な運用に寄与できるようにと意図して，院内採用漢方エキス製剤の中医学的効能とそこに出てくる中医学用語の現代医学的解説を試みた。しかし，この作業が容易なことではないということが感想として残った。

あいまいな表現を極力避けるために，やや強引に言い切った箇所があることをお許しいただきたい。ご批判・ご指摘をお願いしたい。

全文に関して，共に学ぶ九州中国医学研究会の仲間と検討したが，文責はまだまだ勉強不足のわたくしにある。

精神科　　垣替芳隆

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アルキル化剤 ◆ナイトロジェンマスタード類				
アルケラン <メルファラン> 略名：L-PAM (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)	2mg/錠 ¥198.8/錠		多発性骨髄腫	ⅰ)2～4mg/日×連日 ⅱ)6～10mg/日×4～10日間 維持量2mg/日 ⅲ)6～12mg/日×4～10日間反復
イホマイド <イホスファミド> 略名：IFM (ｼｵﾉｷﾞ)		1g/瓶 【用時購入】 ¥3429/瓶	①肺小細胞癌,前立腺癌,子宮頸癌,骨肉腫 ②再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍,卵巣腫瘍,性腺外腫瘍) ③悪性ﾘﾝﾊﾟ腫 <他の抗悪性腫瘍剤との併用> ④悪性骨･軟部腫瘍,小児悪性固形腫瘍(ﾕｰｲﾝｸﾞ肉腫ﾌｧﾐﾘｰ腫瘍,横紋筋肉腫,神経芽腫,網膜芽腫,肝芽腫,腎芽腫等)	①1日1.5～3g(30～60mg/kg), 3～5日間連日,3～4週間毎 ②1日1.2g/㎡, 5日間連日,3～4週間毎 ③1日0.8～3g/㎡, 3～5日間連日,3～4週間毎 【総投与量：1ｺｰｽ10g/㎡以下】 【小児：全治療ｺｰｽ80g/㎡以下】 ④【DI照会参照】
エンドキサン <シクロホスファミド> 略名：CPA (ｼｵﾉｷﾞ)	50mg/錠 ¥36.1/錠		①多発性骨髄腫,悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,乳癌,急性白血病,真性多血症,肺癌,神経腫瘍(神経芽腫,網膜芽腫),骨腫瘍 <他の抗悪性腫瘍剤と併用> 慢性ﾘﾝﾊﾟ性白血病,慢性骨髄性白血病,咽頭癌,胃癌,膵癌,肝癌,結腸癌,睾丸腫瘍,絨毛性疾患,黄紋筋肉腫,悪性黒色腫,子宮頸癌,子宮体癌,卵巣癌 ②治療抵抗性の全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎,ｳﾞｪｹﾞﾅ肉芽腫症,結節性多発動脈炎,Churg-Strauss症候群,大動脈炎症候群等),多発性筋炎/皮膚筋炎,強皮症,混合性結合組織病,及び血管炎を伴う難治性ﾘｳﾏﾁ性疾患 ③ﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群	①100～200mg/日 ②50～100mg/日 ③50～100mg/日,8～12週間 <小児>2～3mg/kg/日,8～12週間 【Max:100mg/日,総投与量300mg/kg】

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エンドキサン <シクロホスファミド> 略名：CPA （ｼｵﾉｷﾞ）		100mg/瓶 ¥320/瓶	①多発性骨髄腫,悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,肺癌,乳癌,急性白血病,真性多血症,子宮頸癌,子宮体癌,卵巣癌,神経腫瘍(神経芽腫,網膜芽腫),骨腫瘍 <他の抗悪性腫瘍剤と併用> 慢性ﾘﾝﾊﾟ性白血病,慢性骨髄性白血病,咽頭癌,胃癌,膵癌,肝癌,結腸癌,睾丸腫瘍,絨毛性疾患,横紋筋肉腫,悪性黒色腫,乳癌(手術可能例における術前あるいは術後) ②褐色細胞腫 ③急性白血病,慢性骨髄性白血病,骨髄異形成症候群,重症再生不良性貧血,悪性リンパ腫,遺伝性疾患(免疫不全,先天性代謝障害及び先天性血液疾患)における造血幹細胞移植の前治療 ④治療抵抗性の全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎,ｳﾞｪｹﾞﾅ肉芽腫症,結節性多発動脈炎,Churg-Strauss症候群,大動脈炎症候群等),多発性筋炎/皮膚筋炎,強皮症,混合性結合組織病,及び血管炎を伴う難治性ﾘｳﾏﾁ性疾患	【DI照会参照】
		500mg/瓶 ¥1254/瓶		

■アルキル化剤 ◆ニトロソウレア類

ギリアデル <カルムスチン> （ｴｰｻﾞｲ）	7.7mg/枚 【用時購入】 ¥160,912.4/枚		悪性神経膠腫	腫瘍切除腔の大きさや形状に応じて、本剤8枚(カルムスチンとして61.6mg)又は適宜減じた枚数を脳腫瘍切除術時の切除面を被覆するように留置
サイメリン <ラニムスチン> 略名：MCNU （田辺三菱）		50mg/瓶 ¥12132/瓶	慢性骨髄性白血病,真性多血症,骨髄腫,悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,膠芽腫,本態性血小板増多症	50～90mg/㎡/日,6～8週毎 <成人T細胞白血病ﾘﾝﾊﾟ腫に対し他の抗がん剤と併用する場合> 投与間隔：4週間以上
ニドラン <ニムスチン> 略名：ACNU （第一三共）		50mg/瓶 【用時購入】 ¥7903/瓶	慢性白血病,悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,脳腫瘍,肺癌,胃癌,肝癌,直腸･結腸癌	ⅰ)2～3mg/kgを4～6週毎 ⅱ)2mg/kg/週×2～3を4～6週毎筋注,静注

■アルキル化剤 ◆その他

ダカルバジン <ダカルバジン> 略名：DTIC （協和発酵ｷﾘﾝ）		100mg/瓶 【用時購入】 ¥4017/瓶	①悪性黒色腫 ②ﾎｼﾞｷﾝ病（ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫） ③褐色細胞腫	①100～200mg/日×5日間を4週間毎 ②他の抗悪性腫瘍剤と併用し,375mg/㎡/日を2週間毎×2回 ③ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ,ﾋﾞﾝｸﾘｽﾁﾝと併用し,600mg/㎡/日×2日間を3週間毎

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆フルオロウラシル類				
ゼローダ ＜カペシタビン＞ （中外）	300mg/錠 ¥360.5/錠		手術不能又は再発乳癌(A,B) 結腸癌における術後補助化学療法(B), 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌(C) 治癒切除不能な進行・再発の胃癌(C)	<A>体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、21日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ｸｰﾙとし繰り返す 体表面積1.31㎡未満:900mg/回, 体表面積1.31㎡以上～1.64㎡未満:1200mg/回, 体表面積1.64㎡以上:1500mg/回 【DI照会参照】 <B>体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、14日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ｸｰﾙとし繰り返す 体表面積1.33㎡未満:1500mg/回, 体表面積1.33㎡以上～1.57㎡未満:1800mg/回, 体表面積1.57㎡以上～1.81㎡未満:2100mg/回, 体表面積1.81㎡以上:2400mg/回 【DI照会参照】 <C>体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、14日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ｸｰﾙとし繰り返す(他の抗癌剤と併用で) 体表面積1.36㎡未満:1200mg/回, 体表面積1.36㎡以上～1.66㎡未満:1500mg/回, 体表面積1.66㎡以上～1.96㎡未満:1800mg/回, 体表面積1.96㎡以上:2100mg/回 【DI照会参照】
ティーエスワン ＜配合剤： テガフール２０ｍｇ ギメラシル５．８ｍｇ オテラシルカリウム１９．６ｍｇ＞ 略名：TS-1 （大鵬）	20mg/C 【院外のみ】 ¥605.1/C		胃癌,結腸・直腸癌,頭頸部癌,非小細胞肺癌,手術不能又は再発乳癌,膵癌,胆道癌	初回投与量(1回量)を体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回、28日間連続経口投与し、その後14日間休薬する。これを1ｸｰﾙとし繰り返す 【Max:75mg/回】 体表面積1.25㎡未満:初回基準量(ﾃｶﾞﾌｰﾙ相当量)40mg/回, 体表面積1.25㎡以上～1.5㎡未満:初回基準量(ﾃｶﾞﾌｰﾙ相当量)50mg/回, 体表面積1.5㎡以上:初回基準量(ﾃｶﾞﾌｰﾙ相当量)60mg/回 【DI照会参照】
ティーエスワン ＜配合剤： テガフール２５ｍｇ ギメラシル７．２５ｍｇ オテラシルカリウム２４．５ｍｇ＞ 略名：TS-1 （大鵬）	25mg/C 【院外のみ】 ¥729.1/C			
ティーエスワンＯＤ ＜配合剤： テガフール２０ｍｇ ギメラシル５．８ｍｇ オテラシルカリウム１９．６ｍｇ＞ 略名：TS-1 （大鵬）	20mg/錠 ¥605.1/錠			
ティーエスワンＯＤ ＜配合剤： テガフール２５ｍｇ ギメラシル７．２５ｍｇ オテラシルカリウム２４．５ｍｇ＞ 略名：TS-1 （大鵬）	25mg/錠 ¥729.1/錠			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
５－ＦＵ ＜フルオロウラシル＞ 略名：5-FU （協和発酵ｷﾘﾝ）		250mg(5mL)/管 ¥358/管	①胃癌,肝癌,結腸･直腸癌,乳癌,膵癌,子宮頸癌,子宮体癌,卵巣癌 〈他の抗腫瘍剤,放射線と併用〉 ②食道癌,肺癌,咽頭部腫瘍 〈他の抗悪性腫瘍剤との併用療法〉 ③頭頸部癌 〈ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ･ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ持続静注併用療法〉 ④結腸･直腸癌,治癒切除不能な膵癌	①ｉ)5～15mg/kg/日×5日の後,5～7.5mg/kg/日を隔日 ii)5～15mg/kg/日隔日 iii)5mg/kg/日×10～20日 iv)10～20mg/kg/週 ②5～10mg/kg,ｉ)に準じ,又は間歇的に週1～2回動注 ③1000mg/㎡/日,4～5日連続持続点滴,少なくとも3週間あける ④【DI照会参照】
ユーエフティＥ ＜テガフール，ウラシル＞ 略名：UFT （大鵬）	顆粒(200mg/g/包) ¥646.7/包		①頭頸部癌,肺癌,胃癌,肝癌,胆嚢・胆管癌,膵癌,直腸･結腸癌,膀胱癌,前立腺癌,乳癌 ②子宮頸癌	①300～600mg分2～3 ②600mg分2～3
ユーエフティ ＜テガフール，ウラシル＞ 略名：UFT （大鵬）	100mg/C ¥260.5/C			

■代謝拮抗剤 ◆ヌクレオシド系

ロンサーフ ＜配合剤：トリフルリジン２０ｍｇ，チピラシル７．０６５ｍｇ＞ （大鵬薬品）	T15mg/錠 ¥2489.6/錠		治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	初回投与量(1回量)を体表面積に合わせて次の基準量とし(ﾄﾘﾌﾙﾘｼﾞﾝとして約35mg/m2/回【DI参照】),1日2回朝夕食後,5日間連続経口投与したのち2日間休薬,これを2回繰り返したのち14日間休薬 これを1ｺｰｽとして投与を繰り返す
ロンサーフ ＜配合剤：トリフルリジン１５ｍｇ，チピラシル９．４２ｍｇ＞ （大鵬薬品）	T20mg/錠 ¥3340.9/錠			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆シタラビン類				
キロサイド ＜シタラビン＞ 略名：Ara-C （日本新薬）		20mg(1mL)/管 ¥413/管	①急性白血病(赤白血病,慢性骨髄性白血病の急性転化を含む) ②消化器癌(胃癌,胆嚢癌,胆道癌,膵癌,肝癌,結腸癌,直腸癌),肺癌,乳癌,女性性器癌(子宮癌,卵巣癌等) ③膀胱腫瘍	①ⅰ)寛解導入:下記投与量を2～3週間連続 0.8～1.6mg/kg/日静注又は点静 ＜小児＞0.6～2.3mg/kg/日静注又は点静 ⅱ)維持(ⅰ)の用量を週1回皮下,筋注,静注 ⅲ)髄腔内化学療法:25～40mg/回,1週間に1～2回髄腔内投与 ＜小児＞添付文書参照 ②＜他の抗悪性腫瘍剤と併用する時＞ ⅰ)0.2～0.8mg/kg,1週間に1～2回静注 ⅱ)0.2～0.4mg/kg,持続動注 ③＜単独＞200～400mg, ＜併用＞100～300mg膀胱内注入
		40mg(2mL)/管 ¥778/管		
		200mg(10mL)/管 ¥3094/管		
キロサイドN ＜シタラビン＞ 略名：Ara-C （日本新薬）		400mg(20mL)/管 ¥5277/管	①急性骨髄性白血病 ②急性ﾘﾝﾊﾟ性白血病 ③悪性ﾘﾝﾊﾟ腫	①2g/㎡/回を12時間毎最大6日間連日静注 ＜小児＞3g/㎡/回を12時間毎,3日間連日静注 ②他の抗腫瘍剤と併用し2g/㎡/回を12時間毎最大6日間連日静注 ＜小児＞2g/㎡/回を12時間毎,3日間連日静注 ③他の抗腫瘍剤と併用し2g/㎡/回,1～2回/日1～2日間連日静注 ＜小児＞2g/㎡/回を12時間毎,3日間連日静注
		1000mg(50mL)/瓶 ¥11589/瓶		
ゲムシタビン ＜ゲムシタビン＞ 略名：GEM （ヤクルト本社）		200mg/瓶 ¥2,717/瓶	①非小細胞肺癌,膵癌,胆道癌,尿路上皮癌,がん化学療法後に増悪した卵巣癌,再発又は難治性の悪性リンパ腫 ②手術不能又は再発乳癌	①1000mg/㎡,30min点静週1回3週連続4週目休薬を1ｸｰﾙとする ②1250mg/㎡,30min点静週1回2週連続3週目休薬を1ｸｰﾙとする
		1g/瓶 ¥12,649/瓶		
スタラシド ＜シタラビンオクホスファート＞ 略名：SPAC （日本化薬）	100mg/C 【院外のみ】 ¥721.6/C		①成人急性非ﾘﾝﾊﾟ性白血病 ②骨髄異形成症候群	①100～300mg/日×2～3週間連続投与し2～3週間休薬。これを繰り返す ②100～200mg/日×2～3週間連続投与し2～3週間休薬これを繰り返す
フルダラ ＜フルダラビン＞ 略名：FL （ｻﾉﾌｨ）		50mg/瓶 【用時購入】 ¥38192/瓶	①慢性ﾘﾝﾊﾟ性白血病(貧血又は血小板減少症を伴う) ②再発又は難治性の低悪性度B細胞性非ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫,ﾏﾝﾄﾙ細胞ﾘﾝﾊﾟ腫 ③同種造血幹細胞移植の前治療	①②20mg/㎡/日×5日,23日間休薬,これを1ｸｰﾙとし繰り返す ③30mg/㎡/日×6日

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆葉酸代謝拮抗薬				
アリムタ <ペメトレキセド> (日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ)		100mg/瓶 ¥44248/瓶	①悪性胸膜中皮腫 ②切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	①ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝとの併用において,1日1回500mg/m2を10分間かけて点滴静注し,少なくとも20日間休薬,これを1ｺｰｽとし繰り返す ②1日1回500mg/m2を10分間かけて点滴静注し,少なくとも20日間休薬,これを1ｺｰｽとし繰り返す
アリムタ <ペメトレキセド> (日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ)		500mg/瓶 ¥185374/瓶		
メソトレキセート <メトトレキサート> 略名：MTX (ﾌｧｲｻﾞｰ)	2.5mg/錠 ¥40.7/錠		①急性白血病,慢性骨髄性白血病,慢性ﾘﾝﾊﾟ性白血病 ②絨毛性疾患 ③<MTX･ﾛｲｺﾎﾞﾘﾝ救援療法>肉腫 ④<MTX･ﾛｲｺﾎﾞﾘﾝ救援療法>急性白血病(中枢神経系,睾丸への浸潤)悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(中枢への浸潤) ⑤<MTX･ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ交代療法>胃癌 ⑥乳癌 【注射用5mg,50mgのみ】 ⑦尿路上皮癌	①ｉ)5～10mg/日×3～6日/週 <小児>2.5～5mg/日×3～6/週 <幼児>1.25～2.5mg/日×3～6/週 ⅱ)その他の投与経路髄腔 ②10～30mg/日×5日後7～12日休薬 ③100～300mg/kg静注後ﾛｲｺﾎﾞﾘﾝ投与,1～4週毎 ④30～100mg/kg静注後ﾛｲｺﾎﾞﾘﾝ投与,1～4週毎 ⑤MTX100mg/㎡(3mg/kg)静注した後1～3時間後にﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ600mg/㎡(18m/kg)を静注,その後ﾛｲｺﾎﾞﾘﾝ投与 ⑥CMF療法 4週毎CPA65mg/㎡/日経口14日間連続MTX40mg/㎡/日静注第1,8日目FU500mg/㎡/日静注第1,8日目 ⑦M-VAC療法 4週毎MTX30mg/㎡静注第1,15,22日目VLB3mg/㎡静注第2,15,22日目DXR30mg/㎡,CDDP70mg/㎡静注第2日目
		5mg/瓶 ¥860/瓶	①<MTX通常療法>急性白血病,慢性骨髄性白血病,慢性ﾘﾝﾊﾟ性白血病 ②<MTX通常療法>絨毛性疾患 ③<CMF療法>乳癌 ④<MTX･LV救援療法>肉腫 ⑤<MTX･LV救援療法>急性白血病(中枢神経系,睾丸への浸潤)悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(中枢への浸潤) ⑥<MTX･ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ交代療法>胃癌 ⑦<M-VAC療法>尿路上皮癌 【適応規格:④⑤⑥は50mgのみ】	①ｉ)1週間に3～6回,静注または筋注 　<成人>1日5～10mg 　<小児>1日2.5～5mg 　<幼児>1日1.25～2.5mg 　ⅱ)髄膜白血病には髄注 　0.2～0.4mg/kg,2～7日毎 ②1日10～30mg静注×5日間,7～12日休薬 ③MTX:1日40mg/㎡静注,第1,8日目 　FU:1日500mg/㎡静注,第1,8日目 　CPA:1日65mg/㎡経口,14日間連続,4週毎 ④週1回100～300mg/kg点滴静注後LV投与,1～4週間隔 ⑤週1回30～100mg/kg点滴静注後LV投与,1～4週間隔 ⑥MTX100mg/㎡(3mg/kg)静注 　1～3時間後にﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ600mg/㎡(18m/kg),静注または点静,その後LV投与,1週間間隔 ⑦MTX:30mg/㎡静注,第1,15,22日目 　VLB:3mg/㎡静注,第2,15,22日目 　DXR:30mg/㎡およびCDDP:70mg/㎡静注,第2日目,4週毎
		50mg/瓶 ¥2848/瓶		
		200mg(8mL)/瓶 ¥10011/瓶	<MTX･LV救援療法> ①肉腫 ②急性白血病(中枢神経系,睾丸への浸潤)悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(中枢への浸潤)	①週1回100～300mg/kg点滴静注後LV投与,1～4週間隔 ②週1回30～100mg/kg点滴静注後LV投与,1～4週間隔
		1000mg(40mL)/瓶 ¥43726/瓶		
■代謝拮抗剤 ◆その他				
ハイドレア <ヒドロキシカルバミド> 略名：HU (ﾌﾞﾘｽﾄﾙ)	500mg/C ¥318.3/C		慢性骨髄性白血病,本態性血小板血症,真性多血症	500～2000mg/日<維持量>500～1000mg/日
ビダーザ <アザシチジン> (日本新薬)		100mg/瓶 ¥51421/瓶	骨髄異形成症候群	75mg/m2分1皮下または点静7日間,3週間休薬,これを1ｸｰﾙとし繰り返す

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■白金系抗癌薬				
アクプラ <ネダプラチン> 略名：CDGP （ｼｵﾉｷﾞ）		50mg/瓶 ¥25813/瓶	頭頸部癌,肺小細胞癌,肺非小細胞癌,食道癌,膀胱癌,精巣(睾丸)腫瘍,卵巣癌,子宮頸癌	80～100mg/㎡/日,4週間休薬,これを繰り返す
		100mg/瓶 ¥47598/瓶		
エルプラット <オキサリプラチン> 略名：L-OHP （ﾔｸﾙﾄ）		50mg(10mL)/瓶 ¥33347/瓶	①治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 ②結腸癌における術後補助化学療法 ③治癒切除不能な膵癌 ④治癒切除不能な進行・再発の胃癌	①②A法またはB法 ③A法 ④B法 <他の抗悪性腫瘍薬と併用> A法：85mg/㎡,1回/日,2時間で点静,少なくとも13日間休薬 B法：130mg/㎡,1回/日,2時間で点静,少なくとも20日間休薬 これを1ｻｲｸﾙとして投与を繰り返す
		100mg(20mL)/瓶 ¥61448/瓶		
		200mg(40mL)/瓶 ¥113227/瓶		
カルボプラチン <カルボプラチン> 略名：CBDCA （日医工）		50mg(5mL)/瓶 ¥3813/瓶	①頭頸部癌,肺小細胞癌,睾丸腫瘍,卵巣癌,子宮頸癌,悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,非小細胞肺癌 ②乳癌 ③小児悪性固形腫瘍(神経芽腫･肝芽腫･中枢神経系胚細胞腫瘍,再発又は難治性のﾕｰｲﾝｸﾞ肉腫ﾌｧﾐﾘｰ腫瘍･腎芽腫) ④小児悪性固形腫瘍(網膜芽腫)	①300～400mg/㎡/日,後4週間休薬,これを繰り返す ②<他の抗悪性腫瘍薬との併用> 300～400mg/㎡/日,後3週間休薬,これを繰り返す ③<他の抗悪性腫瘍薬との併用> 635mg/㎡/日,1日間または400mg/㎡/日,2日間,後3～4週間休薬,これを繰り返す ④<他の抗悪性腫瘍薬との併用> 560mg/㎡/日,後3～4週間休薬,これを繰り返す 36ヵ月齢以下：18.6mg/kg
		150mg(15mL)/瓶 ¥9244/瓶		
		450mg(45mL)/瓶 ¥16255/瓶		
ミリプラ <ミリプラチン> （大日本住友）		70mg/瓶 ¥47955/瓶	肝細胞癌におけるﾘﾋﾟｵﾄﾞﾘｾﾞｰｼｮﾝ	70mgを懸濁用液3.5mLに懸濁,1日1回肝動脈内に挿入されたｶﾃｰﾃﾙより投与 【DI照会参照】
ミリプラ懸濁液 <ヨード化ケシ油> （大日本住友）		4mL/管 ¥344/管	ミリプラ動注用70mgの懸濁用	ﾐﾘﾌﾟﾗﾁﾝ70mgに対し,3.5mLを加えて使用
ランダ <シスプラチン> 略名：CDDP （日本化薬）		10mg(20mL)/瓶 ¥2787/瓶	睾丸腫瘍,膀胱癌,腎盂･尿路腫瘍,前立腺癌(A,C) 卵巣癌(B,A,C) 頭頸部癌(D,B) 非小細胞肺癌(E,F) 食道癌(B,A) 子宮頸癌(A,E) 神経芽細胞腫,胃癌(E) 小細胞肺癌(E) 尿路上皮癌(H) 骨肉腫(G) 胆道癌(I) <他の抗悪性腫瘍薬と併用> 胚細胞腫瘍(精巣腫瘍,卵巣腫瘍,性腺外腫瘍)(F) 悪性骨腫瘍,子宮体癌,再発･難治性悪性リンパ腫,小児悪性固形腫瘍(横紋筋肉腫,神経芽腫,肝芽腫その他肝原発性悪性腫瘍,髄芽腫等)	<A>15～20mg/㎡×5日間後,2週間休薬,これを繰り返す <B>50～70mg/㎡後,3週間休薬,これを繰り返す <C>25～35mg/㎡後,1週間休薬,これを繰り返す <D>10～20mg/㎡×5日間後,2週間休薬,これを繰り返す <E>70～90mg/㎡後,3週間休薬,これを繰り返す <F>20mg/㎡×5日間後,2週間休薬,これを繰り返す <G>100mg/㎡後,3週間休薬,これを繰り返す <H>M-VAC療法【M-4参照】 <I>25mg/㎡,週1回,2週投与1週休薬,これを繰り返す その他は【DI照会参照】
		25mg(50mL)/瓶 ¥6757/瓶		
		50mg(100mL)/瓶 ¥11890/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性抗生物質 ◆アントラサイクリン系製剤				
アクラシノン <アクラルビシン> 略名：ACR (ｱｽﾃﾗｽ)		20mg/瓶 【用時購入】 ¥3519/瓶	①急性白血病,肺癌,胃癌,乳癌,卵巣癌 ②悪性ﾘﾝﾊﾟ腫	①20mg/日(0.4mg/kg/日)×10～15日間 ②ⅰ)40～50mg/日(0.8～1mg/kg/日)を2回/週(1,2日連日又は1,4日目) ⅱ)20mg/日(0.4mg/kg/日)×7日間,7日間休薬
アドリアシン <ドキソルビシン> 略名：DXR (協和発酵ｷﾘﾝ)		10mg/瓶 ¥2033/瓶	①肺癌,消化器癌(胃癌,胆嚢･胆管癌,膵臓癌,肝癌,直腸癌,結腸癌等),乳癌,骨肉腫 ②乳癌(手術可能例における術前,術後化学療法),子宮体癌(術後化学療法,転移･再発時化学療法),悪性骨･軟部腫瘍,悪性骨腫瘍,多発性骨髄腫,小児悪性固形腫瘍(ﾕｰｲﾝｸﾞ肉腫ﾌｧﾐﾘｰ腫瘍,横紋筋肉腫,神経芽腫,網膜芽腫,肝芽腫,腎芽腫等) ③膀胱腫瘍 ④尿路上皮癌 ⑤悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(細網肉腫,ﾘﾝﾊﾟ肉腫,ﾎｼﾞｷﾝ病)	①ⅰ)10mg/日×4～6日,後7～10日休薬,2～3回繰り返す ⅱ)20mg/日×2～3日,後7～10日休薬,2～3回繰り返す ⅲ)20～30mg/日×3日,後18日休薬,2～3回繰り返す 【総投与量500mg/㎡以下】 ②【DI照会参照】 ③30～60mg/日,1回/日連日または2～3回/週,膀注 ④<M-VAC療法>30mg/m2/回 ⑤①と同じ 他の抗悪性腫瘍剤との併用【DI照会参照】
		50mg/瓶 ¥9193/瓶		
イダマイシン <イダルビシン> 略名：IDAR (ﾌｧｲｻﾞｰ)		5mg/瓶 ¥13447/瓶	急性骨髄性白血病(慢性骨髄性白血病の急性転化を含む)	12mg/㎡×3日間静注後,骨髄機能回復迄休薬これを繰り返す
カルセド <アムルビシン> 略名：AMR (日本化薬)		20mg/瓶 ¥7904/瓶	非小細胞肺癌,小細胞肺癌	45mg/㎡,1回/日,3日間連続静注,3～4週間休薬
		50mg/瓶 ¥17673/瓶		
ダウノマイシン <ダウノルビシン> 略名：DRC (明治)		20mg/瓶 ¥1717/瓶	急性白血病(慢性白血病の急性転化を含む)	0.4～1mg/kg/日, 3～5日間(連日又は隔日) <小児>1mg/kg/日, 3～5日間(連日又は隔日)
ドキシル <ドキソルビシン> 略名：DXR (ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ)		20mg/瓶 【用時購入】 ¥99301/瓶	①がん化学療法後に増悪した卵巣癌 ②ｴｲｽﾞ関連ｶﾎﾟｼﾞ肉腫	①50mg/㎡,1回/1日,後4週間休薬,これを繰り返す ②20mg/㎡/日,1回/1日,後2～3週間休薬,これを繰り返す
ノバントロン <ミトキサントロン> 略名：MIT (日本製薬)		10mg(5mL)/瓶 ¥21904/瓶	①急性白血病(慢性骨髄性白血病の急性転化を含む) ②悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,乳癌 ③肝細胞癌	①2～5mg/㎡×5日間/3～4週間毎 ②ⅰ)2～4mg/㎡×5日間/3～4週間毎 ⅱ)8～14mg/㎡/3～4週間毎 ③6～12mg/㎡/3～4週間毎
ピノルビン <ピラルビシン> 略名：THP (日本化薬)		10mg/瓶 ¥6472/瓶	頭頸部癌(C,D) 急性白血病(E) 胃癌,乳癌(A,C) 卵巣癌,子宮癌(A) 悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(A,D) 尿路上皮癌(膀胱癌,腎盂･尿管腫瘍)(A,B)	<A>40～60mg(25～40mg/㎡)投与後,3～4週間休薬,これを繰り返す <B>30～40mg(20～25mg/㎡)×2日間,3～4週間休薬,これを繰り返す <C>20～40mg(14～25mg/㎡)×1回/週×2～3回,3～4週間休薬,これを繰り返す <D>10～20mg(7～14mg/㎡)×3～5日間,3～4週間休薬,これを繰り返す <E>10～30mg(7～20mg/㎡)×5日間,骨髄回復迄休薬,これを繰り返す <F>頭頸部癌,膀胱癌10～20mg(7～14mg/㎡)/連日･隔日×5～10回動注 <G>膀胱癌15～30mg×3回/週,1～2時間把持膀胱内注入
		20mg/瓶 ¥12573/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エピルビシン ＜エピルビシン＞ 略名：EPI （日本化薬）		10mg/瓶 ¥2837/瓶	①急性白血病 ②悪性ﾘﾝﾊﾟ腫 ③肝癌 ④表在性膀胱癌 ⑤乳癌，卵巣癌，胃癌，尿路上皮癌(腎盂・尿管腫瘍) ＜他の抗悪性腫瘍薬と併用＞ ⑥乳癌（手術可能例における術前あるいは術後）	①15mg/㎡/日×5～7日間，後3週間休薬後，これを2～3回繰り返す ②40～60mg/㎡後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ③60mg/㎡肝動注後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ④60mg膀注後4日間休薬，これを2～4回繰り返す ⑤60mg/㎡後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ⑥ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ，ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ・ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙと併用:100mg/㎡，1日1回，20日間休薬。これを4～6回繰り返す
		50mg/瓶 ¥13375/瓶		
ファルモルビシン ＜エピルビシン＞ 略名：EPI （ﾌｧｲｻﾞｰ）		10mg/瓶 ¥4836/瓶	①急性白血病 ②悪性ﾘﾝﾊﾟ腫 ③肝癌 ④表在性膀胱癌 ⑤乳癌，卵巣癌，胃癌，尿路上皮癌(腎盂・尿管腫瘍) ＜他の抗悪性腫瘍薬と併用＞ ⑥乳癌（手術可能例における術前あるいは術後）	①15mg/㎡/日×5～7日間，後3週間休薬後，これを2～3回繰り返す ②40～60mg/㎡後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ③60mg/㎡肝動注後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ＜肝動脈化学塞栓療法(TACE)の場合＞ 10mgにﾖｰﾄﾞ化ｹｼ油脂肪酸ｴﾁﾙｴｽﾃﾙを0.5～2mLの割合で加え肝動注，60mg/㎡を適宜増減し腫瘍血管に乳濁液が充満した時点で終了 ④60mg膀注後4日間休薬，これを2～4回繰り返す ⑤60mg/㎡後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ⑥ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ，ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ・ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙと併用:100mg/㎡，1日1回，20日間休薬。これを4～6回繰り返す
		50mg/瓶 ¥21679/瓶		①15mg/㎡/日×5日間，後3週間休薬後，これを2～3回繰り返す ②40～60mg/㎡後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ③60mg/㎡肝動注後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ＜肝動脈化学塞栓療法(TACE)の場合＞ 10mgにﾖｰﾄﾞ化ｹｼ油脂肪酸ｴﾁﾙｴｽﾃﾙを0.5～2mLの割合で加え肝動注，60mg/㎡を適宜増減し腫瘍血管に乳濁液が充満した時点で終了 ④60mg膀注後4日間休薬，これを2～4回繰り返す ⑤60mg/㎡後3～4週間休薬後，これを3～4回繰り返す ⑥ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ，ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ・ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙと併用:100mg/㎡，1日1回，20日間休薬。これを4～6回繰り返す

■抗癌性抗生物質 ◆マイトマイシン系製剤

マイトマイシン ＜マイトマイシンＣ＞ 略名：MMC （協和発酵ｷﾘﾝ）		2mg/瓶 ¥459/瓶	慢性ﾘﾝﾊﾟ性白血病，慢性骨髄性白血病，頭頸部腫瘍，肺癌，胃癌，膵癌，直腸・結腸癌，膀胱腫瘍，乳癌，子宮頸癌，子宮体癌，肝癌	ⅰ)4～6mg×1～2日/週，静注 ⅱ)2mg/連日静注 ⅲ)10～30mg×1回/1～3週間 ⅳ)＜他の抗悪性腫瘍剤との併用＞2～4mg×1～2/週 ⅴ)＜その他の投与経路＞動注，髄腔内，胸・腹腔内2～10mg 膀胱内注入(膀胱腫瘍) ＜予防＞4～10mg/連・隔日 ＜治療＞10～40mg/連日
		10mg/瓶 ¥2141/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性抗生物質 ◆ブレオマイシン系製剤				
ブレオＳ ＜ブレオマイシン＞ 略名：BLM （日本化薬）		0.5%軟膏(5g/本) 【用時購入】 ¥7838.5/本	皮膚悪性腫瘍	1回/日(ODT) 又は2～3回/日(単純塗布)(1～2.5g/100cm²)
ブレオ ＜ブレオマイシン＞ 略名：BLM （日本化薬）		15mg/瓶 ¥5412/瓶	悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(ﾎｼﾞｷﾝ病,ﾘﾝﾊﾟ肉腫,細網肉腫等),神経膠腫,頭頸部癌(上顎癌,舌癌口唇癌,咽頭癌,喉頭癌,口口腔癌等)甲状腺癌,肺癌特に原発性･転移性扁平上皮癌),食道癌,子宮頸癌,子宮体癌,肝癌	15～30mg×2回/週皮下,筋注,静注 5～15mg×2回/週動注 【総投与量300mg以下】

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性植物成分 ◆植物アルカロイド				
イリノテカン塩酸塩 ＜イリノテカン＞ 略名：CPT-11 （大鵬）		40mg(2mL)/瓶 ¥3499/瓶	①小細胞肺癌,非小細胞肺癌,乳癌,有棘細胞癌 ②子宮頸癌,卵巣癌,胃癌,結腸･直腸癌 ③悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(非ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫) ④小児悪性固形腫瘍 ⑤治癒切除不能な膵癌	①Ａ法:100mg/㎡/日,1週間間隔で3～4回点静2週間休薬 ②Ａ法またはＢ法:150mg/㎡/日,2週間間隔で2～3回点静3週間休薬 ③Ｃ法:40mg/㎡/日,3日間連日,1週毎2～3回点静,2週間休薬 ④Ｄ法:20mg/㎡/日,5日間連日,1週毎2回点静,1週間休薬 ⑤Ｅ法:180mg/㎡/日,2週間休薬
		100mg(5mL)/瓶 ¥7847/瓶		
エクザール ＜ビンブラスチン＞ 略名：VLB （日本化薬）		10mg/瓶 【用時購入】 ¥3081/瓶	①悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,絨毛性疾患(絨毛癌,破壊胞状奇胎,胞状奇胎) ②再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍,卵巣腫瘍,性腺外腫瘍) ③ﾗﾝｹﾞﾙﾊﾝｽ細胞組織球症 ④尿路上皮癌	①0.1mg/kg/週静注を0.05mg/kgずつ増量し,0.3mg/kg/週 ②0.11mg/kg/日,2日間静注,19～26日間休薬 ③<導入療法>6mg/m2/回静注,週1 <維持療法>6mg/m2/回静注,2～3週毎 ④<M-VAC療法>3mg/m2/回静注,4週毎
オンコビン ＜ビンクリスチン＞ 略名：VCR （日本化薬）		1mg/瓶 ¥3001/瓶	①白血病(急性白血病,慢性白血病の急性転化時を含む),悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(ﾎｼﾞｷﾝ病,ﾘﾝﾊﾟ肉腫,細網肉腫),小児腫瘍(神経芽腫,黄紋筋肉腫,ｳｨﾙﾑｽ腫瘍,睾丸胎児性癌,血管肉腫等) <他の抗悪性腫瘍薬と併用> ②多発性骨髄腫 ③悪性星細胞種,乏突起膠腫成分を有する神経膠腫 ④褐色細胞腫	①0.02～0.05mg/kg/週静注 <小児>0.05～0.1mg/kg/週 【Max：2mg/回】 ②0.4mg/日,24時間持続静注,4日間,17～24日間休薬, ③1.4mg/㎡/回静注,3週後2回目, 【Max：2mg/回】 ④1.4mg/㎡/回静注,3週後2回目 【Max：2mg/回】
ナベルビン ＜ビノレルビン＞ 略名：NVB （協和発酵ｷﾘﾝ）		10mg/瓶(1mL) ¥5419/瓶	①非小細胞肺癌 ②手術不能又は再発乳癌	①20～25mg/㎡,1週間間隔で静注 【Max:25mg/㎡】 ②25mg/㎡,1週間間隔で2週連続投与,3週目休薬
		40mg/瓶(4mL) ¥19425/瓶		
ハイカムチン ＜ノギテカン＞ （日本化薬）		1.1mg/瓶 ¥10130/瓶	①小細胞肺癌 ②がん化学療法後に増悪した卵巣癌 ③小児悪性固形腫瘍	①1.0mg/m2/日,5日間連日点静,16日間休薬 ②1.5mg/m2/日,5日間連日点静,16日間休薬 ③<他の抗悪性腫瘍剤との併用>0.75mg/m2/日,5日間連日点静,16日間休薬
フィルデシン ＜ビンデシン＞ 略名：VDS （ｼｵﾉｷﾞ）		1mg/瓶 ¥4883/瓶	①急性白血病(慢性骨髄性白血病の急性転化を含む),悪性ﾘﾝﾊﾟ腫 ②肺癌,食道癌	①0.06mg/kg/週静注 <小児>0.07～0.1mg/kg/週 ②0.06～0.09mg/kg/週静注
		3mg/瓶 ¥12975/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性植物成分 ◆タキサン環類【過誤防止のため、一般名ドセタキセル、又はパクリタキセルで処方のこと】				
ワンタキソテール ＜ドセタキセル＞ 略名：DOC （ｻﾉﾌｨ）		20mg(1mL)/瓶 ¥17322/瓶	①乳癌,非小細胞肺癌,胃癌,頭頸部癌 ②卵巣癌 ③前立腺癌 ④食道癌,子宮体癌	①60mg/㎡/日,3～4週間間隔で点静【Max:75mg/㎡】 ②70mg/㎡/日,3～4週間間隔で点静【Max:75mg/㎡】 ③75mg/㎡/日,3週間間隔で点静 ④70mg/㎡/日,3～4週間間隔で点静
		80mg(4mL)/瓶 ¥59156/瓶		
パクリタキセル ＜パクリタキセル＞ 略名：PTX （日本化薬）		30mg(5mL)/瓶 ¥6530/瓶	非小細胞肺癌,胃癌,子宮体癌(A) 再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍,卵巣腫瘍,性腺外腫瘍)(他の抗悪性腫瘍剤併用A法) 乳癌(A,B) 卵巣癌(Aまたはｶﾙﾎﾞﾌﾟﾗﾁﾝ併用C法) 再発または遠隔転移を有する頭頸部癌,食道癌,血管肉腫(B) 進行または再発の子宮頸癌(ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ併用D法)	<A>1日1回210mg/㎡,3時間で点静,3週間休薬 <B>1日1回100mg/㎡,1時間で点静,週1回,6週連続2週休薬を1ｸｰﾙ <C>1日1回 80mg/㎡,1時間で点静,週1回,3週連続を1ｸｰﾙとする <D>1日1回135mg/㎡,24時間で点静,3週休薬を1ｸｰﾙとする
		100mg(16.7mL)/瓶 ¥19105/瓶		
■抗癌性植物成分 ◆タキサン環類（アルブミン懸濁型）				
アブラキサン ＜パクリタキセル＞ 略名：ABI-007 （大鵬）		100mg/瓶 ¥58610/瓶	乳癌,胃癌(A) 非小細胞肺癌(B) 治癒切除不能な膵癌(C)	<A>1日1回260mg/㎡,30分で点静 20日間以上休薬を1ｸｰﾙとする <B>1日1回100mg/㎡,30分で点静 週1回×3週を1ｸｰﾙとする <C>1日1回125mg/㎡,30分で点静 週1回×3週,4週目休薬を1ｸｰﾙとする
■抗癌性植物成分 ◆その他				
ハラヴェン ＜エリブリン＞ （ｴｰｻﾞｲ）		1mg/瓶(2mL) ¥65901/瓶	手術不能又は再発乳癌	1.4mg/㎡,1週間間隔で2週連続投与,3週目休薬
ベプシド ＜エトポシド＞ 略名：VP-16 （ﾌﾟﾘｽﾄﾙ）	25mg/C ¥821.1/C		①肺小細胞癌 ②悪性ﾘﾝﾊﾟ腫 ③子宮頸癌 ④がん化学療法後に増悪した卵巣癌	①Ａ法:175～200mg×5日間,3週間休薬 ②Ａ法またはＢ法:50mg×21日間,1～2週間休薬 ③Ｂ法 ④50mg/㎡×21日,1週間休薬
		100mg(5mL)/瓶 ¥5390/瓶	①肺小細胞癌,悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,急性白血病,膀胱癌,睾丸腫瘍,絨毛性疾患 ②胚細胞腫瘍(精巣腫瘍,卵巣腫瘍,性腺外腫瘍)<他の抗悪性腫瘍剤との併用> ③小児悪性固形腫瘍(ﾕｰｲﾝｸﾞ肉腫ﾌｧﾐﾘｰ腫瘍,横紋筋肉腫,神経芽腫,網膜芽腫,肝芽腫その他肝原発悪性腫瘍,腎芽腫その他腎原発悪性腫瘍等)	①60～100mg/㎡/日×5日間後3週間休薬 ②<他の抗悪性腫瘍剤との併用>100mg/㎡/日,5日間,16日間休薬,これを繰り返す ③100～150mg/㎡/日,3～5日間3週間休薬,これを繰り返す

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ホルモン製剤				
アリミデックス ＜アナストロゾール＞ 略名：(ARM) (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)	1mg/錠 ¥495.6/錠		閉経後乳癌	1mg分1
アロマシン ＜エキセメスタン＞ 略名：(EXE) (ﾌｧｲｻﾞｰ)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥474.7/錠			25mg分1
イクスタンジ ＜エンザルタミド＞ (ｱｽﾃﾗｽ)	40mg/錠 ¥3138.8/錠		去勢抵抗性前立腺癌	160mg分1
エストラサイト ＜エストラムスチン＞ 略名：EMP (日本新薬)	156.7mg/C ¥370.8/C		前立腺癌	560mg分2
オダイン ＜フルタミド＞ 略名：(NK7205) (日本化薬)	125mg/錠 ¥292.9/錠			375mg分3
カソデックスＯＤ ＜ビカルタミド＞ 略名：CAS (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)	80mg/錠 ¥910.4/錠			80mg分１
ゴナックス ＜デガレリクス＞ (ｱｽﾃﾗｽ)		80mg/瓶 ¥24370/瓶		初回240mg(120mgずつ腹部2カ所に)皮下注 2回目以降80mg皮下注,4週間毎
		120mg/瓶 ¥29958/瓶		
サンドスタチン ＜オクトレオチド＞ 略名：SAS (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)		100μg(1mL)/管 ¥2987/管	①消化管ﾎﾙﾓﾝ産生腫瘍(VIP産生腫瘍,ｶﾙﾁﾉｲﾄﾞ症候群の特徴を示すｶﾙﾁﾉｲﾄﾞ腫瘍,ｶﾞｽﾄﾘﾝ産生腫瘍),末端肥大症･下垂体性巨人症における成長ﾎﾙﾓﾝ,ｿﾏﾄﾒｼﾞﾝC分泌過剰状態 ②進行･再発癌患者の緩和医療における消化管閉塞に伴う消化器症状の改善	①100～300μg分2～3皮下 ②300μg/日を24時間持続皮下
ゾラデックス ＜ゴセレリン＞ 略名：ZOL (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		3.6mg/筒 ¥38888/ｷｯﾄ	前立腺癌,閉経前乳癌	3.6mg/4週間毎,前腹部皮下注
ゾラデックスＬＡ ＜ゴセレリン＞ 略名：ZOL (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)		10.8mg/筒 ¥68203/筒		10.8mg/12～13週毎,前腹部皮下注
ノルバデックス ＜タモキシフェン＞ 略名：TAM (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)	10mg/錠 ¥167.7/錠		乳癌	20mg分1～2

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ヒスロンH ＜メドロキシプロゲステロン＞ 略名：MPA （協和発酵ｷﾘﾝ）	200mg/錠 ¥285.3/錠		①乳癌 ②子宮体癌(内膜癌)	①600～1200mg分3 ②400～600mg分2～3
フェアストン ＜トレミフェン＞ 略名：TOR （日本化薬）	40mg/錠 ¥374.1/錠		閉経後乳癌	40～(120)mg分1
フェマーラ ＜レトロゾール＞ 略名：RET （中外）	2.5mg/錠 【院外のみ】 ¥674.1/錠			2.5mg分1
プロスタール ＜クロルマジノン＞ 略名：(CMA) （あすか）	25mg/錠 ¥101/錠		①前立腺癌 ②前立腺肥大症	①100mg分2 ②50mg分2
リュープリン ＜リュープロレリン＞ （武田）		1.88mg/ｷｯﾄ ¥31304/ｷｯﾄ	子宮筋腫,子宮内膜症	1.88mg(又は3.75mg)/4週毎,皮下注
		3.75mg/ｷｯﾄ ¥40975/ｷｯﾄ	①子宮筋腫,子宮内膜症 ②前立腺癌,閉経前乳癌	①1.88mg(又は3.75mg)/4週毎,皮下注 ②3.75mg/4週毎,皮下注
リュープリンＳＲ ＜リュープロレリン＞ （武田）		11.25mg/ｷｯﾄ ¥72978/ｷｯﾄ	前立腺癌, 閉経前乳癌	11.25mg/12週毎,皮下注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■分子標的治療薬 ◆チロシンキナーゼ阻害薬				
イレッサ ＜ゲフィチニブ＞ 略名：(IRESSA) (ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)	250mg/錠 ¥6712.7/錠		EGFR遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌	250mg分1
グリベック ＜イマチニブ＞ 略名：(GLI) (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	100mg/錠 ¥2617.4/錠		①慢性骨髄性白血病 ②KIT(CD117)陽性消化管間質腫瘍 ③ﾌｨﾗﾃﾞﾙﾌｨｱ染色体陽性急性ﾘﾝﾊﾟ性白血病 ④FIP1L1-PDGFRα陽性の好酸球増多症候群,慢性好酸球性白血病	①慢性期400mg分1【Max:600mg分1】 移行期又は急性期600mg分1 【Max:800mg分2】 ②400mg分1 ③600mg分1 ④100mg分1【Max:400mg分1】
ジオトリフ ＜アファチニブ＞ (ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰｲﾝｹﾞﾙﾊｲﾑ)	20mg/錠 ¥5840.7/錠		EGFR遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌	1日1回40mg,空腹時【Max:50mg】
	30mg/錠 ¥8547.4/錠			
	40mg/錠 ¥11198.5/錠			
タルセバ ＜エルロチニブ＞ (中外)	150mg/錠 ¥10642.6/錠		切除不能な再発・進行性で,がん化学療法施行後に増悪した非小細胞肺癌,EGFR遺伝子変異陽性の切除不能な再発・進行性で,がん化学療法未治療の非小細胞肺癌	150mg分1 【食事の1時間以上前又は食後2時間以降】
■分子標的治療薬 ◆キナーゼ阻害薬				
ヴォトリエント ＜パゾパニブ＞ (ｸﾞﾗｸｿｽﾐｽｸﾗｲﾝ)	200mg/錠 【用時購入】 ¥4142.3/錠		①悪性軟部腫瘍 ②根治切除不能又は転移性の腎細胞癌	800mg分1 【食事の1時間以上前又は食後2時間以降】
スチバーガ ＜レゴラフェニブ＞ (ﾊﾞｲｴﾙ)	40mg/錠 ¥5579.3/錠		治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌,がん化学療法後に増悪した消化管間質腫瘍	1日1回160mg,3週間連日投与後1週間休薬
レンビマ ＜レンバチニブ＞ (ｴｰｻﾞｲ) 投与制限：14日△ (平成28年5月末まで)	4mg/C ¥3956.4/C		根治切除不能な甲状腺癌	24mg分1
	10mg/C ¥9354.2/C			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■分子標的治療薬 ◆モノクローナル抗体				
アドセトリス <ブレンツキシマブ ベドチン> (武田薬品)		50mg/瓶 ¥/瓶	再発又は難治性のCD30陽性のﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫,未分化大細胞ﾘﾝﾊﾟ腫	3週間に1回1.8mg/kg,点静
アバスチン <ベバシズマブ> (中外)		100mg(4mL)/瓶 ¥46865/瓶	①治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 ②扁平上皮癌を除く切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 ③手術不能又は再発乳癌 ④悪性神経膠腫 ⑤卵巣癌	①<他の抗悪性腫瘍薬と併用> 5mg/kgまたは10mg/kg,点静,2週間以上休薬 または7.5mg/kg,点静,3週間以上休薬 ②⑤<他の抗悪性腫瘍薬と併用> 15mg/kg,点静,3週間以上休薬 ③<ﾊﾟｸﾘﾀｷｾﾙ併用> 10mg/kg,点静,2週間以上休薬 ④10mg/kg,点静,2週間以上休薬 または15mg/kg,点静,3週間以上休薬
		400mg(16mL)/瓶 ¥178468/瓶		
アービタックス <セツキシマブ> 略名：C225 (ﾒﾙｸｾﾛｰﾉ)		100mg(20mL)/瓶 【用時購入】 ¥36920/瓶	①EGFR陽性の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 ②頭頸部癌	<初回>400mg/㎡/回を2時間 <2回目以降>250mg/㎡/回を1時間 1週間間隔で点静
カドサイラ <トラスツズマブエムタンシン> (中外)		100mg(溶解液5mL付)/瓶 ¥235108/瓶	HER2陽性の手術不能又は再発乳癌	1回3.6mg/kg点静,3週間間隔
		160mg(溶解液8mL付)/瓶 ¥373945/瓶		
サイラムザ <ラムシルマブ> (日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ)		100mg(10mL)/瓶 ¥75265/瓶	治癒切除不能な進行・再発の胃癌	1回8mg/kg,2週間に1回点滴静注
		500mg(50mL)/瓶 ¥355450/瓶		
パージェタ <ペルツズマブ> (中外)		420mg/瓶 ¥238491/瓶	HER2陽性の手術不能又は再発乳癌	<ﾄﾗｽﾂｽﾞﾏﾌﾞと他の抗悪性腫瘍剤との併用> 初回840mg/回,2回目以降420mg/回,1回/日,3週間間隔で点静
ハーセプチン <トラスツズマブ> (中外)		60mg/瓶 ¥24567/瓶	①HER2過剰発現が確認された乳癌(AまたはB) ②HER2過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌(B:他の抗悪性腫瘍薬と併用)	<A>初回4mg/kg/回,2回目以降2mg/kg/回,1回/日,1週間間隔で点静 <B>初回8mg/kg/回,2回目以降6mg/kg/回,1回/日,3週間間隔で点静
		150mg/瓶 ¥57515/瓶		
ベクティビックス <パニツムマブ> (武田)		100mg(5mL)/瓶 ¥77726/瓶	KRAS遺伝子野生型の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	6mg/kg/回を60分以上で点静 2週間間隔
リツキサン <リツキシマブ> 略名：RIT (中外)		100mg(10mL)/瓶 ¥44050/瓶	①CD20陽性のB細胞性非ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫,免疫抑制状態下のCD20陽性のB細胞性ﾘﾝﾊﾟ増殖性疾患 ②ｳﾞｪｹﾞﾅ肉芽腫症,顕微鏡的多発血管炎 ③難治性のﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群(頻回再発型あるいはｽﾃﾛｲﾄﾞ依存性を示す場合)	①375mg/㎡/回,点静,1週間間隔または他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合1ｻｲｸﾙあたり1回【Max:8回】 維持療法:375mg/㎡/回,点静,8週間間隔を目安【Max:12回】 ②375mg/㎡/回,点静,1週間間隔,4回 ③375mg/㎡/回,点静,1週間間隔,4回【Max:1回500mg】
		500mg(50mL)/瓶 ¥215573/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他 ◆抗造血器悪性腫瘍剤				
アグリリン ＜アナグレリド塩酸塩水和物＞ (ｼｬｲｱｰ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ)	0.5mg/C ¥774.40/C		本態性血小板血症	1回0.5mg 分2～4【Max:10mg】
ベサノイド ＜トレチノイン＞ 略名：ATRA (中外)	10mg/C【用時購入】 ¥717.6/C		急性前骨髄球性白血病	60～80mg(45mg/㎡)分3
ペラゾリン ＜ソブゾキサン＞ 略名：(MST-16) (全薬)	細粒(400mg/包) ¥2008.6/包		悪性ﾘﾝﾊﾟ腫,成人T細胞白血病ﾘﾝﾊﾟ腫	1600mg分1～2×5日間,後2～3週間休薬これを繰り返す 【Max:2400mg】
ベルケイド ＜ボルテゾミブ＞ (ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ)		3mg/瓶 ¥169646/瓶	①未治療の多発性骨髄腫 ②再発又は難治性の多発性骨髄腫 ③ﾏﾝﾄﾙ細胞ﾘﾝﾊﾟ腫	①<他の抗悪性腫瘍剤との併用> 1.3mg/㎡/回静注または皮下注 ×8回(1･4･8･11･22･25･29･32日目), 以後10日間休薬×4ｻｲｸﾙ 5ｻｲｸﾙ以降1.3mg/㎡/回静注または皮下注 ×4回(1･8･22･29日目), 以後13日間休薬×9ｻｲｸﾙ ②1.3mg/㎡/回静注または皮下注 2回/週×2週間(1･4･8･11日目), 以後10日間休薬,これを繰り返す または8ｻｲｸﾙ以降維持療法として1回/週 ×4週間(1･8･15･22日目),以後13日間休薬 ③<他の抗悪性腫瘍剤との併用> 1.3mg/㎡/回静注または皮下注 ×4回(1･4･8･11日目), 以後10日間休薬×6ｻｲｸﾙ
レナデックス ＜デキサメタゾン＞ (ｾﾙｼﾞｰﾝ)	4mg/錠 ¥175.8/錠		多発性骨髄腫	40mg分1,4日間
レブラミド ＜レナリドミド＞ (ｾﾙｼﾞｰﾝ)	5mg/C ¥9114.2/C		①再発又は難治性の多発性骨髄腫 ②5番染色体長腕部欠失を伴う骨髄異形成症候群	①25mg分1,21日間連日投与,7日間休薬,これを1ｻｲｸﾙとし繰り返す ②10mg分1,21日間連日投与,7日間休薬,これを1ｻｲｸﾙとし繰り返す
ロイナーゼ ＜アスパラギナーセ＞ 略名：L-ASP (協和発酵ｷﾘﾝ)		5000単位/瓶 【用時購入】 ¥2334/瓶	急性白血病(慢性骨髄性白血病の急性転化を含む),悪性ﾘﾝﾊﾟ腫	〈静脈内投与〉 50～200単位/kg/日,連日･隔日 〈筋肉内投与〉 10000単位/㎡/日,週3回または25000単位/㎡/日,週1回

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イムノブラダー ＜乾燥ＢＣＧ＞ （日本ﾋﾞｰｼｰｼﾞｰ）		40mg/瓶 ¥9218.6/瓶	表在性膀胱癌 膀胱上皮内癌	1回80mg/週,膀胱内注入8週間繰り返す
塩酸プロカルバジン ＜プロカルバジン＞ 略名：PCZ （中外）	50mg/C【用時購入】 ¥368.3/C		①悪性ﾘﾝﾊﾟ腫(ﾎｼﾞｷﾝ病,細網肉腫,ﾘﾝﾊﾟ肉腫) ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ ②悪性星細胞腫,乏突起膠腫成分を有する神経膠腫	①150～300mg分3 【総投与量5～7g】 ②60～75mg/㎡/日,分1～3,14日間,6～8週毎繰り返す
サビーン ＜デクスラゾキサン＞ （ｷｯｾｲ）		500mg/瓶 ¥45593/瓶	ｱﾝﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出	1日1回,3日間連続,1～2時間かけて静注 1～2日目:1000mg/m2【Max:2000mg】 3日目:500mg/m2【Max:1000mg】 血管外漏出後6時間以内に可能な限り速やかに投与開始,2日目及び3日目は投与1日目と同時刻に投与を開始
無水エタノール ＜無水エタノール＞ （扶桑）		5mL/管 ¥940/管	肝細胞癌における経皮的ｴﾀﾉｰﾙ注入療法	腫瘍体積により決定する。 【Max:10mL/日】
ラスリテック ＜ラスブリカーゼ＞ （ｻﾉﾌｨ）		7.5mg/管(溶解液5mL付) ¥51365/瓶	がん化学療法に伴う高尿酸血症	0.2mg/kg分1,30分以上かけて点静
■免疫療法剤 ◆インターフェロン製剤				
スミフェロンＤＳ ＜インターフェロンーα＞ （大日本住友）		300万国際単位/筒 ¥6549/ｷｯﾄ	①腎癌,多発性骨髄腫,ﾍｱﾘｰ細胞白血病,慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAﾎﾟﾘﾒﾗｰｾﾞ陽性のB型慢性活動性肝炎のｳｲﾙｽ血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善（血中HCV RNA量が高い場合を除く） ④C型代償性肝硬変におけるｳｲｽﾙ血症の改善（ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く） ⑤HTLV-I脊椎症(HAM)	①300～600万単位/日皮下,筋注 ②300～600万単位/日皮下,筋注 ③300～900万単位/日連日または週3回皮下,筋注 ④600万単位/日連日2週間まで,以後300～600万単位/日週3回皮下,筋注 ⑤300万単位/日皮下,筋注
		600万国際単位/筒 ¥12424/ｷｯﾄ	①腎癌,多発性骨髄腫,ﾍｱﾘｰ細胞白血病,慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAﾎﾟﾘﾒﾗｰｾﾞ陽性のB型慢性活動性肝炎のｳｲﾙｽ血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるｳｲﾙｽ血症の改善（血中HCV RNA量が高い場合を除く） ④C型代償性肝硬変におけるｳｲｽﾙ血症の改善（ｾﾛｸﾞﾙｰﾌﾟ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く）	①300～600万単位/日皮下,筋注 ②300～600万単位/日皮下,筋注 ③300～900万単位/日連日または週3回皮下,筋注 ④600万単位/日連日2週間まで,以後300～600万単位/日週3回皮下,筋注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫療法剤 ◆その他				
ピシバニール ＜ピシバニール＞ 略名：OK-432 （中外）		1KE/瓶(溶解液2mL付) ¥3232/瓶	①胃癌(手術例)患者・原発性肺癌患者における化学療法との併用による生存期間の延長 ②消化器癌患者・肺癌患者における癌性胸・腹水の減少 ③他剤無効の頭頸部癌(上顎癌,喉頭癌,咽頭癌,舌癌),甲状腺癌 ④ﾘﾝﾊﾟ管腫	①初回0.2～0.5KEで連日・隔日2～3週間かけて2～5KE維持量2～5KE/回,1～2回/週,筋注,皮下 ②5～10KE/回,1～2回/週,漿膜腔内投与 ③5～10KE/回/連日～数日毎,腫瘍内・腫瘍周辺部注入 ④吸引ﾘﾝﾊﾟ管腫液量と同量の0.05～0.1KE/mL懸濁溶液を局注 【Max:2KE/回】
		5KE/瓶(溶解液2mL付) ¥7215/瓶		
ユーゼル ＜ホリナートカルシウム＞ 略名：LV （大鵬）	25mg/錠 ¥2264.9/錠		結腸・直腸癌に対するﾃｶﾞﾌｰﾙ・ｳﾗｼﾙの抗腫瘍効果の増強	75mg分3(約8時間ごとに)28日間連日投与,その後7日間休薬 ＜ﾎﾘﾅｰﾄ・ﾃｶﾞﾌｰﾙ・ｳﾗｼﾙ療法＞ 【DI照会参照】
レボホリナート ＜レボホリナート＞ 略名：L-LV （日本化薬）		25mg/瓶 ¥1209/瓶	①ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ・ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ療法：胃癌,結腸,直腸癌に対するﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙの抗腫瘍効果の増強 ②ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ・ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ持続静注併用療法：結腸・直腸癌及び治癒切除不能な膵癌に対するﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙの抗腫瘍効果の増強	①250mg/㎡2hr点静 開始1hr後5FU600mg/㎡静注 1回/1週6週間連続2週間休薬を1ｸｰﾙとする ②【DI照会参照】
		100mg/瓶 ¥4284/瓶		
ロイコボリン ＜ホリナートカルシウム＞ 略名：LV （ﾌｧｲｻﾞｰ）		3mg(1mL)/管 ¥470/管	葉酸代謝拮抗剤の毒性軽減	＜ﾒﾄﾄﾚｷｻｰﾄ通常療法・CMF療法・ﾒﾄﾄﾚｷｻｰﾄ慢性関節ﾘｳﾏﾁ療法,M-VAC療法＞ 24～48mg分4筋注 ＜ﾒﾄﾄﾚｷｻｰﾄ・ﾛｲｺﾎﾞﾘﾝ救援療法&ﾒﾄﾄﾚｷｻｰﾄ・ﾌﾙｵﾛｳﾗｼﾙ交代療法＞ 【DI照会参照】

《正式版》

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

	剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
1	外用	ウブレチド点眼液	0.5% 5ml/本		毒薬	限定
2		ブレオＳ軟膏	0.5% 5g/本	抗癌剤		
3	内用	アフィニトール錠	2.5mg	抗癌剤		限定
4			5mg	抗癌剤		限定
5		アミオダロン錠	50mg		毒薬	
6			100mg		毒薬	
7		アリミデックス錠	1mg	抗癌剤		
8		アルケラン錠	2mg	抗癌剤	毒薬	
9		アレセンサカプセル	20mg	抗癌剤		限定
10			40mg	抗癌剤		限定
11		アロマシン錠	25mg	抗癌剤		
12		イクスタンジカプセル	40mg	抗癌剤		
13		イレッサ錠	250mg	抗癌剤		
14		インライタ錠	1mg	抗癌剤		限定
15			5mg	抗癌剤		限定
16		ヴォトリエント錠	200mg	抗癌剤		
17		ウブレチド錠	5mg		毒薬	
18		エストラサイトｶﾌﾟｾﾙ	156.7mg	抗癌剤		
19		エンドキサン錠	50mg	抗癌剤		
20		オダイン錠	125mg	抗癌剤		
21		カソデックスOD錠	80mg	抗癌剤		
22			80mg	抗癌剤		
23		グリベック錠	100mg	抗癌剤		
24		ザイティガ錠	250mg	抗癌剤		限定
25		ザーコリカプセル	200mg	抗癌剤		限定
26			250mg	抗癌剤		限定
27		サレドｶﾌﾟｾﾙ	25mg	抗癌剤	毒薬	限定
28			50mg	抗癌剤	毒薬	限定
29			100mg	抗癌剤	毒薬	限定
30		ジオトリフ錠	20mg	抗癌剤		限定
31			30mg	抗癌剤		限定
32			40mg	抗癌剤		限定
33		ジャカビ錠	5mg	抗癌剤		限定
34		スタラシドｶﾌﾟｾﾙ	100mg	抗癌剤		
35		スチバーガ錠	40mg	抗癌剤		
36		スーテントｶﾌﾟｾﾙ	12.5mg	抗癌剤		限定
37		スプリセルｶﾌﾟｾﾙ	20mg	抗癌剤		限定
38			50mg	抗癌剤		限定
39		ゼローダ錠	300mg	抗癌剤		
40		ゾリンザカプセル	100mg	抗癌剤		限定
41		タイケルブ錠	250mg	抗癌剤		限定
42		タシグナｶﾌﾟｾﾙ	150mg	抗癌剤		限定
43			200mg	抗癌剤		限定
44		タルセバ錠	25mg	抗癌剤		限定
45			100mg	抗癌剤		限定
46			150mg	抗癌剤		
47		ティーエスワンOD錠	20mg	抗癌剤		
48			25mg	抗癌剤		
49		ティーエスワンｶﾌﾟｾﾙ	20mg	抗癌剤		
50			25mg	抗癌剤		
51		ティーエスワン顆粒	20mg	抗癌剤		限定
52			25mg	抗癌剤		限定

（2015/3/27作成）

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

	剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
53	内用	テモダールｶﾌﾟｾﾙ	20mg	抗癌剤	毒薬	限定
54			100mg	抗癌剤	毒薬	限定
55		ネクサバール錠	200mg	抗癌剤		限定
56		ノルバデックス錠	10mg	抗癌剤		
57		ハイドレアｶﾌﾟｾﾙ	500mg	抗癌剤		
58		バリキサ錠	450mg		毒薬	限定
59		ヒスロンＨ錠	200mg	抗癌剤		
60		フェアストン錠	40mg	抗癌剤		
61		フェマーラ錠	2.5mg	抗癌剤		
62		フルダラ錠	10mg	抗癌剤		限定
63		フルツロンｶﾌﾟｾﾙ	200mg	抗癌剤		限定
64		塩酸プロカルバジンｶﾌﾟｾﾙ	50mg	抗癌剤		
65		プロスタール錠	25mg	抗癌剤		
66		ベサノイドｶﾌﾟｾﾙ	10mg	抗癌剤		
67		ベプシドｶﾌﾟｾﾙ	25mg	抗癌剤		
68		ペラゾリン細粒	400mg/包	抗癌剤		
69		ボシュリフ錠	100mg	抗癌剤		限定
70		マブリン散	1%	抗癌剤		限定
71		メソトレキセート錠	2.5mg	抗癌剤		
72		ユーエフテイｶﾌﾟｾﾙ	100mg	抗癌剤		
73		ユーエフティＥ顆粒	200mg/包	抗癌剤		
74		レブラミドｶﾌﾟｾﾙ	5mg	抗癌剤	毒薬	
75		ロイケリン散	10%	抗癌剤		限定
76		ロンサーフ配合錠	15mg	抗癌剤		
77			20mg	抗癌剤		
78	注射	動注用アイエーコール	50mg	抗癌剤	毒薬	限定
79			100mg	抗癌剤	毒薬	限定
80		アクプラ静注用	50mg	抗癌剤	毒薬	
81			100mg	抗癌剤	毒薬	
82		アクラシノン注射用	20mg	抗癌剤		
83		アデール点滴静注用	10mg		毒薬	限定
84		アドセトリス点滴静注用	50mg	抗癌剤		
85		アドリアシン注	10mg	抗癌剤		
86			50mg	抗癌剤		
87		アバスチン点滴静注用	100mg	抗癌剤		
88			400mg	抗癌剤		
89		アービタックス注射液	100mg	抗癌剤		
90		アブラキサン点滴静注用	100mg	抗癌剤	毒薬	
91		アムビゾーム点滴静注用	50mg		毒薬	限定
92		アリムタ注射用	100mg	抗癌剤		
93			500mg	抗癌剤		
94		アルケラン静注用	50mg	抗癌剤	毒薬	限定
95		イダマイシン静注用	5mg	抗癌剤	毒薬	
96		注射用イホマイド注	1g	抗癌剤		
97		イムシスト膀注用	81mg	抗癌剤		限定
98		イムノブラダー膀注用	40mg	抗癌剤		
99		イムノマックスーγ注	100万単位	抗癌剤		限定
100			300万単位	抗癌剤		限定
101		イリノテカン塩酸塩点滴静注液「タイホウ」	100mg	抗癌剤		
102			40mg	抗癌剤		
103		イントロンＡ注射用	300万単位	抗癌剤		限定
104			600万単位	抗癌剤		限定
105		エクザール注射用	10mg	抗癌剤		

（2015/3/27作成）

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

	剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
106	注射	エスラックス静注	50mg		毒薬	
107		エピルビシン塩酸塩注射用「NK」	10mg	抗癌剤		
108			50mg	抗癌剤		
109		エルプラット注射用	50mg	抗癌剤	毒薬	
110			100mg	抗癌剤	毒薬	
111			200mg	抗癌剤	毒薬	
112		注射用エンドキサン注	100mg	抗癌剤		
113			500mg	抗癌剤		
114		オンコビン注射用	1mg	抗癌剤		
115		カドサイラ点滴静注用	100mg	抗癌剤		
116			160mg	抗癌剤		
117		カルセド注射用	20mg	抗癌剤		
118			50mg	抗癌剤		
119		カルボプラチン注射液「日医工」	150mg	抗癌剤	毒薬	
120			450mg	抗癌剤	毒薬	
121			50mg	抗癌剤	毒薬	
122		キロサイド注	20mg	抗癌剤		
123			40mg	抗癌剤		
124			200mg	抗癌剤		
125		キロサイドＮ注	400mg	抗癌剤		
126			1g	抗癌剤		
127		ゲムシタビン点滴静注用「ヤクルト」	1000mg	抗癌剤		
128		ゲムシタビン点滴静注用「ヤクルト」	200mg	抗癌剤		
129		コスメゲン静注用	0.5mg	抗癌剤		限定
130		コホリン注用	7.5mg	抗癌剤		限定
131		ゴナックス皮下注用	120mg	抗癌剤		
132			80mg	抗癌剤		
133		注射用サイメリン	50mg	抗癌剤		
134		サンドスタチン注射液	100μg	抗癌剤		
135		ジェブタナ点滴静注	60mg	抗癌剤	毒薬	限定
136		スキサメトニウム注	100mg		毒薬	
137		スミフェロンＤＳ注	300万単位	抗癌剤		
138			600万単位	抗癌剤		
139		ゾラデックスＬＡデポ	10.8mg	抗癌剤		限定
140		ゾラデックス・デポ	3.6mg	抗癌剤		
141		ダウノマイシン静注用	20mg	抗癌剤		
142		ダカルバジン注用	100mg	抗癌剤		
143		デノシン点滴静注用	500mg		毒薬	限定
144		テモダール点滴静注用	100mg	抗癌剤	毒薬	限定
145		ドキシル注	20mg	抗癌剤		
146		ドセタキセル注	20mg	抗癌剤	毒薬	
147		ドセタキセル点滴静注用「サワイ」	20mg	抗癌剤	毒薬	限定
148		ドセタキセル注	80mg	抗癌剤	毒薬	
149		ドセタキセル点滴静注用「サワイ」	80mg	抗癌剤	毒薬	限定
150		トリセノックス注	10mg	抗癌剤	毒薬	限定
151		トーリセル点滴静注	25mg	抗癌剤		限定
152		トレアキシン点滴静注用	100mg	抗癌剤		限定
153		ナベルビン注	10mg	抗癌剤	毒薬	
154			40mg	抗癌剤	毒薬	
155		ニトプロ持続静注用	6mg		毒薬	
156		ニドラン注射用	50mg	抗癌剤		
157		ノバントロン注	10mg	抗癌剤	毒薬	
158		ハイカムチン注射用	1.1mg	抗癌剤		

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

	剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
159	注射	パクリタキセル注	30mg	抗癌剤	毒薬	
160			100mg	抗癌剤	毒薬	
161		パクリタキセル注「NK」	100mg	抗癌剤	毒薬	
162			30mg	抗癌剤	毒薬	
163		ハーセプチン注射用	60mg	抗癌剤		
164			150mg	抗癌剤		限定
165		ハラヴェン静注	1mg	抗癌剤	毒薬	
166		パラプラチン注射液	50mg	抗癌剤	毒薬	
167		パージェタ点滴静注	420mg	抗癌剤		
168		ピシバニール注射用	1KE	抗癌剤		
169			5KE	抗癌剤		
170		ビダーザ注射用	100mg	抗癌剤		
171		ピノルビン注射用	10mg	抗癌剤		
172			20mg	抗癌剤		
173		フェソロデックス筋注	250mg	抗癌剤		限定
174		５－ＦＵ注	250mg	抗癌剤		
175			1000mg	抗癌剤		
176		フィルデシン注	1mg	抗癌剤		
177			3mg	抗癌剤		
178		フエロン注射用	100万単位	抗癌剤		限定
179			300万単位	抗癌剤		限定
180			600万単位	抗癌剤		限定
181		ブスルフェクス点滴静注用	60mg	抗癌剤		限定
182		フルダラ静注用	50mg	抗癌剤		
183		ブレオ注射用	15mg	抗癌剤		
184		ベクティビックス点滴静注	100mg	抗癌剤		限定
185		ベプシド注	100mg	抗癌剤		
186		ベルケイド注射用	3mg	抗癌剤	毒薬	限定
187		点滴静注用ホスカビル注	6000mg		毒薬	限定
188		ポテリジオ点滴静注	20mg	抗癌剤		限定
189		ボトックス注用	50単位		毒薬	限定
190			100単位		毒薬	限定
191		マイトマイシン注用	2mg	抗癌剤		
192			10mg	抗癌剤	毒薬	
193		マスキュレート静注用4mg				
194		ミリプラ動注用	70mg	抗癌剤		
195		注射用メソトレキセート	5mg	抗癌剤		
196			50mg	抗癌剤		
197		メソトレキセート点滴静注液	200mg	抗癌剤		
198			1000mg	抗癌剤		
199		ランダ注	10mg	抗癌剤	毒薬	
200			25mg	抗癌剤	毒薬	
201			50mg	抗癌剤	毒薬	
202		リツキサン注	100mg	抗癌剤		
203			500mg	抗癌剤		
204		リュープリン注射用キット	3.75mg	抗癌剤		
205			1.88mg	抗癌剤		
206		リュープリンＳＲ注射用キット	11.25mg	抗癌剤		
207		ロイスタチン注	8mg	抗癌剤		限定
208		ロイナーゼ注用	5000KU	抗癌剤		

１．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■ＭＲＳＡ用薬 ☆初回投与時は、「ＭＲＳＡ治療報告書」を提出して下さい。					
キュビシン ＜ダプトマイシン＞ (MSD)		350mg/瓶 ¥13530/瓶	①6mg/kg,24時間毎,30分かけて点静または緩徐に静注 ②4mg/kg,24時間毎,30分かけて点静または緩徐に静注	①敗血症,感染性心内膜炎 ②深在性皮膚感染症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,びらん・潰瘍の二次感染	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRSA)
ザイボックス ＜リネゾリド＞ 略名：LZD (ﾌｧｲｻﾞｰ)		600mg(300mL)/袋 ¥18287/袋	1回600mg1日2回12時間毎 〈12歳未満の小児〉1回10mg/kg8時間毎【Max:1回600mg】	①敗血症,深在性皮膚感染症,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肺炎②各種感染症	①ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRSA)②ﾊﾞﾝｺﾏｲｼﾝ耐性ｴﾝﾃﾛｺｯｶｽ･ﾌｪｼｳﾑ(VRE)
タゴシッド ＜テイコプラニン＞ 略名：TEIC (ｻﾉﾌｨ)		200mg/瓶 ¥5512/瓶	初日400mg又は800mg,分2点静 以後200mg又は400mg,分1点静 〈乳児･小児〉10mg/kgを12時間間隔で3回 以後6～10mg/kgを24時間毎に30分かけて点静 〈新生児〉初回16mg/kg,以後8mg/kgを24時間毎に30分以上かけて点静	敗血症,深在性皮膚感染症,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肺炎,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRSA)
ハベカシン ＜アルベカシン＞ 略名：ABK (明治)		100mg(2mL)/管 ¥4543/管	150～200mg,分1(分2も可)点静,筋注 〈小児〉4～6mg/kg/日,分1(分2も可)点静	敗血症,肺炎	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRSA)
塩酸バンコマイシン ＜バンコマイシン＞ 略名：VCM (ｼｵﾉｷﾞ)		0.5g/瓶 ¥2783/瓶	2g,分2～4点静 〈小,幼児〉40mg/kg/日,分2～4 〈新生児〉1週迄20～30mg/kg/日,分2 1ヵ月迄30～45mg/kg/日,分2 (必ず60分以上かけて点静)	敗血症,感染性心内膜炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,骨髄炎,関節炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,腹膜炎,化膿性髄膜炎	①ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRSA) ②ﾒﾁｼﾘﾝ耐性ｺｱｸﾞﾗｰｾﾞ陰性ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRCNS) ③ﾍﾟﾆｼﾘﾝ耐性肺炎球菌(PRSP) ④MRSA又はMRCNS感染が疑われる発熱性好中球減少症
	500mg/瓶 ¥2924.8/瓶		消化管内殺菌:2～3g,分4～6 MRSA･C.ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ腸炎:0.5～2g,分4	感染性腸炎(偽膜性大腸炎を含む)	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRSA),ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■ペニシリン系					
アモキシシリン <アモキシシリン> 略名：AMPC （東和薬品）	250mg/C ¥8.6/C		750～1000mg，分3～4 <小児>20～40mg/kg/日，分3～4 【Max：90mg/kg】 ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘの除菌の補助 【D-2 参照】	表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，びらん・潰瘍の二次感染，乳腺炎，骨髄炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎(急性症，慢性症)，精巣上体炎(副睾丸炎)，淋菌感染症，梅毒，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，涙嚢炎，麦粒腫，中耳炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎，猩紅熱，胃潰瘍・十二指腸潰瘍胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染症，ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，大腸菌，ﾌﾟﾛﾃｳｽ・ﾐﾗﾋﾞﾘｽ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ，梅毒ﾄﾚﾎﾟﾈｰﾏ
オーグメンチン <アモキシシリン，クラブラン酸カリウム> （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）	375mg<ｸﾗﾌﾞﾗﾝ酸ｶﾘｳﾑ125mg，ｱﾓｷｼｼﾘﾝ250mg>/錠 ¥36.1/錠		1回1錠，1日3～4回6～8時間毎	表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，淋菌感染症，子宮内感染，子宮付属器炎，中耳炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，淋菌，大腸菌，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ﾌﾟﾛﾃｳｽ属，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属，ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾟﾋﾟｱを除く)
スルバシリン <アンピシリン，スルバクタム> 略名：ABPC/SBT （Meiji Seika）		0.75g/瓶 ¥331/瓶	①6g，分2静注，点静 【Max：1回3g1日4回(12g/日)(重症感染症の場合)】 ②3g，分2静注，点静 <小児>60～150mg，分3～4静注，点静	①肺炎，肺膿瘍，腹膜炎 ②膀胱炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，大腸菌，ﾌﾟﾛﾃｳｽ属，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌
		1.5g/瓶 ¥380/瓶			
ゾシン <タゾバクタム，ピペラシリン> 略名：TAZ/PIPC （大正富山）		2.25g<ﾀｿﾞﾊﾞｸﾀﾑ0.25g，ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝ2.0g> ¥1805/瓶	①1回4.5g1日3回点静又は静注 肺炎：1回4.5g1日3～4回 <小児>112.5mg/kg/回，1日3回点静又は静注 【小児Max：4.5g/回】 ②1回4.5g1日2～3回点静又は静注 <小児>112.5mg/kg/回，1日2～3回点静又は静注 【小児Max：4.5g/回】 ③1回4.5g1日4回点静又は静注 <小児>90mg/kg/回，1日4回点静又は静注 【小児Max：4.5g/回】	①敗血症，肺炎，腹膜炎，腹腔内膿瘍，胆嚢炎及び胆管炎 ②腎盂腎炎，複雑性膀胱炎 ③発熱性好中球減少症	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，大腸菌，ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｾﾗﾁｱ属，ﾌﾟﾛﾃｳｽ属，ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，緑膿菌，ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属，ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属，ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ属(ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙを除く)，ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属，ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属
		4.5g<ﾀｿﾞﾊﾞｸﾀﾑ0.5g，ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝ4.0g> ¥2687/瓶			

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ビクシリン <アンピシリン> 略名：ABPC （明治）		0.25g/瓶 ¥151/瓶	250mg～1000mg/回を1日2～4回筋注 1～2g/日,分1～2静注 1～4g/日,分1～2点静 <小児>100～200mg/kg/日,分3～分4静注,点静【Max:400mg/kg/日】 <新生児>50～200mg/kg/日,分2～4静注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,骨髄炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,淋菌感染症,腹膜炎,肝膿瘍,感染性腸炎,子宮内感染,化膿性髄膜炎,眼瞼膿瘍,角膜炎(角膜潰瘍を含む),中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎,抜歯創･口腔手術創の二次感染,猩紅熱,炭疽,放線菌症	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,淋菌,髄膜炎菌,炭疽菌,放線菌,大腸菌,赤痢菌,ﾌﾟﾛﾃｳｽ･ﾐﾗﾋﾞﾘｽ,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾘｽﾃﾘｱ･ﾓﾉｻｲﾄｹﾞﾈｽ
		0.5g/瓶 ¥219/瓶			
		1g/瓶 ¥353/瓶			
ペニシリンG <ベンジルペニシリン> 略名：PCG （明治）		100万単位/瓶 ¥211/瓶	①1回30～60万単位,1日2～4回筋注 ②1回400万単位,1日6回点静 ③1回400万単位,1日6回点静 【Max:500単位/回,3000万単位/日】 ④1回300～400万単位,1日6回点静	①敗血症,表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,乳腺炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,淋菌感染症,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱,炭疽,ｼﾞﾌﾃﾘｱ(抗毒素併用),鼠咬症,破傷風(抗毒素併用),ｶﾞｽ壊疽(抗毒素併用),放線菌症,回帰熱,ﾜｲﾙ病 ②化膿性髄膜炎 ③感染性心内膜炎 ④梅毒	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,淋菌,髄膜炎菌,ｼﾞﾌﾃﾘｱ菌,炭疽菌,放線菌,破傷風菌,ｶﾞｽ壊疽菌群,回帰熱ﾎﾞﾚﾘｱ,ﾜｲﾙ病ﾚﾌﾟﾄｽﾋﾟﾗ,鼠咬症ｽﾋﾟﾘﾙﾑ,梅毒ﾄﾚﾎﾟﾈｰﾏ
ペントシリン <ピペラシリン> 略名：PIPC （大正富山）		1g/瓶 ¥406/瓶	2～4g,分2～4静注または筋注 【Max:1回4g,1日4回(難治性または重症感染症)】 <小児>50～125mg/kg/日,分2～4静注 【Max:300mg/kg,分3(難治性または重症感染症)】	敗血症,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,肺炎桿菌,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,緑膿菌,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く)
		2g/瓶 ¥688/瓶			
ユナシン <スルタミシリン> 略名：SBTPC （ﾌｧｲｻﾞｰ）	375mg/錠 ¥58.9/錠		750～1125mg,分2～3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,淋菌感染症,子宮内感染,涙嚢炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),中耳炎,副鼻腔炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,淋菌,大腸菌,ﾌﾟﾛﾃｳｽ･ﾐﾗﾋﾞﾘｽ,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌
ワイドシリン <アモキシシリン> 略名：AMPC （Meiji Seikaファルマ）	細粒(200mg/g) ¥13.6/g		750～1000mg,分3～4 <小児>20～40mg/kg/日,分3～4 【Max:90mg/kg】 ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘの除菌の補助 【D-2 参照】	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,びらん･潰瘍の二次感染,乳腺炎,骨髄炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),精巣上体炎(副睾丸炎),淋菌感染症,梅毒,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,涙嚢炎,麦粒腫,中耳炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎,猩紅熱,胃潰瘍･十二指腸潰瘍におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染症	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,淋菌,大腸菌,ﾌﾟﾛﾃｳｽ･ﾐﾗﾋﾞﾘｽ,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ,梅毒ﾄﾚﾎﾟﾈｰﾏ

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■セフェム系 第１世代					
ケフラール ＜セファクロル＞ 略名：CCL （ｼｵﾉｷﾞ）	250mg/C ¥53.7/C		750～1500mg,分3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎, 麦粒腫,中耳炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎,猩紅熱	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ･ﾐﾗﾋﾞﾘｽ,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌
セファゾリン ＜セファゾリン＞ 略名：CEZ （日医工）		0.5g/瓶 ¥118/瓶	1～3g,分2～3筋注,静注,点静 ＜小児＞20～40～(100)mg/kg/日分2～3筋注,静注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,びらん･潰瘍の二次感染,乳腺炎,骨髄炎,関節炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,眼内炎(全眼球炎を含む)中耳炎,副鼻腔炎,化膿性唾液腺炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,大腸菌,肺炎桿菌,ﾌﾟﾛﾃｳｽ･ﾐﾗﾋﾞﾘｽ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属
		1g/瓶 ¥133/瓶			
■セフェム系 第２世代					
セフメタゾールＮａ ＜セフメタゾール＞ 略名：CMZ （日医工）		0.25g/瓶 ¥92/瓶	1～2～(4)g,分2～4静注,点静 ＜小児＞25～100～(150)mg/kg/日,分2～4静注,点静	敗血症,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎	黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌,大腸菌,肺炎桿菌,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く)
		0.5g/瓶 ¥148/瓶			
		1g/瓶 ¥294/瓶			
パンスポリンＴ ＜セフォチアム＞ 略名：CTM （武田）	200mg/錠 ¥60.2/錠		300～1200mg,分3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎,涙嚢炎,麦粒腫,瞼板腺炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),中耳炎,副鼻腔炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ･ﾐﾗﾋﾞﾘｽ,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌
フルマリン ＜フロモキセフ＞ 略名：FMOX （ｼｵﾉｷﾞ）		1g/瓶 ¥1366/瓶	1～2～(4)g分2～4静注,点静 ＜小児＞60～80～(150)mg/kg/日分3～4静注,点静 ＜未熟児,新生児＞ 生後3日まで40～60～(150)mg/kg/日分2～3～(4)静注,点静 生後4日以降60～80～(150)mg/kg/日分3～4静注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),尿道炎,腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,中耳炎,副鼻腔炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く)

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■セフェム系 第３世代					
クラフォラン <セフォタキシム> 略名：CTX （ｻﾉﾌｨ）		500mg/瓶 ¥510/瓶	1～2g,分2静注または筋注 【Max:4g,分2～4】 <小児> 50～100mg/kg/日,分3～4静注 【Max:150mg/kg】 化膿性髄膜炎300mg/kg/日	敗血症,感染性心内膜炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎	ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属
		1g/瓶 ¥745/瓶			
セフカペンピボキシル <セフカペンピボキシル> 略名：CFPN-PI （東和薬品）	細粒(100mg/g) ¥117.9/ｇ		300mg,分3【Max:150mg/回】 <小児>9mg/kg/日,分3	<成人>表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍 ,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎,子宮頸管炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,涙嚢炎,麦粒腫,瞼板腺炎,外耳炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎 <小児>表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,膀胱炎,腎盂腎炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱	<成人>ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く),ｱｸﾈ菌 <小児>ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く),ｱｸﾈ菌
	100mg/錠 ¥34.6/錠			表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍 ,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎,子宮頸管炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,涙嚢炎,麦粒腫,瞼板腺炎,外耳炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く),ｱｸﾈ菌

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
セフジトレンピボキシル <セフジトレンピボキシル> 略名：CDTR-PI （東和薬品）	細粒(100mg/g) ¥122.5/ｇ		<成人>1回100～200mg,1日3回 <小児>肺炎,中耳炎,副鼻腔炎:1回3～6mg/kg,1日3回 その他の疾患:1回3mg/kg,1日3回 【Max:600mg/日】	<成人>表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,眼瞼膿瘍,涙嚢炎,麦粒腫,瞼板腺炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎 <小児>表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肛門周囲膿瘍,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,顎炎,猩紅熱,百日咳	<成人>ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属,ｱｸﾈ菌 <小児>ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,百日咳菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属,ｱｸﾈ菌
	100mg/錠 ¥38.9/錠		300～(600)mg,分3 <小児>9mg/kg/日,分3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,眼瞼膿瘍,涙嚢炎,麦粒腫,瞼板腺炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属,ｱｸﾈ菌
セフジニル <セフジニル> 略名：CFDN （沢井製薬）	細粒(100mg/g) ¥72.4/ｇ		300mg,分3 <小児>9～18mg/kg/日,分3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,膀胱炎,腎盂腎炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ･ﾐﾗﾋﾞﾘｽ,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌
セフタジジム <セフタジジム> 略名：CAZ （ﾏｲﾗﾝ）		0.5g/瓶 ¥414/瓶	1～2～(4)g,分2～4静注,点静 <小児>40～100～(150)mg/kg/日 分2～4静注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,中耳炎,副鼻腔炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ属,緑膿菌,ﾊﾞｰｸﾎﾙﾃﾞﾘｱ･ｾﾊﾟｼｱ,ｽﾃﾉﾄﾛﾎﾓﾅｽ(ｻﾞﾝﾄﾓﾅｽ)･ﾏﾙﾄﾌｨﾘｱ,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く)
		1g/瓶 ¥494/瓶			
セフトリアキソンＮａ <セフトリアキソン> 略名：CTRX （日医工）		0.5g/瓶 ¥202/瓶	1～2g,分1～2静注,点静【Max:4g】 <小児>20～60mg/kg/日,分1～2静注,点静【Max:120mg/kg】 <未熟児･新生児> 0～3日齢:1回20mg/kg,1日1回 4日齢以降:1回20mg/kg,1日2回静注又は点静 【Max:1回40mg/kg1日2回,生後2週間以内は1日50mg/kgまで】	敗血症,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,精巣上体炎(副睾丸炎),尿道炎,子宮頸管炎,骨盤内炎症性疾患,直腸炎,腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),中耳炎,副鼻腔炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱを除く)
		1g/瓶 ¥303/瓶			

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
セフポドキシムプロキセチル <セフポドキシムプロキセチル> 略名：CPDX-PR （東和薬品）	100mg/錠 ¥43.3/錠		200～400mg分2	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属
トミロン <セフテラムピボキシル> 略名：FTM-PI （大正富山）	細粒(100mg/g) ¥101.2/ｇ		①150～300mg,分3 ②300～600mg,分3 <小児>9～18mg/kg/日,分3	<成人>①咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,膀胱炎,腎盂腎炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎 ②肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,尿道炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎 <小児>咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,膀胱炎,腎盂腎炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱	<成人>ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ・ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属 <小児>ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ・ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌
ワイスタール <セフォペラゾン／スルバクタム> 略名：CPZ/SBT （ﾆﾌﾟﾛﾌｧｰﾏ）		1g/瓶 ¥358/瓶	1～2～(4)g,分2静注,点静 <小児>40～80～(160)mg/kg/日 分2～4静注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ・ﾚｯﾄｹﾞﾘ,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ・ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,緑膿菌,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属

■セフェム系 第４世代

ファーストシン <セフォゾプラン> 略名：CZOP （武田）		0.5g/瓶 ¥980/瓶	1～2～(4)g,分2～4静注,点静 <小児>40～80～(160)mg/kg/日,分3～4点静 髄膜炎200mg/Kg/日,【Max:4g/日】	敗血症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む),肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,複雑性膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,眼窩感染,角膜炎(角膜潰瘍を含む),眼内炎(全眼球炎を含む),中耳炎,副鼻腔炎,化膿性唾液腺炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ・ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ属,緑膿菌,ﾊﾞｰｸﾎﾙﾃﾞﾘｱ・ｾﾊﾟｼｱ,ｽﾃﾉﾄﾛﾎﾓﾅｽ(ｻﾞﾝﾄﾓﾅｽ)・ﾏﾙﾄﾌｨﾘｱ,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属
		1g/瓶 ¥1430/瓶	1～2～(4)g,分2～4静注,点静 <小児>40～80～(160)mg/kg/日,分3～4点静 髄膜炎200mg/Kg/日, 【Max:4g/日】		
マキシピーム <セフェピム> 略名：CFPM （ﾌﾞﾘｽﾄﾙ）		1g/瓶 ¥935/瓶	1～2～(4)g,分2静注,点静 発熱性好中球減少症:4g分2静注,点静	敗血症,深在性皮膚感染症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,肛門周囲膿瘍,扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む),肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,複雑性膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,子宮内感染,子宮旁結合織炎,中耳炎,副鼻腔炎,発熱性好中球減少症	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ・ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ属,緑膿菌,ﾊﾞｰｸﾎﾙﾃﾞﾘｱ・ｾﾊﾟｼｱ,ｽﾃﾉﾄﾛﾎﾓﾅｽ(ｻﾞﾝﾄﾓﾅｽ)・ﾏﾙﾄﾌｨﾘｱ,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属(ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ・ﾋﾟﾋﾟｱを除く)

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■カルバペネム系					
カルベニン <パニペネム> 略名：PAPM/BP （第一三共）		0.25g/瓶 ¥1012/瓶	1～ (2)g,分2点静 <小児>30～60～(100)mg/kg/日,分3～4点静 【Max:2g/日】	敗血症,感染性心内膜炎,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肛門周囲膿瘍,骨髄炎,関節炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),精巣上体炎(副睾丸炎),腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,眼窩感染,眼内炎(全眼球炎を含む),中耳炎,副鼻腔炎,化膿性唾液腺炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ属,緑膿菌,ﾊﾞｰｸﾎﾙﾃﾞﾘｱ･ｾﾊﾟｼｱ,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属
		0.5g/瓶 ¥1484/瓶			
チエナム <イミペネム> 略名：IPM/CS （MSD）		0.5g/瓶 ¥1446/瓶	0.5～1～(2)g,分2～3点静 <小児>30～80～(100)mg/kg/日,分3～4点静	敗血症,感染性心内膜炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,骨髄炎,関節炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),眼内炎(全眼球炎を含む)	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ属,緑膿菌,ﾊﾞｰｸﾎﾙﾃﾞﾘｱ･ｾﾊﾟｼｱ,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属
フィニバックス <ドリペネム> 略名：DRPM （ｼｵﾉｷﾞ）		0.25g/瓶 ¥1165/瓶	1回0.25g,1日2～3回点静 重症･難治性感染症：1回0.5～1.0g,1日3回点静 【Max:1g/回,3.0g/日】 <小児>1回20mg/kg,1日3回点静 重症･難治性感染症：1回40mg/kg,1日3回点静 【Max:1g/回,3.0g/日】	敗血症,感染性心内膜炎,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,骨髄炎,関節炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,複雑性膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),精巣上体炎(副睾丸炎),腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,眼窩感染,角膜炎(角膜潰瘍を含む),眼内炎(全眼球炎を含む),中耳炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属(ｴﾝﾃﾛｺｯｶｽ･ﾌｪｼｳﾑを除く),ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,緑膿菌,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属
		0.5g/瓶 ¥1647/瓶			
メロペネム <メロペネム> 略名：MEPM （ﾌｧｲｻﾞｰ）		0.5g/瓶 ¥777/瓶	①1日0.5～1g,分2～3回点静 【Max:1回1g,1日3g(重症･難治性感染症)】 <小児>1日30～60mg/kg,分3点静 【Max:1日120mg/kgまたは1日3g(重症・難治性感染症)】 ②1日3g,分3点静 <小児>1日120mg/kg,分3点静【Max:1日3g】	①敗血症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肛門周囲膿瘍,骨髄炎,関節炎,扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む),肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,複雑性膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,眼内炎(全眼球炎を含む),中耳炎,副鼻腔炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎 ②発熱性好中球減少症	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,髄膜炎菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ属,緑膿菌,ﾊﾞｰｸﾎﾙﾃﾞﾘｱ･ｾﾊﾟｼｱ,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属
■アミノグリコシド系					
カナマイシン <カナマイシン> 略名：KM （明治）	250mg/C ¥39.3/C		2～4g,分4 <小児>50～100mg/kg/日,分4	感染性腸炎	大腸菌,赤痢菌,腸炎ﾋﾞﾌﾞﾘｵ

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ゲンタシン <ゲンタマイシン> 略名：GM （MSD）		10mg(1mL)/管 ¥123/管	3mg/kg/日,分3,筋注または点静 【Max:5mg/kg/日,分3～4】 <小児>1回2.0～2.5mg/kg,1日2～3回,筋注または点静	敗血症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肺炎,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,中耳炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,緑膿菌
		60mg(1.5mL)/管 ¥321/管			
トブラシン <トブラマイシン> 略名：TOB （ｼﾞｪｲﾄﾞﾙﾌ）		60mg(1.5mL)/管 ¥425/管	120～180mg,分2～3筋注,点静 <小児>3mg/kg/日,分2～3筋注,点静	敗血症,深在性皮膚感染症,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎	大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,緑膿菌
ハベカシン <アルベカシン> 略名：ABK （明治）		100mg(2mL)/管 ¥4543/管	150～200mg,分1(分2も可)点静,筋注 <小児>4～6mg/kg/日,分1(分2も可)点静	敗血症,肺炎	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌(MRSA)
硫酸アミカシン <アミカシン> 略名：AMK （日医工）		100mg(1mL)/管 ¥352/管	100～400mg,分1～2筋注,点静 <小児>4～8mg/kg/日,分1～2筋注,点静	敗血症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎	大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,緑膿菌

■ニューキノロン系

アベロックス <モキシフロキサシン> 略名：MFLX （富士ﾌｨﾙﾑﾌｧｰﾏ）	400mg/錠 ¥502.3/錠		400mg,分1	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,副鼻腔炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｸﾗﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ﾚｼﾞｵﾈﾗ･ﾆｭｰﾓﾌｨﾗ,ｱｸﾈ菌,肺炎ｸﾗﾐｼﾞｱ(ｸﾗﾐｼﾞｱ･ﾆｭｰﾓﾆｴ),肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)
オゼックス小児用 <トスフロキサシン> 略名：TFLX （大正富山）	150mg/g ¥568.4/g		<小児>12mg/kg/日,分2 【Max:1日360mg/日,分2】	肺炎,ｺﾚﾗ,中耳炎,炭疽	肺炎球菌(ﾍﾟﾆｼﾘﾝ耐性肺炎球菌を含む),ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾊﾝﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,炭疽菌,ｺﾚﾗ菌,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌(βﾗｸﾀﾑ耐性ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌を含む)

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
クラビット <レボフロキサシン> 略名：LVFX （第一三共）	500mg/錠 ¥452.7/錠		500mg，分1 腸ﾁﾌｽ･ﾊﾟﾗﾁﾌｽ：500mg，分1 14日間	表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)，外傷･熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭･喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍を含む)，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎(急性症、慢性症)，精巣上体炎(副睾丸炎)，尿道炎，子宮頸管炎，胆嚢炎，胆管炎，感染性腸炎，腸ﾁﾌｽ，ﾊﾟﾗﾁﾌｽ，ｺﾚﾗ，ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，涙嚢炎，麦粒腫，瞼板腺炎，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，化膿性唾液腺炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎，炭疽，ﾌﾞﾙｾﾗ症，ﾍﾟｽﾄ，野兎病，Q熱	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，炭疽菌，大腸菌，赤痢菌，ｻﾙﾓﾈﾗ属，ﾁﾌｽ菌，ﾊﾟﾗﾁﾌｽ菌，ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｾﾗﾁｱ属，ﾌﾟﾛﾃｳｽ属，ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ，ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属，ﾍﾟｽﾄ菌，ｺﾚﾗ菌，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，緑膿菌，ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属，ﾚｼﾞｵﾈﾗ属，ﾌﾞﾙｾﾗ属，野兎病菌，ｶﾝﾋﾟﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属，ｱｸﾈ菌，Q熱ﾘｹｯﾁｱ(ｺｸｼｴﾗ･ﾌﾞﾙﾈﾃｨ)，ﾄﾗｺﾏｸﾗﾐｼﾞｱ(ｸﾗﾐｼﾞｱ･ﾄﾗｺﾏﾃｨｽ)，肺炎ｸﾗﾐｼﾞｱ(ｸﾗﾐｼﾞｱ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)，肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)
		500mg(100mL)/袋 ¥5478/袋	500mg，分1点静	肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，腸ﾁﾌｽ，ﾊﾟﾗﾁﾌｽ，炭疽，ﾌﾞﾙｾﾗ症，ﾍﾟｽﾄ，野兎病，Q熱	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，炭疽菌，大腸菌，ﾁﾌｽ菌，ﾊﾟﾗﾁﾌｽ菌，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｾﾗﾁｱ属，ﾍﾟｽﾄ菌，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，緑膿菌，ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属，ﾚｼﾞｵﾈﾗ属，ﾌﾞﾙｾﾗ属，野兎病菌，Q熱ﾘｹｯﾁｱ(ｺｸｼｴﾗ･ﾌﾞﾙﾈﾃｨ)，肺炎ｸﾗﾐｼﾞｱ(ｸﾗﾐｼﾞｱ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)，肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏﾆｭｰﾓﾆｴ)
ジェニナック <ガレノキサシン> 略名：GRNX （ｱｽﾃﾗｽ）	200mg/錠 ¥241.4/錠		400mg分1	咽頭･喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍を含む)，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，中耳炎，副鼻腔炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属、肺炎球菌(ﾍﾟﾆｼﾘﾝ耐性肺炎球菌を含む)，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，大腸菌，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾚｼﾞｵﾈﾗ･ﾆｭｰﾓﾌｨﾗ，肺炎ｸﾗﾐｼﾞｱ(ｸﾗﾐｼﾞｱ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)，肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)
シプロキサン <シプロフロキサシン> 略名：CPFX （ﾊﾞｲｴﾙ）	200mg/錠 ¥93.6/錠		200～600mg，分2～3 炭疽：800mg，分2	表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，外傷･熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭･喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎(急性症，慢性症)，精巣上体炎(副睾丸炎)，尿道炎，胆嚢炎，胆管炎，感染性腸炎，ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，涙嚢炎，麦粒腫，瞼板腺炎，中耳炎，副鼻腔炎，炭疽	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，炭疽菌，大腸菌，赤痢菌，ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｾﾗﾁｱ属，ﾌﾟﾛﾃｳｽ属，ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ，ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，緑膿菌，ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属，ﾚｼﾞｵﾈﾗ属，ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属
シプロキサン <シプロフロキサシン> 略名：CPFX （富士ﾌｨﾙﾑﾌｧｰﾏ）		300mg(150mL)/袋 ¥2404/袋	600mg，分2点静	敗血症，外傷･熱傷及び手術創等の二次感染，肺炎，腹膜炎，胆嚢炎，胆管炎，炭疽	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，腸球菌属，炭疽菌，大腸菌，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属，緑膿菌，ﾚｼﾞｵﾈﾗ属

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
パシル ＜パズフロキサシン＞ 略名：PZFX （大正富山）		500mg(100mL)/袋 ¥1891/袋	600～1000mg分2点静 敗血症,肺炎球菌による肺炎,重症・難治性の呼吸器感染症(肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染に限る):2000mg分2	敗血症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染,複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症),腹膜炎、腹腔内膿瘍,胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍,子宮付属器炎、子宮旁結合織炎	ﾊﾟｽﾞﾌﾛｷｻｼﾝに感性のﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)･ｶﾀﾗｰﾘｽ,大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,緑膿菌,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾚｼﾞｵﾈﾗ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属

■ホスホマイシン系

ホスミシンＳ ＜ホスホマイシン＞ 略名：FOM （明治）		0.5g/瓶 ¥355/瓶	2～4g,分2静注,点静 ＜小児＞100～200mg/kg/日,分2～4静注,点静	敗血症,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,ﾊﾞﾙﾄﾘﾝ腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,大腸菌,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ･ﾚｯﾄｹﾞﾘ,緑膿菌
		2g/瓶 ¥847/瓶			
ホスミシン ＜ホスホマイシン＞ 略名：FOM （明治）	500mg/錠 ¥62.9/錠		2～3g,分3～4 ＜小児＞40～120mg/kg/日,分3～4	深在性皮膚感染症,膀胱炎,腎盂腎炎,感染性腸炎,涙嚢炎,麦粒腫,瞼板腺炎,中耳炎,副鼻腔炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,大腸菌,赤痢菌,ｻﾙﾓﾈﾗ属,ｾﾗﾁｱ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ･ﾚｯﾄｹﾞﾘ,緑膿菌,ｶﾝﾋﾟﾛﾊﾞｸﾀｰ属
	ＤＳ(400mg/g) ¥84.6/ｇ				

■マクロライド系

エリスロシン ＜エリスロマイシン＞ 略名：EM （ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ）	ＤＳＷ(200mg/g) ¥22.5/ｇ		800～1200mg,分4～6 ＜小児＞25～50mg/kg/日,分4～6	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,外傷･熱傷および手術創等の二次感染,乳腺炎,骨髄炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,腎盂腎炎,尿道炎,淋菌感染症,梅毒,子宮内感染,中耳炎,猩紅熱,ｼﾞﾌﾃﾘｱ,百日咳	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,髄膜炎菌,ｼﾞﾌﾃﾘｱ菌,百日咳菌,梅毒ﾄﾚﾎﾟﾈｰﾏ,ﾄﾗｺｰﾏｸﾗﾐｼﾞｱ(ｸﾗﾐｼﾞｱ･ﾄﾗｺﾏﾃｨｽ),ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属
	100mg/錠 ¥8.5/錠			表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,乳腺炎,骨髄炎,扁桃炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,腎盂腎炎,尿道炎,淋菌感染症,軟性下疳,梅毒,子宮内感染,中耳炎,歯冠周囲炎,猩紅熱,ｼﾞﾌﾃﾘｱ,百日咳,破傷風	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,淋菌,髄膜炎菌,ｼﾞﾌﾃﾘｱ菌,軟性下疳菌,百日咳菌,破傷風菌,梅毒ﾄﾚﾎﾟﾈｰﾏ,ﾄﾗｺｰﾏｸﾗﾐｼﾞｱ(ｸﾗﾐｼﾞｱ･ﾄﾗｺﾏﾃｨｽ),ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
クラリスロマイシン <クラリスロマイシン> 略名：CAM （Meiji Seikaファルマ）	小児用50mg/錠 ¥33.8/錠		<小児> ①10～15mg/kg/日，分2～3 ﾚｼﾞｵﾈﾗ菌：15mg/kg/日，分2～3 ②15mg/kg/日，分2	①一般感染症(表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷および手術創等の二次感染，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎，猩紅熱，百日咳) ②後天性免疫不全症候群(ｴｲｽﾞ)に伴う播種性ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ・ｱﾋﾞｳﾑｺﾝﾌﾟﾚｸｽ(MAC)症	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾚｼﾞｵﾈﾗ菌，百日咳菌，ｶﾝﾋﾟﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｸﾗﾐｼﾞｱ属，ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属，MAC
	200mg/錠 ¥50.9/錠		①400mg，分2 ②800mg，分2 ③400mg，分2【Max：800mg，分2】	①一般感染症(表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷および手術創等の二次感染，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，尿道炎，子宮頸管炎，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎) ②MAC症を含む非結核性抗酸菌症 ③ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ・ﾋﾟﾛﾘ感染症【D-2参照】	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾚｼﾞｵﾈﾗ属，ｶﾝﾋﾟﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属，ｸﾗﾐｼﾞｱ属，ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属，ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属，ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属，ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ・ﾋﾟﾛﾘ
クラリスロマイシン <クラリスロマイシン> 略名：CAM （東和薬品）	ＤＳ(100mg/g) ¥59.3/ｇ		<小児> ①10～15mg/kg/日，分2～3 ﾚｼﾞｵﾈﾗ菌：15mg/kg/日，分2～3 ②15mg/kg/日，分2	①一般感染症(表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷および手術創等の二次感染，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎，猩紅熱，百日咳) ②後天性免疫不全症候群(ｴｲｽﾞ)に伴う播種性ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ・ｱﾋﾞｳﾑｺﾝﾌﾟﾚｸｽ(MAC)症	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾚｼﾞｵﾈﾗ菌，百日咳菌，ｶﾝﾋﾟﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｸﾗﾐｼﾞｱ属，ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属，MAC
ジスロマック <アジスロマイシン> 略名：AZM （ﾌｧｲｻﾞｰ）		500mg/瓶 ¥2535/瓶	1日1回500mg，点静	肺炎，骨盤内炎症性疾患	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，淋菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾚｼﾞｵﾈﾗ・ﾆｭｰﾓﾌｨﾗ，ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属，ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属，ｸﾗﾐｼﾞｱ属，ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属
	250mg/錠 ¥264.4/錠		①1日1回500mg，3日間 ②1000mg1回 ③注射剤による治療後，1日1回250mg	①深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍を含む)，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎 ②尿道炎，子宮頸管炎 ③骨盤内炎症性疾患	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾚｼﾞｵﾈﾗ・ﾆｭｰﾓﾌｨﾗ，ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属，ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属，ｸﾗﾐｼﾞｱ属，ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属，淋菌
ジスロマックＳＲ <アジスロマイシン> 略名：AZM （ﾌｧｲｻﾞｰ）	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ(2g/瓶) ¥2088.5/瓶		2g分1空腹時　1回，用時懸濁	深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍を含む)，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，尿道炎，子宮頸管炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，淋菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属，ｸﾗﾐｼﾞｱ属，ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属
ルリッド <ロキシスロマイシン> 略名：RXM （ｻﾉﾌｨ）	150mg/錠 ¥69/錠		300mg，分2	表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ﾘﾝﾊﾟ管・ﾘﾝﾊﾟ節炎，慢性膿皮症，ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属，ﾚﾝｻ球菌属，肺炎球菌，ﾓﾗｸｾﾗ(ﾌﾞﾗﾝﾊﾒﾗ)・ｶﾀﾗｰﾘｽ，ｱｸﾈ菌，肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ・ﾆｭｰﾓﾆｴ)

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■リンコマイシン系					
ダラシンS <クリンダマイシン> 略名：CLDM （ﾌｧｲｻﾞｰ）		300mg(2mL)/管 ¥406/管	600～1200～(2400)mg,分2～4点静 <小児>15～25～(40)mg/kg/日,分3～4点静	敗血症,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,中耳炎,副鼻腔炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属,ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ属
		600mg(4mL)/管 ¥601/管			
■グリシルサイクリン系					
タイガシル <チゲサイクリン> （ﾌｧｲｻﾞｰ）		50mg/瓶 ¥12536/瓶	初回100mg 以後12時間毎に1回50mg点静	深在性皮膚感染症,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,びらん･潰瘍の二次感染,腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎	大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属 （他の抗菌薬に耐性を示した菌株に限る）
■テトラサイクリン系					
ミノサイクリン <ミノサイクリン> 略名：MINO （日医工）		100mg/瓶 ¥144/瓶	初回100～200mg 以後100mg,分1～2点静	敗血症,深在性皮膚感染症,慢性膿皮症,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,炭疽,つつが虫病,ｵｳﾑ病	黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,ﾓﾗｸｾﾗ･ﾗｸﾅｰﾀ(ﾓﾗｰ･ｱｸｾﾝﾌｪﾙﾄ菌),炭疽菌,大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ･ﾌﾙｵﾚｯｾﾝｽ,緑膿菌,ﾊﾞｰｸﾎﾙﾃﾞﾘｱ･ｾﾊﾟｼｱ,ｽﾃﾉﾄﾛﾎﾓﾅｽ(ｻﾞﾝﾄﾓﾅｽ)･ﾏﾙﾄﾌｨﾘｱ,ｱｼﾈﾄﾊﾞｸﾀｰ属,ﾌﾗﾎﾞﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属,ﾚｼﾞｵﾈﾗ･ﾆｭｰﾓﾌｨﾗ,ﾘｹｯﾁｱ属(ｵﾘｴﾝﾁｱ･ﾂﾂｶﾞﾑｼ),ｸﾗﾐｼﾞｱ属,肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)
ミノマイシン <ミノサイクリン> 略名：MINO （ﾌｧｲｻﾞｰ）	50mg/錠 ¥23.8/錠		初回100～200mg, 以後100mg,分1～2 <小児>2～4mg/kg/日,分1～2	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,骨髄炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),精巣上体炎(副睾丸炎),尿道炎,淋菌感染症,梅毒,腹膜炎,感染性腸炎,外陰炎,細菌性腟炎,子宮内感染,涙のう炎,麦粒腫,外耳炎,中耳炎,副鼻腔炎,化膿性唾液腺炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,上顎洞炎,顎炎,炭疽,つつが虫病,ｵｳﾑ病	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,淋菌,炭疽菌,大腸菌,赤痢菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,緑膿菌,梅毒ﾄﾚﾎﾟﾈｰﾏ,ﾘｹｯﾁｱ属(ｵﾘｴﾝﾁｱ･ﾂﾂｶﾞﾑｼ),ｸﾗﾐｼﾞｱ属,肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)
	100mg/錠 【院外のみ】 ¥51/錠				
レダマイシン <デメチルクロルテトラサイクリン> 略名：DMCTC （ﾎﾟｰﾗﾌｧﾙﾏ）	150mg/C ¥19.3/C		450～600mg,分2～4	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,ﾘﾝﾊﾟ管･ﾘﾝﾊﾟ節炎,慢性膿皮症,乳腺炎,骨髄炎,咽頭･喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎,淋菌感染症,軟性下疳,性病性(鼠径)ﾘﾝﾊﾟ肉芽腫,子宮内感染,涙のう炎,外耳炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱,炭疽,百日咳,野兎病,ｶﾞｽ壊疽,ﾜｲﾙ病,発疹ﾁﾌｽ,発疹熱,つつが虫病	ﾌﾞﾄﾞｳ球菌属,ﾚﾝｻ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,淋菌,炭疽菌,大腸菌,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ﾌﾟﾛﾃｳｽ属,ﾓﾙｶﾞﾈﾗ･ﾓﾙｶﾞﾆｰ,ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ属,ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌,軟性下疳菌,百日咳菌,野兎病菌,ｶﾞｽ壊疽菌群,ﾜｲﾙ病ﾚﾌﾟﾄｽﾋﾟﾗ,ﾘｹｯﾁｱ属,ｸﾗﾐｼﾞｱ属,肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ(ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ･ﾆｭｰﾓﾆｴ)

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■サルファ剤					
バクタ <スルファメトキサゾール，トリメトプリム> 略名：ST （ｼｵﾉｷﾞ）	顆粒(1g/包) ¥77.4/包		①4錠(g)，分2 ②<治療>9～12錠(g)，分3～4 小児：(ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑとして)15～20mg/kg/日，分3～4 <発症抑制>1日1回1～2錠(g)，連日又は週3日 小児：(ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑとして)4～8mg/kg/日，分2，連日又は週3日	①一般感染症(肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，複雑性膀胱炎，腎盂腎炎，感染性腸炎，腸ﾁﾌｽ，ﾊﾟﾗﾁﾌｽ) ②ﾆｭｰﾓｼｽﾁｽ肺炎の治療及び発症抑制	腸球菌属，大腸菌，赤痢菌，ﾁﾌｽ菌，ﾊﾟﾗﾁﾌｽ菌，ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属，ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸﾀｰ属，ﾌﾟﾛﾃｳｽ属，ﾓﾙｶﾞﾈﾗ・ﾓﾙｶﾞﾆｰ，ﾌﾟﾛﾋﾞﾃﾞﾝｼｱ・ﾚｯﾄｹﾞﾘ，ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌，ﾆｭｰﾓｼｽﾁｽ・ｲﾛﾍﾟﾁｰ
	錠 ¥74.6/錠				
バクトラミン <スルファメトキサゾール，トリメトプリム> 略名：ST （中外）		ｽﾙﾌｧﾒﾄｷｻｿﾞｰﾙ400mg，ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑ80mg/5mL/管 ¥561/管	ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑとして15～20mg/kg/日，分3， 1管あたり125mLに溶解し，1～2hrかけて点静	ｶﾘﾆ肺炎	ﾆｭｰﾓｼｽﾁｽ・ｶﾘﾆ
■抗結核薬					
イスコチン <イソニアジド> 略名：INH （第一三共）	100mg/錠 ¥9.6/錠		200～500mg(4～10mg/kg)，分1～3 【Max：成人1g，13才未満20mg/kg】	肺結核およびその他の結核症	結核菌
エサンブトール <エサンブトール> 略名：EB （ｻﾝﾄﾞ）	250mg/錠 ¥18.60/錠		①750～1000mg，分1～2 ②500～750mg，分1【Max：1000mg】	①肺結核およびその他の結核症 ②ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ・ｱﾋﾞｳﾑｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症	ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属
ストレプトマイシン <ストレプトマイシン> 略名：SM （明治）		1g/瓶 ¥389/瓶	①<他の抗結核薬と併用> 1日1g筋注，週2～3回，あるいははじめの1～3ヵ月は毎日，その後週2回 ②1日0.75～1g筋注，週2～3回 ③1日1～2g，分1～2，筋注	①肺結核及びその他の結核症 ②ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ・ｱﾋﾞｳﾑｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症 ③感染性心内膜炎(ﾍﾟﾝｼﾞﾙﾍﾟﾆｼﾘﾝ又はｱﾝﾋﾟｼﾘﾝと併用の場合に限る)，ﾍﾟｽﾄ，野兎病，ﾜｲﾙ病	ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属，結核菌，ﾍﾟｽﾄ菌，野兎病菌，ﾜｲﾙ病ﾚﾌﾟﾄｽﾋﾟﾗ
ピラマイド <ピラジナミド> 略名：PZA （第一三共）	原末 ¥30.1/ｇ		1.5～2.0g/日，分1～3 他の抗結核薬と併用すること	肺結核およびその他の結核症	結核菌

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
リファジン <リファンピシン> 略名：RFP （第一三共）	150mg/C ¥30.6/C		①450mg,分1 ②450mg,分1【Max:600mg/日】 ③600mg/回,1～2回/月または450mg/回,分1連日	①肺結核およびその他の結核症 ②ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ･ｱﾋﾞｳﾑｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症 ③ﾊﾝｾﾝ病	ﾏｲｺﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属

■抗真菌薬

アネメトロ <メトロニダゾール> （ﾌｧｲｻﾞｰ）		500mg(100mL)/瓶 ¥1252/瓶	1回500mg1日3回点静 難治性又は重症感染症:1回500mg1日4回	①嫌気性感染症(敗血症,深在性皮膚感染症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,骨髄炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,骨盤内炎症性疾患,腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,肝膿瘍,化膿性髄膜炎,脳膿瘍) ②感染性腸炎 ③ｱﾒｰﾊﾞ赤痢	①ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属,ﾎﾟﾙﾌｨﾛﾓﾅｽ属,ﾌｿﾞﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属,ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ属,ﾕｰﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属 ②ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ
アムビゾーム <アムホテリシンＢリポソーム> （大日本住友）		50mg/瓶 ¥9811/瓶	①2.5mg/kg,分1点静,1～2時間以上かけて 【Max：5mg/kg,ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｶｽ髄膜炎は6mg/kg】 ②2.5mg/kg,分1点静,1～2時間以上かけて ③免疫能正常:2.5mg/kg,分1点静,1～2時間以上かけて,投与1～5日目連日･14･21日目 免疫不全:4mg/kg,分1点静,1～2時間以上かけて,投与1～5日目連日･10･17･24･31･38日目	①真菌血症,呼吸器真菌症,真菌髄膜炎,播種性真菌症 ②真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 ③ﾘｰｼｭﾏﾆｱ症	ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ,ｶﾝｼﾞﾀﾞ,ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｶｽ,ﾑｰｺﾙ,ｱﾌﾞｼｼﾞｱ,ﾘｿﾞﾌﾟｽ,ﾘｿﾞﾑｰｺﾙ,ｸﾗﾄﾞｽﾎﾟﾘｳﾑ,ｸﾗﾄﾞﾋｱﾛﾎｰﾗ,ﾎﾝｾｶｴｱ,ﾋｱﾛﾎｰﾗ,ｴｸｿﾌｨｱﾗ,ｺｸｼｼﾞｵｲﾃﾞｽ,ﾋｽﾄﾌﾟﾗｽﾞﾏ,ﾌﾞﾗｽﾄﾐｾｽ
イトリゾール <イトラコナゾール> 略名：ITCZ （ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ）	50mg/C ¥394.8/C		50～200mg,分1 爪白癬ﾊﾟﾙｽ療法:400mg,分2×7日,3週休薬(3ｻｲｸﾙ)	真菌血症,呼吸器真菌症,消化器真菌症,尿路真菌症,真菌髄膜炎,ｽﾎﾟﾛﾄﾘｺｰｼｽ,ｸﾛﾓﾐｺｰｼｽ,白癬,ｶﾝｼﾞﾀﾞ症,癜風,ﾏﾗｾﾁｱ毛包炎,爪白癬	皮膚糸状菌(ﾄﾘｺﾌｨﾄﾝ属,ﾐｸﾛｽﾎﾟﾙﾑ属,ｴﾋﾟﾃﾞﾙﾓﾌｨﾄﾝ属),ｶﾝｼﾞﾀﾞ属,ﾏﾗｾﾁｱ属,ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ属,ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｸｽ属,ｽﾎﾟﾛﾄﾘｯｸｽ属,ﾎﾝｾｶｴｱ属
	10mg/mL ¥109.7/mL		①④200mg(20mL)分1,空腹時 【Max:400mg(40mL)分2】 ②200mg(20mL)分1,空腹時 ③<ｲﾄﾗｺﾅｿﾞｰﾙ注射液から切り替え> 200mg(20mL)分1,空腹時 【Max:400mg(40mL)分2】	①真菌感染症(真菌血症,呼吸器･消化管･尿路真菌症,真菌髄膜炎,ﾌﾞﾗｽﾄﾐｾｽ属,ﾋｽﾄﾌﾟﾗｽﾏ属) ②口腔咽頭ｶﾝｼﾞﾀﾞ,食道ｶﾝｼﾞﾀﾞ ③真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 ④好中球減少が予測される血液悪性腫瘍又は造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ属,ｶﾝｼﾞﾀﾞ属,ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｸｽ属,ﾌﾞﾗｽﾄﾐｾｽ属,ﾋﾄﾌﾟﾗｽﾏ属
ファンガード <ミカファンギン> 略名：MCFG （ｱｽﾃﾗｽ）		50mg/瓶 ¥6762/瓶	①ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ症:50～150mg分1静注 【Max:300mg】 ｶﾝｼﾞﾀﾞ症:50mg分1静注 【Max:300mg】 ②50mg分1静注,小児:1mg/kg	①真菌血症,呼吸器真菌症,消化管真菌症 ②造血幹細胞移植患者におけるアスペルギルス症及びカンジダ症の予防	ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ属,ｶﾝｼﾞﾀﾞ属
ファンギゾン <アムホテリシンＢ> 略名：AMPH （ﾌﾞﾘｽﾄﾙ）	ＳＹ(100mg/mL,24mL/瓶) ¥53.6/mL		100mg/回を1日2～4回 <小児>50～100mg/回	消化管におけるｶﾝｼﾞﾀﾞ異常増殖	ｶﾝｼﾞﾀﾞ

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ブイフェンド <ボリコナゾール> 略名：VRCZ （ﾌｧｲｻﾞｰ）	50mg/錠 ¥1139.2/錠		<成人(体重40kg以上)> 初日：600mg,分2,食間 【Max800mg】 以降：300～400mg,分2,食間 【Max:600mg】 <成人(体重40kg未満)> 初日：300mg,分2,食間 以降：200mg,分2,食間 【Max:300mg】 <小児(2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満) ﾌﾞｲﾌｪﾝﾄﾞ注による治療後 18mg/kg,分2,食間 効果･忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ増減 【Max:700mg】 <小児(12歳以上で体重50kg以上)> ﾌﾞｲﾌｪﾝﾄﾞ注による治療後 400mg,分2,食間 【Max:600mg】	重症又は難治性真菌感染症	ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ属,ｶﾝｼﾞﾀﾞ属,ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｸｽ属,ﾌｻﾘｳﾑ属,ｽｹﾄﾞｽﾎﾟﾘｳﾑ属
		200mg/瓶 ¥11994/瓶	<成人> 初日：12mg/kg,分2点静 以後：6～8mg/kg,分2点静 <小児(2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満)> 初日：18mg/kg,分2点静 以後：16mg/kg,分2点静 効果･忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ増減 <小児(12歳以上で体重50kg以上)> 初日：12mg/kg,分2点静 以後：8mg/kg,分2点静		
フラジール <メトロニダゾール> （ｼｵﾉｷﾞ）	250mg/錠 ¥35.5/錠		①1回250mg1日2回,10日間 ②1回500mg1日3～4回 ③1回250mg1日4回または 　1回500mg1日3回,10～14日間 ④1回250mg1日3回または 　1回500mg1日2回,7日間 ⑤1回ﾌﾗｼﾞｰﾙ:250mg,ｻﾜｼﾘﾝ:750mg 　ﾌﾟﾛﾄﾝﾎﾟﾝﾌﾟｲﾝﾋﾞﾀｰの3剤を1日2回,7日間 ⑥1回500mg1日3回,10日間 ⑦1回250mg1日3回,5～7日間	①ﾄﾘｺﾓﾅｽ症(腟ﾄﾘｺﾓﾅｽによる感染症) ②嫌気性菌感染症(真在性皮膚感染症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,骨髄炎,肺炎,肺膿瘍,骨盤内炎症性疾患,腹膜炎,腹腔内膿瘍,肝膿瘍,脳膿瘍) ③感染性腸炎 ④細菌性膣症 ⑤胃潰瘍･十二指腸潰瘍･胃MALTﾘﾝﾊﾟ腫･特発性血小板減少性紫斑病･早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃,ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染症 ⑥ｱﾒｰﾊﾞ赤痢 ⑦ﾗﾝﾌﾞﾙ鞭毛虫感染症	①腟ﾄﾘｺﾓﾅｽ ②ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾄﾛｲﾃﾞｽ属,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ属,ﾎﾟﾙﾌｨﾛﾓﾅｽ属,ﾌｿﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属,ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ属,ｳｰﾊﾞｸﾃﾘｳﾑ属 ③ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ ④ﾍﾟﾌﾟﾄｽﾄﾚﾌﾟﾄｺｯｶｽ属,ﾊﾞｸﾃﾛｲﾃﾞｽ･ﾌﾗｼﾞﾘｽ,ﾌﾟﾚﾎﾞﾃﾗ･ﾋﾞﾋﾞｱ,ﾓﾋﾞﾙﾝｶｽ属,ｶﾞｰﾄﾞﾈﾗ･ﾊﾞｼﾞﾅﾘｽ ⑤ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
フルコナゾール <フルコナゾール> 略名：FCZ （沢井）	100mg/C ¥382.7/C		①ｶﾝｼﾞﾀﾞ：50～100mg,分1 ＜小児＞3mg/kg,分1 ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｶｽ：50～200mg分1 ＜小児＞3～6mg/kg,分1 ＜新生児の投与間隔＞ 生後14日まで：72時間毎 生後15日以降：48時間毎 【Max:400mg,小児：12mg/kg】 ②400mg,分1 ＜小児＞12mg/kg,分1 【Max:400mg】	①真菌血症,呼吸器真菌症,消化管真菌症,尿路真菌症,真菌髄膜炎 ②造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	ｶﾝｼﾞﾀﾞ属,ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｶｽ属
プロジフ <ホスフルコナゾール> 略名：FCZ （ﾌｧｲｻﾞｰ）		100mg(1.25mL)/瓶 ¥5405/瓶	50～400～(800)mg,分1静注	真菌血症,呼吸器真菌症,真菌腹膜炎,消化管真菌症,尿路真菌症,真菌髄膜炎	ｶﾝｼﾞﾀﾞ属,ｸﾘﾌﾟﾄｺｯｶｽ属
		200mg(2.5mL)/瓶 ¥10090/瓶			
		400mg(5mL)/瓶 ¥19071/瓶			
フロリード <ミコナゾール> 略名：MCZ （持田）	2%ｹﾞﾙ経口用(5g/1本) ¥508/本		200～400mg,分4	口腔ｶﾝｼﾞﾀﾞ症,食道ｶﾝｼﾞﾀﾞ症	ｶﾝｼﾞﾀﾞ
ラミシール <テルビナフィン> （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）	125mg/錠 【院外のみ】 ¥202.9/錠		125mg,分1	白癬性肉芽腫,ｽﾎﾟﾛﾄﾘｺｰｼｽ,ｸﾛﾓﾐｺｰｼｽ,白癬,ｶﾝｼﾞﾀﾞ症	皮膚糸状菌(ﾄﾘｺﾌｨﾄﾝ属,ﾐｸﾛｽﾎﾟﾙﾑ属,ｴﾋﾟﾃﾞﾙﾓﾌｨﾄﾝ属),ｶﾝｼﾞﾀﾞ属,ｽﾎﾟﾛﾄﾘｯｸｽ属,ﾎﾝｾｶｴｱ属

■抗ウイルス薬

アシクロビン <アシクロビル> 略名：ACV （日本ｹﾐﾌｧ）		250mg(10mL)/管 ¥676/管	①髄膜炎,脳炎,15mg/kg,分3点静 【Max:30mg/kg】 その他15mg/kg,分3点静,7日間 <小児>15mg/kg,分3点静 【Max:60mg/kg】 ②30mg/kg,分3点静,10日間 【Max:60mg/kg】	①免疫機能の低下した患者(悪性腫瘍・自己免疫疾患など)に発症した単純疱疹・水痘・帯状疱疹,脳炎・髄膜炎 ②新生児単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症	単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ,水痘・帯状疱疹ｳｲﾙｽ

1．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
シナジス <パリビズマブ> (ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ)		50mg/瓶 ¥79014/瓶	RSｳｨﾙｽ感染 15mg/kg,月1回,筋注	RSｳｨﾙｽ(Respiratory Syncytial Virus)感染による重篤な下気道疾患の発症抑制【DI照会参照】	RSｳｨﾙｽ(Respiratory Syncytial Virus)
		100mg/瓶 ¥156417/瓶			
ゾビラックス <アシクロビル> 略名：ACV (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		250mg/瓶 ¥4161/瓶	①5mg/kg,1日3回8時間毎,7日間点静 脳炎･髄膜炎:投与期間の延長もしくは増量可能【Max:10mg/kg】 <小児>5mg/kg,1日3回8時間毎,7日間点静【Max:20mg/kg】 脳炎･髄膜炎:投与期間延長可能 ②10mg/kg,1日3回8時間毎,10日間点静 【Max:20mg/kg】	①免疫機能の低下した患者(悪性腫瘍・自己免疫疾患など)に発症した単純疱疹・水痘・帯状疱疹,脳炎・髄膜炎 ②新生児単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症	単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ,水痘･帯状疱疹ｳｲﾙｽ
	200mg/錠 ¥239.1/錠		骨髄移植後の単純疱疹の発症抑制:1000mg,分5 帯状疱疹:4000mg,分5	単純疱疹,骨髄移植における単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症(単純疱疹)の発症抑制,帯状疱疹	
バラシクロビル <バラシクロビル> 略名：VACV (日医工)	顆粒(500mg/g) ¥291.7/ｇ		①1000mg,分2　5日間(初発型性器ﾍﾙﾍﾟｽは最長10日間) ②3000mg,分3　7日間 ③500mg,分1 (HIV感染症の成人：1000mg,分2) ④小児:75mg/kg,分3, 5日間 【Max:3000mg/日】 成人:3000mg, 分3　5～7日間	①単純疱疹 ②帯状疱疹 ③性器ﾍﾙﾍﾟｽの再発抑制 ④水痘	単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ,水痘･帯状疱疹ｳｲﾙｽ
	500mg/錠 ¥242.2/錠		①1000mg,分2　5日間(最長10日間) ②3000mg,分3　7日間 ③500mg,分1 (HIV感染症の成人：1000mg,分2) ④3000mg,分3　成人:5～7日間,小児:5日間	①単純疱疹 ②帯状疱疹 ③性器ﾍﾙﾍﾟｽの再発抑制 ④水痘(成人と体重40kg以上の小児)	
バルトレックス <バラシクロビル> 略名：VACV (グラクソ・スミスクライン)	500mg/錠 ¥436/錠		①1000mg,分2　5日間(最長10日間) ②3000mg,分3　7日間 ③500mg,分1 (HIV感染症の成人：1000mg,分2) ④3000mg,分3　成人:5～7日間,小児:5日間 ⑤1000mg,分2　造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで	①単純疱疹 ②帯状疱疹 ③性器ﾍﾙﾍﾟｽの再発抑制 ④水痘(成人と体重40kg以上の小児) ⑤造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制	単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ,水痘･帯状疱疹ｳｲﾙｽ

１．感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ファムビル ＜ファムシクロビル＞ 略名：FCV （ﾏﾙﾎ）	250mg/錠 【院外のみ】 ¥489.9/錠		単純疱疹:750mg,分3 帯状疱疹:1500mg,分3	単純疱疹,帯状疱疹	単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ,水痘･帯状疱疹ｳｲﾙｽ

■抗ＨＩＶ薬

エピビル ＜ラミブジン＞ 略名：3TC （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）	300mg/錠 ¥1709.9/錠		3錠,分1～2	HIV感染症	
カレトラ ＜配合剤：ロピナビル２００ｍｇ，リトナビル５０ｍｇ＞ 略名：LPV/RTV （ｱﾎﾞｯﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ）	錠 ¥387.9/錠		4錠,分1～2 ＜小児＞体重40kg以上:4錠,分2	HIV感染症	
ツルバダ ＜配合剤：エムトリシタビン２００ｍｇ，フマル酸テノホビルジソプロキシル３００ｍｇ＞ 略名：FTC/TFV （鳥居）	錠 ¥3863.6/錠		1錠,分1	HIV感染症	
レトロビル ＜ジドブジン＞ 略名：AZT （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）	100mg/C ¥284.4/C		5～6C,分2～6	HIV感染症	

２．感染症治療薬（外用）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鼻腔内ＭＲＳＡ除菌剤				
バクトロバン鼻腔用 ＜ムピロシン＞ (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		軟膏(3g/本) ¥1724.7/本	鼻腔内のMRSAの除菌	1日3回鼻腔内塗布

３．インフルエンザウイルス用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗インフルエンザウイルス剤				
イナビル <ラニナミビル> (第一三共)		(20mg/ｷｯﾄ) ¥2139.9/ｷｯﾄ	①A型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症の治療 ②A型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症の予防(自費診療)	①10歳以上:2ｷｯﾄ/回 10歳未満:1ｷｯﾄ/回 ②10歳以上:1ｷｯﾄ/回,2日間
シンメトレル <アマンタジン> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	50mg/錠 ¥28.6/錠		A型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症	①100～200mg分2(～3) 【Max:300mg】 ②100～150mg分2～3 ③100mg分1～2
タミフル <オセルタミビル> (中外)	ＤＳ(30mg/g) ¥244/ｇ		①A型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症 ②65歳以上または基礎疾患を有する者のA型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症の予防(自費診療)	①150mg分2,5日間, <小児>4mg/kg/日,分2,5日間 【Max:75mg/回】 【1歳未満,8.1kg未満は脳へ移行するため慎重投与】 ②75mg分1日,7～10日間(成人), 2mg/kg分1,10日間
	75mg/C ¥317.9/C		①A型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症(成人及び体重37.5kg以上の小児) ②65歳以上または基礎疾患を有する者のA型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症の予防(自費診療)	①150mg分2,5日間, ②75mg分1日,7～10日間(成人),10日間(小児)
ラピアクタ <ペラミビル> (ｼｵﾉｷﾞ)		300mg(60mL)/袋 ¥6216/袋	A型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症	300mg分1,単回点滴静注 重症化するおそれのある患者には600mg分1,単回点滴静注,連日反復投与可能 <小児>10mg/kg/日 分1【Max:600mg/回】
リレンザ <ザナミビル> (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		(5mg/ﾌﾞﾘｽﾀｰ) ¥173.5/BL	①A型･B型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症 ②A型･B型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症の予防(自費診療)	①10mg(2ﾌﾞﾘｽﾀｰ)/回 2回/日,5日間 (小児も同量) ②10mg(2ﾌﾞﾘｽﾀｰ)/回 1回/日,10日間
■ワクチン類				
インフルエンザＨＡワクチン <インフルエンザＨＡワクチン> (第一三共)		0.5mL/瓶 ¥3000/瓶	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの予防	2～4週間の間隔をおいて2回皮下, 6ヶ月以上3歳未満0.25mL/回, 3歳以上13歳未満0.5mL/回, 1回又は1～4週間の間隔をおいて2回皮下, 13歳以上0.5mL/回

オーダリング上細菌検査の感受性検査で表示する抗菌薬略号について（＊を表示）　(H27.3)

No.1

（△測定しているが表示していない）

系統	報告書略号	一般名	商品名	用法		菌種別の感受性検査対象薬剤					当院採用	使用届制
				注射	内服	腸内細菌群大腸菌など	緑膿菌	ブドウ球菌腸球菌	連鎖球菌	ヘモフィルス		
P	ABPC	ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ	ﾋﾞｸｼﾘﾝ	○		＊		＊	＊	＊	○	
	PCG	ﾍﾞﾝｼﾞﾙﾍﾟﾆｼﾘﾝ	ﾍﾟﾆｼﾘﾝG	○	○			△	＊		○	
	PIPC	ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝ	ﾍﾟﾝﾄｼﾘﾝ	○		＊	＊				○	
	AMPC	ｱﾓｷｼｼﾘﾝ	ｱﾓｷｼｼﾘﾝ		○						○	
	A/S	ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ/ｽﾙﾊﾞｸﾀﾑ	ｽﾙﾊﾞｼﾘﾝ	○				△		＊	○	
	SBTP	ｽﾙﾀﾐｼﾘﾝ	ﾕﾅｼﾝ		○						○	
	A/C	ｱﾓｷｼｼﾘﾝ/ｸﾗﾌﾞﾗﾝ酸	ｵｰｸﾞﾒﾝﾁﾝ		○	△		△	＊	＊	○	
	P/T	ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝ/ﾀｿﾞﾊﾞｸﾀﾑ	ｿﾞｼﾝ	○		＊					○	
	MPIP	ｵｷｻｼﾘﾝ						＊			×	
C-1	CEZ	ｾﾌｧｿﾞﾘﾝ	ｾﾌｧｿﾞﾘﾝ	○		＊		＊			○	
	CCL	ｾﾌｧｸﾛｰﾙ	ｹﾌﾗｰﾙ		○	△				＊	○	
	CEX	ｾﾌｧﾚｷｼﾝ	ｹﾌﾚｯｸｽ		○						×	
C-2	CTM	ｾﾌｫﾁｱﾑ	ﾊﾟﾝｽﾎﾟﾘﾝ(T)	○	○			＊	＊	＊	○	
CM	CMZ	ｾﾌﾒﾀｿﾞｰﾙ	ｾﾌﾒﾀｿﾞｰﾙ	○		＊					○	
OC	LMOX	ﾗﾀﾓｷｾﾌ	ｼｵﾏﾘﾝ	○			＊				×	
OC	FMOX	ﾌﾛﾓｷｾﾌ	ﾌﾙﾏﾘﾝ	○		△	＊	＊			○	
C-3	CTX	ｾﾌｫﾀｷｼﾑ	ｸﾗﾌｫﾗﾝ	○		＊			＊	＊	○	
	CAZ	ｾﾌﾀｼﾞｼﾞﾑ	ｾﾌﾀｼﾞｼﾞﾑ	○		＊	＊				○	
	CTRX	ｾﾌﾄﾘｱｷｿﾝ	ｾﾌﾄﾘｱｷｿﾝ	○		＊			＊	＊	○	
	S/C	ｽﾙﾊﾞｸﾀﾑ/ｾﾌｫﾍﾟﾗｿﾞﾝ	ﾜｲｽﾀｰﾙ	○		＊	＊				○	
	CFDN	ｾﾌｼﾞﾆﾙ	ｾﾌｼﾞﾆﾙ		○	＊		＊			○	
	CFIX	ｾﾌｨｷｼﾑ	ｾﾌｽﾊﾟﾝ		○					＊	×	
	CPDX	ｾﾌﾎﾟﾄﾞｷｼﾑﾌﾟﾛｷｾﾁﾙ	ｾﾌﾎﾟﾄﾞｷｼﾑ		○						○	
	CFPN	ｾﾌｶﾍﾟﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ	ｾﾌｶﾍﾟﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ		○	△					○	
	CDTR	ｾﾌｼﾞﾄﾚﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ	ｾﾌｼﾞﾄﾚﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ		○			＊	＊	＊	○	
	CZOP	ｾﾌｫｿﾞﾌﾟﾗﾝ	ﾌｧｰｽﾄｼﾝ	○		＊	＊	＊	＊	＊	○	
C-4	CFPM	ｾﾌｪﾋﾟﾑ	ﾏｷｼﾋﾟｰﾑ	○			＊		＊	＊	○	
	CPR	ｾﾌﾋﾟﾛﾑ	ｹｲﾃﾝ	○		△	△	△			×	
MoB	AZT	ｱｽﾞﾄﾚｵﾅﾑ	ｱｻﾞｸﾀﾑ	○		＊	＊				（限定）	
CarP	IPM	ｲﾐﾍﾟﾈﾑｼﾗｽﾀﾁﾝ	ﾁｴﾅﾑ	○		＊	＊	＊			○	○
	MEPM	ﾒﾛﾍﾟﾈﾑ	ﾒﾛﾍﾟﾝ	○		＊	＊	＊	＊	＊	○	○
	PAPM	ﾊﾟﾆﾍﾟﾈﾑﾍﾞﾀﾐﾌﾟﾛﾝ	ｶﾙﾍﾞﾆﾝ	○							○	○
Pe	FRPM	ﾌｧﾛﾍﾟﾈﾑ	ﾌｧﾛﾑ		○						（限定）	

系統記号の意味

P；ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系　C-1；第1世代ｾﾌｪﾑ　C-2；第2世代ｾﾌｪﾑ　C-3；第3世代ｾﾌｪﾑ　C-4；第4世代ｾﾌｪﾑ

CM；ｾﾌｧﾏｲｼﾝ系　OC；ｵｷｻｾﾌｪﾑ系　MoB;ﾓﾉﾊﾞｸﾀﾑ　CarP；ｶﾙﾊﾞﾍﾟﾈﾑ系　Pe；ﾍﾟﾈﾑ系

オーダリング上細菌検査の感受性検査で表示する抗菌薬略号について（＊を表示）　(H27.3)

No.2

（△測定しているが表示していない）

系統	報告書略号	一般名	商品名	用法		菌種別の感受性検査対象薬剤					当院採用	使用届制
				注射	内服	腸内細菌群大腸菌など	緑膿菌	ブドウ球菌腸球菌	連鎖球菌	ヘモフィルス		
AG	AMK	ｱﾐｶｼﾝ	硫酸ｱﾐｶｼﾝ	○		＊	＊				○	
	ISP	ｲｾﾊﾟｼﾝ	ｴｸｻｼﾝ	○			＊				×	
	GM	ｹﾞﾝﾀﾏｲｼﾝ	ｹﾞﾝﾀｼﾝ	○		＊	＊	＊			○	
	TOB	ﾄﾌﾞﾗﾏｲｼﾝ	ﾄﾌﾞﾗｼﾝ	○			＊				○	
	NTL	ﾈﾁﾙﾏｲｼﾝ	ﾈﾁﾘﾝ	○							×	
	DKB	ｼﾞﾍﾞｶｼﾝ	ﾊﾟﾆﾏｲｼﾝ	○							（限定）	
	ABK	ｱﾙﾍﾞｶｼﾝ	ﾊﾍﾞｶｼﾝ	○				＊			○	
	KM	ｶﾅﾏｲｼﾝ	ｶﾅﾏｲｼﾝ	○	○						○	
M	EM	ｴﾘｽﾛﾏｲｼﾝ	ｴﾘｽﾛｼﾝ	○	○			＊	＊		○	
	CAM	ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ	ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ		○					＊	○	
	AZM	ｱｼﾞｽﾛﾏｲｼﾝ	ｼﾞｽﾛﾏｯｸ	○	○				＊		○	
	TEL	ﾃﾘｽﾛﾏｲｼﾝ	ｹﾃｯｸ		○						×	
	RXM	ﾛｷｽﾛﾏｲｼﾝ	ﾙﾘｯﾄﾞ		○						○	
LM	CLDM	ｸﾘﾝﾀﾞﾏｲｼﾝ	ﾀﾞﾗｼﾝS	○	○			＊	＊		○	
TC	MINO	ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ	ﾐﾉﾏｲｼﾝ	○	○	＊	＊	＊	＊		○	
	DMCT	ﾃﾞﾒﾁﾙｸﾛﾙﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ	ﾚﾀﾞﾏｲｼﾝ		○						○	
	TC	ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ	ｱｸﾛﾏｲｼﾝ	○	○					＊	×	
CP	CP	ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ	ｸﾛﾛﾏｲｾﾁﾝ	○	○		△		＊	△	×	
Fo	FOM	ﾎｽﾎﾏｲｼﾝ	ﾎｽﾐｼﾝ	○	○	＊	△	△			○	
NQ	LVFX	ﾚﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ	ｸﾗﾋﾞｯﾄ	○	○	＊	＊	＊	＊	＊	○	
	CPFX	ｼﾌﾟﾛﾌﾛｷｻｼﾝ	ｼﾌﾟﾛｷｻﾝ	○	○	＊	＊			＊	○	
	TFLX	ﾄｽﾌﾛｷｻｼﾝ	ﾄｽｷｻｼﾝ		○		＊				×	
	GFLX	ｶﾞﾁﾌﾛｷｻｼﾝ	ｶﾞﾁﾌﾛ								×	
	PZFX	ﾊﾟｽﾞﾌﾛｷｻｼﾝ	ﾊﾟｼﾙ	○							○	
PP	VCM	ﾊﾞﾝｺﾏｲｼﾝ	塩酸ﾊﾞﾝｺﾏｲｼﾝ	○	○			＊	＊		○	○
	TEIC	ﾃｲｺﾌﾟﾗﾆﾝ	ﾀｺﾞｼｯﾄﾞ	○				＊			○	○
他	LZD	ﾘﾈｿﾞﾘﾄﾞ	ｻﾞｲﾎﾞｯｸｽ	○	○			＊			○	○
	DAP	ﾀﾞﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ	ｷｭﾋﾞｼﾝ	○							○	○
	ST	ｽﾙﾌｧﾒﾄｷｻｻﾞｰﾙﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑ	ﾊﾞｸﾄﾗﾐﾝ、ﾊﾞｸﾀ	○	○	＊	＊	＊	＊	＊	○	
	RFP	ﾘﾌｧﾝﾋﾟｼﾝ	ﾘﾌｧｼﾞﾝ		○				＊	△	○	

系統記号の意味

AG；ｱﾐﾉ配糖体系　M；ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系　LM；ﾘﾝｺﾏｲｼﾝ系　TC；ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系　Fo；ﾎｽﾎﾏｲｼﾝ系
NQ；ﾆｭｰｷﾉﾛﾝ系　PP；ﾎﾟﾘﾍﾟﾌﾟﾀｲﾄﾞ系　CP：ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ

1．眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■縮瞳剤				
サンピロ <ピロカルピン> (参天)		1%液(5mL) ¥132.1/本	緑内障･縮瞳	3～5回点眼/日
		2%液(5mL) ¥158/本		
■散瞳剤※閉塞隅角緑内障および閉塞隅角緑内障を起こす素因のある患者には禁忌				
アトロピン <アトロピン> (日点)		1%液(5mL) ¥145.5/本	散瞳･調節麻痺	1～3回点眼/日
アトロピン <アトロピン>		0.5%液 (5mL) 【院内製剤】		
サイプレジン <シクロペントラート> (参天)		1%液(10mL) ¥870/本		1～2回(1回目5～10分後)点眼
ネオシネジン <フェニレフリン> (興和創薬)		5%液(10mL) ¥462/本	散瞳	1回点眼
ミドリンM <トロピカミド> (参天)		0.4%液(5mL) ¥113.5/本	①散瞳 ②調節麻痺	①1回点眼 ②3～5分おきに2～3回点眼
ミドリンP <トロピカミド・フェニレフリン> (参天)		液(10mL) ¥299/本		①3～5分おきに1～2回点眼 ②3～5分おきに2～3回点眼
■緑内障眼圧降下薬 ◆副交感神経刺激薬(縮瞳)				
サンピロ <ピロカルピン> (参天)		1%液(5mL) ¥132.1/本	緑内障, 縮瞳	3～5回点眼/日
		2%液(5mL) ¥158/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆α１遮断薬				
デタントール <ブナゾシン> (参天)		0.01%液(5mL) ¥1576.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日

1．眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■緑内障眼圧降下薬 ◆β遮断薬				
チモプトール ＜チモロール＞ (MSD)		0.5%液(5mL) ¥1686/本	緑内障,高眼圧症	2回点眼/日
チモプトールＸＥ ＜チモロール＞ (MSD)		0.5%液(2.5mL) ¥1798/本		1回点眼/日
ミケランＬＡ ＜カルテオロール＞ (大塚)		2%液(2.5mL) ¥1395.5/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆α１β遮断薬				
ハイパジール ＜ニプラジロール＞ (興和創薬)		0.25%液(5mL) ¥1882.5/本	緑内障,高眼圧症	2回点眼/日
■緑内障眼圧降下薬 ◆プロスタグランジン製剤				
キサラタン ＜ラタノプロスト＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)		0.005%液(2.5mL) ¥1848.75/本	緑内障,高眼圧症	1回点眼/日
タプロス ＜タフルプロスト＞ (参天)		0.0015%液(2.5mL) ¥2463/本		
トラバタンズ ＜トラボプロスト＞ (日本ｱﾙｺﾝ)		0.004%液(2.5mL) ¥2519/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆プロスタマイド誘導体製剤				
ルミガン ＜ビマトプロスト＞ (千寿)		0.03%液(2.5mL) ¥2399.25/本	緑内障,高眼圧症	1回点眼/日
■緑内障眼圧降下薬 ◆炭酸脱水酵素阻害薬				
エイゾプト ＜ブリンゾラミド＞ (日本ｱﾙｺﾝ)		1%液(5mL) ¥2253.5/本	緑内障,高眼圧症	2回点眼/日 【Max：3回まで】
ダイアモックス ＜アセタゾラミド＞ (三和化学)	250mg/錠 ¥27.1/錠		緑内障	250～1000mg
		500mg/瓶 ¥651/瓶		250～1000mg静注,筋注
トルソプト ＜ドルゾラミド＞ (MSD)		1%液(5mL) ¥1485.5/本		3回点眼/日

1．眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■緑内障眼圧降下薬 ◆アドレナリンα2受容体作動薬				
アイファガン <ブリモニジン> (千寿)		点眼液(5mL) ¥2253.5/本	緑内障,高眼圧症	2回点眼/日
■白内障治療薬				
カリーユニ <ピレノキシン> (参天)		0.005%液(5mL) ¥63.7/本	初期老人性白内障	3～5回点眼/日
タチオン <グルタチオン> (田辺製薬)		2%液(5mL) 【院外のみ】 ¥115/本	初期老人性白内障,角膜潰瘍,角膜上皮剥離,角膜炎	
■角膜保護剤				
ヒアレイン <ヒアルロン酸ナトリウム> (参天)		0.1%液(5mL) ¥431.8/本	角結膜上皮障害	5～6回点眼/日
ムコスタＵＤ <レバミピド> (大塚)		2%液(0.35mL) ¥27.1/本	ﾄﾞﾗｲｱｲ	4回点眼/日
■ステロイド系抗炎症薬				
ネオメドロールＥＥ <配合剤：メチルプレドニゾロン・フラジオマイシン> (ﾌｧｲｻﾞｰ)		軟膏(3g) ¥158.1/本	外眼部･前眼部の炎症性疾患,外耳の湿疹･皮膚炎･耳鼻咽喉科領域における術後処置	1～数回点眼･塗布/日
フルメトロン <フルオロメトロン> (参天)		0.1%液(5mL) ¥337/本	外眼部,前眼部の炎症性疾患	2～4回点眼/日
プレドニン <プレドニゾロン> (ｼｵﾉｷﾞ)		眼軟膏(5g) ¥259/本	外眼部･前眼部の炎症性疾患(眼瞼炎,結膜炎,角膜炎,強膜炎,上強膜炎,前眼部ﾌﾞﾄﾞｳ膜炎,術後炎症)	1～数回塗布
リンデロン <ベタメタゾン> (ｼｵﾉｷﾞ)		0.1%液(5mL)点眼点耳用 ¥363/本	外眼部･前眼部の炎症性疾患, 外耳･中耳(耳管含む),上気道の炎症･ｱﾚﾙｷﾞｰ性疾患,術後処置	3～4回点眼/日, 1～数回点耳･点鼻･耳浴/日,ﾈﾌﾞﾗｲｻﾞｰ,ﾀﾝﾎﾟﾝ

1．眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド抗炎症薬				
ジクロード ＜ジクロフェナク＞ （わかもと）		0.1%液(5mL) ¥433.5/本	白内障手術時の術後の炎症症状,術中・術後合併症	眼手術前4回(3時間前,2時間前,1時間前,30分前),眼手術後3回点眼
ネバナック ＜ネパフェナク＞ （日本ｱﾙｺﾝ）		0.1%液(5mL) ¥956.5/本	内眼部手術における術後炎症	眼手術前日より1滴/回,3回/日点眼 眼手術当日は術前3回,術後1回点眼
ブロナック ＜ブロムフェナク＞ （千寿）		0.1%液(5mL) ¥554.5/本	外眼部・前眼部の炎症性疾患の対症療法(眼瞼炎,結膜炎,強膜炎(上強膜炎を含む),術後炎症	2回点眼/日
■抗アレルギー薬				
パタノール ＜オロパタジン＞ （協和発酵ｷﾘﾝ）		0.1%液(5mL) ¥987.5/本	ｱﾚﾙｷﾞｰ性結膜炎	4回点眼/日
リザベン ＜トラニラスト＞ （ｷｯｾｲ）		0.5%液(5mL) ¥687.3/本		
リボスチン ＜レボカバスチン＞ （参天）		0.025%液(5mL) ¥708.5/本		

1．眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■手術用・検査用薬				
アイリーア <アフリベルセプト> （参天）		2mg/0.05mL/瓶 ¥163840/瓶	①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症 ②網膜中心静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ③病的近視における脈絡膜新生血管 ④糖尿病黄斑浮腫	①2mg(0.05mL)/回,硝子体内投与 導入期:1ヵ月毎に連続3ヵ月間 維持期:2ヵ月毎に1回 1ヵ月以上間隔をあけて ②③2mg(0.05mL)/回,硝子体内投与 1ヵ月以上間隔をあけて ④2mg(0.05mL)/回,硝子体内投与 導入期:1ヵ月毎に連続5回 維持期:2ヵ月毎に1回 1ヵ月以上間隔をあけて
オペガン <ヒアルロン酸ナトリウム> （参天）		1%液(1.1mL) ¥8142.5/筒	①白内障手術・眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術を連続施行時 ②白内障手術 ③眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.4～1.0mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ②0.1～0.6mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ④0.1～0.5mL前房内注入,提供眼の移植片角膜ｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL
オペガンハイ <ヒアルロン酸ナトリウム> （参天）		1%液(0.85mL) ¥7090/筒		①0.2～0.75mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ②0.1～0.4mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ④0.1～0.6mL前房内注入,提供眼の移植片角膜ｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL
オペガードネオキット <オキシグルタチオン> （大塚）		液(500mL/袋) 【用時購入】 ¥4294.9/袋	手術(白内障,硝子体,緑内障)時の眼灌流・洗浄	用時,ｵｷｼｸﾞﾙﾀﾁｵﾝ液と希釈液を混合し用いる。用量は症例により一定でない。
オペリード <ヒアルロン酸ナトリウム> （千寿）		1%液(1.1mL) ¥7090/筒	①白内障手術・眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.4～1.0mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ②0.1～0.6mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ④0.1～0.5mL前房内注入,提供眼の移植片角膜ｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL
スコピゾル１５ <配合剤> （千寿）		液 (15mL/本) ¥1500/本	眼科診断の際・光凝固手術時,特殊ｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞ類の角膜装着を容易・密にする	ﾚﾝｽﾞ凹面1～2滴滴下し角膜に装着
ディスコビスク <ヒアルロン酸ナトリウム, コンドロイチン硫酸ナトリウム> （日本ｱﾙｺﾝ）		1mL/筒 ¥10399.4/筒	水晶体再建術の手術補助	白内障摘出時・眼内ﾚﾝｽﾞ挿入時:0.1～0.4mL前房内注入 眼内ﾚﾝｽﾞｺｰﾃｨﾝｸﾞ:約0.1mL
ビーエスエスプラス <オキシグルタチオン> （参天）		液(500mL) ¥4049.6/本	手術(白内障,硝子体,緑内障)時の眼灌流・洗浄	【症例により一定でない】
ビスコート <ヒアルロン酸ナトリウム, コンドロイチン硫酸ナトリウム> （日本ｱﾙｺﾝ）		0.5mL/筒 ¥6078.3/筒	①超音波乳化吸引法による白内障摘出術 ②眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術	①0.1～0.4mL前房内注入 ②0.1～0.3mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL
ビスダイン <ベルテポルフィン> （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）		15mg/瓶 ¥187663/瓶	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	6mg/㎡(体表面積)を静注し,投与開始から15分後にﾚｰｻﾞｰ光を治療ｽﾎﾟｯﾄに照射

1．眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ヒーロン <ヒアルロン酸ナトリウム> (ﾌｧｲｻﾞｰ)		1%液(0.4mL) ¥5996.1/筒	①白内障手術･眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.2～0.75mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ②0.1～0.4mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ④0.1～0.6mL前房内注入,提供眼の移植片角膜ｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL
ヒーロンV <ヒアルロン酸ナトリウム> (ﾌｧｲｻﾞｰ)		2.3%液(0.6mL) ¥10001.9/本	①白内障手術･眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内ﾚﾝｽﾞ挿入術	①0.3～0.6mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL ②0.1～0.3mL前房内注入 ③0.1～0.4mL前房内注入,眼内ﾚﾝｽﾞのｺｰﾃｨﾝｸﾞ約0.1mL
マキュエイド <トリアムシノロンアセトニド> (わかもと)		40mg/瓶 ¥8296/瓶	①硝子体手術時の硝子体可視化 ②糖尿病黄斑浮腫	①0.5～4mg硝子体内注入 ②4mg硝子体内注入
マクジェン <ペガプタニブナトリウム> (ﾌｧｲｻﾞｰ)		0.3mg(90μL)/筒 ¥126984/筒	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	0.3mg/回を6週間毎に硝子体内投与
ルセンティス <ラニビズマブ> (ﾉﾊﾞﾙﾃﾞｨｽ)		0.5mg/0.05mL/筒 ¥181270/筒	①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症 ②網脈静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ③病的近視における脈絡膜新生血管 ④糖尿病黄斑浮腫	①<導入期>0.5mg(0.05mL)/回,1ヵ月毎に連続3ヵ月間硝子体内投与 　<維持期>0.5mg(0.05mL)/回,1ヵ月以上の間隔で適宜調節 ②③④0.5mg(0.05mL)/回,1ヵ月以上の間で硝子体内投与

■表面麻酔薬

ベノキシール <オキシブプロカイン> (参天)		0.4%点眼液(10mL) ¥134/本	表面麻酔	1～4滴点眼/日

■その他

アダプチノール <ヘレニエン> (ﾊﾞｲｴﾙ)	5mg/錠 【院外のみ】 ¥45.9/錠		網膜色素変性症における一時的な視野･暗順応の改善	10～20mg分2～4
サンコバ <シアノコバラミン> (参天)		0.02%液(5mL) ¥92/本	調節性眼精疲労における微動調節の改善	3～5回点眼/日
ＰＡ・ヨード <ヨウ素，ポリビニルアルコール> (日本点眼薬研究所)		点眼･洗眼液0.2%液(20mL) ¥442/瓶	角膜ﾍﾙﾍﾟｽ,洗眼殺菌	原液(有効ﾖｳ素濃度0.2%)を通常,精製水又は0.9%食塩水で4～8倍に希釈して用いる

2．抗生物質・抗菌剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エコリシン <コリスチン・エリスロマイシン> （参天）		眼軟膏(3.5g) ¥160.3/本	眼瞼炎,涙嚢炎,麦粒腫,結膜炎,角膜炎（角膜潰瘍を含む）	数回塗布
ガチフロ <ガチフロキサシン> （千寿）		0.3%液(5mL) ¥645/本	眼瞼炎,涙嚢炎,麦粒腫,結膜炎,瞼板腺炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),眼科周術期の無菌化療法	3回点眼/日 手術前5回点眼
クラビット <レボフロキサシン> （参天）		1.5%液(5mL) ¥580/本	眼瞼炎,涙嚢炎,麦粒腫,結膜炎,瞼板腺炎,角膜炎（角膜潰瘍を含む）,眼科周術期の無菌化療法	3回点眼/日
タリビッド <オフロキサシン> （参天）		眼軟膏(3.5g) ¥418.95/本	眼瞼炎,麦粒腫,涙のう炎,結膜炎,瞼板腺炎,角膜炎,角膜潰瘍,術後感染症	3回塗布
トスフロ <トスフロキサシン> （日東ﾒﾃﾞｨｯｸ）		0.3%液(5mL) ¥760.5/本	眼瞼炎,涙嚢炎,麦粒腫,結膜炎,瞼板腺炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),眼科周術期の無菌化療法	3回点眼/日
ベガモックス <モキシフロキサシン> （日本ｱﾙｺﾝ）		0.5%液(5mL) ¥652.5/本	眼瞼炎,涙嚢炎,麦粒腫,結膜炎,瞼板腺炎,角膜炎（角膜潰瘍を含む）,眼科周術期の無菌化療法	3回点眼/日 手術前5回点眼/日,術後3回点眼/日
ベストロン <セフメノキシム> （千寿）		0.5%液(5mL) ¥280/本		4回点眼/日

３．抗ウイルス剤

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ゾビラックス ＜アシクロビル＞ （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）		眼軟膏（5g） ¥2930.5/本	単純ﾍﾙﾍﾟｽに起因する角膜炎	5回塗布

４．抗真菌剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ジフルカン ＜フルコナゾール＞		0.2%液(5mL) 【院内製剤】	真菌性角膜炎	6回点眼/日
ピマリシン ＜ピマリシン＞ （千寿）		眼軟膏(5g) ¥3053/本	角膜真菌症	4～5回/日塗布
		5%点眼液(5mL) ¥3170/本		1～2滴/回,6～8回/日
フロリード ＜ミコナゾール＞		0.1%液(5mL) 【院内製剤】	真菌性角膜炎	6回点眼/日

１．耳鼻用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鎮暈薬				
イソバイド ＜イソソルビド＞ （興和創薬）	70%液20mL/包 ¥112.2/包		①ﾒﾆｴｰﾙ病 ②脳腫瘍,頭部外傷時の脳圧亢進,腎･尿管結石(利尿),緑内障(眼圧降下)	①90～120mL(1.5～2.0mL/kg)分3 ②70～140mL分2～3
	70%液30mL/包 ¥167.3/包			
セファドール ＜ジフェニドール＞ （日本新薬）	25mg/錠 ¥13.3/錠		内耳障害に基づくめまい	3～6錠分3
トラベルミン ＜ジフェンヒドラミン（４０ｍｇ）ジプロフィリン（２６ｍｇ）＞ （ｴｰｻﾞｲ）	錠 ¥5.9/錠		動揺病,ﾒﾆｴｰﾙ症候群に伴う悪心･嘔吐･めまい	1回1錠,1日3～4回
ベタヒスチン ＜ベタヒスチン＞ （東和薬品）	6mg/錠 ¥6/錠		ﾒﾆｴｰﾙ病,ﾒﾆｴｰﾙ症候群,眩暈症	3～6錠分3
■耳鳴緩和剤				
ストミンＡ ＜ニコチン酸アミド,塩酸パパベリン＞ （ｿﾞﾝﾈﾎﾞｰﾄﾞ）	錠 【用時購入】 ¥5.6/錠		内耳及び中枢障害による耳鳴	6錠分3
■外用薬 ＜ステロイド系抗炎症薬＞				
ネオメドロールＥＥ ＜配合剤：メチルプレドニゾロン・フラジオマイシン＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）		軟膏(3g) ¥158.1/本	外耳の湿疹･皮膚炎･術後処置,外眼部･前眼部の細菌感染症	1～数回点眼/日,塗布
リンデロン ＜ベタメタゾン＞ （ｼｵﾉｷﾞ）		0.1%液(5mL)点眼点耳用 ¥363/本	①外眼部･前眼部の炎症性疾患 ②外耳･中耳(耳管含む),上気道の炎症･ｱﾚﾙｷﾞｰ性疾患,術後処置	①3～4回点眼/日 ②1～数回点耳･点鼻･耳浴/日,ﾈﾌﾞﾗｲｻﾞｰ,ﾀﾝﾎﾟﾝ
■外用薬 ＜点耳用＞				
タリビッド ＜オフロキサシン＞ （第一三共）		0.3%液(5mL)耳科用 ¥586.5/本	外耳炎,中耳炎	6～10滴/回,2回/日点耳 点耳後約10分間耳浴
ベストロン ＜セフメノキシム＞ （あすか）		1%液(50mL)耳鼻科用 ¥4645/本		

1．耳鼻用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■外用薬 ＜点鼻用＞				
アラミスト ＜フルチカゾン＞ (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		点鼻液(27.5μg/噴霧,56回分) ¥2039.9/瓶	ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎	1日1回両鼻腔に各2噴霧 <小児>1日1回両鼻腔に各1噴霧
エリザス ＜デキサメタゾン＞ (日本新薬)		点鼻粉末(200μg/噴霧,28回分) ¥1789.5/瓶		1日1回両鼻腔に各1噴霧
ナゾネックス ＜モメタゾン＞ (MSD)		点鼻液(5mg/10g/瓶,56回分) ¥1928.2/瓶		1日1回両鼻腔に各2噴霧 <小児> 12歳未満には1日1回両鼻腔に各1噴霧 12歳以上には1日1回両鼻腔に各2噴霧
プリビナ耳科用 ＜ナファゾリン＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)		0.05%液(5mL) ¥22.5/本	①上気道の諸疾患の充血･うっ血 ②上気道粘膜の表面麻酔時	①鼻腔内2～4滴/回,咽頭･喉頭1～2mL/回,数回/日,塗布･噴霧 ②局麻剤1mLあたり2～4滴添加
リノコート ＜ベクロメタゾン＞ (帝人)		ﾊﾟｳﾀﾞｰｽﾌﾟﾚｰ(1.5mg,60回分) 【用時購入】 ¥1127.1/本	ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎,血管運動性鼻炎	1日2回両鼻腔に各1噴霧吸入

２．口腔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■含嗽薬				
アズノール ＜アズレン＞ （日本新薬）		液(5mL) ¥234/本	咽頭炎,扁桃炎,口内炎,急性歯肉炎,舌炎,口腔創傷	1回押し切り分、又は5～7滴/回,数回/日,約100mLに溶解後含嗽
イソジンガーグル ＜ポビドンヨード＞ （明治）		液(30mL) ¥99/本	咽頭炎,扁桃炎,口内炎,抜歯創を含む口腔創傷の感染予防,口腔内の消毒	15～30倍に希釈し1日数回含嗽
■口腔用薬				
アフタシールＳ ＜トリアムシノロンアセトニド＞ （大正富山）		0.025mg/枚(付着ﾌｨﾙﾑ) ¥41.5/枚	ｱﾌﾀ性口内炎	1患部に1枚/回,1～2回/日
オラドール ＜ドミフエン＞ （大洋薬品）	0.5mg/錠 ¥5.8/錠		咽頭炎,扁桃炎,口内炎,抜歯創を含む口腔創傷感染予防	0.5mg/回,3～6回/日, 口中で溶解
ケナログ ＜トリアムシノロンアセトニド＞ （ﾌﾞﾘｽﾄﾙ）		軟膏(5g) ¥348/本	慢性剥離性歯肉炎,糜爛･潰瘍を伴う難治性口内炎,舌炎	1～数回患部に塗布
サラジェン ＜ピロカルピン＞ （ｷｯｾｲ）	5mg/錠 ¥133.7/錠		①頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善 ②ｼｪｰｸﾞﾚﾝ症候群患者の口腔乾燥症状の改善	15mg分3
サリベート ＜人工唾液＞ （帝人）		50g/本 ¥641.2/本	ｼｪｰｸﾞﾚﾝ症候群による口腔乾燥症,頭頸部の放射線照射による唾液腺障害に基づく口腔乾燥症	1～2秒間噴霧/回,4～5回/日 口腔内噴霧
デキサルチン ＜デキサメタゾン＞ （日本化薬）		軟膏(5g) ¥299/本	糜爛･潰瘍を伴う難治性口内炎,舌炎	1～数回患部に塗布

1．肛門用薬・泌尿器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■痔疾用剤				
ネリプロクト <ジフルコルトロン：リドカイン（0．2mg：40mg）> (ﾊﾞｲｴﾙ)		坐剤 ¥39.5/個	痔核の症状の緩解	2個分2肛門内挿入
		軟膏(2g) ¥71.2/本		1日2回適量を肛門内に注入
強力ポステリザン <大腸菌死菌浮遊液・ヒドロコルチゾン> (ﾏﾙﾎ)		軟膏(2g) ¥50.2/本	内痔核,肛門周囲の湿疹･皮膚炎,軽度な直腸炎の症状の緩解	1日1～3回適量を患部に塗布,注入
■泌尿器官用薬 ◆植物・アミノ酸製剤				
ウロカルン <ウラジロガシ> (日本新薬)	225mg/錠 ¥9.6/錠		腎結石･尿管結石の排出促進	1350mg分3
エビプロスタット配合錠DB <配合剤：オオウメガサソウエキス,ハコヤナギエキス,セイヨウオキナグサエキス,スギナエキス,コムギ胚芽油> (日本新薬)	錠 ¥46.1/錠		前立腺肥大に伴う排尿障害,残尿(感),頻尿	3錠分3
■泌尿器官用薬 ◆α１遮断薬				
エブランチル <ウラピジル> (科研)	15mg/C ¥18.2/C		①前立腺肥大症に伴う排尿障害 ②神経因性膀胱に伴う排尿困難	①30mg～(90mg)分2 ②30mg～60mg分2【Max:90mg】
タムスロシンＯＤ <タムスロシン> (東和薬品)	0.2mg/錠 ¥72.0/錠		前立腺肥大症に伴う排尿障害	0.2mg分1
フリバスＯＤ <ナフトピジル> (旭化成)	50mg/錠 ¥99.2/錠			50～75mg分1
ユリーフ <シロドシン> (第一三共)	4mg/錠 ¥81.3/錠			8mg分2
■泌尿器官用薬 ◆ホスホジエステラーゼ５阻害薬				
ザルティア <タダラフィル> (日本ｲｰﾗｲﾘｰ)	5mg/錠 ¥230.6/錠		前立腺肥大症に伴う排尿障害	5mg分1

1．肛門用薬・泌尿器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■泌尿器官用薬 ◆頻尿治療薬				
ネオキシテープ ＜オキシブチニン＞ （久光製薬）		73.5mg/枚（6cm×6cm） ¥194.8/枚	過活動膀胱における尿意切迫感,頻尿及び切迫性尿失禁	1枚/日，下腹部･腰部又は大腿部に貼付
バップフォー ＜プロピベリン＞ （大鵬）	20mg/錠 ¥122.5/錠		神経因性膀胱,神経性頻尿,不安定膀胱,膀胱刺激状態における頻尿,尿失禁 過活動膀胱における尿意切迫感,頻尿及び切迫性尿失禁	20mg分1 【Max:40mg】
ブラダロン ＜フラボキサート＞ （日本新薬）	200mg/錠 ¥46/錠		神経性頻尿,慢性前立腺炎,慢性膀胱炎に伴う頻尿･残尿感	600mg分3
ベシケアＯＤ ＜ソリフェナシン＞ （ｱｽﾃﾗｽ）	5mg/錠 ¥194.8/錠		過活動膀胱における尿意切迫感,頻尿及び切迫性尿失禁	5mg分1 【Max:10mg】
■泌尿器官用薬 ◆その他				
ウブレチド ＜ジスチグミン＞ （鳥居）	5mg/錠 ¥20.7/錠		①手術後及び神経因性膀胱などの低緊張性膀胱による排尿困難 ②重症筋無力症	①5mg/日 ②5～20mg分1～4
■勃起不全治療薬				
バイアグラ ＜シルデナフィル＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）	25mg/錠 【院外のみ】 ¥1100/錠		勃起不全	25mg～50mg分1
	50mg/錠 【院外のみ】 ¥1300/錠			
■その他				
ウロマチックＳ ＜Ｄ－ソルビトール＞ （ﾊﾞｸｽﾀｰ）		3%3L液/袋 ¥1122.5/袋	前立腺･膀胱疾患の経尿道的手術時,その他の泌尿器科手術時･術後の洗浄	1000～15000mL

２．生殖器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■生殖器官用薬				
エストリール ＜エストリオール＞ （持田）		0.5mg膣錠 ¥20.3/錠	膣炎(老人,小児,非特異性),子宮頸管炎,子宮膣部びらん	0.5～1mg分1膣内挿入
オキナゾール ＜オキシコナゾール＞ （田辺三菱）		600mg膣錠 ¥331.5/錠	ｶﾝｼﾞﾀﾞに起因する膣炎･外陰膣炎	1錠(600mg)週1回,膣内挿入
フラジール ＜メトロニダゾール＞ （ｼｵﾉｷﾞ）		250mg膣錠 ¥38.3/錠	①ﾄﾘｺﾓﾅｽ膣炎 ②細菌性膣症	①1日1回250mg,10～14日間膣内挿入 ②1日1回250mg,7～10日間膣内挿入
■子宮収縮剤				
エルゴメトリンＦ ＜エルゴメトリン＞ （富士製薬）		0.2mg/管(1mL) ¥92/管	①子宮収縮の促進,子宮出血の予防･治療,帝王切開術,弛緩出血【緊急時,他療法が無効の場合に使用】 ②【適応外】冠攣縮の誘発	①0.2mg/回,皮下,筋注,静注 ②【DI照会参照】
メチルエルゴメトリン ＜メチルエルゴメトリン＞ （あすか）	0.125mg/錠 ¥9.9/錠		子宮収縮の促進,子宮出血の予防･治療	0.25～1.0mg分2～4
■切迫早産治療薬				
ウテメリン ＜リトドリン＞ （ｷｯｾｲ）	5mg/錠 ¥115.1/錠		切迫早産	15mg分3
マグセント ＜硫酸マグネシウム,ブドウ糖＞ （東亜薬品）		各10g/100mL/本 ¥2246/本	切迫早産における子宮収縮の抑制,重症妊娠高血圧症候群における子癇の発症抑制及び治療	初回量40mLを20分以上かけて静注後10mL/hrで持続静注 【Max：20mL/hr】
リトドリン ＜リトドリン＞ （日医工）		50mg/管(5mL) ¥221/管	緊急に治療を必要とする切迫流･早産	50～150μg/min,点静 【Max:200μg/min】

２．生殖器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロラクチン分泌抑制薬				
カバサール ＜カベルゴリン＞ (ﾌｧｲｻﾞｰ)	0.25mg/錠 【院外のみ】 ¥80.9/錠		①乳汁漏出症,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性排卵障害,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ②産褥性乳汁分泌抑制	①初回0.25mg/分1就寝前/週1回,漸増投与,維持量0.25mg～0.75mg【Max:1.0mg】 ②1.0mg/1回のみ,胎児娩出後,食後投与
	1.0mg/錠 ¥270.9/錠			
パーロデル ＜ブロモクリプチン＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	2.5mg/錠 ¥109.5/錠		①産褥性乳汁分泌抑制,乳汁漏出症,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性排卵障害,高ﾌﾟﾛﾗｸﾁﾝ血性下垂体腺腫(外科処置不必要な場合のみ) ②末端肥大症,下垂体性巨人症 ③ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ症候群	①5.0～7.5mg分2～3 ②2.5～7.5mg分2～3 ③7.5～22.5mg分2～3漸増投与

1．皮膚科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫抑制剤				
ネオーラル ＜シクロスポリン＞ (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)	25mg/C ¥252.2/C		①尋常性乾癬,膿疱性乾癬,乾癬性紅皮症,関節症性乾癬 ②ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎	①5mg/kg/日分2,以後1ヵ月毎に1mg/kg/日減量 維持量3mg/kg/日 ②3mg/kg/日分2【Max:5mg/kg/日】
■その他				
チガソン ＜エトレチナート＞ (中外)	10mg/C 【院外のみ】 ¥245.6/C		難治性皮膚疾患,口腔乳頭腫･口腔扁平苔癬	【同意書要】 導入:40～50mg分2～3を2～4週間 【Max:75mg/日】 ＜小児＞1mg/kg分1～3 維持量:10～30mg分1～3 ＜小児＞0.6～0.8mg/kg分1～3
プロペシア ＜フィナステリド＞ (MSD)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥250/錠		男性における男性型脱毛症の進行遅延	0.2mg分1【Max:1mg】

２．外皮用薬［褥瘡・潰瘍治療剤］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アクトシン ＜ブクラデシンナトリウム＞ （マルホ）		軟膏(30g) ¥1521/本	褥瘡,皮膚潰瘍	1～2回貼布,塗布
アズノール ＜アズレン＞ （日本新薬）		0.033%軟膏(500g) ¥2.95/g	湿疹,熱傷,びらん・潰瘍	数回塗布
フィブラストスプレー ＜トラフェルミン（遺伝子組み換え）＞ （科研）		500μg/瓶(溶解液5mL付) ¥11108/瓶	褥瘡,皮膚潰瘍	1Vを添付溶解液に溶かし潰瘍面から約5cm離して5噴霧
プロスタンディン ＜アルプロスタジル＞ （小野薬品）		軟膏(10g) ¥543/本		2回貼付,塗布
ユーパスタ ＜ポビドンヨード，白糖＞ （興和創薬）		軟膏(100gﾁｭｰﾌﾞ) ¥3930/本		1～2回貼付,塗布

３．外皮用薬［乾癬・皮膚軟化・腐蝕用］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ウレパール ＜尿素＞ （大塚）		10%ｸﾘｰﾑ(20g) ¥142/本	ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚,老人性乾皮症	2～3回塗布
オキサロール ＜マキサカルシトール＞ （ﾏﾙﾎ）		軟膏(10g) ¥1232/本	尋常性乾癬,魚鱗癬,掌蹠角化症,掌蹠膿疱症	1日2回塗布 【Max:10g/日】
		ﾛｰｼｮﾝ(10g) 【院外のみ】 ¥1232/本		1日2回塗擦 【Max:10g/日】
ケラチナミン ＜尿素＞ （興和創薬）		20%軟膏(25g) ¥182.5/本	魚鱗癬,老人性乾皮症,ｱﾄﾋﾟｰ皮膚,進行性指掌角皮症(主婦湿疹の乾燥型),足蹠部皸裂性皮膚炎,掌蹠角化症,毛孔性苔蹠	1～数回塗擦
サリチル酸ワセリン ＜サリチル酸＞ （東豊）		軟膏(10%,500g) ¥2.58/ｇ	乾癬,白癬(頭部浅在性白癬,小水疱性斑状白癬,汗疱状白癬,頑癬),瘢風,紅色粃糠疹,紅色陰癬,角化症(尋常性魚鱗癬,先天性魚鱗癬,毛孔性苔癬,先天性手掌足底角化症(腫),ﾀﾞﾘｴｰ病,遠山連圏状粃糠疹)湿疹(角化を伴う),口囲皮膚炎,掌蹠膿疱症,ﾍﾌﾟﾗ氏粃糠疹,ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎,ざ瘡,せつ,腋臭症,多汗症,その他角化性の皮膚炎	1～2回塗布
硝酸銀 ＜硝酸銀＞ （ﾏｲﾗﾝ）		5%液 【院内製剤】	口内炎,潰瘍面の不良肉芽	用時適用
スピール膏Ｍ ＜サリチル酸＞ （ﾆﾁﾊﾞﾝ）		絆創膏 ¥88.5/枚	疣贅,鶏眼, 胼胝腫の角質剥離	患部に貼付
ドボネックス ＜カルシポトリオール＞ （鳥居）		軟膏(10g) ¥1382/本	尋常性乾癬	1日2回塗布 【Max:90g/週】
ドボベット ＜カルシポトリオール，ベタメタゾン＞ （協和発酵ｷﾘﾝ） 投与制限：14日△ （平成27年9月末まで）		軟膏(15g) 【院外のみ】 ¥4146/本		1日1回塗布 【Max:90g/週】

４．外皮用薬［鎮痛・鎮痒・収斂・消炎］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オイラックス <クロタミトン> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)		ｸﾘｰﾑ(500g) ¥4.31/ｇ	湿疹,じん麻疹,神経皮膚炎,皮膚掻痒症,小児ｽﾄﾛﾌﾙｽ	1日数回塗布,塗擦
カラミン <配合剤> (丸石)		ﾛｰｼｮﾝ ¥1.54/mL	湿疹･皮膚炎,汗疹,日焼け,第１度熱傷	1日数回塗布
グリメサゾン <デキサメタゾン，グリテール> (第一三共)		軟膏(5g) ¥208/本	湿疹･皮膚炎群(進行性指掌角皮症,ﾋﾞﾀﾞｰﾙ苔癬,放射線皮膚炎,日光皮膚炎を含む),皮膚掻痒症,尋常性乾癬,虫さされ	1日1～数回塗布,塗擦,貼付
サトウザルベ <亜鉛華軟膏> (佐藤)		10%軟膏(500g) ¥2.25/ｇ	皮膚疾患の収斂･消炎･保護･防腐	1日1～数回塗擦,貼付
フェノール亜鉛華リニメント(カチリ) <配合剤> (健栄)		ﾘﾆﾒﾝﾄ ¥1.71/ｇ	皮膚掻痒症,汗疹,蕁麻疹,小児ｽﾄﾛﾌﾙｽ,虫さされ	1日1～数回塗布
ボチシート <亜鉛華軟膏> (ﾃｲｺｸﾒﾃﾞｨｯｸｽ)		(30g/枚) ¥81/枚	皮膚疾患の収斂･消炎･保護･防腐	1日1～数回貼付
レスタミン <ジフェンヒドラミン> (興和創薬)		ｸﾘｰﾑ(1kg) ¥3.15/ｇ	蕁麻疹,湿疹,小児ｽﾄﾛﾌﾙｽ,皮膚掻痒症,虫さされ	数回患部に塗布

５．外皮用薬［副腎皮質ホルモン剤］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
【mild】				
アルメタ <アルクロメタゾン> (ｼｵﾉｷﾞ)		軟膏(5g) ¥196.5/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,虫ささされ,乾癬,掌蹠膿胞症,薬疹・中毒疹,慢性円板状ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,その他	【DI照会参照】
キンダベート <クロベタゾン> (ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ)		軟膏(5g) ¥172/本	湿疹・皮膚炎群	
リドメックス <プレドニゾロン> (興和創薬)		軟膏(5g) ¥115/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,虫ささされ,乾癬,掌蹠膿胞症	
		ﾛｰｼｮﾝ(10g) ¥230/本		
ロコイド <ヒドロコルチゾン> (鳥居)		ｸﾘｰﾑ(5g) ¥82.5/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,乾癬,掌蹠膿胞症	
【strong】				
ドレニゾン <フルドロキシコルチド> (大日本住友)		ﾃｰﾌﾟ(7.5cm×10cm/枚) ¥83.9/枚	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,乾癬,掌蹠膿胞症,慢性円板状ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,皮膚ｱﾐﾛｲﾄﾞｰｼｽ,その他	【DI照会参照】
プロパデルム <ベクロメタゾン> (協和発酵ｷﾘﾝ)		軟膏(5g) 【院外のみ】 ¥83.5/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,虫ささされ,乾癬,掌蹠膿胞症,慢性円板状ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,その他	
リンデロンＶ <ベタメタゾン> (ｼｵﾉｷﾞ)		軟膏(5g) ¥145.5/本	湿疹・皮膚炎群,乾癬,掌蹠膿胞症,その他	
リンデロンＶＧ <ベタメタゾン，ゲンタマイシン> (ｼｵﾉｷﾞ)		ﾛｰｼｮﾝ(10mL) ¥292/本		

５．外皮用薬［副腎皮質ホルモン剤］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
【very strong】				
アンテベート <ベタメタゾン> （鳥居）		ｸﾘｰﾑ(5g) ¥159.5/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,虫ささされ,乾癬,掌蹠膿胞症,薬疹・中毒疹,慢性円板状ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,皮膚ｱﾐﾛｲﾄﾞｰｼｽ,天疱瘡・類天然痘,その他	【DI照会参照】
		軟膏(5g) ¥159.5/本		
		ﾛｰｼｮﾝ(10g) ¥319/本		
トプシム <フルオシノニド> （田辺三菱）		ｸﾘｰﾑ(5g) 【院外のみ】 ¥127/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,乾癬,掌蹠膿胞症,その他	
ネリゾナ <ジフルコルトロン> （ﾊﾞｲｴﾙ）		ｿﾘｭｰｼｮﾝ(10mL) ¥299/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,乾癬,掌蹠膿胞症,慢性円板状ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,皮膚ｱﾐﾛｲﾄﾞｰｼｽ,その他	
		軟膏(5g) ¥149.5/本		
		ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙｸﾘｰﾑ(5g) ¥149.5/本		
マイザー <ジフルプレドナート> （田辺三菱）		ｸﾘｰﾑ(5g) ¥112.5/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,虫ささされ,乾癬,掌蹠膿胞症,薬疹・中毒疹,慢性円板状ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,皮膚ｱﾐﾛｲﾄﾞｰｼｽ,その他	
		軟膏(5g) ¥112.5/本		
【strongest】				
デルモベート <クロベタゾール> （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）		ｽｶﾙﾌﾟ(10g) 【院外のみ】 ¥356/本	湿疹・皮膚炎群,乾癬	【DI照会参照】
		軟膏(5g) ¥155.5/本	湿疹・皮膚炎群,痒疹群,虫ささされ,乾癬,掌蹠膿胞症,薬疹・中毒疹,慢性円板状ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ,皮膚ｱﾐﾛｲﾄﾞｰｼｽ,天疱瘡・類天然痘,その他	

６．外皮用薬［化膿性疾患用剤］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■細菌性				
アクアチム <ナジフロキサシン> （大塚）		ｸﾘｰﾑ(10g) ¥411/本	①表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, ②ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）	①1日2回塗布 ②1日2回洗顔後塗布
		軟膏(10g) ¥411/本	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症	1日2回塗布
クロマイＰ <配合剤：プレドニゾロン・クロラムフェニコール・フラジオマイシン> （第一三共）		軟膏(25g) ¥945/本	湿疹･糜爛･結痂,二次感染を伴う湿疹･皮膚炎群,熱傷	1日1～数回塗布,塗擦
ゲーベン <スルファジアジン銀> （田辺三菱）		ｸﾘｰﾑ(100g) ¥13.2/ｇ	熱傷,皮膚潰瘍	1日1回塗布,貼付
ソフラチュール <フラジオマイシン> （ｻﾉﾌｨ）		ｶﾞｰｾﾞ(10×10cm/枚) ¥58.6/枚	外傷･熱傷･その他の二次感染	1～数枚貼付
バラマイシン <バシトラシン，フラジオマイシン> （小野薬品）		軟膏(10g) ¥73/本	膿痂疹,毛のう炎,尋常性毛瘡，せつ,よう,その他の膿皮症,外傷･熱傷･その他の疾患によるびらん･潰瘍及び術後の二次感染,感染予防,腋臭症	1日1～数回塗布,貼付
フシジンレオ <フシジン酸ナトリウム> （第一三共）		軟膏(10g) ¥184/本	膿皮症,外傷･熱傷･縫合創･植皮創における二次感染	1日数回適量を患部に塗布,貼付
ロゼックスゲル <メトロニダゾール> （ｶﾞﾙﾃﾞﾙﾏ） 投与制限：14日△ （平成28年2月末まで）		ｹﾞﾙ0.75%(50g) ¥5070/本	がん性皮膚潰瘍部位の殺菌･臭気の軽減	1日1～2回潰瘍面を清拭後塗布
■ウイルス性				
アラセナＡ <ビダラビン> （持田）		軟膏(5g) ¥1627/本	帯状疱疹,単純疱疹	1日1～4回塗布,貼付
ベセルナ <イミキモド> （持田）		ｸﾘｰﾑ(250mg/包) ¥1168.5/包	①尖圭ｺﾝｼﾞﾛｰﾏ（外性器又は肛門周囲に限る） ②日光角化症（顔面又は禿頭部に限る）	適量を1日1回,週3回,就寝前に塗布 塗布後はそのままの状態を保ち,起床後に塗布した薬剤を石鹸を用い,水又は温水で洗い流す ①疣贅部位に塗布 ②治療部位に塗布,4週間塗布後4週間休薬し,効果不十分の場合はさらに4週間塗布

7．外皮用薬［寄生性皮膚疾患用薬］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
【白癬用】				
サリチル酸ワセリン <サリチル酸> (東豊)		軟膏(10%,500g) ¥2.58/g	白癬(頭部浅在性白癬,小水疱性斑状白癬,汗疱状白癬,頑癬),癜風	1～2回塗布
【白癬・カンジダ用】 イミダゾール系				
アスタット <ラノコナゾール> (ﾏﾙﾎ)		軟膏(1%,10g) ¥413/本	足部白癬,股部白癬,体部白癬,癜風,間擦疹・指間びらん症,爪囲炎	1日1回
ニゾラール <ケトコナゾール> (ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ)		ｸﾘｰﾑ(2%,10g) ¥406/本	足部白癬,股部白癬,体部白癬,癜風,間擦疹・指間びらん症,乳児寄生菌性紅斑,脂漏性皮膚炎	
		ﾛｰｼｮﾝ(2%,10g) ¥406/本	足部白癬,股部白癬,体部白癬,癜風,間擦疹・指間びらん症,乳児寄生菌性紅斑	
ルリコン <ルリコナゾール> (ﾎﾟｰﾗﾌｧﾙﾏ)		液(1%,10mL) ¥549/本	足部白癬,股部白癬,体部白癬,癜風,皮膚ｶﾝｼﾞﾀﾞ症,間擦疹・指間びらん症	
		ｸﾘｰﾑ(1%,10g) ¥549/本		
クレナフィン <エフィナコナゾール> (科研)		爪外用液(10%,3.56g(4mL)) ¥5900.7/本	爪白癬	1日1回罹患爪全体に塗布
【白癬・カンジダ用】 その他				
ゼフナート <リラナフタート> (鳥居)		ｸﾘｰﾑ(2%,10g) ¥506/本	足白癬,体部白癬,股部白癬	1日1回
ペキロン <アモロルフィン> (杏林)		ｸﾘｰﾑ(0.5%,10g) 【院外のみ】 ¥383/本	足部白癬,股部白癬,手部白癬,体部白癬,癜風,皮膚ｶﾝｼﾞﾀﾞ症,間擦疹・指間びらん症,乳児寄生菌性紅斑,爪囲炎	
ラミシール <テルビナフィン> (ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ)		ｸﾘｰﾑ(1%,10g) ¥393/本	足部白癬,股部白癬,体部白癬,癜風,皮膚ｶﾝｼﾞﾀﾞ症,間擦疹・指間びらん症,乳児寄生菌性紅斑	

８．外皮用薬［その他］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アトピー性皮膚炎治療剤				
プロトピック小児用 ＜タクロリムス＞ （ｱｽﾃﾗｽ）		軟膏(0.03%,5g) 【院外のみ】 ¥701.5/本	ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎	1～2回塗布 【Max:5g/回】
プロトピック ＜タクロリムス＞ （ｱｽﾃﾗｽ）		軟膏(0.1%,5g) ¥627/本		
■その他				
イオウ・カンフルローション ＜イオウ・カンフル＞ （丸石）		液(100mL) ¥261/本	ざ瘡,酒さ	1日2回塗布 朝は上澄み液,夜は混濁液を使用
エキザルベ ＜ヒドロコルチゾン配合剤＞ （ﾏﾙﾎ）		0.25%軟膏(5g) ¥116/本	湿疹･皮膚炎群,熱傷,術創,湿疹様変化を伴う膿皮症	1～数回患部に塗布塗擦,貼付
		0.25%軟膏(100g) 【院外のみ】 ¥23.2/ｇ		
ザーネ ＜ビタミンＡ油＞ （ｴｰｻﾞｲ）		軟膏(0.5%,500g) ¥3.5/ｇ	角化性皮膚疾患	2～3回塗擦
ディフェリン ＜アダパレン＞ （塩野義）		ｹﾞﾙ(15g) 【院外のみ】 ¥1813.5/本	尋常性ざ瘡	1日1回洗顔後塗布
ヒルドイドソフト ＜ヘパリン類似物質＞ （ﾏﾙﾎ）		軟膏(25g) ¥632.5/本	皮脂欠乏症,進行性指掌角皮症,凍瘡,肥厚性瘢痕･ｹﾛｲﾄﾞ,血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患,血栓性静脈炎(痔核を含む),外傷後の腫脹･血腫･腱鞘炎･筋肉痛･関節炎,筋性斜頸	1～数回塗擦,貼付
ヒルドイドローション ＜ヘパリン類似物質＞ （ﾏﾙﾎ）		(25g) ¥632.5/本		
フロジン ＜カルプロニウム＞ （第一三共）		5%液（30mL） 【院外のみ】 ¥969/本	脱毛防止･発毛促進,乾性脂漏,尋常性白斑	2～3回塗布
ベピオ ＜過酸化ベンゾイル＞ （ﾏﾙﾎ） 投与制限：14日△ （平成28年2月末まで）		ｹﾞﾙ(15g) 【院外のみ】 ¥1813.5/本	尋常性ざ瘡	1日1回洗顔後塗布
ペルニオ軟膏 ＜配合剤＞		軟膏 【院内製剤】	凍瘡	塗布

９．外皮用薬［製剤原料］

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オリブ油 ＜オリブ油＞ （健栄）		(25mL) ¥2.75/mL	軟膏剤,硬膏剤,ﾘﾆﾒﾝﾄ剤などの基剤,皮膚粘膜の保護	乳剤,軟膏,基剤,また塗擦剤として脱脂綿,ｶﾞｰｾﾞ等に浸して用いる
親水軟膏 ＜親水軟膏＞ （健栄）		軟膏(500g) ¥2.34/ｇ	軟膏剤の基剤，皮膚の保護剤	
水酸化カリウム ＜水酸化カリウム＞ （ｴﾋﾞｽ）		5%液 【院内製剤】		
ソルベース ＜マクロゴール＞ （大日本住友）		(500g) ¥2.74/ｇ	皮膚疾患,とくに湿潤性皮膚疾患の外用軟膏基材	
白色ワセリン ＜白色ワセリン＞ （健栄）		(500g) ¥1.56/ｇ	軟膏剤の基剤，皮膚の保護剤	

１０．殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アルコール系				
エタノール ＜エタノール＞ （健栄）		95%液(500mL) ¥1.69/mL	【消毒剤指針参照のこと】	
消毒用エタプロコール ＜エタノール：７６．９～８１．４ｖｏｌ%，及び添加物としてイソプロパノール＞ （丸石）		76.9～81.4%液(500mL) ¥0.63/mL		
エレファコットンエコＥ ＜エタノール＞ （ﾊｸｿﾞｳ）		4cm×4cm100枚 ¥400/箱		
ハイポエタノール ＜チオ硫酸ナトリウム，ゲラニオール変性アルコール＞ （ｱﾄﾙﾌｧｰﾏ）		2%液(500mL) ¥0.72/mL		
無水エタノール ＜エタノール＞ （丸石）		99.5%液(500mL) ¥1.78/mL		
■アルデヒド系				
ディスオーパ ＜フタラール＞ （ｼﾞｮﾝｿﾝ･ｴﾝﾄﾞ･ｼﾞｮﾝｿﾝ）		0.55%液(3.8L) ¥8000/本	【消毒剤指針参照のこと】	
パラホルムアルデヒド ＜ホルムアルデヒド＞ （和光）		顆粒(くん蒸用) ¥2000/本		
ホルマリン ＜ホルムアルデヒド＞		5%ﾎﾙﾏﾘﾝｱﾙｺｰﾙ 【院内製剤】		
ホルマリン ＜ホルムアルデヒド＞ （健栄）		液(500mL) ¥0.92/mL		

１０．殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヨウ素系				
イソジン <ポビドンヨード> (明治)		10%液(250mL) ¥695/本	【消毒剤指針参照のこと】	
産婦人科用イソジン <ポビドンヨード> (明治)		ｸﾘｰﾑ(250g) ¥1595/本		
イソジン <ポビドンヨード> (明治)		10%ｹﾞﾙ(4g) ¥23.4/本		
		10%ｹﾞﾙ(90g) ¥526.5/本		
イソジンスクラブ <ポビドンヨード> (明治)		7.5%液(500mL) ¥1995/本		
希ヨードチンキ <ヨードチンキ，エタノール> (丸石)		ﾁﾝｷ(500mL) ¥1.42/mL		
複方ヨードグリセリン <ヨードグリセリン> (丸石)		液(500mL) ¥1.68/mL		
ヨードホルムガーゼ <ヨードホルム> (ﾊｸｿﾞｳ)		ｶﾞｰｾﾞ(30cm×8m) ¥8000/瓶		
■塩素系				
ニューアロマ <次亜塩素酸ナトリウム> (丹平)		5%液(1.8L) ¥390/本	【消毒剤指針参照のこと】	

１０．殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■陽性界面活性剤				
ウエルパス <ベンザルコニウム,エタノール> (丸石)		0.2%液(300mL) ¥1470/本	【消毒剤指針参照のこと】	
		0.2%液(1L) ¥4750/本		
ヂアミトール水 <ベンザルコニウム> (丸石)		0.025%液(500mL) ¥280/本		
		0.025%液(5L) ¥2800/本		
ヂアミトール <ベンザルコニウム> (丸石)		10%液(500mL) ¥320/本		
■両性界面活性剤				
エルエイジー１０ <アルキルジアミノエチルグリシン> (吉田)		10%液(500mL) ¥350/本	【消毒剤指針参照のこと】	
■ビグアナイド系				
ヒビスクラブ <クロルヘキシジン> (大日本住友)		4%液(500mL) ¥3600/本	【消毒剤指針参照のこと】	
ヒビスコール液Ａ(噴射ポンプ付) <クロルヘキシジン,エタノール> (ｻﾗﾔ)		0.2%,83%液(1L) ¥3350/本		
ヒビテン <クロルヘキシジン> (大日本住友)		5%液(500mL) ¥955/本		
ヒビテングルコネート <クロルヘキシジン> (大日本住友)		20%液(100mL) ¥496/本		
マスキンＲ・エタノール <クロルヘキシジン,エタノール> (丸石)		0.5%液(500mL) ¥315/本		
マスキン水 <クロルヘキシジン> (丸石)		0.05%液(500mL) ¥285/本		

１０．殺菌消毒薬

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■過酸化物系				
アセサイド ＜過酢酸＞ （ｵﾘﾝﾊﾟｽﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ）		第一液：750mL（6%過酢酸液），第二液：750mL（ｐH調整及び安定化） ¥13000/ｾｯﾄ	【消毒剤指針参照のこと】	
オキシフル ＜オキシドール＞ （第一三共）		液（500mL） ¥385/本		
■フェノール系				
液状フェノール ＜フェノール＞ （丸石）		液（500mL/本） ¥650/瓶	【消毒剤指針参照のこと】	
■色素系				
アクリノール ＜アクリノール＞ （健栄）		0.02%液（500mL） 【院内製剤】	【消毒剤指針参照のこと】	
		0.1%液（500mL） ¥345/本		
■石鹸				
カリ石鹸 ＜カリ石鹸＞ （ｴﾋﾞｽ）		10%液 【院内製剤】	【消毒剤指針参照のこと】	
■その他				
イオウ・サリチル酸・チアントール ＜イオウ配合剤＞ （丸石）		軟膏（500g） ¥6/g	【消毒剤指針参照のこと】	
スミスリン ＜フェノトリン＞ （大日本住友）		ﾊﾟｳﾀﾞｰ（30g）		
ＢＢオイラックス ＜クロタミトン，安息香酸＞		軟膏 【院内製剤】		
六一〇ハップ ＜イオウ配合剤＞ （武藤鉦）		液（440g）		

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Ｘ線造影剤 ◆イオン（ﾖｰﾄﾞ系）				
ウログラフィン６０％ <アミドトリゾ酸> （ﾊﾞｲｴﾙ）		20mL/管 ¥503/管	逆行性尿路撮影,内視鏡的逆行性膵胆管撮影,経皮経肝胆道撮影,関節撮影	【DI照会参照】
ビリスコピンＤＩＣ <イオトロクス酸メグルミン> （ﾊﾞｲｴﾙ）		100mL/瓶 ¥2488/瓶	胆のう・胆管撮影	1回100mL, 30～60分点滴静注

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Ｘ線造影剤 ◆非イオン（ﾖｰﾄﾞ系）				
イオパミロン３００ ＜イオパミドール＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）		20mL/瓶 ¥1919/瓶	脳血管撮影,大動脈撮影,選択的血管撮影,四肢血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による静脈性血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による動脈性血管撮影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における造影,静脈性尿路撮影,逆行性尿路撮影	【DI照会参照】
		50mL/瓶 ¥4040/瓶		
		100mL/瓶 ¥7679/瓶		
イオパミロン３００シリンジ ＜イオパミドール＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）		100mL/筒 ¥7916/筒		
イオパミロン３７０ ＜イオパミドール＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）		20mL/瓶 ¥2174/瓶	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む),大動脈撮影,選択的血管撮影,四肢血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による静脈性血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による動脈性血管撮影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における造影,静脈性尿路撮影	
		50mL/瓶 ¥4243/瓶		
		100mL/瓶 ¥7892/瓶		
イオパミロン３７０シリンジ ＜イオパミドール＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）		100mL/筒 ¥9109/筒		
イソビスト２４０ ＜イオトロラン＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）		10mL/瓶 ¥6413/瓶	脊髄撮影,脊髄撮影ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における脳室,脳槽,脊髄造影	
オイパロミン３００ ＜イオパミドール＞ （富士製薬）		20mL/瓶 ¥1121/瓶	脳血管撮影,大動脈撮影,選択的血管撮影,四肢血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による静脈性血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による動脈性血管撮影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における造影,静脈性尿路撮影,逆行性尿路撮影	
		50mL/瓶 ¥2350/瓶		
		100mL/瓶 ¥4562/瓶		
オイパロミン３００シリンジ ＜イオパミドール＞ （富士製薬）		50mL/筒 ¥3014/筒		
		80mL/筒 ¥4058/筒		
		100mL/筒 ¥4850/筒		

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オイパロミン３７０ <イオパミドール> （富士製薬）		20mL/瓶 ¥1219/瓶	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む),大動脈撮影,選択的血管撮影,四肢血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による静脈性血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による動脈性血管撮影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における造影,静脈性尿路撮影	【DI照会参照】
		50mL/瓶 ¥2435/瓶		
		100mL/瓶 ¥4666/瓶		
オイパロミン３７０シリンジ <イオパミドール> （富士製薬）		80mL/筒 ¥4251/筒		
		100mL/筒 ¥5480/筒		
オムニパーク２４０ <イオヘキソール> （第一三共）		10mL/瓶 ¥936/瓶	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影による脳槽造影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影による脊髄造影,頸部脊髄撮影,胸部脊髄撮影,腰部脊髄撮影	
オムニパーク３００ＰＢ <イオヘキソール> （第一三共）		100mL/瓶 ¥8108/瓶	脳血管撮影,選択的血管撮影,四肢血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による動脈性血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による静脈性血管撮影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における造影,静脈性尿路撮影	
オムニパーク３００シリンジ <イオヘキソール> （第一三共）		50mL/筒 ¥4539/筒		
		100mL/筒 ¥8108/筒		
		150mL/筒 ¥12903/筒		
オムニパーク３５０シリンジ <イオヘキソール> （第一三共）		100mL/筒 ¥9470/筒	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む),大動脈撮影,選択的血管撮影,四肢血管撮影,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙX線撮影法による静脈性血管撮影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における造影,静脈性尿路撮影,小児血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む)	
ビジパーク２７０ <イオジキサノール> （第一三共）		20mL/瓶 ¥2320/瓶	脳血管撮影,四肢血管撮影,逆行性尿路撮影,内視鏡的逆行性膵胆管撮影	

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Ｘ線造影剤 ◆油性（ﾖｰﾄﾞ系）				
リピオドールウルトラフルイド ＜ヨード化ケシ油＞ （ﾃﾙﾓ）		10mL/管 ¥4947/管	ﾘﾝﾊﾟ系撮影,子宮卵管撮影,医薬品又は医療機器の調製	【DI照会参照】
■Ｘ線造影剤 ◆経口（ﾖｰﾄﾞ系）				
ガストログラフィン ＜アミドトリゾ酸＞ （ﾊﾞｲｴﾙ）	100mL ¥15.9/mL		消化管撮影,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における上部消化管造影	【DI照会参照】
■Ｘ線造影剤 ◆経口（非ﾖｰﾄﾞ系）				
バムスターＳ１００ ＜硫酸バリウム＞ （ｶｲｹﾞﾝﾌｧｰﾏ）	100%400mL/本 ¥540/本		消化管撮影	検査部位及び検査方法に応じ,本剤をそのまま又は本剤の適量に適量の水を加えて適当な濃度とし経口投与又は注腸 【DI照会参照】
エネマスター注腸 ＜硫酸バリウム＞ （伏見）	散(98.1%/350g) 【用時購入】 ¥525/本		消化管（大腸）撮影	検査部位及び検査方法に応じ,本剤の適量に適量の水(200mL～2000mL)を加えて適当な濃度(20～130w/v%)とし,その適量を注腸する。 【DI照会参照】
バリテスターＡ ＜硫酸バリウム＞ （伏見）	散(98.5%/350g) 【用時購入】 ¥511/本		食道・胃・十二指腸二重造影撮影	100gに対し水18～26mLを加えて200w/v%～240w/v%の濃度の懸濁液とし、経口投与。 【DI照会参照】
	散(98.5%/1.2kg/本) 【用時購入】 ¥1752/袋			
	散(98.5%/3.6kg/本) 【用時購入】 ¥5256/袋			

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ＭＲＩ用造影剤				
EOB・プリモビスト <ガドキセト酸ナトリウム> (ﾊﾞｲｴﾙ)		5mL/筒 ¥14042/筒	磁気共鳴ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における肝腫瘍の造影	0.1mL/kg静注
		10mL/筒 ¥20917/筒		
オムニスキャンシリンジ <ガドジアミド> (第一三共)		10mL/筒 ¥6071/筒	磁気共鳴ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における脳・脊髄造影,躯幹部・四肢造影	0.2mL/kg静注, (腎臓の場合0.1mL/kg)
		15mL/筒 ¥8654/筒		
ボースデル <塩化マンガン> (協和発酵ｷﾘﾝ)	10mg/250mL/袋 ¥1296.6/袋		磁気共鳴胆道膵管撮影における消化管陰性造影	250mL(1袋)を経口投与
マグネスコープシリンジ <ガドテル酸メグルミン> (ﾃﾙﾓ)		10mL/筒 ¥5602/筒	磁気共鳴ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影における脳・脊髄造影,躯幹部・四肢造影	0.2mL/kg静注,(腎臓の場合0.1mL/kg)
		15mL/筒 ¥7456/筒		
		20mL/筒 ¥9866/筒		
マグネビストシリンジ <ガドペンテト酸メグルミン> (ﾊﾞｲｴﾙ)		10mL/筒 ¥6286/筒		0.2mL/kg静注,(腎臓:0.1mL/kg, 腹部から下肢まで:0.4mL/kg)
		15mL/筒 ¥8545/筒		
		20mL/筒 ¥10949/筒		
■超音波診断用造影剤				
ソナゾイド <ペルフルブタンマイクロバブル> (第一三共)		16μL/瓶 ¥13372/瓶	超音波検査における肝腫瘤性病変の造影	0.015mL/kgを静脈内投与
レボビスト <ガラクトース・パルミチン酸混合物> (ﾊﾞｲｴﾙ)		2.5g/瓶 ¥11153/瓶	①心ｴｺｰ図検査における造影 ②ﾄﾞﾌﾟﾗ検査における造影 ③子宮卵管ｴｺｰ図検査における造影	①濃度300mg/mLで5mL静注 ②心臓血管：濃度200mg/mLで4～8mL,頭・頸部,躯幹部・四肢：300mg/mLで5mL静注 ③濃度200mg/mLで5～18mL子宮腔内投与

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■造影補助剤 ◆経口				
ニフレック ＜配合剤＞ (味の素)	137.155g/包 (2L分) ¥1144.3/袋		大腸内視鏡検査,ﾊﾞﾘｳﾑ注腸X線造影検査及び大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解2Lとし,約1L/時間で経口,排泄液が透明になった時点で投与終了【Max:4L/2袋】
バリエース発泡顆粒 ＜炭酸水素ナトリウム，酒石酸＞ (伏見)	5g/本 ¥61.5/本		胃･十二指腸の透視･撮影の造影補助	100～400mLの炭酸ｶﾞｽの発生量に相当する量を経口
ビジクリア ＜配合剤＞ (ｾﾞﾘｱ)	錠 ¥56.4/錠		大腸内視鏡検査の前処置における腸管内容物の排除 【使用における確認表参照のこと】	検査開始の4～6時間前から1回あたり5錠ずつ,約200mLの水とともに15分毎に計10回(計50錠)経口投与する。
マグコロールＰ ＜クエン酸マグネシウム＞ (堀井)	50g/包 ¥400/包		大腸検査(X線･内視鏡)前処置における腸管内容物の排除,腹部外科手術時における前処置用下剤	＜高張液投与＞ 40～50g(水120～150mLに溶解)を検査予定時10～15時間前に経口 ＜等張液投与＞ 100gを水に溶解し全量1800mLとし検査予定時間の4時間以上前に200mLずつ約1時間かけて経口
モビプレップ ＜配合剤＞ (味の素)	244.212g/袋 (2L分) ¥2371.3/袋		大腸内視鏡検査･大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解して約2Lの溶解液とし,約1L/時間で経口投与 約1L投与した後,水又はお茶を約0.5L飲用 排泄液が透明になった時点で投与を終了し,投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用する。【Max:2L/1袋】
■造影補助剤 ◆注射				
コアベータ ＜ランジオロール＞ (小野薬品)		12.5mg/瓶 ¥2709/瓶	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善	0.125mg/kg/回,1分間で静注

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■機能診断用薬				
アルギニン ＜アルギニン＞ （味の素）		300mL/袋 ¥2181/袋	下垂体機能検査	5mL/kg,点静
アンチレクス ＜エドロホニウム＞ （杏林）		10mg(1mL)/管 ¥117/管	①重症筋無力症の診断 ②筋弛緩剤投与後の遷延性呼吸抑制の作用機序の鑑別	①10mg/回静注 （2mgを15～30秒かけて注射,45秒後反応をみて必要に応じて8mg注射） <乳児>0.5～1mg静注 <小児>体重35kg未満1mg(追加5mg迄) ②5～10mg/回30～40秒静注 （判定:改善されれば非脱分極性ﾌﾞﾛｯｸ, 増強されれば脱分極性ﾌﾞﾛｯｸ） 必要あれば5～10分以内に同量を反復投与
インジゴカルミン ＜インジゴカルミン＞ （第一三共）		20mg/管(5mL) ¥241/管	①腎機能検査(分腎機能測定による) ②乳癌,悪性黒色腫におけるｾﾝﾁﾈﾙﾘﾝﾊﾟ節の同定	①20～40mg静注後,膀胱鏡で初排泄時間調べる ②乳癌:20mg以下を皮下投与 悪性黒色腫:4～12mgを皮内投与
ＬＨ－ＲＨ ＜ゴナドレリン＞ （田辺三菱）		0.1mg/管 ¥3939/管	下垂体LH分泌機能検査	0.1mg/回,皮下･筋注･静注
エルゴメトリンＦ ＜エルゴメトリン＞ （富士製薬）		0.2mg/管(1mL) ¥92/管	【適応外】冠攣縮の誘発	【DI照会参照】
グルカゴン ＜グルカゴン＞ （味の素）		1単位/瓶(溶解液1mL付) ¥1822/瓶	①成長ﾎﾙﾓﾝ分泌機能検査 ②ｲﾝｽﾘﾉｰﾏの診断 ③肝糖原検査 ④低血糖時の救急処置 ⑤消化管Ｘ線･内視鏡検査の前処置	①1単位又は0.03単位/kg,皮下･筋注 ②1単位,静注 ③1単位,3分で静注 <小児>0.03単位/kg,筋注 ④1単位,筋注･静注 ⑤0.5～1単位,筋注･静注
ジアグノグリーン ＜インドシアニングリーン＞ （第一三共）		25mg/瓶 ¥605/瓶	①肝機能検査 ②循環機能検査 ③脳神経外科手術時における脳血管の造影 ④乳癌,悪性黒色腫におけるｾﾝﾁﾈﾙﾘﾝﾊﾟ節の同定	①0.5mg/kg,静注 ②【DI照会参照】 ③5mLの注射用水で溶解後, 0.1～0.3mg/kg静注 ④5mLの注射用水で溶解後, 乳癌:5mL以下,皮下投与 悪性黒色腫:1mL,皮内投与
ＣＲＨ ＜コルチコレリン＞ （田辺三菱）		100μg/瓶(溶解液1mL付) 【用時購入】 ¥20269/瓶	視床下部･下垂体･副腎皮質系ﾎﾙﾓﾝ分泌機能検査	100μg静注 <小児>1.5μg/kg
ＧＲＦ ＜ソマトレリン＞ （大日本住友）		50μg/瓶(溶解液1mL付) ¥3667/瓶	下垂体成長ﾎﾙﾓﾝ分泌機能検査	100μg,静注 <5～17歳>1μg/kg
ヒルトニン ＜プロチレリン＞ （武田）		0.5mg(1mL)/管 ¥2154/管	①下垂体TSH分泌機能検査 ②頭部外傷･くも膜下出血(意識障害固定期間3週間以内)に伴う昏睡･半昏睡を除く遷延性意識障害 ③脊髄小脳変性症における運動失調の改善	①0.5mg分1静注･皮下 ②<頭部外傷>0.5～2mg分1静注･点静10日間 <くも膜下出血>2mg分1静注･点静10日間 ③0.5～2mg分1,筋注･静注,2～3週間投与後2～3週間休薬,以後反復投与又は週2～3回

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他の診断用薬				
ゴナスティックW (持田製薬)		20ﾃｽﾄ/箱 ¥6000/箱	妊娠診断の補助	尿に3秒間浸し、3～4分後判定
精製ツベルクリン1人用 ＜精製ツベルクリン＞ (ﾋﾞｰｼｰｼﾞｰｻﾌﾟﾗｲ)		0.25μg/瓶 ¥817/瓶	結核の診断	0.1mL皮内注
トレーランG ＜デンプン部分加水分解物＞ (味の素)		75g/瓶(225mL) ¥206.4/瓶	糖尿病診断時の糖負荷試験	75g/回,経口 <小児>1.75g/kg/回
フルオレサイト ＜フルオレセイン＞ (日本ｱﾙｺﾝ)		500mg/瓶 ¥1207/瓶	葡萄膜･網膜･視神経等の疾患の診断	200～500mg肘静注
プロナーゼMS ＜プロナーゼ＞ (科研)	散(2万単位/0.5g/包) ¥135.7/包		色素撒布法による胃内視鏡検査における胃内粘液の溶解除去	2万単位/回,検査15～30分前,炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ1gと共に50～80mLの水に溶かし経口
ミンクリア ＜I－メントール＞ (日本製薬)		20mL/筒 ¥882.5/筒	上部消化管内視鏡時の胃蠕動運動の抑制	20mLを内視鏡の鉗子口より胃幽門前庭部に散布
ユービット ＜尿素（１３Ｃ）＞ (大塚)	100mg/錠 ¥3192.7/錠		ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘの感染診断 (13C-尿素呼気試験法薬)	100mg(1錠)を空腹時に100mLの水で,経口投与
アラベル ＜アミノレブリン酸塩酸塩＞ (ﾉｰﾍﾞﾙﾌｧｰﾏ)	1.5g/瓶 【用時購入】 ¥90,377.80/瓶		悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍組織の可視化	20mg/kgを手術時の麻酔導入前3時間(範囲：2～4時間)に水に溶解して経口投与

１．生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ワクチン類				
アクトヒブ <乾燥ヘモフィルスｂ型ワクチン> （第一三共）		10μg/瓶（溶解液0.5mL付） ¥4500/瓶	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌b型による感染症の予防	添付溶剤0.5mLで溶解し，その全量を使用 初回免疫：4～8週間の間隔で3回皮下（必要時3週間隔も可） 追加免疫：初回免疫後の1年の間隔をおいて1回皮下
イモバックスポリオ皮下注 <不活化ポリオワクチン> （ｻﾉﾌｨﾊﾟｽﾂｰﾙ）		0.5mL/ｼﾘﾝｼﾞ ¥5450/ｼﾘﾝｼﾞ	急性灰白髄炎の予防	<初回免疫>0.5mL/回皮下,生後3ヶ月から初回接種開始し,3週間以上間隔をおいて3回接種 <追加免疫>初回免疫から6ヶ月以上の間隔で0.5mL,1回皮下
インフルエンザＨＡワクチン <インフルエンザＨＡワクチン> （第一三共）		0.5mL/瓶 ¥3000/1回目(¥2000/2回目)	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの予防	2～4週間の間隔をおいて2回皮下, 6ヶ月以上3歳未満0.25mL/回, 3歳以上13歳未満0.5mL/回, 1回又は1～4週間の間隔をおいて2回皮下, 13歳以上0.5mL/回
乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン <乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン> （武田）		0.7mL/瓶 ¥2830/瓶	おたふくかぜの予防	0.5mL,1回皮下 1歳以上(24～60ｶ月)
クアトロバック皮下注シリンジ <沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ（セービン株）混合ワクチン> （化血研）		0.5mL/ｼﾘﾝｼﾞ ¥6500/ｼﾘﾝｼﾞ	百日せき,ｼﾞﾌﾃﾘｱ,破傷風及び急性灰白髄炎の予防	<初回免疫>小児に0.5mL/回皮下,3週間以上の間隔で3回 <追加免疫>初回免疫から6ヶ月以上の間隔で0.5mL,1回皮下
サーバリックス <組換え沈降２価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン> （ｸﾞﾗｸｿ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ）		0.5mL/ｼﾘﾝｼﾞ 【用時購入】 ¥16800/回	ﾋﾄﾊﾟﾋﾟﾛｰﾏｳｲﾙｽ（HPV）16型及び18型感染に起因する子宮頸癌（扁平上皮細胞癌、腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）2及び3）の予防	10歳以上の女性に1回0.5mLを0,1,6ヵ月後,上腕の三角筋部に筋注
ジェービックＶ <乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン> （田辺三菱）		0.7mL/瓶 ¥3250/瓶	日本脳炎の予防	<初回免疫>0.5mL/回皮下,1～4週間間隔で2回 3歳未満0.25mL/回 <追加免疫>初回免疫から約1年後に0.5mL,1回皮下 3歳未満0.25mL/回
乾燥弱毒生水痘ワクチン <乾燥弱毒生水痘ワクチン> （田辺三菱）		0.7mL/瓶 ¥4500/瓶	水痘の予防	0.5mL,1回皮下
沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT) <沈降ジフテリア破傷風混合ワクチン> （化血研）		1mL/瓶 ¥1750/瓶	ｼﾞﾌﾃﾘｱ,破傷風の予防	<初回免疫>0.5mL/回皮下,3～8週毎2回 10歳以上0.1mL/回 <追加免疫>初回免疫後12～18ｶ月間に0.5mL,1回, 10歳以上0.1mL以下/回

１．生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン(DPT) ＜沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン＞ （第一三共）		0.5mL/ｼﾘﾝｼﾞ ¥1400/ｼﾘﾝｼﾞ	百日咳,ｼﾞﾌﾃﾘｱ,破傷風の予防	<初回免疫>0.5mL/回皮下,3～8週毎3回 <追加免疫>初回免疫後12～18ｶ月間に0.5mL,1回
ニューモバックスＮＰ ＜肺炎球菌ワクチン＞ （MSD）		0.5mL/瓶 【用時購入】 ¥4737/瓶	2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険性が高い次のような患者･個人, ⅰ.脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防, ⅱ.肺炎球菌による感染症の予防(保険適応外)	0.5mL/回皮下,筋注
ビームゲン ＜Ｂ型肝炎ワクチン＞ （化血研）		0.25mL/瓶 ¥5996.1/瓶 0.5mL/瓶 ¥2434/瓶	①B型肝炎の予防 ②B型肝炎ｳｲﾙｽ母子感染の予防(抗HBs人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝとの併用) ③HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防(抗HBs人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝとの併用)	①0.5mLずつ4週間間隔で2回,20～24週経過後1回皮下,筋注 <10歳未満>0.25mL/回 ②生後2～3ｹ月後,及び初回注射後1ｹ月後,3ｹ月後に0.25mL/回皮下 ③事故発生後7日以内及び初回注射後1ｹ月後,3ｹ月後0.5mL/回皮下,筋注 <10歳未満>0.25mL/回
乾燥弱毒生風疹ワクチン ＜乾燥弱毒生風疹ワクチン＞ （武田）		0.7mL/瓶 ¥2830/瓶	風疹の予防	0.5mL,1回皮下
プレベナー ＜沈降１３価肺炎球菌結合型ワクチン＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）		0.5mL/ｼﾘﾝｼﾞ ¥7200/本	①高齢者:肺炎球菌（血清型1,3,4,5,6A,6B,7F,9V,14,18C,19A,19F及び23F）による感染症の予防 ②小児:肺炎球菌（血清型1,3,4,5,6A,6B,7F,9V,14,18C,19A,19F及び23F）による侵襲性感染症の予防	①高齢者:0.5mL/回筋注 ②小児:<初回免疫>0.5mL/回皮下,27日間以上の間隔で3回 <追加免疫>初回免疫後60日以上の間隔をおいて0.5mL/回皮下,1回
乾燥弱毒生麻疹ワクチン ＜乾燥弱毒生麻疹ワクチン＞ （第一三共）		0.7mL/瓶 ¥2800/瓶	麻疹の予防	0.5mL,1回皮下 第1期:12～24ｶ月 第2期:5～7才 第3期:13才となる年度(平成25年3月31日まで) 第4期:18才となる年度(平成25年3月31日まで)
ミールビック ＜乾燥弱毒生麻疹風疹混合ワクチン＞ （田辺三菱）		0.7mL/瓶 ¥6050/瓶	麻疹・風疹の予防	0.5mL,1回皮下
ロタリックス内用液 ＜弱毒性ヒトロタウイルスワクチン＞ （第一三共）	液(1.5mL/本) ¥10000/本		ﾛﾀｳｲﾙｽによる胃腸炎の予防	1.5mL/回経口接種,生後6週から初回接種開始し,少なくとも4週間の間隔をおいて2回目を接種

１．生物学的製剤

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■トキソイド類				
沈降破傷風トキソイドキット ＜沈降破傷風トキソイド＞ （武田）		0.5mL/筒 ¥615/筒	破傷風の予防	〈初回免疫〉筋注，皮下0.5mL/回，3～8週間間隔で2回 〈追加免疫〉筋注，皮下0.5mL/回，初回免疫後12～18ヶ月の間に
■抗毒素類				
乾燥まむし抗毒素 ＜乾燥蝮ウマ抗毒素＞ （化血研）		6000単位/瓶 ¥32981/瓶	蝮咬傷の治療	早期に約6000単位， 症状軽減しない時，2～3時間後3000～6000単位追加筋注（皮下），静注

２．血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■グロブリン製剤				
ヴェノグロブリンＩＨ<人免疫グロブリンＧ> （田辺三菱）		2.5g/50mL/瓶 ¥24303/瓶	①低並びに無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期（重症であり冠動脈障害の発生の危険がある場合） ⑤多発性筋炎･皮膚筋炎における筋力低下の改善(ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤が効果不十分な場合に限る) ⑥慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ﾆｭｰﾛﾊﾟﾁｰを含む)の筋力低下の改善 ⑦全身型重症筋無力症(ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤又はｽﾃﾛｲﾄﾞ剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る) ⑧天疱瘡(ｽﾃﾛｲﾄﾞ剤の効果不十分な場合) ⑨血清IgG2値の低下を伴う肺炎球菌又はｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌を起炎菌とする急性中耳炎,急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ﾜｸﾁﾝ接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず発症を繰り返す場合に限る)	①200～600mg(4～12mL)/kg/回,3～4週間隔,点静または静注 ②2500～5000mg(50～100mL)/回,点静または静注 　<小児>100～150mg(2～3mL)/kg/回 ③200～400mg(4～8mL)/kg/回,点静または静注 ④400mg(8mL)/kg/日,5日間,点静または静注 　または2000mg(40mL)/kg/回,点静 ⑤400mg(8mL)/kg/日,5日間,点静 ⑥400mg(8mL)/kg/日,5日間,点静または静注 ⑦⑧400mg(8mL)/kg/日,5日間,点静 ⑨初回300mg(6mL)/kg,2回目以降200mg(4mL)/kg,4週間間隔
		5g/100mL/瓶 ¥45813/瓶		
ガンマグロブリン<人免疫グロブリン> （日本製薬）		450mg/瓶 ¥1560/瓶	①低･無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症 ②麻疹･A型肝炎･ﾎﾟﾘｵの予防･症状の軽減	①100～300mg/kg1回/月筋注 ②15～50mg/kg/回筋注
献血グロベニンＩ<乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン> （日本製薬）		5000mg/瓶 ¥45025/瓶	①低･無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期（重症･冠動脈障害の発生危険がある場合） ⑤慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチーを含む）の筋力低下の改善 ⑥天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合) ⑦スティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症(ステロイド剤の効果不十分な場合)	①200～600mg/kg/回静注,点静3～4週間隔 ②2.5～5g/回静注,点静 【総量10g迄】 <小児>100～150mg/kg/回 ③200～400mg/kg/日 ④200mg/kg/日【5日間】 ⑤400mg/kg/日【5日間】 ⑥400mg/kg/日【5日間】 ⑦400mg/kg/日【5日間】

２．血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
献血ベニロンＩ ＜乾燥スルホ化人免疫グロブリン＞ （帝人ﾌｧｰﾏ）		500mg/瓶 ¥5192/瓶	①低･無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期（重症･冠動脈障害の発生危険がある場合） ⑤ｷﾞﾗﾝ･ﾊﾞﾚｰ症候群，ﾁｬｰｸﾞ･ｽﾄﾗｳｽ症候群，ｱﾚﾙｷﾞｰ性肉芽腫性血管炎における神経障害の改善	①200～600mg/kg/回静注，点静3～4週間隔 ②2.5～5g/回静注，点静【総量10g迄】 〈小児〉50～150mg/kg/回 ③200～400mg/kg/日 ④200mg/kg/日【5日間】 ⑤400mg/kg/日【5日間】
		2500mg/瓶 ¥24022/瓶		
		5000mg/瓶 ¥46413/瓶		
日赤ポリグロビンＮ注５％ ＜ｐＨ４処理酸性人免疫グロブリン＞ （日赤）		500mg(10mL)/瓶 ¥5040/瓶	①低･無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期（重症･冠動脈障害の発生危険がある場合）	①200～600mg/kg/回静注，点静3～4週間隔 ②2.5～5g/回静注，点静【総量10g迄】 〈小児〉50～150mg/kg/回 ③400mg/kg/日静注，点静 ④200mg/kg/日静注，点静【5日間】又は2000mg/kg/回，点静(12時間以上)
		2.5g(50mL)/瓶 ¥22207/瓶		
日赤ポリグロビンＮ注１０％ ＜ｐＨ４処理酸性人免疫グロブリン＞ （日赤）		5g(50mL)/瓶 ¥41914/瓶		
		10g(100mL)/瓶 ¥80314/瓶		

■抗ＨＢｓグロブリン製剤

乾燥ＨＢグロブリン ＜抗ＨＢｓ人免疫グロブリン＞ （日本製薬）		1000単位/瓶 ¥36267/瓶	①HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症防止 ②新生児のB型肝炎予防(沈降B型肝炎ﾜｸﾁンとの併用)	①5～10mL/回筋注 〈小児〉0.16～0.24mL/kg，事故発生48時間(～7日)以内 ②初回:0.5～1.0mL/回筋注 生後12時間(～5日)以内 追加:0.16～0.24mL/kg
ヘパトセーラ ＜抗ＨＢｓ人免疫グロブリン＞ （化血研）		200単位/瓶 ¥8996/瓶		

■抗Ｄ（Ｒｈｏ）グロブリン製剤

抗Ｄグロブリン ＜乾燥抗Ｄ（Ｒｈｏ）人免疫グロブリン＞ （日本製薬）		1000倍/2mL/瓶 ¥19789/瓶	D(Rho)陰性で以前にD(Rho)因子で感作を受けていない女性に対する，D(Rho)因子投与による感作抑制 ①分娩後，流産後，人工妊娠中絶後，異所性妊娠後，妊娠中の検査･処置後(羊水穿刺，胎位外回転術等)又は腹部打撲後等のD(Rho)感作の可能性がある場合 ②妊娠28週前後	①72時間以内に1瓶筋注 ②1瓶筋注

２．血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗破傷風グロブリン製剤				
テタノブリンＩＨ ＜抗破傷風人免疫グロブリン＞ （田辺三菱）		250単位/瓶 ¥3899/瓶	①破傷風の発症予防 ②発症後の症状軽減のための治療	①250単位静注，点静 重症外傷例1500単位 ②軽～中等症：1500～3000単位 重症例：3000～4500単位
■ハプトグロビン製剤				
ハプトグロビン ＜人ハプトグロビン＞ （田辺三菱）		2000単位/瓶 ¥43569/瓶	熱傷・火傷，輸血，体外循環下開心術等の溶血反応を伴うﾍﾓｸﾞﾛﾋﾞﾝ血症，ﾍﾓｸﾞﾛﾋﾞﾝ尿症の治療	4000単位/回 点静，灌流液注入
■組織接着剤				
タコシール ＜配合剤＞ （CSLﾍﾞｰﾘﾝｸﾞ）		9.5cm×4.8cm/枚 ¥60810.2/枚	組織の接着・閉鎖：（肝臓外科、肺外科，心臓血管外科，産婦人科領域）	適切な大きさにし，乾燥状態のままあるいは生理食塩液でわずかに濡らし，その活性成分固着面を接着・閉鎖部位に貼付し、通常3～5分圧迫する。
ベリプラストＰコンビセット ＜配合剤＞ （CSLﾍﾞｰﾘﾝｸﾞ）		5mL/ｾｯﾄ ¥64560.7/ｾｯﾄ	組織の接着・閉鎖	組織に対し各1mL/10cm²を滴下・噴霧，混合して患部に使用
ボルヒール ＜配合剤＞ （化血研）		0.5mL/ｾｯﾄ ¥7843.2/ｾｯﾄ		
		1mL/ｾｯﾄ ¥14270.9/ｾｯﾄ		
		2mL/ｾｯﾄ ¥25699/ｾｯﾄ		
		3mL/ｾｯﾄ ¥38068.6/ｾｯﾄ		

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

【注】中毒時の処置
①ベンゾジアゼピン系拮抗薬（アネキセート）：初回0.2mg静注,4分以内に覚醒状態が得られない場合1～2回追加
②麻薬拮抗薬（塩酸ナロキソン）：0.2mg/回,効果不十分な場合2～3分間隔で1～2回静注。小児の場合0.01mg/kg

■アヘンアルカロイド系

アンペック ＜モルヒネ＞ （大日本住友） 投与制限：30日		10mg/坐剤 ¥322.1/個	激しい疼痛を伴う各種癌における鎮痛	20～120mg分2～4
		20mg/坐剤 ¥612.3/個		
ＭＳコンチン 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ （ｼｵﾉｷﾞ） 投与制限：30日	10mg/錠 ¥241.1/錠			20～120mg分2
塩酸モルヒネ 【速効性】 ＜モルヒネ＞ （第一三共） 投与制限：30日	10倍散(100mg/g) 【院内製剤】 ¥218.6/g		激しい疼痛時における鎮痛･鎮静,激しい咳嗽発作における鎮咳,激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管蠕動運動の抑制	5～10mg/回,15mg/日
	末 ¥2203/ｇ			
塩酸モルヒネ 【速効性】 ＜モルヒネ＞ （大日本住友） 投与制限：30日	10mg/錠 ¥125.8/錠		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静,激しい咳嗽発作における鎮咳,激しい下痢症状の改善および手術後等の腸管蠕動運動の抑制	
塩酸モルヒネ ＜モルヒネ＞ （第一三共）		10mg(1mL)/管 ¥299/管	<皮下及び静脈内投与> 激しい疼痛時における鎮痛･鎮静,激しい咳嗽発作における鎮咳,激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管蠕動運動の抑制,麻酔前投薬,麻酔の補助,中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛 <硬膜外及びくも膜下投与> 激しい疼痛時における鎮痛,中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	<皮下及び静脈内投与> 5～10～(50～200)mg/回皮下,静注 <硬膜外投与> 2～6mg/回,硬膜外腔注入,2～10mg/回,硬膜外腔持続注入 <くも膜下投与> 0.1～0.5mg/回,くも膜下腔注入
		50mg(5mL)/管 ¥1346/管		
		200mg(5mL)/管 ¥4973/管		
オプソ内服液 【速効性】 ＜モルヒネ＞ （大日本住友） 投与制限：30日	5mg(2.5mL)/包 ¥121.2/包		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	30～120mg分6
パシーフ 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ （武田） 投与制限：30日	30mg/C ¥800.4/C			30～120mg分1
	60mg/C ¥1452.1/C			

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
パシーフ 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ （武田） 投与制限：30日	120mg/C ¥2698.2/C		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	30～120mg分1
モルペス 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ （藤本） 投与制限：30日	2%細粒(10mg/0.5g/包) ¥205.7/包		激しい疼痛を伴う各種癌における鎮痛	20～120mg分2
	6%細粒(30mg/0.5g/包) ¥548/包			
リン酸コデイン ＜コデイン＞ （武田）	散(10mg/g) 【麻薬扱いとならない】 ¥8.4/ｇ		各種呼吸器疾患における鎮咳・鎮静【C-2参照】 疼痛時における鎮痛 激しい下痢症状の改善	60mg分3

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■合成麻薬				
アブストラル ＜フェンタニル＞ （協和発酵ｷﾘﾝ） 投与制限：14日	100μg/錠 ¥581.8/錠		強ｵﾋﾟｵｲﾄﾞ鎮痛剤を定時投与中の癌患者における突出痛の鎮痛	1回100～800μg,舌下投与 1日4回まで【MAX:800μg/回】
	200μg/錠 ¥811.9/錠			
アルチバ ＜レミフェンタニル＞ （ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ）		2mg/瓶 ¥2566/瓶	全身麻酔の導入及び維持における鎮痛	【DI照会参照】
オピスタン ＜ペチジン＞ （田辺三菱）		35mg(1mL)/管 ¥340/管	①激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮痙 ②麻酔前投薬 ③麻酔の補助 ④無痛分娩	①35～50mg/回,必要時3～4時間毎皮下,筋注 ②50～100mg,麻酔前30～90分前 ③10～15～(50)mg静注 ④【DI照会参照】
ケタラール ＜ケタミン＞ （第一三共）		200mg(20mL)/瓶 ¥718/瓶	麻酔導入･維持	【DI照会参照】
タペンタ ＜タペンタドール＞ （ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ） 投与期限：14日	25mg/錠 ¥108.7/錠		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	50～400mg分2
	50mg/錠 ¥206.3/錠			
メサペイン ＜メサドン＞ （ﾃﾙﾓ） 投与制限：14日	5mg/錠 ¥183.4/錠		他の強ｵﾋﾟｵｲﾄﾞ鎮痛剤で治療困難な中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	1回5～15mg,1日3回 （他の強オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用）
	10mg/錠 ¥348.2/錠			
デュロテップMTパッチ 【徐放性】 ＜フェンタニル＞ （ﾔﾝｾﾝﾌｧｰﾏ） 投与制限：30日		2.1mg/枚 ¥1879/枚	中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛 中等度から高度の慢性疼痛における鎮痛	1枚/3日毎 （他剤から切り替えて投与）
		4.2mg/枚 ¥3381.3/枚		
フェンタニル ＜フェンタニル＞ （第一三共）		0.1mg(2mL)/管 ¥302/管	全身麻酔,全身麻酔における鎮痛 局所麻酔における鎮痛の補助 激しい疼痛(術後疼痛,癌性疼痛など)に対する鎮痛	【DI照会参照】
フェントステープ 【徐放性】 ＜フェンタニル＞ （協和発酵ｷﾘﾝ） 投与制限：30日		1mg/枚 ¥586.9/枚	中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛、中等度から高度の慢性疼痛	1枚/1日毎 （他剤から切り替えて投与）
		2mg/枚 ¥1094/枚		
		4mg/枚 ¥2039/枚		
		8mg/枚 ¥3800.7/枚		

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ペチロルファン ＜配合剤：ペチジン５０ｍｇ・レバロルファン０．６２５ｍｇ＞ （武田）		1mL/管 ¥354/管	①鎮痛･鎮静･鎮痙 ②麻酔前投薬 ③麻酔の補助 ④無痛分娩	①35～50mg/回必要時3～4時間毎皮下,筋注,静注 ②50～100mg,麻酔前30～90分前 ③10～15～(50)mg静注 ④70～100mg/回皮下,筋注

■その他のアヘンアルカロイド系

オキシコンチン 【徐放性】 ＜オキシコドン＞ （ｼｵﾉｷﾞ） 投与制限：30日	5mg/錠 ¥144.3/錠		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	10～80mg分2
	10mg/錠 ¥270.3/錠			
	20mg/錠 ¥502.4/錠			
	40mg/錠 ¥923.8/錠			
オキノーム 【速効性】 ＜オキシコドン＞ （ｼｵﾉｷﾞ） 投与制限：30日	散2.5mg(0.5g/包) ¥67.1/包			10～80mg分4
	散5mg(1.0g/包) ¥134.1/包			
	散10mg(2.0g/包) ¥268.3/包			
オキファスト ＜オキシコドン＞ （ｼｵﾉｷﾞ）		10mg(1mL)/管 ¥362/管		7.5mg～250mg/日,持続静注又は持続皮下注
		50mg(5mL)/管 ¥1655/管		

■癌性疼痛治療剤（非麻薬性鎮痛剤）

トラマールＯＤ ＜トラマドール＞ （日本新薬）	25mg/錠 ¥38.6/錠		非オピオイド鎮痛剤で治療困難な各種癌における鎮痛,慢性疼痛	100～300mg分4【Max:100mg/回,400mg/日】
ペンタジン ＜ペンタゾシン＞ （第一三共）		15mg(1mL)/管 ¥68/管	①各種癌等における鎮痛 ②麻酔前投薬および麻酔補助	①15mg/回,筋注,皮下, 必要に応じて3～4時間毎反復注射 ②30～60mg/回,筋注,皮下,静注

当院採用のオピオイド換算表

分類	医療用麻薬											非麻薬性がん性疼痛治療薬	
成分名	モルヒネ			オキシコドン			フェンタニル			メサドン	タペンタドール	トラマドール	リン酸コデイン
剤形	経口徐放製剤	注射剤	坐剤	経口徐放製剤	注射剤		貼付剤	貼付剤	注射剤	経口剤	経口剤	経口剤	経口剤
当院採用品目	MSコンチン錠10mg パシーフカプセル 30・60・120mg モルペス細粒10・30mg	塩酸モルヒネ注 10・50・200mg	アンペック坐剤 10・20mg	オキシコンチン錠 5・10・20・40mg	オキファスト注 10・50mg 経口オピオイド／フェンタニル貼付・注射剤※8より切り替え時	モルヒネ注射より切り替え時	デュロテップMTパッチ 2.1・4.2・8.4・16.8mg （3日毎貼り替え）	フェントステープ 1・2・4・8mg （1日毎貼り替え）	フェンタニル注0.1mg	メサペイン錠 5・10mg	タペンタ錠 25・50・100mg	トラマールカプセル 25mg	リン酸コデイン散1%
投与量	30mg ～ 60mg ～ 120mg ～ 180mg ～ 240mg	15mg 20mg 30mg 40mg 60mg 80mg 90mg 100mg 120mg	20mg ～ 40mg ～ 80mg ～ 120mg ～ 160mg	20mg ～ 40mg ～ 80mg ～ 120mg ～ 160mg	15mg ～ 30mg ～ 60mg ～ 90mg ～ 120mg	～ 25mg ～ 50mg 75mg 100mg ～ 125mg 150mg	2.1mg ～ 4.2mg ～ 8.4mg ～ 12.6mg ～ 16.8mg ※6	1mg ～ 2mg ～ 4mg ～ 6mg ～ 8mg ※6	0.3mg ～ 0.6mg ～ 1.2mg ～ 1.8mg ～ 2.4mg	推奨されない 15mg ～ 30mg ～	100mg ～ 200mg ～ 初回投与量として400mg/日を超える用量は推奨されない。	150mg ～ 300mg ～ 1日量400mgを超える場合は、他のオピオイドへ切り替える。	通常用量：60～160mg/日 （120mg＝経口モルヒネ20mg相当） 天井効果があるため、 鎮痛効果不十分となった場合は他のオピオイドへ切り替える。
換算比 ※経口モルヒネを1とする	1	1/2	2/3	2/3	1/2	－	－	－	1/100	－	3.3	5	6

※1 変更したオピオイドの使用量は、計算した等鎮痛量の70%の量を目安とする。
※2 ローテーションの方法として、変更する日に全て新しいオピオイドに変更する方法と、2～3日かけて1/2～1/3くらいずつ変更していく方法がある。
特に高容量オピオイド使用時は、2～3日かけて徐々に変更していく方法が適している。
※3 ローテーション後も鎮痛の程度を細かく確認し、可能であれば日中に行う方が安全である。
※4 傾眠や呼吸抑制が出現する等オピオイドが過量である場合は、20～30%減量する。
※5 腎機能が低下している患者では、オキシコドンやフェンタニルからモルヒネ類に変更すると、モルヒネが排泄されず過度の鎮静や呼吸抑制が起きる危険性がある。
※6 フェンタニル貼付剤は他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する。また、切り替え後の初回貼付用量として、高容量のフェンタニル貼付剤は推奨されない。
※7 他のオピオイド鎮痛剤からフェンタニル貼付剤への切り替え時は、フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため、少なくとも2日間は増量を行わない。
また、鎮痛効果が得られるまで時間を要するため、下記を参考に切り替え前に使用していたオピオイド鎮痛剤の投与を行うことが望ましい。

使用していたオピオイド鎮痛剤の投与回数	オピオイド鎮痛剤の使用方法
1日1回投与	投与12時間後にフェンタニル貼付を開始する。
1日2～3回投与	フェンタニル貼付開始と同時に1回量を投与する。
1日4～6回投与	フェンタニル貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与する。
持続投与	フェンタニル貼付開始後6時間まで継続して持続投与する。

※8 フェンタニル貼付剤からオキシコドン注射剤に切り替える場合は、剥離後にフェンタニルの血中濃度が適切な濃度に低下するまで時間をあけるとともに、
オキシコドン注射剤は低用量から開始する。

（参考文献）
各薬剤添付文書
がんの痛みケア・ノート（2007年、照林社）
フェントステープポケット換算表（協和発酵キリン株式会社）
オキファスト注投与量換算の目安（シオノギ製薬）

（2015年6月作成）

１．寄生動物用薬

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
コンバントリン ＜ピランテル＞ （佐藤）	10%ＤＳ（100mg/1g/包） 【院外のみ】 ¥78.3/包		蟯虫･回虫･鉤虫･東洋毛様線虫の駆除	10mg/kg分1,1回のみ投与 50kg以上：500mg/日【Max】
ストロメクトール ＜イベルメクチン＞ （ﾏﾙﾎ）	3mg/錠 ¥772.6/錠		①腸管糞線虫症 ②疥癬	①200μg/kgを2週間間隔で2回 ②200μg/kgを1回
フラジール ＜メトロニダゾール＞ （ｼｵﾉｷﾞ）	250mg/錠 ¥35.5/錠		①ﾄﾘｺﾓﾅｽ症（腟ﾄﾘｺﾓﾅｽによる感染症） ②嫌気性菌感染症（真在性皮膚感染症,外傷･熱傷及び手術創等の二次感染,骨髄炎,肺炎,肺膿瘍,骨盤内炎症性疾患,腹膜炎,腹腔内膿瘍,肝膿瘍,脳膿瘍） ③感染性腸炎 ④細菌性腟症 ⑤胃潰瘍･十二指腸潰瘍･胃MALTﾘﾝﾊﾟ腫･特発性血小板減少性紫斑病･早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃,ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染胃炎におけるﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ感染症 ⑥ｱﾒｰﾊﾞ赤痢 ⑦ﾗﾝﾌﾞﾙ鞭毛虫感染症	①1回250mg1日2回,10日間 ②1回500mg1日3～4回 ③1回250mg1日4回または 1回500mg1日3回,10～14日間 ④1回250mg1日3回または 1回500mg1日2回,7日間 ⑤1回ﾌﾗｼﾞｰﾙ：250mg,ｻﾜｼﾘﾝ：750mg ﾌﾟﾛﾄﾝﾎﾟﾝﾌﾟｲﾝﾋﾋﾞﾀｰの3剤を1日2回,7日間 ⑥1回500mg1日3回,10日間 ⑦1回250mg1日3回,5～7日間

２．公衆衛生用薬

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
安息香チンキ ＜アンソッコウ＞ （東洋）		200%液（500mL） ¥2.18/mL	創傷の防腐，製剤の乳化，製剤原料	適量を水剤等に混和し外用

３．調剤用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
塩化ナトリウム ＜塩化ナトリウム＞ （大塚）	末 ¥0.65/ｇ		食塩喪失時の補給,皮膚･創傷･粘膜面の洗浄･湿布,含嗽･噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄･喀痰排出促進,医療用器具の洗浄	【DI照会参照】
オリブ油 ＜オリブ油＞ （健栄）		液(500mL) ¥2.75/mL	皮膚･粘膜の保護,製剤原料	
グリセリンＢＣ ＜グリセリン＞ （吉田）		液(500mL) ¥2100/本	浣腸液の調整,溶剤･軟膏基材･湿潤･粘滑剤として調剤に使用	
蒸留水 ＜蒸留水＞ （大塚）		20mL/管 ¥61/管	粉末注射剤の溶解剤	
		100mL/本 ¥114/本		
		500mL/本 ¥163/本		
		1000mL/本 ¥216/本		
単シロップ ＜単シロップ＞ （健栄）	液(500mL) ¥0.85/mL		矯味目的	【DI照会参照】
乳糖 ＜乳糖＞ （ﾏｲﾗﾝ）	末 ¥2.05/ｇ		賦形剤として製剤に使用	
白色ワセリン ＜白色ワセリン＞ （健栄）		(500g) ¥1.56/ｇ	軟膏剤の基剤	
バレイショデンプン ＜バレイショデンプン＞ （健栄）	末 ¥0.78/ｇ		賦形剤として製剤に使用	

４．治療を目的としない医薬品

医薬品名（会社名）	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アロンアルファＡ ＜シアノアクリレート＞ （第一三共）		0.5g/管 ¥170/管	生体組織の創傷癒合	適量塗布
ＡＣＤ－Ａ液 ＜クエン酸ナトリウム，クエン酸，ブドウ糖＞ （ﾃﾙﾓ）		500mL/本 ¥700/本	血液保存	血液量100mLにつき，本品15mLの割合で使用する．
チャンピックス ＜バレニクリン＞ （ﾌｧｲｻﾞｰ）	0.5mg/錠 【院外のみ】 ¥136.4/錠		禁煙の補助	第1～3日目は0.5mg分１，第4～7日目は1mg分2，第8日目以降2mg分2 12週間まで
	1mg/錠 【院外のみ】 ¥244.2/錠			
ニコチネルＴＴＳ ＜ニコチン＞ （ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ）		１０:17.5mg/枚 ¥353.4/枚		1日1枚24時間貼付 最初の４週間ﾆｺﾁﾈﾙTTS30を貼付，次の２週間ﾆｺﾁﾈﾙTTS20を貼付，最後の２週間ﾆｺﾁﾈﾙTTS10を貼付
		２０:35mg/枚 ¥372/枚		
		３０:52.5mg/枚 ¥398.8/枚		

医薬品集＜付録＞

改訂第１１版

Ⅰ．薬剤投与期間の改訂

Ⅱ．医薬品情報特別版

１．抗血液凝固薬の休薬の目安

１－１：抗血液凝固薬の休薬の目安（後発医薬品を含む）

１－２：新規経口抗凝固薬(NOAC)の腎機能に応じた休薬の目安

１－３：手術前に注意が必要な薬剤

２．医薬品とグレープフルーツジュースとの相互作用

３．各種輸液製剤の予備用量について

４．感染症治療薬の点滴速度

５．バイアル入り注射剤および消毒剤等の開封後の安定性について

６．パクリタキセル注（タキソール注）の投与時における
「フィルター付き点滴セット」の使用について

７．抗ＭＲＳＡ薬のＴＤＭについて

８．透析患者禁忌の薬剤について

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

Ⅲ．処方せんの書き方（発行）等

Ⅳ．静注・点滴静注薬リスト：投与法による分類

Ⅴ．中毒１１０番電話番号

独立行政法人　地域医療機能推進機構

九州病院

投与期間の制限が設けられている院内採用医薬品（追加・訂正）

■追加・訂正（2015年4月1日現在）

【１４日分を限度とされる内服薬および外用薬】

（１）麻薬

アブストラル舌下錠100・200μg

（２）向精神薬

サノレックス錠0.5mg
（限定･院外のみ）
ダイアップ坐剤4mg
ダイアップ坐剤6mg
ダイアップ坐剤10mg
ルピアール坐剤50mg

（３）新採用医薬品

2015年4月まで

アデムパス錠2.5mg
（限定･院外のみ）
ザイザルシロップ5%
ザルティア錠5mg
ジオトリフ錠20mg
ジオトリフ錠30mg
ジオトリフ錠40mg
リオナ錠250mg(限定)

2015年5月まで

イクスタンジカプセル40mg
エフィエント3.75mg
エフィエント5mg
テノゼット錠300mg
フォシーガ錠5mg(限定)
フォシーガ錠10mg(限定)
ロンサーフ配合錠T15
ロンサーフ配合錠T20

2016年2月まで

タケキャブ錠10mg・20mg

2015年9月まで

アネメトロ点滴静注液500mg
アノーロエリプタ7吸入用
アレセンサｶﾌﾟｾﾙ20mg・40mg(限定)
クレナフィン爪外用液10%
（限定･院外のみ）
ザイティガ錠250mg(限定)
ジャカビ錠5mg(限定)
スンベプラカプセル100mg
（限定･院外のみ）
ダクルインザ錠60mg
（限定･院外のみ）

2015年11月まで

アグリリンカプセル0.5mg(限定)
グラナテック点眼液0.4%
（限定･院外のみ）
タプコム配合点眼液
（限定･院外のみ）
ベルソムラ錠15mg・20mg
ボシュリフ錠100mg
（限定･院外のみ）

【３０日分を限度とされる内服薬および外用薬】

（１）麻薬

アンペック坐薬10mg
アンペック坐薬20mg
ＭＳコンチン錠10mg
塩酸モルヒネ末
塩酸モルヒネ散10%《院内製剤》
塩酸モルヒネ錠10mg
オプソ内服液5mg
パシーフｶﾌﾟｾﾙ30mg
パシーフｶﾌﾟｾﾙ60mg
パシーフｶﾌﾟｾﾙ120mg
モルペス細粒10mg
モルペス細粒30mg

オキシコンチン錠5mg
オキシコンチン錠10mg
オキシコンチン錠20mg
オキシコンチン錠40mg
オキノーム散2.5mg
オキノーム散5mg
オキノーム散10mg
デュロテップMTﾊﾟｯﾁ2.1mg
デュロテップMTﾊﾟｯﾁ4.2mg
フェントステープ1mg
フェントステープ2mg
フェントステープ4mg
フェントステープ8mg

（２）向精神薬

ａ）催眠鎮静薬

エバミール錠1mg
コンサータ錠18mg(限定･院内のみ)
コントール散10%(限定･院外のみ)
ドラール錠15mg
トリアゾラム錠0.25mg
ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg
ユーロジン錠2mg
ブロチゾラムOD錠0.25mg
ロヒプノール錠1mg

ｂ）抗不安薬

セパゾン錠1mg
アルプラゾラム錠0.4mg
ベゲタミンB錠
ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg
メイラックス錠1mg
ユーロジン錠2mg
リーゼ錠5mg
リタリン錠10mg
レキソタン錠2mg
ブロチゾラムOD錠0.25mg
ロヒプノール錠1mg
ワイパックス錠0.5mg

【９０日分を限度とされる内服薬】

セルシン錠2mg
セルシン錠5mg
セルシン散1%
フェノバール散10%
フェノバールｴﾘｷｼﾙ0.4%
フェノバール錠30mg
複合アレビアチン錠(院内のみ)
ベンザリン錠2mg
ベンザリン錠5mg
ベンザリン細粒1%
マイスタン細粒1%(限定･院外のみ)
マイスタン錠10mg
リボトリール錠0.5mg
リボトリール細粒0.1%
リボトリール錠2mg(院外のみ)

〈 注意 〉

①催眠鎮静薬のリスミー錠2mgやルネスタ錠2mg
は、向精神薬の指定をうけていません。
したがって、投与期間の制限はありません。

②添付文書等に投与日数の制限のある場合は、
その投与日数に限定されます。
例：ジスロマック錠250mg　３日間
タミフルｶﾌﾟｾﾙ・ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ　５日間
など

1. 血液凝固作用薬の作用発現時間、休薬の目安

	薬品名	休薬の目安	作用持続時間	作用の可逆性	Tmax(hr)	半減期(hr)	効果発現(hr)	主な作用機構
抗凝固薬	ワルファリン	3～4日前	2～3日	非可逆的	3～9	36	12～24で発現、36～48時間後に十分な効果が得られる	ビタミンK代謝サイクルの中のビタミンK依存性エポキシドレダクターゼとビタミンKキノンレダクターゼを阻害
	プラザキサ	別紙参照	―	可逆的	0.5～2.0	13～27 ※腎機能低下により延長	2	直接トロンビン阻害
	イグザレルト		24時間	可逆的	4	5.8	0.5～4	第Ⅹa因子阻害
	エリキュース		24～48時間で作用消失	可逆的	3～3.5	8～10	3～3.5	第Ⅹa因子阻害
	リクシアナ	24時間以上前	24時間で作用消失	可逆的	1～2	9～11	PT、APTTは1時間で最大延長、24時間後には前値に回復	第Ⅹa因子阻害
抗血小板薬	アスピリン	7日前	7～10日	不可逆的	0.39	0.4	24	血小板のシクロオキシゲナーゼの阻害
	プラビックス		8～10日	不可逆的	1.9	6.9		血小板膜上のADP受容体に結合し、PI3キナーゼの活性化を抑制、GPⅡb/Ⅲaの活性化を阻害。さらに、各種血小板凝集因子による凝集反応を抑制
	パナルジン		8～10日	不可逆的	2	1.6	24	血小板のアデニレートシクラーゼ活性増強、血小板のGPⅡb/Ⅲa受容体へのフィブリノーゲンの結合を抑制
	エフィエント		8～10日	不可逆的	0.6 ※活性代謝物	20mg単回：4.9 3.75mg反復：0.9 ※活性代謝物	20mg負荷投与時：1時間 3.75mg連日投与時：5日間	血小板膜上のADP 受容体P2Y12 を選択的かつ非可逆的に阻害
	シロスタゾール	2日前	0.5～1日	可逆的	3	18	3	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	プロサイリン	1日前	6時間	可逆的	1.42	1.11	1	プロスタグランジン受容体への結合からアデニレートシクラーゼ活性化
	オパルモン	1日前	3時間	可逆的	1	7	1	プロスタグランジン受容体への結合からアデニレートシクラーゼ活性化
	アンプラーグ	1日前	12時間	可逆的	0.92	0.69	1.5	血小板の5-HT2レセプター阻害
	イコサペント酸エチル	7～10日前	7～10日	不可逆的(EPAが血小板膜に取り込まれる)	6		1～2週間後	血小板膜リン脂質中のEPA含量を増加させ、血小板膜からのアラキドン酸代謝を競合的に阻害する
	ロトリガ			不可逆的(EPAが血小板膜に取り込まれる。DHAの抗血小板作用はEPAより弱い。)	6			
	ロコルナール	2日前	24時間	可逆的	1	1.35	4～6時間	ホスホジエステラーゼ活性阻害、トロンボキサンA2合成阻害
	コメリアン	2日前	不明	可逆的	0.5～1.0	4	1～2	血小板のホスホリパーゼ活性阻害
	ペルサンチン	2日前	不明	可逆的	1.22	1.7	不明	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	ケタス	3日前	不明	不明	4	12	不明	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	セロクラール	2日前	不明	可逆的	0.74～1.77	1.33～1.4	1～3	血小板のα2-レセプターを介する作用

参考資料：月刊薬事 Vol.45, No.3, p178, 2003., 各医薬品インタビューフォーム

（医薬品情報2015年6月改訂）

腎機能別にみた手術/侵襲的手技前における投与中止期間

腎機能（CCr、mL/min）	プラザキサ		イグザレルト		エリキュース	
	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)
≥80	≥24時間	≥48 時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
50～80	≥36時間	≥72時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
30～50	≥48時間	≥96時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
15～30	禁忌		≥36時間	≥48時間	≥36時間	≥48時間
<15	禁忌					

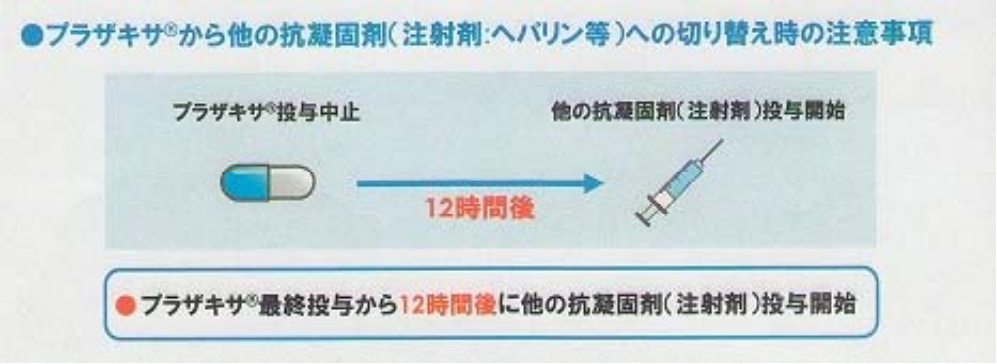
参考資料：各医薬品インタビューフォーム
Eur Heart J 2013 34:2094-2106

2）プラザキサカプセルと他の抗凝固薬の切り替えについて

プラザキサカプセルから、他の抗凝固薬（注射剤：ヘパリン等）へ切り替える際には、下記要領で切り替えをお願いします。

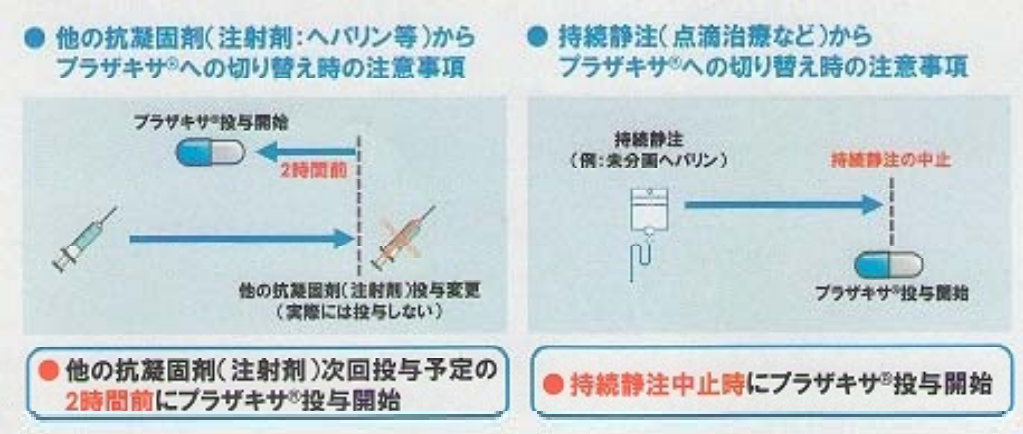
① プラザキサから他の抗凝固薬（注射剤）への切り替え

プラザキサ最終投与から12時間の間隔をあけて、他の抗凝固薬開始。



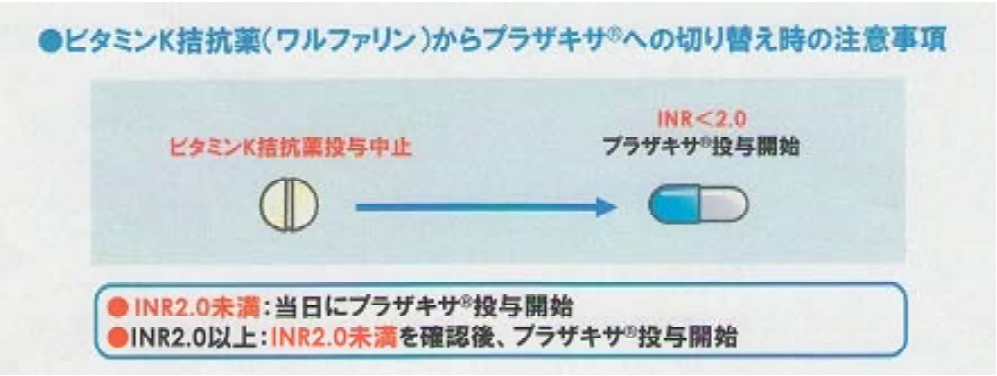
② 他の抗凝固薬（注射剤）からプラザキサへの切り替え

他の抗凝固薬の次回投与予定時間の2時間前から、あるいは持続静注中止時に、プラザキサ投与開始。



③ ワーファリンからプラザキサへの切り替え

ワーファリンからの切り替え時は、INRが2.0未満を確認した時点で、投与開始可能です。



（2011年5月作成　薬剤部）

１－３．手術前に注意が必要な薬剤

＊一般的な目安です。詳しくは主治医および麻酔科医師の指示に従って下さい。

術前内服評価のタイミング	薬効分類	主な薬剤名（当院採用薬）	継続または中断により増加する主なリスク	継続または中止の目安	備考
数週間前	喫煙		術後肺合併症	術前4～8週間禁煙	
	経口避妊薬 （低用量ピル）	トリキュラ、プラノバール、ヤーズ、ルナベル	深部静脈血栓・肺塞栓症	添付文書を参照。薬剤により、術前4週間～術後2週間 （大手術または下肢の手術において）	腹腔鏡下手術など小手術に関しては、血栓症のリスクを伴わなければ休薬の必要はない
	ホルモン補充療法	デュファストン、プロベラ、プロスタール ヒスロン			
	免疫抑制剤 （メトトレキセート）	リウマトレックス	創部感染	MTX12.5mg/週以上の高用量では1週間前から中止	低用量では休薬の必要なし
	免疫抑制剤 （TNF阻害剤）	レミケード	創部感染	最終投与の4週間後から全身麻酔による手術可能	
	パーキンソン病治療薬 （MAO阻害剤）	エフピー	術中の交感神経刺激薬投与による 高血圧、高体温、けいれん	3週間前から専門医と相談し、中止などを検討	麻酔をMAO sage technique で行う場合は休薬の必要なし
	ハーブ、サプリメント	イチョウ葉エキス、朝鮮人参、ニンニク、 アロエ、魚油、ノコギリヤシ、ビタミンE	出血	2～3週間前から中止	
		カバ、バレリアン、セントジョーンズ・ワート	麻酔作用増強		
	抗血小板薬	（付録　抗血液凝固薬休薬の目安　参照）	出血	（付録　抗血液凝固薬休薬の目安　参照）	
数日前	骨粗鬆症治療薬 （ホルモン剤）	エビスタ	深部静脈血栓・肺塞栓症	手術3日前から完全に歩行可能になるまで中止	
	NSAIDs	アスピリン（低用量を除く）、オステラック、 セレコックス、ボルタレン、ポンタール、 モービック、ロキソニン、ロルカム	出血	通常は継続して問題なし。中止をするならば48時間前	
	ジギタリス製剤	ジゴシン、ラニラピッド	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	心臓手術では48時間前、非心臓手術では24時間前に中止 ※上室性頻拍の抑制に使用している場合は手術当日まで継続する	
	ワルファリン	ワーファリン	出血	（別紙参照）	
	ED治療薬 （PDE5阻害剤）	シアリス、バイアグラ	–	手術前36時間から中止	
	ステロイド （長期投与）	コートリル、デカドロン、プレドニゾロン、 フロリネフ、リンデロン	中断後の手術侵襲による急性副腎不全 （副腎ｸﾘｰｾﾞ）	当日朝まで内服することが望ましい 必要に応じてステロイドカバーを行う	

１－３．手術前に注意が必要な薬剤

＊一般的な目安です。詳しくは主治医および麻酔科医師の指示に従って下さい。

術前内服評価のタイミング	薬効分類	主な薬剤名（当院採用薬）	継続または中断により増加する主なリスク	継続または中止の目安	備考
手術当日朝	インスリン	（K．代謝性医薬品 3．糖尿病用薬　参照）	–	絶食時または術当日より、 スライディングスケールによる管理を行う	※長時間作用のSU剤（ｵｲｸﾞﾙｺﾝ、ｸﾞﾘﾐｸﾛﾝ）などは効果が2～3日継続することを考慮し、術前2～3日前よりｲﾝｽﾘﾝに切り替える
	経口血糖降下薬	アクトス、アマリール、エクア、オイグルコン、 グリミクロン、グルファスト、ジャヌビア、 セイブル、ファスティック、ベイスン、メトグルコ	低血糖		
	降圧薬 （ACE阻害薬・ARB）	エースコール、オルメテック、タナトリル、 ディオバン、ブロプレス、ニューロタン、 ミカルディス、レニベース 【配合剤】エックスフォージ、コディオ、 プレミネント、ミカムロ、レザルタス、ミコンビ	血圧低下、腎機能低下	当日朝の内服は中止	
	パーキンソン病治療薬 （レボドパ製剤）	ネオドパストン、マドパー	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	前日夜まで内服可能、経口摂取開始とともに速やかに再開	
	パーキンソン病治療薬 （ドパミン作動薬）	カバサール、パーロデル、ビ・シフロール	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	術前12時間以上中止、経口摂取開始とともに速やかに再開	
	利尿薬	アルダクトン、サムスカ、ダイアート、 ダイアモックス、ナトリックス、フルイトラン、 ラシックス、ルプラック 【配合剤】コディオ、プレミネント、ミコンビ	脱水、低カリウム血症	当日朝まで内服することが望ましい	
	降圧薬 （β遮断薬）	アーチスト、インデラル、セレクトール、 テノーミン、ロプレソール、ミケラン、メインテート	中断による心拍数増加、反跳性高血圧		
	降圧薬 （カルシウム拮抗薬）	アダラート、セパミット、アムロジン、 アテレック、カルブロック、コニール、 ヘルベッサー、ワソラン 【配合剤】エックスフォージ、ミカムロ、 レザルタス	中断による高血圧性臓器障害		
	降圧薬 （Kチャネル開口薬）	シグマート	–		
	脂質異常症治療薬 （スタチン系）	クレストール、メバロチン、リバロ、 リピトール、ローコール	術中術後の心筋梗塞、脳梗塞		
	甲状腺薬 （T4製剤、抗甲状腺薬）	チラーヂン、メルカゾール、チウラジール	代謝異常、循環不全		
	向精神薬	（A．神経系　5．抗精神病薬　参照）	中断による術中異常高血圧等		血圧低下、心電図異常、電解質 異常、肝機能異常、抗コリン作用等 に注意が必要
	抗けいれん薬	アレビアチン、イーケプラ、エクセグラン、 エピレオプチマル、ガバペン、セルシン、 セレニカ、トピナ、デパケン、テグレトール、 ヒダントール、フェノバール、プリミドン、 マイスタン、ラミクタール、リボトリール	術中術後のてんかん発作		
	呼吸器系吸入薬	アズマネックス、アドエア、インタール、 キュバール、サルタノール、シーブリ、 シムビコート、スピリーバ、セレベント、 テルシガン、パルミコート、ビソルボン、 フルタイド、ベネトリン、メプチン	術中術後の喘息発作、肺合併症	当日朝まで継続が望ましい	

＜参考文献＞周術期管理チームテキスト（日本麻酔科学会），周術期管理の薬学管理（南山堂），Q & A on oral contraceptives（帝国臓器製薬）

2013年2月作成　薬剤部

２．医薬品とグレープフルーツジュースとの相互作用

グレープフルーツジュースの飲用により、種々の医薬品（Ｃａ拮抗薬、HMG-CoA還元酵素阻害薬、免疫抑制剤など）の血中濃度が上昇して効果が増強されるとともに、時に副作用が増加するとの報告が数多くなされています。

①発現機序

グレープフルーツジュースに含まれる成分（フラノクマリン）による消化管粘膜のチトクロームP450(CYP)3A4（薬物の解毒代謝酵素）やＰ-糖蛋白質に対する抑制効果に基づくバイオアベイラビリティの上昇が考えられます。

②相互作用の程度

バイオアベイラビリティの違いにより同効医薬品でも異なります。

例えば、Ｃａ拮抗薬では、最大血中濃度が約４倍に上昇するニソルジピン（当院未採用）からほとんど変化のないアムロジンまで、様々です。

③グレープフルーツの果肉との相互作用

代謝阻害物質（フラノクマリン）は、グレープフルーツの果肉の部分にも存在しているためグレープフルーツジュースと同様に注意が必要です。

④グレープフルーツの近縁種との相互作用

スイーティ、ポメロ（ブンタンなどを含む）、サワーオレンジ（ダイダイなどを含む）はフラノクマリンを含有し、チトクロームP450(CYP)3A4の活性を阻害します。

一方、バレンシアオレンジ、レモン、カボス、温州ミカンには、フラノクマリンはほとんど含まれていません。

⑤患者への服薬指導

グレープフルーツジュースと薬物との併用で重篤な相互作用の報告はありませんが、グレープフルーツジュースをコップ１杯程度飲用してもバイオアベイラビリティに影響を及ぼすこと、あるいはその効果が１０時間程度持続するなどの報告があります。

そのため、特にチトクロームP450(CYP)3A4で代謝される医薬品を服薬している患者に対しては、グレープフルーツジュースの飲用について説明し、その多量の摂取を控えさせるなどの服薬指導が必要です。

添付文書にグレープフルーツジュース併用注意の記載のある医薬品（当院採用薬）

分　類	医　薬　品　名
Ｃａ拮抗薬	ｱｲﾐｸｽ配合錠,ｱｾﾞﾙﾆｼﾞﾋﾟﾝ,ｱﾑﾛｼﾞﾋﾟﾝ,ｴｯｸｽﾌｫｰｼﾞ配合錠,ｶﾙｽﾛｯﾄ(限),ｼﾙﾆｼﾞﾋﾟﾝ,ﾆﾌｪｼﾞﾋﾟﾝ,ﾍﾞﾆｼﾞﾋﾟﾝ,ｾﾊﾟﾐｯﾄR,ﾚｻﾞﾙﾀｽ配合錠,ﾜｿﾗﾝ,ﾐｶﾑﾛ配合錠
肺高血圧症用薬	ｱﾄﾞｼﾙｶ(限),ﾄﾗｸﾘｱ(限)
高脂血症用薬	ｱﾄﾙﾊﾞｽﾀﾁﾝ
抗血小板剤	ｼﾛｽﾀｿﾞｰﾙ
免疫抑制剤	ﾈｵｰﾗﾙ(限),ｻﾝﾃﾞｨﾐｭﾝ(限),ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾌ(限),ｸﾞﾗｾﾌﾟﾀｰ(限)
精神神経用薬	ﾃｸﾞﾚﾄｰﾙ
抗癌剤	ｱﾌｨﾆﾄｰﾙ(限),ｱﾑﾉﾚｲｸ(限),ｲﾚｯｻ,ｲﾘﾉﾃｶﾝ注,ｲﾝﾗｲﾀ(限),ｳﾞｫﾄﾘｴﾝﾄ,ｸﾞﾘﾍﾞｯｸ,ｻﾞﾙﾃｨｱ,ｽｰﾃﾝﾄ(限),ｽﾌﾟﾘｾﾙ(限),ﾀｲｹﾙﾌﾞ(限),ﾀｼｸﾞﾅ(限),ﾀﾙｾﾊﾞ(限),ﾄｰﾘｾﾙ注(限),ﾎﾞｼｭﾘﾌ(限)
麻薬	ｱﾌﾞｽﾄﾗﾙ舌下錠
その他	ｻﾑｽｶ,ｼｱﾘｽ(限),ｼﾞﾋﾃﾞﾙｺﾞｯﾄ(限),ﾒﾁﾙｴﾙｺﾞﾒﾄﾘﾝ,ﾚｽﾋﾟｱ経口静注液,ﾚﾐｯﾁ(限),ﾚﾐﾆｰﾙOD錠(限),ﾚｸﾞﾊﾟﾗ(限),ﾚﾙﾊﾟｯｸｽ(限),ﾛﾅｾﾝ(限)

（2015年2月改訂　薬剤部）

（医薬品情報2004年2月号より抜粋・改訂）

3. 各種輸液製剤の予備容量について

輸液剤は、他の注射薬を混合して使用されることが、多くあります。このときに、その輸液剤に混合可能な注射薬容量を予備容量といいます。

今回、本院採用の輸液製剤について、それぞれの予備容量（混合可能容量）を調べ、一覧表としました。この予備容量はおおよその値ですが、輸液剤の処方や、外来・病棟等での注射剤混合の際に、参考としてください。

予備用量
（混合可能用量）

表1. 各種輸液製剤の予備容量（混合可能容量）

輸液剤名	予備用量	輸液剤名	予備用量
アミノレバン(500 mL)	160 mL	ネオアミュー(200 mL)	180 mL
ヴィーンD(500 mL)	150 mL	ハイカリック1号(700 mL)	670 mL
エルネオパ1号（1500mL）	2700mL	ハイカリック2号（700 mL）	670 mL
エルネオパ2号（1500mL）	2700mL	ハイカリックRF（500 mL）	750 mL
蒸留水(100 mL)	60 mL	ビーフリード（500 mL）	1200 mL
生食(50 mL)	30 mL	ビカーボン（500 mL）	230 mL
生食(100 mL)	60 mL	フィジオ140（500mL）	160 mL
生食(250 mL)	140 mL	5%ブドウ糖(50 mL)	30 mL
生食(500 mL)	160 mL	5%ブドウ糖（100 mL）	70 mL
生食キットH(100 mL)	20 mL	5%ブドウ糖（250 mL）	165 mL
生食(1000 mL)	650 mL	5%ブドウ糖（500 mL）	160 mL
ソルデム1(200 mL)	100 mL	10%ブドウ糖（500 mL）	160 mL
ソルデム1(500 mL)	160 mL	50%ブドウ糖（200 mL）	460mL
ソルデム3A(200 mL)	100 mL	フルカリック1号（903 mL）	total 2900 mL
ソルデム3A(500 mL)	160 mL	フルカリック2号（1003 mL）	total 2900 mL
ソルデム3AG(200 mL)	100 mL	フルカリック3号（1103 mL）	total 2900 mL
ソルデム3AG(500 mL)	160 mL	プロテアミン12X（200 mL）	110 mL
ソルラクト(500 mL)	200 mL	ヘスパンダー（500 mL）	200 mL
低分子デキストラン(250 mL)	140 mL	ハイカリックIVHバッグ（2000 mL）	400mL
デノサリン(500 mL)	160 mL	ハイカリックIVHバッグ（3000 mL）	400mL

（2012年10月改訂　薬剤部）
（2011年2月改訂　薬剤部）
（2008年4月21日作成　薬剤部）
（医薬品情報2007年4月号抜粋）

４．感染症治療薬の点滴速度（当院採用薬）

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
1	ＭＲＳＡ用薬	キュビシン	ﾀﾞﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ	30分かけて,または緩徐に静注		12時間(生食･ﾘﾝｹﾞﾙ液)	48時間(生食･ﾘﾝｹﾞﾙ液)
2		ザイボックス	ﾘﾈｿﾞﾘﾄﾞ	30分～2時間かけて (10mL/kg/hr以下)	ブドウ糖水和物5%を含有するため		
3		タゴシッド	ﾃｲｺﾌﾟﾗﾆﾝ	30分以上かけて	ショック及びレッドマン症候群が報告されているため		
4		塩酸バンコマイシン	ﾊﾞﾝｺﾏｲｼﾝ	1時間以上	ヒスタミンが遊離されてredneck症候群、血圧低下などを起こす	24時間(希釈後)	24時間(希釈後)
5	ペニシリン系	スルバシリン	ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ,ｽﾙﾊﾞｸﾀﾑ	出来るだけ遅くする	血管痛、血栓又は静脈炎を起こすことがある		
6		ゾシン	ﾀｿﾞﾊﾞｸﾀﾑ,ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝ	できるだけ遅く			
7		ビクシリン	ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ	1～2時間かけて			
8		ペニシリンＧ	ﾍﾞﾝｼﾞﾙﾍﾟﾆｼﾘﾝ	できるだけ遅く		9時間	48時間
9		ペントシリン	ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝ	1～2時間かけて			24時間
10	セフェム系	クラフォラン	ｾﾌｫﾀｷｼﾑ	およそ１時間かけて	静脈内大量投与により血管痛、血栓性静脈炎等を起こすことがある		
11		セファゾリン	ｾﾌｧｿﾞﾘﾝ	できるだけ遅く		48時間(遮光)	48時間(遮光)
12		セフタジジム	ｾﾌﾀｼﾞｼﾞﾑ	30分～2時間かけて		6時間	72時間
13		セフトリアキソン	ｾﾌﾄﾘｱｷｿﾝ	30分以上かけて			
14		セフメタゾール	ｾﾌﾒﾀｿﾞｰﾙ	できるだけ遅く		24時間	
15		ファーストシン	ｾﾌｫｿﾞﾌﾟﾗﾝ	30分～2時間かけて		12時間	12時間
16		フルマリン	ﾌﾛﾓｷｾﾌ	できるだけ遅く		6時間	24時間
17		マキシピーム	ｾﾌｪﾋﾟﾑ	30分～1時間かけて			
18		ワイスタール	ｾﾌｫﾍﾟﾗｿﾞﾝ,ｽﾙﾊﾞｸﾀﾑ	できるだけ遅く		6時間	48時間
19	アミノグリコシド系	アミカシン	ｱﾐｶｼﾝ	30分～1時間かけて	眩暈、耳鳴り、難聴などの第８脳神経障害を起こす恐れあり		
20		ゲンタシン	ｹﾞﾝﾀﾏｲｼﾝ	30分～2時間かけて			
21		トブラシン	ﾄﾌﾞﾗﾏｲｼﾝ	30分～2時間かけて 1回90mgの場合は1時間以上かけて			
22		ハベカシン	ｱﾙﾍﾞｶｼﾝ	成人:30分～2時間, 小児:30分			
23		パニマイシン （限定）	ｼﾞﾍﾞｶｼﾝ	30分～1時間	静脈内投与により、ときに血管痛を起こすことがある		
24	カルバペネム系	オメガシン （限定）	ﾋﾞｱﾍﾟﾈﾑ	30分～1時間かけて		6時間以内に投与終了	24時間以内に投与終了
25		カルベニン	ﾊﾟﾆﾍﾟﾈﾑ	30分以上かけて 1回1gのときは60分以上かけて	痙攣、意識障害などの中枢神経症状があらわれることがある	6時間	
26		チエナム	ｲﾐﾍﾟﾈﾑ	30分以上かけて		4時間	
27		フィニバックス	ﾄﾞﾘﾍﾟﾈﾑ	30分以上かけて		8時間	24時間

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
28	カルバペネム系	メロペネム	ﾒﾛﾍﾟﾈﾑ	30分以上かけて	5%ブドウ糖液との配合は力価がより早く低下する	6時間(生食)	24時間(生食)
29	ホスホマイシン系	ホスミシンＳ	ﾎｽﾎﾏｲｼﾝ	1～2時間かけて	血管痛、血栓又は静脈炎を起こすことがある		
30	マクロライド系	ジスロマック	ｱｼﾞｽﾛﾏｲｼﾝ	2時間かけて	注射部位疼痛が発現する可能性がある(注射溶液濃度は1.0mg/mLを超えない)	24時間	
31	リンコマイシン系	ダラシンＳ	ｸﾘﾝﾀﾞﾏｲｼﾝ	30分～1時間	急速静注では心停止をきたす恐れあり		
32	グリシルサイクリン系	タイガシル	ﾁｹﾞｻｲｸﾘﾝ	30～60分かけて		18時間	
33	テトラサイクリン系	ミノサイクリン	ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ	30分～2時間かけて	血管痛・血栓性静脈炎をおこすことがある	12時間以内に投与終了	12時間以内に投与終了
34	ニューキノロン系	クラビット	ﾚﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ	およそ１時間かけて			
35		シプロキサン	ｼﾌﾟﾛﾌﾛｷｻｼﾝ	1時間かけて(30分以内の点滴静注は避ける)	血管痛や静脈炎の危険を軽減するため、希釈して投与またはすでに投与している補液等の側管に連結して投与。 なお水分負荷がかけられない場合には希釈せずに投与することができるが、その際はできるだけ太い静脈から投与することが望ましい。		
36		パシル	ﾊﾟｽﾞﾌﾛｷｻｼﾝ	30分～1時間かけて 1回1000mgの場合は1時間以上かけて			
37	サルファ剤	バクトラミン	ｽﾙﾌｧﾒﾄｷｻｿﾞｰﾙ,ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑ	1～2時間かけて			
38	モノバクタム系	アザクタム （限定）	ｱｽﾞﾄﾚｵﾅﾑ	出来るだけ遅くする	静脈内大量投与により血管痛、静脈炎、灼熱感を起こすことがある	24時間	48時間
39	抗結核薬	ストレプトマイシン	ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ	筋注のみ	眩暈、耳鳴り、難聴などの第８脳神経障害を起こす恐れあり		
40	抗ウイルス薬	アシクロビン	ｱｼｸﾛﾋﾞﾙ	1時間以上かけて	血管痛、血管の脆弱化があらわれることがある 1アンプルあたり100mL以上の補液で希釈する（用時調製）。		冷所保管不可（結晶析出）
41		シナジス	ﾊﾟﾘﾋﾞｽﾞﾏﾌﾞ	筋注のみ		6時間	6時間
42		デノシン	ｶﾞﾝｼｸﾛﾋﾞﾙ	1時間以上かけて	強アルカリ性を呈することから、血管痛・静脈炎があらわれることがある(希釈10mg/mL以下)	24時間	冷所保管不可（結晶析出）
43		ホスカビル （限定）	ﾎｽｶﾙﾈｯﾄ	60mg/kg/回：1時間以上 90～120mg/kg/回：2時間以上	中心静脈投与：希釈不要 末梢静脈投与：血管への刺激を軽減するため5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液にて2倍希釈(12mg/mL)	24時間	

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
44	抗真菌薬	アムビゾーム	ｱﾑﾎﾃﾘｼﾝB	1～2時間以上かけて	投与時関連反応(発熱,悪寒,悪心,嘔吐,頭痛,背部痛,骨痛等)が発現した場合は、点滴を一時中断し、患者の様子をみながら点滴速度を遅らせて投与を再開するなどの措置をとること。		24時間(注射用水で溶解) 6時間(5%TZに希釈)
45		ファンガード	ﾐｶﾌｧﾝｷﾞﾝ	75mg以下：30分以上かけて 75mgを超える：1時間以上かけて	調整後6時間以降は遮光	24時間(遮光)	
46		ブイフェンド	ﾎﾞﾘｺﾅｿﾞｰﾙ	3mg/kg/時間を超えない速度で	添加物の血漿中濃度の上昇に伴い、アナフィラキシー様反応を起こす恐れあり		
47		プロジフ	ﾎｽﾌﾙｺﾅｿﾞｰﾙ	10mL/分を超えない速度で静注			
48	抗ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ剤	ラピアクタ	ﾍﾟﾗﾐﾋﾞﾙ	15分以上			

(医薬品情報2004年8月号抜粋・改訂)
(2009年2月, 2013年2月, 2014年2月, 2015年3月改訂　薬剤部)

５．バイアル入り注射剤および消毒剤等の開封後の安定性について

２００９年度医療監視の際、バイアル入り注射剤等の開封後の使用期限について指摘がありましたので、再度徹底をお願いいたします。

当院におけるバイアル入り注射剤および消毒剤・軟膏剤・点眼剤の容器開封後の使用期限に関する取り決めは、以下の通りとなっています。

１．注射剤

１）保存剤を含まないバイアル入り注射剤（抗生剤等）
開封（溶解）後**速やかに**使用すること。
（原則として、１回あるいは１日以内の使用）

２）保存剤を含むバイアル入り注射剤
（カプロシン、ノボヘパリン、キシロカインエピレナミン含有、インスリン等）
開封後**３０日以内**に使用すること。

【バイアル入り注射剤使用の手順と注意】
・手順①　開封した日付をバイアルに記入(確認)
　　②　ゴム栓部分のアルコール綿での清拭
　　③　ゴム栓部分の同一箇所を避けて穿刺すること
　　④　汚染の無い場所での保管
・細菌汚染・異物混入を避ける操作を行う。
・保存剤を含むバイアルは、開封後は約３０日間の使用が可能であるが、頻回に穿刺する場合は、速やかに使い切るようにする。

２．消毒剤

１）希釈滅菌消毒剤
（0.05%マスキン水、0.025%ヂアミトール水、0.02%アクリノール液等）
原則として容器開封後**３ヶ月**まで有効とする。

２）消毒剤原液
（消毒用エタプロコール、イソジン液、エルエイジー10液、ヂアミトール10%、0.1%アクリノール液等）
原則として容器に記載されている使用期限まで有効とする。

【消毒剤使用時の注意】
・いずれについても室温保存の下、清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
・容器の注ぎ口やキャップの内側に手指が触れた場合（特に希釈消毒剤）には、廃棄処分にすること。

３．軟膏剤

原則として容器に記載されている**使用期限まで**有効とする。

【軟膏剤使用時の注意】
- 薬剤毎に定められた保存方法(冷所、室温等)に従い、清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- 小分けや混合した軟膏については、なるべく速やかに使用し、変色・分離・敗油臭があるときは廃棄処分すること。

４．点眼剤

開封後**３０日以内**に使用すること。

【点眼剤使用時の注意】
- 点眼剤は、薬剤毎に定められた条件下で保存し(冷所、室温等)、開封後は清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- 開封後の保存方法について、必ず冷所で保存するもの（キサラタン点眼、ベストロン点眼等）や冷所保存を避けるもの（リザベン点眼）があるため、薬剤毎に確認すること。
- 用時溶解する点眼剤で使用期限が限定されているもの（ベストロン点眼、タチオン点眼)は、溶解した日付を書き込み、期限をすぎた時点で廃棄処分とする。
- 検査用点眼剤など不特定多数の患者に対して使用する場合、点眼瓶のノズルが患者の睫毛や皮膚に接した時には廃棄処分とする。
- 院内製剤品は使用期限を遵守すること。

参考文献

１）第１４改正　日本薬局方（2001）
２）注射剤－その基礎と調剤と運用－，南山堂（1995）
３）改訂版　消毒剤の選び方と使用上の留意点，薬業時報社（1998）
４）増補　消毒と滅菌のガイドライン，へるす出版（2002）
５）第１１改訂　調剤指針，薬事日報社（2002）
６）臨眼，Vol.50，No.3，p411-414（1996）

（２００９年１１月作成　薬剤部）

６．パクリタキセル注（タキソール注）の投与時に「フィルター付き点滴セット」の使用

先日（５／16）、ブリストル・マイヤーズ（株）より、「パクリタキセル（タキソール）注射液 100mg」バイアル中に微小な浮遊物があるとの報告、及び現時点でのメーカーとしての見解の連絡を受けました。

報告と見解の概要は次の通りです。

１）分析の結果、浮遊物はシリコンであった。
２）原因としては、ゴム栓由来のシリコンが考えられる。
３）浮遊物は、輸液フィルターを使用することにより除去される。
４）現在までに、浮遊物が原因と考えられる副作用等の報告はない。

加えて、次の要請を受けました

「パクリタキセル（タキソール）注射液の投与に際しては、添付文書（※）に記載されている通り、**0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通しての投与**をお願いいたします。」

パクリタキセル注（タキソール注）の投与時には「フィルター付き点滴セット」の使用をお願いします。

当院では、フィルター付き点滴セット（ＪＥ-ＰＦＰＷ８０１Ｌ０２）が該当します

本件の問い合わせ先　：　薬剤部医薬品情報室　内線２７２５

※：（添付文書）本剤投与時には、0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。また、点滴用セット等で本剤の溶解液が接触する部分に、可塑剤としてDEHP〔di-(2-ethylhexyl)phthalate：フタル酸ジ-(2-エチルヘキシル)〕を含有しているものの使用を避けること。

点滴セットの注意書きは、他にｱﾑﾋﾞｿﾞｰﾑ,ｲﾝﾄﾗﾌｧｯﾄ,ｴﾙﾈｵﾊﾟ,ﾊﾟﾙｸｽ,ﾋﾞﾀｼﾞｪｸﾄ,ﾌﾙｶﾘｯｸ,ﾌﾟﾛﾎﾟﾌｫｰﾙ,ﾍﾞﾌﾟｼﾄﾞ,ﾐﾘﾌﾟﾗ,ﾘﾋﾟｵﾄﾞｰﾙ,ﾛﾋﾟｵﾝがあります。

追記：2008年4月17日、ブリストル・マイヤーズ（株）より、タキソール注射液のシリコーン浮遊物の発生を防止するために、天面部分（針刺し部）をフッ素樹脂でラミネートしている新ゴム栓へ変更したものへ切り替えると連絡がありました。
0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通しての投与は引き続き行ってください。

（2011年2月2日改訂　薬剤部）
（医薬品情報2007年6月号より抜粋）

7. 抗MRSA薬のTDMについて

抗MRSA薬の薬物治療モニタリング（TDM）について、2012年9月、日本化学療法学会、日本TDM学会より「抗菌薬TDMガイドライン2012」が発表されました。
バンコマイシン及びテイコプラニンについて、その概略をご紹介します。

商品名	バンコマイシン注	タゴシッド注
一般名（略号）	バンコマイシン（ VCM ）	テイコプラニン（ TEIC ）
採血 タイミング	**トラフ値（投与前30分以内）** ルーチンでのピーク値測定は推奨しない	**トラフ値** ピーク値測定の意義はない
目標 血中濃度	**目標トラフ値**: 10-20 μg/mL* 菌血症、心内膜炎、骨髄炎、髄膜炎、肺炎（院内肺炎、医療・介護関連肺炎）、重症皮膚軟部組織感染においては、トラフ値は15-20μg/mL を推奨する。ただし、小児においてトラフ値15-20 μg/mLとした場合の有効性及び安全性は確立していない。	**目標トラフ値**: 10-30 μg/mL 重症例や複雑性感染症（心内膜炎、骨関節感染症など）では、良好な効果を得るために目標トラフ値を20 μg/mL 以上に設定する。
初回TDM	腎機能正常で1日2回投与の場合、**4-5回投与直前（3日目）**にTDM を行う。	負荷投与を行った症例では腎機能に関わらず 3日間投与後、**4日目**にTDMを行う。
2回目以降の TDM	**1週間に1回**のTDM 実施を推奨する。 病態次第では頻回な実施を考慮する。	通常は**1週間に1度**であるが、 病態次第では頻回な実施を考慮する。
半減期	約5時間	46～56時間
組織移行性	◎胸水、腹水 ○肺組織（血中濃度の1/3～1/5）、髄液、骨組織、関節液	◎心臓、肺組織、骨、皮下組織 △髄液
中毒域	トラフ値20μg/mL以上は腎毒性の発現が高率となり推奨されない。 透析患者において、有害事象が高率となる血中濃度に関してはコンセンサスが得られていない。	トラフ値が30μg/mL以上で、有効率が高まるとの報告はない。 トラフ値が40～60μg/mL以上では、腎障害、血液毒性、肝障害などの副作用が報告されている。
備考	トラフ値15～20μg/mLを目標値とする場合、安全性を考慮し、初回投与は通常投与量またはトラフ値10～15μg/mLを目標とした投与設計で投与を開始し、実測値、臨床経過をもとに15～20μg/mLを目指した投与設計を行う。	初回投与時は腎機能に関わらず、負荷投与を含め3日間は腎機能正常者と同量の投与を行う。

＊ バンコマイシンの添付文書には、「トラフ値は10μg/mLを超えないことが望ましい。」と記載されています。
トラフ値10-20μg/mLで投与した場合においても、腎機能等には十分に注意をお願いいたします。

2012年10月作成

８．透析患者への投与禁忌薬剤について～第３版～

１．抗血液凝固薬

商　品　名	理　由（添付文書記載事項）
イグザレルト錠 (ﾘﾊﾞｰﾛｷｻﾊﾞﾝ)	CCr15mL/min未満の患者における使用経験がない。
プラザキサｶﾌﾟｾﾙ (ﾀﾞﾋﾞｶﾞﾄﾗﾝ)	本剤は主に腎臓を介して排泄されるため、血中濃度が上昇し出血の危険性が増大するおそれがある。
リクシアナ錠 (ｴﾄﾞｷｻﾊﾞﾝﾄｼﾙ酸塩)	<循環器適応>CCr15mL/min未満のある患者では､使用経験がない。また、ベネフィットを上回る出血のリスクが生じるおそれがある。 <整形適応>CCr30mL/min未満の患者では、使用経験が少ない。また、静脈血栓塞栓症発症抑制効果を上回る出血のリスクを生じるおそれがある。
アリクストラ皮下注 (ﾌｫﾝﾀﾞﾊﾟﾘﾇｸｽ) 【限定採用薬】	重篤な腎障害(Ccr＜30mL/min)のある患者の場合、本剤は腎臓を介して排泄されるので、血中濃度が上昇し、出血の危険性が増大するおそれがある。
クレキサン注 (ｴﾉｷｻﾊﾟﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ)	重度の腎障害(CCr30mL/min未満)のある患者では、血中濃度が上昇し、出血の危険性が増大するおそれがある。
エリキュース錠 (ｱﾋﾟｷｻﾊﾞﾝ)	CCr15mL/min未満の患者における使用経験がない。

２．循環器用薬

①不整脈薬

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
リスモダンＲ錠 (ｼﾞｿﾋﾟﾗﾐﾄﾞ)	本剤は主に腎臓で排泄されるため、血中半減期が延長することがあるので、徐放性製剤の投与は適さない。
シベンゾリン錠 シベノール注 (ｺﾊｸ酸ｼﾍﾞﾝｿﾞﾘﾝ)	本剤は透析ではほとんど除去されない。 急激な血中濃度上昇により意識障害を伴う低血糖などの重篤な副作用を起こしやすい。
ソタコール錠 (塩酸ｿﾀﾛｰﾙ) 【限定採用薬】	重篤な腎障害（Ccr＜10mL/min）のある患者の場合、本剤は腎臓から排泄されるため,血中濃度が高くなることにより,重篤な副作用が発現するおそれがある。

②ＡＣＥ阻害薬

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
タナトリル錠 (塩酸ｲﾐﾀﾞﾌﾟﾘﾙ) エナラプリル錠 (ﾏﾚｲﾝ酸ｴﾅﾗﾌﾟﾘﾙ) カプトリル錠 (ｶﾌﾟﾄﾌﾟﾘﾙ) 【限定採用薬】 ロンゲス錠 (ﾘｼﾉﾌﾟﾘﾙ) 【限定採用薬】	１.デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフェレーシスを施行中の患者：ブラジキニンの蓄積により血圧低下、潮紅、嘔気、嘔吐、腹痛、しびれ、熱感、呼吸困難、頻脈等のショック症状を起こすことがある。 ２.アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜(AN69)を用いた血液透析施行中の患者：ブラジキニンの代謝が妨げられ蓄積することによるアナフィラキシー様症状を発現することがある 。

※なお､「デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコ

ール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフェレーシス」および「アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜(AN69)による血液透析」は、当院では行われておりません。

③持続性ARB／利尿薬(ﾋﾄﾞﾛｸﾛﾛﾁｱｼﾞﾄﾞ:HCTZ)合剤

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
プレミネントLD配合錠 (ﾛｻﾙﾀﾝｶﾘｳﾑ/HCTZ)	血清クレアチニン値が2.0mg／dLを超える腎機能障害患者においては、ヒドロクロロチアジドにより腎血流量が低下し、ロサルタンカリウムにより腎機能障害が悪化するおそれがある。
エカード配合錠LD エカード配合錠HD (ｶﾝﾃﾞｻﾙﾀﾝｼﾚｷｾﾁﾙ/HCTZ)【限定採用薬】	ヒドロクロロチアジドの効果が期待できない。 血清クレアチニン値が2.0mg/dLを超える腎機能障害患者においては、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。
コディオ配合錠 (ﾊﾞﾙｻﾙﾀﾝ/HCTZ)	本剤の効果が期待できない。 血清クレアチニン値が2.0mg/dLを超える腎機能障害患者においては、ヒドロクロロチアジドにより腎血流量が低下するおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。なお、バルサルタンにより腎機能障害が悪化するおそれもある。
ミコンビ配合錠 (ﾃﾙﾐｻﾙﾀﾝ/HCTZ)	本剤の効果が期待できない。 血清クレアチニン値が2.0mg/dLを超える腎機能障害患者においては、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。

④高脂血症用薬

商　品　名	理由（添付文書等記載事項）
ベザトールSR錠 (ﾍﾞｻﾌｨﾌﾞﾗｰﾄ)	本剤投与中，急激な腎機能の悪化を伴う横紋筋融解症があらわれることがある。この症状は透析患者，腎不全などの重篤な腎機能障害を有する患者であらわれやすいため，これらの患者には投与しないこと。
リピディル錠 (ﾌｪﾉﾌｨﾌﾞﾗｰﾄ) 【限定採用薬】	腎機能障害を有する患者においては、AUCの増加、Cmaxの上昇、及びT1/2の延長傾向がみられる。 また、他のフィブラート系薬剤において、横紋筋融解症発現症例の多くが腎機能障害を有する患者であったことが報告されているため、目安としてSCr2.5mg/dL以上の患者には投与しないこと。

⑤利尿薬

商　品　名	理由（添付文書等記載事項）
フルイトラン錠 (ﾄﾘｸﾛﾙﾒﾁｱｼﾞﾄﾞ)	GFRが30mL/min以下では無効である(ただし、ループ利尿剤と併用すると相乗効果が認められる)。無尿患者には禁忌。
アルダクトンA錠 (ｽﾋﾟﾛﾉﾗｸﾄﾝ) ソルダクトン注 (ｶﾝﾚﾉ酸ｶﾘｳﾑ)	腎機能を更に悪化させるおそれがある。また、腎からのカリウム排泄が低下しているため高カリウム血症を誘発又は増悪させるおそれがある。無尿患者には無効である。
ラシックス錠・注 (ﾌﾛｾﾐﾄﾞ) ルプラック錠 (ﾄﾗｾﾐﾄﾞ)	無尿患者には効果がないため投与しない。

ダイアート錠 （ｱｿﾞｾﾐﾄﾞ）	無尿患者には効果がないため投与しない。
ナトリックス錠 （ｲﾝﾀﾞﾊﾟﾐﾄﾞ）	GFRが30mL/min以下では無効である。

⑥抗アルドステロン薬

商　品　名	理由（添付文書等記載事項）
セララ錠 （ｴﾌﾟﾚﾚﾉﾝ）	中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランス50mL/分未満のある患者）は、高カリウム血症を誘発させるおそれがある。

⑦硝酸薬

商　品　名	理由（添付文書等記載事項）
ニトプロ注 （ﾆﾄﾛﾌﾟﾙｼﾄﾞﾅﾄﾘｳﾑ）	腎循環が抑制されるため尿量のある患者では禁忌であるが、無尿の患者では減量の必要はない。

⑧肺高血圧症治療薬

商　品　名	理由（添付文書等記載事項）
アドシルカ錠 （ﾀﾀﾞﾗﾌｨﾙ）	重度の腎障害のある患者では本剤の血漿中濃度が上昇すること、使用経験が限られていること及び透析によるクリアランスの促進は期待されないため。
アデムパス錠【限定】 （ﾘｵｼｸﾞｱﾄ）	使用経験がなく，本剤の血中濃度が著しく上昇するおそれがある。

３．消化器管用薬

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
ｽｸﾗﾙﾌｧｰﾄ内用液 （ｽｸﾗﾙﾌｧｰﾄ水和物） ＦＫ散 （ﾒﾀｹｲ酸ｱﾙﾐﾝ酸Mg等） アシドレス液 （水酸化Alｹﾞﾙ等） アドソルビン （天然ｹｲ酸Al）	長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症があらわれることがある。
ラベキュアパック （ﾋﾟﾛﾘ除菌薬ｾｯﾄ）	アモキシシリン水和物、クラリスロマイシンの血中濃度が上昇することがあり、本製品では各製剤の投与量を調節できないため、本製品の使用を避けること。

４．糖尿病治療薬

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
バイエッタ皮下注 （ｴｷｾﾅﾁﾄﾞ）	本剤の消化器系副作用により忍容性が認められていない。
ファスティック錠 （ﾅﾃｸﾞﾘﾆﾄﾞ）	低血糖を起こすおそれがある。 （活性代謝物の蓄積による）
メトグルコ錠 （ﾒﾄﾎﾙﾐﾝ塩酸塩）	高い血中濃度が持続するおそれがあり、乳酸アシドーシスを起こしやすい。
アクトス錠 （ﾋﾟｵｸﾞﾘﾀｿﾞﾝ）	重篤な腎機能障害(CCr<10mL/min)のある患者には投与禁忌。

グリメピリドOD錠 （ｸﾞﾘﾒﾋﾟﾘﾄﾞ） オイグルコン錠 （ｸﾞﾘﾍﾞﾝｸﾗﾐﾄﾞ） グリミクロン錠 （ｸﾞﾘｸﾗｼﾞﾄﾞ）	重篤な腎機能障害のある患者では、未変化体や活性代謝物の蓄積により低血糖を起こすおそれがある。

５．抗パーキンソン薬

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
ドプスカプセル （ﾄﾞﾛｷｼﾄﾞﾊﾟ）	症状が悪化するおそれがある。 用法（透析開始30分から1時間前に経口投与）・用量を遵守し、透析後の追加など過剰投与（過度の昇圧反応が見られることがある）にならないように注意すること。
シンメトレル錠 （ｱﾏﾝﾀｼﾞﾝ塩酸塩）	本剤は大部分が未変化体として尿中に排泄されるので、蓄積により、意識障害、精神症状、痙攣、ミオクロヌス等の副作用が発現することがある。また、本剤は血液透析によって少量しか除去されない。
ミラペックスLA錠 （ﾌﾟﾗﾐﾍﾟｷｿｰﾙ徐放錠） 【限定採用薬】	主に尿中に未変化体として排泄されるため、腎機能障害患者では副作用が発現しやすくなるおそれがあある。高度な機能障害患者（CCr＜30mLmin）に対しては状態を観察しながら速放錠であるビ・シフロール錠を慎重に投与すること。

６．泌尿生殖器用薬

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
ザルティア錠 （ﾀﾀﾞﾗﾌｨﾙ）	重度の腎障害のある患者では本剤の血漿中濃度が上昇すること及び使用経験が限られているため。
レビトラ錠【限定】 （ﾊﾞﾙﾃﾞﾅﾌｨﾙ）	本剤は血漿蛋白結合率が高く，尿中排泄率が低いため腎透析によるクリアランスの促進は期待できない。
ユリノーム錠 （ﾍﾞﾝｽﾞﾌﾞﾛﾏﾛﾝ）	尿中排泄促進剤であり、尿量が減少した患者では無効のため投与しない。
ボンゾール錠【限定】 （ﾀﾞﾅｿﾞｰﾙ）	重篤な腎疾患では浮腫等の症状が強く現れることがある。

７．抗ウイルス薬／抗真菌薬

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
シンメトレル錠 （ｱﾏﾝﾀｼﾞﾝ塩酸塩）	本剤は大部分が未変化体として尿中に排泄されるので、蓄積により、意識障害、精神症状、痙攣、ミオクロヌス等の副作用が発現することがある。また、本剤は血液透析によって少量しか除去されない。
コペガス錠 レベトール錠 （ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ）	慢性腎不全又はCCrが50mL/min以下の腎機能障害のある患者では、本剤の血中濃度が上昇し，重大な副作用が生じることがある。
ホスカビル注【限定】 （ﾎｽｶﾙﾈｯﾄﾅﾄﾘｳﾑ）	本剤の投与により重度の腎障害を起こすことがあり、また、腎機能の低下により本剤の排泄遅延が起こるため、CCr0.4mL/min/kg(体重50kgの場合20mL/min)以下では使用を避ける。
ブイフェンド注 （ﾎﾞﾘｺﾅｿﾞｰﾙ）	腎排泄である注射剤の添加物スルホブチルエーテルβ-シクロデキストリンナトリウム(SBECD)の蓄積により腎機能障害が悪化するおそれがあるので、重度の腎機能障害のある患者(CCr<30mL/min)には経口剤の投与を考慮すること。

８．ビタミン剤（ビタミンＡおよび誘導体）

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
チョコラ注 （ﾋﾞﾀﾐﾝA）	腎不全患者では元々ビタミンＡ過剰例が多いので投与しない。
チガソンカプセル （ｴﾄﾚﾁﾅｰﾄ）	腎障害のある患者では本剤の代謝・排泄が遅れ、作用が増強するおそれがある。
ベサノイドカプセル （ﾄﾚﾁﾉｲﾝ）	腎障害のある患者では重篤な腎障害を起こすおそれがあり、透析患者ではビタミンＡ過剰症が増悪するおそれがある。

９．その他

商　品　名	理　由（添付文書等記載事項）
抗アレルギー薬 ザイザル錠、シロップ （ﾚﾎﾞｾﾁﾘｼﾞﾝ）	重度の腎障害(CCr<10mL/min)のある患者では、高い血中濃度が持続するおそれがあるため、投与禁忌。
抗うつ薬（SNRI） サインバルタカプセル （ﾃﾞｭﾛｷｾﾁﾝ）	高度(CCr<30mL/min)の腎機能障害のある患者では、血中濃度が上昇するため投与禁忌。
慢性疼痛治療剤 トラムセット配合錠 （ﾄﾗﾏﾄﾞｰﾙ/ｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝ）	腎機能障害患者では、ﾄﾗﾏﾄﾞｰﾙおよびｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝのt1/2、AUCがともに増大する。また非ｽﾃﾛｲﾄﾞ性消炎鎮痛剤の投与により腎障害が悪化することがあり、ｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝの腎障害を悪化させる可能性がある。高度腎機能障害患者(CCr<30mL/min)における、本剤の薬物動態について検討はされていない。
抗利尿ホルモン用剤 ミニリンメルトOD錠 （ﾃﾞｽﾓﾌﾟﾚｼﾝ）	中等度以上(CCr<50mL/min)の腎機能障害のある患者では、血中半減期の延長、血中濃度の増加が認められ、水分貯留を引きおこし低ナトリウム血症発現のリスクを高める可能性がある。
月経困難症治療剤 ヤーズ配合錠 （ﾄﾞﾛｽﾋﾟﾚﾉﾝ/ ｴﾁﾆﾙｴｽﾄﾗｼﾞｵｰﾙ）	重篤な腎障害又は急性腎不全のある患者では、ドロスピレノンの弱い抗ミネラルコルチコイド作用により，血漿中レニン及びアルドステロン活性が上昇することがある。
脳保護薬 ラジカット注 （ｴﾀﾞﾗﾎﾞﾝ）	腎機能障害が悪化するおそれがあるため、重篤な腎機能障害のある患者には禁忌。
関節リウマチ治療薬 リウマトレックスCp （ﾒﾄﾄﾚｷｻｰﾄ）	腎障害のある患者では排泄が遅延し、副作用が強くあらわれるおそれがある。
経口腸管洗浄剤 ビジクリア配合錠 （ﾘﾝ酸二水素Na水和物 /無水ﾘﾝ酸水素二Na）	吸収されたリンの排泄が遅延し、血中リン濃度の上昇が持続するおそれがある。腎機能障害、急性リン酸腎症（腎石灰沈着症）を悪化させるおそれがある。

参考文献：[改訂２版]腎機能別薬剤使用マニュアル，（株）じほう
[改訂２版]透析患者への投薬ガイドブック，（株）じほう
各種添付文書

（医薬品情報2010年12月号抜粋）
（2015年2月改訂）

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分類	薬効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
1	中枢神経用薬		内服	ＰＬ配合顆粒	配合剤	眠気
2				ＳＧ配合顆粒	配合剤	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
3				アーテン錠	ﾄﾘﾍｷｼﾌｪﾆｼﾞﾙ	ねむけ、眼の調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
4				アキネトン錠	ﾋﾞﾍﾟﾘﾃﾞﾝ	眠気、調節障害および注意力・集中力・反射機能等の低下
5				アタラックス-Pカプセル	ﾋﾄﾞﾛｷｼｼﾞﾝ	眠気
6				アナフラニール錠	ｸﾛﾐﾌﾟﾗﾐﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
7				アモキサンカプセル	ｱﾓｷｻﾋﾟﾝ	
8				アレビアチン錠・散	ﾌｪﾆﾄｲﾝ	
9				イーケプラ錠・ドライシロップ	ﾚﾍﾞﾁﾗｾﾀﾑ	
10				インフリーＳカプセル	ｲﾝﾄﾞﾒﾀｼﾝ	眠気、めまい
11				ウインタミン錠	ｸﾛﾙﾌﾟﾛﾏｼﾞﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
12				エクセグラン錠・散	ｿﾞﾆｻﾐﾄﾞ	
13				エチゾラム錠	ｴﾁｿﾞﾗﾑ	
14				エバミール錠	ﾛﾙﾒﾀｾﾞﾊﾟﾑ	
15				エビリファイＯＤ錠	ｱﾘﾋﾟﾌﾟﾗｿﾞｰﾙ	
16				エフピーＯＤ錠	ｾﾚｷﾞﾘﾝ	めまい、注意力・集中力・反射機能等の低下
17				カバサール錠	ｶﾍﾞﾙｺﾞﾘﾝ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、起立性低血圧
18				ガバペン錠	ｶﾞﾊﾞﾍﾟﾝﾁﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
19				クエチアピン錠	ｸｴﾁｱﾋﾟﾝ	
20				クリアミン配合錠A	ｴﾙｺﾞﾀﾐﾝ他	めまい等
21				グラマリール錠	ﾁｱﾌﾟﾘﾄﾞ	眠気、めまい・ふらつき等
22				グランダキシン錠	ﾄﾌｨｿﾊﾟﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
23				コンサータ錠	ﾒﾁﾙﾌｪﾆﾃﾞｰﾄ	めまい、眠気、視覚障害等
24				コントール散	ｸﾛﾙｼﾞｱｾﾞﾎﾟｷｼﾄﾞ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
25				コントミン錠	ｸﾛﾙﾌﾟﾛﾏｼﾞﾝ	
26				サインバルタカプセル	ﾃﾞｭﾛｷｾﾁﾝ	眠気、めまい等
27				シンメトレル錠	ｱﾏﾝﾀｼﾞﾝ	めまい、ふらつき、立ちくらみ、霧視等
28				ジェイゾロフト錠	ｾﾙﾄﾗﾘﾝ	眠気、めまい等
29				ジクロフェナク錠・ＳＲカプセル	ｼﾞｸﾛﾌｪﾅｸﾅﾄﾘｳﾑ	眠気、めまい、霧視
30				ジプレキサザイディス錠	ｵﾗﾝｻﾞﾋﾟﾝ	傾眠、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
31				ストラテラカプセル	ｱﾄﾓｷｾﾁﾝ	眠気、めまい等
32				スルピリド錠100mg	ｽﾙﾋﾟﾘﾄﾞ	
33				セパゾン錠	ｸﾛｷｻｿﾞﾗﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
34				セルシン錠・散	ｼﾞｱｾﾞﾊﾟﾑ	
35				セレコックス錠	ｾﾚｺｷｼﾌﾞ	浮動性めまい、回転性めまい、傾眠等
36				セレニカR顆粒	ﾊﾞﾙﾌﾟﾛ酸ﾅﾄﾘｳﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
37				セレネース錠・液	ﾊﾛﾍﾟﾘﾄﾞｰﾙ	
38				ソラナックス錠	ｱﾙﾌﾟﾗｿﾞﾗﾑ	
39				ゾルピデム酒石酸塩OD錠	ｿﾞﾙﾋﾟﾃﾞﾑ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
40				テグレトール錠・細粒	ｶﾙﾊﾞﾏｾﾞﾋﾟﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
41				テトラミド錠	ﾐｱﾝｾﾘﾝ	
42				ディアコミットドライシロップ	ｽﾁﾘﾍﾟﾝﾄｰﾙ	
43				デジレル錠	ﾄﾗｿﾞﾄﾞﾝ	
44				デパケン錠・R錠・細粒・シロップ	ﾊﾞﾙﾌﾟﾛ酸ﾅﾄﾘｳﾑ	
45				トピナ錠	ﾄﾋﾟﾗﾏｰﾄ	
46				トフラニール錠	ｲﾐﾌﾟﾗﾐﾝ	
47				トラマールカプセル	ﾄﾗﾏﾄﾞｰﾙ	眠気、めまい、意識消失 （自動車事故に到った例も報告されている）
48				トラムセット配合錠	ﾄﾗﾏﾄﾞｰﾙ/ｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝ	

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分類	薬効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
49	中枢神経用薬		内服	トリアゾラム錠	ﾄﾘｱｿﾞﾗﾑ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
50				トリクロリールシロップ	ﾄﾘｸﾛﾎｽﾅﾄﾘｳﾑ	傾眠、頭痛、めまい、ふらつき等
51				トリプタノール錠	ｱﾐﾄﾘﾌﾟﾁﾘﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
52				トレドミン錠	ﾐﾙﾅｼﾌﾟﾗﾝ	眠気、めまい等
53				トレリーフ錠	ｿﾞﾆｻﾐﾄﾞ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
54				ドパストン静注	ﾚﾎﾞﾄﾞﾊﾟ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
55				ドラール錠	ｸｱｾﾞﾊﾟﾑ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
56				ニューレプチル錠	ﾌﾟﾛﾍﾟﾘｼｱｼﾞﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
57				ネオドパストン配合錠Ｌ	ﾚﾎﾞﾄﾞﾊﾟ･ｶﾙﾋﾞﾄﾞﾊﾟ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
58				ノウリアスト錠	ｲｽﾄﾗﾃﾞﾌｨﾘﾝ	前兆のない突発的睡眠、睡眠発作、起立性低血圧、傾眠、めまい、意識消失、失神等
59				ノバミン錠	ﾌﾟﾛｸﾛﾙﾍﾟﾗｼﾞﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
60				パキシル錠・CR錠	ﾊﾟﾛｷｾﾁﾝ	眠気、めまい等
61				ヒダントール錠	ﾌｪﾆﾄｲﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
62				ビ・シフロール錠	ﾌﾟﾗﾐﾍﾟｷｿｰﾙ	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）
63				フェノバルビタール散10%	ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
64				ブロチゾラムOD錠	ﾌﾞﾛﾁｿﾞﾗﾑ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
65				プリミドン細粒99.5%	ﾌﾟﾘﾐﾄﾞﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
66				プロチアデン錠	ﾄﾞｽﾚﾋﾟﾝ	
67				ベゲタミン-A配合錠	ｸﾛﾙﾌﾟﾛﾏｼﾞﾝ他	
68				ベンザリン錠	ﾆﾄﾗｾﾞﾊﾟﾑ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
69				ポンタールシロップ・カプセル	ﾒﾌｪﾅﾑ酸	めまい、眠気
70				マイスタン錠	ｸﾛﾊﾞｻﾞﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
71				マドパー配合錠	ﾚﾎﾞﾄﾞﾊﾟ･ﾍﾞﾝｾﾗｼﾞﾄﾞ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
72				ミラペックスLA錠	ﾌﾟﾗﾐﾍﾟｷｿｰﾙ	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）
73				メイラックス錠	ﾛﾌﾗｾﾞﾌﾟ酸ｴﾁﾙ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
74				メマリーOD錠	ﾒﾏﾝﾁﾝ	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい及び傾眠
75				モービック錠	ﾒﾛｷｼｶﾑ	眼の調節障害、眠気等の精神神経系症状
76				ユーロジン錠	ｴｽﾀｿﾞﾗﾑ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
77				ラミクタール錠小児用	ﾗﾓﾄﾘｷﾞﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
78				リーゼ錠	ｸﾛﾁｱｾﾞﾊﾟﾑ	
79				リーマス錠	炭酸ﾘﾁｳﾑ	めまい、ねむけ等
80				リスペリドンOD錠・内用液	ﾘｽﾍﾟﾘﾄﾞﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
81				リスミー錠	ﾘﾙﾏｻﾞﾎﾝ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
82				リタリン錠	ﾒﾁﾙﾌｪﾆﾃﾞｰﾄ	めまい、眠気、視覚障害等
83				リフレックス錠	ﾐﾙﾀｻﾞﾋﾟﾝ	眠気、めまい等
84				リボトリール錠	ｸﾛﾅｾﾞﾊﾟﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
85				リリカカプセル	ﾌﾟﾚｶﾞﾊﾞﾘﾝ	めまい、傾眠、意識消失等（自動車事故に到った例も報告されている）
86				リルテック錠	ﾘﾙｿﾞｰﾙ	めまい又は眠気
87				ルーラン錠	ﾍﾟﾛｽﾋﾟﾛﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
88				ルジオミール錠	ﾏﾌﾟﾛﾁﾘﾝ	めまい、眠気等
89				ルネスタ錠	ｴｽｿﾞﾋﾟｸﾛﾝ	翌朝以降に、眠気、注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分類	薬効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
90	中枢神経用薬		内服	ルボックス錠	ﾌﾙﾎﾞｷｻﾐﾝ	眠気、意識レベルの低下・意識消失等の意識障害
91				レキソタン錠	ﾌﾞﾛﾏｾﾞﾊﾟﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
92				レキップCR錠	ﾛﾋﾟﾆﾛｰﾙ	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）
93				レキップ錠	ﾛﾋﾟﾆﾛｰﾙ	
94				レクサプロ錠	ｴｽｼﾀﾛﾌﾟﾗﾑ	眠気、めまい等
95				レミニールOD錠	ｶﾞﾗﾝﾀﾐﾝ	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい、眠気
96				ロゼレム錠	ﾗﾒﾙﾃｵﾝ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
97				ロドピン錠	ｿﾞﾃﾋﾟﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
98				ロナセン錠	ﾌﾞﾛﾅﾝｾﾘﾝ	
99				ロヒプノール錠	ﾌﾙﾆﾄﾗｾﾞﾊﾟﾑ	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
100				ワイパックス錠	ﾛﾗｾﾞﾊﾟﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
101				臭化カリウム	臭化ｶﾘｳﾑ	
102				複合アレビアチン配合錠	ﾌｪﾆﾄｲﾝ･ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙ	
103			注射	アキネトン注射液	ﾋﾞﾍﾟﾘﾃﾞﾝ	眠気、調節障害および注意力・集中力・反射機能等の低下
104				アタラックス-P注射液	ﾋﾄﾞﾛｷｼｼﾞﾝ	眠気
105				アナフラニール点滴静注液	ｸﾛﾐﾌﾟﾗﾐﾝ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
106				アレビアチン注	ﾌｪﾆﾄｲﾝ	
107				コントミン筋注	ｸﾛﾙﾌﾟﾛﾏｼﾞﾝ	
108				セルシン注射液	ｼﾞｱｾﾞﾊﾟﾑ	
109				セレネース注	ﾊﾛﾍﾟﾘﾄﾞｰﾙ	
110				ディプリバン注	ﾌﾟﾛﾎﾟﾌｫｰﾙ	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
111				ノーベルバール静注用	ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙﾅﾄﾘｳﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
112				フェノバール注射液	ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙ	
113				プレセデックス静注液	ﾃﾞｸｽﾒﾃﾞﾄﾐｼﾞﾝ	鎮静の影響が完全に消失するまでは自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
114				プロポフォール注	ﾌﾟﾛﾎﾟﾌｫｰﾙ	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
115				ペンタジン注射液	ﾍﾟﾝﾀｿﾞｼﾝ	眠気、めまい、ふらつき感等
116				ホストイン静注	ﾎｽﾌｪﾆﾄｲﾝﾅﾄﾘｳﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
117			外用	イクセロンパッチ	ﾘﾊﾞｽﾁｸﾞﾐﾝ	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい及び傾眠
118				インテバンSP	ｲﾝﾄﾞﾒﾀｼﾝ	眠気、めまい、ふらつき感等
119				スープレン吸入麻酔液	ﾃﾞｽﾌﾙﾗﾝ	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
120				ニュープロパッチ	ﾛﾁｺﾞﾁﾝ	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）
121				フォーレン吸入麻酔液	ｲｿﾌﾙﾗﾝ	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
122				ボルタレンサポ	ｼﾞｸﾛﾌｪﾅｸﾅﾄﾘｳﾑ	眠気、めまい、霧視
123	末梢神経用薬		内服	エペリゾン錠	ｴﾍﾟﾘｿﾞﾝ	脱力感、ふらつき、眠気等
124				ダントリウムカプセル	ﾀﾞﾝﾄﾛﾚﾝﾅﾄﾘｳﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
125				テトリネン錠	ﾁｻﾞﾆｼﾞﾝ	反射運動能力の低下、眠気、めまい及び低血圧等
126				トランコロン錠	ﾒﾍﾟﾝｿﾞﾗｰﾄ臭化物	視調節障害
127				ブスコパン錠	ﾌﾞﾁﾙｽｺﾎﾟﾗﾐﾝ	眼の調節障害等
128				リンラキサー錠	ｸﾛﾙﾌｪﾈｼﾝ	ねむけ、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
129				硫酸アトロピン散	硫酸ｱﾄﾛﾋﾟﾝ	視調節障害、散瞳等
130			注射	アトロピン注０．０５％シリンジ	ｱﾄﾛﾋﾟﾝ硫酸塩	視調節障害、散瞳等
131				ギャバロン錠	ﾊﾞｸﾛﾌｪﾝ	眠気等

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	薬効分類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
132	末梢神経用薬	注射	ハイスコ皮下注	ｽｺﾎﾟﾗﾐﾝ	眼の調節障害、眠気、めまい等
133			ブスコパン注	ﾌﾞﾁﾙｽｺﾎﾟﾗﾐﾝ	
134			ボトックス注用	A型ﾎﾞﾂﾘﾇｽ毒素	脱力感、筋力低下、めまい、視力低下
135	循環器官用薬	内服	アーチスト錠	ｶﾙﾍﾞｼﾞﾛｰﾙ	めまい・ふらつき
136			アイミクス配合錠	ｲﾙﾍﾞｻﾙﾀﾝ/ｱﾑﾛｼﾞﾋﾟﾝ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
137			アジルバ錠	ｱｼﾞﾙｻﾙﾀﾝ	
138			アスペノンカプセル	ｱﾌﾟﾘﾝｼﾞﾝ	手指振戦、めまい、ふらつき等
139			アゼルニジピン錠	ｱｾﾞﾙﾆｼﾞﾋﾟﾝ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
140			アデムパス錠	ﾘｵｼｸﾞｱﾄ	めまい等
141			アドシルカ錠	ﾀﾀﾞﾗﾌｨﾙ	めまいや視覚障害
142			アバプロ錠	ｲﾙﾍﾞｻﾙﾀﾝ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
143			アムロジピンOD錠	ｱﾑﾛｼﾞﾋﾟﾝ	
144			アルダクトンA錠・細粒	ｽﾋﾟﾛﾉﾗｸﾄﾝ	
145			アルドメット錠	ﾒﾁﾙﾄﾞﾊﾟ	眠気、脱力感等（投与初期、増量時）
146			インデラル錠	ﾌﾟﾛﾌﾟﾗﾉﾛｰﾙ	めまい、ふらつき
147			エカード配合錠	ｶﾝﾃﾞｻﾙﾀﾝ/ﾋﾄﾞﾛｸﾛﾛﾁｱｼﾞﾄﾞ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
148			エックスフォージ配合錠	ﾊﾞﾙｻﾙﾀﾝ/ｱﾑﾛｼﾞﾋﾟﾝ	
149			エナラプリル錠	ｴﾅﾗﾌﾟﾘﾙ	
150			エブランチルカプセル	ｳﾗﾋﾟｼﾞﾙ	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
151			オルメテック錠	ｵﾙﾒｻﾙﾀﾝ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
152			カタプレス錠	ｸﾛﾆｼﾞﾝ	静作用により反射運動等
153			カプトプリル錠	ｶﾌﾟﾄﾌﾟﾘﾙ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
154			カルデナリン錠	ﾄﾞｷｻｿﾞｼﾝ	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
155			コディオ配合錠EX	ﾊﾞﾙｻﾙﾀﾝ/ﾋﾄﾞﾛｸﾛﾛﾁｱｼﾞﾄﾞ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
156			サムスカ錠	ﾄﾙﾊﾞﾌﾟﾀﾝ	めまい等
157			シベンゾリン錠	ｼﾍﾞﾝｿﾞﾘﾝ	めまい、ふらつき、低血糖
158			シルニジピン錠	ｼﾙﾆｼﾞﾋﾟﾝ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
159			ジルチアゼム錠・Rカプセル	ｼﾞﾙﾁｱｾﾞﾑ	
160			セパミット-R細粒	ﾆﾌｪｼﾞﾋﾟﾝ	
161			セララ錠	ｴﾌﾟﾚﾚﾉﾝ	
162			セレクトール錠	ｾﾘﾌﾟﾛﾛｰﾙ	めまい、ふらつき
163			タナトリル錠	ｲﾐﾀﾞﾌﾟﾘﾙ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
164			ダイアモックス錠	ｱｾﾀｿﾞﾗﾐﾄﾞ	
165			テノーミン錠	ｱﾃﾉﾛｰﾙ	めまい、ふらつき
166			ナトリックス錠	ｲﾝﾀﾞﾊﾟﾐﾄﾞ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
167			ニトロールＲカプセル	硝酸ｲｿｿﾙﾋﾞﾄﾞ	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
168			ニトロペン舌下錠	ﾆﾄﾛｸﾞﾘｾﾘﾝ	
169			ニフェジピンCR錠	ﾆﾌｪｼﾞﾋﾟﾝ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
170			バルサルタン錠	ﾊﾞﾙｻﾙﾀﾝ	
171			フルイトラン錠	ﾄﾘｸﾛﾙﾒﾁｱｼﾞﾄﾞ	
172			ブロプレス錠	ｶﾝﾃﾞｻﾙﾀﾝ	
173			プレミネント配合錠	ﾛｻﾙﾀﾝｶﾘｳﾑ/ﾋﾄﾞﾛｸﾛﾛﾁｱｼﾞﾄﾞ	
174			ベニジピン錠	ﾍﾞﾆｼﾞﾋﾟﾝ	
175			ミカムロ配合錠	ﾃﾙﾐｻﾙﾀﾝ/ｱﾑﾛｼﾞﾋﾟﾝ	
176			ミカルディス錠	ﾃﾙﾐｻﾙﾀﾝ	
177			ミケラン錠・細粒	ｶﾙﾃｵﾛｰﾙ	めまい・ふらつき
178			ミニプレス錠	ﾌﾟﾗｿﾞｼﾝ	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
179			ミリステープ	ﾆﾄﾛｸﾞﾘｾﾘﾝ	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	薬効分類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
179					力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
180	循環器官用薬	内服	メインテート錠	ﾋﾞｿﾌﾟﾛﾛｰﾙ	めまい、ふらつき
181			メキシチールカプセル	ﾒｷｼﾚﾁﾝ	頭がボーとする、めまい、しびれ等の精神神経系症状
182			ラシックス錠	ﾌﾛｾﾐﾄﾞ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
183			ラジレス錠	ｱﾘｽｷﾚﾝ	
184			リスモダンカプセル・R錠	ｼﾞｿﾋﾟﾗﾐﾄﾞ	めまい、低血糖等
185			ルプラック錠	ﾄﾗｾﾐﾄﾞ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
186			レザルタス配合錠	ｵﾙﾒｻﾙﾀﾝ/ｱｾﾞﾙﾆｼﾞﾋﾟﾝ	
187			レバチオ錠	ｼﾙﾃﾞﾅﾌｨﾙ	めまいや視覚障害、色視症、霧視等
188			レルパックス錠	ｴﾚﾄﾘﾌﾟﾀﾝ	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
189			ロプレソール錠	ﾒﾄﾌﾟﾛﾛｰﾙ	めまい、ふらつき
190			ロンゲス錠	ﾘｼﾉﾌﾟﾘﾙ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
191			一硝酸イソソルビド錠	一硝酸ｲｿｿﾙﾋﾞﾄﾞ	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
192		注射	インデラル注射液	ﾌﾟﾛﾌﾟﾗﾉﾛｰﾙ	めまい、ふらつき
193			ダイアモックス注射用	ｱｾﾀｿﾞﾗﾐﾄﾞ	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
194			ラシックス注	ﾌﾛｾﾐﾄﾞ	
195		外用	ビソノテープ	ﾋﾞｿﾌﾟﾛﾛｰﾙ	めまい、ふらつき
196			フランドルテープ	硝酸ｲｿｿﾙﾋﾞﾄﾞ	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
197			ミオコールスプレー	ﾆﾄﾛｸﾞﾘｾﾘﾝ	
198	呼吸器官用薬	内服	コデインリン酸塩散	ｺﾃﾞｲﾝﾘﾝ酸塩	眠気、めまい
199			メジコン錠	ﾃﾞｷｽﾄﾛﾒﾄﾙﾌｧﾝ	眠気
200			濃厚ブロチンコデイン配合シロップ	桜皮ｴｷｽ/ｺﾃﾞｲﾝﾘﾝ酸塩	眠気、めまい
201		注射	ゾレア皮下注	ｵﾏﾘｽﾞﾏﾌﾞ	めまい、疲労、失神、傾眠
202			フルマゼニル注射液	ﾌﾙﾏｾﾞﾆﾙ	本剤投与により患者が覚醒した後もベンゾジアゼピン系薬剤の作用が再出現する可能性がある
203	消化器官用薬	内服	サラジェン錠	ﾋﾟﾛｶﾙﾋﾟﾝ	縮瞳（夜間の自動車の運転及び暗所での危険を伴う機械の操作に注意）
204			サリグレンカプセル	ｾﾋﾞﾒﾘﾝ	
205			スルピリド錠50mg	ｽﾙﾋﾟﾘﾄﾞ	眠気、めまい等
206			ナウゼリンOD錠	ﾄﾞﾝﾍﾟﾘﾄﾞﾝ	眠気、めまい・ふらつき
207			プリンペラン錠・シロップ	ﾒﾄｸﾛﾌﾟﾗﾐﾄﾞ	眠気、めまい
208			ロペミンカプセル・細粒	ﾛﾍﾟﾗﾐﾄﾞ	
209		注射	プリンペラン注射液	ﾒﾄｸﾛﾌﾟﾗﾐﾄﾞ	眠気、めまい
210		外用	ナウゼリン坐剤	ﾄﾞﾝﾍﾟﾘﾄﾞﾝ	眠気、めまい・ふらつき
211	生物学的製剤	注射	ペガシス皮下注	ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝｱﾙﾌｧ-2a	めまい、錯乱、傾眠、疲労
212			ペグイントロン皮下注用	ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝｱﾙﾌｧ-2b	
213	解熱鎮痛抗炎症薬	内服	ゾーミッグRM錠	ｿﾞﾙﾐﾄﾘﾌﾟﾀﾝ	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
214		注射	イミグラン注	ｽﾏﾄﾘﾌﾟﾀﾝ	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
215		外用	イミグラン点鼻液	ｽﾏﾄﾘﾌﾟﾀﾝ	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
216	アレルギー用薬	内服	アレジオン錠・DS	ｴﾋﾟﾅｽﾁﾝ	眠気
217			アレロック顆粒	ｵﾛﾊﾟﾀｼﾞﾝ	
218			エバステル錠	ｴﾊﾞｽﾁﾝ	
219			オロパタジン塩酸塩OD錠	ｵﾛﾊﾟﾀｼﾞﾝ	
220			ザイザル錠・シロップ	ﾚﾎﾞｾﾁﾘｼﾞﾝ	
221			ザジテンドライシロップ0.1%	ｹﾄﾁﾌｪﾝ	
222			ジルテック錠	ｾﾁﾘｼﾞﾝ	

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	薬効分類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
223	アレルギー用薬	内服	タリオンOD錠	ﾍﾞﾎﾟﾀｽﾁﾝ	眠気
224			ペリアクチン錠	ｼﾌﾟﾛﾍﾌﾟﾀｼﾞﾝ	
225			レスタミンコーワ錠	ｼﾞﾌｪﾝﾋﾄﾞﾗﾐﾝ	
226		注射	クロール・トリメトン注	ｸﾛﾙﾌｪﾆﾗﾐﾝ	眠気
227	ホルモン剤	内服	クロミッド錠	ｸﾛﾐﾌｪﾝ	霧視等の視覚症状
228			セレスタミン配合錠	ﾍﾞﾀﾒﾀｿﾞﾝ･d-ｸﾛﾙﾌｪﾆﾗﾐﾝ	眠気
229		注射	テリボン皮下注	ﾃﾘﾊﾟﾗﾁﾄﾞ	一過性の血圧低下に基づくめまいや立ちくらみ、意識消失等
230			バイエッタ皮下注	ｴｷｾﾅﾁﾄﾞ	低血糖（SU剤併用時）
231	血液・体液用薬	内服	ベラプロストNa錠２０	ﾍﾞﾗﾌﾟﾛｽﾄﾅﾄﾘｳﾑ	意識障害等
232	その他代謝性医薬品	内服	アクトス錠15	ﾋﾟｵｸﾞﾘﾀｿﾞﾝ	低血糖症状
233			エクア錠	ﾋﾞﾙﾀﾞｸﾞﾘﾌﾟﾁﾝ	低血糖及び低血糖症状
234			エクジェイド懸濁用錠	ﾃﾞﾌｪﾗｼﾛｸｽ	めまい、視覚・聴覚障害
235			オイグルコン錠	ｸﾞﾘﾍﾞﾝｸﾗﾐﾄﾞ	重篤かつ遷延性の低血糖
236			オングリザ錠	ｻｷｻｸﾞﾘﾌﾟﾁﾝ	低血糖症状、めまい等
237			グリミクロン錠	ｸﾞﾘｸﾗｼﾞﾄﾞ	重篤かつ遷延性の低血糖
238			グリメピリドOD錠	ｸﾞﾘﾒﾋﾟﾘﾄﾞ	
239			グルベス配合錠	ﾐﾁｸﾞﾘｲﾄﾞ/ﾎﾞｸﾞﾘﾎﾞｰｽ	低血糖症状
240			シアナマイド内用液1%「タナベ」	ｼｱﾅﾐﾄﾞ	注意力・集中力・反射運動能力等の低下
241			シュアポスト錠	ﾚﾊﾟｸﾞﾘﾆﾄﾞ	低血糖症状
242			ジャヌビア錠	ｼﾀｸﾞﾘﾌﾟﾁﾝ	
243			ジレニアカプセル	ﾌｨﾝｺﾞﾘﾓﾄﾞ	めまい、ふらつき（投与初期）
244			セイブル錠	ﾐｸﾞﾘﾄｰﾙ	低血糖症状
245			テネリア錠	ﾃﾈﾘｸﾞﾘﾌﾟﾁﾝ	
246			トラゼンタ錠	ﾘﾅｸﾞﾘﾌﾟﾁﾝ	
247			ノックビン原末	ｼﾞｽﾙﾌｨﾗﾑ	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
248			ピレスパ錠	ﾋﾟﾙﾌｪﾆﾄﾞﾝ	眠気、めまい、ふらつき
249			ファスティック錠	ﾅﾃｸﾞﾘﾆﾄﾞ	本剤の服用後、低血糖及び低血糖症状
250			フォシーガ錠	ﾀﾞﾊﾟｸﾞﾘﾌﾛｼﾞﾝ	低血糖症状
251			ボグリボースOD錠	ﾎﾞｸﾞﾘﾎﾞｰｽ	
252			メトグルコ錠	ﾒﾄﾎﾙﾐﾝ	
253		注射	アレディア点滴静注用	ﾊﾟﾐﾄﾞﾛﾝ酸二ﾅﾄﾘｳﾑ	眠気、めまい、注意力の低下等
254			デスフェラール注射用	ﾃﾞﾌｪﾛｷｻﾐﾝ	めまい、視覚・聴覚障害
255	腫瘍用薬	内服	アロマシン錠	ｴｷｾﾒｽﾀﾝ	嗜眠、傾眠、無力症及びめまい
256			イクスタンジカプセル	ｴﾝｻﾞﾙﾀﾐﾄﾞ	痙攣発作
257			イレッサ錠250	ｹﾞﾌｨﾁﾆﾌﾞ	無力症
258			グリベック錠	ｲﾏﾁﾆﾌﾞ	めまい、眠気、霧視等
259			サレドカプセル	ｻﾘﾄﾞﾏｲﾄﾞ	傾眠、眠気、めまい、徐脈、起立性低血圧
260			ザーコリカプセル	ｸﾘｿﾞﾁﾆﾌﾞ	視覚障害（視力障害、光視症、霧視、硝子体浮遊物、複視、視野欠損、羞明、視力低下等）
261			スーテントカプセル	ｽﾆﾁﾆﾌﾞ	めまい、傾眠、意識消失等
262			タシグナカプセル	ﾆﾛﾁﾆﾌﾞ	めまい、霧視・視力低下等の視力障害等
263			フェマーラ錠	ﾚﾄﾛｿﾞｰﾙ	疲労、めまい、まれに傾眠
264			ボシュリフ錠	ﾎﾞｽﾁﾆﾌﾞ	浮動性めまい、疲労、視力障害等
265			レブラミドカプセル	ﾚﾅﾘﾄﾞﾐﾄﾞ	疲労、めまい、傾眠、霧視
266		注射	アラノンジー静注用	ﾈﾗﾗﾋﾞﾝ	傾眠
267			ゲムシタビン注射用	ｹﾞﾑｼﾀﾋﾞﾝ	
268			タキソール注射液	ﾊﾟｸﾘﾀｷｾﾙ	無水ｴﾀﾉｰﾙを含有するため、前投薬で投与される抗ﾋｽﾀﾐﾝ剤とｱﾙｺｰﾙの相互作用による中枢神経抑制作用の増強の可能性がある
269			トーリセル点滴静注液	ﾃﾑｼﾛﾘﾑｽ	
270			ハイカムチン注射用	ﾉｷﾞﾃｶﾝ	易疲労感
271			ベルケイド注射用	ﾎﾞﾙﾃｿﾞﾐﾌﾞ	疲労、浮動性めまい、失神、起立性低血圧、霧視

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分類	薬効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
272	抗生物質製剤		内服	ジスロマック錠・SRﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ	ｱｼﾞｽﾛﾏｲｼﾝ	意識障害等
273	抗生物質製剤		内服	ミノマイシン錠	ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ	めまい感
274	抗生物質製剤		注射	ジスロマック点滴静注用	ｱｼﾞｽﾛﾏｲｼﾝ	意識障害等
275	抗生物質製剤		注射	ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用	ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ	めまい感
276	化学療法剤		内服	アベロックス錠	ﾓｷｼﾌﾛｷｻｼﾝ	失神、意識消失、めまい等
277	化学療法剤		内服	クラビット錠	ﾚﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ	意識障害等
278	化学療法剤		内服	ジェニナック錠	ｶﾞﾚﾉｷｻｼﾝ	意識障害等
279	化学療法剤		内服	ゾビラックス錠	ｱｼｸﾛﾋﾞﾙ	意識障害等
280	化学療法剤		内服	テラビック錠	ﾃﾗﾌﾟﾚﾋﾞﾙ	意識障害等
281	化学療法剤		内服	バラシクロビル錠・顆粒	ﾊﾞﾗｼｸﾛﾋﾞﾙ	意識障害等
282	化学療法剤		内服	バリキサ錠	ﾊﾞﾙｶﾞﾝｼｸﾛﾋﾞﾙ	痙攣、鎮静、めまい、運動失調、錯乱
283	化学療法剤		内服	ファムビル錠	ﾌｧﾑｼｸﾛﾋﾞﾙ	意識障害等
284	化学療法剤		内服	ブイフェンド錠	ﾎﾞﾘｺﾅｿﾞｰﾙ	【警告】羞明、霧視、視覚障害等（投与中止後も持続することがある）
285	化学療法剤		内服	ラミシール錠	ﾃﾙﾋﾞﾅﾌｨﾝ	眠気、めまい・ふらつき等
286	化学療法剤		注射	アシクロビン点滴静注	ｱｼｸﾛﾋﾞﾙ	意識障害等
287	化学療法剤		注射	クラビット点滴静注バッグ５００ｍｇ	ﾚﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ	意識障害等
288	化学療法剤		注射	ゾビラックス点滴静注用250	ｱｼｸﾛﾋﾞﾙ	意識障害等
289	化学療法剤		注射	デノシン点滴静注用	ｶﾞﾝｼｸﾛﾋﾞﾙ	痙攣、鎮静、めまい、運動失調、錯乱
290	化学療法剤		注射	ブイフェンド静注用	ﾎﾞﾘｺﾅｿﾞｰﾙ	【警告】羞明、霧視、視覚障害等（投与中止後も持続することがある）
291	寄生動物用薬		内服	ビルトリシド錠	ﾌﾟﾗｼﾞｶﾝﾃﾙ	眠気
292	感覚器用薬		内服	トラベルミン配合錠	ｼﾞﾌｪﾝﾋﾄﾞﾗﾐﾝ他	眠気
293	感覚器用薬		注射	ビスダイン静注用	ﾍﾞﾙﾃﾎﾟﾙﾌｨﾝ	視覚異常、視力低下又は視野欠損等の視覚障害
294	感覚器用薬		注射	マキュエイド硝子体内注用	ﾄﾘｱﾑｼﾉﾛﾝｱｾﾄﾆﾄﾞ	霧視、飛蚊症等
295	感覚器用薬		注射	マクジェン硝子体内注射用	ﾍﾟｶﾞﾌﾟﾀﾆﾌﾞﾅﾄﾘｳﾑ	注射後の一時的な霧視
296	感覚器用薬		外用	アイファガン点眼液	ﾌﾞﾘﾓﾆｼﾞﾝ	眠気、めまい、霧視等
297	感覚器用薬		外用	アイリーア硝子体内注射液	ｱﾌﾘﾍﾞﾙｾﾌﾟﾄ	注射後の一時的な霧視
298	感覚器用薬		外用	エイゾプト懸濁性点眼液	ﾌﾞﾘﾝｿﾞﾗﾐﾄﾞ	点眼後の一時的な目のかすみ
299	感覚器用薬		外用	キサラタン点眼液	ﾗﾀﾉﾌﾟﾛｽﾄ	点眼後の一時的な霧視
300	感覚器用薬		外用	サイプレジン点眼液	ｼｸﾛﾍﾟﾝﾄﾗｰﾄ	散瞳又は調節麻痺
301	感覚器用薬		外用	サンピロ点眼液	ﾋﾟﾛｶﾙﾋﾟﾝ	縮瞳(暗黒感)又は調節痙攣
302	感覚器用薬		外用	ザラカム配合点眼液	ﾗﾀﾉﾌﾟﾛｽﾄ･ﾁﾓﾛｰﾙﾏﾚｲﾝ酸塩	点眼後の一時的な霧視
303	感覚器用薬		外用	タプロス点眼液	ﾀﾌﾙﾌﾟﾛｽﾄ	点眼後の一時的な霧視
304	感覚器用薬		外用	デュオトラバ配合点眼液	ﾄﾗﾎﾞﾌﾟﾛｽﾄ/ﾁﾓﾛｰﾙﾏﾚｲﾝ酸塩	点眼後の一時的な霧視
305	感覚器用薬		外用	トラバタンズ点眼液	ﾄﾗﾎﾞﾌﾟﾛｽﾄ	点眼後の一時的な霧視
306	感覚器用薬		外用	ネオシネジンコーワ点眼液	ﾌｪﾆﾚﾌﾘﾝ	散瞳
307	感覚器用薬		外用	ミドリンM点眼液	ﾄﾛﾋﾟｶﾐﾄﾞ	散瞳又は調節麻痺
308	感覚器用薬		外用	ミドリンP点眼液	ﾄﾛﾋﾟｶﾐﾄﾞ･ﾌｪﾆﾚﾌﾘﾝ	散瞳又は調節麻痺
309	感覚器用薬		外用	ムコスタ点眼液UD	ﾚﾊﾞﾐﾋﾟﾄﾞ	点眼後の一時的な目のかすみ
310	感覚器用薬		外用	ルセンティス硝子体内注射液	ﾗﾆﾋﾞｽﾞﾏﾌﾞ	注射後の一時的な霧視
311	感覚器用薬		外用	ルミガン点眼液	ﾋﾞﾏﾄﾌﾟﾛｽﾄ	点眼後の一時的な霧視

９．運転等に注意が必要な医薬品リスト

	薬効分類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
312	感覚器用薬	外用	日点アトロピン点眼液1％	ｱﾄﾛﾋﾟﾝ	散瞳又は調節麻痺
313	泌尿生殖器官用薬	内服	ウリトスOD錠	ｲﾐﾀﾞﾌｪﾅｼﾝ	眼調節障害（羞明、霧視、眼の異常感等）、めまい、眠気
314			ザルティア錠	ﾀﾀﾞﾗﾌｨﾙ	めまい、視覚障害
315			シアリス錠	ﾀﾀﾞﾗﾌｨﾙ	めまいや視覚障害
316			タムスロシン塩酸塩OD錠	ﾀﾑｽﾛｼﾝ	めまい等
317			デトルシトールカプセル	ﾄﾙﾃﾛｼﾞﾝ	眼調節障害（霧視等）、めまい、眠気
318			トビエース錠	ﾌｪｿﾃﾛｼﾞﾝ	眼調節障害（霧視等）、めまい、眠気等
319			バイアグラ錠	ｼﾙﾃﾞﾅﾌｨﾙ	めまいや視覚障害
320			バップフォー錠・細粒	ﾌﾟﾛﾋﾟﾍﾞﾘﾝ	眼調節障害、眠気、めまい
321			フリバスOD錠	ﾅﾌﾄﾋﾟｼﾞﾙ	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
322			ベシケアOD錠	ｺﾊｸ酸ｿﾘﾌｪﾅｼﾝ	眼調節障害（霧視等）、傾眠
323			ユリーフ錠	ｼﾛﾄﾞｼﾝ	めまい等
324			レビトラ錠	ﾊﾞﾙﾃﾞﾅﾌｨﾙ	めまいや視覚障害
325		外用	ネオキシテープ	ｵｷｼﾌﾞﾁﾆﾝ	眼調節障害（視力障害、霧視等）、めまい、眠気
326	診断用薬	注射	グルカゴン注射用1単位「イトウ」	ｸﾞﾙｶｺﾞﾝ	二次的な低血糖
327	アルカロイド系麻薬	内服	MSコンチン錠	ﾓﾙﾋﾈ硫酸塩	眠気、眩暈
328			アヘンチンキ	ｱﾍﾝ末	眠気、めまい
329			オキノーム散	ｵｷｼｺﾄﾞﾝ	眠気、眩暈
330			オプソ内服液	ﾓﾙﾋﾈ塩酸塩	
331			コデインリン酸塩散１０％「第一三共」	ｺﾃﾞｲﾝﾘﾝ酸塩	眠気、めまい
332			パシーフカプセル	ﾓﾙﾋﾈ塩酸塩	
333			モルヒネ塩酸塩錠・原末	ﾓﾙﾋﾈ塩酸塩	
334			モルペス細粒	ﾓﾙﾋﾈ硫酸塩	
335		注射	オキファスト注	ｵｷｼｺﾄﾞﾝ	眠気、眩暈
336			モルヒネ塩酸塩注射液	ﾓﾙﾋﾈ塩酸塩	眠気、めまい
337		外用	アンペック坐剤	ﾓﾙﾋﾈ塩酸塩	眠気、眩暈
338	非アルカロイド系麻薬	内服	アブストラル舌下錠	ﾌｪﾝﾀﾆﾙ	眠気、めまい
339		注射	アルチバ静注用	ﾚﾐﾌｪﾝﾀﾆﾙ塩酸塩	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
340			オピスタン注射液	ｵﾋﾟｽﾀﾝ注射液	眠気、めまい
341			フェンタニル注射液	ﾌｪﾝﾀﾆﾙ	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
342			フェントステープ	ﾌｪﾝﾀﾆﾙ	眠気、めまい
343			ペチロルファン注射液	ﾍﾟﾁｼﾞﾝ塩酸塩・ﾚﾊﾞﾛﾙﾌｧﾝ酒石酸塩	
344		外用	デュロテップMTパッチ	ﾌｪﾝﾀﾆﾙ	眠気、めまい
345	その他	内服	チャンピックス錠	ﾊﾞﾚﾆｸﾘﾝ	めまい、傾眠、意識障害等（自動車事故に到った例も報告されている）

（２０１５年２月作成　薬剤部）

ビジクリア錠使用における確認表

1．ムーベンと異なって、残渣(薬包)が若干残りやすいので、大腸内視鏡検査前処置としてはムーベンを第一選択としてください。本剤はどうしてもムーベンがのめない患者様に投与してください。
2．ムーベンと異なって、前日のラキソベロン投与は通常不要です。
3．ムーベンと異なって、同日に胃および大腸内視鏡検査を行なうことはできません。

ビジクリア錠のご使用の際には以下の表をご活用下さい。

項目	疾患及び疾病等	担当医記入欄		添付文書対応			
				警告	禁忌	慎重投与	重要な基本的注意
心臓	心疾患を疑わせる所見	有	無	○			
	うっ血性心不全または不安定狭心症	有	無		○		
	急性心筋梗塞、心臓手術（冠動脈バイパス手術等）の既往	有	無			○	
	基礎心疾患（弁膜症、心筋症の既往も含む、不整脈等）がある、QT延長又は不整脈のコントロールができなかったことのある、またはできない患者	有	無			○	
	QT延長症候群、重篤な心室性不整脈	有	無		○		
腎臓	腎疾患を疑わせる所見	有	無	○			
	生検により急性リン酸腎症	有	無		○		
	腎機能障害	有	無			○	
	急性リン酸腎症の高リスク（循環血液量減少、腎疾患、高齢、腎血流量・腎機能に影響を及ぼす薬剤（利尿剤、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、　アンジオテンシン受容体阻害薬、NSAIDSなど)の使用）又は既往	有	無				○
電解質	電解質異常（脱水、または利尿剤使用に伴う二次性電解質異常など）を疑わせる所見	有	無	○			
	電解質濃度	異常	正常	○			
痙攣	痙攣発作の既往	有	無			○	
	痙攣発作のリスクが高い患者（三環系抗うつ薬など発作の閾値を低下させる薬剤を使用している患者、アルコールやベンゾジアゼピンの退薬症状（禁断症状）がある患者)	有	無			○	
胃腸	腹水を伴う疾患を合併	有	無		○		
	胃腸管閉塞症または胃腸管閉塞症の疑い	有	無	○	○		
	腸管穿孔又は腸管穿孔の疑い	有	無		○		○
	中毒性巨大結腸症	有	無		○		
	慢性炎症性腸疾患の急性増悪	有	無			○	
	高度な便秘	有	無	○		○	
	腹部手術歴	有	無			○	
	過去の検査により腸管狭窄や腸管憩室を認められ、臨床症状を呈している	有	無	○		○	
アレルギー	今まで本剤を服用して、アレルギー症状等がみられた	有	無		○		
	本剤以外で、薬物過敏症の既往歴	有	無			○	
服薬	インスリン、糖尿病のお薬の服用	有	無				○
	電解質濃度に影響を及ぼし得る薬剤の服薬 ・低カリウム血症を誘発する薬剤（インスリン、β刺激薬、副腎皮質ホルモン、ループ利尿剤、チアジド系利尿剤等） ・低ナトリウム血症を誘発する薬剤（血糖降下剤、向精神薬、抗けいれん薬、ループ利尿剤、チアジド系利尿剤等） ・高リン血症を誘発する薬剤（緩下剤（リン酸ナトリウム含有製剤）、輸液（リン含有製剤）、ビスホスホネート系製剤、成長ホルモン、甲状腺ホルモン等）	有	無	○			○
	QT延長をきたすおそれのある薬剤の服薬 抗不整脈薬、三環系抗うつ薬、向精神薬等	有	無	○			○
年齢	高齢者（65歳以上）	該当	非該当			○	○

■ＪＣＨＯ九州病院における

処方せんの書き方（発行）と注意点

目　　次

ページ

Ａ．処方せんの書き方（発行）について

１．処方せんの種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
２．入力（記載）必須事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
３．標準的書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
４．書き方の留意点（複数の医薬品が処方されることが多い）・・・・・　４
５．特殊例の書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
６．１日分量表示の約束・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

Ｂ．注射処方せんの書き方（発行）について

１．システム運用と紙運用の範囲について・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
２．注射処方区分について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
３．処方入力について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
４．注射薬の中止・返品のしかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
５．疑義問い合わせについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
【資料１】院内共通の救急カート・注射薬配置図　・・・・・・・・・・・・１１
【資料２】特定生物由来製品を使用する際の説明および同意書の取得について
・・・・・・・・・・・・１２

Ｃ．麻薬の取り扱い

１．麻薬取扱者（施用者・管理者）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
２．麻薬の施用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
３．麻薬処方せん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
４．麻薬入院患者持参連絡票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
５．注射用麻薬施用の手順（注射オーダリングの場合）・・・・・・・・・１３
６．麻薬注射処方せん（手書き・４枚複写）の様式と保管・・・・・・・・１４
７．注射用麻薬施用の手順（手書き・４枚複写）・・・・・・・・・・・・・１４
８．麻薬注射施用票記入についての注意事項・・・・・・・・・・・・・・・１５
９．診療録（カルテ）への麻薬施用記録・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
10．麻薬の事故処理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
11．麻薬中毒者の届出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
【資料３】採用している麻薬一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

Ｄ．処方オーダリングシステム利用上の注意点

１．処方オーダリングの全般的注意ならびに適応範囲・・・・・・・・・・１８
２．使用する伝票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
３．処方せんの追加・変更・中止・削除・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
４．Ｑ＆Ａ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
５．オーダリング時の誤入力防止対策について・・・・・・・・・・・・・・２３
６．入院処方入力時の注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

Ｅ．注射オーダリングシステム利用上の注意点

１．システム運用と紙運用の範囲について・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
２．注射処方区分および締め切り時間について・・・・・・・・・・・・・・・２５
３．出力される帳票類について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
４．注射処方せんの修正・削除・発行・実施・・・・・・・・・・・・・・・・２７
５．注射運用フロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
６．修正・削除について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
７．医事伝達について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
８．抗がん剤の処方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
９．よくある問い合わせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

Ａ．処方せんの書き方（発行）について

１．処方せんの種類

処方せんにはつぎの種類がある

投薬用（処方オーダリング）	注射薬用（注射オーダリング※）
外来処方せん 入院処方せん（通常、臨時、退院） 麻薬処方せん	外来注射処方せん 注射処方せん（通常、臨時、必要時） 麻薬注射処方せん ※一部手書き部署あり
＜処方せん以外の伝票・指示せん（手書き）＞ 医療材料等払い出し伝票：外来、入院 院内製剤等指示せん：外来、入院 検査・処置用薬請求伝票：外来	

２．入力（記載）必須事項

だれのために・・・・・・・・患者氏名、年齢
なにをどれだけ・・・・・・・・医薬品名・剤形・規格、用量
どのように・・・・・・・・用法、投与日数（回数）
いつだれが・・・・・・・・処方せん発行年月日、医師の署名または記名・押印。
訂正の場合には訂正印が必要（処方オーダリングでは、手書きでの追加・訂正は認めていない）
麻薬ではさらに・・・・・・・・麻薬施用者免許番号、外来投薬では患者住所

３．標準的書き方

医薬品名などを正確に入力（記載）する。

１）内用薬・・・・・・医薬品名・剤形・規格と１日服用量（分量）、服用（分服）回数と服用法、投与日数を入力（記載）する。

例１

Ｒｐ．レバミピド錠１００ｍｇ　３Ｔ
１日３回：朝昼夕食後
７日分

例２

Ｒｐ．エチゾラム錠１ｍｇ　１Ｔ
１日１回：ねる前
７日分

０．５mg錠もあるため規格も正確に入力（記載）する。

例３

Ｒｐ．カロナール錠２００ｍｇ　２Ｔ
頓用　疼痛時　３回分

２）外用薬‥‥‥交付全量を入力（記載）する。使用法として、適用部位、回数などを指示する。

例４

Ｒｐ．ルリコン液１％　　１０mL 1日1回患部に塗布

瓶単位のものは瓶単位の用量で指示する。
そうでないと小分けが必要になる。

例５

Ｒｐ．モーラスパップ30mg(7枚/包)２包 患部に

アドフィードﾊﾟｯﾌﾟ40mg、
セルタッチ、フルルバン、
：以上(各種)6枚/包
ﾓｰﾗｽﾃｰﾌﾟL・ﾊﾟｯﾌﾟ30・60mg、
ロキソプロフェンﾃｰﾌﾟ100mg・
ﾊﾟｯﾌﾟ100mg
：以上(各種)7枚/包

４．書き方の留意点（複数の医薬品が処方されることが多い）
・用法・用量とも同じ場合は、処方を１つにまとめる。
・服用回数の異なるものは処方を分ける。

例６

Ｒｐ．１）テグレトール錠２００ｍｇ　　３T １日３回：朝昼夕食後 ２）アレビアチン錠１００ｍｇ　　３T １日３回：朝昼夕食後 ３）セルシン錠２ｍｇ　　３T １日３回：朝昼夕食後 ４）プリミドン細粒〈成分量として〉　２５０mg １日１回：ねる前 各７日分

［不適］

↓

例７

Ｒｐ．１）テグレトール錠２００ｍｇ　　３T アレビアチン錠１００ｍｇ　　３T セルシン錠２ｍｇ　　３T １日３回：朝昼夕食後 ７日分 ２）プリミドン細粒〈成分量として〉　２５０mg １日１回：ねる前 ７日分

［適正］

ｍｇは必ず記載（入力）する。

５．特殊例の書き方
１）１日のうちで、用量の異なる（不均等用法）場合、
例えば、プレドニゾロン錠５mg　６錠　分２　朝４Ｔ昼２Ｔの場合は、
①処方ごとの用法に「１日２回：朝昼食後」と
②薬剤ごとのコメント（薬剤入力の一番右）に「朝４、昼２」と
２段階で入力する。

また、錠数の割り切れない場合にも、同様に入力する。

例８

Ｒｐ．プレドニゾロン錠５mg　６T　（薬剤ｺﾒﾝﾄ）朝４，昼２
（処方用法）　１日２回：朝昼食後
７日分

例９

Ｒｐ．ガバペン錠２００mg　３T（薬剤ｺﾒﾝﾄ）夕１，寝る前２
（処方用法）　１日２回：夕食後寝る前
３日分

２）隔日投与の場合

・「隔日」の後に、実際に服用する日数（実日数）入力（記載）する

例10

Ｒｐ．プレドニゾロン錠５mg　２T
１日１回：朝　隔日
４日分（実日数）

・隔日の服用個数が異なる場合：その旨を具体的に明示する

例11

Ｒｐ．①リンデロン錠0.5mg　２T
１日１回：朝食後　隔日（奇数日）
４日分
②リンデロン錠0.5mg　０．５T
１日１回：朝食後　隔日（偶数日）
３日分

３）調剤時に錠剤・カプセル剤を粉末化する場合：『粉砕』と指示する。

例12

Ｒｐ．モサプリド塩錠５mg　３T（粉砕）
１日３回：朝昼夕食後
７日分

６．１日分量表示の約束

１）散薬の１日分量は、原則として成分量で入力（記載）する。特に、テグレトール細粒などの50%散の場合、製剤量で入力（記載）せず、（<成分量>として）と括弧書きし、成分量で入力（記載）する。

例13

Ｒｐ．テグレトール細粒(500ｍｇ／ｇ）<成分量>　　４００mg １日３回：朝昼夕食後　　１４日分

【注】散薬の１日分量は、“成分量”で入力（記載）する。しかしながら、保険医療においては、“製剤量”での入力（記載）が求められていることもあり、処方せんには成分量と製剤量を併せて表示している。

２）手書きの場合、表示単位の省略はｇ、mLのみとする。その他の単位は必ず記載する。

例14

Ｒｐ．カロナールシロップ（２０ｍｇ /mL）　　２０ 頓用 疼痛時・発熱時　　５回分

・製剤としてはｌmL中に２０ｍｇを含有する。したがって、単位の入力（記載）がないときには、２０mLすなわち４００ｍｇとなる。

以上

（2015年3月改訂）

Ｂ．注射処方せんの書き方（発行）について

1．システム運用と紙運用の範囲について

現在、注射処方せんにて運用しているものを注射オーダリングの範囲とする。

対象外の部門　：　手術室
システムと紙運用が混在の部署　：　ＩＣＵ、救急外来
その他　：　原則システム運用

麻薬の注射についても上記と同様に運用

インスリン、吸入については下記の通り運用

［インスリン］

	物　品	コスト
スライディングスケール	製剤伝票	専用伝票
ヒューマリンＲ(複数患者分割使用)	製剤伝票	注射オーダ
個人使用ペン型インスリン	内服オーダ	注射オーダ

・定期打ちインスリンは注射オーダを使用する（払い出しなし）。
・注射オーダで、インスリンの中止・変更があった場合は看護師が実績入力時に変更する。

［吸入］

	物　品	コスト
吸入液	製剤伝票	汎用オーダ
生食	製剤伝票	汎用オーダ

注射オーダでは、注射用生食と処置用の生食が医事課で区別できないため、運用の統一、コストの重複回避のため上記運用とした。

２．注射処方区分について

外来・・・外来患者に対し、登録方法「予定入力」を選択した際に「外来」と登録される。
通常・・・入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間前であった場合に「通常」として登録される。

臨時・・・入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間後であった場合に「臨時」として登録される。
事後・・・入院・外来ともに、登録方法「事後入力」を選択した際に「事後」と登録される。

締め切り時間
　通常の締め切り時間は次の通りとする。

実施予定日	4北・6北病棟	その他の病棟
火～金曜日実施予定分	前日の13時	前日の10時
土・日曜日実施予定分	前々日の13時	前々日の10時
月曜日実施予定分	直前の平日の13時	直前の平日の10時

３．処方入力について

　注射薬の処方オーダリングは、１施用毎にラベルが出力されるため、入力に際しては以下の注意が必要である。

・使用量は１回の使用量を入力する。

（誤）

	薬剤名	使用量	単位
Rp	2009/04/20～2009/04/20毎日	(1)回	
	点滴静注(div)		
	ソルデム３A　500mL/袋	3	袋

（正）

	薬剤名	使用量	単位
Rp	2009/04/20～2009/04/20毎日	(3)回	
	点滴静注(div)		
	ソルデム３A　500mL/袋	1	袋

・施用毎にRpを分けて入力する。

（誤）

	薬剤名	使用量	単位
Rp	2009/04/20～2009/04/20毎日	(2)回	
	点滴静注(div)		
	ソルデム３A　500mL/袋	1	袋
	ヴィーンD　500mL/本	1	本

（正）

	薬剤名	使用量	単位
Rp	2009/04/20～2009/04/20毎日	(2)回	
	点滴静注(div)		
	ソルデム３A　500mL/袋	1	袋
Rp	2009/04/20～2009/04/20毎日	(2)回	
	点滴静注(div)		
	ヴィーンD　500mL/本	1	本

４．注射薬の中止・返品のしかた

１）外来

・発行前の処方　：　医師が削除、修正

・発行後　：　当該注射処方せんに返品内容を記載してもらい、返品薬剤を受領、調剤印押印

①外来看護師は、指示変更内容を「②(カルテ)」に記載し、そのコピーを医事課へまわす。

②当該注射処方せん「①(薬剤部)」に、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨記載する。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

２）入院

・未実施　：医師が削除、修正

・実施待、実施中、実施済　：看護スタッフが注射処方せん（カルテ）のコピーで返品

①医師は中止がある場合、看護師へ伝達する。

②病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨を記載する。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

③当日分については、看護師が実績入力にて中止入力を行う。
翌日分以降※は、返品された薬剤とカルテ控えを元に、薬剤師がオーダ削除を行う。

※部分オーダ削除はシステム上できないので、翌日分以降については処方全ての返品を行い、新たに処方する。

５．疑義問い合わせについて

処方せんの記載不備、投与量その他、内容に疑義がある場合、薬剤師は主治医に問い合わせを行う。

１）抗がん剤及び毒薬(一部を除く)＊の問い合わせ

研修医・レジデントが処方した抗がん剤及び毒薬(一部を除く)の疑義問い合わせは、①主治医②指導医③担当診療部長の順に疑義の理由を説明し確認を行う。

確認前、あるいは後も疑義が完全に解けない場合、薬剤の払い出しをしてはならない。

＊：抗がん剤、毒薬その他の類似医薬品の処方は研修医・レジデントのサインだけでは無効で、必ず指導医又は担当診療科部長のサインを必要とする(院長通知/2003.3.12)。

２）疑義問い合わせ後の処理、変更について

問い合わせの結果、訂正が必要となった場合には、薬剤師は一旦処方中止とし、オーダ削除を行い、医師に新たにオーダ入力してもらう。

それが困難な場合は、薬剤師がオーダの修正操作を行い、修正された処方指示票の変更部分に朱書きで〇をつけ、新たに発行された「②カルテ」と薬剤とともに病棟へ搬送する。その際、手書きで修正した修正前処方せんと、修正済み処方せんとをホッチキスでとめる。

注射処方の修正について医師の確認を不要とするもの

① 薬剤の規格を変更し、薬価の安い組み合わせにする

② 薬剤の溶解に注射用水等が必要であるが、処方されていない場合に溶解液（注射用水等）を追加する

③ アンプルの薬剤に生食キットＨが処方されている場合、生食100mL 1本に変更する

【資料１】
院内共通の【救急カート・注射薬配置図】

１）新型救急カート（６段）

１段目	ドミニン	3	ニトロール	3	メイロン	5
	プロタノールＬ	3	硫酸マグネシウム補正液	1	ｱﾄﾞﾚﾅﾘﾝｼﾘﾝｼﾞ	5
	ノルアドリナリン	3	アデホス-L10(冷)	2		
	リドカインｼﾘﾝｼﾞ	3	ペルジピン	1		
	ヘルベッサー50	1	アトロピンｼﾘﾝｼﾞ	4		

２段目	ネオフィリン	3	セルシン	2	カルチコール	3
	ソル・コーテフ500	2	ミダゾラム	2	生理食塩液(20mL)	10

輸液：ソルラクト(500mL)、生理食塩液(500mL)、メイロン(250mL)　各１袋

２）旧型救急カート（５段）

ｱﾄﾛﾋﾟﾝ　ﾄﾞﾐﾆﾝ ｼﾘﾝｼﾞ　<3A> <4本>	ﾘﾄﾞｶｲﾝ　ﾍﾟﾙｼﾞﾋﾟﾝ　ﾉﾙｱﾄﾞﾘﾅﾘﾝ ｼﾘﾝｼﾞ　<1A>　<3A> <3本>	ﾌﾟﾛﾀﾉｰﾙL　ｱﾄﾞﾚﾅﾘﾝ <3A>　ｼﾘﾝｼﾞ <5本> ﾍﾙﾍﾞｯｻｰ50 <1V>
硫酸マグネシウム補正液 <1A>	ｿﾙ･ｺｰﾃﾌ500　ｱﾃﾞﾎｽ-L10 <2V>　<2A>(冷所)	ﾆﾄﾛｰﾙ <3A>
ﾈｵﾌｨﾘﾝ　ｾﾙｼﾝ <3A>　<2A>	ﾐﾀﾞｿﾞﾗﾑ　ﾒｲﾛﾝ <2A>　<5A>	ｶﾙﾁｺｰﾙ　生理食塩液(20) <3A>　<10A>

輸液：ソルラクト(500mL)、生理食塩液(500mL)、メイロン(250mL)　各１袋

【資料２】
患者さんへの説明および同意書の取得をお願いします

生物由来製品（ワクチン、抗毒素、ヘパリンなど）・特定生物由来製品（血液製剤、血漿分画製剤など）に関する改正薬事法が平成１５年５月１５日に公布され、平成１５年７月３０日より施行されました。

このうち特定生物由来製品の使用にあたっては、**「製品の便益と感染リスクを患者へ説明」**することが必要となります（改正薬事法68条の7）。

また、このことについて、**「同意書を取得する」**ことが病院の方針です。

特定生物由来製品

一　般　名	商　品　名
人血漿由来 乾燥血液凝固第XⅢ因子	フィブロガミンＰ静注用
フィブリノゲン加第XⅢ因子	ベリプラストＰ　コンビセット
	ボルヒール
フィブリノゲン配合剤	タコシール
乾燥濃縮人ｱﾝﾁﾄﾛﾝﾋﾞﾝⅢ	アンスロビンＰ
乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	ＰＰＳＢ－ＨＴ静注用
人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	ガンマグロブリン
乾燥ｽﾙﾎ化人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	献血ベニロン-Ｉ
抗HBs人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	ヘパトセーラ
乾燥抗HBs人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	乾燥HBグロブリン
乾燥抗D(Rho)人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	抗Dグロブリン
乾燥ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙ処理 抗破傷風人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	テタノブリン-IH
pH4処理酸性人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	ポリグロビンＮ
人免疫グロブリンG	献血ヴェノグロブリンIH
ルリオクトコグアルファ	アドベイド注射用
乾燥ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙ処理 抗HBs人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ	ヘブスブリン-IH
人ハプトグロビン	ハプトグロビン静注
ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ-β-1b(遺伝子組換え)	ベタフェロン皮下注
人血清アルブミン含有製剤	アブラキサン点滴静注用
人C1 - インアクチベーター	ベリナートP静注用
活性化プロテインＣ	注射用アナクトＣ

【2015年3月現在】

本件の問い合わせ先：薬剤部　注射薬調剤室（内線：２７２１）

Ｃ．麻 薬 の 取 り 扱 い

１．麻薬取扱者（施用者・管理者）

１）麻薬施用者

麻薬を施用または施用のため交付（麻薬処方せん）する医師は、本院における麻薬施用者免許証を有しなければならない。

なお、本院の医師は全員麻薬施用者免許を申請し免許を受ける。

２）麻薬管理者

施用のため交付される麻薬を業務上管理する者で、薬剤部長を麻薬管理者とする。

３）麻薬取扱者（施用者・管理者）の免許の申請および更新

免許は本院事務局職員課を経て福岡県知事に申請する。県内で２カ所以上の診療施設において麻薬を施用する医師は一方を従たる業務所として申請する。

免許の有効期間は免許された日から翌年の１２月３１日までであり、隔年に免許を更新する。

２．麻薬の施用

１）調剤用麻薬（オキシコンチン錠、フェントステープなど）は、処方オーダリングによる。オーダリング端末近傍のプリンターに麻薬処方せん（外来患者は『処方せん』）が出力されるので、署名（フルネーム）または押印をして薬剤部へ届ける（患者に渡す）。

２）注射用麻薬（塩酸モルヒネ注、フェンタニル注など）は、注射オーダリングによる。オーダリング端末近傍のプリンターに麻薬注射せん・麻薬注射施用票と麻薬注射せん（控え）・注射せん（麻薬あり）控えが出力されるので、押印または署名（フルネーム）をして薬剤部へ届ける。

手術室、ＩＣＵ、救急外来は麻薬注射処方せん（手書き）による。

３．麻薬処方せん

麻薬処方せんは、通常の処方せんに比して①麻薬施用者免許番号、②記名押印または署名（フルネーム）の記載が必要とされる。

４．麻薬入院患者持参連絡票

入院患者が麻薬を持参したときには、「麻薬入院患者持参連絡票」（ピンクの用紙）に記入のうえ、薬剤部へ連絡する。薬剤部では、麻薬を持参した患者の氏名と受け入れた品名及び数量を薬剤部の麻薬帳簿に記載する。

以下は、注射用麻薬の取扱いについて記載する。

５．注射用麻薬施用の手順（注射オーダリングの場合）

１）麻薬施用者は麻薬注射せん・麻薬注射施用票に記名押印または署名（フルネーム）する。

☆　処方は１処方せんに１品目とする。

☆　１回請求本数は１日分以内として処方する。

２）麻薬注射処方せんを薬剤部に提出し、受領者はサインまたは押印する。

処方せん（控え）は、薬剤部麻薬係で保管する。

３）患者に施用し、診療録に記録する。

麻薬注射施用票には施用月日、施用量、残量を記載する。

４）施用票等の返納処理を行う。

麻薬注射施用票、返納薬袋、空アンプル、残液または未使用アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。返納者は返品残量返納者欄にサインまたは押印する。

注射オーダリングによる麻薬注射施用票

薬剤名	施用本数	返品本数
[麻]塩酸モルヒネ注 １０mg（１．０mL）	１　Ａ（Ｖ）	０　Ａ（Ｖ）

施用記録

施用薬剤名	施用月日	施用量	残　量
[麻]塩酸モルヒネ注 １０mg（１．０mL）	４／１	０．５mL	０．５mL

６．麻薬注射処方せん（手書き・４枚複写）の様式と保管

１枚目	薬剤部	麻薬注射処方箋	薬剤部保管
２枚目	薬剤部	麻薬注射施用票	〃
３枚目	医事課	麻薬注射納付通知書	医事課保管
４枚目	病棟	麻薬注射施用票	病棟保管

７．注射用麻薬施用の手順（手書き・４枚複写）

１）麻薬施用者は麻薬注射処方せん（４枚複写）に所定事項を記入する。

☆　処方は１処方せんに１品目とする。

☆　１回請求本数は１日分以内として処方する。

２）麻薬注射処方せんを薬剤部に提出し、受領者はサインまたは捺印する。

処方せん１枚目（薬剤部）は、薬剤部麻薬係で保管する。

３）患者に施用し、診療録に記録する。

麻薬注射施用票（薬剤部）（注射薬とともに戻った３枚複写分）には施用月日、施用時刻、施用量、残量を記載する。

４）施用票等の返納処理を行う。

麻薬注射施用票（必要事項を記載した３枚複写分）、返納薬袋、空アンプル、残液または未使用アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。返納者は返品残量返納者欄にサインまたは押印する。

８．麻薬注射施用票記入についての注意事項

１）施用欄・残量欄は１回ごとに施用量（ｍＬ）、残量（ｍＬ）を記入する。

麻　薬　品　名	施用月日	時　　刻	施用量ｍＬ	残　量ｍＬ
塩酸モルヒネ注 １０mg （１．０mL）	９／１	９：００	０．５	０．５
	／			
	／			
	／			
受　領　本　数	施　用　本　数		返　品　本　数	
１　　Ａｍｐ	１　　Ａｍｐ		０　　Ａｍｐ	

２）１アンプルを分割して施用する場合は、アンプルごとの施用を明確にするため施用数量（ｍＬ）を括弧でくくる。

麻　薬　品　名	施用月日	時　　刻	施用量ｍＬ	残　量ｍＬ
フェンタニル注 （２．０mL）	９／１	９：００	１．０	
	９／１	９：３０	１．０	０
	／			
	／			
	／			
受　領　本　数	施　用　本　数		返　品　本　数	
１　　Ａｍｐ	１　　Ａｍｐ		０　　Ａｍｐ	

３）施用本数欄には施用したアンプルの合計数を、返品本数欄には未開封アンプルの合計数を記入する。

麻　薬　品　名	施用月日	時　　刻	施用量ｍＬ	残　量ｍＬ
塩酸モルヒネ注 １０mg （１．０mL）	９／１	９：００	０．５	０．５
	９／１	９：３０	１．５	０
	／			
	／			
	／			
受　領　本　数	施　用　本　数		返　品　本　数	
３　　Ａｍｐ	２　　Ａｍｐ		１　　Ａｍｐ	

４）特殊な事例について

★　麻薬注射液の施用を中止した場合

返品本数を記入した麻薬注射施用箋（３枚複写）と一緒に、麻薬アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。

★　麻薬アンプルをカットしたが施用しなかった場合
施用数量、残量、施用本数、返品本数およびアンプルをカットしたが施用しなかった理由を記載し、アンプルとともに薬剤部に提出する（内容液が流出しないように注意し、注射筒にはいった液はそのまま提出する）。

９．診療録（カルテ）への麻薬施用記録

麻薬施用者は施用後ただちに診療録（カルテ）に施用年月日、麻薬品名、数量（ｍｇ、ｇ、ｍＬ）のほか麻と朱書することが望ましい。
また、処方せんなどの記入事項を訂正した場合は必ず訂正印を押印する。

10. 麻薬の事故処理

麻薬を誤って破損、内容液が流出した場合、「院内麻薬事故報告書」に必要事項を記載し、破損した容器（アンプル、注射筒など）を添付して薬剤部麻薬係へ提出する。
麻薬についての滅失、破損、盗難などの事故が生じた時は、現場を保存し、すみやかに麻薬管理者に報告し、その指示を受ける。

11. 麻薬中毒者の届出

麻薬を長期にわたり施用している患者について、麻薬中毒と認められたとき、「医療用麻薬中毒者診断届」を提出する。
また、これに関わる患者が死亡、転院などした時は、すみやかに「転帰届」を提出する。

「麻薬事故報告書」などの用紙は、薬剤部麻薬係に請求する。

【資料３】採用している麻薬一覧表

	内用･外用薬（規格）		注射薬（規格）
1	ＭＳコンチン錠(10mg)	28	アブルトラル舌下錠(100μg)
2	塩酸モルヒネ末	29	アブストラル舌下錠(200μg)
3	塩酸モルヒネ散(10%)《院内》	30	アルチバ注（2mg/v）
4	塩酸モルヒネ錠(10mg)	31	モルヒネ注（10mg/1mL）
5	オキシコンチン錠(５mg)	32	モルヒネ注（50mg/5mL）
6	オキシコンチン錠(10mg)	33	モルヒネ注（200mg/5mL）
7	オキシコンチン錠(20mg)	34	フェンタニル注(0.1mg/2mL)
8	オキシコンチン錠(40mg)	35	オピスタン注(35mg/1mL)
9	オプソ内服液(５mg/2.5mL)	36	ペチロルファン注(50mg/1mL)
10	モルペス細粒(2%0.5g)(10mg/包)	37	ケタラール注(200mg/20mL)
11	モルペス細粒(6%0.5g)(30mg/包)	38	ケタラール注(500mg/10mL)
12	パシーフカプセル(30mg)	39	オキファスト注(10mg/1mL)
13	パシーフカプセル(60mg)	40	オキファスト注(50mg/5mL)
14	パシーフカプセル(120mg)		
15	アンペック坐薬(10mg)		
16	アンペック坐薬(20mg)		
17	オキノーム散(0.5% 0.5g)(2.5mg/包)		
18	オキノーム散(0.5% 1.0g)(5mg/包)		
19	オキノーム散(1% 1.0g)(10mg/包)		
20	デュロテップMTパッチ2.1mg		
21	デュロテップMTパッチ4.2mg		
22	デュロテップMTﾊﾟｯﾁ8.4mg[用時購入]		
23	デュロテップMTﾊﾟｯﾁ16.8mg[用時購入]		
24	フェントステープ(1mg)		
25	フェントステープ(2mg)		
26	フェントステープ(4mg)		
27	フェントステープ(8mg)		

Ｄ．処方オーダリングシステム利用上の注意点

処方オーダリングシステムに関して、端末操作方法を除く利用上の注意点を以下にまとめています。

１．処方オーダリングの全般的注意ならびに適応範囲

●内用薬・外用薬（麻薬、治験薬を含む）は全て処方オーダリングの対象です。

● 入院期間中の個人使用ペン型インスリンの物品は処方オーダリングで受け、コストは注射オーダリングでおとしてください。退院時処方は、針も含め処方オーダリングです。（針は、『医療材料等払い出し伝票』でも可）

●院内特殊製剤・試薬等および自己血糖測定関連器具・成長ホルモン用ペン型注入器等は従来通り、それぞれ、『院内製剤等指示せん』又は『医療材料等払い出し伝票』に手書きで記載してください（「院外処方せん発行マニュアル；2003年４月９日作成」参照）。

●外来診療において処方せんは医師の手元のプリンターに打ち出されます。処方内容を確認したのち捺印して患者さんに渡してください。

●入院患者の処方せんは薬剤部に直接プリントアウトされます。
ただし薬剤師が処方せんをプリントアウトしてチェックする時間は緊急度によって違います。
例外として、麻薬処方せんは医師の手元のプリンターに出力されますので、署名（フルネーム）または捺印して薬剤部に搬送してください。

●健康保険と自賠、自費など保険種別に処方せんを打ち分けることが必要です。

●外来患者に至急使用したい薬剤を処方する場合は、「検査・処置用薬請求伝票」に手書きで記載し、薬剤部まで提出して下さい（同一日に、院外処方と院内処方をオーダーすることはできません）。ただし、麻薬が必要な場合は院内処方で入力して下さい。

分類	外来患者	入院患者	備考
内用・外用薬 （麻薬を含む）	○	○	【退院確認】が入力されれば院外処方せんも発行可能
治験薬（内用・外用）	○	○	
在宅注射薬 （注射針を含む）	○	×	退院時は処方オーダリングシステムで処方 【退院確認】が入力されれば院外処方せんも発行可能
注射薬	×	×	注射オーダリングシステムで処方 （入院患者の個人使用ペン型インスリンの物品は処方オーダリングで）
院内製剤	×	×	外来・入院とも『院内製剤等指示せん』に手書き
検査・処置の医薬品	×	×	外来・入院とも処置伝票を用いて常備の医薬品を使用
医療材料等 （自己血糖測定関連器具 ・ペン型注入器等）	×	×	外来・入院とも『医療材料等払い出し伝票』に手書き あるいはＳＰＤで請求して使用

（○：処方オーダー、×：オーダー外）

注

１） 全ての処方せんは、Ａ４サイズの用紙に縦書きで印字されます。

２） 外来処方せんカルテ控えは、処方せんと同時に発行可能です。Ａ４用紙に縮小文字で印字されますので、切り取ってカルテに貼ってください。

３） 入院処方せん控え（青用紙）は処方せんと同時に薬剤部で発行されます。調剤済み薬剤と一緒に病棟に届きます。

２．使用する伝票

処方区分		内容説明
外来処方	院外調剤	・原則、外来患者全員
	院内調剤	・治験薬投与期間中、適用保険が未確定、時間外、及び院長が特に指定した患者
入院処方	通常処方	・緊急を要さない場合の処方（他科受診も含む） ・原則として７日分処方（他科受診についてはこの限りでない。但し、16:45まで） ・開始日当日に入力された処方は医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行されるが、それ以外は薬剤師の指示で発行する
	臨時処方	・緊急を要する場合及び時間外（夜間、土日・祝日）の処方 ・３日分までの処方。医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行される
	麻薬を含む処方	・麻薬を含む処方せんは医師の捺印を必要とするため、入力側のプリンターで処方せんを発行し薬剤部へ搬送する
	退院処方	・退院時の処方 ・医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行される ・【退院確認】を入力すれば院外処方せんでの発行も可能 ・【退院予定】をして入力することが望ましい ・投与開始日は退院予定日までとする
	事後処方	・手書き処方せんの薬歴入力（医事へ反映されない）

（2009年1月改訂）

３．処方せんの追加・変更・中止・削除

区分	担当者	外来		入院	
		未会計	会計済	未出力	出力済
*1 追加	医師	○	×	○	×
	薬剤師	△	○	－	○
*2 変更	医師	○	○	○	×
	薬剤師	△	○	－	○
*3 中止	医師	○	○	○	×
	薬剤師	△	○	－	○
*4 削除	医師	×	×	○	×
	薬剤師	△	○	－	○
補足		１）会計済となった処方せんへの追加は、医師は行えないため、薬剤部へ連絡し、薬剤師が追加・訂正を行う ２）未会計・会計済に関わらず発行された処方せんの変更を薬剤師に依頼する場合は、処方医が直接薬剤部へ電話連絡する ３）保険調剤薬局からの疑義照会があったときは、薬剤師が電話で処方医に確認をし、処方医の指示により薬剤師が追加や変更を行う		１）既に薬剤部プリンターに出力された処方せんへの追加や訂正につき直接医師が行う場合は、薬剤部へ連絡し処方画面が変更可能な状態「未実施」へ移ったことを確認ののち行う ２）発行・出力された処方せんの追加や訂正を薬剤師に依頼する場合は、処方医が直接薬剤部へ電話連絡する	

*1 追加：処方(Rp.)を加える　　*2 変更：処方薬または用法・用量等を変える

*3 中止：処方(Rp.)の一部減　　*4 削除：処方全体の取り消し

（2012年4月改訂）

４．Ｑ＆Ａ

Ｑ１：手書きの処方せん（内用・外用）を使うことは出来ますか？
Ａ１：信頼性の確保と改ざんの防止のため、システムダウン時（Ｑ８）を除き手書き処方せんは使用出来ません。

Ｑ２：プリントアウトした処方せんを手書きで修正してもいいですか？
Ａ２：Ｑ１と同様の理由から原則として認められません。例外として、処方医による「処方せんの使用期間」の修正、および医事課職員による「保険者番号」の修正については認められます。この場合、訂正のうえ訂正印を押して下さい。（Ｑ９も参照のこと）

Ｑ３：再来患者の処方せんを患者が受診する前にあらかじめ出力しておくことはできますか？（例えば薬のみの再来など）
Ａ３：処方せんの発行は受診した患者に対してのみ行なうことが出来ます。外来受診時に主治医が診察、処方せん発行をすることができない場合（たとえば午前受診の予定が午後に来院した場合など）は、同じ診療科の別の医師が処方せんを発行する必要があります。なお薬のみでも基本診療料が算定されますので基本カードが必要となります。

Ｑ４：採用薬以外の内服薬・外用薬を使用したいのですが？
Ａ４：原則として出来ません。非採用薬品の処方については限定採用の手続きが必要となりますので、医薬品情報管理室の担当薬剤師（内線2725）までご相談下さい。

Ｑ５：院外処方と院内処方を同時に発行できますか？
Ａ５：原則として認められていません。詳しくは医事課までお問い合わせ下さい。

Ｑ６：在宅指導算定患者への消毒薬などはどのように処方すればいいのですか？
Ａ６：これまで通り「医療材料等払い出し伝票」の空欄に手書きで記載してください。

Ｑ７：自己注射の針のみを出すことは出来ますか？
Ａ７：原則として出来ません。

Ｑ８：システムがダウンしたときはどうすればいいのですか？
Ａ８：手書き処方せんで対応します。

Ｑ９：外来処方せんを発行したあとでまちがいに気づいたとき誰が訂正をするのですか？
Ａ９：患者さんが外来にいる場合、外来以外の院内にいる場合、会計が終了し院外の処方せん薬局にいる場合で異なります。簡単な変更は薬剤師が処方せん発行医師に電話で確認をとり変更をしますが、薬剤の変更など大きな訂正については当該医師があらためて処方し直す必要があります。詳細は「3. 処方せんの追加・変更・中止・削除」を見てください。

Q10：入院処方せん発行後の変更・訂正はどのようにすればいいのですか？
A10：原則的には医師が画面からおこないます。処方せんが既に発行されている場合（例えば「臨時処方」の場合）には画面からの訂正が出来ないので、薬剤部に電話で連絡してください。

５．オーダリング時の誤入力防止対策について

近年、オーダリング時に別の医薬品を選択したり（例：ノルバスクと入力するところノルバデックスを選択）、用量入力を間違ったために起こった医療事故が報道されています。

今回のシステムでは、できる限りこれらの間違いを起こさないようにマスタを作成しています。

１）毒薬、麻薬入力時の確認メッセージ
２）抗癌剤[腫]、毒薬[毒]、糖尿病用薬[糖]などを医薬品名の頭に表示
　例：[腫･毒]アルケラン錠　２ｍｇ、　[糖]オイグルコン錠　２．５ｍｇ
３）麻薬は赤文字表示
４）頭３文字以上の入力
５）併用禁忌薬チェック
６）妊婦、授乳婦への投与禁忌チェック
７）投与量の誤入力チェック(最大投与量設定)
　原則成人の通常投与量の最大値の２倍を越える量で警告（入力可能）、５倍を越える量では入力不可となります。
　それ以上の処方が必要な場合には、薬剤部まで連絡下さい。
　注射薬、外用薬および小児用量には対応していないのでご注意下さい。
　例：クラビット錠５００ｍｇ（通常１錠）では３錠で警告、６錠で入力不可
８）アレルギーを起こす恐れがある医薬品のチェック
　ピリン、キシロカイン、ヨード、抗生剤（ペニシリン、セフェム、ニューキノロン、ペネム系）、NSAIDS（アスピリン、その他）等についてアレルギー歴にチェックをつけた患者に対し、対象成分が含まれる医薬品を処方した場合には警告が表示されます。
９）透析患者への投与禁忌チェック
10）最大投与日数の規定がある医薬品のチェック

６．入院処方入力時の注意点

１）入院中他科受診時の処方入力方法

入院患者に対して『通常』処方で入力した場合、診療科名に関係なく処方日数は７日までとなります。

もし、他科受診で７日以上の処方が必要な場合は、長期投与コメントから『入院中他科受診』を選択することで、７日以上の入力が可能となります。但し、１６：４５以降の入力は、『臨時』処方になり、３日分までの入力となります。

以上

Ｅ．注射オーダリングシステム利用上の注意点

注射オーダリングシステムに関して、端末操作方法を除く利用上の注意点を以下にまとめています。

1．システム運用と紙運用の範囲について

●注射オーダリングは、注射処方せんにて運用されているものを原則として対象にします。したがって、処置で使用される造影剤、手術室で使用される薬剤などはその対象としません。

●院内特殊製剤・試薬等および自己血糖測定関連器具等は従来通り、それぞれ、『院内製剤等指示せん』又は『医療材料等払い出し伝票』に手書きで記載してください。

●麻薬処方せんは医師の手元のプリンターに出力されますので、署名または捺印して薬剤部に搬送してください。

現在、注射処方せんにて運用しているものを注射オーダリングの範囲とする。

対象外の部門	:	手術室
システムと紙運用が混在の部署	:	ＩＣＵ、救急外来
その他	:	原則システム運用

麻薬の注射についても上記と同様に運用

●インスリン、吸入については下記の通り運用

［インスリン］

	物　品	コスト
スライディングスケール	製剤伝票	専用伝票
ヒューマリンＲ（複数患者分割使用）	製剤伝票	注射オーダ
個人使用ペン型インスリン	処方オーダ	注射オーダ

・定期打ちインスリンは注射オーダを使用する（払い出しなし）。
・注射オーダで、インスリンの中止・変更があった場合は看護師が実績入力時に変更する。

［吸入］

	物　品	コスト
吸入液	製剤伝票	汎用オーダ
生食	製剤伝票	汎用オーダ

注射オーダでは、注射用生食と処置用の生食が医事課で区別できないため、運用の統一、コストの重複回避のため上記運用とした。

２．注射処方区分および締め切り時間について

［処方区分］

処方区分		内容説明
外来		・外来患者に対し、登録方法「予定入力」を選択した際に「外来」と登録される。
入院処方	通常	・入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間前であった場合に「通常」として登録される。
	臨時	・入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間後であった場合に「臨時」として登録される。
	事後	・入院・外来ともに、登録方法「事後入力」を選択した際に「事後」と登録される。
	必要時	・入院患者に対し、医師が前もって指示・登録しておいた「必要時」処方について、看護師が発行する。

［締め切り時間］

実施予定日	4北・6北病棟	その他の病棟
火～金曜日実施予定分	前日の13時	前日の10時
土・日曜日実施予定分	前々日の13時	前々日の10時
月曜日実施予定分	直前の平日の13時	直前の平日の10時

３．出力される帳票類について

処方区分によって各部署から出力される帳票は以下の通りである。

	近傍プリンター	薬剤部
外来	注射処方せん　　：１枚 注射処方せん（カルテ） ：１枚 注射指示票　　：１枚	――――
入院（通常）	注射指示票　　：１枚	注射処方せん　　：１枚 注射処方せん（カルテ）：１枚
入院（臨時）	注射指示票　　：１枚 注射引き換え票　：１枚	注射処方せん　　：１枚 注射処方せん（カルテ）：１枚
化学療法	注射指示票　　：１枚 ｃｈｅｍｏシート：２枚	注射処方せん　　：１枚 注射処方せん（カルテ）：１枚 注射処方せん（調製）　：１枚
麻薬	注射指示票　　：１枚 麻薬注射せん　　：１枚 麻薬注射せん控え：１枚	注射処方せん　　：１枚 注射処方せん（カルテ）：１枚

４．注射処方せんの修正・削除・発行・実施

<table>
<tr><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2">担当者</th><th colspan="2">外　来</th><th colspan="2">入　院</th></tr>
<tr><th>未実施</th><th>発行済</th><th>未実施</th><th>発行済</th></tr>
<tr><td rowspan="3">修正</td><td>医師</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>薬剤師</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>看護師</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">削除</td><td>医師</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>薬剤師</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>看護師</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">発行</td><td>医師</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>薬剤師</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>看護師</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">実施</td><td>医師</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>薬剤師</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>看護師</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

５．注射運用フロー

（１）外来注射処方せんの流れ

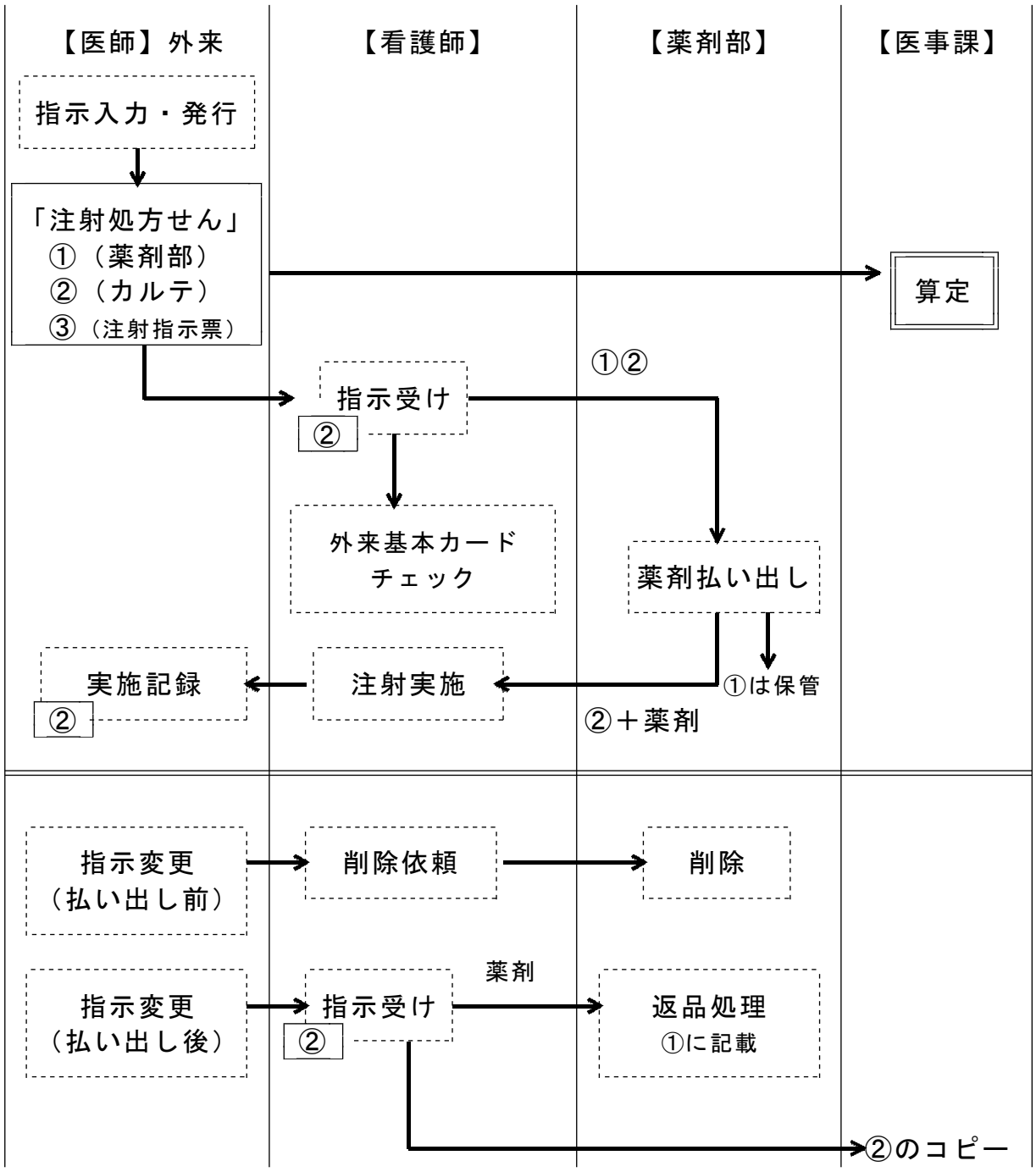
【払い出し】

１）医師がオーダー指示入力を行い、看護師は「②(カルテ)」にて指示受けを行う。

２）外来各診療科は、外来注射処方せん「①(薬剤部)」「②(カルテ)」をもって、薬剤部へ出向く。

３）外来看護師（又はメッセンジャー）は、「①(薬剤部)」を薬剤部に提出し、注射薬と②を受け取り外来へ運ぶ。

４）外来看護師は、注射薬と「②(カルテ)」の内容を再度確認し、注射を施行する。



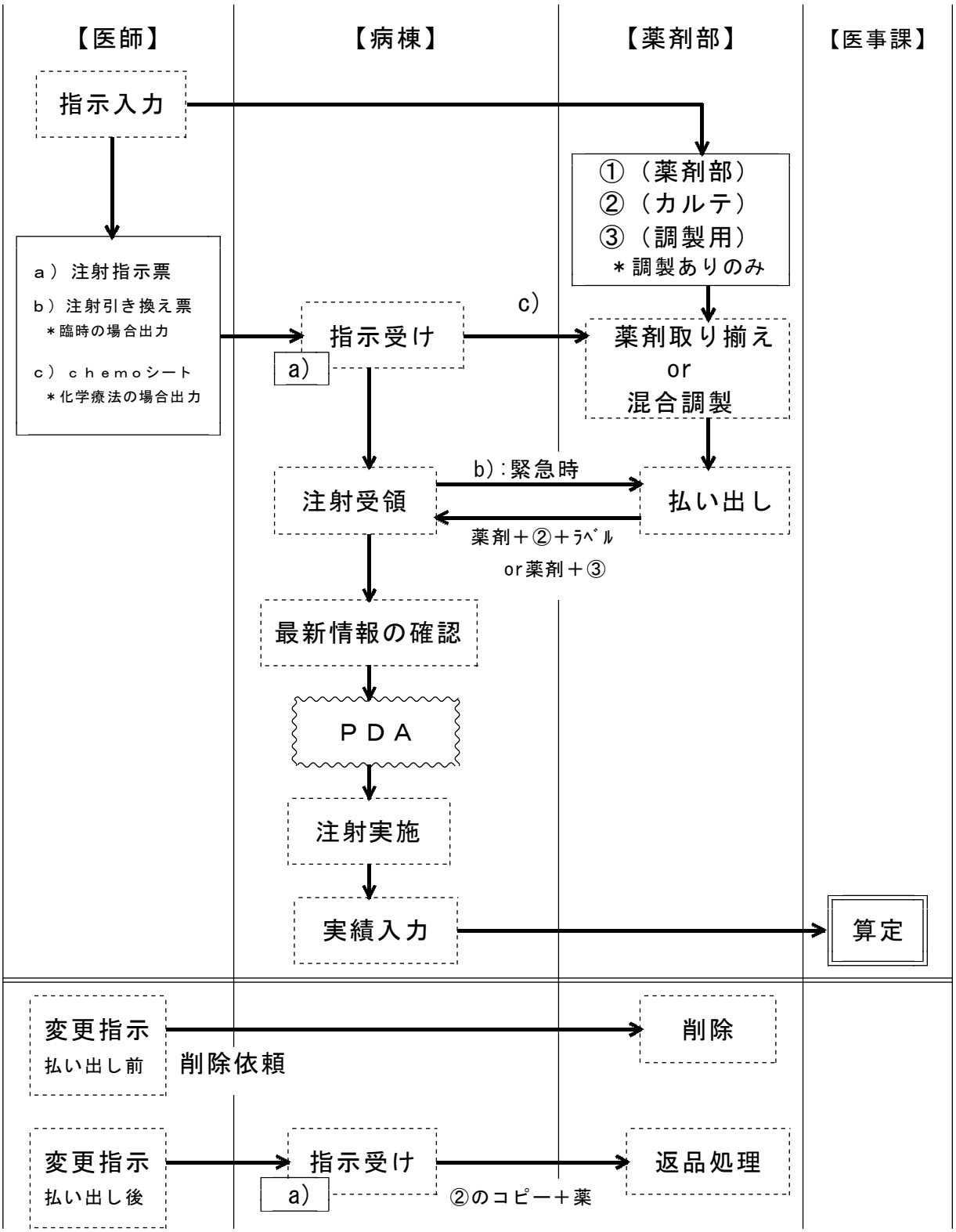
【中止・返品】
５）外来看護師は、指示変更内容を「②(カルテ)」に記載し、そのコピーを医事課へまわす。
６）当該注射処方せん「①(薬剤部)」に、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨記載する。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

（２）入院注射処方せんの流れ
【払い出し】
１）医師がオーダー指示入力を行い、看護師は「ａ）注射指示票」にて指示受けを行う。
２）薬剤部は、調剤、鑑査終了後、「②(カルテ)」と注射薬とラベルを病棟に払い出す。

※月～水曜日：翌日分まで調剤する。 木曜日：土曜日の分まで(通常、金・土曜日の２日分)調剤する。 金曜日：月曜日の分まで(通常、日・月曜日の２日分)調剤する。

なお、急ぎの場合や夜勤時は、薬剤部へ電話連絡の上、「ｂ)注射引き換え票」を持って注射薬を受領に来る。注射薬調剤室の窓口で薬剤師と看護師が互いに確認してから受領する。

【中止・返品】
３）病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーと返品薬剤を薬剤部へ提出する。
当日分については、看護師が実績入力にて中止入力を行う。
翌日分以降※は、返品された薬剤とカルテ控えを元に、薬剤師がオーダ削除を行う。
※部分オーダ削除はシステム上できないので、翌日分以降については、処方全ての返品を行い、新たに処方する。


【医師】
【病棟】
【薬剤部】
【医事課】
指示入力
①（薬剤部）
②（カルテ）
③（調製用）
＊調製ありのみ
ａ）注射指示票
ｂ）注射引き換え票
＊臨時の場合出力
ｃ）ｃｈｅｍｏシート
＊化学療法の場合出力
指示受け
a)
c)
薬剤取り揃え
or
混合調製
b)：緊急時
注射受領
払い出し
薬剤＋②＋ﾗﾍﾞﾙ
or薬剤＋③
最新情報の確認
ＰＤＡ
注射実施
実績入力
算定
変更指示
払い出し前
削除依頼
削除
変更指示
払い出し後
指示受け
a)
②のコピー＋薬
返品処理

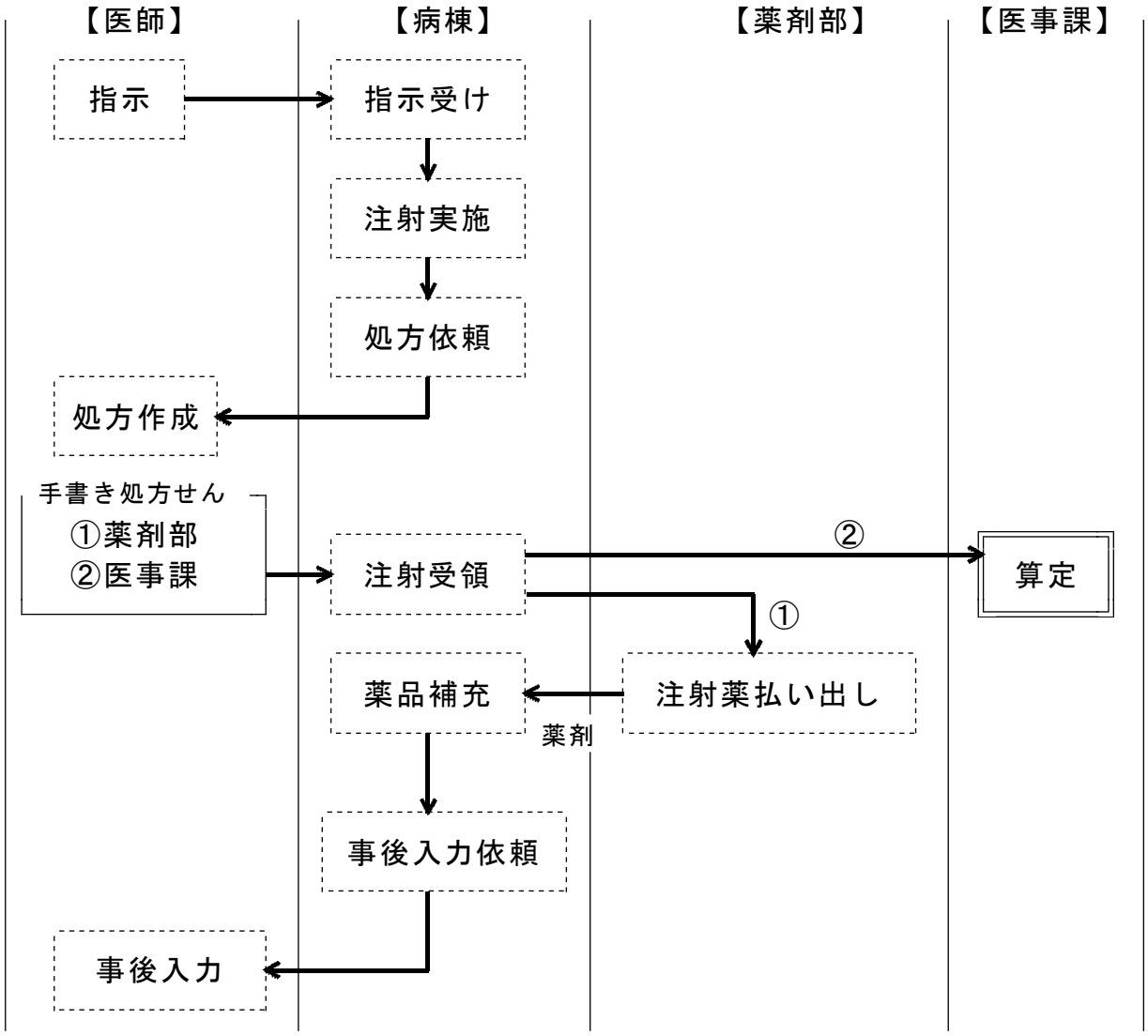
３）緊急時・事後処方せんの流れ（手書きの注射処方せんを使用する）

【払い出し】

１）医師は、緊急時等のみ、紙の処方せんに指示を書き、看護師または看護助手は手書き処方せんを持って薬剤部へ注射薬を受領に来る。

２）薬剤師は処方せんに従って薬剤を払い出す。

３）医師は、手書きされた処方せんの内容を、オーダーにて事後入力を行う。



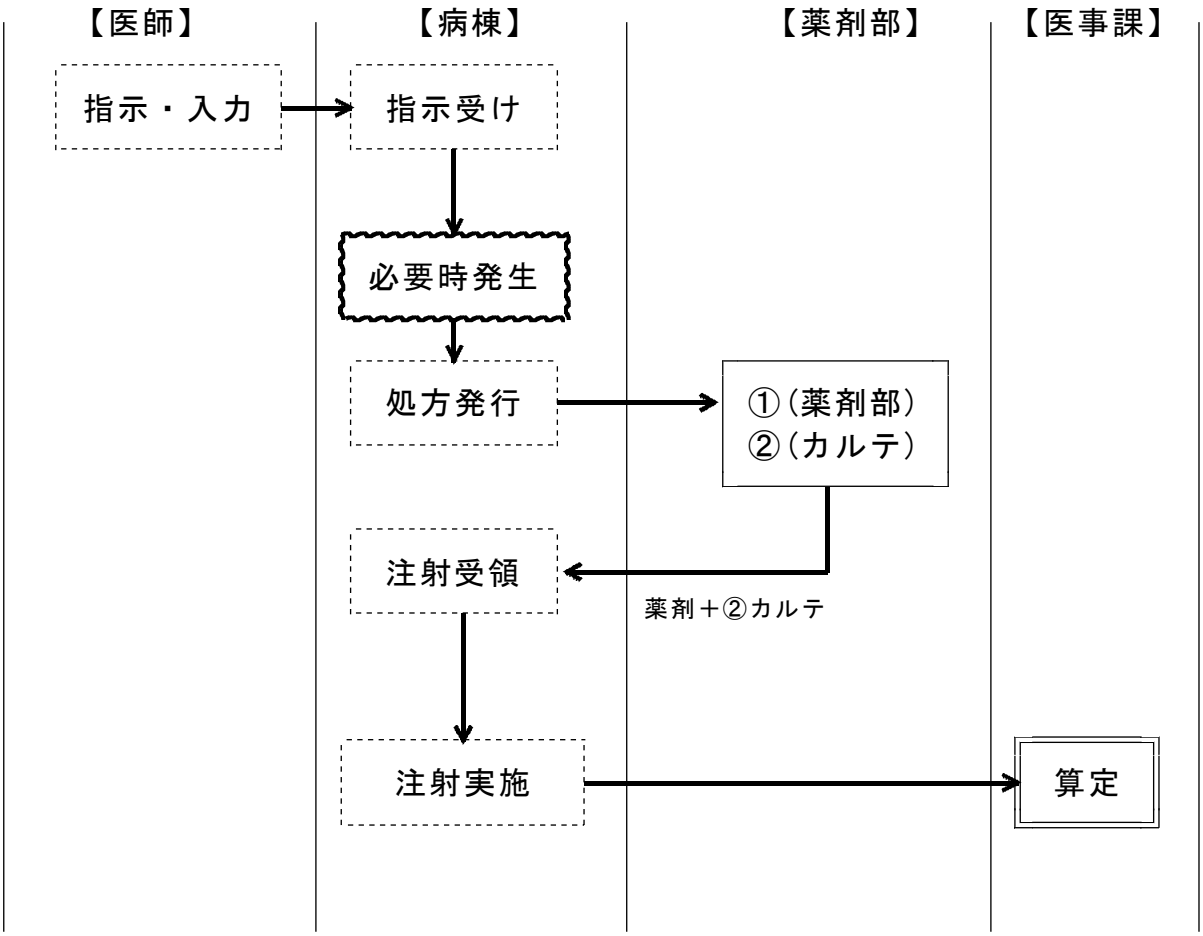
４）必要時処方せんの流れ

【払い出し】

１）医師は、あらかじめ必要になると予想される処方がある場合、前もって『必要時』オーダを入力し、指示しておく。

２）看護師は、必要になった時、指示及び指示を出した医師の確認を行い、『必要時』処方を発行する

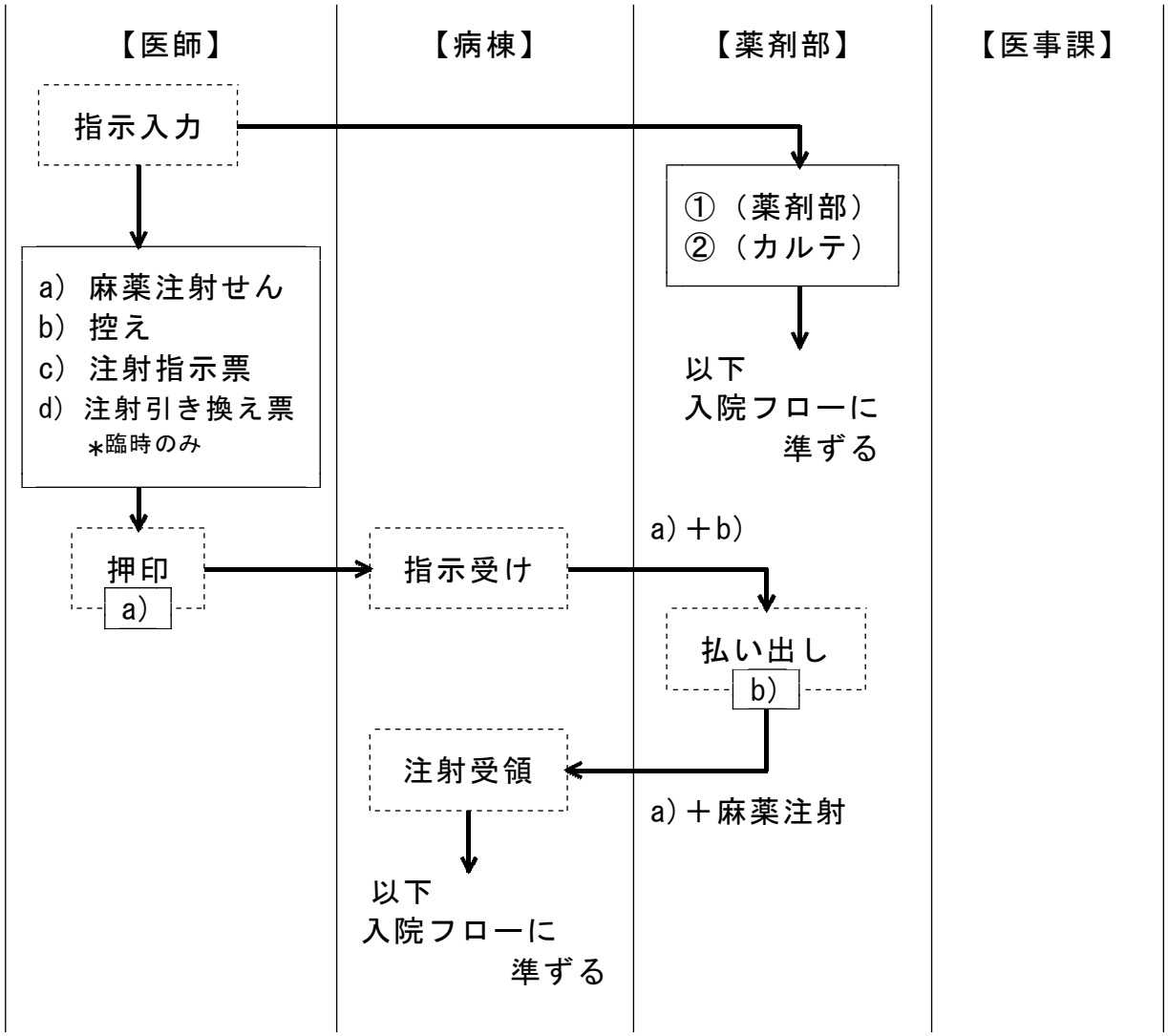
３）薬剤師は、処方せんに従って薬剤を払い出す。



５）麻薬処方せんの流れ

麻薬処方せんは医師の近傍プリンターに出力されるので、記名押印または署名（フルネーム）して薬剤部に搬送する。

麻薬施用者番号が登録されていない医師は、処方入力が出来ない。同じ科で登録されている医師に処方入力を依頼する。



６．修正・削除について

１）外来

事前入力した発行前の処方…医師が修正・削除

①発行後の処方は、医師はオーダでの修正・削除ができないため、薬剤部にオーダ削除を連絡し、当該処方せんを破棄する。
②修正処方は新規にオーダする。
③薬剤受領後の中止・変更は、その内容を実施記録用の処方せんに記載し、コピーを医事課に送る。薬剤部に提出済みの処方せんに、赤字で返品薬剤を囲み、返品の旨記載し、返品薬剤とともに薬剤部へ提出する。

２）入院

オーダの進捗状況によって対応が異なる。
①未実施の場合
→ 医師が修正・削除
②実施待、実施中、実施済の場合
→ 医師は修正・削除できないので、中止がある場合、看護師へ伝達する。看護師がカルテ控えにて返品処理を行う。返品された薬剤とカルテ控えをもとに、薬剤師がオーダ削除を行う。当日分については、看護師が実績入力にて中止入力を行う。
＊翌日以降実施分については、部分オーダ削除はシステム上できないので、処方全ての返品を行い、新たに処方する。

７．医事伝達について

１）外来

注射せん発行時に医事にコストが送信される。
外来化学療法加算、無菌製剤処理料については、薬剤部にて該当処方箋に押印することで、医事に伝達する。

２）入院

実績入力を全て行った時点で医事にコストが送信される。
（１日３回の指示が出ていた場合、１、２回目は実績入力を終了、３回目は取りやめとなった場合、３回目に対し、実績確認画面より「中止」を行わないと医事伝達されない。）

３）事後

外来、入院ともにオーダーでの医事コストは送信されない。手書きの伝票にてコスト伝達する。

８．抗がん剤の処方について

抗がん剤の注射処方をオーダーした場合、近傍プリンタにchemoシートが２部出力される。このフローシートに処方医とは別の確認医がサインし、１部を薬剤部に提出する。

＊確認医：抗がん剤、毒薬その他の類似医薬品の処方は研修医・レジデントのサインだけでは無効で、必ず指導医又は担当診療科部長のサインを必要とする(院長通知/2003.3.12)。

９．よくある問い合わせ

Ｑ１：採用薬以外の注射薬を使用したいのですが？

Ａ１：原則として出来ません。非採用薬品の処方については限定採用の手続きが必要となりますので、医薬品情報管理室の担当薬剤師（内線2725）までご相談下さい。

Ｑ２：在宅指導算定患者への消毒薬などはどのように処方すればいいのですか？

Ａ２：これまで通り「医療材料等払い出し伝票」に記載してください。

Ｑ３：自己注射の針のみを出すことは出来ますか？

Ａ３：処方せんとしての交付は原則として出来ません。（厚労省保険局より通知：平20保医発0305001）「医療材料等払い出し伝票」にて院内で交付することは可能です。

Ｑ４：システムがダウンしたときはどうすればいいのですか？

Ａ４：手書き処方せんで対応します。（各部署へ配置済み。請求は用度へ）

静注・点滴静注薬リスト：投与法による分類

Ａ：医師が実施すべき薬剤

① 当院指定のハイリスク医薬品
（麻酔・鎮静薬、筋弛緩薬、静注用抗不整脈薬、静注用抗がん剤など）
② 呼吸抑制作用がつよい薬剤
③ 配合薬による結晶化など特異な薬剤
④ 毒薬指定
⑤ 治験薬
⑥ 造影剤・診断用薬剤（医師の立ち会いで実施する検査用薬剤）

Ｂ：一定の制限のもと看護師が実施してもよい薬剤

初回投与は、医師が実施して一定時間効果及び副作用を観察する必要があるが、継続する場合は、医師の指示に従い、看護師が実施してもよい薬剤である。

① 当院指定のハイリスク医薬品
（点滴静注用カテコラミン製剤、点滴静注用血管拡張薬、インスリン注射薬など）
② 点滴静注・皮下注射用抗がん剤
③ 抗生剤（抗菌薬、抗ウイルス用薬含む）
④ 血液製剤
⑤ 生物学的製剤
⑥ 副腎皮質ホルモン
⑦ 精神神経用剤

Ｃ：看護師が実施してもよい薬剤

① 輸液
② その他

註：この投与法分類は、各部署（外来；一般病棟、ICU、緩和病棟；画像センター、検査室等）で注射用医薬品の標準的投与実施法を確立するために、診療・看護チームが協議する際の基礎となるものである。

九州厚生年金病院医療安全管理室
（2008 年 10 月作成）
（2013 年 3 月作成）

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
全身麻酔剤	0.5gイソゾール	A	○	○		○		○
	2%プロポフォール注「マルイシ」(限定)	A			○			○
	1%ディプリバン注	A			○			○
	1%ディプリバン注ーキット	A			○			○
	ドロレプタン注射液25mg	A	○	○				
催眠鎮静剤・抗不安剤	セルシン注射液5mg	B	○	○		○		
	ドルミカム注射液10mg	B	○		○			○
	プレセデックス静注液200μg「マルイシ」	A	○					
抗てんかん剤	アレビアチン注250mg	A	○			○		
	ノーベルバール静注用250mg	B	○					
	ホストイン静注750mg	A	○	○				
解熱鎮痛消炎剤	ノイロトロピン注射液3.6単位	C		○				
	ペンタジン注射液15	B	○	○	○			
	ロピオン静注50mg	C		○				
抗パーキンソン剤	アキネトン注射液5mg	B						
	ドパストン注射液(限定)	C		○				
精神神経用剤	アナフラニール点滴静注液25mg	B		○				
	アタラックス-P注射液(25mg/ml)	C		○	○	○		
	セレネース注5mg	B						
中枢神経用剤	ラジカット点滴静注バッグ30mg	C		○	○			
(抗不整脈剤)	静注用キシロカイン2%	B		○	○			○
骨格筋弛緩剤	サクシン注射液100mg	A	○	○				○
	エスラックス静注50mg/5.0mL	A	○	○	○			○
	ダントリウム静注用20mg	A		○	○			
	マスキュラックス静注用4mg	A	○	○	○			○
	ミオブロック静注4mg	A	○	○	○			○
自律神経剤	ワゴスチグミン注0.5mg	A		○				
	アトワゴリバース静注シリンジ3mL	A	○	○	○			○
鎮痙剤	アトロピン注0.05%シリンジ「テルモ」(1mL)	A		○	○			
	ブスコパン注射液	C		○	○			
	日本薬局方　パパベリン塩酸塩注射液	A	○					
	補正用硫酸マグネシウム液	B						
	ビスダイン静注用15mg	A			○			

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
強心剤	ドミニン点滴静注100mg	B				○		○
	イノバン注0.3%シリンジ	B						○
	ドブトレックス注射液100mg	B				○		○
	プロタノールーL注（0.2mg）	B						○
	ジゴシン注0.25mg	B				○		
	コアテック注5mg	B						
	エホチール注射液	B						○
血圧上昇剤	エピネフリン注0.1%シリンジ「テルモ」	A						○
	ネオシネジンｺｰﾜ注5mg	A						○
	ノルアドリナリン注1mg	B				○		○
	ボスミン注	B				○		○
抗不整脈剤	アスペノン静注用100	A						○
	アミサリン注100mg	A						○
	アンカロン注150	A			○		○	○
	サンリズム注射液50（限定）	A						○
	シベノール注射液	A		○				○
	シンビット静注用50mg	A				○		○
	タンボコール静注50mg（限定）	A						○
	リスモダンP静注50mg	A		○				○
	リドカイン静注用2%シリンジ「テルモ」	B		○	○			○
	ワソラン静注5mg	A						○
β遮断剤	インデラル注射液2mg	A						○
	注射用オノアクト50	A		○				○
	コアベータ静注用12.5mg	A		○		○		
血圧降下剤（Ca拮抗薬）	ペルジピン注射液10mg	A						○
冠血管拡張剤	ヘルベッサー注射用50	A						○
	シグマート注48mg	B						
	ニトロール注5mg	B		○				○
	ミオコール注5mg	B						○
血管拡張剤	ハンプ注射用1000	B		○				

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
その他の循環器用薬	インダシン静注用1mg	B		○			○	
	エリル点滴静注液30mg	A	○	○				
	ノバスタンHI注10mg/2mL	C		○	○			
	パルクス注5μg	B		○	○			
	パルクス注10μg	B		○	○			
	注射用プロスタンディン20	B		○	○			
	注射用プロスタンディン500	A	○	○				
	静注用フローラン0.5mg	B		○				
	静注用フローラン1.5mg	B		○				
	20%マンニットール注射液「YD」	C						
	グリセオール注	C						
利尿剤	ソルダクトン100mg	C		○				
	ダイアモックス注射用500mg	C		○				
	ラシックス注20mg	C		○	○			
呼吸促進剤	アネキセート注射液0.5mg	B		○				
	アプニション静注15mg	B		○	○			
	塩酸ナロキソン注射液「三共」	B						
	ネオフィリン注250mg	B		○	○			
	ドプラム注射液400mg	C						
去たん剤	ビソルボン注射液	C		○	○			
消化性潰瘍用剤	ガスター注射液10mg	C		○	○			
	ガスター注射液20mg	C		○	○			
	ザンタック注射液50mg（限定）	C		○	○			
	タガメット注射液200mg	C		○	○			
	タケプロン静注用30mg	C		○	○			
制吐剤	カイトリルバック注3mg	C			○			
	ナゼア注射液0.3mg	C		○	○			
	プリンペラン注射液10mg	C		○	○			
	アロキシ静注0.75mg	B		○	○	○		
	プロイメンド点滴静注用150mg	B			○	○		
脳下垂体ホルモン製剤	コートロシン注（限定）	C		○				
	アトニン－O注5単位	B		○				
	ピトレシン注射液	B		○				
抗甲状腺薬	メルカゾール注10mg（限定）	B						

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
副腎皮質ホルモン製剤	水溶性ハイドロコートン注射液100mg	B		○	○			
	ソル・コーテフ	B		○	○			
	ソル・コーテフ500	B		○	○			
	デカドロン注射液(0.5mLアンプル)	B		○	○		○	
	デカドロン注射液(2mLバイアル)	B		○	○		○	
	リメタゾン静注2.5mg(限定)	B		○	○			
	リンデロン注2mg(0.4%)	B		○	○			
	注射用ソル・メルコート40	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート125	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート500	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート1,000	B		○	○		○	
	水溶性プレドニン20mg	B		○	○			
インスリン製剤	ヒューマリンR注U-100	B			○			○
その他のホルモン剤	サンドスタチンLAR筋注用20mg(限定)	B			○			
	プロスタルモン・F注射液1000	B		○				
子宮収縮剤	エルゴメトリン注射液F	B						
その他の泌尿生殖器官用薬	マグセント注100mL	B						
	ウテメリン注50mg	B		○				
その他の器官系用薬	セファランチン注10mg(限定)	C		○	○			
ビタミンD製剤	オキサロール注5μg	C						
	オキサロール注10μg	C						
ビタミンB製剤	フラビタン注射液20mg(限定)	C						
パントテン酸系製剤	パントール注射液100mg	C						
ビタミンB12製剤	メチコバール注射液500μg	C			○			
ビタミンC製剤	ビーシー注500	C						
ビタミンK製剤	ケイツーN静注用10mg	C		○				
ビタミンB複合剤	ビタメジン静注用	C		○				
総合ビタミン剤	ビタジェクト注キット	C		○	○			
ビオチン	ビオチン注1mg「フソー」(限定)	C						

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
ブドウ糖製剤	大塚糖液5%（20mLプラスチックアンプル）	C						
	大塚糖液5%（50mLプラボトル）	C						
	大塚糖液5%（100mLプラボトル）	C						
	大塚糖液5%（250mLプラボトル）	C						
	大塚糖液5%（500mLプラボトル）	C						
	大塚糖液10%（500mLプラボトル）	C						
	大塚糖液20%（20mLプラスチックアンプル）	C				○		
	ブドウ糖注50%シリンジ「テルモ」(20mL)	C				○		
	大塚糖液50%（200mL袋）	C				○		
	エルネオパ1号輸液 （1500mL）	C		○	○			
	エルネオパ2号輸液 （1500mL）	C		○	○			
	フルカリック1号輸液(903mL)	C		○	○			
	フルカリック2号輸液(1003mL)	C		○	○			
	フルカリック3号輸液(1103mL)	C		○	○			
	ハイカリック液-1号(700mL)	C						
	ハイカリック液-2号(700mL)	C						
	ハイカリック液-3号(700mL)(限定)	C						
	ハイカリックRF輸液 (500mL)	C						
アミノ酸製剤	アミノレバン点滴静注（500mL袋）	C						
	ネオアミユー	C						
	プレアミン-P注射液	C						
総合アミノ酸製剤	ビーフリード輸液（500mL袋）	C		○				
	プロテアミン12X注射液(200mL)	C						
	プロテアミン12注射液(200mL)	C						
脂肪製剤	イントラリポス輸液10%(250mL)	C		○	○			
電解質輸液	大塚生食注（1000mL袋）	C						
	大塚生食注（20mL管）	C						
	大塚生食注（50mL瓶）	C						
	大塚生食注（100mL瓶）	C						
	大塚生食注（500mL袋）	C						
	大塚生食注（1000mL瓶・広口）	C						
	大塚生食注（250mL袋）	C						
	生食溶解液キットH(100mL)	C						
電解質輸液(開始液)	ソルデム1輸液 (200mL)	C						
	ソルデム1輸液 (500mL)	C						
	ビカーボン輸液	C						
	フィジオ140輸液	C						

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
電解質輸液(維持液)	ヴィーン3G注(500mL)(限定)	C						
	ヴィーンD注(500mL)	C						
	ヴィーンF注(500mL)(限定)	C						
	ソルデム3A輸液(200mL)	C						
	ソルデム3A輸液(500mL)	C						
	ソルデム3AG輸液(200mL)	C						
	ソルデム3AG輸液(500mL)	C						
	ソルラクト輸液(500mL)	C						
	デノサリン1輸液(500mL)	C						
	ラクテックD輸液(500mL袋)	C						
血液代用剤	低分子デキストランL注(250mL袋)	C		○	○			
	ヘスパンダー(500mL)	C		○	○			
補正用電解質製剤	KCL注10mEqキット「テルモ」	C				○		○
	フェジン静注40mg	B		○		○		
	エレメンミック注	C						
	補正用塩化ナトリウム液	C						
	カルチコール注射液 8.5% 5mL	C				○		
	リン酸ナトリウム補正液	C						
止血剤	アドナ注(静脈用)50mg	C		○				
	トランサミン注5%	C		○				
	トランサミン注10%	C		○				
	ノボ・硫酸プロタミン静注用100mg	C		○				
血液凝固阻止剤	ノボ・ヘパリン注5千単位	C		○	○			
	フラグミン静注5000	C		○	○			
	ヘパフラッシュ100単位／mLシリンジ100mL	C		○	○			
	ヘパリンNa透析用250単位/mLｼﾘﾝｼﾞ20mL「AT」	C		○	○			
	ヘパリンナトリウム注N5千単位／5mL「味の素」	C		○	○			
	ダルテパリンNa静注5000単位/20mLｼﾘﾝｼﾞ「ﾆﾌﾟﾛ」	C		○	○			
白血球減少症治療剤	グランシリンジ75	C		○	○			
	グランシリンジ150	C		○	○			
	グラン注射液M300	C		○	○			
	ノイトロジン注100μg	C		○	○			
	ノイトロジン注250μg	C		○	○			
	ノイアップ注50(限定)	C		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
肝臓疾患用剤	強力ネオミノファーゲンシーP20mL	C		○	○			
	強力ネオミノファーゲンシー静注シリンジ40mL	C		○	○			
	タチオン注射用200mg（限定）	C			○			
解毒剤	デスフェラール注射用500mg	C		○	○			
	デトキソール静注液2g	A						
	ウロミテキサン注100mg	C						
	ウロミテキサン注400mg	C						
	パム静注500mg	B						
	メイロン静注7%（20mL管）	B				○		
	メイロン静注7%（250mL袋）	B				○		
酵素製剤	ウロナーゼ静注用6万単位	A		○	○			
	クリアクター静注用40万	A		○	○			
	グルトパ注 1200万	A		○	○			
代謝性医薬品	アデホス-Lコーワ注40mg	A		○				
	アデホス-Lコーワ注10mg	A		○				
	ゾメタ注射液4mg	C						
	ネスプ静注用20μgシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用30μgシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用40μgシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用10μgシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用60μgシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用120μgシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用180μgシリンジ	C		○	○			
	アレディア注15mg	C		○	○			
	エスポー注射液750シリンジ	C		○	○			
	エスポー皮下用24000シリンジ	C		○	○			
	エポジン注シリンジ1500	C		○	○			
	エポジン注シリンジ3000	C		○	○			
	エポジン注シリンジ6000	C		○	○			
	エポジン注シリンジ24000	C		○	○			
	注射用エラスポール100	B						
	エルシトニン注40単位	C		○	○			
	キサンボンS注射液40mg	C		○	○			
	サンディミュン注射液（限定）	B		○				
	プログラフ注射液2mg	B		○	○			
	ミラクリッド注射液2万5千単位	B		○	○			
	ミラクリッド注射液10万単位	B		○	○			
	コアヒビター注射用10mg	A		○	○			
	コアヒビター注射用50mg	A		○	○			
	レミナロン注射用100mg	B		○	○	○		
	レミナロン注射用500mg	B		○	○	○		

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(アルキル化剤)	注射用イホマイド1g	B				○	○	○
	注射用エンドキサン100mg	B		○	○	○	○	○
	注射用エンドキサン500mg	B		○	○	○	○	○
	ブスルフェクス点滴静注用60mg(限定)	B		○	○	○	○	○
	アルケラン静注用50mg(限定)	B		○	○	○	○	○
	注射用サイメリン50mg	B				○	○	○
	ダカルバジン注用100	B			○	○	○	○
	ニドラン注射用50mg	B				○	○	○
	注射用メソトレキセート5mg	B		○	○		○	○
抗癌剤(代謝拮抗剤)	注射用メソトレキセート50mg	B		○	○		○	○
	メソトレキセート点滴静注液200mg	B		○	○		○	○
	5-FU注250協和	B		○	○	○	○	○
	5-FU注1000協和	B		○	○	○	○	○
	キロサイド注20mg	B		○	○		○	○
	キロサイド注40mg	B		○	○		○	○
	キロサイド注200mg	B		○	○		○	○
	キロサイドN注400mg	B		○	○		○	○
	キロサイドN注1g	B		○	○		○	○
	ジェムザール注射用200mg	B			○	○	○	○
	ジェムザール注射用1g	B			○	○	○	○
	ビダーザ注射用100mg	B		○	○			○
	フルダラ静注用50mg	B				◎	○	○
	アリムタ注射用100mg	B		○	○			○
	アリムタ注射用500mg	B		○	○			○
抗癌剤(抗生物質製剤)	マイトマイシン注用2mg	B		○	○	◎	○	○
	マイトマイシン注用10mg(限定)	B		○	○	◎	○	○
	コスメゲン静注用0.5mg	B			○	◎	○	○
	ブレオ注射用15mg	B		○		○	○	○
	ペプレオ注射用10mg	B		○	○	○	○	○
	アクラシノン注射用20mg	B		○		○	○	○
	アドリアシン注用10	B		○		◎	○	○
	アドリアシン注用50	B		○		◎	○	○
	ドキシル注20mg	A			○	○		○
	イダマイシン注	B		○		◎	○	○
	カルセド注射用20mg	B				◎	○	○
	カルセド注射用50mg	B				◎	○	○
	ダウノマイシン静注用20mg	B		○		◎	○	○
	ピノルビン注射用10mg	A		○		◎	○	○
	ピノルビン注射用20mg	A		○		◎	○	○
	ファルモルビシン注射用10mg	B		○		◎	○	○
	ファルモルビシン注射用50mg	B		○		◎	○	○

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(植物成分製剤)	エクザール注射用10mg	B			○	◎	○	○
	オンコビン注射用1mg	A			○	◎	○	○
	カンプト点滴静注40mg	B		○	○	○	○	○
	カンプト点滴静注100mg	B		○	○	○	○	○
	ドセタキセル注（20mg）	B		○	◎	◎	○	○
	ドセタキセル注（80mg）	B		○	◎	◎	○	○
	ワンタキソテール点滴静注20mg/1mL	B		○	◎	◎	○	○
	ワンタキソテール点滴静注80mg/4mL	B		○	◎	◎	○	○
	パクリタキセル注射液30mg	B		○	◎	◎	○	○
	パクリタキセル注射液100mg	B		○	◎	◎	○	○
	ナベルビン注10	B		○	○	◎	○	○
	ナベルビン注40	B		○	○	◎	○	○
	ハイカムチン注射用1.1mg	B				○	○	○
	注射用フィルデシン1mg	A			○	◎	○	○
	注射用フィルデシン3mg	A			○	◎	○	○
	ベプシド注100mg	B		○	○	○	○	○
	アブラキサン点滴静注用100mg	A		○	○	○		○
抗癌剤(分子標的治療薬)	アバスチン点滴静注用100mg/4mL	B		○	○		○	○
	アバスチン点滴静注用400mg/16mL	B		○	○		○	○
	ハーセプチン注射用60	B		○	◎		○	○
	ハーセプチン注射用150	B		○	◎		○	○
	マイロターグ点滴静注用5mg（限定）	B		○	○		○	○
	リツキサン注10mg/mL(100mg/10mL)	B		○	◎		○	○
	リツキサン注10mg/mL(500mg/50mL)	B		○	◎		○	○
	レミケード点滴静注用100（限定）	B		○	◎		○	
	ベクティビックス点滴静注100mg	B			○	○		○
	アービタックス注射液100mg	B		○	○			○

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(その他)	アクプラ静注用50mg	B		○	○	○	○	○
	アクプラ静注用100mg	B		○	○	○	○	○
	コホリン（限定）	B				○	○	○
	トリセノックス注10mg（限定）	B				○	○	○
	ノバントロン注10mg	B		○	○	◎	○	○
	パラプラチン注射液50mg	B		○	◎	○	○	○
	パラプラチン注射液150mg	B		○	◎	○	○	○
	パラプラチン注射液450mg	B		○	◎	○	○	○
	ベルケイド注射用3mg（限定）	A		○			○	○
	ランダ注(10mg/20mL)	B		○	◎	○	○	○
	ランダ注(25mg/50mL)	B		○	◎	○	○	○
	ランダ注(50mg/100mL)	B		○	◎	○	○	○
	エルプラット点滴静注液50mg	A		○	◎		○	○
	エルプラット点滴静注液100mg	A		○	◎		○	○
	ロイスタチン注8mg（限定）	B				○	○	○
	ロイナーゼ注用5000	B		○	○	○	○	○
解毒剤	レボホリナート点滴静注用「NK」100mg	C						
	レボホリナート点滴静注用「NK」25mg	C						
	ロイコボリン注3mg	C						
抗ヒスタミン剤	クロール・トリメトン注10mg	C		○				
抗生物質(ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系)	ゾシン静注用2.25	B		○	○			
	ゾシン静注用4.5	B		○	○			
	注射用ビクシリン（250mg(力価)）	B		○	○			
	注射用ビクシリン（500mg(力価)）	B		○	○			
	注射用ビクシリン（1g(力価)）	B		○	○			
	ペントシリン注射用1g	B		○	○			
	ペントシリン注射用2g	B		○	○			
	ユナシン-S静注用0.75g	B		○	○			
	ユナシン-S静注用1.5g	B		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗生物質(ｾﾌｪﾑ系)	クラフォラン注射用0.5g	B		○	○			
	クラフォラン注射用1g	B		○	○			
	セフタジジム静注用0.5g「メルク」	B		○	○			
	セフタジジム静注用1g「メルク」	B		○	○			
	セフメタゾン静注用0.25g	B		○	○			
	セフメタゾン静注用0.5g	B		○	○			
	セフメタゾン静注用1g	B		○	○			
	ファーストシン静注用0.5g	B		○	○			
	ファーストシン静注用1g	B		○	○			
	フルマリン静注用1g	B		○	○			
	注射用マキシピーム 1g	B		○	○			
	ラセナゾリン注射用0.5g	B		○	○			
	ラセナゾリン注射用1g	B		○	○			
	ロセフィン静注用0.5g	B		○	○			
	ロセフィン静注用1g	B		○	○			
	ワイスタール静注用1g	B		○	○			
抗生物質(ｶﾙﾊﾞﾍﾟﾈﾑ系)	オメガシン点滴用0.3g(限定)	B		○	○			
	カルベニン点滴用0.25g	B		○	○			
	カルベニン点滴用0.5g	B		○	○			
	チエナム点滴静注用0.5g	B	○	○	○			
	フィニバックス点滴用0.25g	B		○	○			
	フィニバックス点滴用0.5g	B		○	○			
	メロペン点滴用バイアル0.5g	B		○	○			
抗生物質(ﾓﾉﾊﾞｸﾀﾑ系)	アザクタム注射用1g	B		○				
抗生物質(ﾆｭｰｷﾉﾛﾝ系)	シプロキサン注300mg	B		○	○			
	パシル点滴静注液500mg	B		○	○			
	パシル点滴静注液300mg (限定)	B		○	○			
	クラビット点滴静注バッグ500mg/100mL	B		○	○	○		
抗生物質(ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系)	硫酸アミカシン注射液「萬有」100mg	B	○	○	○			
	エクサシン注射液200	B		○	○			
	ゲンタシン注10	B		○				
	ゲンタシン注60	B		○				
	トブラシン注60mg	B		○	○			
	注射用パニマイシン100mg(限定)	B		○				
	ハベカシン注射液100mg	B	○	○	○			
抗生物質(ｸﾞﾘｺﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞ系)	注射用タゴシッド200mg	B		○	○			
	塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g	B		○	○			
抗生物質(ﾎｽﾎﾏｲｼﾝ系)	ホスミシンS静注用0.5g	B		○	○			
	ホスミシンS静注用2g	B		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗生物質(ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系)	注射用エリスロシン	B		○	○			
	ジスロマック点滴静注用500mg	B		○	○	○		
抗生物質(ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系)	ミノマイシン点滴静注用100mg	B		○	○			
抗生物質(ﾘﾝｺｼﾝ系)	ダラシンS注射液300mg	B		○	○			
	ダラシンS注射液600mg	B		○	○			
抗生物質(ｵｷｻｿﾞﾘｼﾞﾉﾝ系)	ザイボックス注射液600mg	B		○	○			
抗生物質(ﾘﾎﾟﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞ系)	キュビシン静注用350mg	B		○	○			
抗真菌剤	アムビゾーム点滴静注用50mg	B		○	○			
	ファンギゾン注射用50mg	B	○		○			
	ファンガード点滴用50mg	B		○	○			
	ブイフェンド200mg静注用	B			○			
	プロジフ静注液100	B		○	○			
	プロジフ静注液200	B		○	○			
	プロジフ静注液400	B		○	○			
	フロリードF注200mg（限定）	B		○	○			
抗結核剤	イスコチン注100mg（限定）	B						
抗ウイルス剤	アシクロビン点滴静注250mg	B	○		○			
	アラセナーA点滴静注用300mg（限定）	B		○				
	デノシン点滴静注用500mg	B					○	
抗毒素類	乾燥まむし抗毒素“化血研”	A		○	○			
血液製剤	アドベイト注射用250（限定）	B			○			
	献血アルブミネート-ニチヤク	B		○	○			
	献血アルブミン20-ニチヤク	B		○	○			
	赤十字アルブミン20	B		○	○			
	アンスロビン P	B			○			
	アンスロビン P1500注射用	B			○			
	献血グロベニン-I-ニチヤク0.5g	B		○	○			
	献血グロベニン-I-ニチヤク2.5g	B		○	○			
	テタノブリン-IH（250国際単位）	B		○				
	ハプトグロビン注-ヨシトミ（献血）	B		○	○			
	フィブロガミンP	B		○				
	献血ベニロン－I（500mg）	B		○	○			
	献血ベニロン－I（2,500mg）	B		○	○			
	献血ベニロン－I（5,000mg）	B		○	○			
	静注用ヘブスブリン-IH （限定）	B		○				
	日赤ポリグロビンN注5%(0.5g製剤 10mL)	B		○	○			
	日赤ポリグロビンN注5%(2.5g製剤 50mL)	B		○	○			
	日赤ポリグロビンN注5%(5.0g製剤 100mL)	B		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
生物学的製剤(その他)	リンフォグロブリン注射液100mg(限定)	B		○	○			
抗ウイルス剤	ベナンバックス300(限定)	B		○	○			
サルファ剤	バクトラミン注	B		○	○			
溶解剤	大塚蒸留水(20mL管)	C						
	大塚蒸留水(100mL瓶)	C						
X線造影剤	ウログラフィン60%(20ml)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(20mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(50mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(100mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(20mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(50mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(100mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300シリンジ(100mL)(限定)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370シリンジ(100mL)	A		○	○	○		
	イオメロン400(尿路・血管用)(50mL)	A		○	○	○		
	イオメロン400(尿路・血管用)(100mL)	A		○	○	○		
	イソビスト注240	A		○	○	○		
	オムニパーク240(脳槽・脊髄用)10mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300(尿路・血管用)100mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300シリンジ(CT用)150mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300シリンジ(尿路・血管・CT用)100mL	A		○	○	○		
	オムニパーク350シリンジ(血管・CT用)100mL	A		○	○	○		
	ビリスコピンDIC50	A		○	○	○		
機能検査薬	アルギニン注「味の素」	A						
	ヒトCRH注「ミツビシ」	A						
	注射用GRF住友50	A						
	ヒルトニン0.5mg注射液	A		○				
	ジアグノグリーン注射用25mg	A		○				
	インジゴカルミン静注200mg「第一三共」	A		○				
	アンチレクス静注10mg	A						
	グルカゴン注射用1単位「イトウ」	A		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2013

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
その他の診断用薬	オムニスキャンシリンジ10mL	A		○	○	○		
	オムニスキャンシリンジ15mL	A		○	○	○		
	ソナゾイド注射用	A						
	フルオレサイト静注500mg	A		○		○		
	プロハンス注	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ（10mL）	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ（15mL）	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ（20mL）	A		○	○	○		
	リゾビスト注	A		○	○	○		
	レボビスト注射用	A				○		
麻薬	モルヒネ塩酸塩注射液（200mg）	B	○					
	モルヒネ塩酸塩注射液（10mg）	B	○					
	モルヒネ塩酸塩注射液（50mg）	B	○					
	ケタラール静注用200mg	B	○					
	オピスタン注射液35mg	B	○					
	アルチバ静注用2mg	B	○	○	○			
	フェンタニル注射液0.1mg「三共」	B	○	○	○			
	ペチロルファン注射液	B	○					
抗インフルエンザウィルス剤	ラピアクタ点滴用バイアル150mg	B		○				
	ラピアクタ点滴用バッグ300mg	B		○				
酵素製剤	ラスリテック点滴静注用7.5mg	C		○	○			

参考資料
1）九州厚生年金病院　診療マニュアル
　医薬品添付文書に「同意を得る」ことが明記されている医薬品
　院内ハイリスク医薬品（危険医薬品）
2）薬剤の血管炎・血管外漏出対策　九州厚生年金病院　第1版2007.4.18
3）各社添付文書

2008年10月作成
2013年 3月改訂

★夜間・休日に中毒事故の急患が運ばれてきたとき

中毒１１０番電話番号

日本中毒情報センターが開設している中毒１１０番の電話番号を示した。応答は訓練を受けた薬剤師が行っている。

・**大阪中毒１１０番**

・医療機関専用有料電話：**０７２－７２６－９９２３**

１件　２，０００円　２４時間　３６５日

・一般市民向け：０７２－７２７－２４９９

相談料無料　２４時間　３６５日

・タバコ専用電話：０７２－７２６－９９２２（テープによる一般市民向け）

相談料無料　２４時間　３６５日

・**つくば中毒１１０番**

・医療機関専用有料電話：**０２９－８５１－９９９９**

１件　２，０００円　９時～２１時

・一般市民向け：０２９－８５２－９９９９

相談料無料　９時～２１時

《 中毒１１０番の取扱う対象 》

化学物質（タバコ、家庭用品など）、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限定して情報提供している。

中毒１１０番へ問い合わせ時の確認項目

１．医療機関名とその電話番号
２．連絡者（問い合わせ者）の氏名とその所属・職種
３．患者の年齢・体重・性別
４．中毒起因物質（正確な商品名、会社名、用途）
５．中毒事故の発生状況（摂取量、摂取経路、発生時刻）
６．受診時刻
７．患者の状態（来院時の症状、現在の症状）
８．問い合わせまでに行われた処置
９．特に問い合わせたい事柄

＊患者が来院していない場合も含め、できる限り詳しい情報を確認の上お電話下さい

新規採用医薬品添付文書情報

■DICS未登録の新薬について、当院採用品目の添付文書を掲載しています。

【2015年5月採用】
ポマリストカプセル　⇒ 添付文書

【2015年6月採用】
ソバルディ錠400mg　⇒ 添付文書
レンビマカプセル　⇒ 添付文書

【2015年7月採用】
サイラムザ点滴静注液　⇒ 添付文書
オプスミット錠10mg　⇒ 添付文書

2015年３月作成（第１版）
貯　　法：室温保存（「取扱い上の注意」の項参照）
使用期限：３年（包装に表示の使用期限内に使用すること）

日本標準商品分類番号
874291

POMX100JPPL0007V01H01
101154

毒薬
処方箋医薬品＊

抗造血器悪性腫瘍剤

ポマリスト® カプセル1mg
ポマリスト® カプセル2mg
ポマリスト® カプセル3mg
ポマリスト® カプセル4mg

Pomalyst® Capsules
ポマリドミドカプセル

＊**注意**－医師等の処方箋により使用すること

	1mgカプセル	2mgカプセル	3mgカプセル	4mgカプセル
承認番号	22700AMX00655000	22700AMX00656000	22700AMX00657000	22700AMX00658000
薬価収載	薬価基準未収載			
販売開始				
国際誕生	2013年２月			

【警　　告】

1. 本剤はサリドマイド誘導体である。本剤はヒトにおいて催奇形性を有する可能性があるため、妊婦又は妊娠している可能性のある女性患者には決して投与しないこと。[「禁忌」、「重要な基本的注意」、「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照]
2. 本剤の胎児への曝露を避けるため、本剤の使用については、適正管理手順[1]（以下、「本手順」）が定められているので、関係企業、医師、薬剤師等の医療関係者、患者やその家族等の全ての関係者が本手順を遵守すること。[「禁忌」の項参照]
3. 妊娠する可能性のある女性患者に投与する場合は、投与開始前に妊娠検査を行い、陰性であることを確認した上で投与を開始すること。また、投与開始予定４週間前から投与終了４週間後まで、性交渉を行う場合はパートナーと共に極めて有効な避妊法の実施を徹底（男性は必ずコンドームを着用）させ、避妊を遵守していることを十分に確認するとともに定期的に妊娠検査を行うこと。なお、本剤の投与期間中に妊娠が疑われる場合には、直ちに本剤の投与を中止し、医師等に連絡するよう患者を指導すること。[「重要な基本的注意」の項参照]
4. 本剤は精液中へ移行することから投与終了４週間後まで、性交渉を行う場合は極めて有効な避妊法の実施を徹底（男性患者は必ずコンドームを着用）させ、避妊を遵守していることを十分に確認すること。また、この期間中は妊婦との性交渉は行わせないこと。
5. 本剤の投与は、緊急時に十分対応できる医療施設において、造血器悪性腫瘍の治療に対して十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される患者のみに行うこと。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族等に有効性及び危険性（胎児への曝露の危険性を含む）を十分に説明し、文書で同意を得てから投与を開始すること。
6. 深部静脈血栓症及び肺塞栓症の発現が報告されているので、観察を十分に行いながら慎重に投与すること。異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。[「重大な副作用」の項参照]

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

1. 妊婦又は妊娠している可能性のある女性患者[「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照]
2. 適正管理手順を遵守できない患者
3. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組 成・性 状】

販売名	ポマリストカプセル 1mg	ポマリストカプセル 2mg
成分・含量（１カプセル中）	ポマリドミド 1mg含有	ポマリドミド 2mg含有
添加物	D-マンニトール、アルファー化デンプン、フマル酸ステアリルナトリウム	
	（カプセル本体）ゼラチン、酸化チタン、青色２号、黄色三二酸化鉄	（カプセル本体）ゼラチン、酸化チタン、青色２号、黄色三二酸化鉄、赤色３号
色	ボディ：黄色（不透明） キャップ：暗青色（不透明）	ボディ：橙色（不透明） キャップ：暗青色（不透明）
剤形	硬カプセル剤	
外形	カプセル号数：４ POML 1mg 長径：14.3mm 短径：5.32mm	カプセル号数：２ POML 2mg 長径：18.0mm 短径：6.35mm

販売名	ポマリストカプセル 3mg	ポマリストカプセル 4mg
成分・含量（１カプセル中）	ポマリドミド 3mg含有	ポマリドミド 4mg含有
添加物	D-マンニトール、アルファー化デンプン、フマル酸ステアリルナトリウム	
	（カプセル本体）ゼラチン、酸化チタン、青色２号、黄色三二酸化鉄	（カプセル本体）ゼラチン、酸化チタン、青色２号、青色１号
色	ボディ：緑色（不透明） キャップ：暗青色（不透明）	ボディ：青色（不透明） キャップ：暗青色（不透明）
剤形	硬カプセル剤	
外形	カプセル号数：２ POML 3mg 長径：18.0mm 短径：6.35mm	カプセル号数：２ POML 4mg 長径：18.0mm 短径：6.35mm

【効 能・効 果】

再発又は難治性の多発性骨髄腫

《効能・効果に関連する使用上の注意》
本剤による治療は、レナリドミド及びボルテゾミブの治療歴がある患者を対象とし、本剤以外の治療の実施についても慎重に検討した上で、本剤の投与を開始すること。

【用 法・用 量】

デキサメタゾンとの併用において、通常、成人にはポマリドミドとして１日１回4mgを21日間連日経口投与した後、７日間休薬する。これを１サイクルとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。

《用法・用量に関連する使用上の注意》

1. 本剤を含むがん化学療法は、「臨床成績」の項の内容、特に、用法・用量を十分に理解した上で行うこと。
2. Grade* 3又は4の副作用（血小板減少又は好中球減少を除く）が発現した場合には、Grade 2以下に回復するまで本剤を休薬し、再開は休薬前の投与量から 1mg減量すること。なお再開は、患者の状態に応じて判断すること。
   1mgに減量した後に再び副作用が発現した場合には、本剤の投与を中止すること。
3. 血小板減少又は好中球減少が発現した場合には、下表を参照し休薬等を考慮すること。

＊ CTCAE V 4.0

血小板減少／好中球減少発現時の休薬等の目安

	血小板数／好中球数	治療中の処置及び再開時の減量の目安
血小板減少	25,000/μL未満に減少	50,000/μL以上に回復するまで本剤を休薬し、再開は休薬前の投与量から 1mg減量すること。 再開した後に再び発現した場合も同様とし、 1mgに減量した後に再び副作用が発現した場合には、本剤の投与を中止すること。
好中球減少	500/μL未満に減少 又は 発熱性好中球減少症（好中球数が1,000/μL未満で、かつ１回でも38.3℃を超える又は１時間を超えて持続する38℃以上の発熱）	1,000/μL以上に回復するまで本剤を休薬し、再開は休薬前の投与量から 1mg減量すること。 G-CSF製剤を使用していない場合には、使用について考慮すること。 再開した後に再び発現した場合も同様とし、 1mgに減量した後に再び副作用が発現した場合には、本剤の投与を中止すること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

1）深部静脈血栓症のリスクを有する患者［本剤により症状が発現、増悪することがある。］
2）骨髄抑制のある患者[重篤な好中球減少症及び血小板減少症が発現することがある。(「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照)］
3）高齢者［「高齢者への投与」の項参照］
4）サリドマイド又はレナリドミドによる重篤な過敏症の既往歴のある患者
5）腎機能障害のある患者［安全性は確立していない。］
6）肝機能障害のある患者［安全性は確立していない。］

2. 重要な基本的注意

1）本剤はヒトにおいて催奇形性を有する可能性があることから、妊娠する可能性のある女性患者に本剤を投与する場合は、本剤投与開始４週間前及び**本剤投与開始３日前から投与開始直前までに妊娠検査を実施**し、妊娠していないことを確認後に投与を開始すること。また、本剤の治療中は４週間を超えない間隔で、本剤の投与終了の際は本剤投与終了時及び本剤投与終了４週間後に妊娠検査を実施すること。
2）本剤投与開始から投与中止４週間後までは、献血、精子・精液の提供をさせないこと。
3）本剤の投与により重篤な好中球減少症及び血小板減少症が発現することがあるため、定期的に血液学的検査を行うとともに必要に応じて本剤の減量、休薬等適切な処置を行うこと。また、本剤の投与にあたっては、G-CSF製剤の適切な使用も考慮すること。[「用法・用量に関連する使用上の注意」、「慎重投与」の項参照]
4）外国臨床試験において、傾眠、錯乱、疲労、意識レベルの低下、めまいが報告されているので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作を避けるよう注意すること。
5）急性腎不全が発現することがあるため、定期的に血清クレアチニン、血中尿素窒素（BUN）等の腎機能検査、尿検査及び血液学的検査を行い、患者の状態を十分に観察すること。

3. 相互作用

本剤は主にCYP1A2及びCYP3A4によって代謝される。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
CYP1A2酵素阻害作用を有する薬剤 フルボキサミンマレイン酸塩、シプロフロキサシン等	本剤とCYP1A2酵素阻害作用を有する薬剤及びCYP3A4酵素阻害作用を有する薬剤との併用により本剤の血中濃度が増加したとの報告があるので、併用は避け、代替の治療薬への変更を考慮すること。やむを得ず併用投与する場合には、本剤の減量を考慮するとともに、患者の状態を慎重に観察し、有害事象の発現に十分注意すること。	本剤はCYP1A2及びCYP3A4で代謝されるため、本剤とCYP1A2阻害剤及びCYP3A4阻害剤を併用した場合に、本剤の代謝が阻害されると考えられる。
CYP3A4酵素阻害作用を有する薬剤 ケトコナゾール、イトラコナゾール、クラリスロマイシン等		

4. 副作用

再発の多発性骨髄腫患者を対象とした国内第Ⅱ相臨床試験の安全性評価症例において、36例中32例（88.9%）に副作用（臨床検査値異常を含む）が認められた。主な副作用は、好中球減少症25例（69.4%）、血小板減少症12例（33.3%）、発疹８例（22.2%）、白血球減少症５例（13.9%）、発熱５例（13.9%）、貧血４例（11.1%）、リンパ球減少症４例（11.1%）、便秘４例（11.1%）であった。（承認時）
再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした外国第Ⅲ相臨床試験の本剤投与群の安全性評価症例において、300例中247例（82.3%）に副作用（臨床検査値異常を含む）が認められた。主な副作用は、好中球減少症141例（47.0%）、貧血74例（24.7%）、血小板減少症65例（21.7%）、疲労63例（21.0%）、白血球減少症36例（12.0%）であった。（承認時）

1）重大な副作用

(1) 深部静脈血栓症、肺塞栓症：深部静脈血栓症（1.3%）[注1)]、静脈血栓症(0.7%)[注1)]、静脈塞栓症(0.3%)[注1)]、肺塞栓症(1.0%)[注1)]があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(2) 脳梗塞：脳梗塞（0.3%）[注1)] があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(3) 骨髄抑制：汎血球減少症（頻度不明）[注2)]、好中球減少症(47.0%)[注1)]、貧血（24.7%）[注1)]、血小板減少症（21.7%）[注1)]、発熱性好中球減少症（7.0%）[注1)] 等の骨髄抑制があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
(4) 感染症：肺炎（9.0%）[注1)]、敗血症（3.0%）[注1)] 等の重篤な感染症があらわれることがあるので、血液学的検査及び画像検査を行うなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(5) 腫瘍崩壊症候群：腫瘍崩壊症候群（頻度不明）[注2)] があらわれることがあるので、腫瘍量の多い患者では、血清中電解質濃度測定及び腎機能検査を行うなど、患者の状態を十分に観察すること。異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行い、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること。
(6) 心不全、不整脈：心不全（0.7%）[注1)]、心房細動（0.3%）[注1)]、頻脈性不整脈（0.3%）[注1)] 等があらわれることがあるので、心機能検査（心エコー、心電図等）を行うなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
(7) 急性腎不全：急性腎不全（1.3%）[注1)] 等の腎障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
(8) 過敏症：血管浮腫（頻度不明）[注2)]、発疹（5.3%）[注1)]、蕁麻疹（頻度不明）[注2)] 等の過敏症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(9) **末梢神経障害**：末梢性ニューロパチー（7.3%）[注1] 等の末梢神経障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(10) **間質性肺疾患**：間質性肺疾患（頻度不明）[注2] があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

注1）外国臨床試験
注2）外国での報告

2）重大な副作用（類薬）（頻度不明）
類薬で催奇形性が報告されているので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

3）その他の副作用
本剤の投与により次のような症状又は異常があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	10%以上	5～10%未満	5%未満
消化器		便秘、下痢	悪心、腹痛、口内乾燥、嘔吐、痔出血
循環器			低血圧
呼吸器		呼吸困難	咳嗽、発声障害、鼻出血、口腔咽頭痛
泌尿器			尿閉
肝			肝機能検査値異常（AST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GTP上昇）、高ビリルビン血症[注3]
筋骨格		筋痙縮	筋肉痛、四肢痛
代謝			食欲減退、低カリウム血症、低アルブミン血症、低ナトリウム血症、高カリウム血症[注3]
精神・神経系		浮動性めまい	振戦、味覚異常、感覚鈍麻、錯感覚、錯乱状態、回転性めまい、意識レベルの低下、傾眠
皮膚		発疹	そう痒症、脱毛症、紅斑、点状出血
その他	疲労	発熱、無力症	末梢性浮腫、寝汗、悪寒、CRP上昇、多汗症、倦怠感、骨盤痛[注3]、骨痛[注3]

注３）外国での報告（頻度不明）

5. 高齢者への投与
一般に高齢者では生理機能が低下しているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。［「慎重投与」の項参照］

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与
1）妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。［ウサギ及びラットでの生殖発生毒性試験では、妊娠中にポマリドミドを投与された母動物の胎児に催奇形性が認められた[2]。ポマリドミドはヒトで催奇形性を有する可能性がある。］
2）授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。［ラットで乳汁中に移行することが報告されている。[3]］

7. 小児等への投与
小児等に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。

8. 適用上の注意
調剤時
調剤時には脱カプセルをしないこと。

薬剤交付時
PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。［PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。］

服用時
カプセルを噛み砕いたり、又は開けずに服用するように患者を指導すること。

9. その他の注意
外国臨床試験において、本剤の投与を受けた多発性骨髄腫の患者で、基底細胞癌、上皮性腫瘍、扁平上皮癌、急性骨髄性白血病等の悪性腫瘍が発現[4]した。

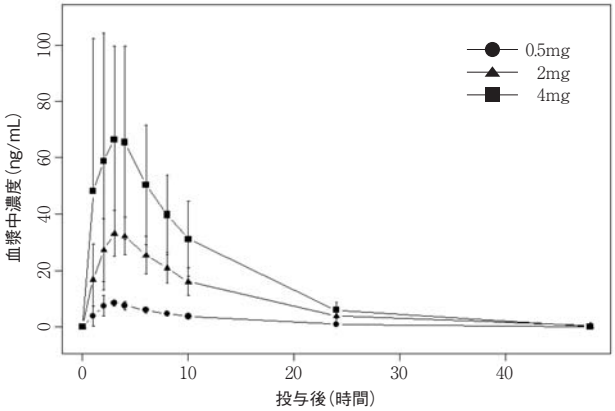
【薬物動態】

1. 吸収・血漿中濃度
1）血漿中濃度の推移[5]
＜多発性骨髄腫患者：単回投与及び反復投与＞
再発又は難治性の日本人多発性骨髄腫患者に本剤0.5mg（n=6）、2mg（n=6）、4mg（n=6）を単回経口投与及び反復経口投与した[注4]時、本剤はいずれの用量でも速やかに吸収され、血漿中未変化体濃度は投与約２～４時間後に最高値に達し、消失半減期（$t_{1/2}$）は約６～７時間であった。単回及び反復投与時のAUC 及びC_{max}はいずれも用量比例的に増加した。経口クリアランス（CL/F）及びみかけの分布容積（Vz/F）は、投与量にかかわらず同様であった。また、反復投与による蓄積性は認められなかった。

再発又は難治性の日本人多発性骨髄腫患者に本剤を単回経口投与及び反復経口投与した時の薬物動態パラメータ（平均値［変動係数%］）

用量（mg）	0.5mg	2mg		4mg	
測定日	１日目	１日目	10日目*	１日目	10日目*
患者数	6	6	6	6	6
C_{max}（ng/mL）	9.1［18.8］	35.6［15.9］	37.6［20.9］	70.2［49.7］	71.2［40.6］
AUC_{24}（ng･hr/mL）	84.9［14.9］	364.4［20.3］	411.5［17.7］	685.7［43.1］	713.8［40.1］
AUC_{∞}（ng･hr/mL）	92.6［14.6］	411.0［26.4］	463.6［19.4］	750.1［44.8］	764.3［40.8］
t_{max}（hr）	2.0（0.9, 4.0）	3.0（2.0, 6.0）	3.0（1.0, 4.0）	3.0（1.0, 5.8）	4.0（2.0, 4.0）
$t_{1/2}$（hr）	6.4［12.4］	6.9［20.7］	7.3［8.8］	6.0［21.1］	5.5［24.4］
CL/F（L/hr）	5.4［14.6］	4.9［26.4］	4.9［17.7］	5.3［44.8］	5.6［40.1］
Vz/F（L）	50［18.5］	48.2［15.9］	45.6［15.4］	46［37.4］	41.6［42.0］

平均値は幾何平均
最高濃度到達時間（t_{max}）は中央値（最小、最大）として示した。
＊10日目とは、１日目に単回投与後、２日目に休薬し、３～10日目に８日間反復投与したデータ



再発又は難治性の日本人多発性骨髄腫患者に本剤を単回経口投与した時の血漿中濃度の推移（平均値±SD）

2）食事による影響[6]
健康成人（n=27）に本剤 4mgを高脂肪・高カロリー食の食後に単回投与した時のC_{max}は27%低下し、AUCは８%低下した（外国人の成績）[注4]。

2. 分布
1）血漿蛋白結合率[7]
ポマリドミドはラセミ体である。*In vitro*でポマリドミドのヒト血漿蛋白結合率は濃度に関係なくS体エナンチオマー 42.2%、R体エナンチオマー 15.8%であった（外国人の成績）。

2）精液移行[8]
健康成人（n=８）に本剤 2mgを４日間反復経口投与した投与４時間後の精液中のポマリドミド濃度は、投与５日目の同時刻での血漿中濃度の約67%であった（外国人の成績）[注4]。

3. 代謝、排泄[9)]

[^{14}C]-ポマリドミド（2mg）を健康成人に単回経口投与したとき、血漿中には主として未変化体が存在し（血漿中総放射活性の約70%）、10%を超える代謝物はなかった。

投与後8日目までに尿中には投与量の約73%が、糞便中には約15%が排泄された。また、投与後3日目までの尿中及び投与後4日目までの糞便中において、CYP依存性の代謝物は、排泄された総放射活性の約43%であり、CYP非依存性の加水分解代謝物が約25%、未変化体が約10%であった（外国人の成績）[注4)]。

4. 薬物相互作用

本剤4mgをデキサメタゾン（20～40mg）との併用で単回又は反復投与したとき、本剤4mg 単独単回又は反復投与時と比べて本剤のAUC及びC_{max}に影響は認められなかった（外国人の成績）[注4)]。

ケトコナゾール（200mg 1日2回）反復投与後に本剤4mgを単回投与したときの本剤のAUC 及びC_{max}は、本剤4mg単独単回投与時と比べてそれぞれ約19%及び7%増加した（外国人の成績）[注4)]。また、ケトコナゾール（200mg 1日2回）及びフルボキサミンマレイン酸塩（50mg 1日2回）併用投与後に本剤4mgを単回投与したときの本剤のAUC及びC_{max}は、本剤4mg単独単回投与時と比べてそれぞれ約143%及び21%増加した（外国人の成績）[注4)]。カルバマゼピン（100～200mg 1日1～2回）反復投与後に本剤4mg を単回投与したときの本剤のAUC及びC_{max}は、本剤4mg単独単回投与時と比べてそれぞれ約20%及び25%減少した（外国人の成績）[注4)]。

注4）本剤の承認用法・用量は、「ポマリドミドとして1日1回4mgを21日間連日経口投与した後、7日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。」である。

【臨床成績】

＜国内臨床試験成績＞

ボルテゾミブ及びレナリドミドによる治療が不良で、かつ直近の治療中又は治療終了後60日以内に病勢進行した再発の多発性骨髄腫患者を対象とした国内第Ⅱ相試験（MM-011試験）を実施し、本剤[注5)]及び低用量デキサメタゾン[注6)]併用投与の有効性及び安全性を評価した。その結果、主要評価項目の奏効率は、25.0%［95%信頼区間：10.9～39.1%］（完全奏効1例、部分奏効8例）であった。

＜外国臨床試験成績[10)]＞

ボルテゾミブ及びレナリドミドによる治療が不良で、かつ直近の治療中又は治療終了後60日以内に病勢進行した再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした外国第Ⅲ相試験（MM-003試験）を実施し、本剤[注5)]及び低用量デキサメタゾン[注6)]併用投与と高用量デキサメタゾン単独投与[注7)]の有効性及び安全性を評価した。その結果、本剤及び低用量デキサメタゾン併用投与群では、主要評価項目の無増悪生存期間（PFS）及び副次評価項目の全生存期間（OS）は、高用量デキサメタゾン単独投与群と比べて有意に延長した。

外国第Ⅲ相臨床試験（MM-003試験）の有効性成績の要約
〔2012年9月7日データカットオフ〕

	本剤及び低用量デキサメタゾン併用投与群 (n=302)	高用量デキサメタゾン単独投与群 (n=153)
無増悪生存期間（PFS）		
イベント発生者数（%）	164（54.3）	103（67.3）
中央値[a]（週） ［95%信頼区間］[b]	15.7 ［13.0，20.1］	8.0 ［7.0，9.0］
ハザード比[c] ［95%信頼区間］[b]	0.45 ［0.35，0.59］	
p値（Log-rank検定）	＜ 0.001	
全生存期間（OS）		
死亡患者数（%）	76（25.2）	58（37.9）
中央値[a]（週） ［95%信頼区間］[b]	NE ［48.1，NE］	34.0 ［23.4，39.9］
ハザード比[c] ［95%信頼区間］[b]	0.53 ［0.37，0.74］	
p値（Log-rank検定）	＜ 0.001	

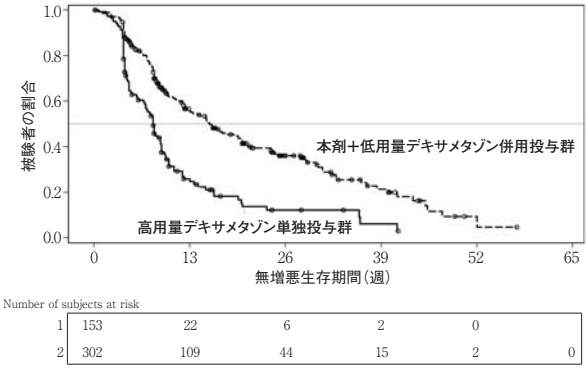
国際骨髄腫ワーキンググループ（IMWG）基準に基づく独立効果判定委員会（IRAC）による判定

a：中央値はKaplan-Meier法による推定値

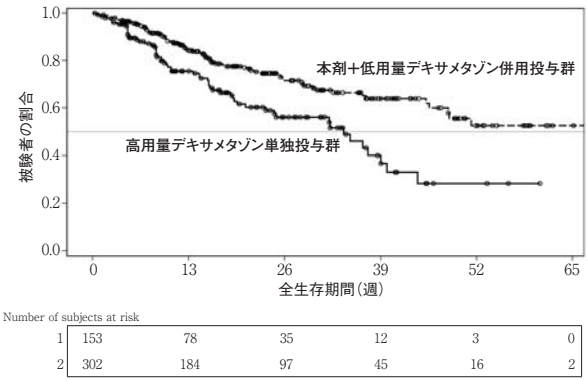
b：中央値の95%信頼区間

c：Cox比例ハザードモデルに基づく高用量デキサメタゾン単独投与群に対する本剤及び低用量デキサメタゾン併用投与群のハザードの比

NE：Not Estimable（推定不可）



MM-003試験での無増悪生存期間のKaplan-Meier曲線
（2012年9月7日データカットオフ）



MM-003試験での全生存期間のKaplan-Meier曲線
（2012年9月7日データカットオフ）

注5）本剤の用法・用量は28日を1サイクルとし、ポマリドミド4mgを1日1回、1～21日目に経口投与する。なお、国内及び外国臨床試験では、本剤を投与される全ての患者に対して、本剤の投与開始時から抗血栓薬又は抗凝固薬を投与する規定であった。

注6）デキサメタゾンの用法・用量は28日を1サイクルとし、40mg（75歳を超える患者には20mg）を1日1回、1、8、15、22日目に経口投与する。

注7）デキサメタゾンの用法・用量は28日を1サイクルとし、40mg（75歳を超える患者には20mg）を1日1回、1～4日、9～12日、17～20日目に経口投与する。

※　本邦で承認されたデキサメタゾン 4mg 錠の用法・用量は、「通常、成人にはデキサメタゾンとして40mgを1日1回、4日間経口投与する。なお、投与量及び投与日数は、患者の状態及び併用する他の抗悪性腫瘍剤により適宜減ずる。」である。

【薬効薬理】

1. 薬理作用[11、12、13、14)]

***In vitro*試験**

1）ポマリドミドはヒト多発性骨髄腫由来H929、RPMI-8226、OPM-2及びLP-1細胞株、並びにレナリドミド耐性の細胞株（H929-1051、H929-1052、H929-1053及びH929-1054）の細胞増殖を抑制した。

2）ポマリドミドはヒト末梢血単核球に対し、リポポリサッカライド（LPS）刺激による炎症性サイトカイン（TNF-α、IL-1β、IL-6、IL-12等）産生を阻害し、抗炎症性サイトカイン（IL-10）の産生を促進した。また、ポマリドミドはヒト末梢血におけるTh1サイトカイン（IL-2、IFN-γ等）産生を促進した。

3）ポマリドミドはヒト臍帯静脈内皮細胞（HUVEC）を用いた検討により、血管内皮細胞の遊走又は管腔の形成を抑制した。

***In vivo*試験**[15)]

ポマリドミドはヒト多発性骨髄腫由来H929及びH929-1051細胞株を移植したマウスにおいて、腫瘍増殖抑制作用を示した。

2. 作用機序

ポマリドミドはサイトカイン産生調節作用、造血器腫瘍細胞に対する増殖抑制作用、血管新生阻害作用等を有すると考えられているが、詳細な作用機序は解明されていない。

【有効成分に関する理化学的知見】

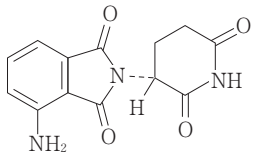
一般名：ポマリドミド Pomalidomide（JAN）

化学名：4-Amino-2-[(3*RS*)-2, 6-dioxopiperidin-3-yl]-2*H*-isoindole-1, 3-dione

分子式：$C_{13}H_{11}N_3O_4$

分子量：273.24

化学構造式：



及び鏡像異性体

性　状：黄色の粉末である。1－メチル－2－ピロリドンに溶けやすく、アセトニトリルに溶けにくく、エタノール（99.5）に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

融　点：約319℃

分配係数：P＝3.79（1-オクタノール/水）

【取扱い上の注意】

1. 薬剤管理は適正管理手順[1)]を厳守し、徹底すること。
2. 開封後、直射日光及び高温・高湿を避けて保存すること。

【承認条件】

1. 本剤の製造販売・管理・使用等にあたっては、「レブラミド・ポマリスト適正管理手順」を適正に遵守すること。また本手順の変更については、あらかじめ、厚生労働省の了解を受けなければならないこと。
2. 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。
3. 本剤の投与が、緊急時に十分対応できる医療施設において、十分な知識・経験を有する医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例のみを対象に、あらかじめ患者又はその家族に有効性及び危険性が文書をもって説明され、文書による同意を得てから初めて投与されるよう、厳格かつ適正な措置を講じること。
4. 国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

【包　　装】

ポマリストカプセル 1mg：7カプセル（7カプセル×1）
ポマリストカプセル 2mg：7カプセル（7カプセル×1）
ポマリストカプセル 3mg：7カプセル（7カプセル×1）
ポマリストカプセル 4mg：7カプセル（7カプセル×1）

【主要文献及び文献請求先】

＜主要文献＞

1）セルジーン株式会社：RevMate®（レブラミド・ポマリスト適正管理手順）
2）社内資料：ポマリドミドの生殖発生毒性試験
3）社内資料：ポマリドミドの薬物動態の検討（乳汁移行性）
4）San Miguel JF. *et al.*：The Lancet Oncology, 14：1055-66, 2013
5）社内資料：ポマリドミドの薬物動態の検討（患者）
6）社内資料：ポマリドミドの薬物動態の検討（食事の影響）
7）社内資料：ポマリドミドの薬物動態の検討（血漿蛋白結合率）
8）社内資料：ポマリドミドの薬物動態の検討（精液移行性）
9）Hoffmann M. *et al.*：Cancer Chemotherapy and Pharmacology, 71：489-501, 2013
10）社内資料：ポマリドミドの外国第Ⅲ相臨床試験（多発性骨髄腫）
11）社内資料：ポマリドミドの各種多発性骨髄腫細胞に対する増殖抑制作用（*in vitro*）
12）Lopez-Girona A. *et al.*：Leukemia, 26：2326-35, 2012
13）Corral LG. *et al.*：Journal of Immunology, 163：380-6, 1999
14）社内資料：ポマリドミドの血管新生阻害作用（*in vitro*）
15）社内資料：ポマリドミドの抗腫瘍作用（マウス）

＜文献請求先・製品情報お問い合わせ先＞

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

セルジーン株式会社　おくすり相談室
〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
TEL 0120-786702
FAX 0120-786703
受付時間　9:00～18:00（土・日・祝日・弊社休日を除く）

セルジーン株式会社ホームページ　http://www.celgene.co.jp

製造販売元
セルジーン株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
POM031D10(1504-1)

＊2015年５月改訂（第２版）
2015年３月作成

規制区分	処方箋医薬品注)
貯　　法	室温保存
使用期限	外箱に使用期限を表示

101250

日本標準商品分類番号
87625

	400mg錠
承認番号	22700AMX00662000
薬価収載	2015年５月
販売開始	**2015年５月**
国際誕生	2013年12月

4024

抗ウイルス剤

ソバルディ®錠400mg

SOVALDI® Tablets 400mg

（ソホスブビル製剤）

注）注意－医師等の処方箋により使用すること

GILEAD

【警告】
本剤は、ウイルス性肝疾患の治療に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される患者に対してのみ投与すること。

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】
(1)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
(2)重度の腎機能障害（eGFR＜30mL/分/1.73m²）又は透析を必要とする腎不全の患者（【薬物動態】の項参照）
(3)次の薬剤を投与中の患者：カルバマゼピン、フェニトイン、リファンピシン、セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品（「相互作用」の項参照）

【組成・性状】

販売名	ソバルディ錠400mg
有効成分・含量（１錠中）	ソホスブビル　400mg
添加物	軽質無水ケイ酸、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、D-マンニトール、結晶セルロース、マクロゴール4000、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、タルク、酸化チタン及び黄色三二酸化鉄
色・剤形	黄色のカプセル形のフィルムコーティング錠
外形	GSI　7977
大きさ	長径20mm、短径９mm、厚さ７mm、重さ1236mg
識別コード	GSI・7977

【効能・効果】

セログループ2（ジェノタイプ2）のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉
本剤の使用に際しては、HCV RNAが陽性であることを確認すること。また、肝予備能、臨床症状等により非代償性肝硬変でないことを確認すること。

【用法・用量】

リバビリンとの併用において、通常、成人にはソホスブビルとして400mgを１日１回、12週間経口投与する。

＊**〈用法・用量に関連する使用上の注意〉**
本剤と併用するリバビリンの投与量は、リバビリンの添付文書に定められた用法･用量に従うこと。併用にあたっては、投与開始前にヘモグロビン量が12g/dL以上であることを確認すること。また、投与中にリバビリンの用量調節や投与中止を必要とする副作用が発現した場合には、リバビリンの添付文書を参照すること。なお、リバビリンの投与を中止する場合は、本剤の投与も中止すること。

【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

本剤はリバビリンと併用投与するため、リバビリンの添付文書に記載されている警告、禁忌、慎重投与、重要な基本的注意、重大な副作用等の【使用上の注意】を必ず確認すること。

2.相互作用

ソホスブビルはトランスポーター（P糖蛋白（P-gp）、乳癌耐性蛋白（BCRP））の基質である（【薬物動態】の項参照）。

＊**(1)併用禁忌（併用しないこと）**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リファンピシン（リファジン）	本剤の血漿中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	これらの薬剤の強力なP-gpの誘導作用により、本剤の血漿中濃度が低下するおそれがある。
カルバマゼピン（テグレトール） フェニトイン（アレビアチン）		
セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品		

(2)併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リファブチン	本剤の血漿中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	これらの薬剤のP-gpの誘導作用により、本剤の血漿中濃度が低下するおそれがある。
フェノバルビタール		

3.副作用

ジェノタイプ2のC型慢性肝炎患者又はC型代償性肝硬変患者を対象に本剤とリバビリンを併用した国内第３相臨床試験において、140例中61例（43.6％）に副作用（臨床検査値異常を含む）が認められた。主な副作用は、貧血又はヘモグロビン減少21例（15.0％）、頭痛７例（5.0％）、倦怠感６例（4.3％）、悪心６例（4.3％）、そう痒症６例（4.3％）等であった。（承認時）

本剤及びリバビリンの併用で認められた副作用は、以下のとおりである。

(1)重大な副作用

貧血（11.4％）
貧血があらわれることがあるので、ヘモグロビン量を定期的に測定するなど観察を十分に行い、ヘモグロビン量の減少を認めた場合は、リバビリンの添付文書に従いリバビリンの用量を調節するなど、適切な処置を行うこと。なお、リバビリンの投与を中止する場合は、本剤の投与も中止すること。

⑵その他の副作用

以下のような副作用が認められた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

器官分類	5％以上	1％以上5％未満	1％未満	頻度不明注)
感染		鼻咽頭炎		
血液・リンパ系		ヘモグロビン減少		
精神系		うつ病、不眠症		
神経系	頭痛	傾眠、めまい		注意力障害
血管系		高血圧		
呼吸器				呼吸困難、咳嗽
消化器		悪心、便秘、口内炎、腹部不快感、下痢、口唇炎		消化不良
肝臓		高ビリルビン血症		
皮膚		そう痒症、発疹、脱毛症		皮膚乾燥
筋・骨格		筋肉痛	関節痛	背部痛、筋痙縮
その他		倦怠感、疲労	易刺激性、発熱	無力症

注)発現頻度は、国内臨床試験成績に基づき算出した。海外の臨床試験においてのみ報告された副作用は頻度不明とした。(承認時までのデータ)

4.高齢者への投与

国内第3相臨床試験では、本剤とリバビリンを併用したときに貧血、一過性の高ビリルビン血症等の発現率が非高齢者に比べ高い傾向であった。一般に高齢者では生理機能が低下しており、既往歴や合併症を伴っていることが多いので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

5.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

⑴本剤はリバビリンと併用するため、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、投与しないこと。また、妊娠していないことを確認するため、治療開始に先立ち、リバビリンの添付文書を参照し、妊娠検査を実施すること。[ソホスブビルの動物実験(ラット及びウサギ)において胚・胎児発生に対する影響は見られていないが[1]、本剤と併用投与するリバビリンの動物実験で催奇形性及び胚・胎児致死作用が認められている。]

⑵授乳中の婦人には投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。[動物実験(ラット)で、主要代謝物であるGS-331007の乳汁中への移行が認められている[2]。]

6.小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

7.過量投与

徴候、症状：健康成人59例に本剤1200mgを単回投与したときの有害事象の発現頻度、重症度は、本剤400mg又はプラセボ投与時に報告されたものと同様であり、本剤の過量投与による有害事象は確認されていない[3]。

処置：本剤の過量投与に対する特別な解毒剤はない。過量投与の場合には、バイタルサインのモニタリングや患者の臨床状態の観察等の一般的な支持療法も考慮すること。なお、循環血液中の主要代謝物であるGS-331007は、血液透析により53％が除去されるとの報告がある(4時間の血液透析により投与量換算で約18％)[4]。(【薬物動態】の項参照)

【薬物動態】

*In vitro*試験において、ヌクレオチドプロドラッグであるソホスブビルは肝細胞内で活性代謝物に代謝されることが示されており、ヒトの血中からは活性代謝物は検出されていない。本剤を経口投与したとき、ソホスブビルは速やかに代謝を受け、その大部分(90％超)は主要代謝物GS-331007として血中に存在し、未変化体の占める割合は約4％であった。本剤の薬物動態解析では、ソホスブビル及びGS-331007を主に用いて評価した。

1.血中濃度

⑴健康成人における薬物動態[5]

日本人健康成人被験者8例に、本剤400mgを空腹時に単回経口投与したときのソホスブビル及びGS-331007の薬物動態パラメータを表1に示す。

表1　健康成人に本剤400mgを空腹時単回投与したときの薬物動態パラメータ

	ソホスブビル[c]	GS-331007[c]
C_{max} (ng/mL)[a]	639 (28.6)	1440 (32.2)
t_{max} (h)[b]	0.5 (0.5, 1.0)	2.1 (1.5, 3.0)
AUC_{0-inf} (ng・h/mL)[a]	649 (46.5)	11,000 (21.9)
$t_{1/2}$ (h)[b]	0.4 (0.3, 0.6)	25.0 (21.8, 34.3)

a：平均値(変動係数)、b：中央値(範囲)、c：8例

⑵C型慢性肝炎患者における母集団薬物動態解析[6]

ジェノタイプ2のC型慢性肝炎患者140例を対象に本剤とリバビリンを併用した国内第3相臨床試験で母集団薬物動態解析を実施した結果、定常状態におけるAUC_{tau}及びC_{max}の平均値(変動係数)は、ソホスブビル(35例)でそれぞれ953(27.8)ng・h/mL、529(34.2)ng/mL、GS-331007(140例)でそれぞれ10,491(26.9)ng・h/mL、824(26.5)ng/mLであった。ソホスブビル及びGS-331007の薬物動態に対する年齢、性別、BMI、代償性肝硬変の有無、前治療又は治療効果の影響は認められなかった。

⑶食事の影響(外国人のデータ)[7]

外国人健康成人被験者39例に、本剤400mgを空腹時及び食後に単回経口投与したときの、ソホスブビル及びGS-331007の薬物動態パラメータを表2に示す。

表2　健康成人に本剤400mgを空腹時及び食後に単回投与したときの薬物動態パラメータ

	ソホスブビル		GS-331007	
	空腹時(39例)	食後(38例)	空腹時(39例)	食後(38例)
C_{max} (ng/mL)[a]	675 (46.9)	764 (95.2)	1230 (32.1)	909 (23.5)
t_{max} (h)[b]	0.5 (0.3, 2.0)	1.5 (0.5, 6.0)	3.0 (1.5, 4.0)	4.0 (2.0, 9.0)
AUC_{0-inf} (ng・h/mL)[a]	646 (40.2)[c]	1230 (49.1)[d]	13,500 (28.4)	13,800 (23.6)
$t_{1/2}$ (h)[b]	0.4 (0.3, 0.7)[c]	0.8 (0.4, 4.5)[d]	24.1 (10.2, 46.9)	26.9 (11.4, 45.8)

a：平均値(変動係数)、b：中央値(範囲)、c：38例、d：34例

⑷腎機能障害患者における薬物動態(外国人のデータ)[4]

HCV感染を伴わない外国人腎機能障害のある被験者に本剤400mgを投与したとき、腎機能正常被験者(eGFR＞80mL/分/1.73m^2)に比して、軽度(eGFR≧50かつ≦80mL/分/1.73m^2)、中等度(eGFR≧30かつ＜50mL/分/1.73m^2)又は重度(eGFR＜30mL/分/1.73m^2)の腎機能障害の被験者では、ソホスブビルのAUC_{0-inf}はそれぞれ61％、107％、171％高く、GS-331007のAUC_{0-inf}はそれぞれ55％、88％、451％高かった。また、血液透析を要する末期腎不全の被験者におけるソホスブビルのAUC_{0-inf}は、腎機能正常被験者に比して、透析前投与で28％、透析後投与で60％高かったのに対し、GS-331007のAUC_{0-inf}は、透析前投与で1280％、透析後投与で2070％高い値を示した。末期腎不全の被験者ではGS-331007の除去には血液透析が必要であり、4時間の血液透析で投与量の約18％のGS-331007が除去された。

⑸肝機能障害患者における薬物動態(外国人のデータ)[8]

中等度又は重度(Child-Pugh分類B又はC)の肝機能障害を有するHCV感染症患者に対し、本剤400mgを7日間投与したとき、肝機能正常患者に比し、ソホスブビルのAUC_{tau}はそれぞれ

126％、143％高く、GS-331007のAUC_{tau}はそれぞれ18％、９％高かった。

2.分布、代謝、排泄（外国人のデータ）[9]

^{14}C標識ソホスブビル400mgを健康成人男性被験者に単回経口投与したとき、本剤は速やかに吸収され、GS-331007（ヌクレオシド誘導体）として主に尿中に排泄された。ソホスブビルのヒト血漿蛋白結合率は約61～65％、GS-331007のヒト血漿蛋白結合率は3.1～7.2％であり、0.1μg/mLから20μg/mLの範囲で血漿中濃度の影響は受けなかった[10]。総放射能の全血／血漿中濃度比は約0.7であり、ソホスブビル及びその代謝物は、血球成分より主として血漿中に分布することが示唆された。血漿中総放射能の大部分は主要代謝物であるGS-331007が占めていた。平均総回収率は92％を上回り、尿、糞便、呼気中にそれぞれ80％、14％、2.5％が排泄された。

3.薬物相互作用

⑴*In vitro*試験成績[11]

ソホスブビルはP-gp及びBCRPの基質であるが、GS-331007はこれらの基質ではない。腸管内のP-gpを誘導する薬剤との併用により、ソホスブビルの血漿中濃度が減少するおそれがある。本剤をP-gp又はBCRPの阻害剤と併用したとき、GS-331007の血漿中濃度の上昇は認められないが、ソホスブビルの濃度が上昇するおそれがある。本剤はP-gp又はBCRPの阻害剤と併用される可能性があるが、ソホスブビル及びGS-331007はP-gp及びBCRPの阻害剤ではないことが示されている。

⑵臨床成績（外国人のデータ）

表３　ソホスブビル及びGS-331007の薬物動態に及ぼす併用薬の影響[a]

併用薬	併用薬の投与量（mg）	本剤の投与量（mg）	例数	ソホスブビル及びGS-331007の薬物動態パラメータ比 併用時/単独投与時（90％信頼区間）		
					C_{max}	AUC
シクロスポリン[12]	600 単回	400 単回	19	SOF	2.54 (1.87～3.45)	4.53 (3.26～6.30)
				GS	0.60 (0.53～0.69)	1.04 (0.90～1.20)
タクロリムス[12]	5 単回	400 単回	16	SOF	0.97 (0.65～1.43)	1.13 (0.81～1.57)
				GS	0.97 (0.83～1.14)	1.00 (0.87～1.13)
ダルナビル（ブースター：リトナビル）[13]	800/100 1日1回	400 単回	18	SOF	1.45 (1.10～1.92)	1.34 (1.12～1.59)
				GS	0.97 (0.90～1.05)	1.24 (1.18～1.30)
エファビレンツ[b] [13]	600 1日1回	400 単回	16	SOF	0.81 (0.60～1.10)	0.94 (0.76～1.16)
エムトリシタビン[b] [13]	200 1日1回					
テノホビルジソプロキシルフマル酸塩[b] [13]	300 1日1回			GS	0.77 (0.70～0.84)	0.84 (0.76～0.92)
ラルテグラビル[13]	400 1日2回	400 単回	19	SOF	0.87 (0.71～1.08)	0.95 (0.82～1.09)
				GS	1.09 (0.99～1.20)	1.03 (0.97～1.08)
リルピビリン[13]	25 1日1回	400 単回	17	SOF	1.21 (0.90～1.62)	1.09 (0.94～1.27)
				GS	1.06 (0.99～1.14)	1.01 (0.97～1.04)
メサドン[14]	維持療法 30～130 1日量	400 1日1回	14	SOF	0.95[c] (0.68～1.33)	1.30[c] (1.00～1.69)
				GS	0.73[c] (0.65～0.83)	1.04[c] (0.89～1.22)
リファンピシン[15]	600 1日1回	400 単回	17	SOF	0.23 (0.19～0.29)	0.28 (0.24～0.32)
				GS	1.23 (1.14～1.34)	0.95 (0.88～1.03)

SOF：ソホスブビル、GS：GS-331007
a：薬物相互作用試験は健康被験者で実施、b：配合剤（国内未承認）として投与、c：ヒストリカルコントロールでの比較

表４　併用薬の薬物動態に及ぼすソホスブビルの影響[a]

併用薬	併用薬の投与量（mg）	本剤の投与量（mg）	例数	併用薬の薬物動態パラメータ比 併用時/単独投与時（90％信頼区間）		
				C_{max}	AUC	C_{min}
シクロスポリン[12]	600 単回	400 単回	19	1.06 (0.94～1.18)	0.98 (0.85～1.14)	NA
タクロリムス[12]	5 単回	400 単回	16	0.73 (0.59～0.90)	1.09 (0.84～1.40)	NA
ダルナビル（ブースター：リトナビル）[13]	800/100 1日1回	400 単回	18	0.97 (0.94～1.01)	0.97 (0.94～1.00)	0.86 (0.78～0.96)
エファビレンツ[b] [13]	600 1日1回	400 単回	16	0.95 (0.85～1.06)	0.96 (0.91～1.03)	0.96 (0.93～0.98)
エムトリシタビン[b] [13]	200 1日1回			0.97 (0.88～1.07)	0.99 (0.94～1.05)	1.04 (0.98～1.11)
テノホビルジソプロキシルフマル酸塩[b] [13]	300 1日1回			1.25 (1.08～1.45)	0.98 (0.91～1.05)	0.99 (0.91～1.07)
ラルテグラビル[13]	400 1日2回	400 単回	19	0.57 (0.44～0.75)	0.73 (0.59～0.91)	0.95 (0.81～1.12)
リルピビリン[13]	25 1日1回	400 単回	17	1.05 (0.97～1.15)	1.06 (1.02～1.09)	0.99 (0.94～1.04)
R-メサドン[14]	維持療法 30～130 1日量	400 1日1回	14	0.99 (0.85～1.16)	1.01 (0.85～1.21)	0.94 (0.77～1.14)
S-メサドン[14]				0.95 (0.79～1.13)	0.95 (0.77～1.17)	0.95 (0.74～1.22)
ノルエルゲストロミン[16]	ノルゲスチメート 0.180/0.215/0.250/エチニルエストラジオール 0.025 1日1回	400 1日1回	15	1.07 (0.94～1.22)	1.06 (0.92～1.21)	1.07 (0.89～1.28)
ノルゲストレル[16]				1.18 (0.99～1.41)	1.19 (0.98～1.45)	1.23 (1.00～1.51)
エチニルエストラジオール[16]				1.15 (0.97～1.36)	1.09 (0.94～1.26)	0.99 (0.80～1.23)

NA：該当なし
a：薬物相互作用試験は健康被験者で実施、b：配合剤（国内未承認）として投与

4.心電図に対する影響[3]

外国人健康成人被験者59例を対象に本剤400mg及び1200mg単回投与により心電図に対する影響を評価したとき、本剤はQTc間隔の延長を示さなかった。

（注）本剤の承認された用法・用量は１日１回400mg投与である。

【臨床成績】

日本人における試験成績（第３相試験）[6]

未治療又は前治療のあるジェノタイプ2のC型慢性肝炎患者又はC型代償性肝硬変患者140例を対象として、本剤とリバビリンの併用（12週間投与）による第３相臨床試験（非盲検非対照試験）を実施した。主要評価項目は、投与終了から12週間後のHCV RNA量が定量下限値未満の割合（SVR12率）で、SVR12率は96.4％（135/140例）であり、未治療の患者のSVR12率は97.6％（81/83例）、前治療のある患者のSVR12率は94.7％（54/57例）であった。部分集団におけるSVR12率を表５に示す。

表５　部分集団における投与終了後12週のSVR（SVR12率）

投与対象	部分集団別		SVR12率
未治療患者	全体		97.6％（81/83例）
	代償性肝硬変[注]	なし	97.3％（73/75例）
		あり	100％（8/8例）
	年齢	65歳未満	98.6％（68/69例）
		65歳以上	92.9％（13/14例）
	IFN適格性	適格	97.2％（69/71例）
		不適格	100％（5/5例）
		IFN望まず	100％（7/7例）
前治療のある患者	全体		94.7％（54/57例）
	代償性肝硬変[注]	なし	96.0％（48/50例）
		あり	85.7％（6/7例）
	年齢	65歳未満	94.9％（37/39例）
		65歳以上	94.4％（17/18例）
	前治療に対する反応性	無効	100％（13/13例）
		再燃/ブレイクスルー	92.7％（38/41例）
		IFN不耐容	100％（3/3例）

注）肝硬変の判定基準には、肝生検又はFibroscanの結果（＞12.5kPa）を用いた。

【薬効薬理】

1.作用機序

ソホスブビルは、肝細胞内で活性代謝物であるウリジン三リン酸型に変換されるヌクレオチドプロドラッグであり、活性代謝物は、C型肝炎ウイルス(HCV)の複製に必須であるHCV非構造タンパク質5B(NS5B)RNA依存性RNAポリメラーゼを阻害する。活性代謝物のHCVジェノタイプ1b、2a、3a及び4a由来NS5Bポリメラーゼに対する50%阻害濃度(IC_{50}値)は0.36～3.3μmol/Lであった[17]。活性代謝物はヒトDNA及びRNAポリメラーゼを阻害せず[18]、ミトコンドリアの発現も阻害しない[19]。

2.*In vitro*抗HCV活性

ソホスブビルは、HCVジェノタイプ1～6のレプリコン細胞におけるRNA複製を阻害した。HCVジェノタイプ1a、1b、2a、2b、3a、4a、5a及び6aのレプリコン細胞に対するソホスブビルの50%有効濃度(EC_{50}値)はそれぞれ0.040、0.11、0.050、0.015、0.050、0.040、0.015及び0.014μmol/Lであった[20]。また、HCVジェノタイプ1a(67例)、1b(29例)、2(15例)及び3a(106例)臨床分離株由来のNS5B領域含有レプリコン細胞に対するソホスブビルのEC_{50}値(中央値)は、それぞれ0.062、0.10、0.029及び0.081μmol/Lであった[21]。ソホスブビルとリバビリン、インターフェロンα、NS5A阻害剤、NS3プロテアーゼ阻害剤、又は非核酸型NS5B阻害剤との併用により、相加又は相乗的な抗ウイルス活性が認められた[22]。

3.薬剤耐性

HCVジェノタイプ1～6のレプリコン細胞を用いたソホスブビルの*in vitro*耐性発現試験において、全てのジェノタイプレプリコン細胞株でNS5B領域のS282T変異が認められた[23]。S282T変異を導入したすべてのジェノタイプレプリコン細胞でソホスブビルに対する感受性が低下し、対応する野生型と比較した場合、S282T変異型に対するEC_{50}値は2.4～18.1倍増加した[24]。また、リバビリン、非核酸型NS5B阻害剤、NS3プロテアーゼ阻害剤又はNS5A阻害剤の耐性に関連した変異を含むレプリコン細胞において、ソホスブビルの活性は保持された[24, 25]。本剤とリバビリンの併用により有効性及び安全性を評価した国内第3相臨床試験では140例中5例にウイルス学的再燃を認めたが、投与期間中のブレイクスルーは認めなかった。再燃した5例の患者では、NS5B領域のS282T耐性変異及びソホスブビルに対する感受性低下を伴う変異株は認められなかった[6]。

【有効成分に関する理化学的知見】

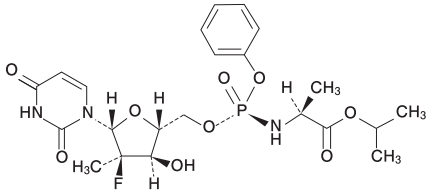
一般名：ソホスブビル
Sofosbuvir(JAN)

化学名：1-Methylethyl *N*-[(*S*)-{[(2*R*,3*R*,4*R*,5*R*)-5-(2,4-dioxo-3,4-dihydropyrimidin-1(2*H*)-yl)-4-fluoro-3-hydroxy-4-methyltetrahydrofuran-2-yl]methoxy}phenoxyphosphoryl]-L-alaninate

分子式：$C_{22}H_{29}FN_3O_9P$

分子量：529.45

構造式：



性　状：白色から微黄白色の粉末

溶解性：メタノール、アセトン、アセトニトリル又はエタノール(99.5)に溶けやすく、2-プロパノールにやや溶けやすく、酢酸エチルにやや溶けにくく、トルエン、ジクロロメタン又はヘプタンにほとんど溶けない。

融　点：約125℃

分配係数：log P＝1.62(1-オクタノール/0.15mol/L 塩化カリウム溶液)

【承認条件】

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【包　　装】

ソバルディ錠400mg：28錠瓶

【主要文献及び文献請求先】

主要文献：

1)社内資料：ラット及びウサギの生殖発生毒性試験(SA-PSI-7977-10-0008、SA-PSI-7977-11-0006)
2)社内資料：ラット乳汁移行性に関する試験(SA-PSI-7977-11-0009)
3)社内資料：QT/QTc間隔への影響に関する試験(P7977-0613)
4)社内資料：腎機能障害患者における薬物動態試験(P7977-0915)
5)社内資料：健康成人における薬物動態試験(GS-US-334-0111)
6)社内資料：国内第3相臨床試験(GS-US-334-0118)
7)社内資料：食事の影響に関する試験(P7977-1318)
8)社内資料：肝機能障害患者における薬物動態試験(P2938-0515)
9)社内資料：マスバランス試験(P7977-0312)
10)社内資料：血漿蛋白結合に関する試験(PC-PSI-7977-11-0001)
11)社内資料：トランスポーターに関する試験(8215026、AD-334-2002、PC-PSI-7977-11-0006)
12)社内資料：シクロスポリン及びタクロリムスとの薬物相互作用試験(P7977-1819)
13)社内資料：抗レトロウイルス薬との薬物相互作用試験(GS-US-334-0131)
14)社内資料：メサドンとの薬物相互作用試験(P7977-0814)
15)社内資料：リファンピシンとの薬物相互作用試験(GS-US-334-1344)
16)社内資料：経口避妊薬との薬物相互作用試験(GS-US-334-0146)
17)社内資料：NS5Bポリメラーゼ活性阻害に関する試験(PC-334-2010)
18)社内資料：ヒトポリメラーゼに対する作用の検討(PC-334-2013)
19)社内資料：ミトコンドリアに対する作用の検討(PC-334-2012、PC-334-2015)
20)社内資料：抗HCV活性に関する試験(PC-334-2005)
21)社内資料：臨床分離株での抗HCV活性に関する試験(PC-334-2016)
22)社内資料：抗HCV薬との薬物相互作用試験(PC-334-2004、PC-334-2018)
23)社内資料：耐性発現に関する試験(PC-334-2010)
24)社内資料：NS5B領域のS282T変異及び交差耐性に関する検討(PC-334-2006)
25)社内資料：交差耐性に関する検討(PC-334-2017、PC-334-2020)

文献請求先：

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

ギリアド・サイエンシズ株式会社
メディカルサポートセンター
〒100-6616 東京都千代田区丸の内一丁目9番2号
グラントウキョウサウスタワー
フリーダイアル 0120-506-295
FAX 03-5958-2959
受付時間：9:00～17:30(土・日・祝日及び会社休日を除く)

製造販売元：
ギリアド・サイエンシズ株式会社
東京都千代田区丸の内1-9-2
グラントウキョウサウスタワー
〒100-6616

Ⓡ：登録商標

＊2015年５月改訂（第２版）
2015年３月作成

劇薬、処方箋医薬品注)

日本標準商品分類番号
874291

抗悪性腫瘍剤

レンビマ®カプセル4mg
レンビマ®カプセル10mg　LENVIMA®

〈レンバチニブメシル酸塩製剤〉

		カプセル４mg	カプセル10mg
	承認番号	22700AMX00640000	22700AMX00641000
＊	薬価収載	2015年５月	
＊	**販売開始**	**2015年５月**	
	国際誕生	2015年２月	

〔貯　　法〕 室温保存
〔使用期限〕 外箱又はラベルに表示の使用期限内に使用すること。
注）注意－医師等の処方箋により使用すること

【警　　告】

本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の使用が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に本剤の有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。

【禁　　忌】（次の患者には投与しないこと）

1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
〔「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照〕

【組成・性状】

1.組成

カプセル４mg：本剤は、１カプセル中にレンバチニブメシル酸塩4.90mg（レンバチニブとして４mg）を含有する上下とも黄赤色不透明な硬カプセル剤である。
添加物として結晶セルロース、タルク、沈降炭酸カルシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、D-マンニトール、ラウリル硫酸ナトリウムを含有する。

カプセル10mg：本剤は、１カプセル中にレンバチニブメシル酸塩12.25mg（レンバチニブとして10mg）を含有する上半分は黄赤色不透明、下半分は黄色不透明な硬カプセル剤である。
添加物として結晶セルロース、タルク、沈降炭酸カルシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、D-マンニトール、ラウリル硫酸ナトリウムを含有する。

2.製剤の性状

販売名	剤形 識別コード	外　形	性　状
レンビマカプセル4mg	硬カプセル		カプセル 上半分：黄赤色不透明 下半分：黄赤色不透明
	∈ LENV 4mg	全長(mm)・質量(mg)・号数 14.3　137　4	内容物 白色の顆粒
レンビマカプセル10mg	硬カプセル		カプセル 上半分：黄赤色不透明 下半分：黄色不透明
	∈ LENV 10mg	全長(mm)・質量(mg)・号数 14.3　137　4	内容物 白色の顆粒

【効能・効果】

根治切除不能な甲状腺癌

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

1.放射性ヨウ素による治療歴のない分化型甲状腺癌患者に対する本剤の有効性及び安全性は確立していない。
2.臨床試験に組み入れられた患者の病理組織型等について、「臨床成績」の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分理解した上で、適応患者の選択を行うこと。
〔「臨床成績」の項参照〕

【用法・用量】

通常、成人にはレンバチニブとして１日１回24mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

1.副作用があらわれた場合は、症状、重症度等に応じて以下の基準を考慮して、本剤を減量、休薬又は中止すること。減量して投与を継続する場合には、１日１回20mg、14mg、10mg、８mg又は４mgに減量すること。

休薬、減量及び中止基準

副作用	程度	処置
高血圧	収縮期血圧140mmHg以上又は拡張期血圧90mmHg以上のとき	本剤の投与を継続し、降圧剤の投与を行う。
	降圧治療にも係らず、収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上のとき	収縮期血圧150mmHg以下及び拡張期血圧95mmHg以下になるまで本剤を休薬し、降圧剤による治療を行う。本剤の投与を再開する場合、投与量を１段階減量する。
	Grade 4の副作用が発現した場合	本剤の投与を中止する。
その他の副作用	忍容性がないGrade 2又はGrade 3の副作用が発現した場合	本剤の投与開始前の状態又はGrade 1以下に回復するまで休薬する（悪心・嘔吐・下痢に対しては休薬の前に適切な処置を行い、コントロールできない場合に本剤を休薬すること）。本剤の投与を再開する場合、１段階減量する。
	Grade 4の副作用が発現した場合（生命を脅かさない臨床検査値異常の場合は、Grade 3の副作用と同じ処置とする）	本剤の投与を中止する。

Grade は CTCAE（Common Terminology Criteria for Adverse Events）version 4.0に準じる。

2.本剤と他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性及び安全性は確立していない。

（裏面につづく）

3.重度の肝機能障害患者では、本剤の血中濃度が上昇するとの報告があるため、減量を考慮するとともに、患者の状態をより慎重に観察し、有害事象の発現に十分注意すること。
〔「慎重投与」及び「薬物動態」の項参照〕

【使用上の注意】

1.慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(1)高血圧症の患者
〔高血圧が悪化するおそれがある。「用法・用量に関連する使用上の注意」、「重要な基本的注意」及び「重大な副作用」の項参照〕

(2)重度の肝機能障害のある患者
〔血中濃度が上昇するおそれがある。「用法・用量に関連する使用上の注意」及び「薬物動態」の項参照〕

(3)脳転移のある患者
〔転移部位からの出血があらわれるおそれがある。「重大な副作用」の項参照〕

(4)血栓塞栓症又はその既往歴のある患者
〔血栓塞栓症が悪化又は再発するおそれがある。「重大な副作用」の項参照〕

(5)外科的処置後、創傷が治癒していない患者
〔創傷治癒遅延があらわれることがある。「重要な基本的注意」及び「重大な副作用」の項参照〕

2.重要な基本的注意

(1)血圧の上昇が認められることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に血圧測定を行い、必要に応じて降圧剤の投与を行うなど、適切な処置を行うこと。重症、持続性あるいは通常の降圧治療でコントロールできない高血圧があらわれた場合には、減量、休薬又は投与を中止すること。
〔「重大な副作用」の項参照〕

(2)蛋白尿があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に尿蛋白を観察し、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
〔「重大な副作用」の項参照〕

(3)骨髄抑制があらわれることがあるので、定期的に血液学的検査を行うなど、患者の状態を十分に観察し、感染症、出血傾向等の発現に留意すること。
〔「重大な副作用」の項参照〕

(4)AST（GOT）、ALT（GPT）等の上昇を伴う肝障害があらわれることがあるので、本剤の投与期間中は定期的に肝機能検査を行うなど、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、減量、休薬等の適切な処置を行うこと。
〔「重大な副作用」の項参照〕

(5)心機能不全があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に心エコー等の心機能検査を行うなど、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
〔「重大な副作用」の項参照〕

(6)創傷治癒を遅らせる可能性があるので、外科的処置が予定されている場合には、外科的処置の前に本剤の投与を中断すること。外科的処置後の投与再開は、患者の状態に応じて判断すること。
〔「重大な副作用」の項参照〕

(7)疲労、無力症、めまい、筋痙縮等があらわれることがあるので、自動車の運転等、危険を伴う機械の操作に従事する際には注意するよう患者に十分に説明すること。
〔「その他の副作用」の項参照〕

(8)本剤を投与する際は、定期的に血清カルシウム濃度を測定すること。
〔「重大な副作用」の項参照〕

(9)本剤を投与する際は、定期的に甲状腺刺激ホルモン濃度を測定すること。
〔「その他の副作用」の項参照〕

3.相互作用

本剤はP糖蛋白（P-gp）及びCYP3Aの基質となる。
〔「薬物動態」の項参照〕

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
P-gp阻害剤 ケトコナゾール イトラコナゾール リファンピシン アミオダロン クラリスロマイシン シクロスポリン キニジン ベラパミル等	P-gp阻害剤との併用により、本剤の血中濃度が上昇する可能性がある。	これらの薬剤が消化管のP-gp活性を阻害することにより、本剤の血中濃度が上昇する可能性がある。
CYP3A／P-gp誘導剤 リファンピシン フェニトイン カルバマゼピン セイヨウオトギリソウ（St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）含有食品等	CYP3A及びP-gp誘導剤との併用により、本剤の血中濃度が低下する可能性がある。	これらの薬剤がCYP3A及びP-gp等を誘導することにより、本剤の血中濃度が低下する可能性がある。

4.副 作 用

放射性ヨウ素治療抵抗性･難治性の分化型甲状腺癌患者を対象にした国際共同第Ⅲ相試験（無作為化期）において本剤が投与された261例（日本人30例を含む）において、副作用が254例（97.3％）に認められた。主な副作用は、高血圧177例（67.8％）、下痢159例（60.9％）、食欲減退135例（51.7％）、体重減少123例（47.1％）、悪心107例（41.0％）、疲労104例（39.8％）、口内炎96例（36.8％）、蛋白尿85例（32.6％）、手掌・足底発赤知覚不全症候群83例（31.8％）等であった。（承認時）

重大な副作用及びその他の副作用の頻度については、放射性ヨウ素治療抵抗性･難治性の分化型甲状腺癌患者を対象にした国際共同第Ⅲ相試験（無作為化期）の集計に基づき記載した。なお、この臨床試験以外からの報告は頻度不明とした。

(1)重大な副作用

1) 高血圧　高血圧（67.8％）、血圧上昇（3.8％）、高血圧クリーゼ（頻度不明）等があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。なお、コントロールできない高血圧が認められた場合には減量・休薬すること。また、高血圧クリーゼがあらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 出血　鼻出血(8.8％)、血尿(5.0％)、喀血(2.3％)、歯肉出血（1.9％）、肺出血（1.5％）、直腸出血(1.5％)、頭蓋内腫瘍出血(0.4％)、動脈出血(頻度不明)、くも膜下出血(頻度不明)、脳出血(頻度不明)、胃腸出血（頻度不明）等の出血があらわれることがある。観察を十分に行い、異

常が認められた場合には、減量や休薬等の適切な処置を行うこと。重篤な出血があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 動脈血栓塞栓症　一過性脳虚血発作（0.8%）、急性心筋梗塞（0.4%）、脳血管発作（0.4%）、脾臓梗塞（0.8%）、脳虚血（0.4%）、出血性卒中（0.4%）、虚血性脳卒中（0.4%）等の動脈血栓塞栓症があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

4) 静脈血栓塞栓症　肺塞栓症（2.7%）、深部静脈血栓症（0.4%）、骨盤静脈血栓症（0.4%）、網膜静脈血栓症（0.4%）等の静脈血栓塞栓症があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

5) 肝障害　アルブミン低下（7.3%）、ALT増加（6.5%）、AST増加（5.4%）、血中アルカリホスファターゼ上昇（4.2%）、肝機能異常（0.8%）、血中ビリルビン増加（1.5%）、γ-グルタミルトランスフェラーゼ増加（1.5%）、胆汁うっ滞性肝損傷（0.4%）、肝不全（頻度不明）等があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

6) 腎障害　蛋白尿（32.6%）、尿中蛋白陽性（0.4%）、急性腎不全（0.8%）、腎不全（0.8%）、慢性腎不全（0.4%）、急性腎前性腎不全（0.4%）、腎機能障害（1.5%）、血中クレアチニン上昇（4.2%）、血中尿素増加（2.3%）、腎尿細管壊死（0.4%）、腎虚血（0.4%）、ネフローゼ症候群（0.4%）、腎クレアチニン・クリアランス減少（頻度不明）、糸球体濾過率減少（頻度不明）、尿量減少（頻度不明）等があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

7) 消化管穿孔、瘻孔形成　胆嚢穿孔（0.4%）、腸管穿孔（頻度不明）、痔瘻（0.4%）、腸膀胱瘻（0.4%）、腸管膿瘍（0.4%）、直腸膿瘍（0.4%）、会陰膿瘍（0.4%）等があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、中止等の適切な処置を行うこと。

8) 可逆性後白質脳症症候群　可逆性後白質脳症症候群（0.4%）があらわれることがあるので、痙攣、頭痛、錯乱、視覚障害、皮質盲等が認められた場合には投与を中止し、血圧のコントロールを含め、適切な処置を行うこと。

9) 心障害　駆出率減少(5.0%)、心不全(0.8%)、うっ血性心筋症（0.4%）、左室肥大（0.4%）、心室壁運動低下（0.4%）、心電図QT延長（8.0%）、頻脈（2.7%）、徐脈（1.5%）、心房細動・粗動（0.8%）等があらわれることがある。十二誘導心電図検査の実施等、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

10) 手足症候群　手掌･足底発赤知覚不全症候群(31.8%)、手掌紅斑（1.1%）、紅斑性皮疹（0.4%）、皮膚反応（0.4%）等があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

11) 感染症　気道感染（4.2%）、肺炎（2.7%）、尿路感染（2.7%）、敗血症（1.1%）等があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

12) 骨髄抑制　血小板減少（13.8%）、白血球減少（7.3%）、リンパ球減少（6.9%）、貧血（6.1%）、好中球減少（3.8%）等があらわれることがある。定期的に血液検査を行うなど患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、減量、休薬又は中止等の適切な処置を行うこと。

13) 低カルシウム血症　低カルシウム血症（7.3%）があらわれることがあり、副甲状腺機能低下症の既往歴がある患者で高発現したことが報告されている。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、血清カルシウム濃度を確認し、カルシウム剤やビタミンD製剤の投与等の適切な処置を行うこと。また必要に応じて、減量、休薬又は中止を考慮すること。

14) 創傷治癒遅延　治癒不良（0.8%）、創離開（0.4%）があらわれることがある。創傷治癒遅延があらわれた場合には、創傷が治癒するまで本剤の投与を中止すること。

(2)その他の副作用

	30%以上	10～30%未満	5～10%未満
消化器	下痢、悪心、口内炎	口腔内乾燥、口腔咽頭痛、腹痛、嘔吐、便秘	消化不良、嚥下障害、舌痛
全身症状	疲労	浮腫、無力症	創傷
精神神経系		めまい、味覚異常、発声障害、頭痛	睡眠障害
代謝	食欲減退		血中カリウムの低下、血中コレステロールの上昇、脱水
筋骨格系		筋肉痛、関節痛	四肢痛、筋痙縮、背部痛
呼吸器		咳嗽	
皮膚		皮膚乾燥、発疹、脱毛症	過角化、皮膚炎、皮膚病変
その他	体重減少		甲状腺機能低下

5. 高齢者への投与

本剤の臨床試験成績から、高齢者に対する用量調節の必要性を示唆する所見はみられていない。しかし、一般に高齢者では生理機能が低下していることが多く、副作用があらわれやすいので、患者の状態を十分に観察し、慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、投与しないこと。また妊娠可能な婦人に対しては、適切な避妊を行うよう指導すること。

〔外国臨床試験において、本剤の投与終了後に妊娠が判明し、自然流産となったことが報告されている。ラット及びウサギにおいて胚毒性・催奇形性が報告されている。なお、ラットでは臨床曝露量以下で認められた。〕

(2)授乳中の婦人に投与する場合には、授乳を中止させること。

〔ラットにおいて乳汁中へ移行することが報告されている。〕

7.小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。

幼若ラットを用いた反復投与毒性試験において、切歯の異形成及び骨の短小など成長を阻害する影響が認められ、成熟ラットに比較し、致死量での死亡がより早期にみられた。

8.過量投与

⑴徴候、症状

放射性ヨウ素治療抵抗性･難治性の分化型甲状腺癌患者を対象にした国際共同第Ⅲ相試験において、過量投与により手掌・足底発赤知覚不全症候群の悪化、口腔乾燥及び口内炎が認められた。

⑵処置

本剤の過量投与に対する解毒剤は知られていない。過量投与が行われた場合には、休薬し観察を十分に行い、異常が認められた場合には、対症療法や本剤の投与中止等の適切な処置を行うこと。

9.適用上の注意

薬剤交付時

⑴PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）

⑵本剤は湿気に不安定なため、服用直前にPTPシートから取り出すよう指導すること。

10.その他の注意

⑴反復投与毒性試験（ラット、イヌ及びサル）の病理組織学的検査において、精巣（精上皮細胞の減少）及び卵巣（卵胞閉鎖）の変化が認められており、生殖機能に障害を及ぼす可能性が示唆されている。

⑵反復投与毒性試験において、ラット及びサル（成長板が残存する場合）に骨端軟骨成長板の肥厚が認められた。

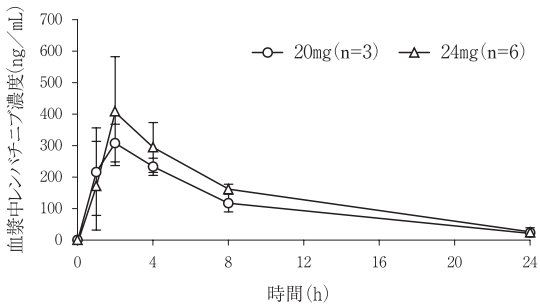
⑶ラット及びイヌを用いた反復投与毒性試験において、副腎の出血（イヌ）及び副腎皮質壊死（ラット）が認められた。

【薬物動態】

1.血中濃度

⑴単回投与及び１日１回の反復投与（日本人における成績）

日本人固形がん患者９例に本剤20又は24mgを１日１回経口投与したときの、初回投与時の血漿中レンバチニブ濃度推移を以下の図に示した。初回投与時及び１日１回反復投与した15日目の薬物動態パラメータを表に示した。レンバチニブのC_{max}及び$AUC_{(0-24h)}$には用量比例性が認められた。反復投与15日後の薬物動態は、単回投与の結果から推測可能であり、C_{max}及び$AUC_{(0-24h)}$の累積係数の平均値は、20mg投与群で1.27及び1.44、24mg投与群で1.42及び1.32であった。（①）



本剤経口投与時の血漿中レンバチニブ濃度（１日目）
（平均値±標準偏差）

薬物動態パラメータ

		C_{max}（ng／mL）	$AUC_{(0-24h)}$（ng･h／mL）	t_{max}[c]（h）
20mg／日	１日目（n＝3）	309±60.1	2500±647	2（2-2）
	15日目（n＝3）	415±267	3690±1790	2（2-2）
24mg／日	１日目（n＝6）	418±167	3150±352[a]	2（2-4）
	15日目（n＝6）	518±209	4140±1350[b]	2（2-4）

平均値±標準偏差
a：n＝4、b：n＝5、c：中央値（最小値-最大値）
注）本剤の承認された用量は、24mg／日である。

⑵食事の影響（外国人における成績）

健康成人16例に本剤10mgをクロスオーバー法により、空腹時又は食後（高脂肪食）に単回経口投与した。空腹時と比較して、食後投与のC_{max}及び$AUC_{(0-inf)}$の臨床的に意味のある変化は認められなかった。（②）

2.代謝（外国人における成績）

本剤は主にアルデヒドオキシダーゼ、CYP3Aにより代謝され、グルタチオンが非酵素的に結合する（*in vitro*試験）。（③）

外国人固形がん患者６例に^{14}C標識-レンバチニブ24mgを単回経口投与した結果、血漿中の放射能の大部分は未変化体であった。（④）

3.分布

レンバチニブの蛋白結合率は97.9～98.6％（*in vitro*試験）、96.6～98.2％（日本人固形がん患者）であった。主な結合蛋白はアルブミンであった。（⑤⑥）

4.排泄（外国人における成績）

外国人固形がん患者６例に^{14}C標識-レンバチニブ24mgを単回経口投与したとき、投与10日後までに投与した総放射能の25％が尿中に、64％が糞中に回収された。また、尿及び糞中に排泄された未変化体は投与量のそれぞれ0.38％及び2.5％であった。未変化体の血漿中消失半減期は、約35.4時間であった。（④）

5.肝機能障害患者（外国人における成績）

本剤10mgを肝機能が正常な被験者（n＝8）、軽度（Child-Pugh分類A）及び中等度（Child-Pugh分類B）の肝機能障害を有する被験者（各６例）に単回投与した。また、本剤５mgを重度（Child-Pugh分類C）の肝機能障害を有する被験者（６例）に単回投与した。

軽度、中等度及び重度の肝機能障害を有する被験者における投与量補正したC_{max}は健康被験者のそれぞれ0.97、0.79及び1.1倍であり、投与量補正した$AUC_{(0-inf)}$は健康被験者のそれぞれ1.2、1.1及び1.8倍であった。（⑦）

6.腎機能障害患者（外国人における成績）

レンバチニブ24mgを腎機能が正常な被験者（クレアチニンクリアランス［CL_{cr}］：≥90mL／min、n＝8）、軽度（CL_{cr}：60～89mL／min）、中等度（CL_{cr}：30～59mL／min）及び重度（CL_{cr}：15～29mL／min）の腎機能障害を有する被験者（各６例）に単回投与した。

軽度、中等度及び重度の腎機能障害を有する被験者におけるC_{max}は健康被験者のそれぞれ1.0、0.61及び0.87倍であり、$AUC_{(0-inf)}$は、健康被験者のそれぞれ1.0、0.90及び1.2倍であった。（⑧）

7.薬物相互作用（外国人における成績）

外国人健康成人16例に、レンバチニブをケトコナゾールと併用投与した際のC_{max}及び$AUC_{(0-inf)}$は、レンバチニブをプラセボと併用した場合と比べてそれぞれ19％及び15％上昇した。（⑨）

外国人健康成人15例に、レンバチニブをリファンピシンと単回同時併用投与した際のC_{max}及び$AUC_{(0-inf)}$は、レンバチニブを単独投与した場合と比べてそれぞれ33％及び31％上昇した。リファンピシンの反復投与後に、レンバチニブをリファンピシンと同時併用投与した際のC_{max}及び$AUC_{(0-inf)}$は、レンバチニブをリファンピシンと単回同

（裏面につづく）

時併用投与した場合と比べてそれぞれ24％及び37％減少した。 (⑩)

*In vitro*において、レンバチニブは、乳癌耐性蛋白（BCRP）の基質となること、及びUGT1A1を阻害すること（IC_{50}値：10.6μmol／L）が示されている。 (③⑪)

【臨床成績】

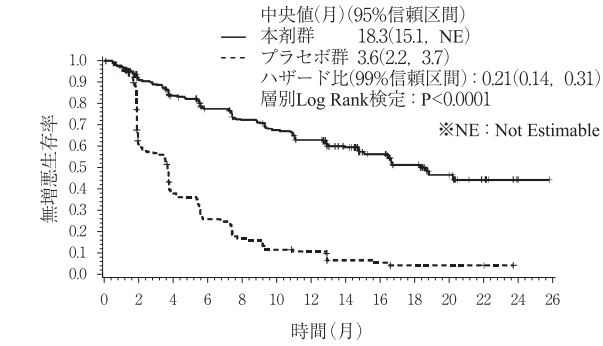
1.国際共同第Ⅲ相試験

放射性ヨウ素治療抵抗性・難治性（ヨウ素の取込みが認められない、放射性ヨウ素治療後12ヵ月以内に病勢の進行が認められた、又は累積線量が600mCi［22GBq］を超える放射性ヨウ素治療を受けている）の分化型甲状腺癌患者（乳頭癌、濾胞癌、Hürthle細胞癌、及び低分化癌）392例（本剤群261例［日本人患者30例］、プラセボ群131例［日本人患者10例］）において、プラセボを比較対照として本剤24mgを１日１回投与した場合の有効性と安全性を評価した。

なお、心不全の既往、心血管系疾患の既往、不整脈、出血性疾患、血栓性疾患又は活動性の喀血がある患者、抗凝固剤を投与されている患者、３週間以内に大手術を受けた患者、及びQTc間隔が480ms超の患者は除外された。

主要評価項目を無増悪生存期間（PFS）とした。

PFSの中央値は本剤投与群で18.3ヵ月、プラセボ群で3.6ヵ月であり、本剤はプラセボ群に対してPFSを有意に延長した。 (⑫)



at risk数

本剤群：	261	225	198	176	159	148	136	92	66	44	24	11	3	0
プラセボ群：	131	71	43	29	19	13	11	5	4	2	2	2	0	0

2.国内第Ⅱ相試験

甲状腺癌（放射性ヨウ素治療抵抗性・難治性の分化型甲状腺癌［ヨウ素の取込みが認められない、放射性ヨウ素治療後12ヵ月以内に病勢の進行が認められた、又は累積線量が600mCi［22GBq］を超える放射性ヨウ素治療を受けている］、切除不能の甲状腺髄様癌及び切除不能の甲状腺未分化癌）43例に対し、本剤24mgを１日１回投与した場合の安全性と有効性を評価した。主要評価項目を安全性とし、副次評価項目として有効性を評価した。有効性解析対象例はそれぞれ23例、８例及び11例であった。 (⑬)

n（%）	分化型甲状腺癌（N＝23）	甲状腺髄様癌（N＝8）	甲状腺未分化癌（N＝11）
完全奏効（CR）	0	0	0
部分奏効（PR）	16（69.6）	1（12.5）	3（27.3）
安定（SD）	7（30.4）	7（87.5）	7（63.6）
病勢進行（PD）	0	0	1（9.1）

【薬効薬理】

1.作用機序

レンバチニブは、腫瘍血管新生等に関与する、血管内皮増殖因子（VEGF）受容体（VEGFR1-3）、線維芽細胞増殖因子受容体（FGFR1-4）、血小板由来増殖因子受容体（PDGFR）α、幹細胞因子受容体（KIT）、Rearranged During Transfectionがん原遺伝子（RET）等の受容体チロシンキナーゼを阻害した。また、VEGFによって誘導される血管内皮細胞のVEGFR2自己リン酸化、増殖及び血管様管腔構造の形成を阻害した。 (⑭)

2.抗腫瘍効果

レンバチニブは、ヒト甲状腺乳頭癌由来K1細胞株、ヒト甲状腺濾胞癌由来RO82-W-1細胞株、ヒト甲状腺髄様癌由来TT細胞株、ヒト甲状腺未分化癌由来8305C細胞株及びヒト甲状腺由来扁平上皮癌由来SW579細胞株を移植したマウスにおいて、腫瘍増殖抑制作用を示した。 (⑮)

【有効成分に関する理化学的知見】

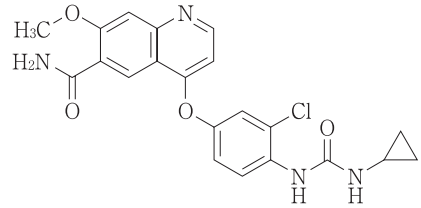
一 般 名：レンバチニブメシル酸塩（Lenvatinib Mesilate）

化 学 名：4-｛3-Chloro-4-［(cyclopropylcarbamoyl)amino］phenoxy｝-7-methoxyquinoline-6-carboxamide monomethanesulfonate

分 子 式：$C_{21}H_{19}ClN_4O_4 \cdot CH_4O_3S$

分 子 量：522.96

構 造 式：



・ H_3C-SO_3H

性　　状：レンバチニブメシル酸塩は白色～うすい帯赤黄色の粉末である。
本品は水、メタノール又は*N*-メチルピロリドンに溶けにくく、エタノール（99.5）にほとんど溶けない。

融　　点：221～224℃（分解）

分配係数：log P＝3.30（1-オクタノール／水系）

【承認条件】

1.医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

2.国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

【包　　装】

レンビマカプセル４mg……20カプセル（PTP10C×2）

レンビマカプセル10mg……20カプセル（PTP10C×2）

【主要文献】

文献請求番号

① 社内資料：固形がん患者を対象とした臨床第Ⅰ相試験（国内試験） LEN-0001

② Shumaker, R. et al.：Int. J. Clin. Pharmacol. Ther., 52, 284（2014） LEN-0002

③ 社内資料：代謝（*in vitro*及び*in vivo*） LEN-0003

④ 社内資料：がん患者を対象としたマスバランス試験（外国試験） LEN-0004

⑤ 社内資料：血漿蛋白結合率（*in vitro*） LEN-0005

⑥ Yamada, K. et al.：Clin. Cancer Res., 17, 2528（2011） LEN-0006

⑦ 社内資料：肝機能障害患者を対象とした臨床薬理試験（外国試験） LEN-0008

⑧ 社内資料：腎機能障害患者を対象とした臨床薬理試験（外国試験） LEN-0009

⑨ 社内資料：ケトコナゾールとの薬物相互作用試験（外国試験） LEN-0010

⑩ 社内資料：リファンピシンとの薬物相互作用試験（外国試験） LEN-0011

⑪ 社内資料：トランスポーター（*in vitro*） LEN-0018

⑫ 社内資料：^{131}Ⅰ難治性の甲状腺分化癌患者を対象とした臨床第Ⅲ相試験(国際共同試験) LEN-0012

⑬ 社内資料：進行性甲状腺癌患者を対象とした臨床第Ⅱ相試験（国内試験）　LEN-0014
⑭ 社内資料：*In vitro*薬理試験　LEN-0015
⑮ 社内資料：*In vivo*薬理試験　LEN-0016

【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

エーザイ株式会社　hhcホットライン
フリーダイヤル　0120-419-497

＊【投薬期間制限医薬品に関する情報】

本剤は新医薬品であるため、厚生労働省告示第113号（平成27年３月24日付、平成18年厚生労働省告示第107号一部改正）に基づき、平成28年５月末日までは、投薬期間は１回14日分を限度とされています。

製造販売元　エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

D34282-2　CODE DI-T-LEN103

Lilly

※2015年6月改訂（第2版）
2015年3月作成

生物由来製品
劇薬
処方箋医薬品
（注意－医師等の処方箋により使用すること）

貯　　法：遮光、2～8℃で保存
使用期限：外箱等に表示

抗悪性腫瘍剤　ヒト型抗VEGFR-2[注]モノクローナル抗体

サイラムザ®点滴静注液 100mg①
サイラムザ®点滴静注液 500mg②

Cyramza® Injection
ラムシルマブ（遺伝子組換え）注射液

日本標準商品分類番号
87 4291

	①	②
承認番号	22700AMX00664	22700AMX00665
薬価収載	2015年5月	2015年5月
販売開始	**2015年6月**	**2015年6月**
国際誕生	2014年4月	2014年4月

注）VEGFR-2：Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2（血管内皮増殖因子受容体2）

【警告】

1. 本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。
2. 心筋梗塞、脳血管障害等の重篤な動脈血栓塞栓症があらわれ、死亡に至る例が報告されている。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。重度の動脈血栓塞栓症があらわれた患者には、本剤を再投与しないこと。[「慎重投与」及び「重大な副作用」の項参照]
3. 重度の消化管出血があらわれ、死亡に至る例が報告されている。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。重度の出血があらわれた患者には、本剤を再投与しないこと。[「慎重投与」及び「重大な副作用」の項参照]
4. 消化管穿孔があらわれ、死亡に至る例が報告されている。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。消化管穿孔があらわれた患者には、本剤を再投与しないこと。[「慎重投与」及び「重大な副作用」の項参照]

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

1. 本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 [「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照]

【組成・性状】

販売名		サイラムザ点滴静注液100mg	サイラムザ点滴静注液500mg
容量（1バイアル）		10mL	50mL
成分・含量（1バイアル中）		ラムシルマブ（遺伝子組換え）[注] 100mg	ラムシルマブ（遺伝子組換え）[注] 500mg
添加物	L-ヒスチジン	6.5mg	32.5mg
	L-ヒスチジン塩酸塩水和物	12.2mg	61.0mg
	グリシン	99.8mg	499mg
	塩化ナトリウム	43.8mg	219mg
	ポリソルベート80	1.0mg	5.0mg
性状・剤形		澄明又はわずかに乳白光を呈する、無色～微黄色の液（注射剤）	
pH		5.7～6.3	
浸透圧比（生理食塩液に対する比）		約1	

注）本剤は、マウスミエローマ細胞を用いて製造される。製造工程の培地成分としてウシ血清由来成分（アルブミン）を使用している。

【効能・効果】

治癒切除不能な進行・再発の胃癌

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

1. 本剤の術後補助化学療法における有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤の一次化学療法における有効性及び安全性は確立していない。
3. 原発部位等について、「臨床成績」の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者の選択を行うこと。[「臨床成績」の項参照]

【用法・用量】

通常、成人には2週間に1回、ラムシルマブ（遺伝子組換え）として1回8mg/kg（体重）をおよそ60分かけて点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。

＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

1. 本剤とパクリタキセル以外の抗悪性腫瘍剤との併用における有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤投与時にあらわれるinfusion reactionを軽減させるため、本剤の投与前に抗ヒスタミン剤（ジフェンヒドラミン等）の前投与を考慮すること。グレード[注1]1又は2のinfusion reactionがあらわれた場合には、次回投与から必ず抗ヒスタミン剤を前投与し、その後もグレード[注1]1又は2のinfusion reactionがあらわれる場合には、抗ヒスタミン剤に加え解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン等）及び副腎皮質ホルモン剤（デキサメタゾン等）を前投与すること。[「重要な基本的注意」及び「重大な副作用」の項参照]
3. グレード[注1]3又は4のinfusion reactionがあらわれた場合には、本剤の投与を直ちに中止し、再投与しないこと。グレード[注1]1又は2のinfusion reactionがあらわれた場合には、投与速度を50％減速し、その後の全ての投与においても減速した投与速度で投与すること。[「重要な基本的注意」及び「重大な副作用」の項参照]
4. 高血圧又は蛋白尿があらわれた場合には、以下の基準を参考に本剤を休薬、減量又は投与中止すること。[「慎重投与」及び「重要な基本的注意」の項参照]

副作用		処置
高血圧	症候性のグレード[注1]2、又はグレード[注1]3以上	降圧剤による治療を行い、血圧がコントロールできるようになるまで休薬する。 降圧剤による治療を行ってもコントロールできない場合には、投与を中止する。

副作用		処置
蛋白尿	1日尿蛋白量2g以上[注2]	初回発現時：1日尿蛋白量2g未満[注2]に低下するまで休薬し、再開する場合には6mg/kgに減量する。
		2回目以降の発現時：1日尿蛋白量2g未満[注2]に低下するまで休薬し、再開する場合には5mg/kgに減量する。
	1日尿蛋白量3g以上[注2]、又はネフローゼ症候群を発現	投与を中止する。

注1）有害事象共通用語規準（ver. 4.0）
注2）24時間蓄尿を用いた全尿検査が望ましいが、実施困難な場合には尿中の蛋白／クレアチニン比を測定する。

5．注射液の調製法

本剤の投与時には、本剤の必要量を計算し、必要量を注射筒で抜き取り、点滴静注用容器にて日局生理食塩液と混和して全量250mLとして用いる。輸液は十分に混和すること。[「適用上の注意」の項参照]

【使用上の注意】※

1．慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(1) 血栓塞栓症又はその既往歴のある患者［心筋梗塞、脳血管障害、肺塞栓症等があらわれるおそれがある。］
(2) 高血圧症の患者［高血圧が悪化するおそれがある。（「用法・用量に関連する使用上の注意」及び「重要な基本的注意」の項参照）］
(3) 消化管など腹腔内の炎症を合併している患者［消化管穿孔があらわれるおそれがある。］
(4) 出血素因や凝固系異常のある患者又は抗凝固剤を投与している患者［出血があらわれるおそれがある。］
(5) 消化管出血等の出血が認められている患者［出血が増強されるおそれがある。］
(6) 大きな手術の術創が治癒していない患者［創傷治癒障害による合併症があらわれるおそれがある。（「重要な基本的注意」の項参照）］
(7) 重度の肝障害（重度の肝硬変、肝性脳症を伴う肝硬変、肝硬変による著明な腹水、肝腎症候群）を有する患者［肝機能が悪化するおそれがある。（「重要な基本的注意」の項参照）］

2．重要な基本的注意

(1) Infusion reactionがあらわれることがあり、2回目以降の本剤投与時にもあらわれることがある。本剤の投与は、重度のinfusion reactionに備えて緊急時に十分な対応のできる準備を行った上で開始すること。また、本剤投与中は、患者の状態を観察し、過敏症状が認められた場合には、適切な処置を行うこと。[「用法・用量に関連する使用上の注意」及び「重大な副作用」の項参照]
(2) 高血圧があらわれることがあるので、本剤投与開始前及び投与期間中は定期的に血圧を測定すること。高血圧があらわれた場合には、降圧剤の投与等、適切な処置を行うこと。[「用法・用量に関連する使用上の注意」及び「慎重投与」の項参照]
(3) 蛋白尿があらわれることがあるので、本剤投与期間中は尿蛋白を定期的に検査すること。異常が認められた場合には、本剤の休薬、減量又は投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。[「用法・用量に関連する使用上の注意」の項参照]
(4) 本剤は、創傷治癒に影響を及ぼす可能性がある。
1) 手術を予定している場合には、手術の前に本剤の投与を中断すること。
2) 手術後に本剤を投与する際には、創傷が治癒していることを十分に確認し、投与を開始することが望ましい。
3) 創傷治癒による合併症があらわれた場合には、創傷が治癒するまで本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(5) 重度の肝障害（重度の肝硬変（Child-Pugh分類B又はC）、肝性脳症を伴う肝硬変、肝硬変による著明な腹水、肝腎症候群）を有する患者において、本剤投与により肝機能が悪化したとの報告がある。重度の肝障害を有する患者に対する投与の可否は慎重に判断すること。投与する場合には、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

3．副作用

＜単独投与での成績＞

胃癌患者を対象とした本剤単独投与による外国第Ⅲ相無作為化比較試験において、本剤が投与された236例中、主な副作用は腹痛（28.8%）、高血圧（16.1%）、下痢（14.4%）等であった。（承認時）

＜パクリタキセル併用投与での成績＞

胃癌患者を対象とした本剤とパクリタキセルの併用投与による国際共同第Ⅲ相無作為化比較試験において、本剤が投与された327例中（日本人症例68例を含む）、主な副作用は疲労／無力症（56.9%）、好中球減少症（54.4%）、白血球減少症（33.9%）、下痢（32.4%）、鼻出血（30.6%）等であった。（承認時）

(1) **重大な副作用**

1) **動脈血栓塞栓症（1.7%[注1]、1.8%[注2]）、静脈血栓塞栓症（3.8%[注1]、4.0%[注2]）**：心筋梗塞（0.4%[注1]、0.3%[注2]）、脳血管障害（0.8%[注1]、0.9%[注2]）等の動脈血栓塞栓症、肺塞栓症（1.7%[注1]、1.2%[注2]）等の静脈血栓塞栓症があらわれることがあり、死亡に至る例が報告されている。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、重度の動脈血栓塞栓症があらわれた患者には、本剤を再投与しないこと。
2) **Infusion reaction（0.4%[注1]、5.8%[注2]）**：悪寒、紅潮、低血圧、呼吸困難、気管支痙攣等のinfusion reactionがあらわれることがあるので、本剤投与中は患者の状態を十分に観察し、グレード[注3]3又は4のinfusion reactionが認められた場合には、本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行うとともに、以降、本剤を再投与しないこと。[「用法・用量に関連する使用上の注意」及び「重要な基本的注意」の項参照]
3) **消化管穿孔（0.8%[注1]、1.2%[注2]）**：消化管穿孔があらわれることがあり、死亡に至る例が報告されている。消化管穿孔が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、消化管穿孔があらわれた患者には、本剤を再投与しないこと。
4) **出血（12.7%[注1]、41.9%[注2]）**：消化管出血（6.4%[注1]、10.1%[注2]）等の出血があらわれることがあり、死亡に至る例が報告されている。観察を十分に行い、重度の出血が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、重度の出血があらわれた患者には、本剤を再投与しないこと。
5) **好中球減少症（4.7%[注1]、54.4%[注2]）、白血球減少症（0.4%[注1]、33.9%[注2]）**：好中球減少症、白血球減少症及び発熱性好中球減少症（0.4%[注1]、3.1%[注2]）があらわれることがあるので、定期的に血液検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、適切な処置を行うこと。
6) **うっ血性心不全（0.4%[注1]、2.4%[注2]）**：うっ血性心不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。
7) **創傷治癒障害（頻度不明[注4]）**：創傷治癒に影響を及ぼす可能性があり、創傷治癒障害による合併症があらわれることがある。創傷治癒障害による合併症があらわれた場合には、創傷が治癒するまで本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。
8) **瘻孔（0.4%[注1]）**：瘻孔があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。
9) **可逆性後白質脳症症候群（頻度不明[注4]）**：可逆性後白質脳症症候群があらわれることがあるので、痙攣、頭痛、錯乱、視覚障害等が認められた場合には、本剤の投与を中止し、血圧のコントロール、抗痙攣薬の投与等の適切な処置を行うこと。

注1）本剤の単独投与による外国臨床試験における発現頻度
注2）本剤とパクリタキセル併用投与による国際共同試験（日本人症例68例を含む）における発現頻度
注3）有害事象共通用語規準（ver. 4.0）
注4）本剤の単独投与による外国臨床試験及び本剤とパクリタキセル併用投与による国際共同試験以外における報告は、頻度不明とした。

(2) その他の副作用

以下のような副作用が認められた場合には、症状に合わせて適切な処置を行うこと。

1) 単独投与時

副作用分類	20%以上	5～20%未満	5%未満
血液			血小板減少症
消化器	腹痛	下痢	腸閉塞
循環器		高血圧	
代謝		低カリウム血症、低ナトリウム血症	
腎臓			蛋白尿
皮膚			発疹、皮膚乾燥
その他		頭痛	粘膜の炎症

2) パクリタキセルとの併用投与時

副作用分類	20%以上	5～20%未満	5%未満
血液		血小板減少症	
消化器	下痢、腹痛	口内炎	
肝臓		AST（GOT）増加、ALT（GPT）増加	
循環器	高血圧		心電図QT延長
呼吸器		呼吸困難	
代謝		低アルブミン血症、低ナトリウム血症	
腎臓		蛋白尿	血中クレアチニン増加
感染症			敗血症
皮膚		発疹、皮膚乾燥	潮紅、ざ瘡様皮膚炎
その他	疲労／無力症、末梢性浮腫	頭痛、発熱	眼瞼浮腫、顔面浮腫

4．高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

5．妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、本剤を投与しないこと。妊娠可能な婦人には、本剤投与中及び本剤投与終了後一定期間は適切な避妊を行うよう指導すること。[本剤の胚・胎児発生毒性試験は実施されていない。また、VEGF及びVEGFR阻害により、動物において胚死亡、流産、催奇形性等が起こることが報告されており[1]、本剤の作用機序から、本剤が胚・胎児発生及び出生後の発生に影響を及ぼす可能性がある。]

(2) 授乳中の患者に投与する場合は、授乳を中止させること。[ヒトIgGはヒト乳汁中に移行するため、本剤は乳児に影響を及ぼす可能性がある。]

6．小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験がない。]

7．適用上の注意

(1) 調製時

1) 本剤は、無菌的に希釈調製を行うこと。
2) 本剤のバイアルは1回使い切りである。バイアル中の未使用残液は適切に廃棄すること。
3) 調製前に不溶性異物や変色がないことを目視により確認すること。不溶性異物又は変色が認められる場合は使用しないこと。
4) 本剤の調製には日局生理食塩液のみを使用すること。ブドウ糖溶液との配合を避けること。
5) 本剤及び調製した注射液を凍結又は振とうさせないこと。
6) 調製後は、速やかに使用すること。なお、やむを得ず保存を必要とする場合、室温保存（30℃以下）では4時間以内、冷蔵保存（2～8℃）では24時間以内に投与を開始すること。

(2) 投与時

1) 投与前、調製した注射液に不溶性異物がないことを目視により確認すること。不溶性異物が認められる場合は使用しないこと。
2) 本剤は点滴静注用としてのみ用い、急速静注は行わないこと。[「用法・用量」の項参照]
3) 本剤の投与速度は25mg/分を超えないこと。
4) 本剤の投与にあたっては、蛋白質透過型のフィルター（0.2又は0.22ミクロン）を使用し、他の薬剤と同じラインを使用しないこと。なお、本剤投与終了後は、使用したラインを日局生理食塩液にてフラッシュすること。

8．その他の注意

(1) 若齢カニクイザルでは、本剤の反復投与（5～50mg/kg、週1回投与）により、骨端成長板において肥厚及び骨端軟骨異形成、並びに糸球体腎炎が認められた。当該試験において、骨及び腎毒性所見の回復性は検討されておらず、当該所見の回復性は不明である[2]。

(2) 免疫原性：国内外の臨床試験において、本剤投与による中和抗体の発現率は1.0%（9/884例）であった。有害事象発現との相関は不明である。

【薬物動態】

1．血中濃度

(1) 単回投与時

日本人胃癌患者6例にラムシルマブ8mg/kgをおよそ60分かけて点滴静注したときの血清中濃度推移及び薬物動態パラメータは以下のとおりであった。ラムシルマブ平均半減期は、約8日（範囲：6～10日）であった[3]。

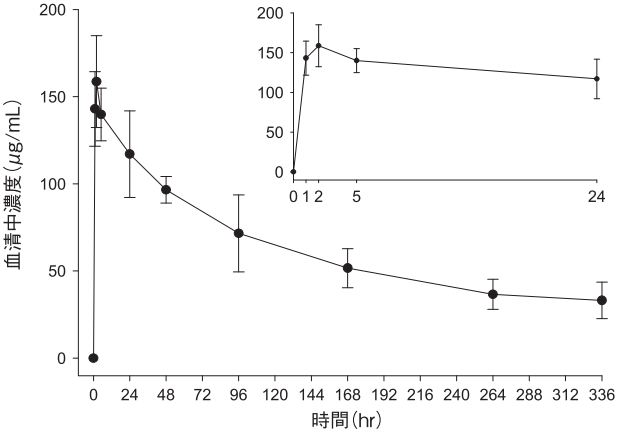


図1）ラムシルマブ8mg/kg単回投与後の血清中濃度（N=6、平均及び標準偏差）

表1）ラムシルマブ8mg/kg単回投与後の薬物動態パラメータ（N=6、幾何平均値及び変動係数%）

C_{max} (μg/mL)	t_{max} 注1) (h)	$AUC_{0-\infty}$ 注2) (μg・h/mL)	CL 注2) (L/h)	$t_{1/2}$ 注3) (h)	V_{ss} 注2) (L)
161 (16)	2.05 (1.07-2.12)	25600 (34)	0.0150 (20)	183 (138-228)	3.29 (27)

注1）中央値及び範囲
注2）N=3
注3）幾何平均値及び範囲

(2) 反復投与時

日本人胃癌患者6例にパクリタキセル併用下でラムシルマブ8mg/kgを2週間に1回およそ60分かけて点滴静注で反復投与したとき、1回目及び3回目投与後の血清中濃度推移及び薬物動態パラメータは以下のとおりであった。3回目投与後のAUCは単回投与後の1.52～1.53倍であった[4]。

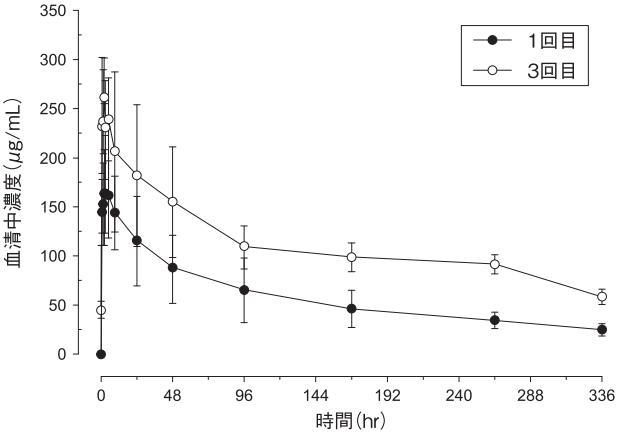


図2）ラムシルマブ8mg/kg単回及び反復投与後（パクリタキセル併用）の血清中濃度（単回投与：N=6、反復投与：N=4（264及び336時間後のみN=2、平均及び標準偏差）

表2）ラムシルマブ8mg/kg単回及び反復投与後（パクリタキセル併用）の薬物動態パラメータ（幾何平均値及び変動係数％）

	C_{max}（μg/mL）	t_{max}[注1)]（h）	$AUC_{(0-\tau)}$（μg・h/mL）	CL（L/h）	$t_{1/2}$（h）
1回目（N=6）	171（26）	4.00（1.02-9.05）	18300（35）	0.0166[注2)]	181（138-225）[注3)]
3回目（N=4）	282（15）	1.82（1.03-2.15）	41300, 42600[注4)]	0.0133, 0.0138[注4)]	218[注2)]

注1）中央値及び範囲
注2）各被験者の値、N=1
注3）N=4、幾何平均値及び範囲
注4）各被験者の値、N=2
τ：投与間隔

プラチナ製剤又はフッ化ピリミジン系薬剤を含む化学療法が無効の進行胃腺癌又は胃食道接合部腺癌患者に、パクリタキセル併用下でラムシルマブ8mg/kgを2週間に1回反復投与したとき、3回目及び6回目投与後のトラフ血清中濃度の幾何平均値は、それぞれ、45.0μg/mL（範囲：12.4～177.0μg/mL）及び62.8μg/mL（範囲：14.5～164.5μg/mL）、1回目、4回目、7回目投与後1時間の血清中濃度の幾何平均値は、それぞれ、146μg/mL（範囲：66.0～274.0μg/mL）、193μg/mL（範囲：58.0～492.0μg/mL）及び216μg/mL（範囲：84.0～382.0μg/mL）であった。（日本人及び外国人における成績）[5)]

(3) 相互作用（外国人における成績）

ラムシルマブとパクリタキセルとの相互作用試験の結果、両者の間に薬物動態学的相互作用は認められなかった[6)]。

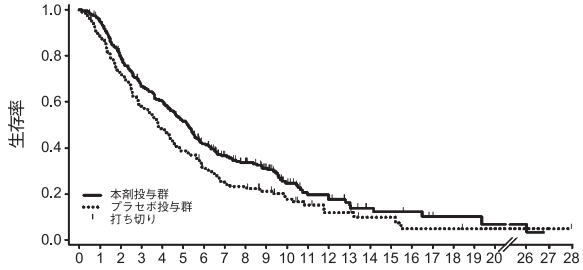
【臨床成績】

1．外国第Ⅲ相無作為化比較試験（REGARD試験）[7)]

プラチナ製剤又はフッ化ピリミジン系薬剤を含む化学療法が無効の進行胃腺癌又は胃食道接合部腺癌患者355例を対象に、best supportive care（BSC）との併用において本剤とプラセボとを比較する無作為化二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相試験を実施した。本剤8mg/kg又はプラセボを2週間に1回投与し、病態の悪化等が認められるまで継続した。主要評価項目である全生存期間において有意な延長を認めた。

表1）外国臨床試験（REGARD試験）における成績

	本剤投与群	プラセボ投与群
症例数	238	117
イベント発現例数	179	99
全生存期間中央値（月）（95％信頼区間）	5.2（4.4-5.7）	3.8（2.8-4.7）
ハザード比（95％信頼区間）	0.776（0.603-0.998）P=0.0473	



リスク集団（at risk数）　生存期間（月）

本剤投与群	238	154	92	49	17	7	3	0	0
プラセボ投与群	117	66	34	20	7	4	2	1	0

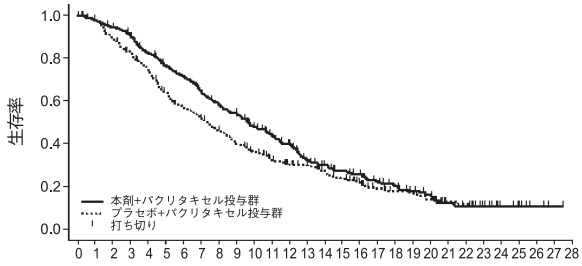
図1）全生存期間のKaplan-Meier曲線（REGARD試験）

2．第Ⅲ相無作為化比較試験（国際共同試験：RAINBOW試験）[8)]

プラチナ製剤とフッ化ピリミジン系薬剤の併用療法が無効の進行胃腺癌又は胃食道接合部腺癌患者665例（日本人症例140例を含む）を対象に、本剤+パクリタキセルとプラセボ+パクリタキセルとを比較する無作為化二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相試験を実施した。本剤8mg/kg又はプラセボ（2週間に1回）とパクリタキセル80mg/m²（週1回投与を3週連続し、4週目を休薬）とを4週間を1サイクルとして、病態の悪化等が認められるまで投与を継続した（投与の際は、本剤の投与後にパクリタキセルを投与）。主要評価項目である全生存期間において有意な延長を認めた。

表2）国際共同試験（RAINBOW試験）における成績

	本剤+パクリタキセル投与群	プラセボ+パクリタキセル投与群
症例数	330	335
イベント発現例数	256	260
全生存期間中央値（月）（95％信頼区間）	9.6（8.5-10.8）	7.4（6.3-8.4）
ハザード比（95％信頼区間）	0.807（0.678-0.962）P=0.0169	



リスク集団（at risk数）　生存期間（月）

本剤+パクリタキセル投与群	330	308	267	228	185	148	116	78	60	41	24	13	6	1	0
プラセボ+パクリタキセル投与群	335	294	241	180	143	109	81	64	47	30	22	13	5	2	0

図2）全生存期間のKaplan-Meier曲線（RAINBOW試験）

【薬効薬理】

1．作用機序

ラムシルマブはヒトVEGFR-2に対する抗体であり、VEGF-A、VEGF-C及びVEGF-DのVEGFR-2への結合を阻害することにより、VEGFR-2の活性化を阻害する[9)]。ラムシルマブは、VEGFR-2の活性化阻害により、内皮細胞の増殖、遊走及び生存を阻害し、腫瘍血管新生を阻害すると考えられる[10)]。

2．抗腫瘍効果[11)]

胃癌患者由来の癌組織片及びヒト胃癌由来MKN-45細胞株を皮下移植したヌードマウスにおいて、DC101（マウスVEGFR-2に対する抗体）は腫瘍増殖抑制作用を示した。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：　ラムシルマブ（遺伝子組換え）（JAN）
　　Ramucirumab（Genetical Recombination）

本　質：　ラムシルマブは、ヒト血管内皮増殖因子受容体2の細胞外領域に対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体である。ラムシルマブは、マウスミエローマ細胞（NS0）により産生される。ラムシルマブは、446個のアミノ酸残基からなるH鎖（γ1鎖）2本及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖（κ鎖）2本で構成される糖タンパク質（分子量：約147,000）である。

【承認条件】

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【包装】

注射剤100mg：1バイアル（10mL）
注射剤500mg：1バイアル（50mL）

【主要文献及び文献請求先】

1）社内資料：ラムシルマブの生殖発生毒性に関する科学的評価
2）社内資料：ラムシルマブの反復投与毒性試験
3）社内資料：日本人胃癌患者におけるラムシルマブ単回投与後の薬物動態（第Ⅱ相）
4）社内資料：日本人胃癌患者におけるラムシルマブ反復投与（パクリタキセル併用）後の薬物動態（第Ⅰb相）
5）社内資料：胃癌患者におけるラムシルマブ反復投与（パクリタキセル併用）後の薬物動態（第Ⅲ相）
6）社内資料：ラムシルマブとパクリタキセルの相互作用試験
7）Fuchs, C. S. et al.：The Lancet, 383（9911）, 31（2014）
8）Wilke, H. et al.：The Lancet Oncol., 15（11）, 1224（2014）
9）社内資料：VEGFリガンドのVEGFR-2への結合に対するラムシルマブの作用
10）社内資料：ラムシルマブの細胞機能に対する作用
11）社内資料：ヒト胃癌のマウス異種移植モデルにおけるDC101の抗腫瘍効果

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
0120-360-605（医療関係者向け）
受付時間：月～金 8:45～17:30
www.lillyanswers.jp

®：登録商標

製造販売元
日本イーライリリー株式会社
神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

PV0942JJAP

2015年5月作成（第1版）

日本標準商品分類番号
87219

7066663

エンドセリン受容体拮抗薬

オプスミット®錠10mg

Opsumit® 10mg

マシテンタン錠

規制区分：劇薬、処方箋医薬品
（注意-医師等の処方箋により使用すること）
貯　　法：室温保存
使用期限：包装に表示

承認番号	22700AMX00649000
薬価収載	2015年5月
販売開始	**2015年6月**
国際誕生	2013年10月

【禁　忌】（次の患者には投与しないこと）
(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人［「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照。］
(2)重度の肝障害のある患者［使用経験がない。また、類薬において重篤な肝障害の報告がある。］
(3)強いCYP3A4誘導剤（リファンピシン、セイヨウオトギリソウ含有食品、カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール、リファブチン）を投与中の患者［「相互作用」の項参照。］
(4)本剤及び本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

販売名	オプスミット錠10mg		
成分・含量	1錠中にマシテンタン10mg		
添加物	乳糖水和物、結晶セルロース、デンブングリコール酸ナトリウム、ポビドン、ステアリン酸マグネシウム、ポリソルベート80、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、酸化チタン、タルク、大豆レシチン、キサンタンガム		
性状	白色のフィルムコーティング錠		
外形	表面	裏面	側面
	10		
識別コード	10		
大きさ（約）	直径：5.5 mm　厚さ：2.6 mm　重さ：72.8 mg		

【効能・効果】

肺動脈性肺高血圧症

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞
1.WHO機能分類クラスIにおける有効性及び安全性は確立していない。
2.本剤の使用にあたっては、最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討すること。

【用法・用量】

通常、成人には、マシテンタンとして10mgを1日1回経口投与する。

【使用上の注意】

1.慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(1)投与開始前の肝酵素（AST、ALT）値のいずれか又は両方が基準値上限の3倍を超える患者［使用経験がない。「重要な基本的注意」の項参照。］
(2)透析中の患者［使用経験がない。］
(3)重度の貧血のある患者［「重要な基本的注意」の項参照。］
(4)低血圧の患者［「重要な基本的注意」の項参照。］

2.重要な基本的注意

(1)本剤の投与に際しては、以下について説明及び指導し、妊娠する可能性のある女性には本剤投与開始前及び投与中は1ヵ月に1回妊娠検査を実施すること。［「禁忌」及び「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照。］
　1.妊娠中に本剤を服用した場合の胎児に及ぼす危険性
　2.投与中及び投与中止後1ヵ月間は確実な避妊法を用いるとともに、妊娠した場合若しくはその疑いがある場合には、医師に直ちに連絡すること
(2)他のエンドセリン受容体拮抗薬において肝酵素値上昇が認められているため、肝機能検査を必ず投与開始前に行い、投与中は、必要に応じて肝機能検査を定期的に実施すること。本剤投与中に臨床的に顕著にAST、ALT値が上昇した場合、これら肝酵素値上昇に伴いビリルビン値が基準値上限の2倍を超える場合、又はこれら肝酵素値上昇に伴い黄疸などの肝障害の徴候を伴う場合には、本剤投与を中止すること。［「慎重投与」の項参照。］
(3)本剤の投与によりヘモグロビン減少が起こる可能性があるため、本剤の投与開始前及び投与中は必要に応じてヘモグロビン濃度を定期的に測定することが望ましい。［「慎重投与」の項参照。］
(4)肺静脈閉塞性疾患患者において、血管拡張薬を使用した場合に肺水腫の発現が報告されているため、本剤を投与しないことが望ましい。また、本剤の投与により肺水腫の徴候がみられた場合は肺静脈閉塞性疾患の可能性を考慮すること。肺静脈閉塞性疾患が疑われた場合には、本剤の投与を中止すること。
(5)重度の腎障害のある患者では、本剤の投与により低血圧及び貧血が起こる可能性があるので、血圧及びヘモグロビンの測定を考慮すること。
(6)本剤は血管拡張作用を有するため、本剤の投与に際しては、血管拡張作用により患者が有害な影響を受ける可能性がある状態（降圧剤投与中、安静時低血圧、血液量減少、重度の左室流出路閉塞、自律神経機能障害等）にあるのかを十分検討すること。［「慎重投与」の項参照。］

3.相互作用

本剤は主にCYP3A4により代謝される。

(1)**併用禁忌（併用しないこと）**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
強いCYP3A4誘導剤 リファンピシン（リファジン）、セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品、カルバマゼピン（テグレトール）、フェニトイン（アレビアチン）、フェノバルビタール（フェノバール）、リファブチン（ミコブティン）	本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。［「薬物動態」の項参照。］	強いCYP3A4誘導作用により、本剤の曝露量を減少させる。

(2)**併用注意（併用に注意すること）**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
強いCYP3A4阻害剤 ケトコナゾール＊ HIV感染症治療薬（リトナビル等）	本剤の血中濃度が上昇し、本剤の副作用が発現しやすくなるおそれがある。［「薬物動態」の項参照。］	強いCYP3A4阻害作用により、本剤の曝露量を増加させる。
CYP3A4誘導剤 エファビレンツ、モダフィニル、ルフィナミド 等	本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	CYP3A4誘導作用により、本剤の曝露量を減少させる。

＊経口剤、注射剤は国内未発売

4.副作用

国内臨床試験において、安全性解析対象症例30例中21例（70.0%）41件に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛9例（30.0%）、潮紅7例（23.3%）、貧血、浮腫及び末梢性浮腫が各2例（6.7%）であった（申請時）。

海外臨床試験において、安全性解析対象症例[注1)]242例中56例（23.1 %）に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛12例（5.0 %）、貧血9例（3.7%）、浮動性めまい及び末梢性浮腫が各6例（2.5%）であった（申請時）。

(1)重大な副作用

1)貧血（4.0%）[注2)]：貧血、ヘモグロビン減少が起こる可能性があるので、定期的な検査及び十分な観察を行い、異常が認められた場合はその程度及び臨床症状に応じて、投与中止など適切な処置をとること。[「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項参照。]

(2)その他の副作用[注2)]

	5%以上	0.5%以上5%未満	頻度不明[注3)]
血液及びリンパ系障害		血小板減少	
免疫系障害			過敏症（皮疹、蕁麻疹、血管浮腫）
神経系障害	頭痛	片頭痛、浮動性めまい	
血管障害		潮紅、低血圧	
呼吸器、胸郭および縦隔障害		鼻閉、呼吸困難	
胃腸障害		悪心/嘔吐、腹痛、下痢	
皮膚および皮下組織障害		そう痒症/発疹	
一般・全身障害		浮腫、末梢性浮腫、顔面浮腫、胸痛	
臨床検査		肝機能検査異常、ALT増加、AST増加、ヘマトクリット減少、ヘモグロビン減少	

注1）海外臨床試験成績の10mg投与群より算出した。
注2）海外及び国内臨床試験成績の10mg投与群より算出した。
注3）海外市販後情報からの集積のため、頻度不明とした。

5.高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いので、慎重に投与すること。

6.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。[動物実験（ラット及びウサギ）で下顎弓癒合異常及び心血管系異常などが報告されており、最小毒性量に基づく安全域はラットで約3倍未満、ウサギで約30倍未満であった。また、胚吸収増加、出生児の体重の低値などが報告されている。]

(2)授乳婦への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。[動物実験（ラット）では、本剤は乳汁中に移行することが確認されている。]

7.小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない。]

8.過量投与

(1)徴候・症状

外国において、健康男性にマシテンタン600mgを単回経口投与した時、主な有害事象は、頭痛、悪心、嘔吐であった。

(2)措置方法

過量投与の際は一般的な対症療法が推奨される。なお、マシテンタンは血漿タンパクとの親和性が高く、透析により除去できないと考えられる。

9.適用上の注意

薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、さらには穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

10.その他の注意

(1)ラット及びイヌの反復投与毒性試験において、精細管萎縮又は拡張が認められた。ラットの反復投与毒性試験において、可逆的な異常精子の割合の増加が認められた。イヌの反復投与毒性試験において、精子形成の低下が認められた。

(2)海外臨床試験において、月経障害、卵巣嚢胞、白血球減少症及び白血球減少に関する有害事象がプラセボ群では1.1%（2/184例）、0.0%（0/184例）、1.6%（4/249例）及び0.0%（0/249例）であったのに対し、マシテンタン10 mg投与では5.1%（10/194例）、1.5%（3/194例）、2.5%（6/242例）及び0.8%（2/242例）であり、プラセボに比べ、マシテンタンで多く報告された。

【薬物動態】

1.血漿中濃度

(1)単回投与[1)]

健康成人にマシテンタン10mgを単回経口投与した時、マシテンタンは速やかに吸収され、投与後5時間後に最高血漿中濃度（C_{max}）に達した。活性代謝物は36時間後に達した。マシテンタン及び活性代謝物の血漿中濃度推移及び薬物動態パラメータは以下のとおりであり、日本人と白人で大きく異ならなかった。

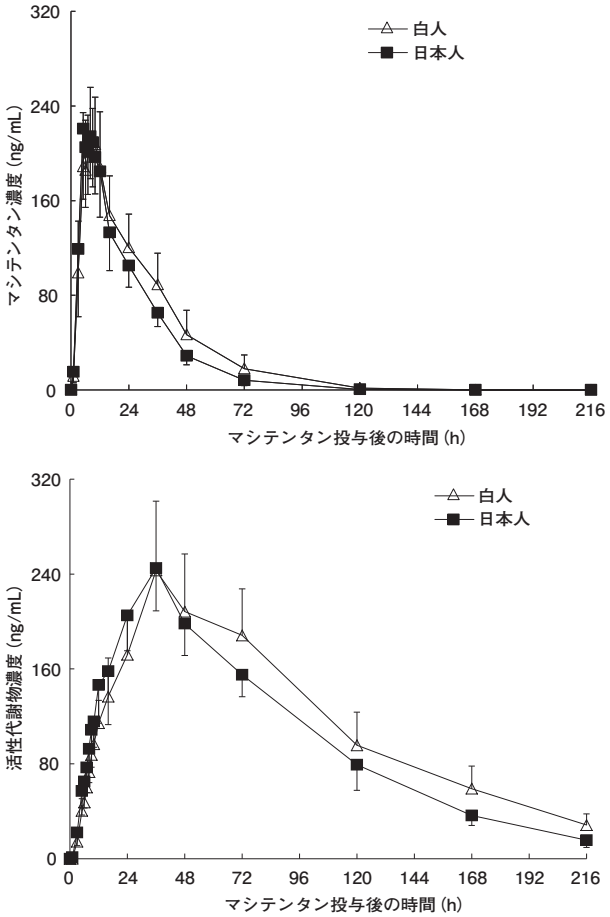


図　健康成人にマシテンタン10mgを単回経口投与した時の血漿中濃度推移

表　薬物動態パラメータ

	C_{max} (ng/mL)	t_{max} (h)	$AUC_{0-\infty}$ (ng・h/mL)	$t_{1/2}$ (h)
日本人				
マシテンタン	239 (210, 272)	5.0 (5.0 - 10.0)	5664 (5232, 6132)	12.4 (10.5, 14.7)
活性代謝物	242 (218, 270)	36.0 (36.0 - 36.0)	22936 (20828, 25257)	41.4 (38.5, 44.5)
外国人				
マシテンタン	224 (193, 260)	8.5 (5.3 - 12.0)	6665 (5326, 8340)	13.8 (11.3, 17.0)
活性代謝物	237 (197, 284)	36.0 (36.0 - 48.0)	26934 (22513, 32224)	52.6 (47.8, 57.9)

n＝10、幾何平均値（95%信頼区間）、t_{max}は中央値（最小値 - 最大値）

(2)反復投与[2)]

日本人健康成人にマシテンタン10mgを10日間反復経口投与した時、マシテンタン及び活性代謝物の薬物動態パラメータは以下のとおりである。

表　日本人健康成人にマシテンタン10mgを反復経口投与した時の薬物動態パラメータ

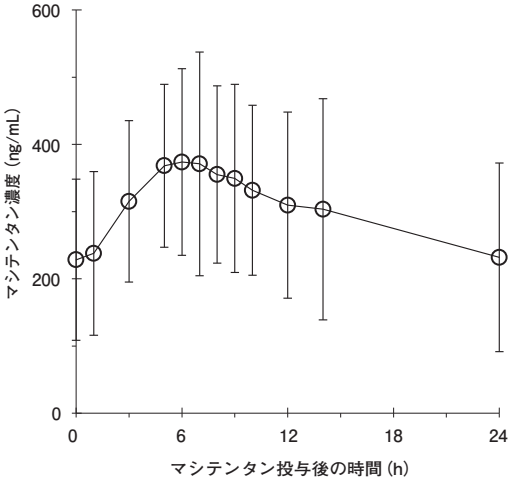
	C_{max} (ng/mL)	t_{max} (h)	$AUC_{0\text{-}24}$ (ng・h/mL)	$t_{1/2}$ (h)
マシテンタン				
Day1	193.4 (141.0, 265.3)	6.00 (5.00 - 8.00)	2802.4 (2195.1, 3577.7)	−
Day10	291.2 (220.1, 385.3)	5.00 (5.00 - 10.00)	4190.1 (3426.2, 5124.5)	11.1 (8.8, 13.9)
活性代謝物				
Day1	173.4 (109.7, 273.9)	24.00 (16.00 - 24.00)	2562.1 (1619.3, 4054.0)	−
Day10	879.2 (780.5, 990.3)	8.50 (4.00 - 16.00)	18684.1 (15971.9, 21856.9)	46.6 (41.7, 52.1)

n＝6、幾何平均値（95%信頼区間）、t_{max}は中央値（最小値 - 最大値）

(3)肺動脈性肺高血圧症患者

1)外国人データ[3)]

肺動脈性肺高血圧症患者20例にマシテンタン10mgを1日1回少なくとも4週間以上反復経口投与した時、マシテンタン及び活性代謝物の血漿中濃度推移及び薬物動態パラメータは以下のとおりである。



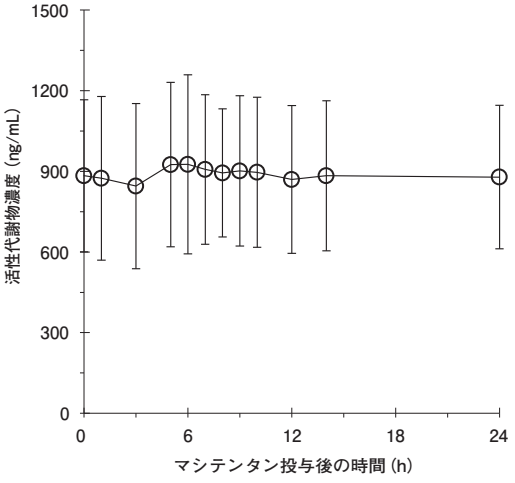


図　肺動脈性肺高血圧症患者にマシテンタン10mgを反復経口投与した時の血漿中濃度推移

表　薬物動態パラメータ

	C_{max} (ng/mL)	t_{max} (h)	$AUC_{0\text{-}24}$ (ng・h/mL)
マシテンタン	402.4 (337.7, 479.4)	6.5 (5.0 - 14.0)	6613.3 (5440.4, 8038.9)
活性代謝物	998.6 (877.6, 1136.4)	6.5 (5.0 - 24.0)	20367.4 (17734.8, 23390.8)

n＝20、幾何平均値（95%信頼区間）、t_{max}は中央値（最小値 - 最大値）

2)日本人データ[4)]

日本人の肺動脈性肺高血圧症患者にマシテンタン10mgを1日1回24週間以上反復経口投与した時、マシテンタン及び活性代謝物のトラフ時血漿中濃度（n＝22、平均値±標準偏差）は156±85.0ng/mL及び1100±265ng/mLであった。

2.代謝・排泄（外国人データ）[5)]

健康成人6例に^{14}C-マシテンタン10mgを単回経口投与した時、投与後14日間までの放射能回収率は、尿中49.7%、糞中23.9%であった。
尿中にマシテンタン及び活性代謝物は排泄されなかった。

3.タンパク結合率[6)]

血漿タンパク結合率は、マシテンタンは99%以上、活性代謝物は99.5%であり、主にアルブミン及びα1-酸性糖タンパク質と結合する。

4.高齢者での体内動態（外国人データ）

高齢者でのマシテンタンの薬物動態は検討されていない。
肺動脈性肺高血圧症患者にマシテンタン10mgを24週間経口投与した時、年齢の増加に伴いマシテンタン及び活性代謝物のトラフ時血漿中濃度が高くなる傾向が認められた[7)]。

5.肝機能障害患者における体内動態（外国人データ）[8)]

健康成人8例及び軽度肝障害患者（Child-Pugh分類A）7例、中等度（Child-Pugh分類B）8例、重度（Child-Pugh分類C）8例にマシテンタン10mgを単回経口投与した時、マシテンタン及び活性代謝物の$AUC_{0\text{-}\infty}$は肝障害患者で健康成人の66～94%であったが、$t_{1/2}$は健康成人と肝障害患者で変わらなかった。

6.腎機能障害患者における体内動態（外国人データ）[8)]

健康成人8例及び重度腎障害患者（CLcr＝15～29mL/分）8例にマシテンタン10mgを単回経口投与した時、マシテンタンのC_{max}及び$AUC_{0\text{-}\infty}$は健康成人に比べ重度腎障害患者でそれぞれ11%及び24%高く、$t_{1/2}$は10%未満の延長であった。活性代謝物のC_{max}及び$AUC_{0\text{-}\infty}$は健康成人よりも重度腎障害患者でそれぞれ39%及び58%高く、$t_{1/2}$は約32%延長した。

7.食事の影響（外国人データ）[9)]

健康成人10例にマシテンタン10mgを空腹時又は食後に単回経口投与した時、食後投与時のマシテンタン及び活性代謝物の$AUC_{0\text{-}\infty}$、C_{max}は空腹時投与と同様であり、食事の影響は認められなかった。

8.薬物相互作用（外国人データ）

(1)ワルファリン[10)]

健康成人14例に、マシテンタン10mgとワルファリン25mgを併用投与した時、マシテンタンの薬物動態にワルファリンは影響を与えなかった。また、マシテンタンはワルファリンの薬物動態に影響を与えなかった。

(2)シルデナフィル[11)]

健康成人12例に、マシテンタン10mgとシルデナフィル20mgを併用投与した時、マシテンタンの薬物動態にシルデナフィルは影響を与えなかった。また、マシテンタンはシルデナフィルの薬物動態に影響を与えなかった。

(3)ケトコナゾール[12)]

健康成人12例に、ケトコナゾール400mg反復投与時にマシテンタン10mgを併用した結果、マシテンタンのC_{max}、t_{max}及び$t_{1/2}$が増加し、$AUC_{0\text{-}\infty}$は約2倍に増加した。活性代謝物のC_{max}は51%、$AUC_{0\text{-}\infty}$は26%減少し、t_{max}は48時間から72時間に延長した。

(4)シクロスポリン[13)]

健康成人10例に、マシテンタン10mg反復投与時にシクロスポリン100mgを併用した結果、マシテンタンのAUC_{τ}及びC_{trough}はそれぞれ10%及び38%増加したが、活性代謝物のAUC_{τ}及びC_{trough}に対する影響は認められなかった。

(5)リファンピシン[13)]

健康成人10例に、マシテンタン10mg反復投与時にリファンピシン600mgを併用した結果、マシテンタンのAUC_{τ}及びC_{trough}はそれぞれ79%及び93%減少した。活性代謝物のC_{trough}は17%減少したが、AUC_{τ}に対する影響は認められなかった。

【臨床成績】

1.国内における臨床成績[4)]

日本人肺動脈性肺高血圧症患者30例を対象に、マシテンタン10mgを1日1回24週間投与した結果、肺血管抵抗では、ベースラインと比べて39.5%低下し、投与前後で有意な改善が認められた。さらに、6分間歩行距離、WHO機能分類がベースラインから改善した。

表　投与24週後のベースラインからの変化

	マシテンタン10mg
肺血管抵抗 平均値±標準偏差（dyn・sec/cm^5） 変化率[注)] 幾何平均値（95%信頼区間）（%）	n＝28 －250±230 60.5 （52.4, 69.9）
6分間歩行距離 平均値±標準偏差（m）	n＝30 66±81
WHO機能分類の改善	13例/30例（43.3%）

注）ベースラインを100とした場合のマシテンタン投与後の値の百分率

2.外国における臨床成績[7)、14)]

肺動脈性肺高血圧症患者742例に、プラセボ、マシテンタン3mg又は10mgを盲検下長期投与するプラセボ対照第III相試験を実施した。

最初のmorbidity/mortality[注)]の発現のプラセボに対するハザード比は、マシテンタン10mgでは0.547（97.5%信頼区間：0.392～0.762、logrank p＜0.0001）であり、マシテンタン10mgの投与で45%のmorbidity/mortalityイベント発現リスク減少効果が認められた。

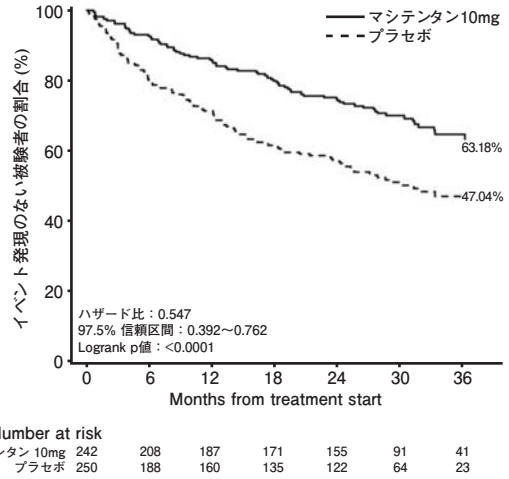


図　最初に起こったmorbidity/mortalityのKaplan-Meier曲線

注）morbidity/mortalityの定義：死亡、重大な合併症イベント（心房中隔切開術、肺移植、プロスタノイドの静脈内投与又は皮下投与の開始）又は、その他の肺動脈性肺高血圧症悪化（次のすべてを満たす：6分間歩行距離が投与前から15%以上短縮、肺動脈性肺高血圧症の症状の悪化、追加的な肺動脈性肺高血圧症治療薬の開始）

さらに、表に示すとおり投与6ヵ月後に肺血管抵抗、6分間歩行距離及びWHO機能分類の改善が認められた。

表　投与6ヵ月後のベースラインからの変化

	プラセボ	マシテンタン10mg
肺血管抵抗 平均値±標準偏差（dyn・sec/cm^5） 変化率[注1)] 幾何平均値（95%信頼区間）（%）	n＝50 156±353 115.8 （104.7, 128.1）	n＝48 －226±395 71.3 （62.4, 81.4）
6分間歩行距離 平均値±標準偏差（m） 治療効果[注2)]	n＝249 －9.4±100.59 －	n＝242 12.5±83.54 22.0
WHO機能分類の改善 治療効果[注3)]	32例/249例 （12.9%） －	54例/242例 （22.3%） 1.74

注1）ベースラインを100とした場合のマシテンタン投与後の値の百分率
注2）治療効果：プラセボとの差
注3）治療効果：プラセボに対するリスク比

【薬効薬理】

1.血管収縮の阻害[15)]

マシテンタンはラットから摘出した内皮剥離大動脈のエンドセリン（ET）-1刺激誘発収縮（ET_A受容体媒介性）及び上皮剥離気管のサラフォトキシンS6c刺激誘発収縮（ET_B受容体媒介性）を阻害し、そのpA_2値はそれぞれ7.6±0.2（ET_A受容体）及び5.9±0.2（ET_B受容体）であった。

2.病態モデルに対する作用

(1)肺高血圧モデル[15)、16)]

マシテンタンはモノクロタリン誘発肺高血圧ラットにおいて、心拍数に影響することなく平均肺動脈圧を低下させ、また、肺動脈肥大及び右室肥大を抑制した。さらに、生存率を改善した。

(2)高血圧モデル[15)、17)]

マシテンタンはDahl食塩感受性（Dahl-S）高血圧ラット及び酢酸デオキシコルチコステロン（DOCA）食塩高血圧ラットにおいて、心拍数に影響することなく平均動脈圧を低下させた。

(3)肺線維症モデル[18)]

マシテンタンはブレオマイシン誘発肺線維症ラットにおいて、右室肥大及び肺ヒドロキシプロリン含量を抑制した。

3.作用機序[15)、19)]

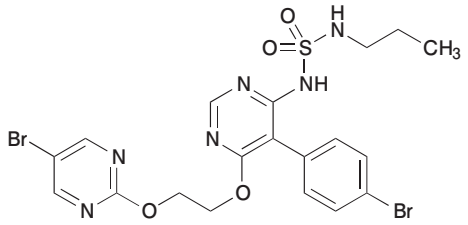
マシテンタンはET_A及びET_B受容体に対して拮抗作用を示し、^{125}I-ET-1結合に対するIC_{50}値（平均値±標準誤差）はそれぞれ0.49±0.07nM及び391±49nMであった。活性代謝物もマシテンタンと同様の拮抗作用を示し、そのIC_{50}値はそれぞれ3.4±0.20nM及び987±92nMであった。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：マシテンタン　Macitentan（JAN）

化学名：*N*-[5-(4-Bromophenyl)-6-{2-[(5-bromopyrimidin-2-yl)oxy]ethoxy}pyrimidin-4-yl]-*N'*-propylsulfuric diamide

構造式：



分子式：$C_{19}H_{20}Br_2N_6O_4S$

分子量：588.27

性　状：白色の結晶性の粉末である。ジクロロメタンに極めて溶けやすく、ジメチルスルホキシド、*N,N*-ジメチルホルムアミド及びテトラヒドロフランに溶けやすく、アセトン、アセトニトリル及び酢酸エチルにやや溶けやすく、メタノール及びエタノールに溶けにくく、イソプロパノールに極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

【承認条件】

・医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。
・国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

【包装】

オプスミット®錠10mg：30錠（15錠×2）PTP

【主要文献】

1) Bruderer S et al. Pharmacology. 2013；91（5-6）：331-8.
2) 社内資料：日本人健康成人男性を対象とした薬物動態試験
3) 社内資料：肺動脈性肺高血圧症患者を対象とした継続投与試験
4) 社内資料：日本人肺動脈性肺高血圧症患者を対象とした第II/III相試験
5) Bruderer S et al. Xenobiotica 2012；42：901-10.
6) 社内資料：血漿タンパク結合及び赤血球中への移行の検討
7) 社内資料：肺動脈性肺高血圧症患者を対象とした第III相試験
8) Sidharta PN et al. J Clin Pharmacol. 2013；54（3）：291-300.
9) 社内資料：健康成人男性を対象とした食事の影響の検討

10)社内資料：健康成人男性を対象としたワルファリンとの薬物相互作用の検討
11)社内資料：健康成人男性を対象としたシルデナフィルとの薬物相互作用の検討
12)Atsmon J et al. Clin Pharmacokinet. 2013 Aug；52（8）：685-92.
13)Bruderer S et al. AAPS J 2011；14：68-78.
14)Pulido T, et al. NEJM 2013；369：809-18.
15)Iglarz M, et al. JPET 2008；327：736-45.
16)社内資料：モノクロタリン誘発肺高血圧ラットモデルを用いた検討
17)社内資料：高血圧ラットモデルを用いた検討
18)社内資料：ブレオマイシン誘発肺線維症ラットモデルを用いた検討
19)社内資料：ET受容体へのET-1結合試験

【文献資料請求先】

アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社
学術情報部
〒150-0012
東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー

【製品情報お問い合わせ先】

アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社
DIセンター
TEL：(03)5774-4716
受付時間：9:00～17:30
（土・日・祝日を除く）

製造販売元
アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社
東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー

ACTELION

販売提携先
日本新薬株式会社
京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14

5000SG15A0101